

キャンプ瑞慶覧内病院地区に係る文化財発掘調査報告書1

－普天間古集落遺跡－

平成27（2015）年3月

沖縄県立埋蔵文化財センター

序

本報告書は、沖縄県立埋蔵文化財センターが平成20年度に実施した普天間古集落遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。

本遺跡は、宜野湾市字普天間に所在し、普天満宮、普天満山神宮寺の西側に広がる遺跡です。旧普天間集落は第二次世界大戦前には北部と南部を結ぶ交通の要所であるとともに多くの公共施設が置かれ、また、各地から普天満宮及び普天満山神宮寺への参拝者が訪れるところから賑わいを見せっていました。

現在は、第二次世界大戦中に米軍に接収され、戦後はキャンプ瑞慶覧内の米軍住宅として使用されていました。

今回の調査は、米軍の海軍病院建設に伴う記録保存調査として実施しました。

調査では、縄文時代、グスク時代、近世～近代の3時期に及ぶことがわかり、グスク時代の掘立柱建物跡、近世～近代の建物跡、溝、道路等の遺構や沖縄産陶器を中心とした様々な遺物も確認しました。

本報告書が、学術研究、地域の文化・歴史学習、文化財保護の普及等の一助になれば幸いです。

最後となりましたが、現地調査及び資料整理にあたり、多大な御協力を賜りました宜野湾市教育委員会をはじめとした関係機関並びに関係各位の皆様に対し、厚く御礼申し上げます。

平成27（2015）年3月

沖縄県立埋蔵文化財センター

所長 下地 英輝



卷頭図版1 造構完掘状況(I地区)



卷頭圖版2 遺構完掘狀況(II 地區)



卷頭図版3 I地区調査状況 上:区画7 SE5断割り(西から) 下:区画7 SY1床面半裁状況(北西から)



卷頭図版4 II地区調査状況 上:S11完掘状況(南から) 下:区画13 石敷遺構1・2検出状況(東から)



卷頭図版5 I 地区出土遺物 上:縄文時代の遺構出土遺物 下:近世～近代の遺構出土遺物



卷頭図版6 II地区出土遺物 上:縄文時代の遺構出土遺物 下:近世～近代の遺構出土遺物

例　言

- 1 本報告書は、沖縄県宜野湾市字普天間（キャンプ瑞慶覧内）に所在する普天間古集落遺跡における米軍の海軍病院建設に伴う記録保存を目的とした緊急発掘調査の成果をまとめたものである。
- 2 本調査は、沖縄防衛局からの委託を受け、沖縄県立埋蔵文化財センターが平成20年度に現地調査、平成20～26年度に資料整理を実施した。
- 3 本報告は平成20年度調査分の約12,500m²について行う。
- 4 地図データは、国土地理院の電子国土Webシステムから配信されたものを使用している。
- 5 航空写真は、宜野湾市教育委員会から提供を受けたものに加筆し、使用している。
- 6 本報告で使用している座標は、世界測地系の第XV系である。
- 7 土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局　監修「新版標準土色帖」を使用した。
- 8 本書の編集は、当センター職員の協力を得て、金城貴子、具志堅清大が行った。執筆は次の通りである。

知念隆博 第1章、第2章第2節、第3章第1～3節、第4章第1節・同第2節第1～2項（II地区）・同第3節第1～2項（II地区）

金城貴子 第2章第1節、第3章第2～3節、第4章第2節第3項・同第3節第1～2項（I地区）・同第3項、同第4節、第6章

具志堅清大 第4章第2節第1～2項（I地区）・同第5節、第6章

パリノ・サーヴェイ㈱ 第5章

- 9 本書に掲載された写真撮影は、現地調査状況を西銘章、新垣力、知念隆博が行い、遺物を矢舟章浩、伊佐えりなが行った。
- 10 現地調査で得られた遺物、実測図及び写真等の記録は、全て沖縄県立埋蔵文化財センターにて保管している。

目 次

序

巻頭図版

例言

第1章 調査に至る経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査体制	2
第2章 遺跡の位置と環境	4
第1節 遺跡の立地と地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査経過	7
第1節 調査の方法	7
第2節 発掘調査	9
第3節 資料整理	10
第4章 調査の成果	11
第1節 基本層序	11
第2節 繩文時代・グスク時代	21
第1項 繩文時代の遺構及び遺構内出土遺物	21
第2項 グスク時代の遺構及び遺構内出土遺物	36
第3項 包含層出土遺物	41
第3節 近世～近代	48
第1項 遺構	48
第2項 遺構内出土遺物	85
第3項 包含層出土遺物	180
第4節 表土・擾乱層出土遺物	199
第5節 自然遺物	215
第5章 自然科学分析	228
第6章 総括	293
引用・参考文献	
報告書抄録	

図 目 次

第1図	沖縄本島の位置	5
第2図	周辺の遺跡	6
第3図	グリッド配置図	8
第4図	試掘箇所及び試掘柱状図	12
第5図	グリッド設定及びセクション図化箇所1	13
第6図	北・東壁(I地区)	14
第7図	グリッド設定及びセクション図化箇所2	17
第8図	西・北壁(II地区)	18
第9図	縄文時代の遺構位置図(I地区)	21
第10図	縄文時代の遺構1(I地区)	22
第11図	縄文時代の遺構2(I地区)	23
第12図	縄文時代の遺構3(I地区)	24
第13図	縄文時代の遺構4(I地区)	25
第14図	縄文出土遺物1(I地区)	27
第15図	縄文出土遺物2(I地区)	28
第16図	縄文時代の遺構位置図(II地区)	30
第17図	縄文時代の遺構(II地区)	31
第18図	縄文出土遺物(II地区)	35
第19図	グスク時代の遺構位置図(I地区)	36
第20図	グスク時代の遺構1(I地区)	38
第21図	グスク時代の遺構2(I地区)	39
第22図	包含層(III層)出土遺物(I地区)	43
第23図	包含層(III層)出土遺物(II地区)	46
第24図	区画配置図	48
第25図	区画1の遺構1(I地区)	49
第26図	区画1の遺構2(I地区)	50
第27図	区画2の遺構1(I地区)	51
第28図	区画2の遺構2(I地区)	52
第29図	区画2の遺構3(I地区)	53
第30図	区画2の遺構4(I地区)	55
第31図	区画3の遺構(I地区)	56
第32図	区画4の遺構1(I地区)	57
第33図	区画4の遺構2(I地区)	58
第34図	区画5の遺構(I地区)	59
第35図	区画6の遺構1(I地区)	60
第36図	区画6の遺構2(I地区)	61
第37図	区画7の遺構1(I地区)	63
第38図	区画7の遺構2(I地区)	64
第39図	区画7の遺構3(I地区)	65
第40図	区画8の遺構(I地区)	67
第41図	区画9の遺構(I地区)	68
第42図	区画10の遺構1(II地区)	69
第43図	区画10の遺構2(II地区)	70
第44図	区画11の遺構1(II地区)	71
第45図	区画11の遺構2(II地区)	72
第46図	区画13の遺構1(II地区)	74
第47図	区画13の遺構2(II地区)	75
第48図	区画15の遺構1(II地区)	77
第49図	区画15の遺構2(II地区)	78
第50図	区画16の遺構1(II地区)	78
第51図	区画16の遺構2(II地区)	79
第52図	区画17の遺構1(II地区)	79
第53図	区画17の遺構2(II地区)	80
第54図	道1の遺構(I地区)	81
第55図	道1の遺構2(I地区)	82
第56図	道1の遺構(II地区)	83
第57図	道2の遺構(II地区)	84
第58図	区画1 出土遺物1(I地区)	87
第59図	区画1 出土遺物2(I地区)	88
第60図	区画1 出土遺物3(I地区)	89
第61図	区画2 出土遺物1(I地区)	97
第62図	区画2 出土遺物2(I地区)	98
第63図	区画2 出土遺物3(I地区)	99
第64図	区画2 出土遺物4(I地区)	100
第65図	区画2 出土遺物5(I地区)	101
第66図	区画3 出土遺物1(I地区)	111
第67図	区画3 出土遺物2(I地区)	112
第68図	区画4 出土遺物1(I地区)	121
第69図	区画4 出土遺物2(I地区)	122
第70図	区画4 出土遺物3(I地区)	123
第71図	区画4 出土遺物4(I地区)	124
第72図	区画4 出土遺物5(I地区)	125
第73図	区画4 出土遺物6(I地区)	126
第74図	区画5 出土遺物(I地区)	136
第75図	区画6 出土遺物1(I地区)	140
第76図	区画6 出土遺物2(I地区)	141
第77図	区画7 出土遺物1(I地区)	145
第78図	区画7 出土遺物2(I地区)	146
第79図	区画8 出土遺物(I地区)	150
第80図	区画9 出土遺物(I地区)	152
第81図	区画10 出土遺物(II地区)	155
第82図	区画11 出土遺物(II地区)	158
第83図	区画12 出土遺物(II地区)	160
第84図	区画13 出土遺物(II地区)	162
第85図	区画15 出土遺物(II地区)	166
第86図	区画16 出土遺物(II地区)	168
第87図	区画17 出土遺物(II地区)	170
第88図	道1 出土遺物(I地区)	173

第89図	道1 出土遺物1(II地区).....	176
第90図	道1 出土遺物2(II地区).....	177
第91図	道2 出土遺物(II地区).....	179
第92図	包含層(II層)出土遺物1(I地区).....	183
第93図	包含層(II層)出土遺物2(II地区).....	184
第94図	包含層(II層)出土遺物1(II地区).....	190
第95図	包含層(II層)出土遺物2(II地区).....	191
第96図	包含層(II層)出土遺物3(II地区).....	192
第97図	包含層(II層)出土遺物4(II地区).....	193
第98図	表土・擾乱 出土遺物(I地区).....	200
第99図	表土・擾乱 出土遺物1(II地区).....	206
第100図	表土・擾乱 出土遺物2(II地区).....	207
第101図	表土・擾乱 出土遺物3(II地区).....	208
第102図	表土・擾乱 出土遺物4(II地区).....	209
第103図	主要珪藻化石群集の層位分布.....	236
第104図	花粉化石群集の層位分布.....	239
第105図	植物珪酸体含量.....	240
第106図	土壤試料の各粒度階における 鉱物・岩石出現頻度(1).....	245
第107図	土壤試料の各粒度階における 鉱物・岩石出現頻度(2).....	246
第108図	土壤試料の碎屑物・基質・ 孔隙の割合.....	246
第109図	土壤試料中の砂の粒径組成.....	247
第110図	バイロット試料(1、6、11、16)の段階交流 磁場消磁の結果(直交プロット).....	249
第111図	焼土試料の交流磁場消磁前後の 残留磁化方向.....	249
第112図	計16焼土試料の交流磁場消磁後の平均 残留磁化方向(補正後:●)と近畿地方に おける標準古地磁気曲線との比較.....	250
第113図	加熱実験による各種土壤の帯磁率および 残留磁化強度の変化.....	250
第114図	バイロット試料(1、11)の等温残留磁化 (IRM)獲得曲線.....	251
第115図	胎土の各粒度階における鉱物・ 岩石出現頻度(%)①.....	262
第116図	胎土の各粒度階における鉱物・ 岩石出現頻度(%)②.....	263
第117図	胎土の各粒度階における鉱物・ 岩石出現頻度(%)③.....	264
第118図	胎土の各粒度階における鉱物・ 岩石出現頻度(%)④.....	265
第119図	胎土の各粒度階における鉱物・ 岩石出現頻度(%)⑤.....	266
第120図	胎土の碎屑物・基質・孔隙の割合.....	267
第121図	胎土中の砂の粒径組成①.....	268
第122図	胎土中の砂の粒径組成②.....	269
第123図	胎土化学組成散布図.....	271

図版目次

卷頭図版1	遺構完掘状況(I地区)
卷頭図版2	遺構完掘状況(II地区)
卷頭図版3	I地区調査状況 上:区画7 SE5断割り(西から) 下:区画7 SY1床面半裁状況(北西から)
卷頭図版4	II地区調査状況 上:S11完掘状況(南から) 下:区画13 石敷遺構1・2検出状況(東から)
卷頭図版5	I地区出土遺物 上:縄文時代の遺構出土遺物 下:近世～近代の遺構出土遺物
卷頭図版6	II地区出土遺物 上:縄文時代の遺構出土遺物 下:近世～近代の遺構出土遺物

図版1	縄文 出土遺物(I地区).....	29
図版2	縄文時代の遺構(II地区).....	32
図版3	縄文時代の遺構(II地区).....	33
図版4	縄文 出土遺物(II地区).....	35
図版5	グスク時代の遺構(I地区).....	37
図版6	包含層(III層)出土遺物(I地区).....	44
図版7	包含層(III層)出土遺物(II地区).....	47
図版8	区画4の遺構(I地区).....	59
図版9	区画5の遺構(I地区).....	60
図版10	区画6の遺構(I地区).....	62
図版11	区画7の遺構(I地区).....	66
図版12	区画8の遺構(I地区).....	66
図版13	区画11の遺構(II地区).....	73
図版14	区画13の遺構(II地区).....	76
図版15	区画17の遺構(II地区).....	81
図版16	道1の遺構(II地区).....	84
図版17	区画1 出土遺物1(I地区).....	89
図版18	区画1 出土遺物2(I地区).....	90
図版19	区画1 出土遺物3(I地区).....	91
図版20	区画2 出土遺物1(I地区).....	102
図版21	区画2 出土遺物2(I地区).....	103
図版22	区画2 出土遺物3(I地区).....	104

図版23	区画2 出土遺物4(Ⅰ地区).....	105
図版24	区画2 出土遺物5(Ⅰ地区).....	106
図版25	区画2 出土遺物6(Ⅰ地区).....	107
図版26	区画2 出土遺物7(Ⅰ地区).....	108
図版27	区画3 出土遺物1(Ⅰ地区).....	112
図版28	区画3 出土遺物2(Ⅰ地区).....	113
図版29	区画3 出土遺物3(Ⅰ地区).....	114
図版30	区画4 出土遺物1(Ⅰ地区).....	127
図版31	区画4 出土遺物2(Ⅰ地区).....	128
図版32	区画4 出土遺物3(Ⅰ地区).....	129
図版33	区画4 出土遺物4(Ⅰ地区).....	130
図版34	区画4 出土遺物5(Ⅰ地区).....	131
図版35	区画4 出土遺物6(Ⅰ地区).....	132
図版36	区画4 出土遺物7(Ⅰ地区).....	133
図版37	区画4 出土遺物8(Ⅰ地区).....	134
図版38	区画5 出土遺物(Ⅰ地区).....	137
図版39	区画6 出土遺物1(Ⅰ地区).....	141
図版40	区画6 出土遺物2(Ⅰ地区).....	142
図版41	区画6 出土遺物3(Ⅰ地区).....	143
図版42	区画7 出土遺物1(Ⅰ地区).....	146
図版43	区画7 出土遺物2(Ⅰ地区).....	147
図版44	区画7 出土遺物3 位牌(Ⅰ地区).....	148
図版45	区画8 出土遺物(Ⅰ地区).....	151
図版46	区画9 出土遺物1(Ⅰ地区).....	152
図版47	区画9 出土遺物2(Ⅰ地区).....	153
図版48	区画10 出土遺物(Ⅱ地区).....	156
図版49	区画10 出土遺物2(Ⅱ地区).....	157
図版50	区画11 出土遺物1(Ⅱ地区).....	159
図版51	区画11 出土遺物2(Ⅱ地区).....	160
図版52	区画12 出土遺物(Ⅱ地区).....	160
図版53	区画13 出土遺物(Ⅱ地区).....	163
図版54	区画13 出土遺物2(Ⅱ地区).....	164
図版55	区画15 出土遺物(Ⅱ地区).....	167
図版56	区画16 出土遺物(Ⅱ地区).....	169
図版57	区画17 出土遺物(Ⅱ地区).....	171
図版58	道1 出土遺物(Ⅰ地区).....	174
図版59	道1 出土遺物1(Ⅰ地区).....	177
図版60	道1 出土遺物2(Ⅰ地区).....	178
図版61	道2 出土遺物(Ⅱ地区).....	180
図版62	包含層(Ⅱ層)出土遺物1(Ⅰ地区).....	185
図版63	包含層(Ⅱ層)出土遺物2(Ⅰ地区).....	186
図版64	包含層(Ⅱ層)出土遺物1(Ⅱ地区).....	193
図版65	包含層(Ⅱ層)出土遺物2(Ⅱ地区).....	194
図版66	包含層(Ⅱ層)出土遺物3(Ⅱ地区).....	195
図版67	包含層(Ⅱ層)出土遺物4(Ⅱ地区).....	196
図版68	包含層(Ⅱ層)出土遺物5(Ⅱ地区).....	197
図版69	包含層(Ⅱ層)出土遺物6(Ⅱ地区).....	198
図版70	表土・搅乱 出土遺物1(Ⅰ地区).....	201
図版71	表土・搅乱 出土遺物2(Ⅰ地区).....	202
図版72	表土・搅乱 出土遺物1(Ⅱ地区).....	210
図版73	表土・搅乱 出土遺物2(Ⅱ地区).....	211
図版74	表土・搅乱 出土遺物3(Ⅱ地区).....	212
図版75	表土・搅乱 出土遺物4(Ⅱ地区).....	213
図版76	表土・搅乱 出土遺物5(Ⅱ地区).....	214
図版77	貝類遺体1(巻貝).....	216
図版78	貝類遺体2(二枚貝).....	217
図版79	脊椎動物遺体1.....	218
図版80	脊椎動物遺体2.....	219
図版81	脊椎動物遺体3.....	220
図版82	脊椎動物遺体4.....	221
図版83	脊椎動物遺体5.....	222
図版84	脊椎動物遺体6.....	223
図版85	脊椎動物遺体7.....	224
図版86	脊椎動物遺体8.....	225
図版87	脊椎動物遺体9.....	226
図版88	脊椎動物遺体10.....	227
図版89	珪藻化石.....	275
図版90	花粉化石・寄生虫卵.....	276
図版91	植物珪酸体・種実遺体.....	277
図版92	土壤薄片(1).....	278
図版93	土壤薄片(2).....	279
図版94	焼土薄片.....	280
図版95	胎土薄片(1).....	281
図版96	胎土薄片(2).....	282
図版97	胎土電子顕微鏡写真(1)試料番号2.....	283
図版98	胎土電子顕微鏡写真(2)試料番号4.....	284
図版99	胎土電子顕微鏡写真(3)試料番号6.....	285
図版100	胎土電子顕微鏡写真(4)試料番号8.....	286
図版101	胎土電子顕微鏡写真(5)試料番号11.....	287
図版102	胎土電子顕微鏡写真(6)試料番号13.....	288
図版103	胎土電子顕微鏡写真(7)試料番号17.....	289
図版104	胎土電子顕微鏡写真(8)試料番号19.....	290
図版105	胎土電子顕微鏡写真(9)試料番号20.....	291
図版106	胎土電子顕微鏡写真(10)試料番号21.....	292
図版107	昭和20年撮影航空写真調査箇所重ね図.....	297

表 目 次

第1表 縄文遺構出土遺物観察一覧(Ⅰ地区).....	26	第25表 包含層(Ⅱ層)出土遺物観察一覧(Ⅰ地区).....	181
第2表 縄文遺構出土遺物観察一覧(Ⅱ地区).....	34	第26表 包含層(Ⅱ層)出土遺物観察一覧(Ⅱ地区).....	187
第3表 包含層(Ⅲ層)遺物出土状況(Ⅰ地区).....	41	第27表 表土・搅乱層出土遺物観察一覧(Ⅰ地区).....	199
第4表 包含層(Ⅲ層)出土遺物観察一覧(Ⅰ地区).....	41	第28表 表土・搅乱層出土遺物観察一覧(Ⅱ地区).....	203
第5表 包含層(Ⅲ層)遺物出土状況(Ⅱ地区).....	45	第29表 遺構および堆積物試料一覧と分析項目.....	229
第6表 包含層(Ⅲ層)出土遺物観察一覧(Ⅱ地区).....	45	第30表 放射性炭素年代測定結果.....	235
第7表 区画1出土遺物観察一覧(Ⅰ地区).....	85	第31表 歳年較正結果.....	235
第8表 区画2出土遺物観察一覧(Ⅰ地区).....	92	第32表 珪藻分析結果.....	237
第9表 区画3出土遺物観察一覧(Ⅰ地区).....	109	第33表 花粉・寄生虫卵分析結果.....	238
第10表 区画4出土遺物観察一覧(Ⅰ地区).....	114	第34表 植物珪酸体含量.....	239
第11表 区画5出土遺物観察一覧(Ⅰ地区).....	135	第35表 微細物洗い出し分析結果.....	240
第12表 区画6出土遺物観察一覧(Ⅰ地区).....	138	第36表 土壌理化分析結果.....	242
第13表 区画7出土遺物観察一覧(Ⅰ地区).....	143	第37表 全分析(螢光X線分析)結果.....	242
第14表 区画8出土遺物観察一覧(Ⅰ地区).....	149	第38表 脂肪酸分析結果.....	243
第15表 区画9出土遺物観察一覧(Ⅰ地区).....	153	第39表 土壌薄片観察結果(1)～(3).....	244
第16表 区画10出土遺物観察一覧(Ⅱ地区).....	154	第40表 焼土試料の交流磁場消磁前後の残留磁化 と帶磁率の測定結果.....	248
第17表 区画11出土遺物観察一覧(Ⅱ地区).....	157	第41表 胎土分析試料一覧.....	255
第18表 区画13出土遺物観察一覧(Ⅱ地区).....	160	第42表 胎土薄片観察結果(1).....	258
第19表 区画15出土遺物観察一覧(Ⅱ地区).....	165	第43表 胎土螢光X線分析結果.....	270
第20表 区画16出土遺物観察一覧(Ⅱ地区).....	168	第44表 遺物出土状況.....	298
第21表 区画17出土遺物観察一覧(Ⅱ地区).....	169		
第22表 道1出土遺物観察一覧(Ⅰ地区).....	172		
第23表 道1出土遺物観察一覧(Ⅱ地区).....	175		
第24表 道2出土遺物観察一覧(Ⅱ地区).....	178		

<付属CD所収データ一覧>

第45表 縄文遺構 遺物出土状況(Ⅰ地区)	
第46表 縄文遺構 遺物出土状況(Ⅱ地区)	
第47表 グスク時代の遺構 遺物出土状況(Ⅰ地区)	
第48表 グスク時代の遺構 遺物出土状況(Ⅱ地区)	
第49表～第65表 区画1～17 遺物出土状況(Ⅰ・Ⅱ地区)	
第66表～第68表 道1・道2 遺物出土状況(Ⅰ・Ⅱ地区)	
第69表 包含層(Ⅱ層)遺物出土状況(Ⅰ地区)	
第70表 包含層(Ⅱ層)遺物出土状況(Ⅱ地区)	
第71表～第97表 表土・搅乱層遺物出土状況(Ⅰ・Ⅱ地区)	
第98表～第122表 自然遺物出土状況(Ⅰ・Ⅱ地区)	

第1章 調査に至る経緯

第1節 調査に至る経緯

平成8年12月の沖縄に関する特別行動委員会（SACO）の最終報告にて、キャンプ桑江内の海軍病院をキャンプ瑞慶覧内に移設することが合意され、加えてキャンプ桑江内及びキャンプ瑞慶覧内の米軍住宅を統合し、住宅用地の一部を返還されることも合意された。

海軍病院の移設候補地として、普天間宮西側の米軍住宅地域が挙がった。当地は普天間フィールー丘陵古墓群、普天間グスクンニ遺跡等の遺跡が確認されていたが、住宅地域については、試掘調査等はなされておらず、未確認の状況であった。そのため、平成10年に沖縄県教育委員会（以下、県教委）により、18箇所試掘調査を行った結果、広く普天間古集落遺跡、普天間石川原遺跡等が広がることが確認された。

それから暫くの間、海軍病院建設に関する調整等はなされず、平成16年に入り沖縄防衛局（当時は那覇防衛施設局、平成19年9月より沖縄防衛局）より平成16年5月12日付けで宜野湾市教育委員会（以下、市教委）へ埋蔵文化財の有無の照会が行われた。市教委から、市の事務規模を超える事案であることから、県教委に依頼したいとの報告があり、県教委は承諾し、その後の調整は県教委と市教委が同席して行うこととなった。平成16年7月27日付けで沖縄防衛局より県教委へ「埋蔵文化財の取扱い等の協議」が届き、平成16年7月30日付けで県教委より試掘調査を実施していくことの回答を行っている。これより試掘調査が開始され、平成16年度は病院本体部分を中心に89箇所で調査を行い、平成17年度からは市教委も試掘調査に加わり、県教委が48箇所、市教委が43箇所実施し、周知の埋蔵文化財包蔵地に加え、新たな埋蔵文化財包蔵地も確認した。

しかし、平成16・17年度に実施した試掘調査は病院本体及び関連施設に限定したものであり、その他の施設、造成、給排水施設等の工事による影響を把握できない状況であることが確認された。そのため、平成18年度に海軍病院建設予定地全体の状況を把握するための試掘調査箇所の見直しを行い、その結果、新たに約480箇所の試掘調査が必要となった。平成18年度は県教委が157箇所、市教委が199箇所実施し、全域で周知の埋蔵文化財包蔵地を確認するとともに、新たな埋蔵文化財包蔵地も確認した。

平成19年度の県教委が68箇所試掘調査を実施し、広範囲で周知の埋蔵文化財包蔵地と古墓を確認し、海軍病院建設予定地全域の試掘調査を完了した。

試掘調査により新たに確認された埋蔵文化財包蔵地については、沖縄防衛局が市教委を経由して県教委へ平成19年3月28日付けで遺跡発見通知を提出し、平成19年4月4日付けで、新たに普天間後原第二遺跡、普天間下原第二遺跡が周知の埋蔵文化財包蔵地として取り扱われることとなった。

一方、試掘調査により周知の埋蔵文化財包蔵地が確認されてきたことから、試掘調査完了前に沖縄防衛局、県教委、市教委は病院建設予定地の変更について調整を行った。しかし、変更できないとの沖縄防衛局の見解から、記録保存調査についての調整も行うこととなった。

沖縄防衛局から県教委及び市教委へ、病院本体範囲の記録保存調査について平成18年度及び平成19年度の実施要望があったが、県教委及び市教委は、試掘調査が終了していない段階で記録保存調査の期間及び経費の算出はできること、工事設計図と試掘調査結果の調整ができていないこと、広い面積の調査を実施するための体制が整っていないことから平成20年度以降実施する方向で調整を行った。

平成19年度に経費、期間、県教委と市教委の調査範囲分担等を行い、平成20年度に調査実施できるように進めていき、平成19年11月20日付けで沖縄防衛局より市教委を経て埋蔵文化財発掘の通知が県教委に届き、平成19年11月29日付けで県教委より市教委を経て沖縄防衛局へ回答を行い、正式に記録保存調査を実施することとなった。

平成20年3月28日付けで、沖縄防衛局、県教委、市教委の3者で「キャンプ瑞慶覧内海軍病院建設予定地区 埋蔵文化財に関する協定書」を交わし、平成20年4月11日付けで沖縄防衛局と沖縄県は発

掘調査に関する契約を締結し、平成20年度の調査を実施した。なお、現地における発掘調査にて確認した遺物は、終了後に平成21年4月6日付けで沖縄県立埋蔵文化財センターから県教育庁文化課あて報告し、平成21年4月13日付けで県教育長より宜野湾警察署長へ埋蔵文化財発見の通知を行っている。

その後、平成22年度以降の調査について定められていなかったことから、平成22年3月31日付で、沖縄防衛局、県教委、市教委の3者で協定書に係る「覚書」を交わし、発掘調査が平成25年度末まで、資料整理が平成27年末まで期間が延長となる。さらに平成26年11月21日付け「覚書」により資料整理が平成28年末まで期間が延長となった。

第2節 調査体制

本報告の普天間古集落遺跡の発掘調査は、平成20年度に現地での発掘作業、平成20～26年度にかけて資料整理及び報告書作成を行った。実施体制は以下のとおりである。

事業主体 沖縄県教育委員会

教育長 仲村守和(平成20年度)、金武正八郎(平成21～22年度)、大城 浩(平成23～24年度)、諸見里 明(平成25～26年度)

事業所管 沖縄県教育庁文化課(平成20～22年度)、文化財課(平成23～26年度)

課長 千木良芳範(平成20年度)、大城 慧(平成21～22年度)、長堂嘉一郎(平成23・24年度)、新垣悦男(平成25年度)、嘉数 卓(参事兼課長:平成26年度)

副参事 島袋 洋(平成23～24年度)

記念物班長 島袋 洋(平成20～22年度)、盛本 熊(平成23～25年度)、金城亀信(平成26年度)

担当 久高 健(指導主事:平成20～22年度)、瀬戸哲也(主任:平成20～21年度)、上地 博(主任専門員:平成22年度)、田場直樹(指導主事:平成23年度) 長嶺 均(主任専門員:平成23～26年度)、知念隆博(主任専門員:平成26年度)

事業実施 沖縄県立埋蔵文化財センター

所長 名嘉政修(参事兼所長:平成20年度)、玉榮 直(参事兼所長:平成21年度)、守内泰三(平成22年度)、大城 慧(平成23年度)、崎濱文秀(平成24年度)、下地英輝(平成25～26年度)

副参事 島袋 洋(平成25～26年度)

総務班長 嘉手苅 勤(平成20～22年度)、荻堂治邦(平成23～24年度)、新垣勝弘(平成25～26年度)

担当 山田恵美子(主査:平成20年度)、村吉由美子(主事:平成20年度、主任:平成21年度)本永 恵(主査:平成21～22年度)、王寄秀人(主査:平成22年度)、恩河朝子(主査:平成22～23年度)、西島康二(主査:平成23～25年度)、比嘉 瞳(主任:平成26年度)

調査班長 岸本義彦(平成20年度)、金城亀信(主幹:平成20年度、調査班長:平成21～25年度)、盛本 熊(平成26年度)

担当 知念隆博(主任:平成20～23年度、主任専門員:平成24～25年度)、新垣 力(専門員:平成20年度、主任:平成21～26年度)、上地 博(主任:平成20年度)、西銘 章(指導主事:平成20年度)、上原欣信(指導主事:平成21年度)、片桐千恵紀(主任:平成21年度)、金城貴子(専門員:平成22～23年度、主任:平成24～26年度)、具志堅清大(専門員(臨任):平成24年度、専門員:平成25～26年度)

文化財調査嘱託員(平成20~26年度)

新垣有一郎、伊藝由希、池原悠貴、井上奈々、伊波直樹、岩元さつき、内間真吾、大城 歩、大屋匡史、翁長圭乃子、具志堅清大、小橋川 剛、新屋敷小春、菅原沙香、菅原広史、瑞慶覧長順、玉城 緹、當山奈央、徳嶺里江、仲程勝哉、仲嶽真太、長嶺 優、仲村 純、波木基真、比嘉優子、又吉幸嗣、宮城明恵、宮里知恵、本村麻里衣、山田浩久、山口こずえ、山城 勝

埋蔵文化財資料整理嘱託員(平成20~26年度)

赤嶺恵子、赤嶺雅子、安里綾子、新垣裕子、新垣利津代、伊藝由希、池原直美、石嶺敏子、市井里恵、伊藤恵美利、伊禮若菜、股 翁平、土地由紀子、上原作美、上原園子、上原美穂子、小渡直子、荻堂さやか、喜屋武朋子、金城政史、久貝裕子、具志みどり、久田慎子、久保田有美、幸地麻美、崎原美智子、後田多昌代、城間千鶴子、平良貴子、高橋弘治、高良三千代、田中章子、玉城照美、玉城実子、玉寄智恵子、知念 愛、津多 恵、津波古彩乃、當山哲也、仲宗根めぐみ、中山まり、永玉栄美香、西原健二、比嘉孝子、比嘉登美子、比嘉なおみ、東仲千夏、譜久村泰子、又吉志麻子、又吉純子、又吉利文、宮城友香、目島直美、屋我尚子、矢舟章浩、山城美奈、山城由紀子、與儀みなみ、吉村綾子

資料整理作業員

玉城実子、玉那顕美由紀、宮里宗彦、新垣みどり、土地由紀子、具志良子、津田 恵、桃原りづむ、照屋葉史、屋我尚子、赤嶺恵子、島袋久美子、謝花恵子

事務補助員 安里綾子、新垣佳子、酒井若葉、下地麻利恵、城間裕子、杉山弘美、砂川美樹、嵩原美千代、立津尚美、仲村綾乃、名幸さと子、花城咲子、普天間しげ美、松元珠理、弓削典子、安井美和

業務委託 発掘調査支援業務 粕イーエーシー、粕アーキジオ

地形測量・磁気探査業務 粕アジア技研

自然科学分析 バリノ・サーヴェイ㈱

漆器保存処理 粕文化財サービス

調査指導及び協力者（所属等は当時のもの）

糸宜田佳男（文化庁文化財部記念物課）、和田敬悟・呉屋義勝・豊里友哉・仲村 健・城間肇・森田直哉・伊藤 圭（宜野湾市教育委員会）、仲宗根 求（読谷村教育委員会）、繩田雅重（沖縄市教育委員会）、崎原恒寿（恩納村教育委員会）、新垣義夫（普天満宮）、堀内秀樹・追川吉生（東京大学埋蔵文化調査室）、樋泉岳二（早稲田大学）、野上建紀（有田町歴史民俗資料館）、渡久地 真（中城村教育委員会）、神谷厚昭（金城町石畳研究所）、小林達雄（國學院大學）、成田涼子（豊島区教育委員会）、渡辺芳郎（鹿児島大学）

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の立地と地理的環境

海軍病院建設予定地である宜野湾市は、沖縄本島の中部西海岸にあり、北は北谷町、北東は北中城村、東は中城村、東南は西原町、南は浦添市に隣接し、西は東シナ海に面している。総面積は、19.37 km²で、東西に約6.1km、南北に約5.2kmとやや長方形をなしている。地形をみると、海岸から内陸部に向かって雑壇状を呈しており、標高3～30mの海岸低地、標高30～40mの石灰岩段丘、標高50～90mの石灰岩段丘、標高90m以上の高位段丘の4つの海岸段丘から形成されている。海軍病院建設予定地は第3面に当たる標高50～90mの段丘上に位置し、大半が琉球石灰岩層から成る。この琉球石灰岩の段丘縁には洞穴と湧泉が点在している。本市を流れる河川は、浦添市・西原町との境界に比屋良川、北谷町・北中城村・中城村との境界に普天間川がある。

宜野湾市普天間に位置する海軍病院建設予定地内の標高は約50～90mで、今調査範囲には、普天間古集落遺跡が広がり、またその周辺には、普天満宮洞穴遺跡、普天間後原第二遺跡、普天間下原第二遺跡、普天間石川原遺跡、普天間グスクンニー遺跡、普天間フィールー丘陵古墓群、普天間縮嶺屋取古集落、普天間グスクンニー古墓群など、多くの遺跡が確認されている。

第2節 歴史的環境

普天間には、琉球八社の一つである普天満宮及び神宮寺が所在しており、『絵図郷村帳』等に「寺ふてま村」とあり、古くから集落の中心であり、村の名前の由来になっていたことが分かる。琉球王国時代には国王も普天満宮を参詣する行事があり、その際に参道として利用された宜野湾並松は、1932年に一部が国の天然記念物に指定された。

普天間古集落遺跡が所在する字普天間は、当初は中城間切であったが、1671年（康熙10年）に中城間切、北谷間切、浦添間切から13村の分割及び新設した1村を併せて宜野湾間切を新設する際に宜野湾間切に編入された。

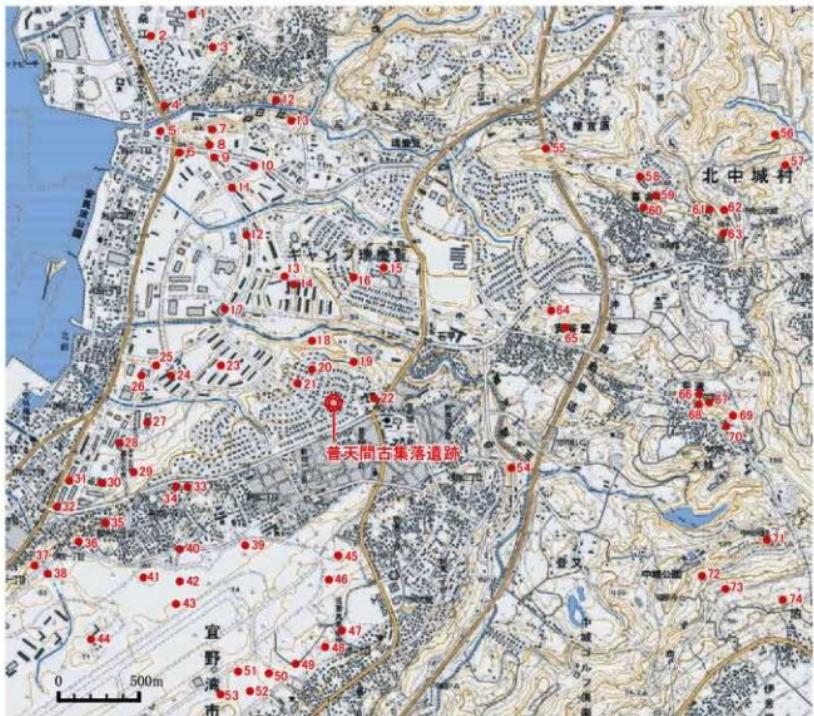
第二次世界大戦前の普天間には、中頭地方事務所、中頭教育会館、農事試験場、郵便局等の官公庁が設置され、また、宜野湾並松は首里・那覇方面と中北部を結ぶ交通の要所地であったため、街道沿いに商店、旅館、飲食店、写真店等が並び本島中部の政治経済の中心地となっていた。

しかし、第二次世界大戦にて集落は灰塵に帰し、さらに米軍に接収され、現在はキャンプ瑞慶覧として使用され、旧集落の面影は僅かに普天満宮と神宮寺が残っているだけである。

遺跡は普天間古集落遺跡に隣接して、普天間フィールー古墓群、普天間下原第二遺跡、普天間後原第二遺跡、普天間宮洞穴遺跡、普天間グスクンニー遺跡、普天間石川原遺跡がある。米軍基地内ということから、調査を円滑に行なうことは難しいが、これまでの調査で、縄文時代から近代までの遺構、遺物が得られている。そのことから、長い間、人々が生活してきたことが明らかとなってきた。



第1図 沖縄本島の位置



この背景地図データは、国土地理院の電子国土 Web システムから配信されたものである。

周辺遺跡の凡例



1. 伊地美久原古墓
2. 前原古墳 B 遗跡
3. 前原古墓群
4. 池グスク
5. 白比川河口遺物散布地
6. 北谷番所址
7. 北谷城跡群
8. 北谷城跡
9. 堀川原跡
10. 玉代勢原遺跡
11. 長者山遺物散布地
12. 東表原遺跡
13. 大道原 A 遗跡
14. 大道原 B 遗跡
15. 伊波川原遺跡
16. 横瀬原遺跡
17. 稲千原遺跡
18. 普天間グスクニー遺跡
19. 普天間フィールー丘陵古墓群
20. 普天間下尾第二遺跡
21. 普天間石川原遺跡
22. 普天間宮洞穴遺跡
23. 安仁屋トシヤマ遺跡
24. 新城下原遺跡
25. 新城下原第二遺跡
26. 安仁屋原遺跡
27. 喜友名前原第三遺跡
28. 喜友名後原第一遺跡
29. 喜友名下原第一遺跡
30. 伊佐後原前原第一遺跡
31. 伊佐後原前原第二遺跡
32. 伊佐前原第一遺跡
33. 喜友名貝塚
34. 喜友名クスガ遺跡
35. 喜友名前原第一遺跡
36. 喜友名上原 E 地点
37. 大山岳2佐久原第三遺跡
38. 大山岳2佐久原第一遺跡
39. 上原瀬原原跡
40. 喜友名東原バタキ遺跡
41. 喜友名前原第三遺跡
42. 喜友名東原第三遺跡
43. 喜友名東原第二遺跡
44. 神山黒敷原古墓群
45. 野瀬タマ原遺跡
46. 新城東原道路
47. 上原同原道路
48. 上原仲主原道路
49. 仲原同原道路
50. 赤道シロ一虎城古墓群
51. 赤道渡呂原原屋取古集落
52. 赤道渡呂原屋取古集落
53. 赤道渡呂原原瀬大遺跡
54. 野瀬ウガヌスカタ遺跡
55. ヒニグスク
56. 前田原 B 遗跡
57. 前田原 A 遗跡
58. 甲斐原原道路
59. 首合瀬上原遺物散布地
60. 首合瀬御坂遺物散布地
61. 仲原原貝塚
62. 仲原原遺跡
63. 仲原原遺物散布地
64. 若木遺跡
65. 安谷原グスク
66. 安堂貝塚
67. 大城グスク
68. 大道遺跡
69. ミーグスク
70. 大城遺跡
71. 中城城跡
72. 古島原遺跡
73. 古島原散布地
74. 沿泊散布地

第2図 周辺の遺跡

第3章 調査経過

第1節 調査の方法

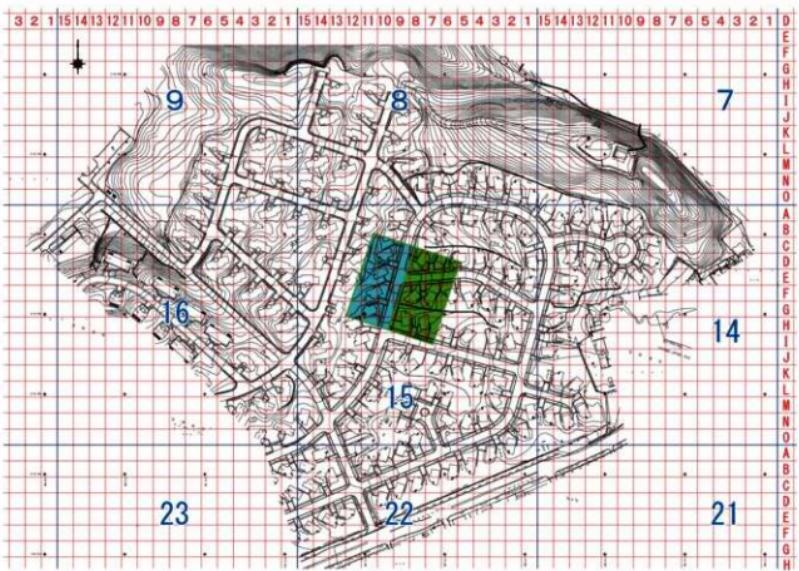
今回の調査範囲は、沖縄防衛局から提示された病院本体部分の工事範囲に合わせ、北東から南西方向へ109m、北西から南東方向へ114mの広さを設定し、さらに中央から東側をI地区、西側をII地区とした。

グリッドは、試掘調査時に当てはめたものを本調査でも使用した。設定方法は、普天間飛行場内の調査で設定されているグリッドを延長し、新たにグリッド番号を追加した。基本となる座標(X: 31,000、Y: 26,500　日本測地系)は世界測地系への移行前に設定されたため、日本測地系となっている。グリッドは第I区画、第II区画の2段階に分けており、第I区画を300mメッシュ、第II区画を20mメッシュで区切っている。第I区画はキャンプ瑞慶覧の宜野湾市区域を1～33に分割設定し、第II区画はさらに細かく東から西へ1～15、北から南へ～0を設定している。グリッドの名称は、第I区画、第II区画を組合せ、15-A1、16-F14等としており、今回調査の第I区画は15となっている。

調査は初めに、磁気探査と表土掘削を行った。磁気探査は、水平探査を実施した結果、調査範囲全域に異常点が確認され、確認探査は800点以上となった。確認探査時の掘削により、米軍住宅建設時の埋設管等が地下に縦横に広がることが分かり、埋設管等設置時の掘削による擾乱が広がることを確認した。表土掘削は、重機により行き、擾乱土、造成土及び近世～近代の遺物包含層までを掘削した。

表土掘削後は、作業員の手作業による包含層掘削と遺構検出に移り、高所作業車からの遺構検出写真撮影後に遺構別の調査を行った。調査面積が広いことから、I地区及びII地区ともに便宜的に3つの地点に分割し、調査を行った。I地区は、北側を北工区、中央を中央工区、南側を南工区とし、II地区は調査順序に合わせ、北側を3地点、中央を1地点、南側を2地点とした。遺構個々の調査は規模や時期に合わせ、半裁や4分割による調査を行った。遺構数が多かったため、検出時及び完掘状況の平面図作成は測量機器を用いて行い、断面図作成は基本的に人手により行った。人手による実測より効率が良いと考えられる場合は、写真測量も実施した。

写真撮影は遺構個々の検出状況及び完掘状況を白黒フィルム、カラーリバーサルフィルム、デジタルカメラを用いて行き、高所作業車を使用しての遺構検出状況及び完掘状況を撮影した。また、調査の最終段階において、ラジコンヘリを使用して調査区全体を撮影し、モザイク加工にて一枚にまとめ、調査範囲の遺構全体が把握できる写真を作成した。



第3図 グリッド配置図

第2節 発掘調査

I 地区及びII 地区の発掘調査経過について、地区別にまとめる。

(I 地区)

発掘作業は平成20年7月22日から平成21年3月31日まで行った。調査は作業工程を管理するため、北工区：C7・8、D5～9、E6～9、中央工区：F6～9、G6～9、南工区：H7～10、I7～9の3地点に分け行った。調査面積は6,400m²である。経過については以下に概略を記す。

平成20年

- 7月：地中の不発弾有無確認のため、磁気探査を行い、危険物がないと判断できた箇所より重機を使用して表土掘削を行った。地中に米軍の給水管、ケーブル等が埋設されており、それらを除去する前に米軍へ確認しながらの作業となった。
- 8月：磁気探査及び表土掘削を行い、8月14日で表土掘削を完了し、作業員の米軍基地入りに必要なパスを取得した8月25日から壁面掘削の作業を行った。また、水道及び仮設事務所設置を行う等の現場環境整備を進めた。
- 9月：台風の影響により、作業を行えない日もあったが、中央工区の地山が広く確認できている中央部から遺構検出作業を行い、その他箇所は搅乱及びII層の掘削を進めた。G6・7グリッドでIII層を確認した。また、米軍の埋設管が設置されていた箇所を利用して層序確認を行った。
- 10月：G8・9、H8・9グリッドを中心に遺構検出を行い、検出した遺構の配置図を作成した。搅乱及びII層が厚く残っている箇所は重機を使用し掘下げを行った。米軍に申請していた高所作業車からの写真撮影の許可を得る。
- 11月：G8・9、H7～9を中心にして遺構検出を行い、検出完了後の11月14日に高所作業車を使用して南工区の写真撮影を行った。その後、検出した遺構の掘下げに着手し、溝、土坑等を中心に進め、作業に慣れてきた下旬からピットの調査にも取り掛かった。北工区は引き続き遺構検出を行った。
- 12月：北工区及び中央工区のF6～9グリッドは遺構検出を行い、南工区は遺構の掘下げを進めた。12月26日に高所作業車を使用し、中央工区の遺構検出状況、南工区は近世～近代遺構の一部完掘状況の写真撮影を行い、年内の作業を終了した。

平成21年

- 1月：中央工区は遺構調査を開始し、南工区は遺構の掘下げを進め、地山を確認するためのトレンチ調査も行った。1月29日に高所作業車を使用して南工区の遺構完掘状況を撮影した。
- 2月：北工区は搅乱及びII層の掘削及び遺構検出作業を行い、2月27日に高所作業車を使用して遺構検出状況を撮影した。中央工区は遺構の調査を進め、III層が広がる箇所では掘下げを行った。
- 3月：北工区、中央工区ともに遺構掘削を進め、III層が広がる箇所は掘下げを進めた。3月26日にはラジコンヘリを使用し、写真撮影を行い、モザイク写真を作成した。3月30日には高所作業車を使用し、全体の遺構完掘写真を撮影した。

(II 地区)

発掘作業は平成20年9月9日から平成21年3月31日まで行った。調査は作業工程を管理するため、1地点：D10・11、E9～12、F9～12、2地点：G10～12、H10～12、3地点：B10・11、C8～11、D9～11に分け行った。調査面積は6,100m²である。経過については下に概略を記す。

平成20年

- 8月：磁気探査及び表土掘削を行い、8月26日で表土掘削を完了した。また、作業員の米軍基地立入

りに必要なバスの取得、水道及び仮設事務所設置等の現場環境整備を進めた。

- 9月：9月9日から人力による残存表土の掘削及び壁面掘削の作業を行った。米軍の埋設管が設置されていた箇所を利用して壁面を清掃し、調査区内の層序確認を行った。
- 10月：1地点及び3地点にてII層の掘削を中心に進めた。搅乱及びII層が厚く残っている箇所は重機を使用し掘下げを行った。掘削が終わった箇所より遺構検出作業を行った。10月30日に高所作業車を使用して3地点C9・10グリッドにおける遺構検出状況の写真撮影を行った。
- 11月：E～G10・11を中心に遺構検出を進め、溝跡、土坑、ピットと思われる遺構が多数検出された。検出完了後の11月5日に高所作業車を使用して1地点の遺構検出状況の写真撮影を行った。その後、検出した遺構の掘削に着手した。また、3地点ではIII層の広がりが確認された箇所での掘下げも行った。
- 12月：引き続き1地点及び3地点の遺構掘削を進めた。1地点においても、III層の広がりが確認された箇所での掘下げを行い、1地点の一部（南側）では遺構調査が完了した。また、2地点では遺構検出作業に着手して年内の作業を終了した。

平成21年

- 1月：引き続き1地点及び3地点の遺構掘削を進めた。2地点は遺構検出作業が終わった後、1月16日に高所作業車を使用して遺構検出状況を撮影した。
- 2月：1地点は道路以外の遺構調査が完了した後、道路の調査に取り掛かった。2地点はII層埋土遺構とIII層埋土遺構が確認され、II層埋土遺構の調査は2月下旬に完了した。3地点は引き続き遺構掘削を進めた。
- 3月：2地点ではIII層埋土遺構の調査を進め、調査終了後は1地点北側及び2地点にてIII層の広がりが確認された箇所において掘下げを行った。3地点も引き続き遺構掘削を進め、3月18日に高所作業車を使用して遺構完掘写真を撮影した。その後、調査区の壁面の記録作業を行い、調査完了となった。

第3節 資料整理

資料整理は平成20年度後半から実施した。まず出土遺物の洗浄から始め、注記等を中心に行なった。続いて平成22年度後半より、遺物の分類、接合作業、実測用遺物の抜出しを行い、平成23年度に実測図の作成、トレース、写真撮影等を行った。

これらの作業と並行して、遺構図等のトレースを進めた後、発掘現場で撮影した写真と併せて報告書全体のレイアウト作成を行った。遺構については、その数が多く、また密な箇所も多かったため、他の遺構との関連に注意しながら検討する必要があり、整理には多くの時間を要した。

平成24～25年度は、原稿執筆を行い、報告書全体のレイアウトを見直しとともに、報告書刊行に向けてのまとめの作業を行った。

平成26年度は、報告書の最終校正を行い、指名競争入札により落札した印刷業者と契約を行い、本調査報告書を刊行した。

第4章 調査の成果

第1節 基本層序

I 地区及びII 地区は隣接していることもあり、それぞれ共通する層が多い。そこで、両地区の成果を合わせたものを基本層序として報告する。

層序

I 層：表土・造成土。沖縄戦中に米軍に接收され、造成されたときの層であり調査区全体に広がる。層中に土器、石器、中国産陶磁器、沖縄産陶器等の多種多様な遺物を含む。このことから、普天間ハウジング建築の際に敷地内から土砂が集められ造成されたものと考えられる。また、一部の溝では、米軍の接收前後に大雨等により、一時的に大量の水が流れたと考えられる砂の堆積も確認できた。層厚は20～90cmと様々である。

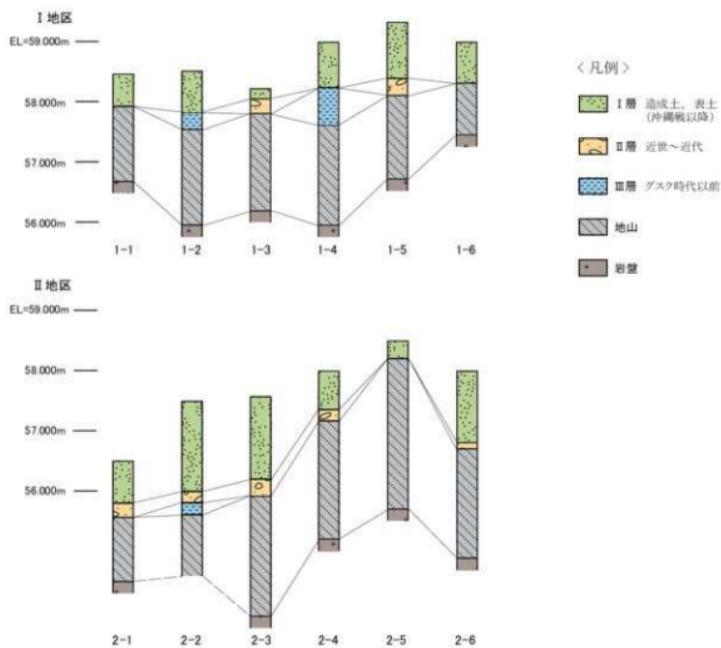
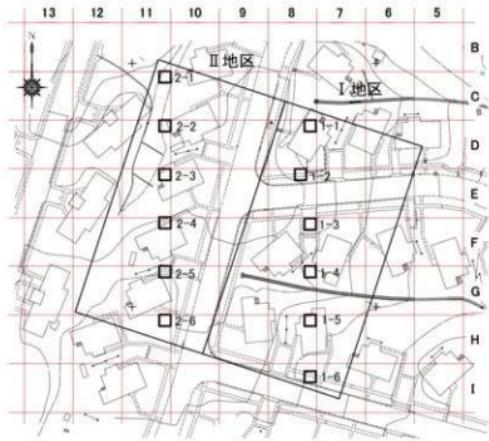
II 層：暗褐色砂質土(10YR3/4)で、米軍接收以前の耕作土及び地表面と思われる。近世～近代の遺物を包含し、調査区全体に広がる。数層に細分可能である。層中に沖縄産陶器を中心として、本土産陶磁器、中国産陶磁器等を含む。この層の中、又は地山(島尻マージ)及びIII層との境に近世～近代の遺構が確認できる。層厚は10～30cmであり、土色が灰オリーブ色及び暗オリーブ色の箇所もある。

IIIa層：黒褐色砂質シルト(10YR3/2)で、調査区の中央及び南側の迫地地形に該当する箇所に部分的に分布する。数層に細分可能で、上方から下方へと粘りが強くなり、中に3～5mmの炭化物、焼土、黄褐色土粒を含む。一部では水分、マンガン及び鉄分の影響により色調が変化している。全体的に根跡若しくは貫入があり、その中には褐灰色の土が入る。層の中位で、ビット、遺物ではグスク土器、石器を確認している。層厚は5～40cm。

IIIb層：黒褐色砂質シルト(10YR2/3)で、IIIa層とIIIc層より明るく、区別ができる。IIIa層と同様の分布であり、中に3～5mmの炭化物、焼土、黄褐色土粒を含む。IIIa層より粘性が強い。

IIIc層：暗褐色砂質シルト(10YR3/4)で、IIIa層と同様の分布である。上方から下方へと粘りが強くなると共に砂質も強くなる。層中にマンガンを含む。根跡若しくは貫入に入っている土は、上方は褐灰色と黄褐色が混ざるが、下方にいくに従い黄褐色が強くなり、最後は黄褐色土のみとなる。

IV層：地山。褐色シルト(10YR4/4)又は暗褐色シルト(10YR3/4)で、粘質が強い層と砂質が強い層に分けることができる。全体的にマンガンを含む。基盤の琉球石灰岩に接する箇所は、他の部分より黒味が強く、暗褐色を呈する。多くの遺構は、I～III層とこの層の境で確認されている。



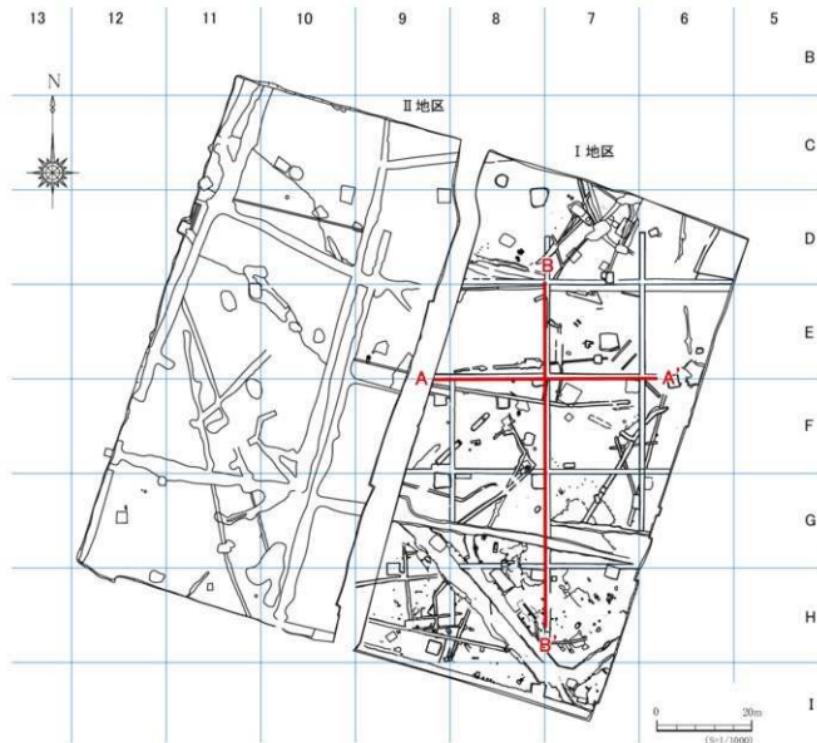
第4図 試掘箇所及び試掘柱状図

縦断及び横断層序

ここでは、I 地区及びII 地区の南北、東西の層序について示す。

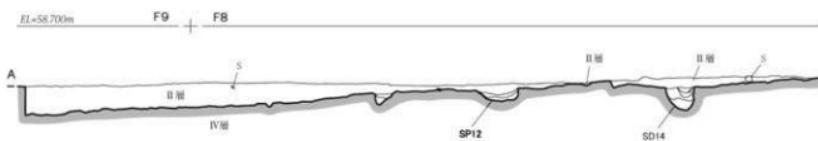
I 地区の北壁 (A-A') の層序は東壁と同様であるが、III層は確認されていない。

東壁 (B-B') の層序は、I 層及びII 層を主としている。高低差は小さく、平坦であり、地山が囲んでいる箇所の II 層は遺構であることが多い。また、僅かではあるが、北側及び中央で III 層を確認している。



第5図 グリッド設定及びセクション図化箇所1

北 壁

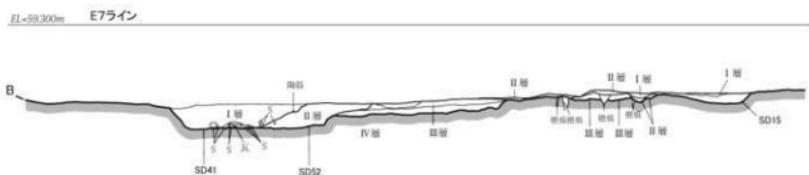


I 地区 A ライン 北壁 F9 ~ F8 クリット(南から)



I 地区 A ライン 北壁 F8 クリット(南から)

東 壁



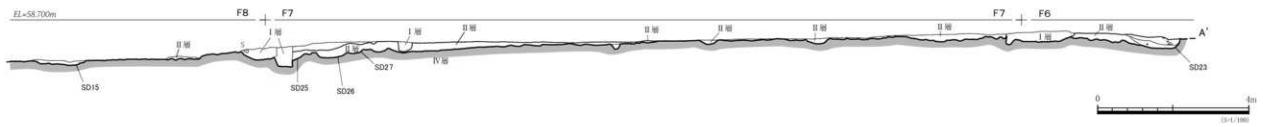
I 地区 B ライン 東壁 E7 クリット(西から)



I 地区 B ライン 東壁 F7 クリット(西から)

第6図 北・東壁 (I 地区)

北壁



I地区 Aライン 北壁 F8グリッド(南から)

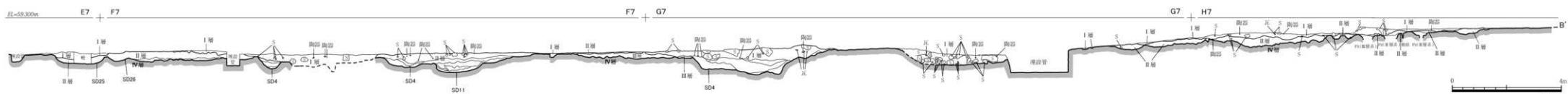


I地区 Aライン 北壁 F7グリッド(南から)



I地区 Aライン 北壁 F7～F6グリッド(南から)

東壁



I地区 Bライン 東壁 F7グリッド(西から)



I地区 Bライン 東壁 F7グリッド(西から)



I地区 Bライン 東壁 G7グリッド(西から)



I地区 Bライン 東壁 G7グリッド(西から)



I地区 Bライン 東壁 F7グリッド(西から)



I地区 Bライン 東壁 G7グリッド(西から)



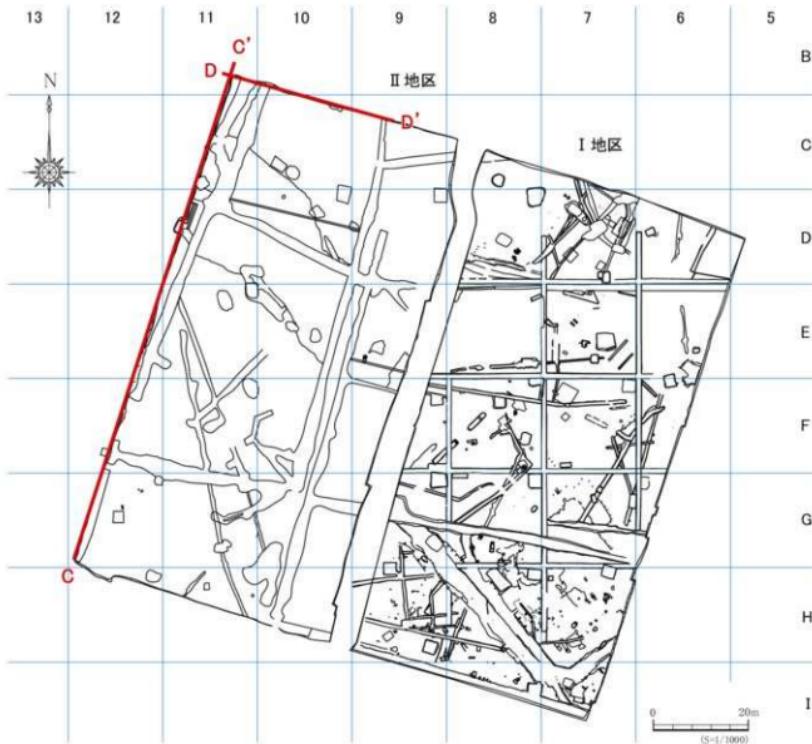
I地区 Bライン 東壁 H7グリッド(西から)

II 地区の西壁 (C-C') の層序は、厚い I 層の下に II 層があり、中央と南側に部分的に厚い III 層が確認されている。III 層は、小さい谷又は窪みに集まって形成された層の可能性もある。

北壁 (D-D') の層序は、厚い I 層の下に薄い II 層が均一にみられる。

今回の調査範囲では、本来は地形の高低差があったと考えられるが、高い箇所は沖縄戦時及び戦後の米軍住宅建築の際に削られ、低いところは盛土された可能性がある。

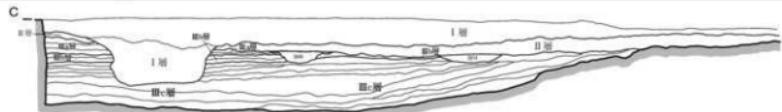
なお、今回の報告では、初めに造成土及び II 層を重機にて取り除いたため、第 6 図に I 層が作図されていない箇所があるが、本来は全箇所で I 層は確認されている。



第7図 グリッド設定及びセクション図化箇所2

西 壁

EL=58.600m G12 ライン



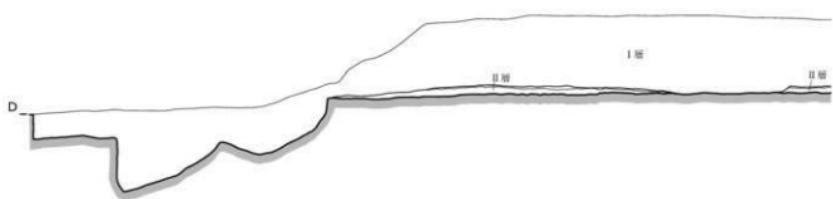
II地区 Cライン 西壁 G12 グリッド（東から）

北 壁

EL=59.000m

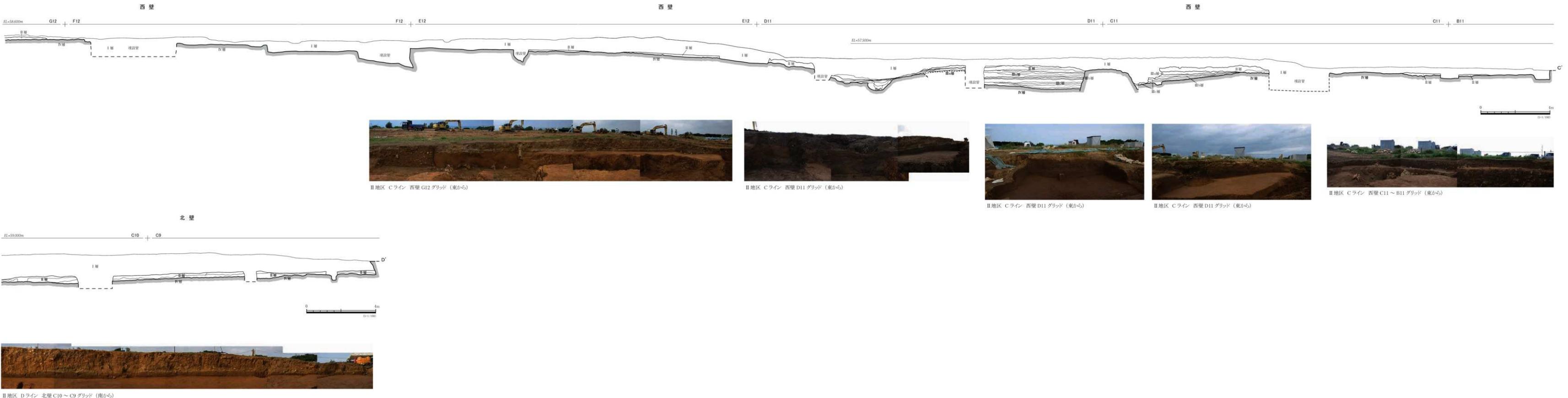
B11 + B10

B10 + C10



II地区 Dライン 北壁 B11 ~ C10 グリッド（南から）

第8図 西・北壁(II地区)



第2節 縄文時代・グスク時代

第1項 縄文時代の遺構及び遺構内出土遺物

a 遺構（I地区）

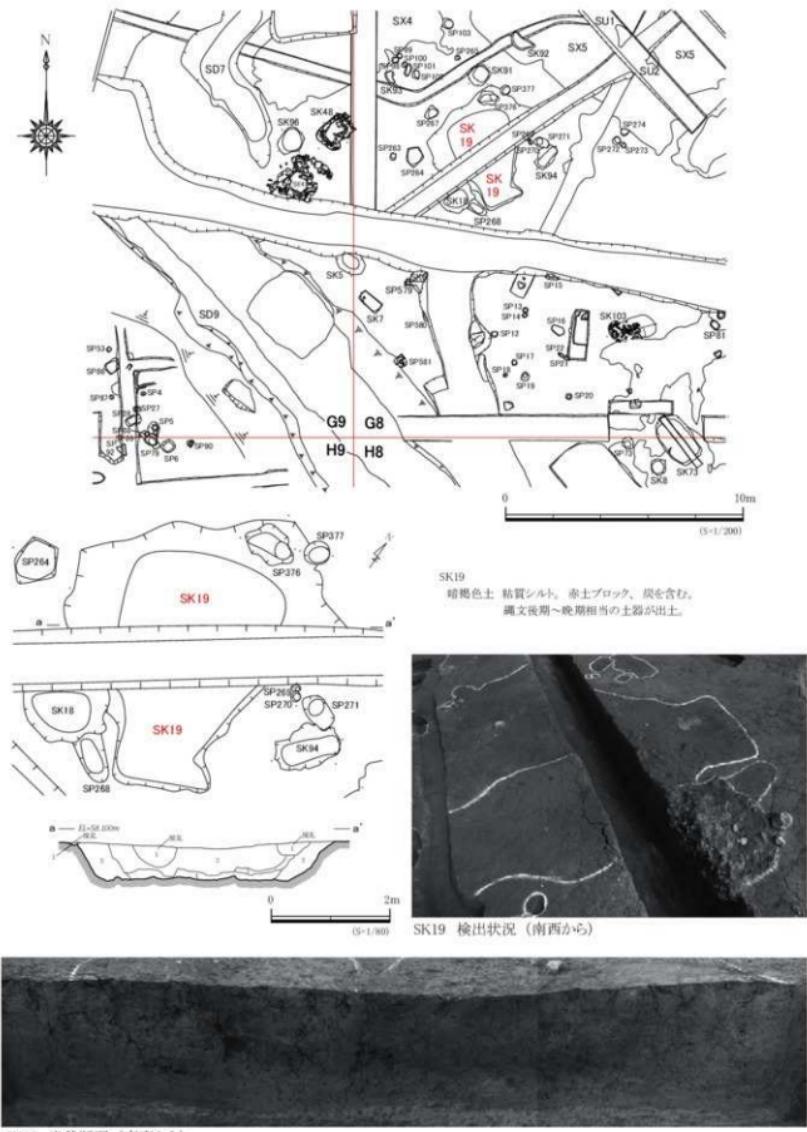
縄文時代の遺構は、土坑が確認されている。不整な楕円形状のSK19と深く落ち込む形状のSK39、SK71、SK99がある。

SK19は平面形4.7m×4.5mの不整な楕円形状のプランで、深さは57cmである。深さについては、中央は北東から南西方向にのびる配管による搅乱を受けていたため本来の深さは不明である。また上面は近世のピットや土坑による搅乱を受けていた。埋土は暗褐色砂質シルトで床面は長方形である。土器や石器が出土するが焼土の集中もなく性格については不明である。

SK39、SK71、SK99はともに深く落ち込む形状の土坑である。SK39は深さ2.2mで岩盤まで掘り込まれている。埋土は土器や石器などの遺物や炭粒を含む暗褐色砂質シルト層とマージブロックを含む層が交互に堆積している。SK71は深さ1.8mでマージを掘り込む。埋土は炭粒や焼土を含む暗褐色砂質シルトで土器・石器が出土している。SK99は深さ1.3mでマージを掘り込む。埋土はSK39・SK71と同様に

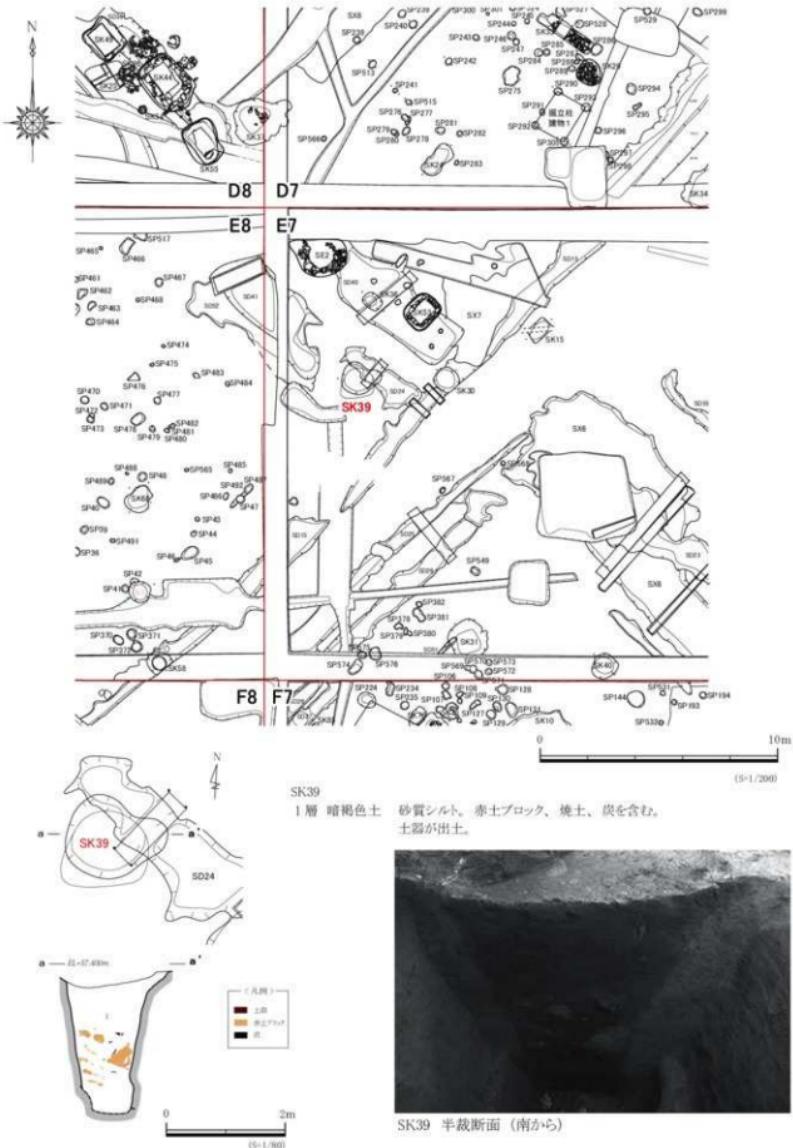


第9図 縄文時代の遺構位置図（I地区）

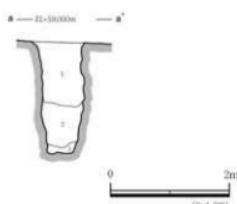
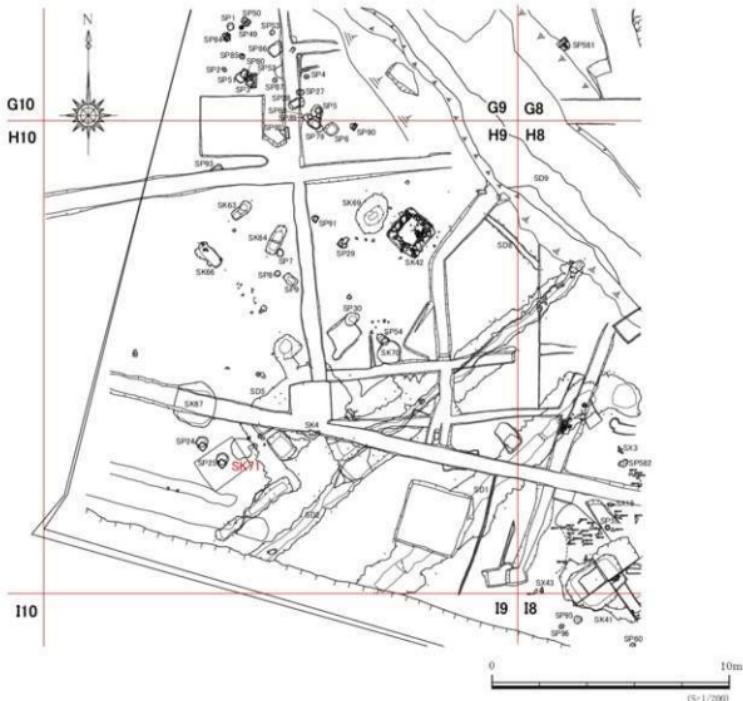


SK19 半蔵断面(南東から)

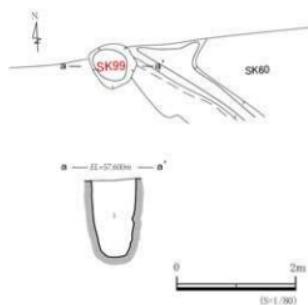
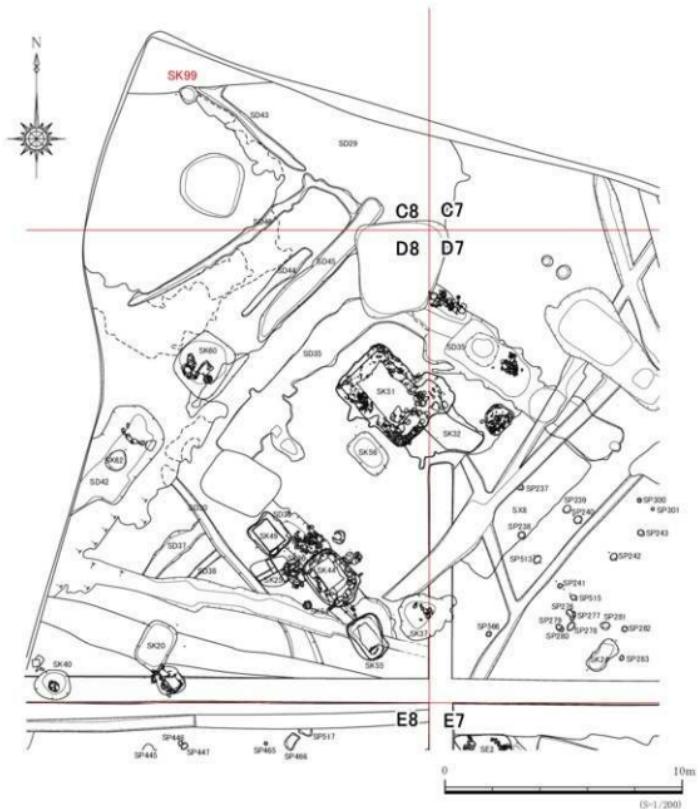
第10図 縄文時代の遺構1(I地区)



第11図 縄文時代の遺構2(I地区)



第 12 図 繩文時代の遺構3(I 地区)



第13図 縄文時代の遺構4(I地区)

b 遺物（I 地区）

縄文時代の遺構からは、土器、石器を中心に202点を検出した。土器は縄文時代後期～晩期のものが出土している。SK19は縄文時代晩期の宇佐浜式～仲原式、SK39では縄文時代後期の点刻線文系の土器が出土している。以下に個々の所見を第1表の観察表にまとめ、遺物点数等については第45表に示す。

第1表 縄文遺構出土遺物観察一覧（I地区）a

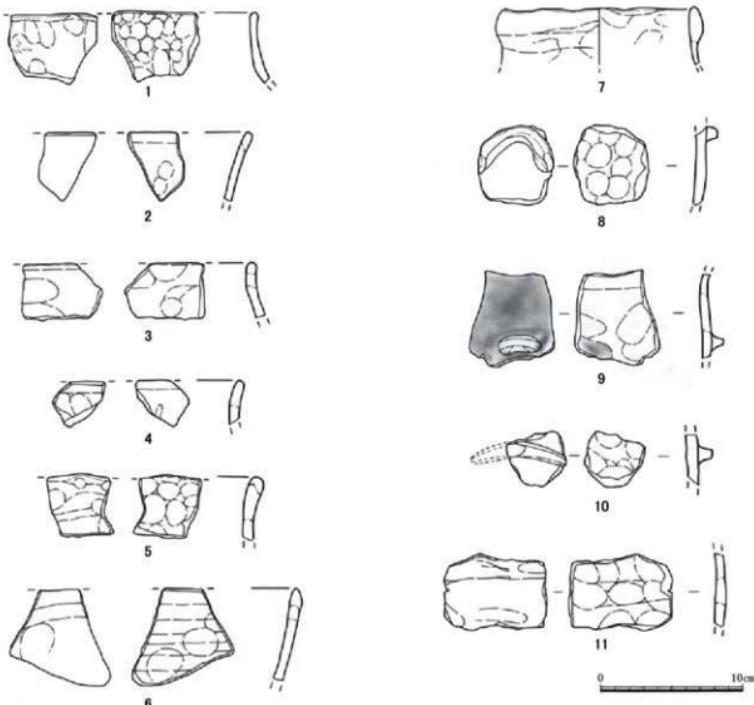
単位：cm

掲団番号 図版番号	種類	器種	部位	法量			観察事項	出土地
第14図 図版1	土器	鉢	口縁部	口径	器高	底径	内外面ナデ調整で内面は指頭痕明瞭。胎土は黒褐色で泥質。混入物に赤色土粒、砂粒を含む。器面あばた状。	G-8 SK19 4層
				—	—	—		
			口縁部	口径	器高	底径	口唇部平坦。内外面ナデ調整。胎土は橙色で砂質。混入物に粗砂粒を多く含む。	G-8 SK19 2層
				—	—	—		
			口縁部	口径	器高	底径	口唇部平坦。内外面ナデ調整。胎土は純橙色で泥質。混入物に粗砂粒を多く含む。	G-8 SK19 4層
				—	—	—		
			口縁部	口径	器高	底径	内外面ナデ調整。胎土は橙色で砂質。混入物に粗砂粒を多く含む。	G-8 SK19 2層
				—	—	—		
			口縁部	口径	器高	底径	肥厚口縁。内外面ナデ調整で一部指頭痕明瞭。胎土は黄褐色で砂質。混入物に粗砂粒を多く含む。	G-8 SK19 4層
				—	—	—		
			口縁部	口径	器高	底径	肥厚口縁。内外面ナデ調整。胎土は明赤褐色で砂質。混入物に粗砂粒を多く含む。	G-8 SK19 2層
				—	—	—		
第15図 図版1	土器	鉢	胴部	口径	器高	底径	外耳貼り付け。内外面ナデ調整。胎土は純橙色で泥質。混入物に粗砂粒を多く含む。内面は黒色。	G-8 SK19 4層
				—	—	—		
			胴部	口径	器高	底径	外耳貼り付け。内外面ナデ調整。胎土は黒褐色で泥質。混入物に赤色土粒を含む。器面あばた状。	G-8 SK19 2層
				—	—	—		
			胴部	口径	器高	底径	外耳貼り付け。内外面ナデ調整。胎土は橙色で砂質。混入物に粗砂粒を多く含む。内面は黒色。	G-8 SK19 2層
				—	—	—		
			胴部	口径	器高	底径	内外面ナデ調整。胎土は純黄褐色で砂質。混入物に粗砂粒を多く含む。	G-8 SK19 2層
				—	—	—		
			石器	敲石	—	—	表面に一部滑面が残る。側面は平坦で縁辺に敲打調整痕。重量123.6g。砂岩。転用品か。	G-8 SK19 2層
				—	—	—		
			石器	敲石	—	—	表裏側面に研磨調整による滑面。刃部縁辺に敲打痕。重量230.6g。緑色岩。転用品か。	G-8 SK19 4層
				—	—	—		
			石器	磨石	—	—	表面に滑面。重量199.2g。緑色岩。	G-8 SK19 4層
				—	—	—		
			石器	石皿	—	—	板状の石皿片か。表裏平坦面に敲打痕。重量45.7g。砂岩。	G-8 SK19 2層
				—	—	—		
			土器	鉢	口縁部	口径	山形口縁。叉状工具による横位・縱位区画文。胎土は褐色で砂質。混入物に粗砂粒を多く含む。	E-9 SK39 1層
				—		—		
			土器	鉢	口縁部	口径	押捺刻文。胎土は褐色で泥質。胞弱で器面あばた状。	E-7 SK39 1層
				—		—		
			土器	鉢	口縁部	口径	押捺刻文。胎土は橙色で泥質。胞弱で器面あばた状。	E-7 SK39 1層
				—		—		
			土器	鉢	口縁部	口径	肥厚口縁部に押引文を二条施文後、重複捺痕文。内面はへた状工具による調整痕明瞭。胎土は褐色で泥質。混入物に粗砂粒を多く含む。	E-7 SK39 1層
				—		—		
			土器	鉢	口縁部	口径	肥厚口縁で口唇部平坦。胎土は褐色で泥質。胞弱で器面あばた状。	E-7 SK39 1層
				—		—		
			土器	鉢	底部	口径	平底。胎土は褐色で泥質。器面あばた状。	E-7 SK39 1層
				—		—		
				—	—	5.0		

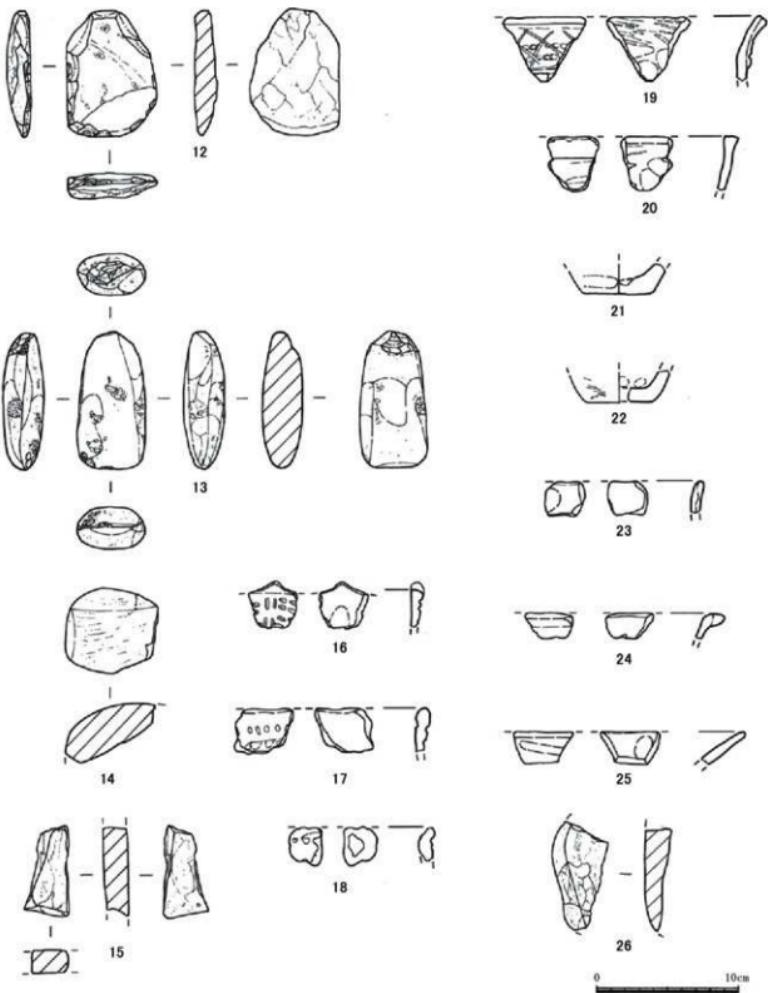
第1表 繩文遺構出土遺物観察一覧(I地区)b

単位:cm

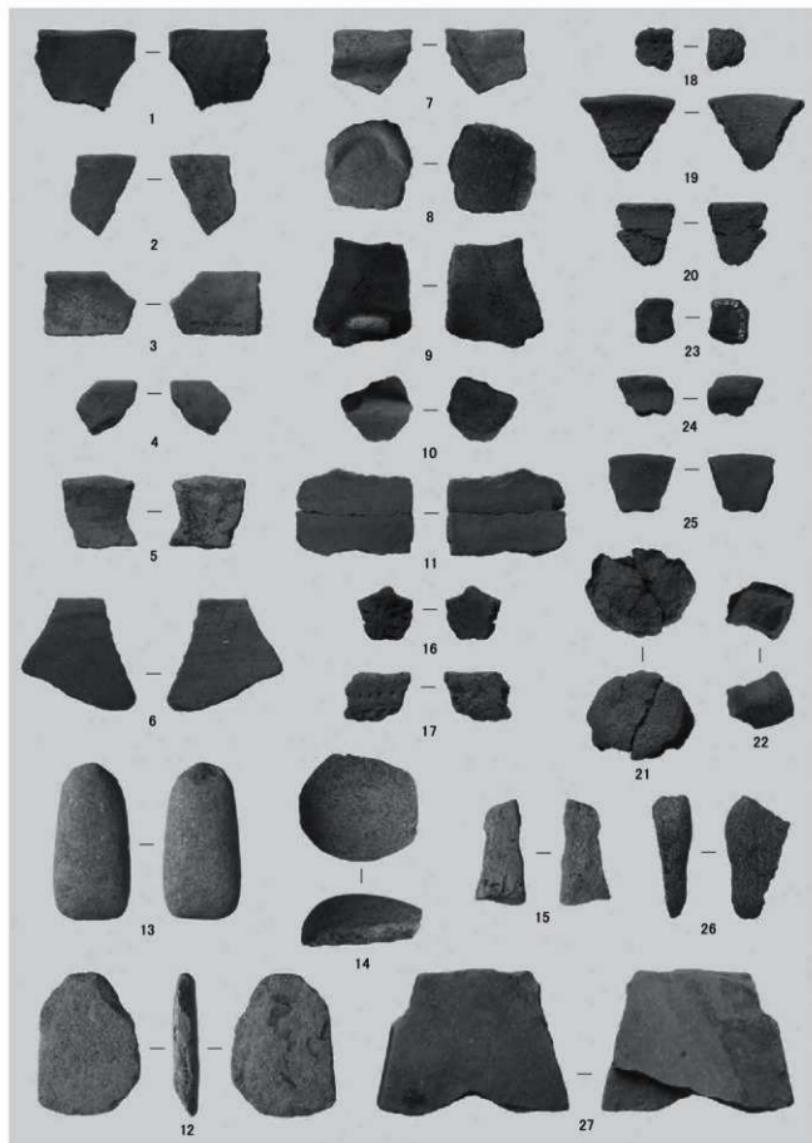
挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	法量	観察事項	出土地
第15図 図版1	22	土器	鉢	底部	口径 器高 底径 — — 4.8	平底。胎土は褐色で泥質。器面あばた状。 E-7 SK39 1層
	23	土器	鉢	口縁部	口径 器高 底径 — — —	口唇部平坦。内外面ナデ調整。胎土は橙色で砂質。 混入物に細砂粒を多く含む。 H-9 SK71 3層
	24	土器	鉢	口縁部	口径 器高 底径 — — —	逆L字状口縁。内外面ナデ調整。胎土は黄褐色で砂質。 混入物に粗砂粒を多く含む。 H-9 SK71 1層
	25	土器	鉢	口縁部	口径 器高 底径 — — —	口唇部舌状。外外面に指痕痕。胎土は赤褐色で砂質。 混入物に細砂粒を多く含む。 H-9 SK71 2層
	26	石器	磨石	—	口径 器高 底径 — — —	表面に滑面。重量69.4g。緑色岩。 H-9 SK71 2層
図版1	27	石器	石皿	—	口径 器高 底径 — — —	板状の石皿片か、表裏平坦面に敲打痕と滑面。重量 321.8g。砂岩。 G-8 SK19 4層



第14図 繩文 出土遺物1(I地区)



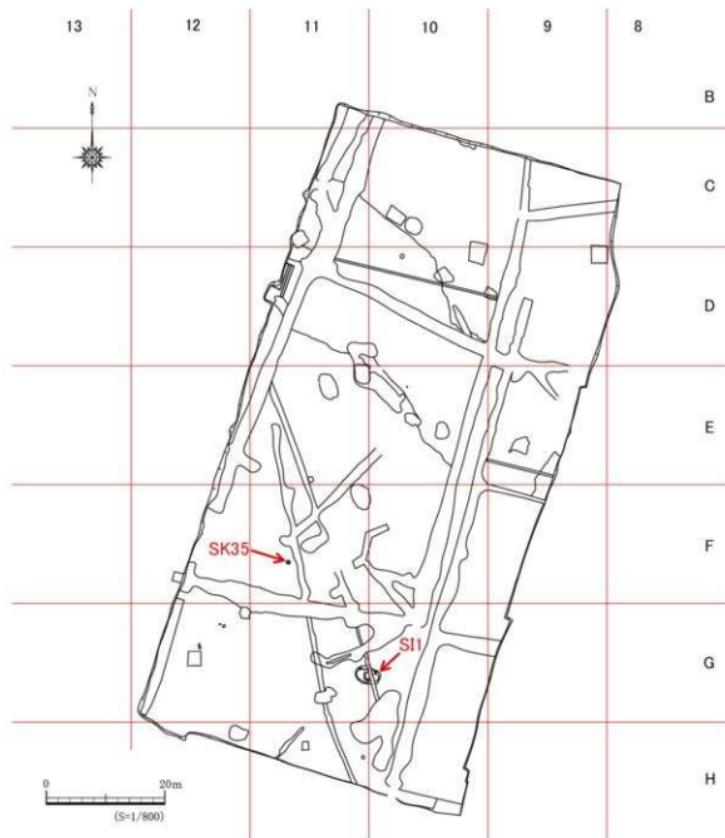
第15図 縄文 出土遺物2(I 地区)



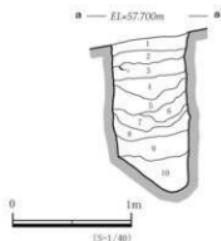
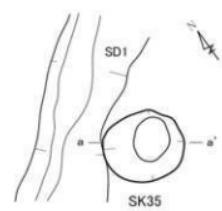
図版1 繩文出土遺物（I地区）

c 遺構（II 地区）

縄文時代の遺構と考えられるものは、土坑があり、SK35をあげることができる。近世～近代のピット、土坑に比べると平面形は大きく、深いという特徴があり、内部に土器等の遺物を含んでいる。SI1は中心に土器を多く含み、平面形が4.2m×2.5mの梢円形を呈し、内部及び外部にピットを配している。上面は造成等により削られていたことから、本来の深さは不明である。



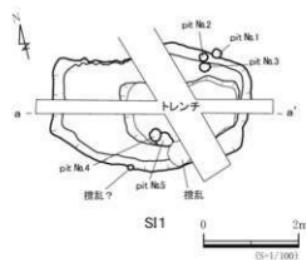
第 16 図 縄文時代の遺構位置図（II 地区）



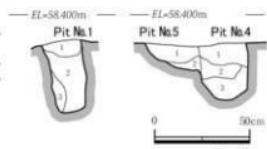
SK35 半裁断面(南から)

- SK35
- オリーブ色土 粘質シルト。根を多く含む。
 - オリーブ色土 粘質シルト。根を多く含む。
 - オリーブ色土 粘質シルト。根を多く含む。
 - オリーブ色土 粘質シルト。根を多く含む。土器が出土。
 - 暗オリーブ色土 粘質シルト。根を含む。土器が出土。
 - 暗オリーブ色土 粘質シルト。根を含む。
 - 暗オリーブ色土 粘質シルト。根を含む。
 - 暗オリーブ色土 粘質シルト。根を含む。
 - 暗褐色色土 粘質シルト。根を含む。
 - 暗褐色色土 粘質シルト。根を含む。

- Pit No.1
- 黒褐色色土 粘質シルト。桃土を含む。
 - 黒褐色色土 粘質シルト。根、桃土を含む。
 - 黒褐色色土 粘質シルト。
- Pit No.4
- 黒褐色色土 粘質シルト。根、桃土を含む。
 - 黒褐色色土 粘質シルト。根を含む。
 - 黒褐色色土 粘質シルト。
- Pit No.5
- 黒褐色色土 粘質シルト。桃土を含む。
 - 黒褐色色土 粘質シルト。



- SI1
- 黒褐色色土 粘質シルト。根、桃土を含む。土器が出土。
 - 黒褐色色土 粘質シルト。根、桃土を含む。
 - 黒褐色色土 粘質シルト。根、桃土を含む。
 - 黄褐色色土 粘質シルト。桃土を含む。
 - 黄褐色色土 粘質シルト。



SI1 トレンチ断面(北から)



SI1 トレンチ断面(北から)

第17図 繩文時代の遺構(II地区)



SII1検出状況（南から）



SII1完掘状況（南から）

図版2 縄文時代の造構1(II地区)



S11 Pit No.1 半裁断面（東から）



S11 Pit No.1・5 半裁断面（東から）

図版3 縄文時代の遺構2(II地区)

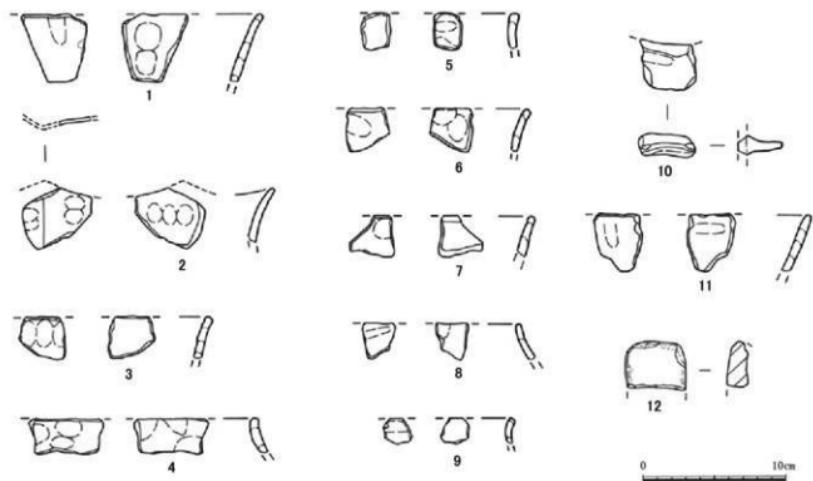
d 遺物（II地区）

縄文時代の遺構からは、土器、石器を主として442点を検出した。土器は縄文晩期のものが出土している。鉢の胴部が多く、底部は検出されていない。SI 1からは仲原式が出土しており、山形口縁や外耳を持つものもある。以下に個々の所見を第2表の観察表にまとめ、遺物点数等については第46表に示す。

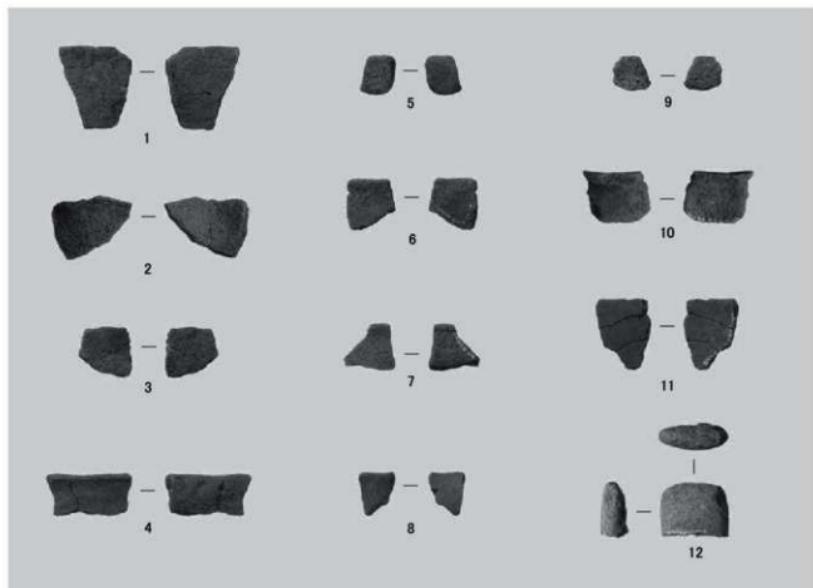
第2表 縄文遺構出土遺物観察一覧（II地区）

単位: cm

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	法量	観察事項	出土地		
第18図 図版4	1 土器	鉢	口縁部	口径	器高	底径	内外面に指頭跡。細かい白色粒を僅かに含む。内外面共に橙7.5YR6/8。	G-10・11 SI1 トレンチ内1
				—	—	—		
	2 土器	壺	口縁部	口径	器高	底径	口縁は山形となる。内外面に指頭跡。黒色粒、白色粒を含む。内外面共に橙5YR6/8。	G-10・11 SI1 3層
				—	—	—		
	3 土器	鉢	口縁部	口径	器高	底径	内外面に指頭跡。細かい白色粒を僅かに含む。内外面共に橙5YR4/8。	G-10・11 SI1 内
				—	—	—		
	4 土器	鉢	口縁部	口径	器高	底径	口縁部は僅かに肥厚する。内外面に指頭跡。白色粒、ガラス質粒、橙色粒を多く含む。内外面共に明褐色7.5YR5/8。	G-10・11 SI1 2層
				—	—	—		
	5 土器	鉢	口縁部	口径	器高	底径	口縁部は僅かに肥厚し、外反する。内面に指頭跡。白色粒、ガラス質粒を多く含む。内外面共に明赤褐色5YR5/6。	G-10・11 SI1 遺構内 1層
				—	—	—		
	6 土器	鉢	口縁部	口径	器高	底径	口縁は外反する。内外面に指頭跡。細かい白色粒を僅かに含む。外面: 橙7.5YR6/8、内面: 橙5YR5/8。	G-10・11 SI1 1層
				—	—	—		
	7 土器	鉢	口縁部	口径	器高	底径	口縁部内側に沈線を巡らす。外面に指頭跡。白色粒を含む。外面: 明赤褐色5YR5/8、内面: 橙7.5YR4/6。	G-10・11 SI1 1層
				—	—	—		
	8 土器	鉢	口縁部	口径	器高	底径	外面は滑らか。白色粒、赤色粒を含む。内外面共に明褐色7.5YR5/8。	G-10・11 SI1 ピット4
				—	—	—		
	9 土器	鉢	口縁部	口径	器高	底径	口縁部は僅かに肥厚し外反する。黒色粒、白色粒を含む。内外面共に橙7.5YR7/6。	G-10・11 SI1 2層
				—	—	—		
	10 土器	鉢	耳	口径	器高	底径	口縁内外へ肥厚させ、口唇を平坦に作る。外面に指頭跡。白色粒、黑色粒、橙色粒を含む。外面: 橙5YR6/8、内面: 橙7.5YR6/8。	G-10・11 SI1 1層
				—	—	—		
	11 土器	鉢	口縁部	口径	器高	底径	胴部から口縁部へ直行する。内外面に指頭跡。白色粒、赤色粒を含む。外面: 橙10YR4/4、内面: 明褐色7.5YR5/6。	G-10・11 SI1 トレンチ内1
				—	—	—		
	12 石器	石斧	—	口径	器高	底径	表面、側面は研磨されるが、裏面は研磨されない。重量39.0g。	G-10・11 SI1 1層
				—	—	—		



第18図 繩文出土遺物(II地区)



図版4 繩文出土遺物(II地区)

第2項 グスク時代の遺構及び遺構内出土遺物

a 遺構（I地区）

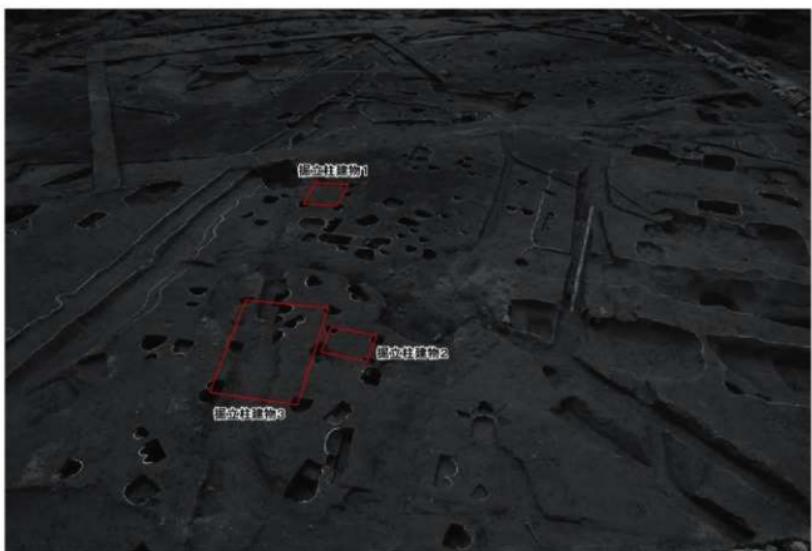
グスク時代の遺構は、D-7～E-8 グリッドにおいてピット群が確認されており、I地区北側にピット群のまとまりが認められる。ピットは暗褐色砂質シルトの埋土で平面形が円形・橢円形や不定形のものが確認されており、柱痕があり掘方が方形状となるものから、柱痕がないもの、掘方が橢円形となるものなどバリエーションがある。深さも40～50cmのものから、10cm前後の浅いものまである。浅いものについては、後世に削平され底部のみが残っている可能性がある。この中でD-7 グリッドのピットの位置関係や埋土から、以下の3棟の掘立柱建物プランを確認できた。



第19図 グスク時代の遺構位置図（I地区）



掘立柱建物1～3(西から)



掘立柱建物1～3(北から)

図版5 ゲスク時代の遺構(I地区)

掘立柱建物 1

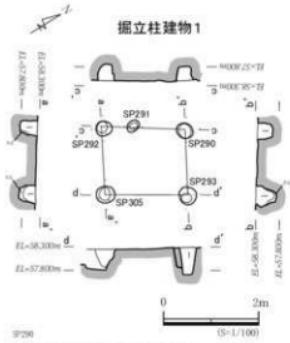
4本柱の建物。長軸1.7m、短軸1.4mで方形を呈する。柱穴の長径32~40cm、短径32~36cm、深さ32~56cmである。

掘立柱建物 2

4本柱の建物。長軸1.4m、短軸1.0mで方形を呈する。柱穴の長径36~47cm、短径31~44cm、深さ10~36cmである。



掘立柱建物1 完掘状況（東から）



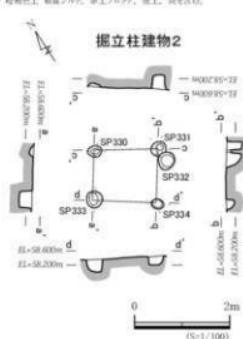
SP290
1層 暗褐色土 基礎シルト、素土ブロックを含む。

SP291
1層 暗褐色土 基礎シルト、素土ブロック、壁土、瓦を含む。

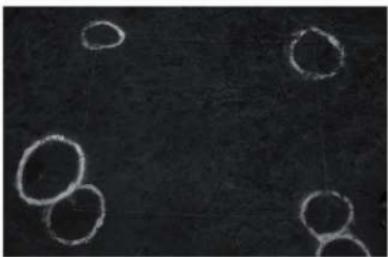
SP292
1層 暗褐色土 基礎シルト、素土ブロック、壁土、瓦を含む。

SP293
1層 暗褐色土 基礎シルト、素土ブロック、壁土、瓦を含む。

SP294
1層 暗褐色土 基礎シルト、素土ブロック、壁土、瓦を含む。



掘立柱建物1 SP292 半裁断面（南西から）

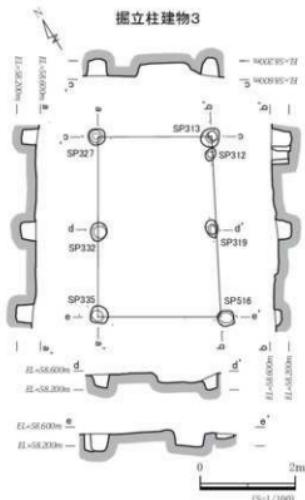


掘立柱建物2 検出状況（北東から）



掘立柱建物2 SP333 半裁断面（北西から）

第20図 ゲスク時代の造構1(I地区)



第21図 グスク時代の遺構2（I地区）



掘立柱建物3 検出状況（南東から）

掘立柱建物3

6 本柱の建物。長軸3.8m、短軸2.4mで長方形を呈する。長軸は北東-南西方向である。柱間隔は1.8~2.0m。柱穴の長径35~40cm、短径35~40cm、深さ12~42cmである。



掘立柱建物3 SP319 半截断面（北東から）



掘立柱建物3 SP313 半截断面（北東から）

b 遺物（I地区）

グスク時代の遺構からの遺物の出土は無く、近世～近代のD-6グリッドSK28から土器が4点確認されているのみである。いずれも胸部小破片のため、今回は図化せず、集計のみ行った（第47表）。

c 遺構（II地区）

グスク時代の遺構は、C-11、D-11、F-9 グリッドから検出したピット群がある。周りの土と僅かに硬さ及び色調が異なっており、深さは 5～10cm のものが多い。遺物、柱跡等がないことから植栽痕と考えられる。



D11 グリッド 遺構検出状況（東から）



D11 グリッド 遺構検出状況（西から）

d 遺構（II地区）

I 地区と同様に、本地区においてもグスク時代の遺構からの遺物の出土は僅かであり、G-12グリッドSP169から土器の鉢が 1 点確認されているのみである。この土器についても胴部小破片のため、今回は図化せず、集計のみ行った（第48表）。

第3項 包含層出土遺物

a I地区(Ⅲ層)

Ⅲ層より出土した遺物は総数149点である。遺物の種類としては、青磁、白磁、染付、土器、カムイヤキ、石器、石製品、石材などである。他の層に比べ、土器が多く出土している。図示および写真撮影した遺物の特徴については、観察表(第4表)に記す。

第3表 包含層(Ⅲ層) 遺物出土状況(I地区)

種類/器種/部位	出土地								合計	
		E-7	E-7・8	E-8	F-8	F-8・9	F-9	G-8		
青磁	皿	底部				1			1	
白磁	碗	口縁部		1		1			2	
染付	碗	胴部	1						1	
		口縁部	1						1	
		口縁部		2		4			6	
土器	鉢	胴部	32	30	9	1	18	4	94	
		底部				1			1	
	鍋	耳				1			1	
		底部				1			1	
カムイヤキ	壺	胴部	1						1	
		口縁部		5		5			10	
	盃	胴部	2		1	1			4	
		底部	1						1	
石器	不明					4			4	
石製品	石皿					4			4	
石製品	磨石			1	1	4	1		7	
石材		1				2			3	
产地不明	器種不明	胴部	1			2	3		5	
		底部							1	
	合計		33	37	18	6	51	1	4	149

第4表 包含層(Ⅲ層) 出土遺物観察一覧(I地区)a

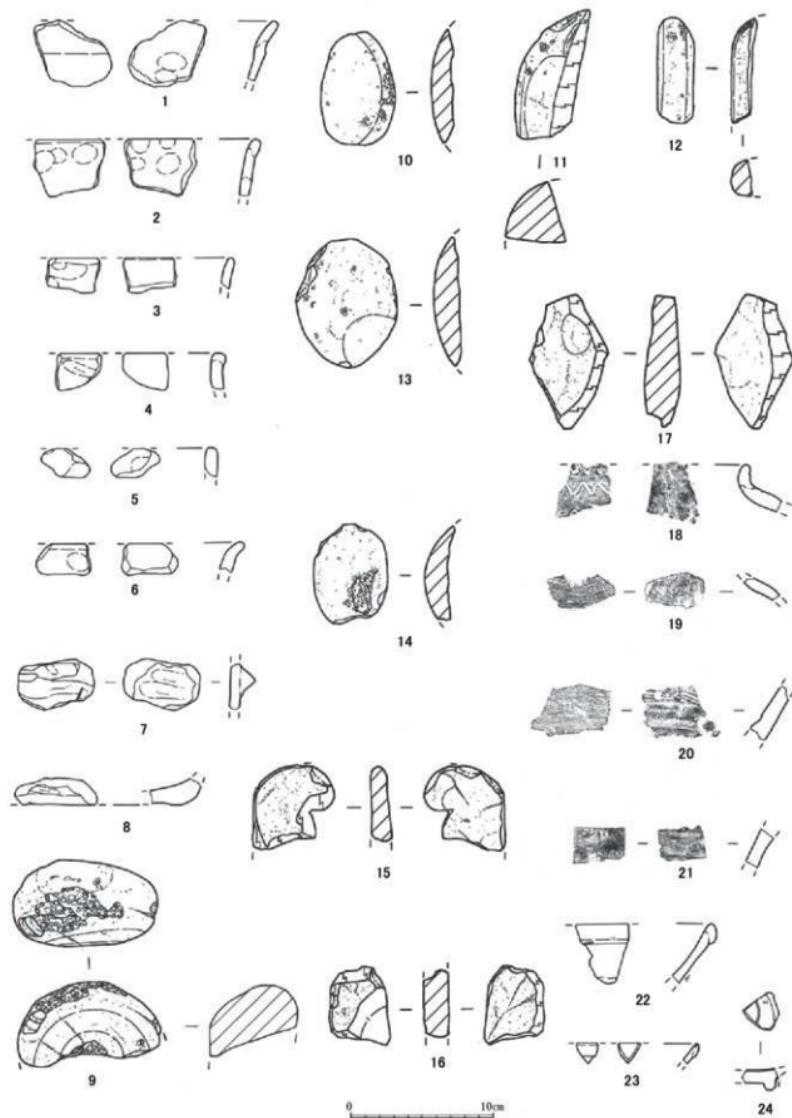
単位:cm

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	法量			観察事項	出土地
				口径	器高	底径		
第22図 図版6	1 土器	鉢	口縁部	—	—	—	指頭による調整の後にナデ調整(指オサエの後にナデ調整)。石英などの粗砂粒を多く混入する。口縁部は粘土を貼り付けた突帯状の接(有段肥厚?)を有する。縄文時代後期～晩期相当の土器と考えられる。	F-8・9 Ⅲ層
				口径	器高	底径		
	2 土器	鉢	口縁部	—	—	—	指頭による調整の後にナデ調整。口唇部は平坦。石英などの粗砂粒を多く混入する。ややアバタ状を呈する。縄文時代後期相当の土器と考えられる。	F-8・9 Ⅲ層
				口径	器高	底径		
	3 土器	鉢	口縁部	—	—	—	石英と思われる白色粗砂粒を多く混入する。縄文時代晩期相当の土器と考えられる。	F-8 Ⅲ層
				口径	器高	底径		
	4 土器	鉢	口縁部	—	—	—	指頭による調整の後にナデ調整。口唇部に粘土を貼り付けて肥厚させる。口唇部は平坦。石英やチャートなどの粗砂粒を多く混入する。縄文時代晩期相当の土器と考えられる。	F-8・9 Ⅲ層
				口径	器高	底径		
	5 土器	鉢	口縁部	—	—	—	口唇部は平坦。石英と思われる白色細砂粒を多く混入する。縄文時代晩期相当の土器と考えられる。	E-8 Ⅲ層
				口径	器高	底径		
	6 土器	鉢	口縁部	—	—	—	指頭による調整の後にナデ調整(指オサエの後にナデ調整)。石英などの粗砂粒を多く混入する。ややアバタ状を呈する。縄文時代晩期相当の土器と考えられる。	F-8・9 Ⅲ層
				口径	器高	底径		
	7 土器	鍋	耳	—	—	—	外耳部分か。内面はナデ調整。外面に粘土を貼り付けて耳部を形成。砂粒を混入する。8と胎土が類似する。	F-8・9 Ⅲ層
				口径	器高	底径		
	8 土器	鍋	底部	—	—	—	砂粒を混入する。7と胎土が類似する。	F-8・9 Ⅲ層

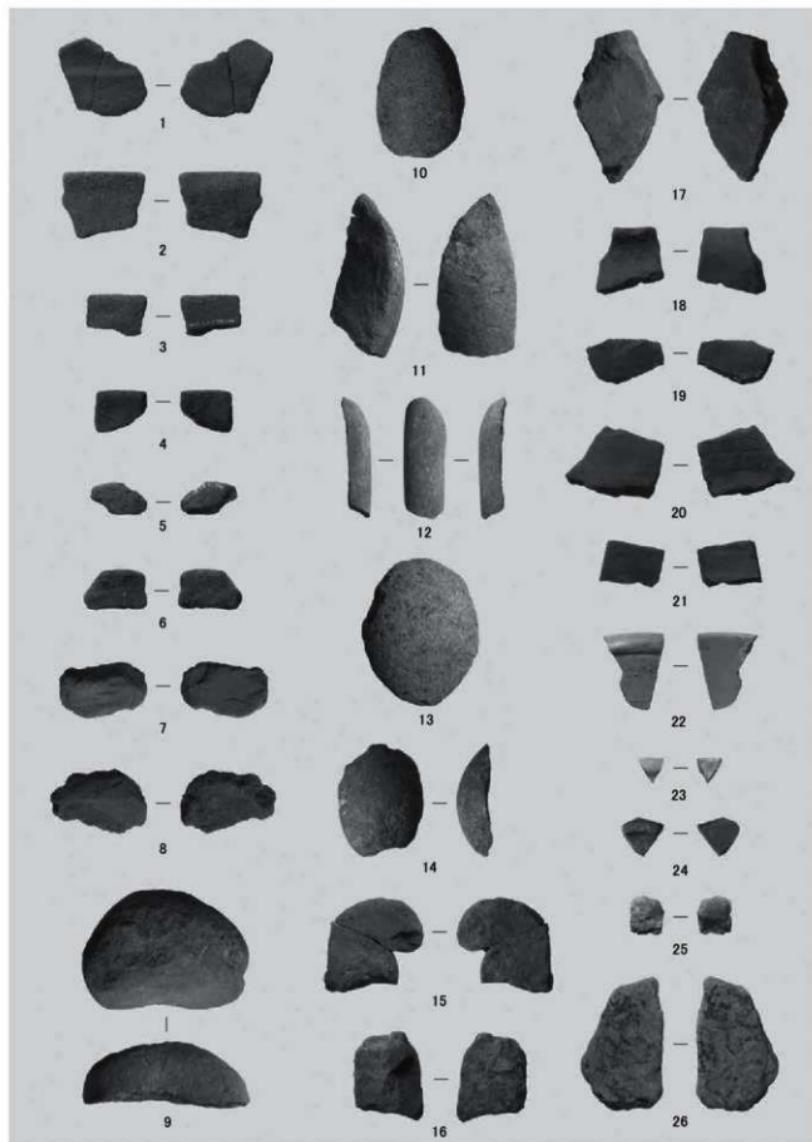
第4表 包含層(Ⅲ層)出土遺物観察一覧(I地区)b

単位:cm

排図番号 図版番号	種類	器種	部位	法量	観察事項	出土地
第22図 図版6	9	石器	磨石	—	口径 器高 底径 — — — 表面に敲打痕/磨面。側面に敲打痕。緑色岩。重量430g。	F-8・9 Ⅲ層
	10	石器	磨石	—	口径 器高 底径 — — — 表面に磨面。砂岩。重量76.9g。	F-8・9 Ⅲ層
	11	石器	磨石	—	口径 器高 底径 — — — 表面及び側面に磨面。砂岩。重量197.6g。	F-8 Ⅲ層
	12	石器	磨石	—	口径 器高 底径 — — — 表裏面及び側面に磨面。緑色岩。重量51.1g。	F-8・9 Ⅲ層
	13	石器	磨石	—	口径 器高 底径 — — — 表面及び側面に磨面。砂岩。重量144.5g。	F-8・9 Ⅲ層
	14	石器	磨石	—	口径 器高 底径 — — — 表裏面及び側面に磨面。砂岩。重量78.4g。	F-9 Ⅲ層
	15	石器	石皿	—	口径 器高 底径 — — — 砂岩。重量61.6g。	F-8・9 Ⅲ層
	16	石器	石皿	—	口径 器高 底径 — — — 砂岩。重量60.7g。	F-8・9 Ⅲ層
	17	石器	石皿	—	口径 器高 底径 — — — 砂岩。重量143.1g。	F-8・9 Ⅲ層
	18	カムイヤキ	壺	口縁部	口径 器高 底径 — — — 外面に波状の沈痕が3本めぐる。胎土は明褐色を呈し、白色粒を含む。	F-8・9 Ⅲ層
	19	カムイヤキ	壺	胴部	口径 器高 底径 — — — 内外面ともに回転擦痕あり。胎土は暗褐色を呈し、白色粒を含む。	E-7・8 Ⅲ層
	20	カムイヤキ	壺	胴部	口径 器高 底径 — — — 内面は當て具痕とナデ調整、外面上には回転擦痕とナデ調整が施される。胎土は暗褐色を呈し、白色粒子を多く含む。	E-7・8 Ⅲ層
	21	カムイヤキ	壺	胴部	口径 器高 底径 — — — 外面には叩き目痕が僅かにみられ、内外面ともに回転擦痕とナデ調整が施される。胎土は暗褐色を呈し、白色粒子を多く含む。	F-8・9 Ⅲ層
	22	白磁	碗	口縁部	口径 器高 底径 — — — 玉縁口縁。玉縁下端の削りが明瞭。素地は白灰色で細かい、黒色粒を含む。	F-8・9 Ⅲ層
	23	白磁	碗	口縁部	口径 器高 底径 — — — 玉縁口縁。素地は白灰色で緻密。黒色粒を含む。	E-8 Ⅲ層
	24	青磁	皿	底部	口径 器高 底径 — — — 内外面施釉、外面上は疊付まで施釉。内底に1本の團線あり。素地は桜色で粗粒子、黒色粒、白色粒を含む。	F-8・9 Ⅲ層
	25	石器	不明	—	口径 器高 底径 — — — チャート。重量4.2g。	F-8・9 Ⅲ層
	26	石器	石皿	—	口径 器高 底径 — — — 砂岩。重量75.1g。	F-8・9 Ⅲ層



第22図 包含層(III層) 出土遺物(I地区)



图版6 包含层(III层) 出土遗物(I地区)

b II 地区(Ⅲ層)

Ⅲ層より出土した遺物は総数252点である。遺物の種類としては、青磁、白磁、染付、土器、カムイヤキ、石器、石製品、石材などである。I地区同様に土器が最も多い。図示および写真撮影した遺物の特徴については、観察表(第6表)に記す。

第5表 包含層(Ⅲ層) 遺物出土状況(II地区)

種類/器種/部位	出土地	C-11 D-10 D-11 E-9 E-11 E-12 G-10 G-10+11 G-11 G-12 H-11 グリッド不明												合計	
		C-11	D-10	D-11	E-9	E-11	E-12	G-10	G-10+11	G-11	G-12	H-11	グリッド不明		
青磁	縦	底部								1				1	
白磁	縦	口縁部								1				1	
	縦	胴部		1						2				3	
染付	縦	底部								1				1	
	器種不明	胴部					1							1	
埋埴輪	小糸	口縁部								1				1	
施釉陶器	直	口縁部												1	
	縦	口縁部		1										1	
	縦	胴部	36	45				10	10	14	28	1	17	161	
	縦	底部		2						1				3	
	縦	口縁部		1						2				3	
	器種不明	胴部		3	1	4	1			24	2	9		44	
	縦	底部	1											1	
カムイ牛	直	胴部								2				2	
石器	石斧			1										1	
石器	不明			1										1	
石材			2	7	1	2				2				14	
遺地不明	器種不明	胴部								1				1	
	合計		39	0	67	3	6	2	10	10	14	67	3	31	252

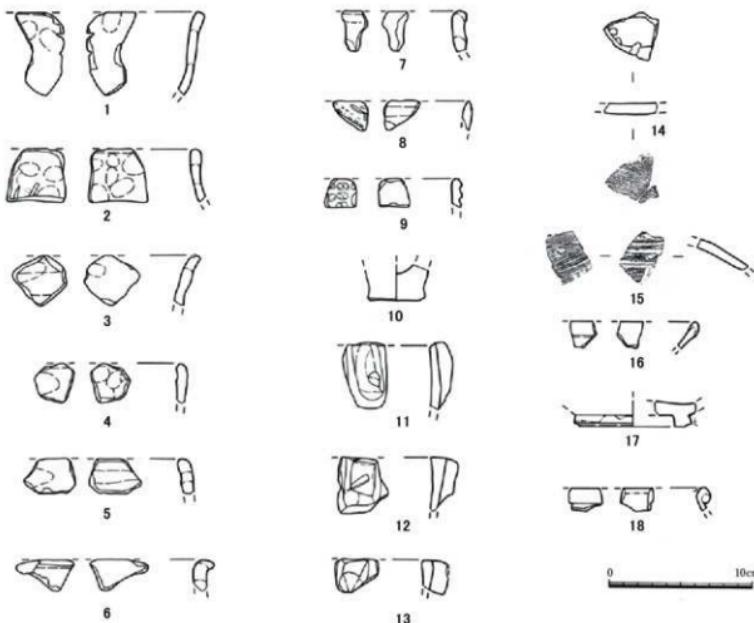
第6表 包含層(Ⅲ層) 出土遺物観察一覧(II地区)a

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	法量			観察事項					出土地	
第23図 図版7	1	土器	鉢	口縁部	口径	器高	底径	石英の粗砂粒は確認できるが、混入物は少ない。					E-9 Ⅲ層
	2	土器	鉢	口縁部	口径	器高	底径	指頭による調整の後にナデ調整。石英などの粗砂粒を多く混入する。					グリッド不明 Ⅲ層
	3	土器	鉢	口縁部	口径	器高	底径	石英などの粗砂粒を多く混入する。					D-11 Ⅲ層
	4	土器	鉢	口縁部	口径	器高	底径	石英などの粗砂粒を多く混入する。					D-11 Ⅲ層
	5	土器	鉢	口縁部	口径	器高	底径	石英などの粗砂粒を多く混入する。					D-11 Ⅲ層
	6	土器	鉢	口縁部	口径	器高	底径	口唇部に粘土を貼り付け、口縁部の断面形状は三角形をなす。石英などの粗砂粒を多く混入する。					グリッド不明 Ⅲ層
	7	土器	鉢	口縁部	口径	器高	底径	口唇部に粘土を貼り付けた後に肥厚させる。口唇部は平坦。石英などの粗砂粒を混入する。					グリッド不明 Ⅲ層
	8	土器	鉢	口縁部	口径	器高	底径	口唇部に粘土を貼り付けた後に肥厚させる。石英などの粗砂粒を多く混入する。					D-11 Ⅲ層
	9	土器	鉢	口縁部	口径	器高	底径	横位の横捺割文が2条確認できる。石英などの粗砂粒を多く混入する。ややアバタ状を呈する。					D-11 Ⅲ層
	10	土器	鉢	底部	口径	器高	底径	平底を呈する。目立った混入物はないが、褐色粒が僅かにみられる。乳房状尖底か?					D-11 Ⅲ層
	11	土器	鍋	口縁部	口径	器高	底径	石鍋模倣土器。縦耳の部分。石英などの粗砂粒や褐色粒混入する。					D-11 Ⅲ層
	12	土器	鍋	口縁部	口径	器高	底径	石鍋模倣土器。縦耳の部分。口唇部は平坦。石英などの粗砂粒を混入する。12と胎土の質感などが類似することより、同一個体の可能性がある。					G-12 Ⅲ層
	13	土器	鍋	口縁部	口径	器高	底径	石鍋模倣土器。縦耳の部分。口唇部は平坦。石英などの粗砂粒を混入する。12と胎土の質感などが類似することより、同一個体の可能性がある。					G-12 Ⅲ層

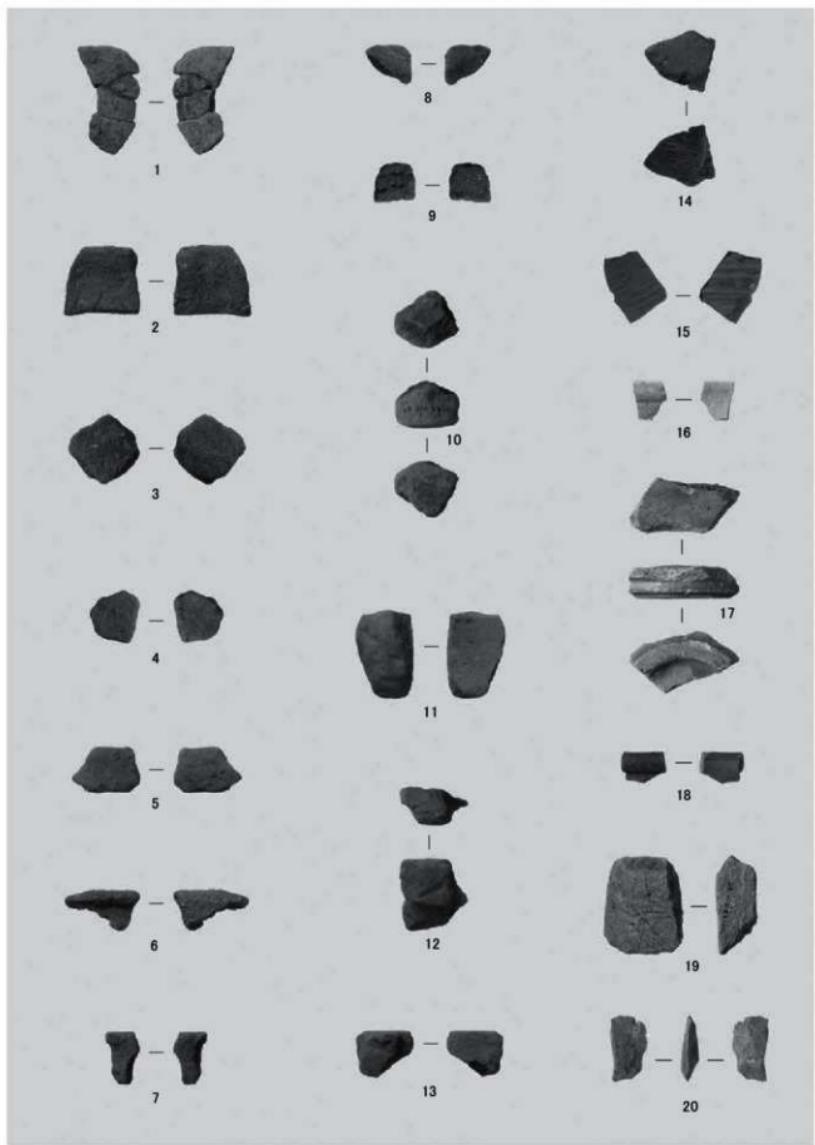
第6表 包含層(Ⅲ層)出土遺物観察一覧(Ⅱ地区)b

単位:cm

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	法量	観察事項	出土地
第23図 図版7	14	土器	鍋	底部 口径 器高 底径	滑石を多く混入する。内面は刷毛目調整を密に施す。	D-11 Ⅲ層
	15	カムイヤキ	蓋	胸部 口径 器高 底径	内面は回転擦痕が明瞭。外面は叩き目痕がみられ、ナデ調整が施される。胎土は暗褐色を呈し、白色粒、褐色粒を含む。	G-12 Ⅲ層
	16	白磁	碗	口縁部 口径 器高 底径	玉縁口縁。玉縁下端の削りが明瞭。素地は白色でやや緻密。	G-12 Ⅲ層
	17	青磁	碗	底部 口径 器高 底径	内外面施釉、見込み及び撮付から外底にかけて露胎。素地は灰白色でやや緻密。黑色粒を含む。	G-12 Ⅲ層
	18	褐輪陶器	蓋	口縁部 口径 器高 底径	内面口縁部以下は露胎。素地は橙色でやや粗い、白色粒、透明粒を僅かに含む。	D-11 Ⅲ層
	19	石器	石斧	— — —	表面に磨面? 砂岩。重量62.9g。	D-11 Ⅲ層
図版7	20	石器	不明	— — —	チャート片と思われる。重量6.1g。	D-11 Ⅲ層



第23図 包含層(Ⅲ層)出土遺物(Ⅱ地区)

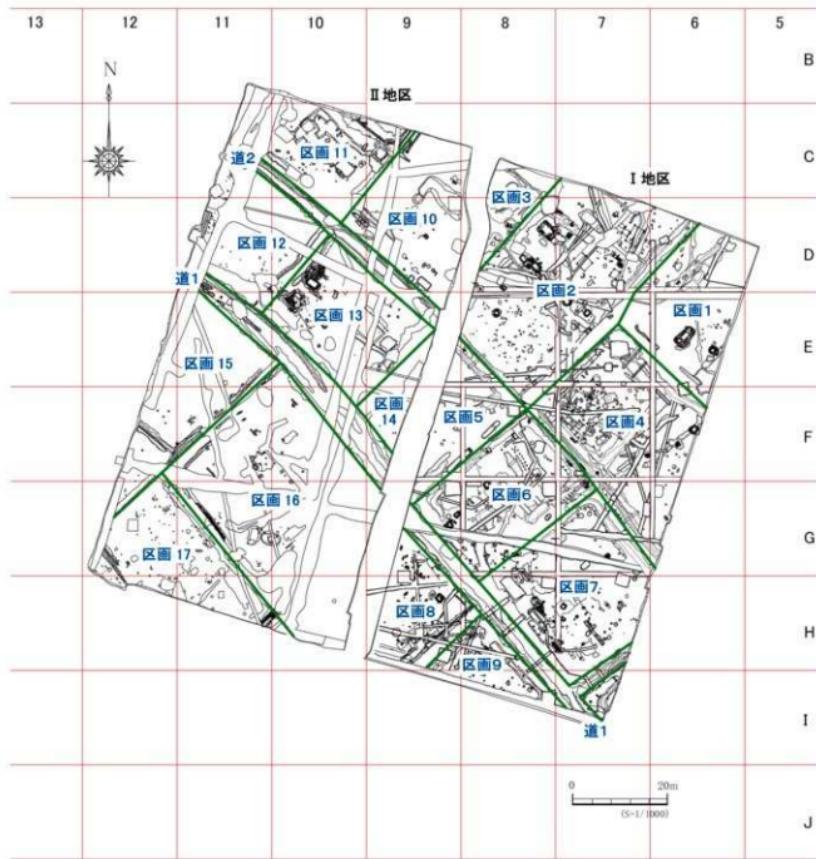


图版7 包含层(III层)出土遗物(II地区)

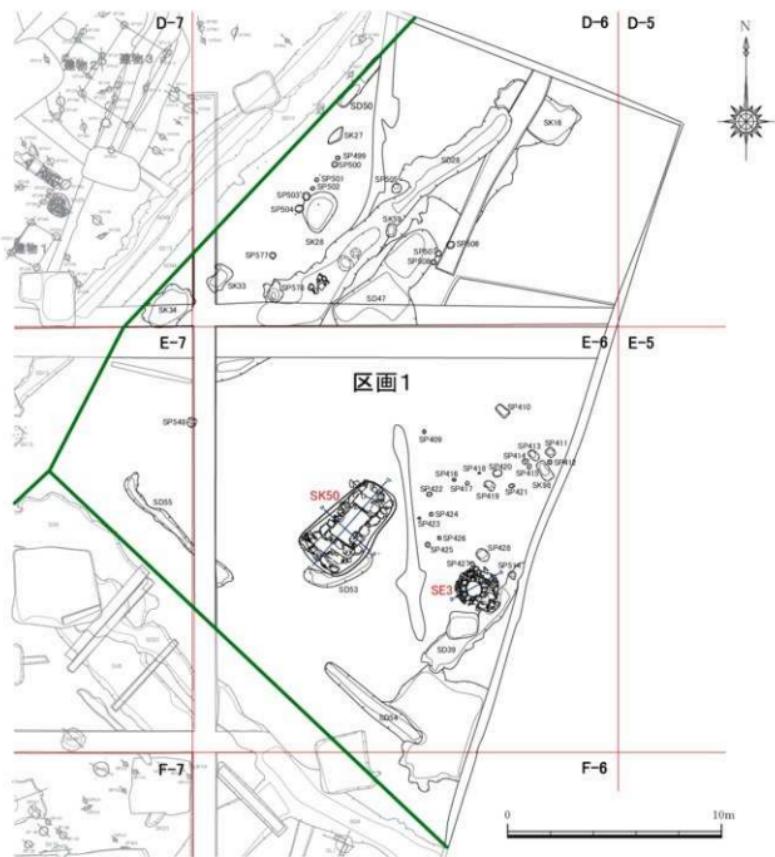
第3節 近世～近代

第1項 遺構

今回の調査で検出された遺構は、当該時期の遺構が主体を占める。主な遺構として、ピット、土坑、方形石組遺構、水場遺構、石敷遺構、井戸、溝跡、道路跡、窯跡、炉跡などの古集落に関連する遺構の他、古集落に付随していたと考えられる畠跡（耕作地）などがある。中でも溝跡は、軸が一定方向に延びる状況で検出されており、また道路跡と交差するように延びるものもあることから、屋敷など、空間の区画を示すものと考えられるものもある。今調査においては、I地区及びII地区を合わせた調査区全体を17の区画に分けられると想定した（第24図）。以下に区画ごとに詳細を報告する。



第24図 区画配置図



第25図 区画1の遺構1(I地区)

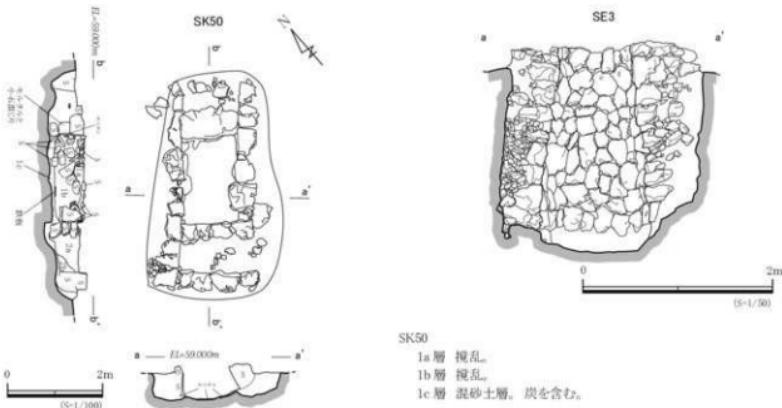
(I地区)

区画1

西側に区画2、南側に区画4と隣接する。明確な建物プランは確認できないが、屋敷跡に関連すると考えられるピット、土坑、方形石組遺構、井戸、溝跡等を確認している。

方形石組遺構（SK50）は、地山を方形状に掘り込み、約30cm大の石灰岩の切石を、南東部の一部を除き、四方に配置している。壁面の表面には、目張りとなるモルタル（又はセメント）が塗布されている。内部には一列の石列があり、二重構造を呈する。内側の方形遺構内の床面のみモルタル（又はセメント）で仕上げ、その外側にあたる方形石組内の床面は地山である。石の置かれ方を観察すると、当初は約460cm×270cm大で使用されていたが、後に内部に石を配置し、規模を小さくして再度使用したものと考えられる。どのくらいの時期差があるかは不明である。壁面の表面に目張りが施されることより、水を溜めて使用する機能が想定される。

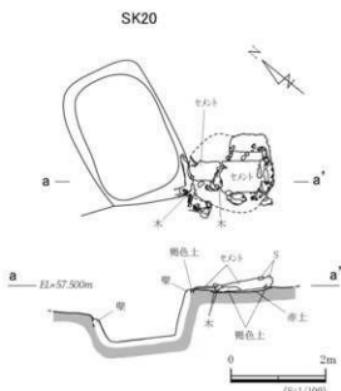
井戸（SE3）は地山をほぼ垂直に掘り込み、20~30cm大の石灰岩を岩盤直上よりややハの字状に積み上げている。岩盤からの掘り込み深度については未確認である。面は丁寧に整形され、積み方も相方積みで丁寧な造りである。10~20cm大の石灰岩を裏込め石として密に使用している。井戸はSK50と隣接していることより、水溜め遺構と考えられるSK50とセット関係をなすものと考えられる。



第26図 区画1の遺構2 (I地区)

区画2

東側に区画1と4、西側に区画3と隣接する。遺構は多く、ピット、土坑、方形石組遺構、井戸、溝跡等を確認している。



第27図 区画2の遺構1(I地区)

土坑SK20は、300cm×210cm、深さは65cmあり、地山を方形状に掘り込み、海浜のサンゴ砂利と樹液を混ぜ固めて造ったため池と考えられる。読谷村のウガンヒラー北方遺跡で同様の遺構が報告されており、同報告書によると、この技法はサントウ技法と呼ばれ、セメントが普及する以前の技法とされる。土坑はSK56など、地山を方形状に掘り込んだものが多くみられる。

方形石組遺構は、複数検出された。そのほとんどが床面及び壁面にはモルタル（又はセメント）が塗布されている。SK44は315cm×190cmあり、40～80cm大の石灰岩の切石を四方に配置している。床面は地山直上に10cm大的小砾を敷き、その上にモルタル（又はセメント）で床を構築している。SK51は400cm×300cmあり、SK32に切られている。SK53は135cm×110cmあり、15～20cm大的石灰岩の切石を四方に配置している。造りは丁寧である。中の埋土には炭が薄く水平に堆積し、互層をなしている状況が確認された。



SK20 遺構内完掘状況（南東から）



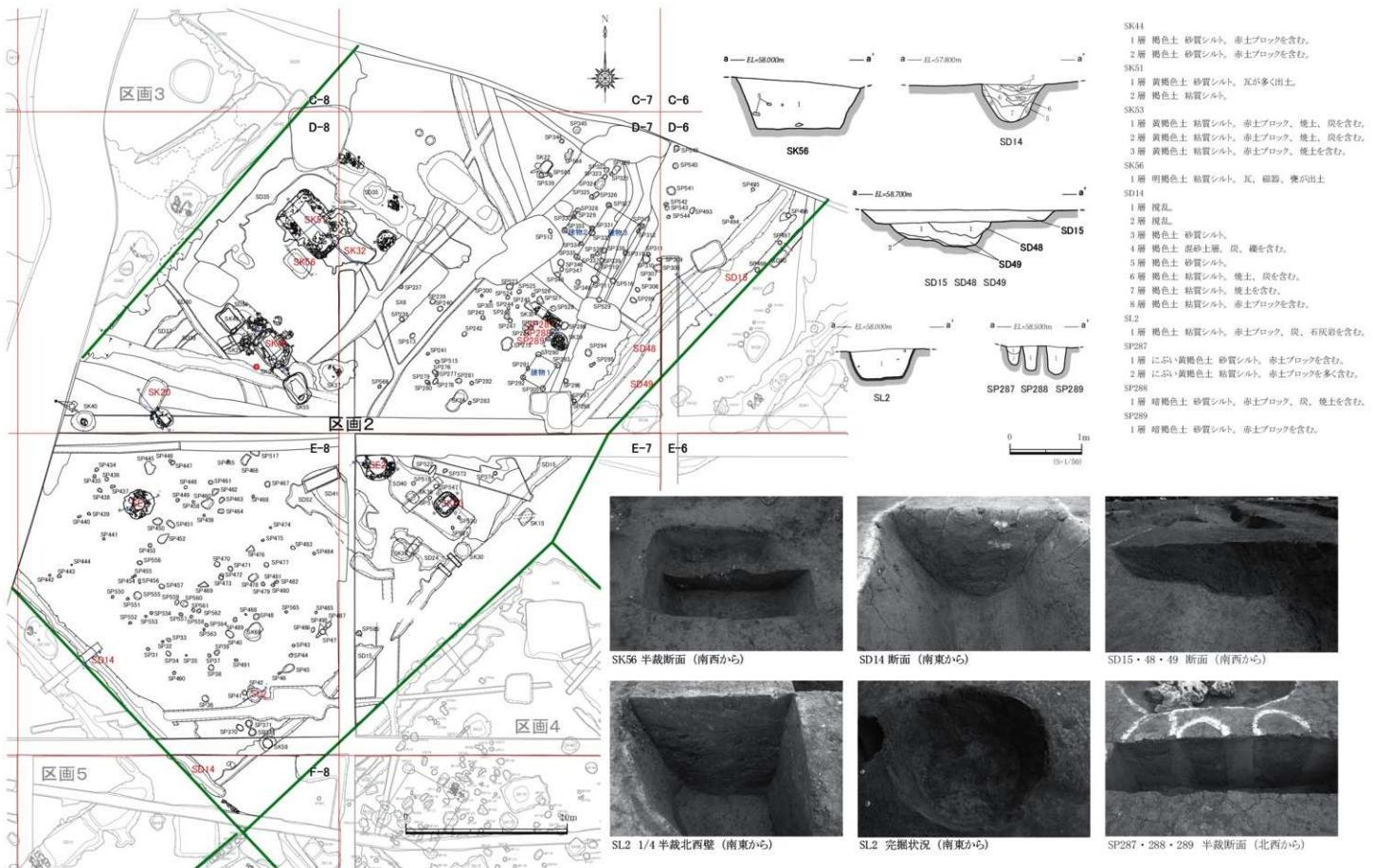
SK20 完掘状況（北西から）



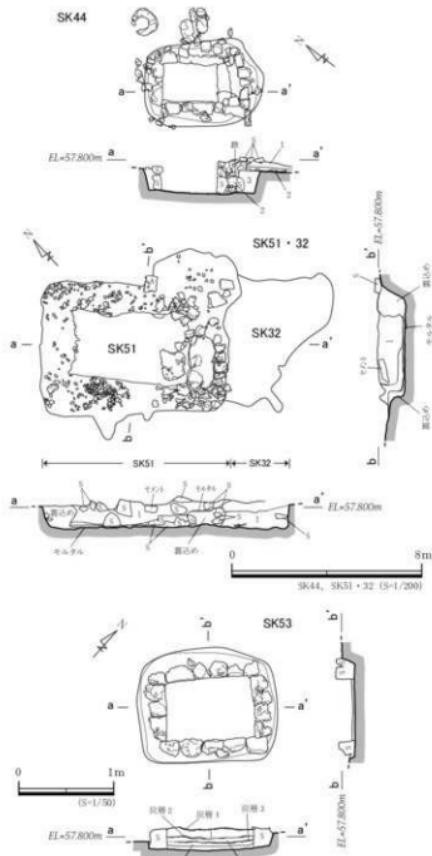
SK44 床面検出状況（南西から）



SK44 モルタル除去状況（南西から）



第29図 区画2の遺構3（I地区）



第28図 区画2の遺構2（I地区）



SK51・32 床面検出状況（南西から）



SK51・32 完掘状況（南西から）



SK53 検出状況（南東から）



SK53 遺構内半裁断面（南東から）



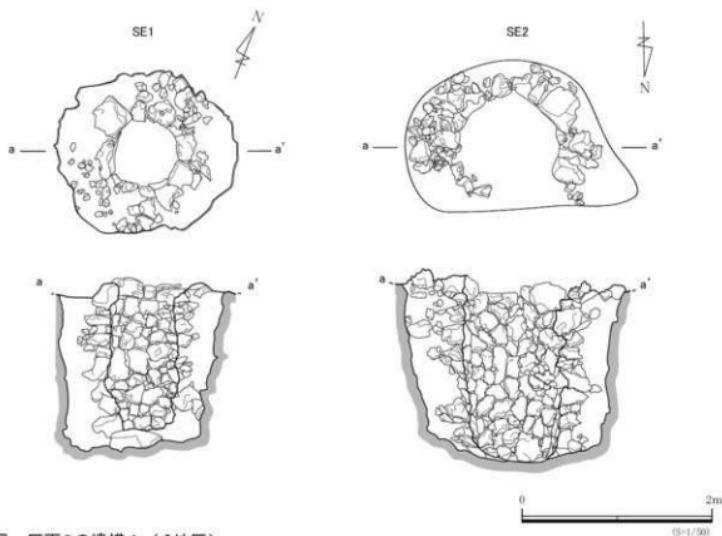
SK53 床面検出状況（南東から）

井戸はSE 1とSE 2の二基が確認された。SE 1は、20~40cm大の石灰岩を岩盤直上より積み上げている。岩盤からの掘り込み深度については未確認である。積み方は相方積みで、20cm大の石灰岩を裏込め石として密に使用している。SE 2は、20~30cm大の石灰岩をSE 1と同様、岩盤直上より積み上げている。岩盤からの掘り込み深度については未確認である。積み方は相方積みで、10~20cm大の石灰岩を裏込め石として密に使用している。

溝跡についても複数検出され、中でもSD14はII地区で確認された道跡と一連のものと考えられる。

SL 2は、焼土が円を描いて検出され、半裁すると壁面全体が赤く焼けており、床面には炭が薄く堆積していた。これらのことより、炉跡と考えられる。直径は90cm、深さは35cmある。

その他、沖縄産無釉陶器の壺の内部に、獸骨が多数入っているものも見つかった。詳細については不明である。また、ピットについては、数多く確認され、屋敷跡に関連すると考えられるものもあるが、明確なプランを把握することができなかつた。



第30図 区画2の遺構4（I地区）



SE1 断割り状況（南西から）



SE2 断割り状況（北から）

区画3

東側に区画2と隣接する。II地区の区画10を合わせて一つの区画をなすと考えられる。遺構は少なく、ピット、土坑、溝跡等を確認している。

SK60からは沖縄産無釉陶器の壺が3個出土した他、僅かに漆片も検出された。



第31図 区画3の遺構（I地区）



页面 4

北東側に区画1、北西側に区画2、南東側に区画6、7と隣接する。区画の中で最も多くの遺構が確認されており、主な遺構にはピット、土坑、方形石組遺構、溝跡、炉跡等がある。

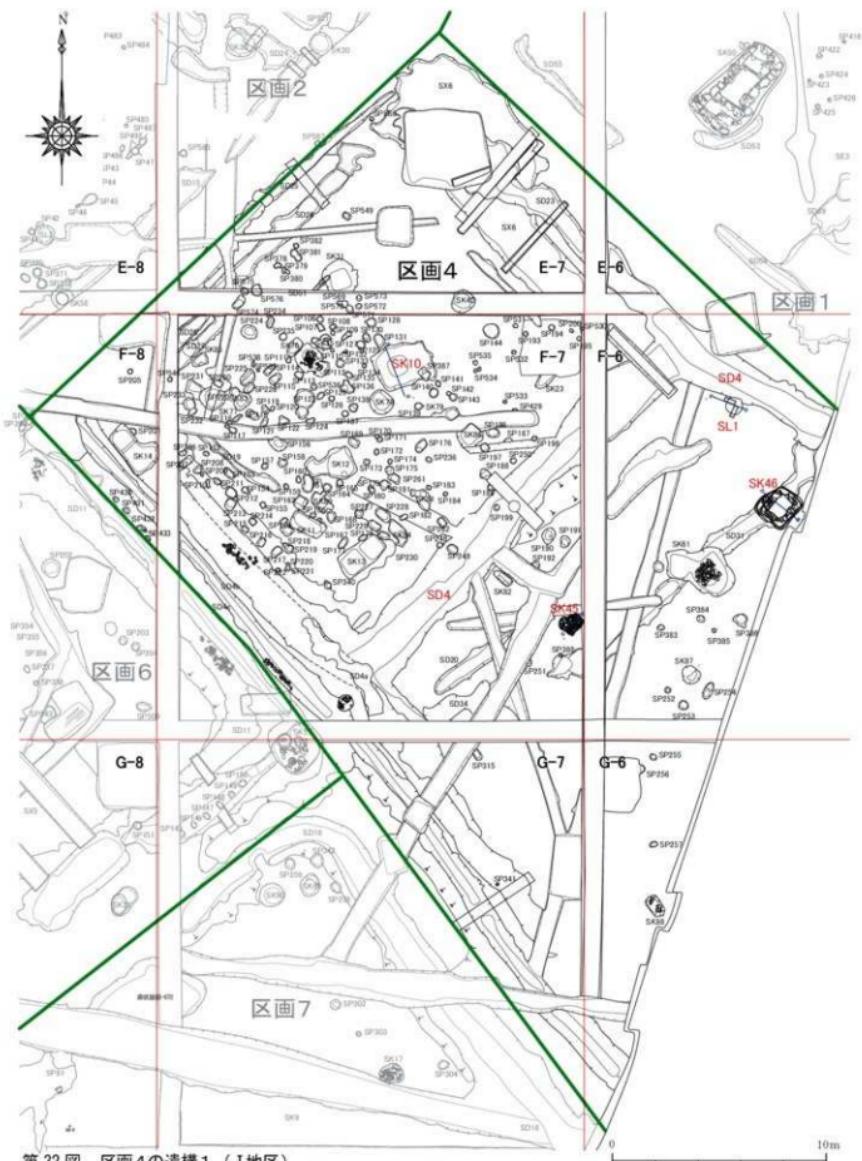
溝跡は複数検出され、そのうちSD 4、23、26については、これらを一連のものとして俯瞰すると、空間を囲うように方形状を呈し、その内側の空間には、数多くのピットや土坑などが確認される。これらのことより、SD 4、23、26は屋敷の区画としての機能が考えられる。

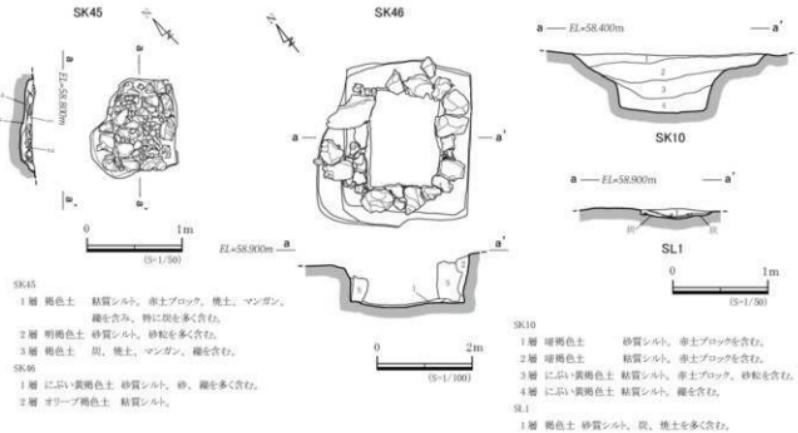
ピットは多数検出された。その多くは屋敷跡に関連するものと考えられたが、明確な建物プランを確認することはできなかった。

土坑はピットに次いで多く検出され、断面形状が方形状を呈するものや、断面形状が半円状を呈するもの、断面形状が段を持つもの（SK10）等が確認された。

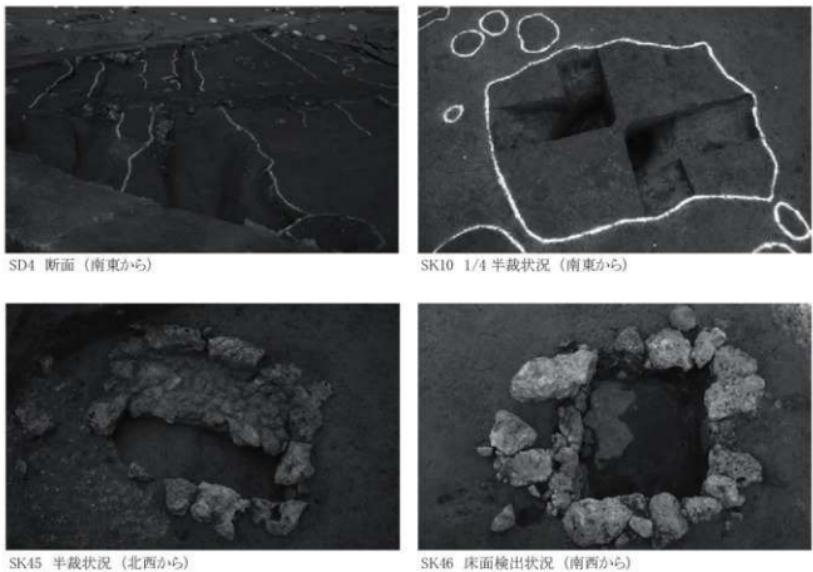
方形石組遺構はSK45、46の2つが検出され、SK45はほぼ床面部分のみの残存であった。双方ともに、地山に石灰岩礫を敷き、その上にモルタル（又はセメント）を施して床面を構築していた。

SL 1はトレンチを設定して断面を確認した結果、焼土及び炭の層がレンズ状にみられたことより、炉跡と考えられる。





第33図 区画4の遺構2（I地区）



区画5

北側に区画2、南東側に区画6と隣接する。II地区の区画14を合わせて一つの区画をなすと考えられる。遺構は少なく、ピット、土坑、溝跡等を確認している。

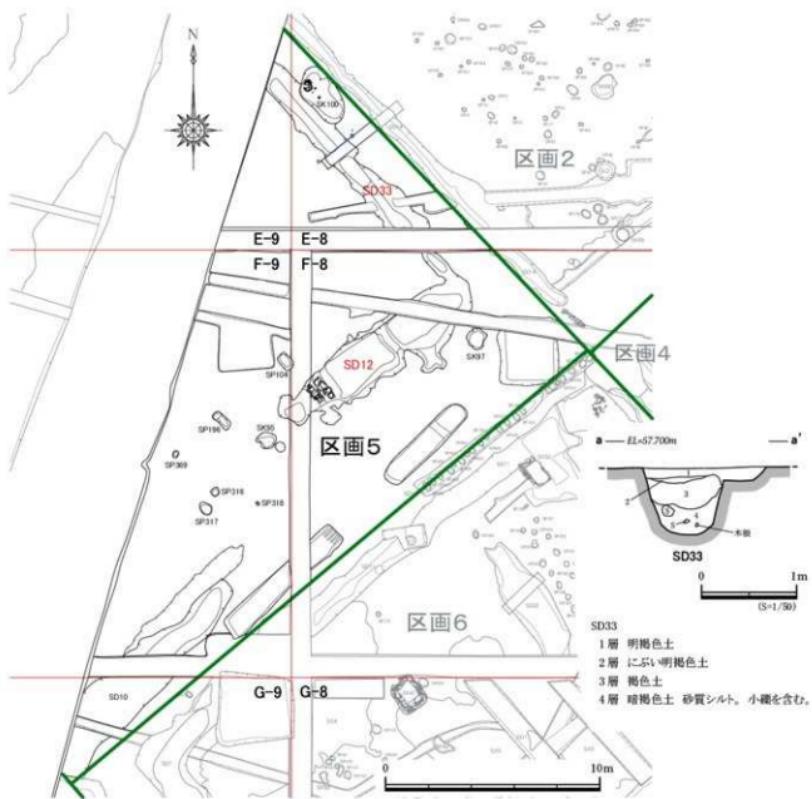


SL1 検出状況 (南西から)

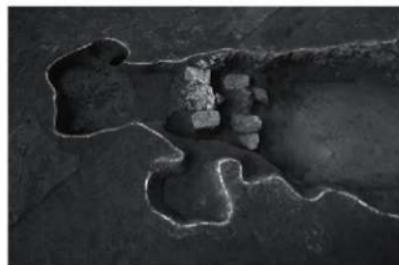


SL1 北西壁 (南東から)

図版8 区画4の遺構 (I地区)



第34図 区画5の遺構1 (I地区)



SD12 階段検出状況（南東から）



SD33 断面（南東から）

図版9 区画5の遺構（I地区）

図版6

北東側に区画4、北西側に区画5、南側に道1が延びる。区画の中で最も多くの遺構が確認されており、主な遺構にはピット、土坑、方形石組遺構、井戸、溝跡、貝だまり等がある。

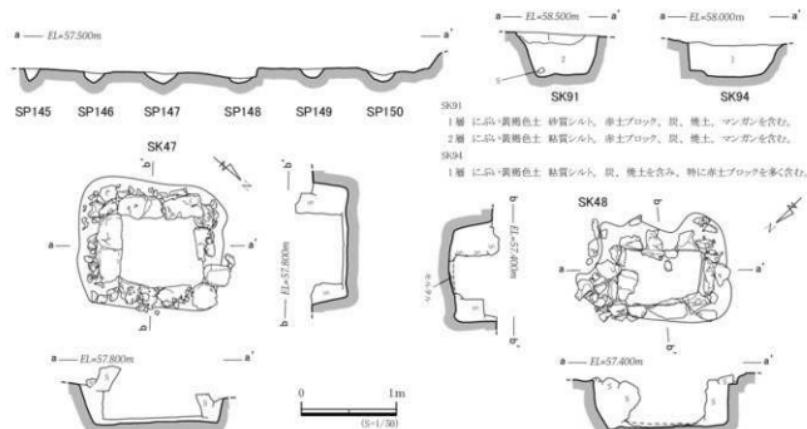
溝跡は複数検出され、そのうちSD7及び11については区画としての機能が考えられる。

ピットは多数検出された。中でもSD11内から検出されたSP145～150及びSP389～408、そしてSP350～367については、等間隔で並んでいる状況で検出された。

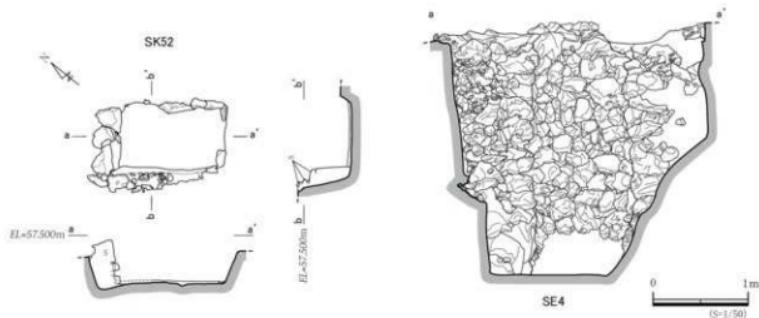
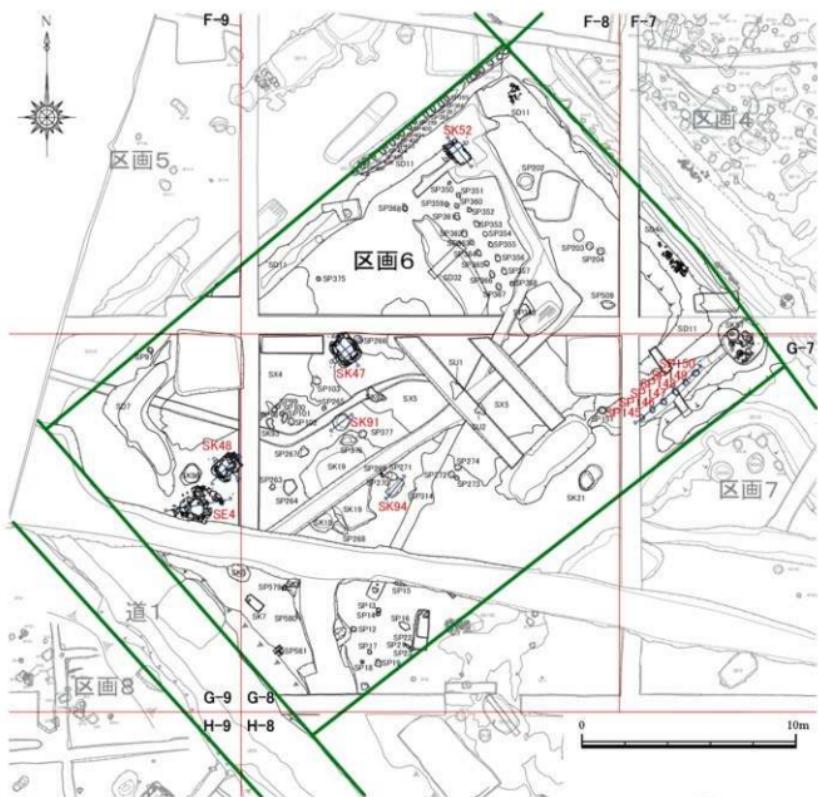
土坑はピットに次いで多く検出され、断面形状が方形状を呈するもの（SK91）や半円状を呈するもの等が確認された。

方形石組遺構はSK47、48、52が確認された。いずれもも石灰岩の切石を四方に配置し、床面及び壁面はモルタル（又はセメント）を施している。

井戸（SE4）は1基検出され、30cm大の石灰岩を岩盤直上より積み上げている。岩盤からさらに不透水層であるクチャ層まで掘り込んでいる。積み方は相方積みで、15cm大の石灰岩を裏込め石として密に使用している。



第35図 区画6の遺構1（I地区）



第36図 区画6の造構2（I地区）



SP146 ~ 150 半裁状況（北西から）



SK47 床面検出状況（南西から）



SK48 床面検出状況（北東から）



SK52 床面半裁状況（北東から）

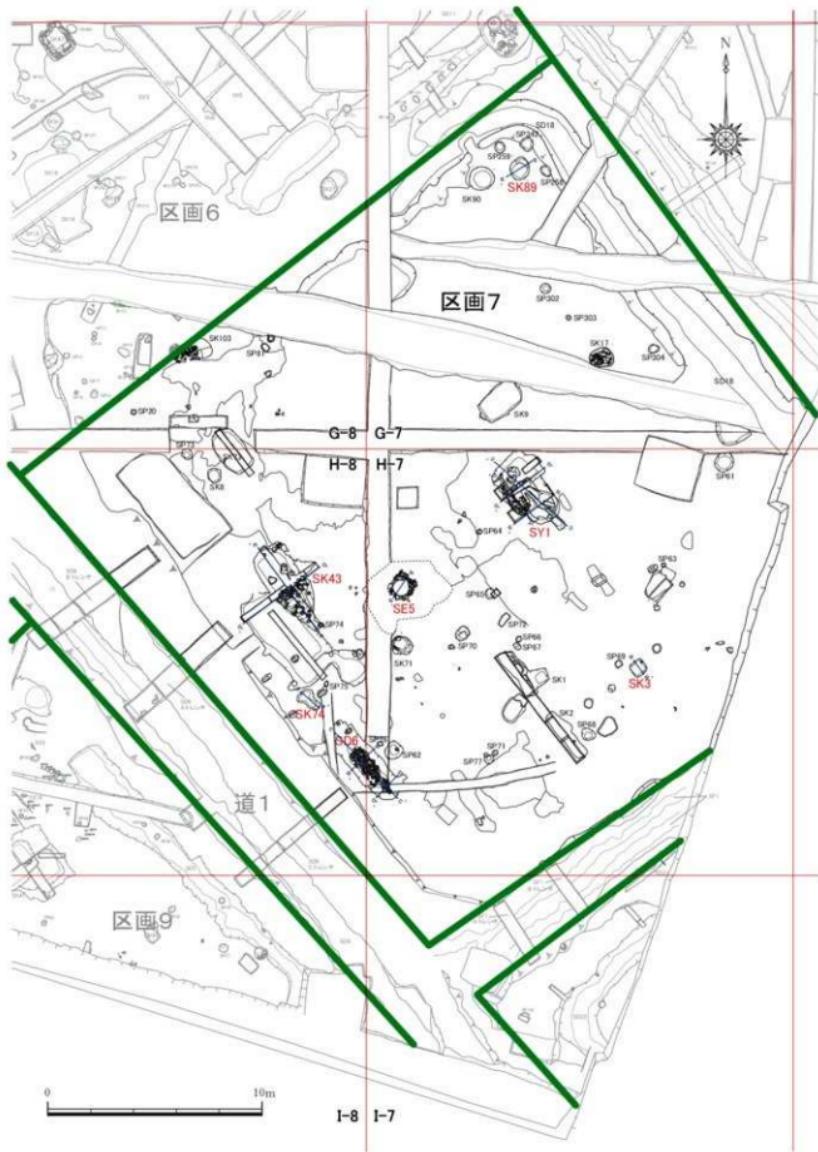


SK91 1/4 半裁北西壁（西から）



SE4 断割り状況（南から）

図版 10 区画6の遺構（I 地区）



第37図 区画7の遺構1（I地区）

図2

北側に区画4、北西側に区画6、南側に道1が延びる。主な遺構にはピット、土坑、井戸、溝跡、窓跡がある。

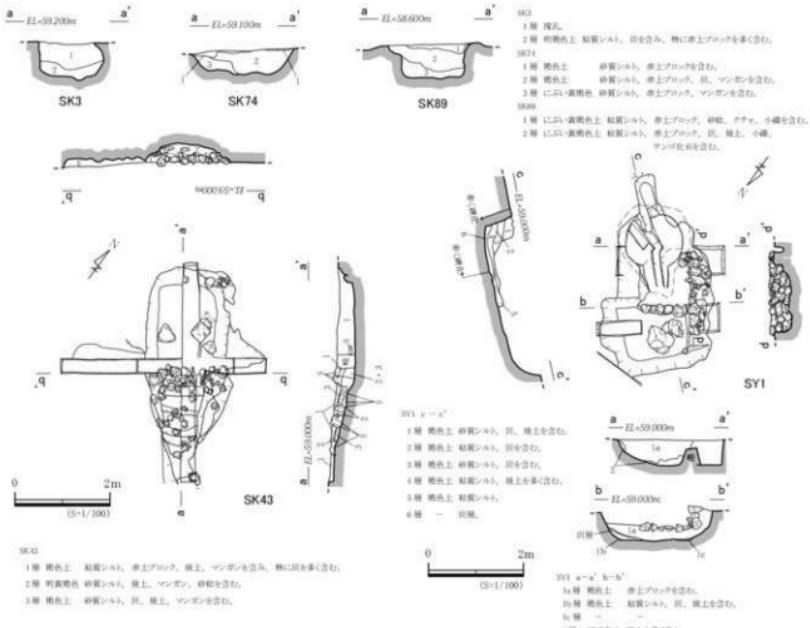
溝跡は複数検出され、そのうちSD18は区画としての機能が考えられる。SD6は床面上に石灰岩礫がまとまっている状況で検出され、意図的に置かれたものと考えられる。

ピットは複数検出されたが、明確な建物プランは確認できていない。土坑も複数検出され、様々な形状の土坑が確認されている。SK43は10~20cm大の石灰岩が集中した状況で見つかったが、性格については不明である。

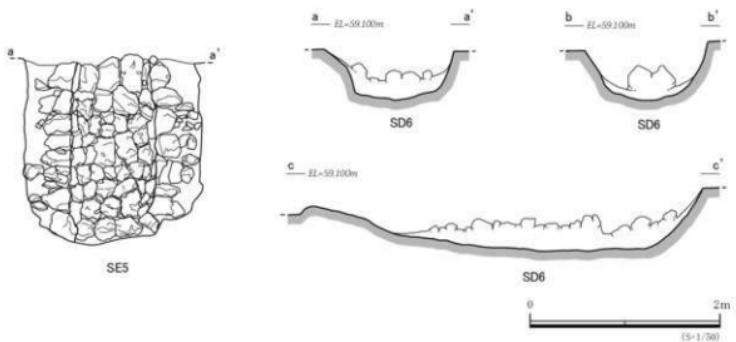
SK103からは沖縄産無釉陶器の壺とともに位牌が検出された。詳細については遺物の頁で報告する。

井戸（SE5）は地山をほぼ垂直に掘り込み、30cm大の石灰岩を岩盤直上よりハの字状に積み上げている。岩盤からさらに不透水層であるクチャ層まで掘り込んでいる。面は丁寧に整形され、積み方も相方積みで丁寧な造りである。10~20cm大の石灰岩礫を裏込め石として密に使用している。

その他、窓跡（SY1）は、地山を燃焼部は円形、灰原部分は方形形状に掘り込んで構築されている。燃焼部の壁面は火熱を受けて赤みを帯び、硬化している。床面には炭が壁面から焚口方向に傾斜して堆積している。灰原は燃焼部に溜まつた燃えカスを焚口から掻き出す等の作業を行う場と考えられる。SY1については、放射性炭素年代測定や、熱残留磁気分析等をパリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。その詳細については第5章自然科学分析の頁にて報告する。



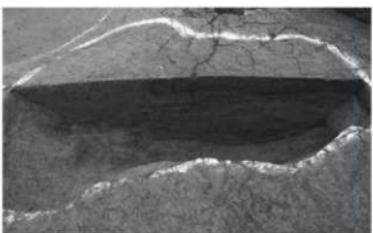
第38図 区画7の遺構2（I地区）



第39図 区画7の造構3（I地区）



SK3 半裁断面（南西から）



SK74 半裁断面（南西から）



SK43 硬検出状況（東から）



SK43 硬検出状況（北から）



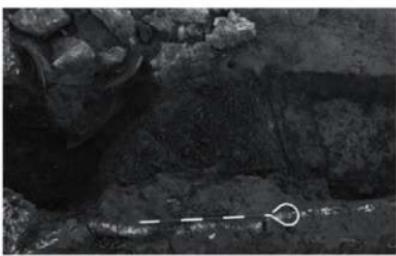
SY1 焼土面半裁状況（西から）



SY1 完掘状況（北西から）



SK103 位牌検出状況 (南から)



SK103 位牌検出状況2 (南から)



SE5 断割り状況 (西から)



SD6 繋検出状況 (南西から)

図版 11 区画7の遺構 (I 地区)

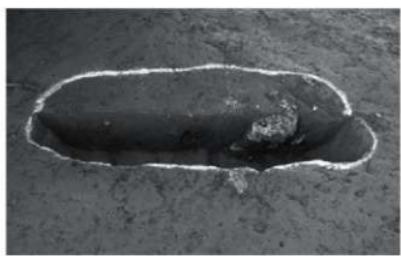
区画8

北東側に道1、南東側に区画9と隣接する。ピット、土坑、方形石組遺構、溝跡等を確認している。

ピットは複数検出されたが、明確な建物プランは確認できていない。土坑も複数検出された。

方形石組遺構はSK42が検出され、石灰岩の切石を四方に配置し、床面及び壁面にモルタル(又はセメント)を施している。床面は地山の上に小礫を敷き、その上にモルタル(又はセメント)で仕上げている。SK42内の埋土中より、歯骨が検出された。

溝跡は複数検出され、中でもSD2は区画としての機能が考えられる。

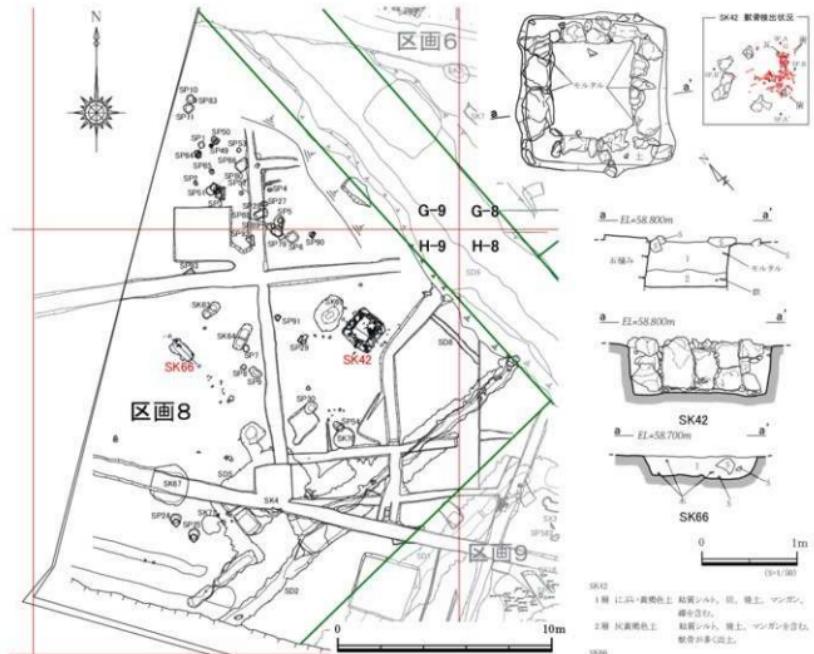


SK66 半裁断面 (南西から)

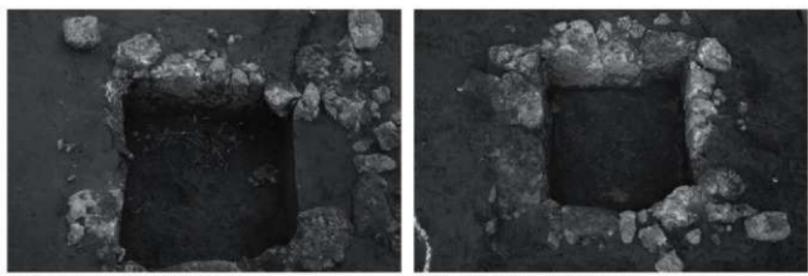


SK42 床面半裁状況 (南西から)

図版 12 区画8の遺構 (I 地区)



第40図 区画8の遺構（I地区）



SK42 獣骨検出状況（南西から）

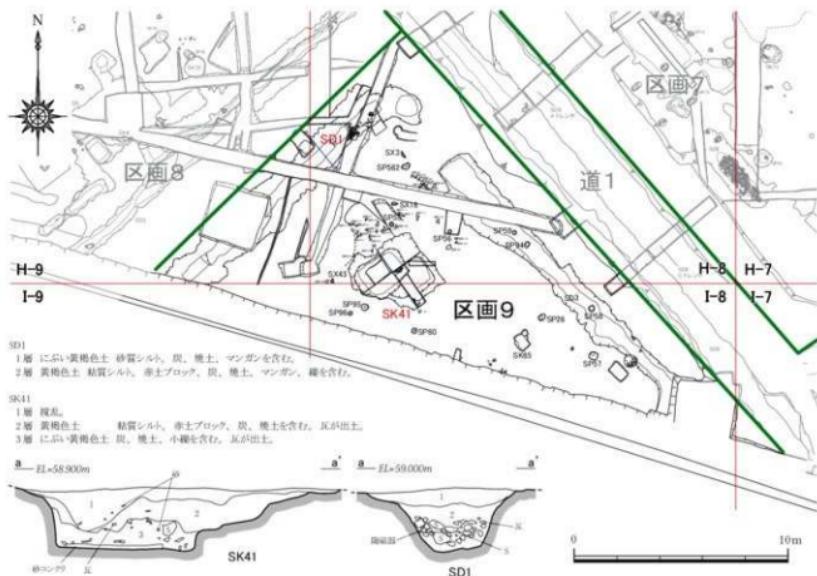
SK42 床面検出状況（南西から）

区画9

北東側に道1、北西側に区画8と隣接する。ピット、土坑、溝跡の他、鍵跡等を確認している。

ピットや土坑は少ない。SK41は床面のみモルタル(又はセメント)が施されている。

その他、鋸跡は平面が三角形を呈し、深さは10cm程である。数多く検出されたことより、畑として利用されていたことが考えられる。



第41図 区画9の遺構（I地区）

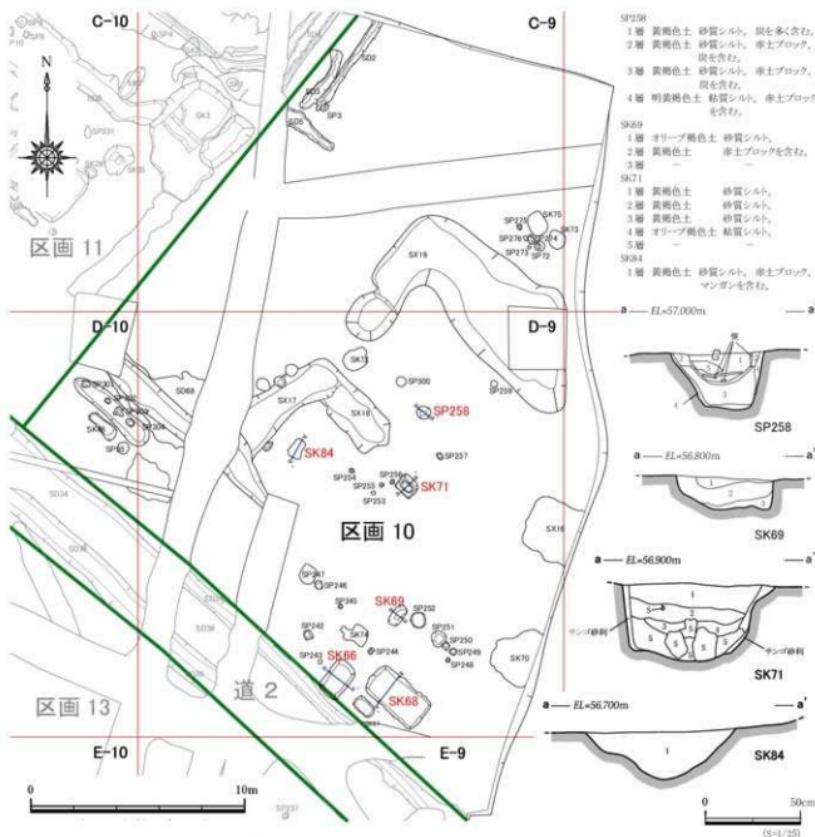


(II 地区)

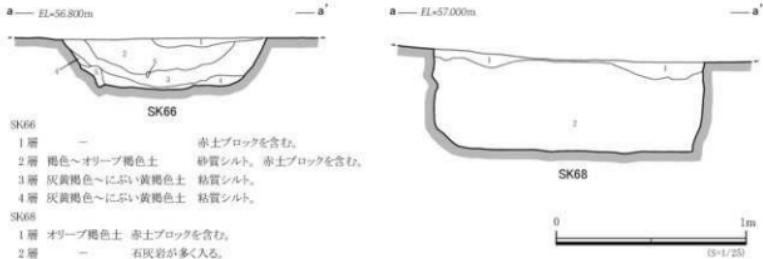
I 地区に比べると、遺構は非常に少なくなり、特に中央より南側、西側では、溝が主となり、屋敷に関連する遺構が少なくなる。溝の軸は一定方向となっており、屋敷の境として機能していたと考えられる。

区画10

西側を溝跡、南側を道路にて区切られており、明確なプランは確認できないが、屋敷跡に関連すると考えられるピット、土坑、溝等を確認している。溝の中からピットを検出したものもあり(SD40)、植栽痕と考えられる。また、SX17~19のような不定型な溝状の遺構もあるが、性格は不明である。



第42図 区画10の遺構1 (II地区)



第43図 区画10の遺構2（II地区）



SK66 遺物検出状況（東から）



SK66 半裁断面（南から）



SK68 半裁断面（西から）



SP258 半裁断面（南から）



SK71 半裁断面（東から）



SK71 遺構内完掘状況（北から）

図面11

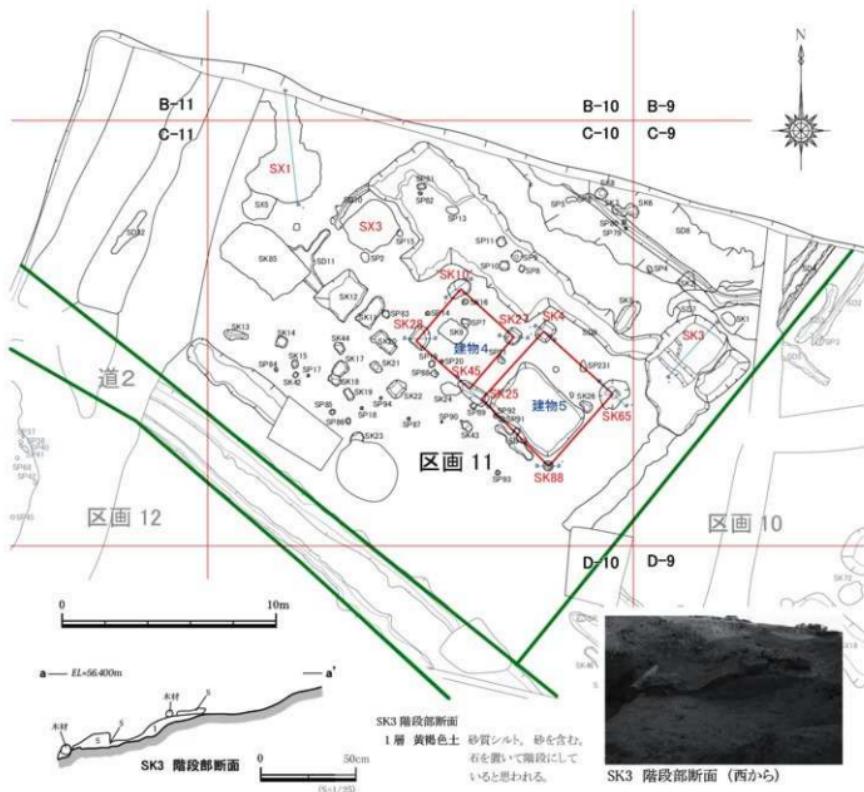
東側に区画10、南側を道路にて区切られ、屋敷跡に関連するピット、土坑、溝跡、溜池跡、炉跡等を確認している。建物跡と考えられるものは2棟確認できた。

建物4は4本柱の建物と考えられ、中心に約30cm×35cmの石灰岩柱を添えるものである。規模は1間×1間（3.4m×3.4m）で方形を呈する。柱穴の直径は約45～65cmである。

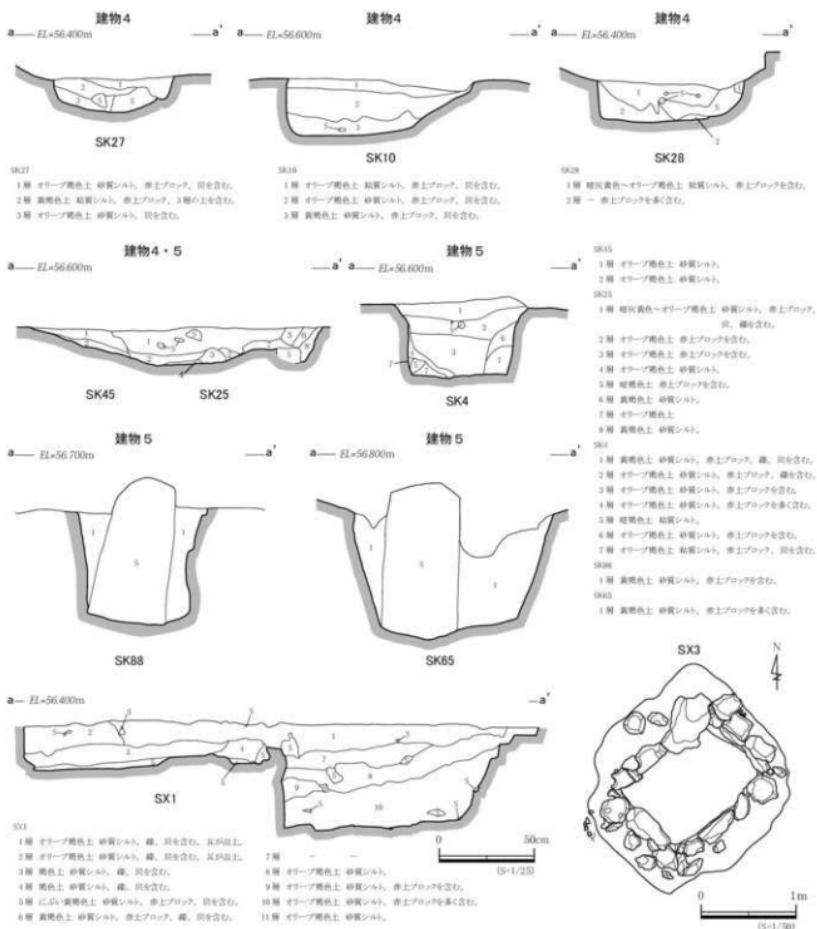
建物5は石灰岩の石柱からなる4本柱の建物と考えられる。規模は1間×1間（4.3m×4.3m）で、方形を呈し、前者より規模が大きい。柱穴の直径は約45～65cmである。

溜池跡（SK3）は、水面に至る箇所に2段の石を敷詰めた階段を設けており、敷詰めた石が動くのを防ぐための木杭も確認できた。SK3については、放射性炭素年代測定をはじめとした諸分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。その詳細については第5章自然科学分析の頁にて報告する。

なお、西側は米軍住宅建設時に地山まで掘り起こされている部分が広く、遺構の広がりは不明であった。



第44図 区画11の造構1（II地区）



第45図 区画11の遺構2(II地区)



SK27 半裁断面（南から）



SK10 半裁断面（南から）



SK28 碓検出状況 (北から)



SK28 半裁断面 (東から)



SK25・45 半裁断面 (南から)



SK88 半裁断面 (南から)



SK65 半裁断面 (北から)



SK4 半裁断面 (南から)



SX3 南北断面 (北東から)



SX3 完掘状況 (北東から)

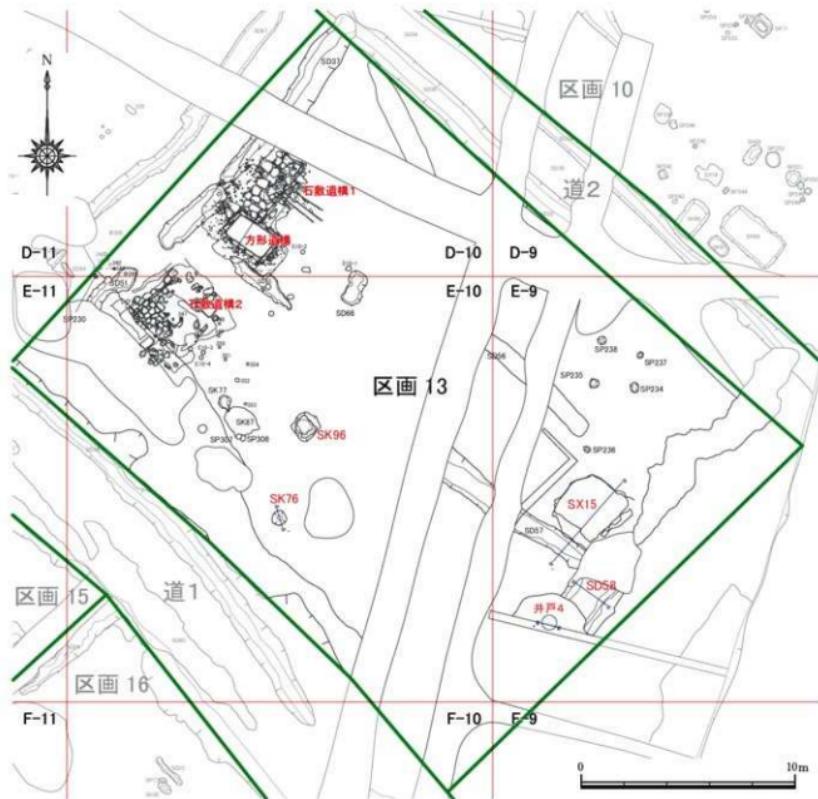
図版 13 区画 11 の遺構 (II 地区)

区画12

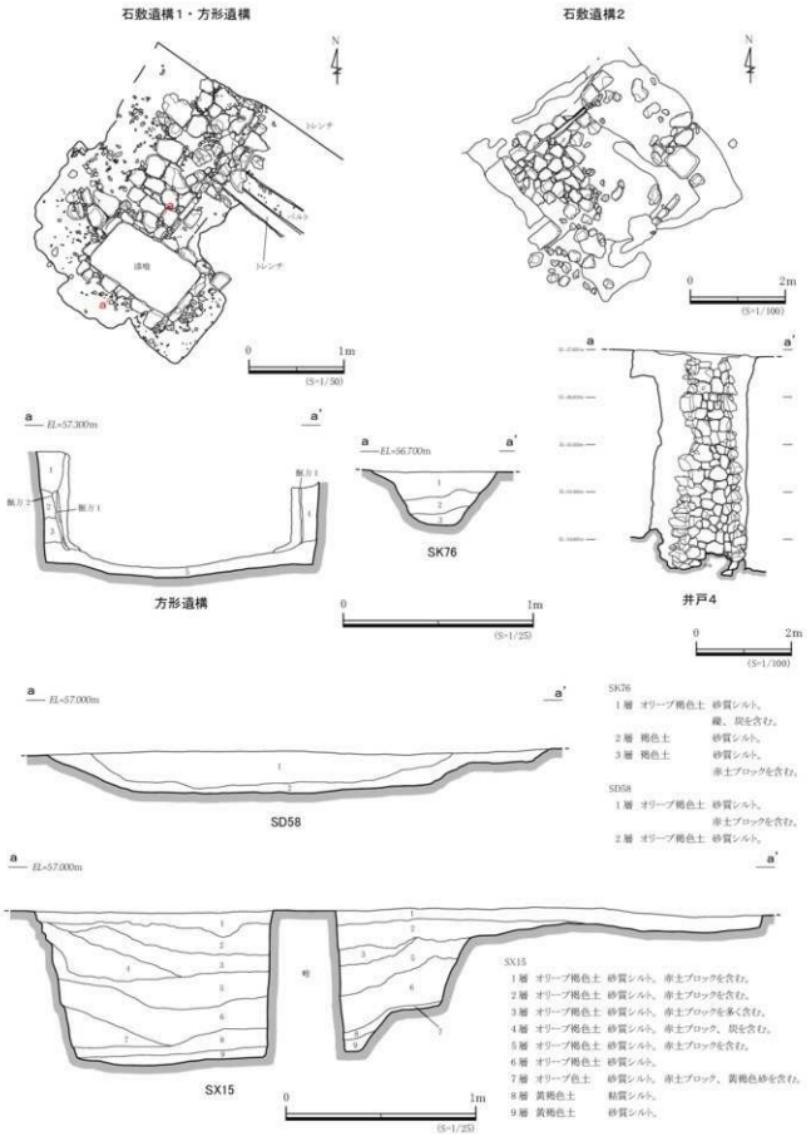
南北側を道跡、東側を溝に区切られているが、ピット及び土坑といった遺構は確認できなかつたため、ここでは遺構図は省略した。

区画13

石敷遺構、溝、井戸、ピット、土坑等が確認された。石敷遺構1、2はII層の上にマージとII層の土を混ぜた土で整地し、その上に平らな石灰岩を敷詰めている。石敷に接して約1m×2mの方形遺構もあり、石灰岩を積上げ、表面に漆喰を貼り、水の浸透を防ぐようになっていた。内部には瓦や焼けた木材が詰まっていた。井戸は、不透水層であるクチャに到達するために岩盤をくり抜いており、岩盤から上部は土砂の混入、崩落を防ぐために石灰岩をハ字状に積み上げている。残存する石積みの高さは約4.5m、推定直径は0.7m。土坑は、小さいサンゴと細粒砂を混ぜたものを壁及び底面に4cm程貼付け、水溜又は塵溜めに使用したものがある。全体は残っていないが、約1.25cm×1.25cmである。溝は石敷きの下にあり、後世の造成等により、部分的な確認となつた。



第46図 区画13の遺構1（II地区）



第47図 区画13の造構2(II地区)



SK96 半裁断面（西から）



石敷遺構1・2 検出状況（東から）



石敷遺構1及び方形遺構（西から）



方形遺構 漆喰除去状況（東から）



石敷遺構2 検出状況（東から）



SD58 断面（北から）



SK76 半裁断面（南から）



井戸4 断割り状況（北から）

図版 14 区画 13 の遺構（II 地区）



SX15 1/4 半裁 北西壁（東から）



SX15 1/4 半裁 南東壁（西から）

区画14

区画として分けることはできるが、遺構はみられなかったため、ここでは遺構図は省略する。

区画15

溝、ピット、鍵跡が確認されており、SP1 内からヤギ 1 個体を検出した。鍵跡は複数が集中して検出された。平面が三角形で深さは10cm程である。屋敷に関連する遺構が少ないとから、畑として利用されていたことが考えられる。



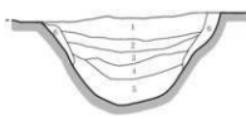
SP1 獣骨検出状況



SP1 完掘状況

a EL+ 57.500m

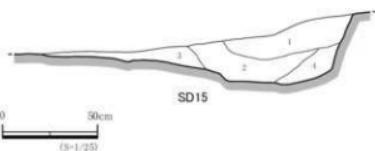
a'



SD14

a EL+ 57.500m

a'



SD15

0

50cm

(3-1/25)

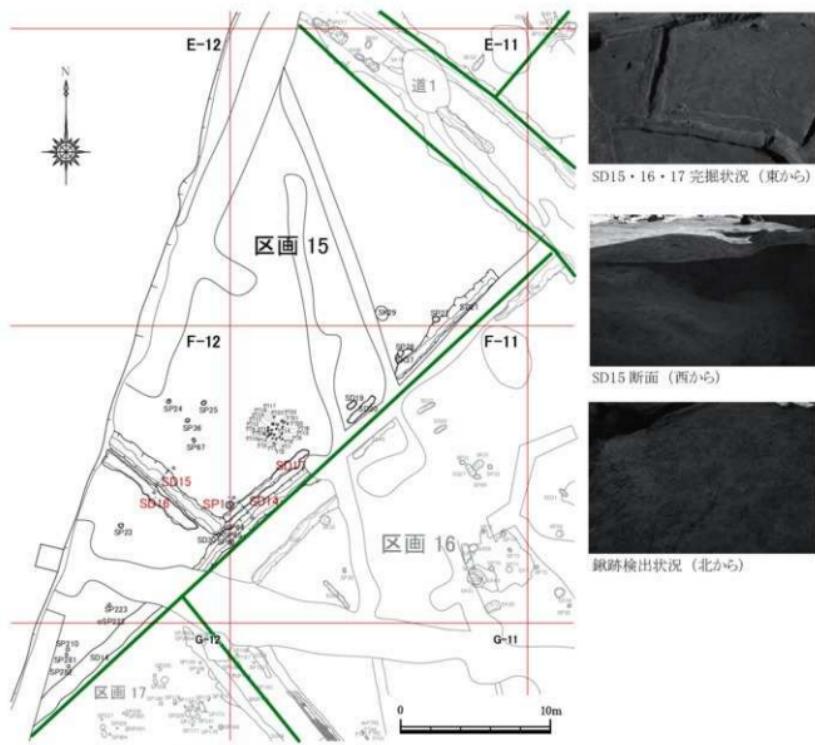


SP1 獣骨検出状況（南から）



SD14 断面（南から）

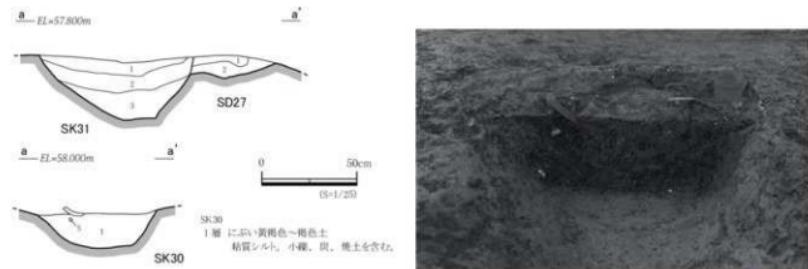
第 48 図 区画 15 の遺構1（II 地区）



第49図 区画15の遺構2（Ⅱ地区）

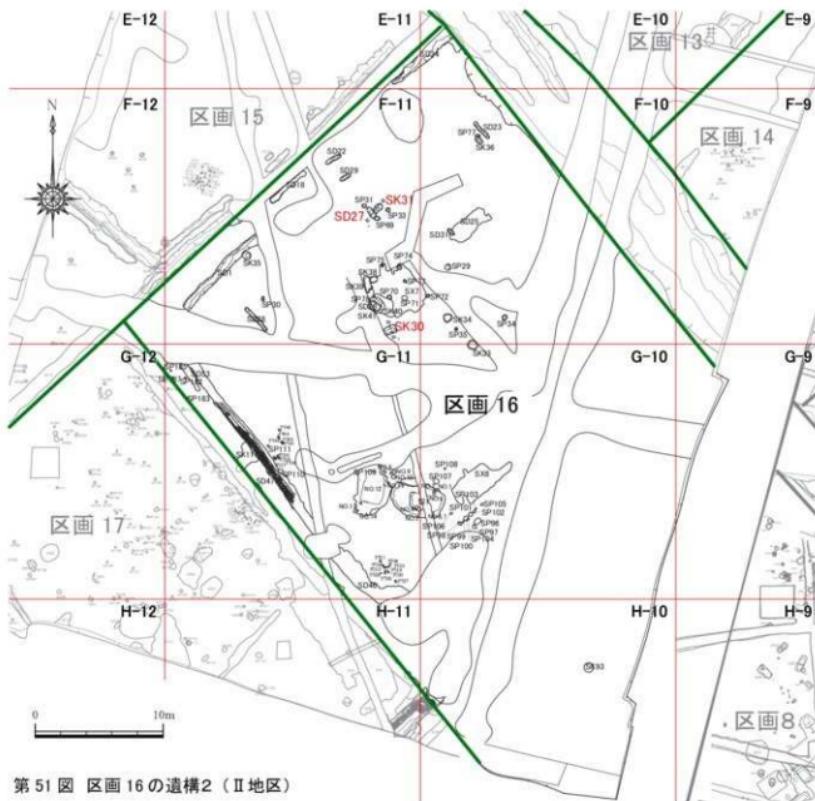
区画16

溝、ピット、土坑が確認されている。土坑の埋土はⅡ層と赤土が混ざっており、耕作の際に攪拌されたものと考えられる。



第50図 区画16の遺構1（Ⅱ地区）

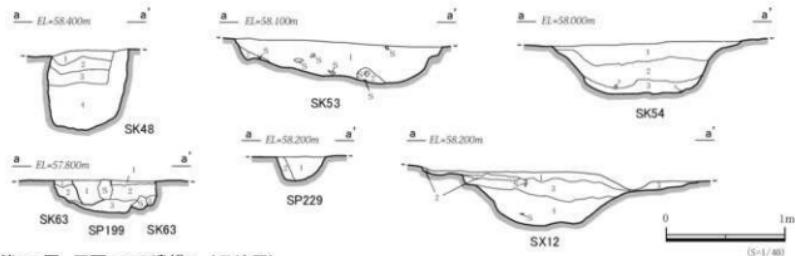
SK30 半裁断面（西から）



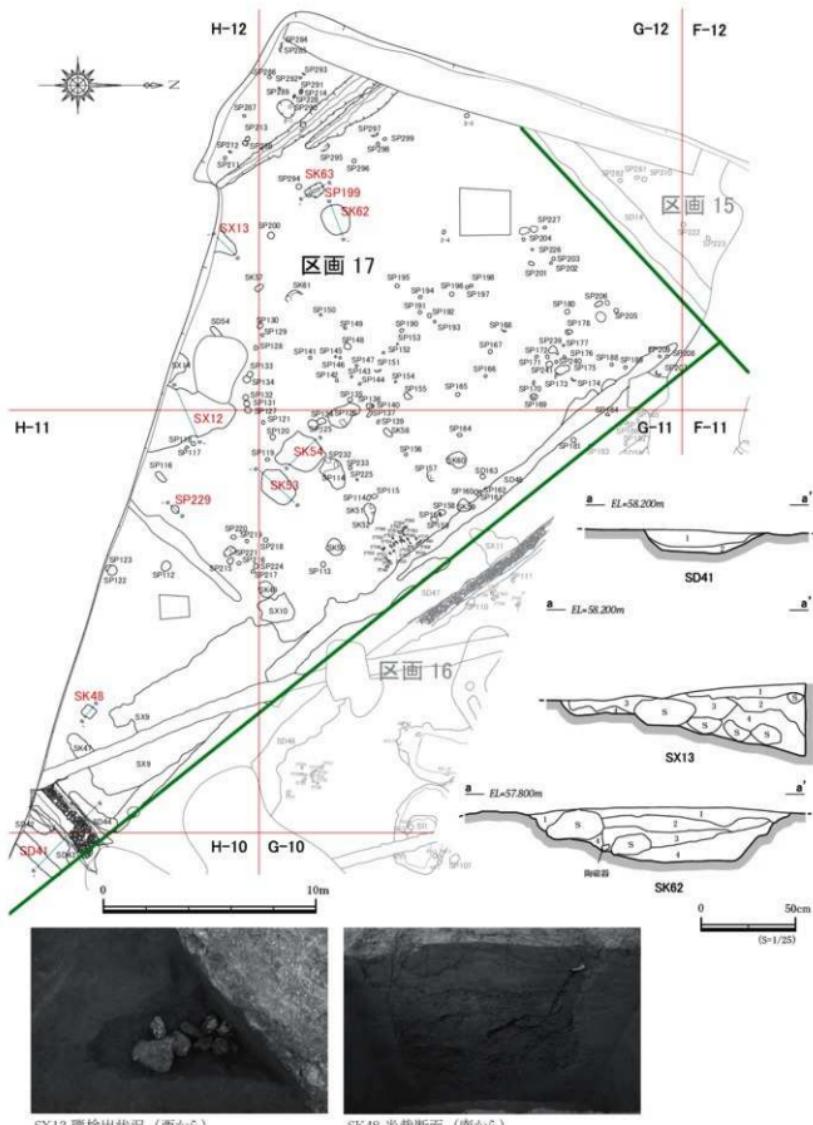
第51図 区画16の遺構2（II地区）

区画17

溝、ピット、土坑が確認されている。溝の中に拳大～頭大の大きさの石灰岩を詰めているものもあり、水はけを良くするために詰められた可能性もある。



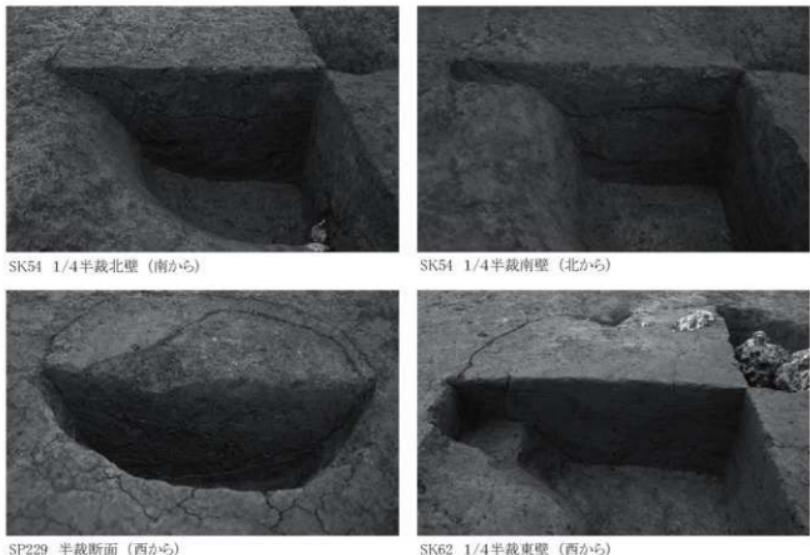
第52図 区画17の遺構1（II地区）



SA13 縦横走状況（四方向）

SK48 半減断面（南から）

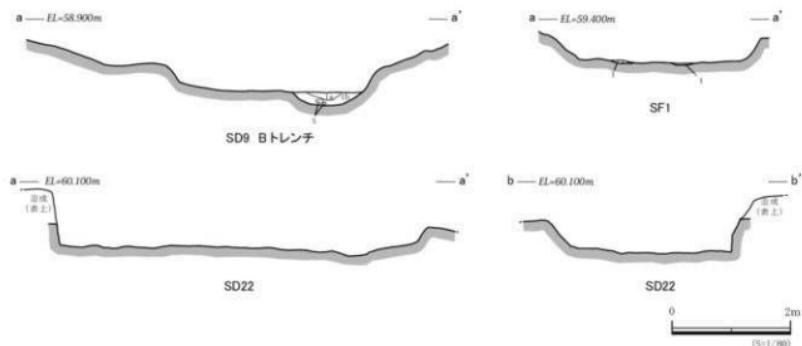
第53図 区画17の造構2(II地区)



図版 15 区画 17 の遺構（II 地区）

道 1 (I 地区)

SD 9、21、22 は道路と考えられ、幅が約 3.3 m、北西—南東方向に延びており、II 地区の道 1 につながる。SF 1 は轍（馬車の車輪の跡か）と考えられる。



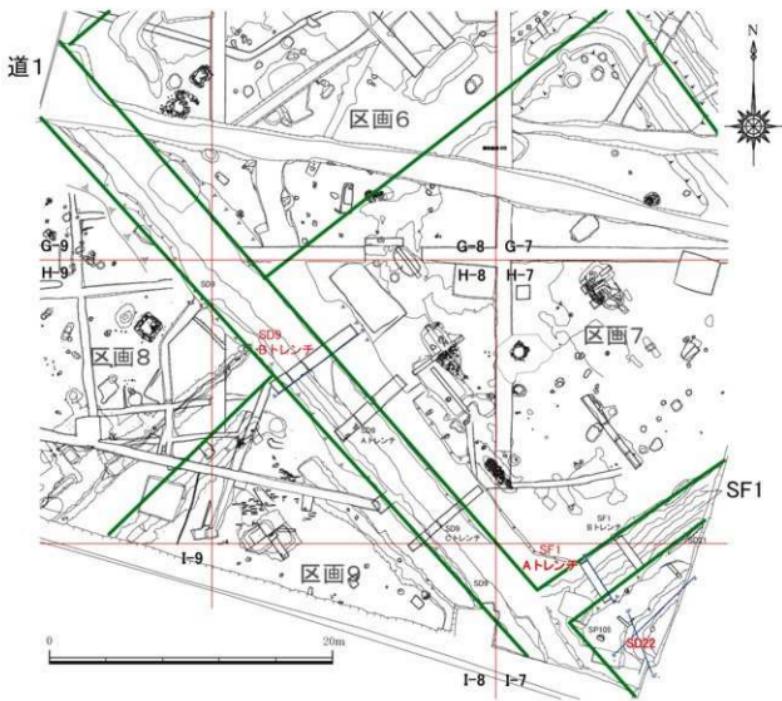
第 54 図 道 1 の遺構 1 (I 地区)



SD9 断面 (南東から)



SF1 検出状況 (北東から)



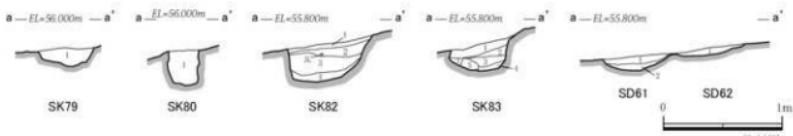
第 55 図 道1の遺構2（I 地区）

道1（II地区）

北西方向から南東方向へと続く道跡で、幅は約3.3mで、南北縁には排水溝と考えられる溝を設けている。北西側は遺構の深度が浅くなることから、雨水等は北西から南東へと流れていると考えられる。



第56図 道1の遺構（II地区）



SK79 1層 黄褐色土 砂質シルト。炭を含む。

SK80 1層 黄褐色～オリーブ褐色土 砂質シルト。

SK82 1層 オリーブ褐色土 砂質シルト。

2層 黄褐色土 砂質シルト。

3層 黄褐色土 砂質シルト。

4層 黄褐色土 砂質シルト。

SK83 1層 オリーブ褐色土 砂質シルト。

2層 黄褐色土 砂質シルト。

3層 黄褐色土 砂質シルト。

4層 黄褐色土 砂質シルト。

SD61 1層 黄褐色土 砂質シルト。炭を含む。

2層 黄褐色土 砂質シルト。炭を含む。

SD62 1層 黄褐色土 砂質シルト。



SK79 半裁断面（西から）



SK80 半裁断面（西から）



SK82 半裁断面（西から）

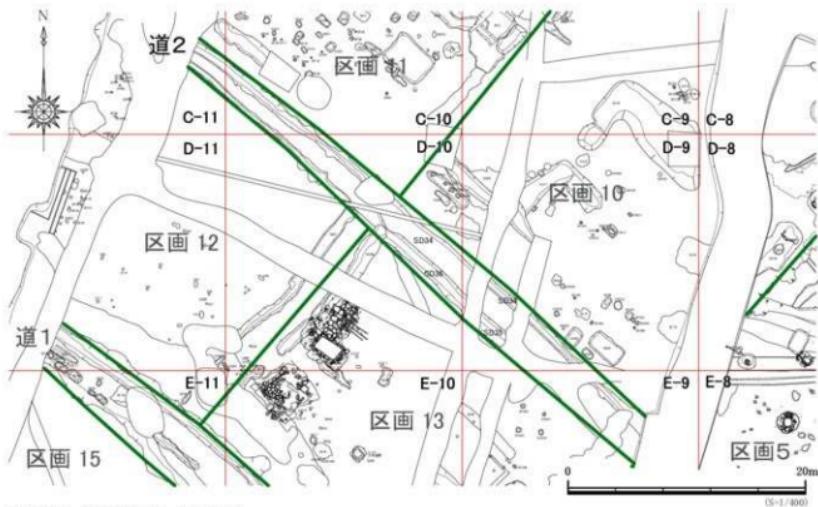


SK83 半裁断面（西から）

図版 16 道 1 の遺構（II 地区）

道2（II地区）

北西方向から南東方向へと続く道跡で、幅は5.5m～8.8mと箇所により差がある。埋土は造成土であり、II層は確認できていない。使用されたのは地山（マージ）と考えられ、轍と考えられる細い溝状跡も確認した。北縁に排水溝がある。南縁にも排水溝はあったと考えられるが、北西側でのみ確認できる。北西側で起伏があり、大きく壅む。



第 57 図 道2の遺構（II 地区）

第2項 遺構内出土遺物

(I地区)

区画1

瓦、沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器を主とし、青磁、白磁、染付、色絵、タイ産褐釉陶器、本土産陶器、陶質土器、カムィヤキ、石製品、円盤状製品、金属製品等、合計887点が出土した。第7表に特徴的な遺物の観察事項、第49表に遺物毎の出土状況を示す。

第7表 区画1出土遺物観察一覧(I地区)a

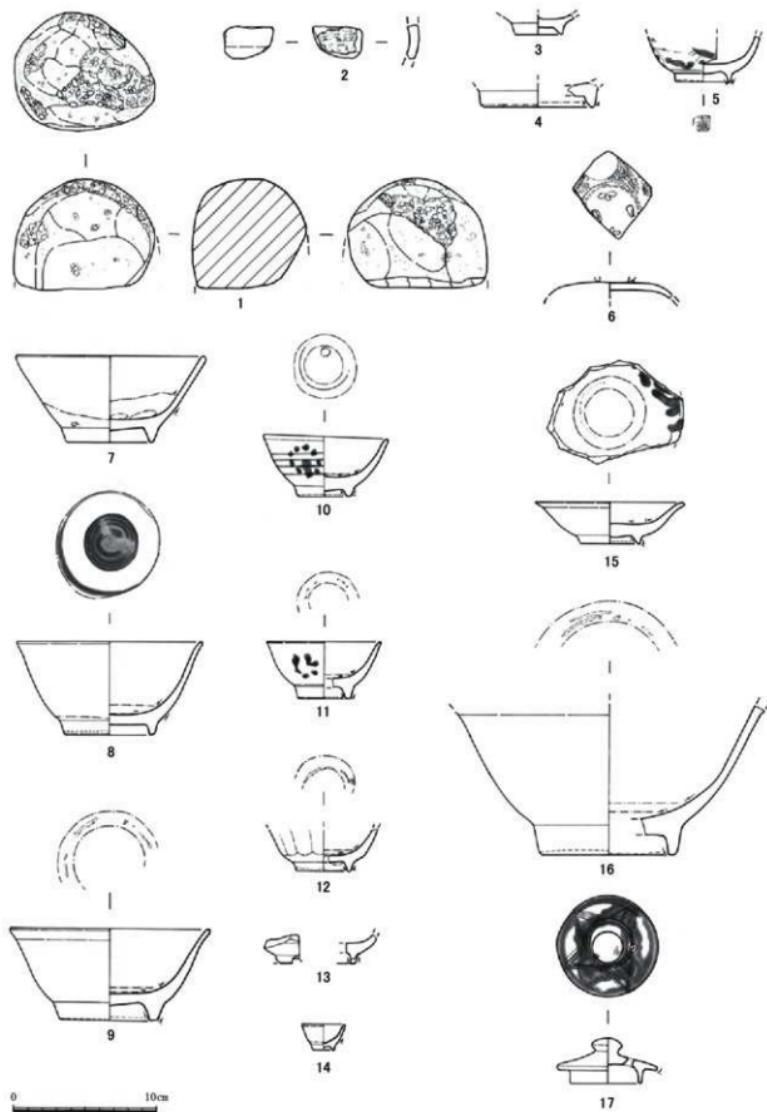
単位:cm

辨認番号 図版番号	種類	器種	部位	法量	観察事項	出土土地
第58回 図版17	1	石器	磨石	—	口径 器高 底径 — — — 表面・側面に磨痕、側面上部に敲打痕。實安山岩。	D-6 SD28 1層
	2	カムィヤキ	壺	胸部	口径 器高 底径 — — — 内面に当て具痕がみられる。胎土は暗褐色、白色粉を含む。	D-6 SD28 1層
	3	白磁	小瓶	底部	口径 器高 底径 — — 3.3 型成窓、素地は白色で緻密、施化粧。	D-6 SD28 2層
	4	染付	碗	底部	口径 器高 底径 — — 8.0 譽付から高台内まで露胎。素地は白灰色で細かい、黒色粉を含む。福津・広東系。	D-6 SD28 1層
	5	本土産磁器	染付 小瓶	底部	口径 器高 底径 — — 3.8 譽付は露胎。素地は白色で緻密。胸部に譽文、丸文。高台に2条の横縞。外泥に鉛灰り、隠草。	D-6 SD28 2層
	6	本土産磁器	色絵蓋	—	口径 器高 底径 — — — 素地は白色で緻密。外面に花や葉の文様。目網が残る。	D-6 SD28 2層
	7	沖縄産 施釉陶器	碗	口～底部	口径 器高 底径 13.2 6.05 6.2 外面部に上半部に灰釉を挿げた。フィガロ一手掌。内底に目網あり(アルミナ付着)。素地は灰黄色。	D-6 SD28 2層
	8	沖縄産 施釉陶器	碗	口～底部	口径 器高 底径 13.0 6.5 6.3 内面部上半部で黒釉を挿げた。外下面下部から外底まで露胎。内底は蛇の目状に隙削ぎ。譽付にアルミナを帯布。内底に目網あり(アルミナ付着)。素地は浅黄色。	D-6 SD28 3層
	9	沖縄産 施釉陶器	碗	口～底部	口径 器高 底径 14.0 6.4 6.8 外面部に白化粧+透明釉を挿げた。内底は蛇の目状に隙削ぎ。譽付にアルミナを帯布。内底に目網あり(アルミナ付着)。素地は浅灰色。黑色粉を含む。	D-6 SD28 1層
	10	沖縄産 施釉陶器	小瓶	口～底部	口径 器高 底径 8.8 4.3 4.0 外面部に白化粧+透明釉を挿げた。内底は蛇の目状に隙削ぎ。譽付にアルミナを帯布。内底に目網あり(アルミナ付着)。素地は灰白色。外面上部に伝頸と筒輪で花文4つ。	D-6 SD28 1層
	11	沖縄産 施釉陶器	小瓶	口～底部	口径 器高 底径 8.0 4.0 3.6 外面部に白化粧+透明釉を挿げた。内底は蛇の目状に隙削ぎ。譽付にアルミナを帯布。素地は灰黄色。外面に伝頸。	D-6 SD28 1層
	12	沖縄産 施釉陶器	小瓶	底部	口径 器高 底径 — — 3.9 外面部に白化粧+透明釉を挿げた。内底は蛇の目状に隙削ぎ。譽付にアルミナを帯布。内底に目網あり(アルミナ付着)。素地は浅黄色。外面取扱。	D-6 SD28 2層
	13	沖縄産 施釉陶器	小瓶	底部	口径 器高 底径 — — — 外面部に白化粧+透明釉を挿げた。譽付にアルミナを帯布。素地は浅灰色。	D-6 SD28 2層
	14	沖縄産 施釉陶器	小杯	口～底部	口径 器高 底径 3.0 1.8 1.6 外面部に透明釉。外底部下部は露胎。素地は浅灰色。	D-6 SD28 2層
	15	沖縄産 施釉陶器	皿	口～底部	口径 器高 底径 10.4 2.9 4.2 外面部に白化粧+透明釉を挿げた。内底は蛇の目状に隙削ぎ。譽付にアルミナを帯布。内底に目網あり(アルミナ付着)。素地は浅黄色。内面に伝頸で葵花文。	D-6 SD28 1層
第58回 図版18	16	沖縄産 施釉陶器	鉢	底部	口径 器高 底径 — — 9.8 外面に黒釉。内底に目網あり(アルミナ付着)。素地は黄白色。	D-6 SD28 2層
	17	沖縄産 施釉陶器	急須	—	口径 器高 底径 7.1 3.2 4.9 外面に伝頸と筒輪による文様。素地は浅黄色。黑色粉を含む。18セッピと考えらる。	D-6 SD28 1層
	18	沖縄産 施釉陶器	急須	口～底部	口径 器高 底径 6.8 9.9 8.5 外面に伝頸と筒輪による文様。素地は浅黄色。黑色粉を含む。17セッピと考えらる。	D-6 SD28 1層
	19	沖縄産 施釉陶器	酒器	底部	口径 器高 底径 — — 7.0 外面に白化粧+透明釉。譽付及び内底は露胎。譽付に目網あり(アルミナ付着)。素地は灰暗白色。	D-6 SD28 2層
	20	沖縄産 施釉陶器	火鉢	口縁部	口径 器高 底径 15.0 — — 外表面及び内面に白緑部下天下で傳釉を施す。口唇部を隙削ぎ。	D-6 SD28 2層
	21	沖縄産 施釉陶器	瓶	底部	口径 器高 底径 — — 6.3 外面に傳釉を施す。譽付は露胎。瓶底に数条の横縞を忍す。	D-6 SD28 1層
	22	沖縄産 施釉陶器	搖籃	口縫部	口径 器高 底径 — — — 内面に白緑部下天下で傳釉を施す。新地は暗赤褐色。外面上部に傳釉が明瞭。	D-6 SD28 2層
	23	沖縄産 施釉陶器	搖籃	胴部	口径 器高 底径 — — — 口縫外側に広げ口縫部を平坦にする。素地は明赤褐色。内面に新地を施す。	D-6 SD28 2層
	24	沖縄産 施釉陶器	壺	口縫部	口径 器高 底径 12.6 — — 口縫部は逆「L」字状を呈する。素地は暗赤褐色。	D-6 SD28 2層
	25	沖縄産 無釉陶器	壺	底部	口径 器高 底径 — — 10.0 外面部下部自然釉?がかかる。素地は暗赤褐色。	D-6 SD28 1層

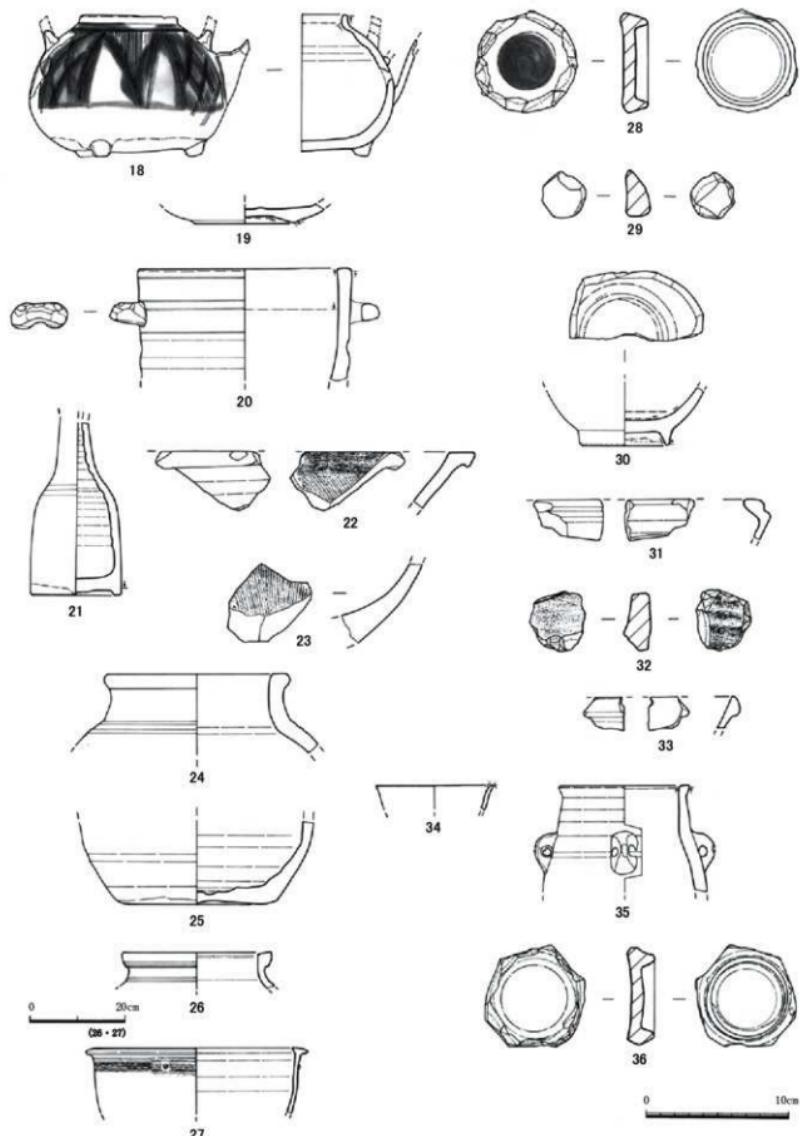
第7表 区画1出土遺物観察一覧(I地区) b

単位:cm

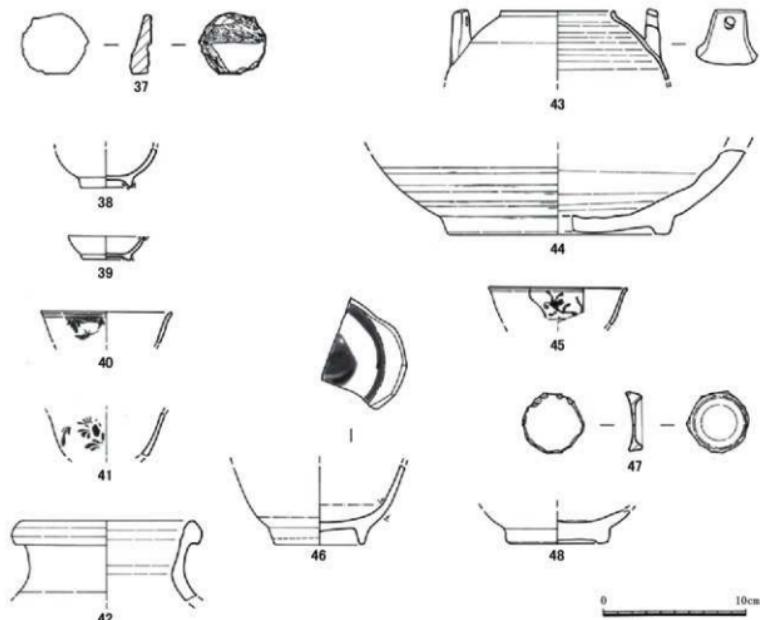
辨認番号 図版番号	種類	部種	部位	法量	観察事項	出土地
第59回 図版18	片溝底陶器	便	口縁部	12径 距高 近径 31.4 25mm	素地は暗赤褐色。口唇外縁部に2条の縦割れ。	D-6 SD28 2層
	片溝底 無柄陶器	便	口縁部	13径 距高 近径 46.6 —	素地は暗赤褐色。内外面ともに縦割れが明顯。外面口縁部下部に沈器の沈伏文と稱された丸文。	D-6 SD28 2層
	円盤状製品	—	—	—	—	—
	円盤状製品	—	—	7.1 9.1	井筒瓦を素材としている。重量13.8g。	D-6 SD28 1層
	円盤状製品	—	—	3.2 1.2 3.0	明朝瓦を素材としている。重量13.8g。	D-6 SD28 1層
	片溝底 無柄陶器	便	底部	11径 距高 近径 6.2 —	内外面に白粉付。秀句印を押す。内面は灰の目地に軸剥ぎ。裏面にアルミニウム箔で覆われた。内底に竹跡があつた(テラス付壁)。素地は黄白色。	D-6 SD28 47層 1層
	片溝底 無柄陶器	大仰	口縁部	12径 距高 近径 8.2 —	口縁部は平坦。素地は明赤褐色。	D-6 SD28 47層 1層
	円盤状製品	—	—	13径 厚さ 最大径 4.3 1.8 3.9	片溝底無柄陶器を素材としている。重量33.8g。	D-6 SD28 47層 1層
	白磁	碗	口縁部	12径 距高 近径 — —	五線山紋。下段下端の側面が引削れ。素地は灰白色。	D-6 SD47 2層
	白磁	小碗	口縁部	12径 距高 近径 8.2 —	型成形。口縁部を軸剥ぎ。素地は白色で微細。焼化窓面。	D-6 SD47 1層
第60回 図版19	片溝底 無柄陶器	蓋	口縁部	12径 距高 近径 9.2 —	内外面に無釉を施す。口縁部を軸剥ぎ。	D-6 SD47 1層
	円盤状製品	—	—	13径 厚さ 最大径 7.1 0.9 7.3	片溝底無柄陶器を素材としている。重量88.4g。	D-6 SD47 1層
	円盤状製品	—	—	12径 厚さ 最大径 4.2 1.2 4.7	—	—
	白磁	小碗	底部	12径 距高 近径 — —	型成形。外底及び裏面は窓面。素地は白色で微細。焼化窓面。	D-6 SK16 2層
	白磁	皿	12～底部	13径 距高 近径 5.4 1.7 3.4	型成形。口縁部を軸剥ぎ。裏面に砂粒付材。素地は白色で微細。焼化窓面。	D-6 SK16 2層
	染付	小碗	口縁部	12径 距高 近径 9.2 —	口縁は僅かに外反。素地は白色で微細。	D-6 SK16 1層
	色絵	小碗	解剖	12径 距高 近径 — —	型成形。素地は白色で微細。外面脚部に花文。焼化窓面。	D-6 SK16時 2層
	片溝底 無柄陶器	蓋	口縁部	12径 距高 近径 17.8 —	素地には灰の赤褐色。外面ともに縦割れが明顯。	D-6 SK16 1層
	陶質土器	土瓶	口縁部	12径 距高 近径 8.0 —	素地は暗褐色。内外面のクロロナデ。	D-6 SK16 1層
	陶質土器	大仰	底部	12径 距高 近径 — —	素地は暗褐色。内外面のクロロナデ。	D-6 SK16 1層
第60回 図版19	片溝底陶器	便	口縁部	12径 距高 近径 9.8 —	素地は白色で微細。外面に仙毫・寿字文。焼化窓面。	E-6 SK50内 2層
	片溝底 無柄陶器	蓋	底部	12径 距高 近径 — 6.4	内外面上半部まで黒釉を挿す。外面下半部から外底まで濃黒。内底は灰の目地に軸剥ぎ。裏面にアルミニウム箔で覆われた。素地は黒褐色。	E-6 SK50内 2層
	円盤状製品	—	—	13径 厚さ 最大径 4.3 0.3 4.4	白磁を素材としている。重量15.7g。	E-6 SK50内 1層
	白磁	碗	底部	12径 距高 近径 — 7.1	内面に灰白色を施す。高台の側面は浅い。素地は白灰色で微細。黒色を含む。	E-6 SE1 1層
	本土陶 近現代器	小瓶	口～底部	12径 距高 近径 7.1 5.3 3.2	素地は白色で微細。外面に文様。	D-6 SD28 1層
	本土陶 近現代器	豆	口～底部	12径 距高 近径 11.4 2.4 6.6	素地は白色で微細。内面に菊花文。御馳走写。	D-6 SD28 1層
	本土陶 近現代器	蓋	—	12径 距高 近径 7.6 — 6.0	素地は白色で微細。	D-6 SD28 1層
	本土陶 近現代器	急須	口縁部	12径 距高 近径 — —	素地は白色で微細。外面に植物の文様。御馳走写。	D-6 SD28 2層
	石製品	—	—	12径 距高 近径 — —	表面に磨痕が確認される。	D-6 SD28 1層
	青銅製品	蝶番	—	長2mm 長2mm 4.1 3.0	表面に磨擦の文様。	D-6 SD47 2層
国版19	本土陶 近現代器	瓶	底部	12径 距高 近径 — —	外面に縦縞状灰色を施す。内面及び外底は濃黒。素地は黒褐色。	D-6 SD47 1層
	瓦	明礬瓦	—	12径 距高 近径 2.0 8.5 5.2	広幅～狭幅部、凸面の披瀬間に横方向の隙による浅い凹凸がみられる。赤色。	D-6 SD47 1層
	ガラス製品	瓶	口～底部	12径 距高 近径 — —	ガラス自体に小さな気泡がみられる。瓶口には「AJINOMOTO」、「20」と「エンボス」。色調は透明。	D-6 SD47 1層
	本土陶 近代陶器	罐	底部	12径 距高 近径 — —	外面に縦縞状施釉。瓶底下部は薄釉。素地はにぶい黄褐色。丹波。	D-6 SK16時 2層
	本土陶 近代理器	小瓶	口～底部	12径 距高 近径 8.0 4.4 2.1	両面に透明釉を施す。裏面に露窓。素地は白色で微細。外表面縁部に緑色の2条の露窓。外底に「明治26」という铭あつあり。灰釉田楽。御馳走等。	E-6 SK50内 1層
	瓦	明礬瓦	—	12径 距高 近径 — —	瓶底の上面の玉縁側に横方向の隙による浅い凹凸がみられる。赤色。	E-6 SK50 3層
	鐵製品	カツ	—	12径 距高 近径 11.4 3.0 —	万字彌陀が刻まれる。重量41.9g。	E-6 SK50内 1層
	石製品	鏡石	—	12径 距高 近径 — —	砂質。	E-6 SK50 3層



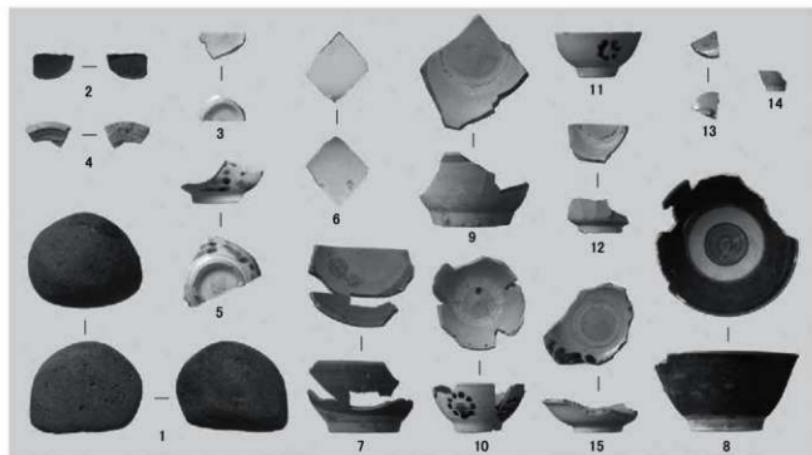
第58図 区画1 出土遺物1(I 地区)



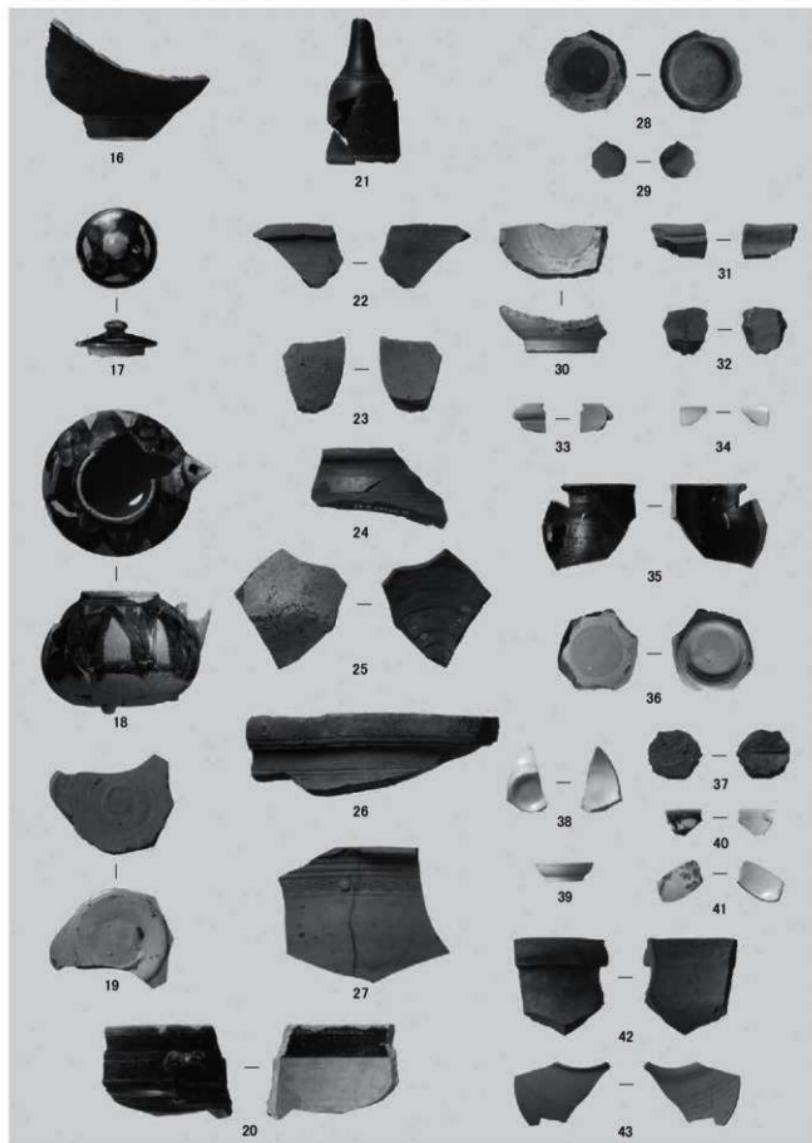
第59図 区画1 出土遺物2(I 地区)



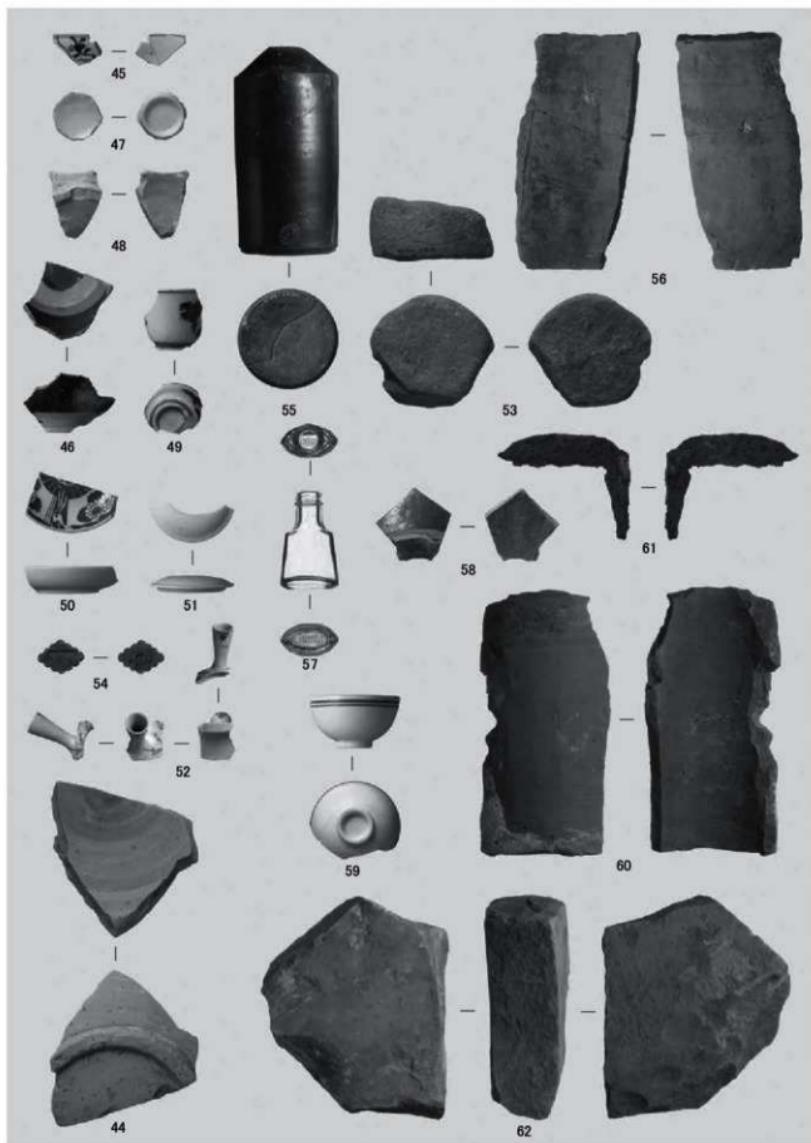
第60図 区画1 出土遺物3(Ⅰ地区)



図版17 区画1 出土遺物1(Ⅰ地区)



图版 18 区画1 出土遗物2 (I 地区)



图版 19 区画1 出土遗物3 (I 地区)

図2

瓦、沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器を主とし、青磁、白磁、染付、瑠璃釉、褐釉陶器、本土産陶器、陶質土器、カムイヤキ、石製品、キセル、金属製品等、合計2726点が出土した。第8表に特徴的な遺物の観察事項、第50表に遺物毎の出土状況を示す。

第8表 区画2出土遺物観察一覧(Ⅰ地区)a

種類	種類	器種	部位	法量	観察事項	出土地		
第61回 図版20	1	カムイヤキ	壺	胴部	口径 — —	内面は當て具瓶。外側には引き目痕がみられ、内外面ともに刮削痕及びナガ調整が施される。底付には払い赤褐色を呈する。	E-8 SD14 2層	
	2	本土産磁器 染付 小瓶	口～底部	口径 8.6 5.0	8.6 3.6	蓋付は施釉。蓋面は白色で透窓。画面で焼けられた跡に雲文、丸文。高台に2組の團扇、蘿蔓。	E-8 SD14 2層	
	3	沖縄産 施釉陶器	小瓶	口～底部	口径 5.8 4.7	口径 3.8	内外面に白化粧+透明釉を半掛け。蓋付にアルミニナを施す。蓋地は淡黄色。外側に直角で竹刷文。	E-8 SD14 1層
	4	沖縄産 施釉陶器	蓋	—	口径 12.4 3.7	口径 8.0	外側に褐釉を施した後、蛇の目状に釉剥ぎ。内底は露胎。蓋地は淡黄色。	E-8 SD14 2層
	5	沖縄産 施釉陶器	鏡	口縁部	口径 — 長径	口径 — 6.6 1.2	内外面に褐釉を施す。口唇部は釉剥ぎ。蓋地には払い橙色。	E-8 SD14 2層
	6	円盤状製品	—	—	— —	— —	沖縄産施釉陶器を素材としている。重量88.8g。	F-8 SD14 2層
	7	石器	砾石	—	口径 — —	口径 — —	表面に磨面。表面中央部に敲打による凹み。側面に敲打痕。側面の一部に凹みがあり、その凹み部分も研磨されている。緑色岩。	D-7 SD15 1層
	8	白磁	皿	口縁部	口径 — —	口径 — —	成型板。口唇部は釉剥ぎ。蓋地は白色で微緻。施化葉巻。	F-8 SD15 1層
	9	本土産 近現代器	染付 小瓶	口縁部	口径 7.8 —	口径 — —	蓋地は白色で微緻。胴部に雲文、丸文を施す。蘿蔓。	E-8 SD15 1層
	10	沖縄産 無釉陶器	鉢	口縁部	口径 — —	口径 — —	蓋地は赤褐色。外側に赤褐色が明瞭。	E-8 SD15 1層
第62回 図版20	11	沖縄産 無釉陶器	搖籃	口縁部	口径 — —	口径 — —	蓋地は明快な白色。口縫外側に広げ口唇部を平坦にする。口唇部に1条の沈線。内外面に施釉痕が明瞭。内面に横筋を施す。	D-7 SD15 1層
	12	沖縄産 無釉陶器	壺	口縁部	口径 16.0 —	口径 — —	蓋地は暗赤褐色。外側は黒褐色直が明瞭。	D-7 SD15 1層
	13	円盤状製品	—	—	長径 4.3 —	口径 3.8 —	沖縄産無釉陶器を素材としている。	D-7 SD15 1層
	14	沖縄産 施釉陶器	碗	口～底部	口径 14.0 —	口径 6.7 —	内外面に白化粧+透明釉を半掛け。内底は蛇の目状に釉剥ぎ。蓋付にアルミニナを施す。内底に日跡あり。蓋地は淡黄色。外側に斜角と開口部で花文。	F-8 SD17 1層
	15	青磁	碗	口縁部	口径 — —	口径 — —	外反口縁。オーバー黄色の釉を内外面に施す。蓋地は灰白色で繊維。	D-8 SD35 2層
	16	沖縄産 施釉陶器	碗	口～底部	口径 13.5 —	口径 6.7 —	内外面に白化粧+透明釉を半掛け。内底は蛇の目状に釉剥ぎ。蓋付にアルミニナを施す。内底に日跡あり(アルミニナ付春)。蓋地は灰白色。外側に直角と横筋で花文3つ。	D-8 SD35 2層
	17	沖縄産 施釉陶器	碗	口～底部	口径 14.2 —	口径 6.6 —	内外面に白化粧+透明釉を半掛け。内底は蛇の目状に釉剥ぎ。蓋付にアルミニナを施す。内底に日跡あり(アルミニナ付春)。蓋地は淡黄色。外側に直角と横筋で花文3つ。	D-7 SD35 1層
	18	沖縄産 施釉陶器	小瓶	口～底部	口径 8.8 —	口径 4.5 —	内外面に白化粧+透明釉を半掛け。内底は蛇の目状に釉剥ぎ。蓋付にアルミニナを施す。内底に日跡あり(アルミニナ付春)。蓋地は淡黄色。外側に直角と横筋で花文3つ。	D-7 SD35 1層
	19	沖縄産 施釉陶器	小瓶	底部	口径 — —	口径 — 4.0	内外面に白化粧+透明釉を半掛け。内底は蛇の目状に釉剥ぎ。蓋付にアルミニナを施す。内底に日跡あり(アルミニナ付春)。蓋地は淡黄色。外側に直角と横筋で花文3つ。	D-8 SD35 2層
	20	沖縄産 施釉陶器	急瓶	口～底部	口径 8.4 —	口径 12.5 —	内外面施釉。外側脚部下平から底及び口唇部から内面口縁部下まで釉剥ぎ。外底にアルミニナ付春。内底に日跡あり。蓋地は明快な白色。外側に直角と横筋で花文3つ。	D-7 SD35 2層
	21	沖縄産 施釉陶器	急瓶	口～底部	口径 5.3 —	口径 9.1 —	白化粧を施した後、外側に直角と横筋、内面に透明釉を施す。外側脚部下平から底及び口唇部から内面口縁部下まで釉剥ぎ。外底にアルミニナ付春。蓋地は淡黄色。	D-7 SD35 1層
	22	沖縄産 施釉陶器	壺	口～底部	口径 11.9 —	口径 17.5 —	内外面に黒釉を施す。口唇部及び胴部下から蓋付にかけて釉剥ぎ。底付も釉剥ぎ。	D-7 SD35 1層+2層
	23	沖縄産 無釉陶器	壺	底部	口径 — —	口径 — 15.3	蓋地は暗赤褐色。外側胴上部に2条の沈線。表面はアバタ状を呈する。	D-7 SD35 1層
	24	沖縄産 無釉陶器	壺	口縁部	口径 13.0 —	口径 — —	蓋地は明赤褐色。外側頭部及び胴上部に沈線。頭部に漆痕が付着する。	D-7 SD35 1層

第8表 区画2出土遺物観察一覧(I地区)b

単位:cm

探査番号 回収番号	種類	器種	部位	法量			総察事項	出土地
第62回 回収版20	沖縄產 黒釉陶器	瓶	底部	口径	器高	底径	素地に白・赤褐色。外表面凹凸及び側面上部に沈痕。垂直方向に並行する2本の縦溝あり。	D-7 SD35 1層
	本土產 近現代品	染付 小瓶	口～底部	口径	器高	底径	素地に黒褐色。素地は白色で模様。黒帯に描かれた内に茎文。丸文。高台に2つの墨痕。底座。	D-8 SD36B 2層
	沖縄產 黒釉陶器	鉢	口縁部	口径	器高	底径	内面に白化粧+透明釉。外面上に黒帯を掛け分け。口部を輪郭ぎ。素地は淡黄色。	D-8 SD36B 2層
	沖縄產 黒釉陶器	鉢	口縁部	口径	器高	底径	素地に2層色。	E-7 SD40 1層
	沖縄產 黒釉陶器	盞	口縁部	口径	器高	底径	口縁部は朱土色を巻き込んだ玉緑状。素地は褐色。	E-8 SD41 1層
	本土產陶器	皿	底部	口径	器高	底径	内面に2層色。	D-7 SD41 1層
	沖縄產 黒釉陶器	碗	底部	口径	器高	底径	外表面に灰緑、内面に黒縞模様を掛け分け。内底は蛇の目状に輪郭ぎ。輪郭から外底へかけて黒帯。高台部に砂粒が付着。素地は灰白色。更前・内野山系。	D-7 SD48 1層
	沖縄產 黒釉陶器	碗	底部	口径	器高	底径	内表面の上部に黒帯を挿げた。フィギュア手法。内底に目録あり(アルミナ付)。高台内側に砂粒が付着。素地は灰黄色。	D-6 SD48 1層
	沖縄產 黒釉陶器	瓶	口～底部	口径	器高	底径	内表面に半周まで黒帯を挿げた。外底下半周から外底まで黒帯。内底は蛇の目状に輪郭ぎ。輪郭から外底へかけて黒帯。素地にアルミナを含む。素地は淡黄色。	D-6 SD48 1層
	沖縄產 黒釉陶器	鉢	口縁部	口径	器高	底径	素地に褐色。外面部縁部に沈痕による波状文。	D-6 SD48 1層
	陶質土器	火鉢	口縁部	口径	器高	底径	素地に2層色。口縁内側に突起を設け付けた。突起及び口部に瘤が付着。内面にロクロナダ。	D-7 SD48 1層
	円盤状製品	—	—	長径	厚さ	最大幅	沖縄產黒釉陶器を素材としている。重量30.2g。	D-6 SD48 1層
	白磁	小瓶	底部	口径	器高	底径	型成形。養村を輪郭ぎ。養村に弦紋が付着。素地は白色で微細。透明白。	D-6 SD49 2層
	染付	碗	底部	口径	器高	底径	内表面に灰白色の釉を施釉。養村は黒帯。素地は灰白色で微細。外表面に弦紋が付着。	D-6 SD49 1層
	沖縄產 黒釉陶器	碗	底部	口径	器高	底径	内表面に半周まで黒帯を挿げた。外底下半周から外底まで黒帯。内底は蛇の目状に輪郭ぎ。輪郭から外底へかけて黒帯。素地にアルミナを含む。素地は淡黄色。	D-6 SD49 2層
	沖縄產 黒釉陶器	小瓶	口縁部	口径	器高	底径	内表面に灰黒色。	D-6 SD49 2層
	沖縄產 黒釉陶器	小瓶	底部	口径	器高	底径	内表面に白化粧+透明釉を挿げた。養村にアルミナを含む。素地は灰白色。	D-6 SD49B 1層
	沖縄產 黒釉陶器	火鉢	口縁部	口径	器高	底径	内表面に白化粧+透明釉。口部から外側にかけて黒帯を掛け分けた。素地は2層色。	D-6 SD49 2層
	陶質土器	火鉢	口縁部	口径	器高	底径	素地に2層色。外面部縁部に沈痕による波状文。内面にロクロナダ。	D-7 SD49 2層
	沖縄產 黒釉陶器	盞	口縁部	口径	器高	底径	素地に褐色。	D-6 SD49 2層
	沖縄產 黒釉陶器	火鉢	口縁部	口径	器高	底径	素地に2層色。外面部縁部下にはナダによる波みがみられる。	D-7 SD49 2層
	陶質土器	火鉢	底部	口径	器高	底径	素地に2層色。	D-6 SD49 2層
	円盤状製品	—	—	長径	厚さ	最大幅	沖縄產黒釉陶器を素材としている。重量44.5g。	D-6 SD49 2層
	沖縄產 黒釉陶器	擂鉢	口縁部	口径	器高	底径	素地に明赤褐色。輪郭は黒縞模様が明瞭。内面に擦痕を認める。	D-6 SD50 1層
	陶質土器	鉢	口縁部	口径	器高	底径	素地に2層色。外面部縁部に沈痕による波状文。内面にロクロナダ。	D-6 SD50 1層
	陶質土器	土瓶	口縁部	口径	器高	底径	素地に2層色。内面にロクロナダ。	D-6 SD50 1層
	陶質土器	蓋	—	口径	器高	底径	素地に2層色。	D-6 SD50 1層
	沖縄產 黒釉陶器	瓶	胸部	口径	器高	底径	素地は褐色。内外面ともに輪郭面が明瞭。頭部に5条の沈痕。	E-7 SD52 2層
	沖縄產 黒釉陶器	鉢	底部	口径	器高	底径	内面に白化粧+透明釉。各面に黒帯を掛け分け。内底は蛇の目状に輪郭ぎ。内底に目録あり(アルミナ付)。養村にアルミナを含む。素地は灰白色。	D-8 SK20 2層
	沖縄產 黒釉陶器	碗	口～底部	口径	器高	底径	内表面に白化粧+透明釉を挿げた。内底は蛇の目状に輪郭ぎ。頭部に5条の沈痕。	D-7 SK35 1層
	石製品	硯	—	口径	器高	底径	表面には長軸方向への擦痕が残る。側面にも擦痕。また背面には「三重筋」、「三重筋」、「側面に」などとみられる刻字があり。直切端。重量398.6g。	D-7 SK37 1層
	白磁	小杯	口～底部	口径	器高	底径	型成形。素地は白色で微細。透明白。	D-8 SK37 1層
	沖縄產 黒釉陶器	小瓶	口～底部	口径	器高	底径	内表面に白化粧+透明釉を挿げた。内底は蛇の目状に輪郭ぎ。養村にアルミナを含む。素地は灰黄色。	D-8 SK37 1層

第8表 区画2出土遺物観察一覧(I地区)c

单位: cm

辨証番号 図版番号	種類	器種	部位	法量		観察事項	出土地
				口径	器高		
第63回 国版21	沖縄窯 無釉陶器	蓋	—	口径 14.5	底径 4.1	素地は赤褐色。上面はナゲが徹底しておらず、器面はやや粗い。 内底に白化粧+透明釉を單掛け。内底は蛇の目状に削ぎ取った。外面部上部に沈線。横耳を3つ付。「×」の縦割れ。	D-8 SK38 1層
				口径 18.0	底径 45.5		
第64回 国版22	沖縄窯 無釉陶器	蓋	口～底部	口径 6.2	底径 6.6	素地は赤褐色。内外面に白化粧+透明釉を單掛け。内底に目状剥き(アルマニ付)する。蓋付にアルマニを施す。素地に削ぎ取られた跡。	D-8 SK44N 1層
				口径 —	底径 14.2		
本土産陶器	壺	底部	—	口径 18.2	底径 18.3	外面部に赤褐色。内底に半円状の目剥きが所存する。窪部。	D-8 SK49N 2層
				口径 11.1	底径 21.5		
沖縄窯 施釉陶器	蓋	口～底部	—	口径 32.4	底径 15.0	内外面に黒褐色+施釉。口唇部及び底部下から左右に垂れ付にかけて削ぎ取る。素地は灰白色。外面部に黒褐色が明顯。	D-8 SK49N 2層
				口径 16.2	底径 39.2		
本土産陶器	壺	口縁部	—	口径 10.4	底径 —	外面部に黒褐色+施釉。口唇部及び底部下に縦割れを施す。素地は灰白色。口唇部に土日が削ぎ取られる。窪部。	D-8 SK51N 1層
				口径 10.4	底径 21.4		
沖縄窯 無釉陶器	壺	口～底部	—	口径 11.6	底径 —	内外面に黒褐色+施釉。口唇部及び底部下平から垂れ付にかけて削ぎ取る。外底に砂粒が付着する。素地は灰黄色。	D-8 SK51N 1層
				口径 —	底径 —		
沖縄窯 無釉陶器	蓋	口～底部	—	口径 12.9	底径 17.0	素地には赤褐色。外面部頸部及び脚上部に沈線。左から右下方向への彎曲の2つの剥離見付。	D-8 SK49N 2層
				口径 —	底径 —		
本土産陶器	壺	蓋	—	口径 10.4	底径 —	外面部にヨリヨリ黒褐色を施す。口唇部は削ぎ取る。素地は灰褐色。口唇部に土日が削ぎ取られる。窪部。	D-8 SK51N 1層
				口径 —	底径 —		
沖縄窯 無釉陶器	壺	口縁部	—	口径 11.6	底径 —	内外面に黒褐色+施釉。口唇部及び底部下平から垂れ付にかけて削ぎ取る。外底に砂粒が付着する。素地は灰黄色。	D-8 SK51N 1層
				口径 —	底径 —		
沖縄窯 施釉陶器	蓋	口縁部	—	口径 18.2	底径 —	内外面に黒褐色+施釉。外面部頸部及び脚上部に沈線。左から右下方向への彎曲の2つの剥離見付。	D-8 SK51N 1層
				口径 —	底径 —		
沖縄窯 無釉陶器	壺	蓋	—	口径 16.5	底径 —	素地には赤褐色。内面頸部下に縦割れを有する。外面部は黒褐色+施釉。	D-8 SK51N 1層
				口径 —	底径 —		
沖縄窯 施釉陶器	蓋	口～底部	—	口径 13.8	底径 6.4	外面部に白化粧+透明釉を單掛け。内底は蛇の目状に削ぎ取った。外底に目剥き(アルマニ付)する。蓋付にアルマニを施す。素地は灰白色。外面部に鳥居と規格の花文。	D-8 SK55N 2層
				口径 —	底径 6.7		
沖縄窯 施釉陶器	鉢	口～底部	—	口径 25.0	底径 11.8	内面部に白化粧+透明釉。外面部に規格の花文を掛け分け。内底は蛇の目状に削ぎ取る。外底に目剥き(アルマニ付)する。蓋付にアルマニを施す。素地は灰白色。	D-8 SK55N 2層
				口径 —	底径 9.6		
第65回 国版23	染付	皿	口～底部	口径 15.6	底径 7.9	素地は白色で微細。内面に花文。内底に草花文。外側にも文様があり。黒褐色化。	D-8 SK56 1層
				口径 —	底径 —		
沖縄窯 施釉陶器	蓋	口～底部	—	口径 14.4	底径 7.0	外面部に白化粧+透明釉を單掛け。内底は蛇の目状に削ぎ取った。内底に目剥き(アルマニ付)する。蓋付にアルマニを施す。素地は灰黄色。	D-8 SK56 1層
				口径 —	底径 6.2		
沖縄窯 無釉陶器	蓋	口縁部	—	口径 16.5	底径 —	素地には赤褐色。内面頸部下に縦割れを有する。外面部は黒褐色+施釉。	D-8 SK56 1層
				口径 —	底径 —		
沖縄窯 施釉陶器	蓋	口～底部	—	口径 13.8	底径 6.4	外面部に白化粧+透明釉を單掛け。内底は蛇の目状に削ぎ取った。外底に目剥き(アルマニ付)する。蓋付にアルマニを施す。素地は灰白色。	D-8 SK55N 2層
				口径 —	底径 6.7		
沖縄窯 無釉陶器	鉢	口～底部	—	口径 25.0	底径 11.8	内面部に白化粧+透明釉。外面部に規格の花文を掛け分け。内底は蛇の目状に削ぎ取る。外底に目剥き(アルマニ付)する。蓋付にアルマニを施す。素地は灰白色。	D-8 SK55N 2層
				口径 —	底径 9.6		
第66回 国版22	染付	皿	口～底部	口径 15.6	底径 7.8	素地は白色で微細。内面に花文。内底に草花文。外側にも文様があり。黒褐色化。	D-8 SK56 1層
				口径 —	底径 —		
沖縄窯 施釉陶器	蓋	口～底部	—	口径 14.4	底径 7.0	外面部に白化粧+透明釉を單掛け。内底は蛇の目状に削ぎ取った。内底に目剥き(アルマニ付)する。蓋付にアルマニを施す。素地は灰黄色。	D-8 SK56 1層
				口径 —	底径 6.2		
沖縄窯 無釉陶器	蓋	口縁部	—	口径 12.1	底径 6.2	素地には赤褐色。内面頸部下に縦割れを有する。外面部は黒褐色+施釉。	D-8 SK56 1層
				口径 —	底径 —		
沖縄窯 施釉陶器	蓋	口～底部	—	口径 13.7	底径 47.1	外面部に白化粧+透明釉を單掛け。内底は蛇の目状に削ぎ取った。外底に目剥き(アルマニ付)する。蓋付にアルマニを施す。素地は灰白色。	D-8 SK56 1層
				口径 —	底径 19.3		
沖縄窯 施釉陶器	鉢	口～底部	—	口径 25.0	底径 11.8	内面部に白化粧+透明釉。外面部に規格の花文を掛け分け。内底は蛇の目状に削ぎ取る。外底に目剥き(アルマニ付)する。蓋付にアルマニを施す。素地は灰白色。	D-8 SK55N 2層
				口径 —	底径 9.6		
第65回 国版23	石器	石斧	—	口径 15.6	底径 7.8	素地は白色で微細。内面に花文。内底に草花文。外側にも文様があり。黒褐色化。	D-8 SK56 1層
				口径 —	底径 —		
沖縄窯 施釉陶器	蓋	口～底部	—	口径 10.0	底径 17.2	外面部に白化粧+透明釉を單掛け。内底は蛇の目状に削ぎ取った。内底に目剥き(アルマニ付)する。蓋付にアルマニを施す。素地は灰白色。	D-7 SK101 1層
				口径 —	底径 9.8		
沖縄窯 施釉陶器	蓋	口縁部	—	口径 12.9	底径 —	外面部に白化粧+透明釉を單掛けした後。蛇の目状に削ぎ取る。外底に目剥き。素地は赤褐色。	D-7 SK101 1層
				口径 —	底径 —		
沖縄窯 施釉陶器	蓋	底部	—	口径 —	底径 —	外面部に白化粧+透明釉を單掛け。内底は蛇の目状に削ぎ取る。外底に目剥き。素地は赤褐色。	D-7 SK101 1層
				口径 —	底径 —		
沖縄窯 無釉陶器	蓋	口縁部	—	口径 13.7	底径 47.1	外面部に白化粧+透明釉を單掛け。内底は蛇の目状に削ぎ取った。外底に目剥き(アルマニ付)する。蓋付にアルマニを施す。素地は灰白色。	D-8 SK56 1層
				口径 —	底径 19.3		
第65回 国版23	石器	石斧	—	口径 15.6	底径 7.8	素地は白色で微細。内面に花文。内底に草花文。外側にも文様があり。黒褐色化。	E-8 SD58 1層
				口径 —	底径 —		
沖縄窯 施釉陶器	蓋	口縁部	—	口径 10.0	底径 17.2	外面部に白化粧+透明釉を單掛け。内底は蛇の目状に削ぎ取った。内底に目剥き(アルマニ付)する。蓋付にアルマニを施す。素地は灰黄色。	D-7 SK101 1層
				口径 —	底径 9.8		
沖縄窯 施釉陶器	蓋	口縁部	—	口径 12.9	底径 —	外面部に白化粧+透明釉を單掛け。内底は蛇の目状に削ぎ取る。外底に目剥き。素地は赤褐色。	D-7 SK101 1層
				口径 —	底径 —		
沖縄窯 施釉陶器	蓋	底部	—	口径 —	底径 —	外面部に白化粧+透明釉を單掛け。内底は蛇の目状に削ぎ取る。外底に目剥き。素地は赤褐色。	D-7 SK101 1層
				口径 —	底径 —		
沖縄窯 無釉陶器	蓋	口縁部	—	口径 13.7	底径 47.1	外面部に白化粧+透明釉を單掛け。内底は蛇の目状に削ぎ取った。外底に目剥き(アルマニ付)する。蓋付にアルマニを施す。素地は灰白色。	E-8 SP360 1層
				口径 —	底径 19.3		
本土産 近現代磁器	碗	底部	—	口径 5.3	底径 3.5	素地は白色で微細。蓋付に砂粒が付着する。外側に梅文。	E-8 SD14 1層
				口径 —	底径 —		
本土産 近現代磁器	小碗	底部	—	口径 —	底径 —	素地は白色で微細。型紙模様付。	E-8 SD14 2層
				口径 —	底径 —		
ガラス製品	瓶	口～底部	—	口径 1.1	底径 2.9	色調は黒色。	D-7 SD15 1層
				口径 —	底径 —		
瓦	瓦	広幅～平瓦	口縁部	口径 —	底径 —	凸面の両端側には横方向のナギによる凹痕が明瞭。また、横方向のナギでもしもれがある。凹面の広幅端には棒板状の結晶底があり、色調は赤色。	D-8 SD35 1層
				口径 —	底径 —		
本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	—	口径 7.4	底径 4.5	蓋付は墨軸。素地は白色で微細。外側に花文。脚版転写。	D-8 SD35 1層
				口径 —	底径 —		
本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	—	口径 7.8	底径 4.8	蓋付は墨軸。素地は白色で微細。外側に花文。脚版転写。	D-7 SD35 1層
				口径 —	底径 —		
本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	—	口径 8.3	底径 4.1	蓋付は墨軸。素地は白色で微細。外側に花文。脚版転写。	D-7 SD35 2層
				口径 —	底径 —		
本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	—	口径 7.9	底径 4.6	蓋付は墨軸。素地は白色で微細。外側に花文。脚版転写。	D-7 SD35 2層
				口径 —	底径 —		
本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	—	口径 7.0	底径 2.6	蓋付は墨軸。素地は白色で微細。外側に花文。脚版転写。	D-8 SD35 2層
				口径 —	底径 —		
本土産 近現代磁器	皿	口～底部	—	口径 18.9	底径 6.1	蓋付は墨軸。外側に「時3時08分」という銘あり。	D-7 SD35 1層
				口径 —	底径 —		
本土産 近現代磁器	皿	—	—	口径 8.3	底径 2.7	外側に縁物の文様。灰塗地。	D-7 SD35 2層
				口径 —	底径 —		

第8表 区画2出土遺物観察一覧(Ⅰ地区)d

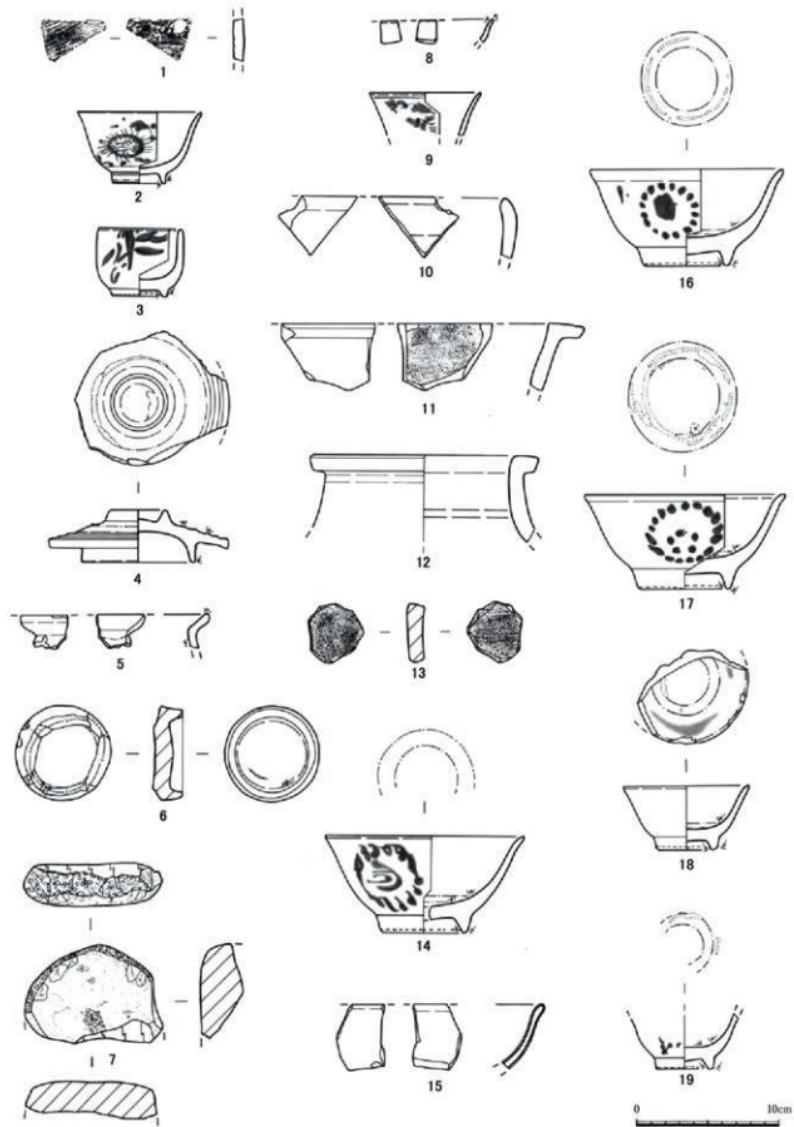
単位:cm

種団番号 区画番号	種類	器種	部位	法量	観察事項	出土地
図版23	本土産 近現代器	蓋	—	口径 脱高 底径 8.0 2.2 6.3	外面に文様がみられるが不明瞭。	D-7 SD35 2層
	本土産 近現代器	急須	ロ～底部	口径 脱高 底径 7.5 9.5 7.5	外面に露文。	D-7 SD35 1層+2層
	鉄製品	ヘラ	—	長5cm 長3cm 20.7 3.3	重量215.7g。	D-7 SD35 2層
	ガラス製品	瓶	ロ～底部	口径 脱高 底径 2.0 6.8 5.0	瓶部に「サハラ香油」。瓶底に「THIS CONTAINER MADE IN USA 17oz」というエンボス。色調は透明。	D-7 SD35 2層
	ガラス製品	瓶	ロ～底部	口径 脱高 底径 3.0 6.5 5.0	瓶部に「WATERMAN'S INK」。瓶底に「THIS CONTAINER MADE IN USA 17oz」というエンボス。色調は透明。	D-8 SD35 2層
	ガラス製品	瓶	ロ～底部	口径 脱高 底径 2.5 7.0 5.9	瓶部に「白椿」。瓶底に「大日本花山製」という記あり。	D-7 SD35 1層
	本土産 近現代器	小瓶	底部	口径 脱高 底径 — — —	瓶付は露胎。外底に「大日本花山製」という記あり。	E-7 SD41 1層
	本土産 近現代器	小瓶	ロ～底部	口径 脱高 底径 8.6 3.8 3.1	瓶付は露胎。素地は白色で緻密。クロム青磁。	E-8 SD41 3層
	本土産 近現代器	小瓶	ロ～底部	口径 脱高 底径 8.1 4.8 3.6	瓶付は露胎。素地は白色で緻密。外面に植物や鳥の文様。鋼版転写。	E-7 SD41 1層
	本土産 近現代器	皿	ロ～底部	口径 脱高 底径 13.8 2.4 7.6	瓶付は露胎で砂粒が付着する。素地は白色で緻密。輪等。	E-7 SD41 1層
図版24	ガラス製品	瓶	ロ～底部	口径 脱高 底径 1.7 9.0 4.4 a-4.4 b-3.3	瓶部に目盛がついている。色調は透明。	E-7 SD41 1層
	ガラス製品	瓶	ロ～底部	口径 脱高 底径 1.5 1.9 4.5	瓶底に印の中に「H」というエンボス。色調は透明。	E-7 SD41 1層
	鉄製品	カマ	—	長5cm 長3cm 1.3 3.8	刃二刃がみられる。重量40.7g。	E-7 SD41中 1層
	本土産 近現代器	碗	ロ～底部	口径 脱高 底径 13.8 6.4 5.1	瓶付は露胎。素地は白色で緻密。内底に3つの筋目。型紙給付。	D-7 SD49 2層
	本土産 近現代器	碗	ロ～底部	口径 脱高 底径 13.4 6.1 4.7	瓶付は露胎。素地は白色で緻密。型紙給付け。	D-7 SD49 2層
	本土産 近現代器	小瓶	口縁部	— — —	素地は白色で緻密。外面に花文、格子文。型紙給付け。	F-7 SD4 1層
	本土産 近現代器	皿	ロ～底部	口径 脱高 底径 12.8 2.6 7.4	瓶付は露胎。素地は白色で緻密。内面に文様。鋼版転写。	D-7 SD49 2層
	本土産 近現代器	蓋	—	口径 脱高 底径 8.2 2.5 —	外面に文様。	D-7 SD49 2層
	本土産 近現代器	小杯	ロ～底部	口径 脱高 底径 5.7 2.9 2.5	瓶付は露胎。素地は白色で緻密。高台形状が板の花びらを呈する。	D-8 SK29 1層
	プラスチック 製品	歯ブラシ	—	長5cm 幅 13.4 1.1	植毛3000本。	D-8 SK29 2層
図版25	鉄製品	クワ	—	長5cm 長3cm 29.6 13.1	重量1790g。	D-8 SK32 1層
	瓦	明朝系 平瓦	—	口径 脱高 底径 — — —	広端部～狭端部、凸面の両端側には横方向のナデによる回線が明瞭。また、縱方向のナデもみられる。両面の広端部に横板縫り結伍があり。色調は赤色。	D-7 SK35 1層
	瓦	明朝系 丸瓦	—	口径 脱高 底径 — — —	両面凸面の玉縁側に横方向のナデによる回線、端部に横方向の縦線が並ぶ。色調は赤色。	D-7 SK35 1層
	本土産 近現代器	小瓶	ロ～底部	口径 脱高 底径 7.9 4.7 3.5	瓶付は露胎。素地は白色で緻密。外面に菊花文。鋼版転写。	D-7 SK35 1層
	本土産 近現代器	蓋	—	口径 脱高 底径 6.6 — —	外面に文様。	D-7 SK35 1層
	本土産 近現代器	急須	ロ～底部	口径 脱高 底径 7.3 9.8 7.8	外面下半部から外底にかけて露胎。素地は白色で緻密。外面に文様。	D-7 SK33 1層
	ガラス製品	瓶	ロ～底部	口径 脱高 底径 2.2 9.6 4.9	色調は透明。	D-7 SK35 1層
	ガラス製品	瓶	底部	口径 脱高 底径 — — —	側面に「レーテット○」。瓶底に何かのマークのエンボス。色調は透明。	D-7 SK35 1層
	瓦	明朝系 平瓦	—	口径 脱高 底径 — — —	広端部～狭端部、凸面の両端側には横方向のナデによる回線が明瞭。両面の広端部に横板縫り結伍があり。色調は赤色。	D-8 SK44内 2層
	瓦	明朝系 丸瓦	—	口径 脱高 底径 — — —	両面凸面の玉縁側に横方向のナデによる回線、端部から側面にかけて露胎。色調は赤色。	D-8 SK44内 2層
図版26	本土産 近現代器	碗	ロ～底部	口径 脱高 底径 11.0 6.1 4.1	瓶付は露胎。素地は白色で緻密。外面に吹き絵による文様あり。	D-8 SK44内 1層
	本土産 近現代器	皿	ロ～底部	口径 脱高 底径 12.5 2.6 6.5	瓶付は露胎。素地は白色で緻密。内面に小桜、小判、菱形文か。吹き絵。	D-8 SK44P 1層
	鉄貨	一錢	—	9.5g 孔径 2.3 — 0.1	昭和十二年発行の一錢青銅貨。表に桜の文様。重量3.8g。	D-8 SK44内 2層
	鉄製品	ヘラ	—	長5cm 長3cm 11.9 5.3 —	重量73.6g。	D-8 SK44 1層
	鉄製品	皿	ロ～底部	口径 脱高 底径 24.5 2.6 15.8	厚さ約1mm。口縁部は折線を呈する。	D-8 SK44 内 2層

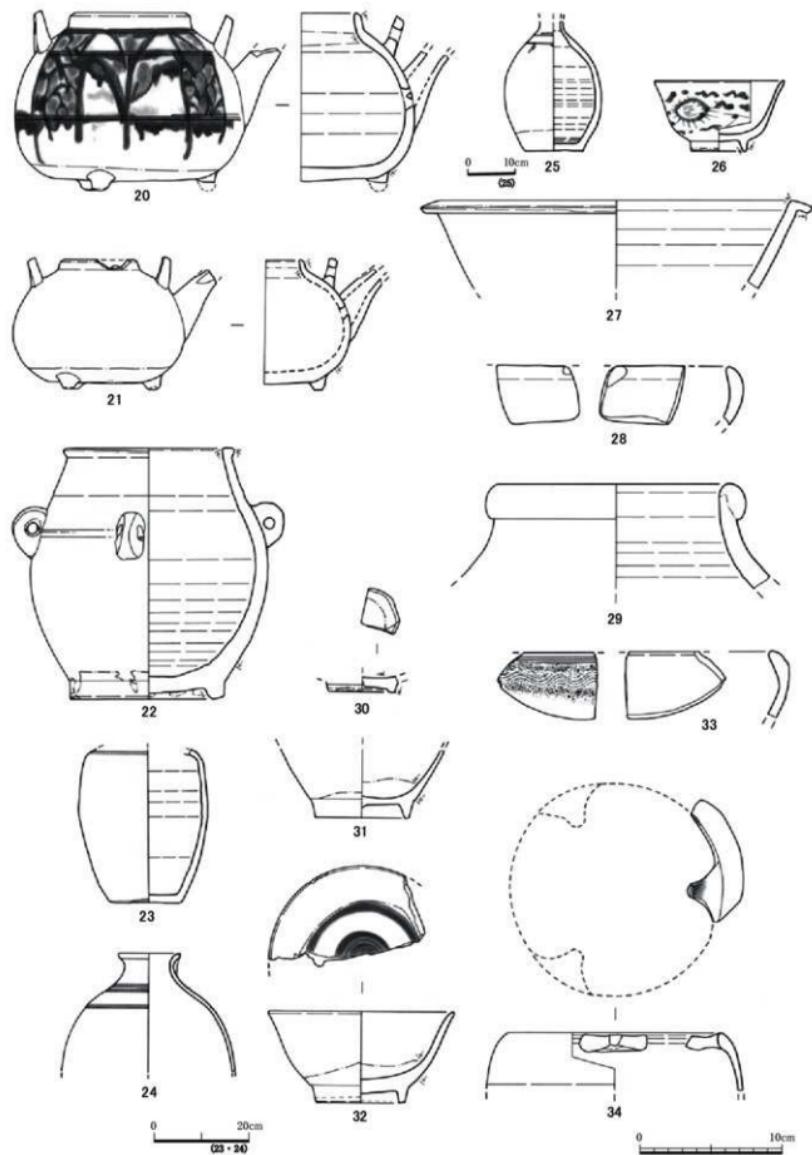
第8表 区画2出土遺物観察一覧(Ⅰ地区)

単位:cm

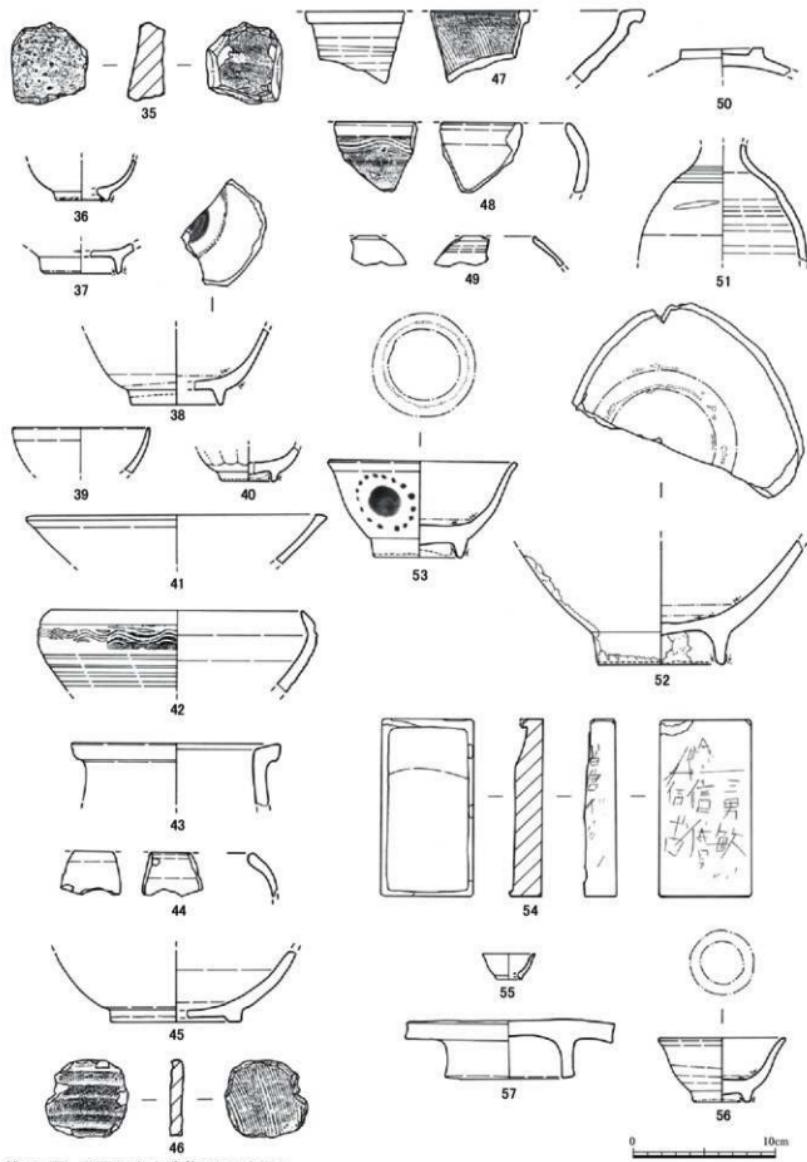
排番号 図版番号	種類	器種	部位	法量	観察事項	出土地
図版25	鉄製品	皿	口～底部	口径 22.5 器高 3.3 底径 16.0	厚さ約1mm。口縁部は玉縁状を呈する。	D-8 SK44内 2層
		皿	口～底部	口径 33.6 器高 3.3 底径 25.0	厚さ約1mmで非常に薄い。内面に花文。	D-8 SK44内 2層
		碗	口～底部	口径 12.6 器高 6.1 底径 4.9	収付は露胎。素地は白色で細かい。内底に5つの船止目。外底に跡が確認されるが不明瞭。型紙給付け。	D-8 SK49内 2層
		碗	口～底部	口径 12.8 器高 5.6 底径 4.7	収付は露胎。素地は白色で細かい。型紙給付け。	D-8 SK49内 2層
		碗	口～底部	口径 11.6 器高 5.0 底径 4.0	収付は露胎。素地は白色で微密。外面部縁部に緑色の2条の範線。外底に「岐1047」という跡あり。銅版転写。脚版転写。	D-8 SK49内 2層
	本土産 近現代器	小碗	口～底部	口径 7.8 器高 3.0 底径 3.0	収付は露胎。素地は白色で微密。銅版転写。	D-8 SK49内 2層
		皿	口～底部	口径 13.0 器高 2.6 底径 7.2	収付は露胎。素地は白色で微密。内面に文様。銅版転写。	D-8 SK49内 2層
		皿	口～底部	口径 13.0 器高 2.4 底径 7.4	収付は露胎。素地は白色で微密。内面に文様。銅版転写。	D-8 SK49内 2層
		皿	口～底部	口径 15.9 器高 3.1 底径 8.2	収付は露胎。素地は白色で微密。内面に梅花文。	D-8 SK49内 2層
		皿	口～底部	口径 21.3 器高 3.4 底径 10.1	素地は白色で綵密。口縁部は折線を呈する。外底に王冠と2つの崩を交差させたマークが確認される。	D-8 SK49内 2層
図版26	本土産 近代陶器	皿	口～底部	口径 17.9 器高 1.8 底径 10.0	素地は白色で綵密。やや軽質。口縁部は折線を呈する。内面及び外底にマークが確認される。「日本鍛賣陶器會社」製。	D-8 SK49内 2層
		十錢	一	外径 2.2 孔径 0.6 厚さ 0.1	昭和九年発行の十錢。表に菊とその文様。重量3.0g。	D-8 SK49内 2層
	ガラス製品	瓶	底部	口径 14.6 器高 7.9	厚さは1mmと非常に薄い。色調は透明。	SK101 1層
	鉄製品	踏鉄	一	長さ 11.1 幅 0.5	上面接縫部に留め部。重量145.7g。	D-8 SK49内 2層
	本土産 近現代器	小碗	口～底部	口径 8.2 器高 4.6 底径 3.0	収付は露胎。素地は白色で微密。外面に竹文。型紙給付け。	D-8 SK51内 1層
		皿	口～底部	口径 14.6 器高 3.1 底径 7.9	収付は露胎。素地は白色で微密。内面に文様。銅版転写。	D-8 SK51内 1層
	本土産 近現代器	蓋	一	口径 7.9 器高 2.2 底径 6.5	外面部に文様。	D-8 SK51内 1層
		本土産 近代陶器	小碗	口径 8.0 器高 4.6 底径 3.9	外面部に浅黄色釉を施すが、収付は釉剥ぎ。素地は淡黄色で細かい。	D-8 SK51内 1層
	ガラス製品	瓶	口～底部	口径 1.6 器高 1.6	両口点疵式の目薬。色調は緑色。	SK51内 1層
	本土産 近現代器	皿	口～底部	口径 6.8 器高 2.4 底径 3.8	収付に多量の砂粒が付着。素地は白色で微密。内面に文様。銅版転写。	D-8 SK55内 2層
		皿	口～底部	口径 11.8 器高 5.1 底径 4.2	収付は露胎。素地は白色で微密。外面部に文様。銅版転写。	D-8 SK56 1層
	本土産 近現代器	小碗	口～底部	口径 8.0 器高 4.7 底径 3.5	収付は露胎。素地は白色で微密。外面部に文様。外底に跡あり。	D-8 SK56 1層
		小杯	口～底部	口径 6.7 器高 2.7 底径 2.6	素地は白色で微密。内面に吹き繪による桜の文様。	D-8 SK56 1層
	本土産 近現代器	皿	口～底部	口径 13.0 器高 2.3 底径 7.5	収付は露胎。素地は白色で微密。内面に文様。銅版転写。	D-8 SK56 1層
		一錢	一	外径 2.3 孔径 0.1	昭和九年発行の一錢青銅貨。表に桜の文様。重量3.7g。	D-8 SK56 1層
	ガラス製品	瓶	口～底部	口径 3.6 器高 6.4 底径 4.0	瓶底に「平尾」、「パール」のエンボスが交差する。色調は透明。	D-8 SK56 1層
	ガラス製品	瓶	口～底部	口径 1.6 器高 7.7 底径 a.3.8, b.2.7	胴幅は「30」の目盛がつく。瓶底に「北」のエンボス。色調は透明。	SK56 1層
	ガラス製品	瓶	口～底部	口径 1.4 器高 8.2 底径 a.3.4, b.1.2	ガラス自体に多くの気泡がみられる。色調は透明。	D-8 SK56 1層
	本土産 近現代器	小碗	口～底部	口径 8.1 器高 4.6 底径 3.1	収付は砂粒が付着する。素地は白色で微密。外面部縁部に緑色の2条の範線。銅版転写。	D-7 SK101 1層
		小杯	口～底部	口径 5.0 器高 2.8 底径 1.8	収付は露胎。素地は白色で微密。内面に鶴や「祝」の旧漢字。	D-8 SK101 1層
	本土産 近現代器	小杯	口～底部	口径 5.6 器高 2.7 底径 2.3	収付から外底にかけて露胎。素地は白色で微密。高台形状が花びらを呈する。	D-8 SK101 1層
		蓋	一	口径 9.2 器高 3.1 底径 7.4	外面部に灰白色釉を施すが、接地面は釉剥ぎ。素地も灰白色で細かい。外面部に梅文。157とセッタ。	D-7 SK101 1層
	本土産 近代陶器	小碗	口～底部	口径 8.4 器高 5.8 底径 4.0	外面部に梅の白釉を施すが、収付は露胎。素地も灰白色で細かい。	D-7 SK101 1層
		鉄製品	鉄橋	口～底部	大型繩。口縁部若干の状に屈曲。底部は底が抜けた。縄による刺繍。顯著。	E-7 SD41内 1層



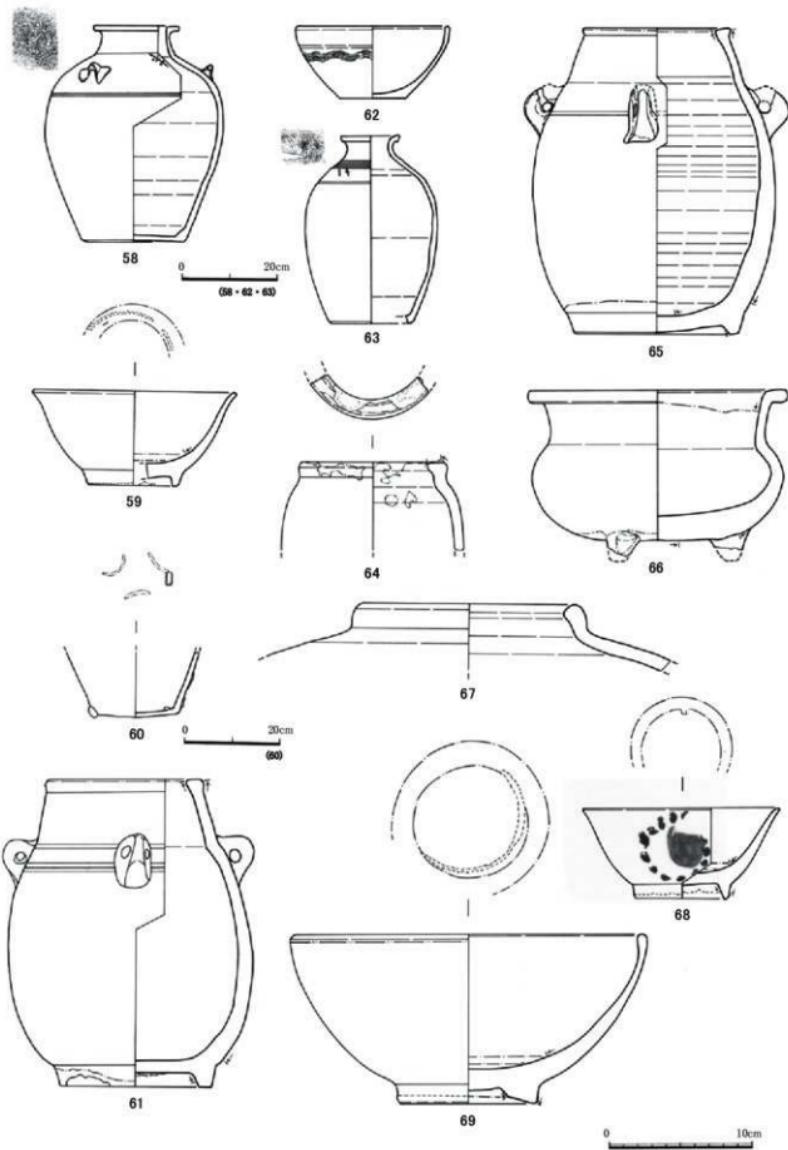
第61図 区画2 出土遺物1(Ⅰ地区)



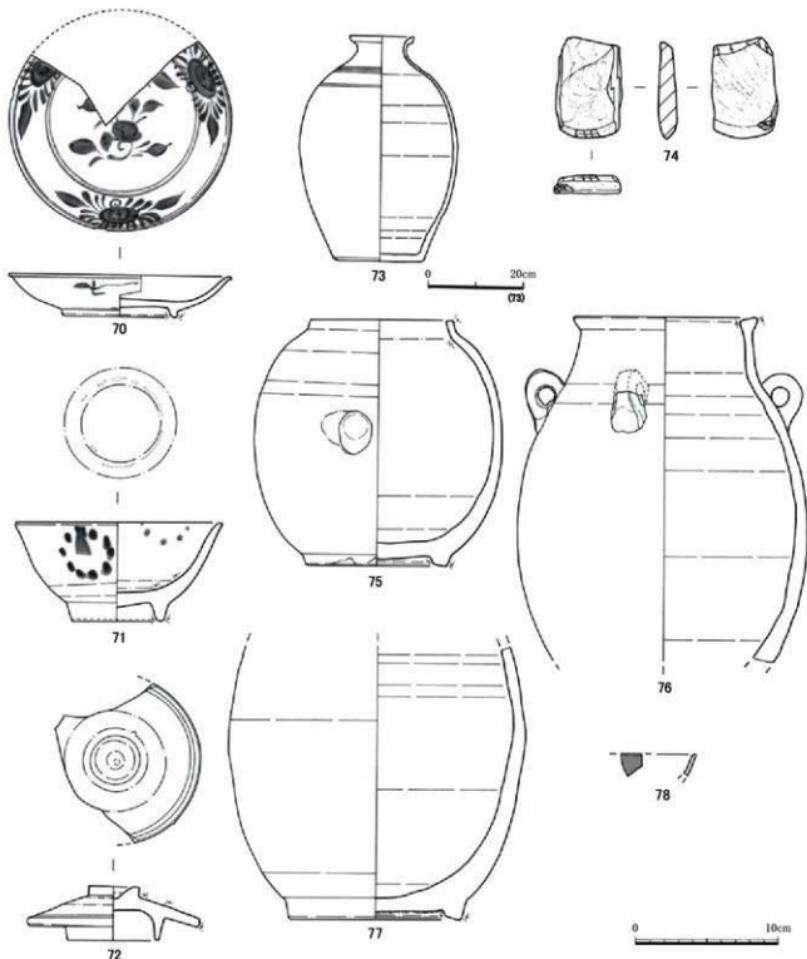
第 62 図 区画2 出土遺物2(I 地区)



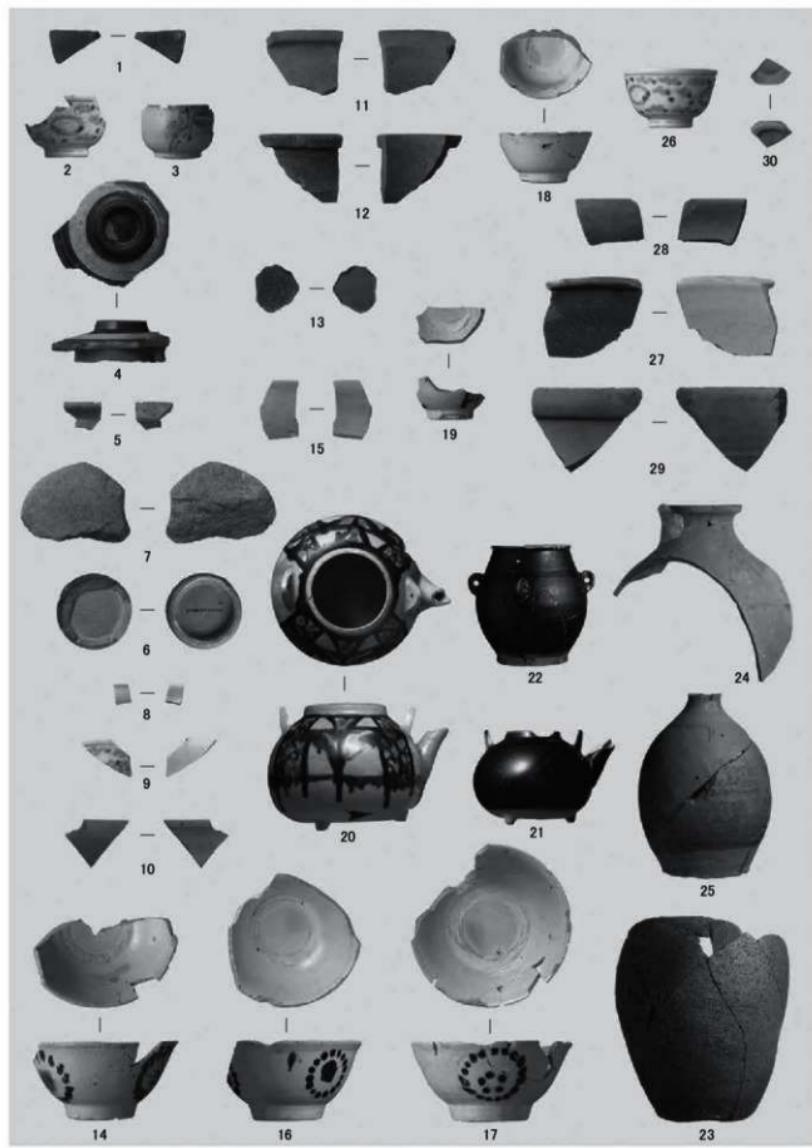
第63図 区画2 出土遺物3(Ⅰ地区)



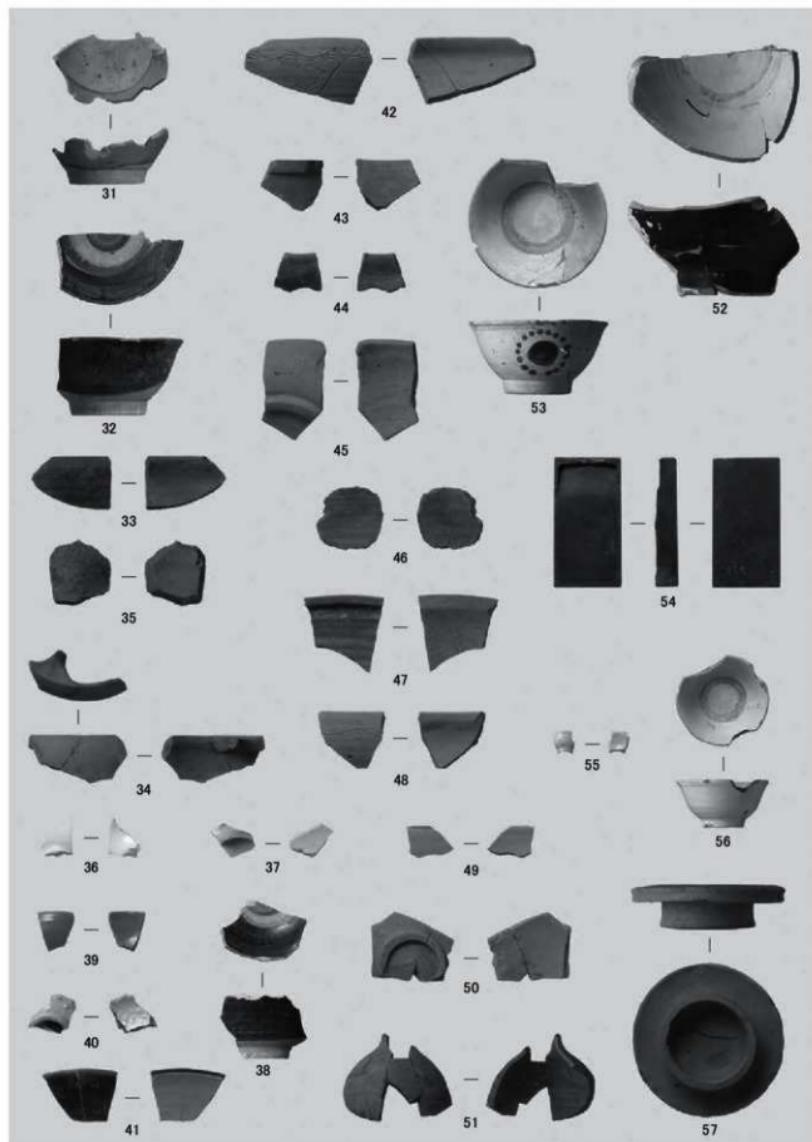
第64図 区画2 出土遺物4(I 地区)



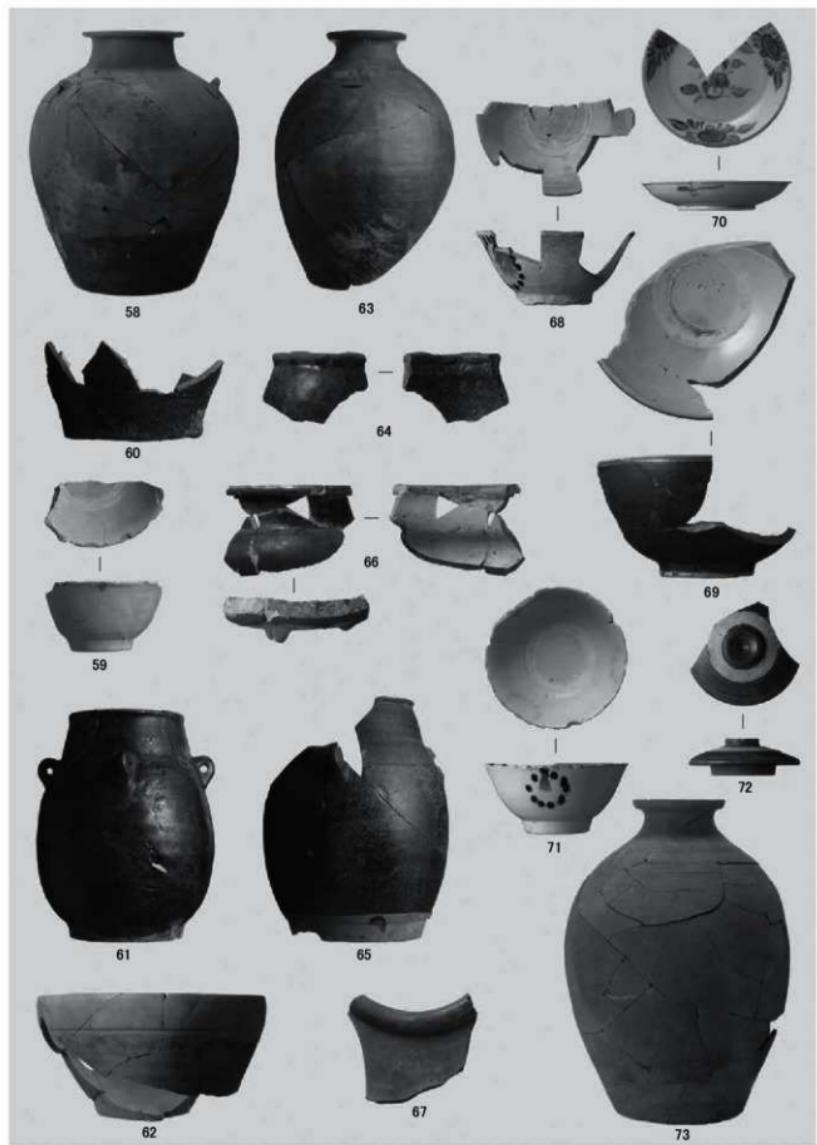
第65図 区画2 出土遺物5(I 地区)



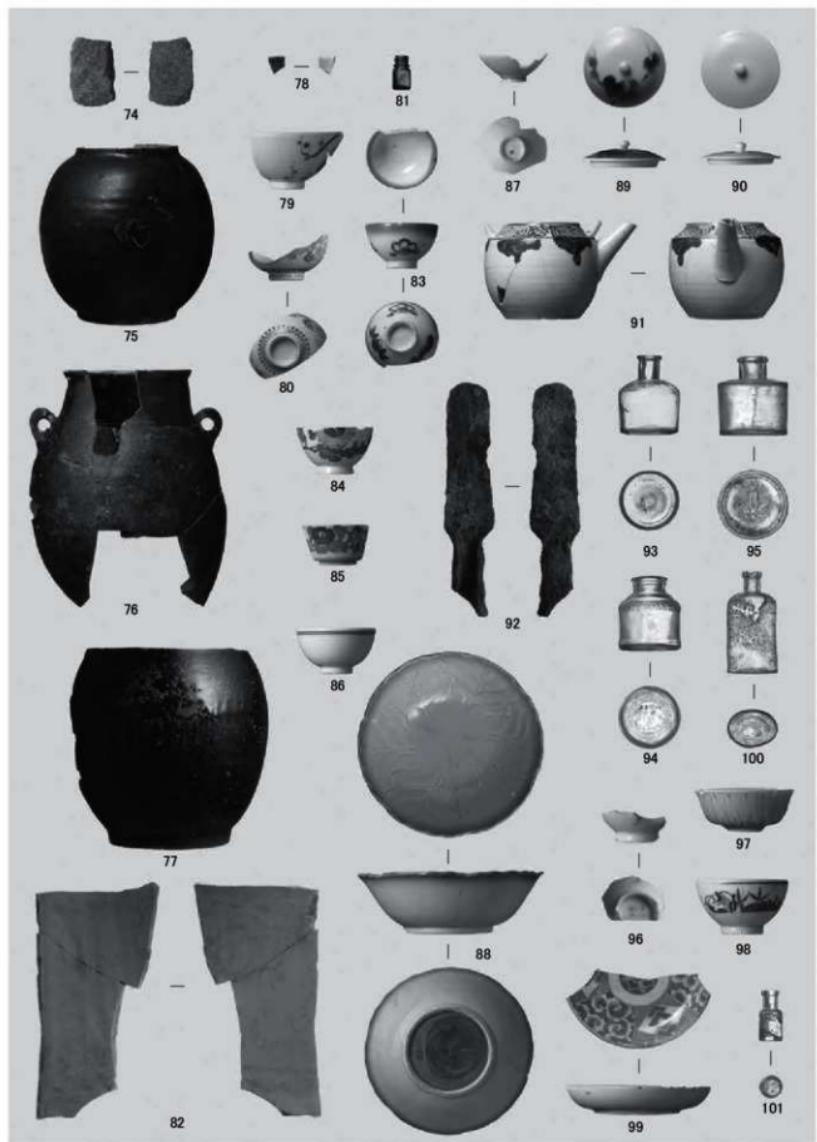
图版 20 区画2 出土遗物1 (I 地区)



图版 21 区画2 出土遗物2 (I 地区)



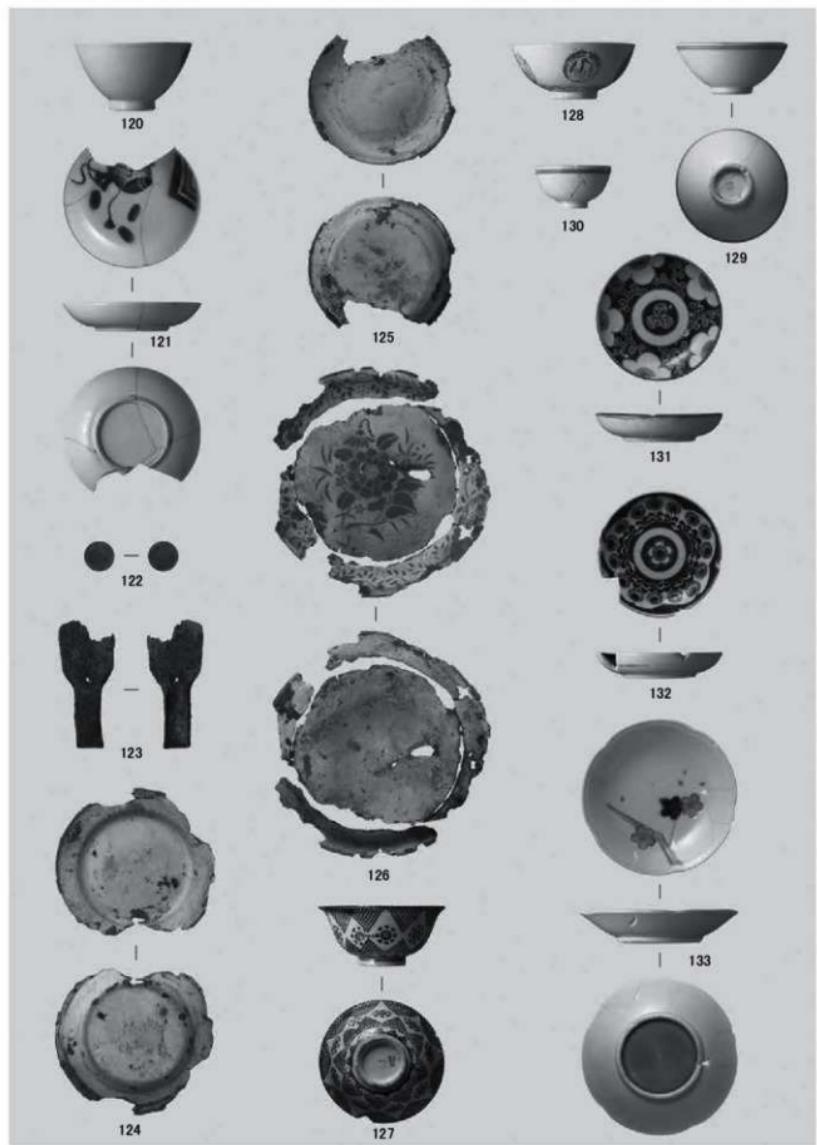
图版 22 区画2 出土遗物3 (I 地区)



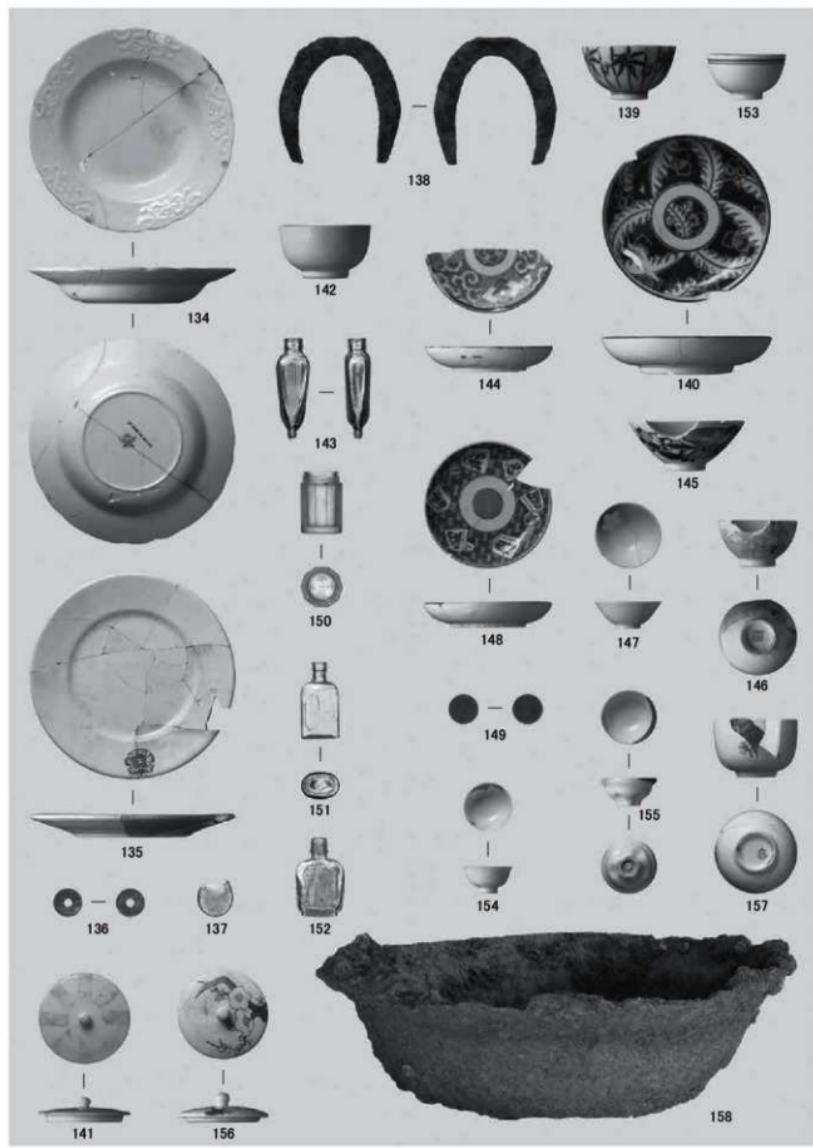
图版 23 区画2 出土遗物4 (I 地区)



图版 24 区画2 出土遗物5 (I 地区)



图版 25 区画2 出土遗物6 (I 地区)



图版 26 区画2 出土遗物7 (I 地区)

図3

瓦、沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器を主とし、白磁、染付、瑠璃釉、本土産陶磁器、陶質土器、石製品、円盤状製品、金属製品等、合計483点が出土した。第9表に特徴的な遺物の観察事項、第51表に遺物毎の出土状況を示す。

第9表 区画3出土遺物観察一覧(Ⅰ地区)a

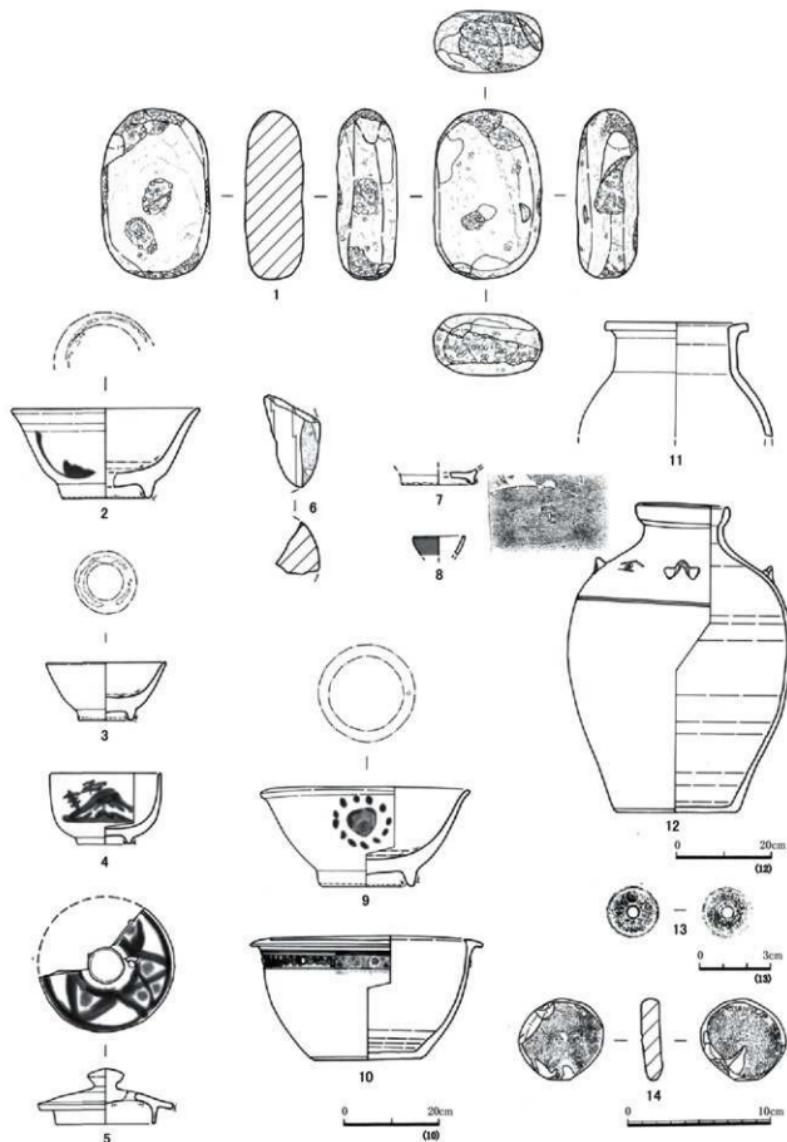
単位:cm

種類 団版番号	種類 団版番号	器種	部位	法量	観察事項	出土地
第66回 団版27	1	石器	砾石	—	口径 器高 底径 — — — 表裏面及び側面に敲打痕。表面一部に磨面。砂岩。	D-B SD29 1層
	2	沖縄産 無釉陶器	瓶	口～底部	口径 器高 底径 13.2 6.2 6.0 内外面に白化粧+透明釉を單掛け。内底は蛇の目状に釉剝ぎ。甕付にアルマナ付着。内底に日跡あり(アルマナ付着)。素地は浅黄色。外側に呉須で文様。	D-B SD29 1層
	3	沖縄産 無釉陶器	小瓶	口～底部	口径 器高 底径 8.4 4.1 3.6 内外面に白化粧+透明釉を單掛け。内底は蛇の目状に釉剝ぎ。甕付は圓錐形。内底に日跡あり(アルマナ付着)。素地は灰白色。	D-B SD29 1層
	4	沖縄産 無釉陶器	小瓶	口～底部	口径 器高 底径 7.8 5.0 3.8 内外面に白化粧+透明釉を單掛け。内底は蛇の目状に釉剝ぎ。甕付にアルマナ付着。甕付は灰白色。外側に呉須で文様。	D-B SD29 1層
	5	沖縄産 無釉陶器	蓋	—	口径 器高 底径 9.5 3.9 6.9 素地にはぶい黄褐色。外面に呉須と桙軸による文様。	D-B SD29 1層
	6	石器	不明	—	口径 器高 底径 — — — 表面に磨面が確認されるが、破損が著しいため詳細不明。碌岩質。	D-B SD42 2層
	7	白磁	小瓶	底部	口径 器高 底径 — — 5.2 型成形。甕付を釉剝ぎ。甕付に砂粒が付着。素地は白色で微細な結晶化斑。	D-B SD42 2層
	8	瑠璃釉	小杯	口縁部	口径 器高 底径 3.6 — — 外面に埋溝釉、内面に透明釉を掛け分け。口部は釉剝ぎ。素地は白色で微細な結晶化斑。	D-B SD42 2層
	9	沖縄産 無釉陶器	瓶	口～底部	口径 器高 底径 14.7 6.8 6.4 内外面に白化粧+透明釉を單掛け。内底は蛇の目状に釉剝ぎ。甕付にアルマナ付着。素地にはぶい黄褐色。外側に呉須と桙軸で花文3つ。	D-B SD42 2層
	10	沖縄産 無釉陶器	鉢	口～底部	口径 器高 底径 49.2 25.9 22.4 素地は明赤褐色。外面に波線による波状文と貼付した丸文。	D-B SD42 1層
第66回 団版28	11	沖縄産 無釉陶器	蓋	口縁部	口径 器高 底径 9.8 — — 素地は褐色。頭部はほぼ直立する。外表面は櫛歯痕が明瞭。	D-B SD42 2層
	12	沖縄産 無釉陶器	蓋	口～底部	口径 器高 底径 20.0 65.0 24.6 素地にはぶい赤褐色。横耳を4つ貼付。内中に垂直方向の1本線の模刻があり。	D-B SD42 1層+2層
	13	錢貨	十枚	—	外径 孔径 厚さ 2.2 0.5 0.1 大正十二年発行の十枚。裏に菊と桐の文様。重量3.5g。	D-B SD29 1層
	14	円盤状製品	—	—	長径 厚さ 5.7 1.3 6.0 明朝系赤瓦を素材としている。重量46.0g。	D-B SD42 2層
第67回 団版28	15	石製品	硯	—	口径 器高 底径 — — — 裏面には縫から7mm～1cm幅を残して一段下がる。全体的に風化が著しい。砂岩製。	D-B SD42 1層
	16	沖縄産 無釉陶器	瓶	底部	口径 器高 底径 — — 6.4 内外面に白化粧+透明釉を單掛け。内底は蛇の目状に釉剝ぎ。甕付にアルマナを密着。内底に日跡あり(アルマナ付着)。素地は浅黄色。	D-B SD45 1層
	17	沖縄産 無釉陶器	香炉	口～底部	口径 器高 底径 19.4 11.2 10.5 内面口縁部下から外表面解脫下半まで長颈を施す。甕付は幅が広く、中心に向かって斜めを呈し、僅かに砂粒が付着する。内底に日跡あり。素地は灰白色。外側下面にみられる突起は、三足の台座と考えられる。	D-B SK60 2層
	18	沖縄産 無釉陶器	瓶	口～底部	口径 器高 底径 5.6 14.1 6.2 甕付にアルマナを密着。甕付は幅が広く、中心に向かって斜めを呈する。外側は呉須と桙軸による文様。素地は浅黄色。	D-B SK60 2層
	19	沖縄産 無釉陶器	蓋	口～底部	口径 器高 底径 16.2 48.0 18.2 素地は明赤褐色。外側頭部及び脇上部に沈線。内外面ともに櫛歯痕が明瞭。	D-B SD29 1層+ D-B SK60 2層

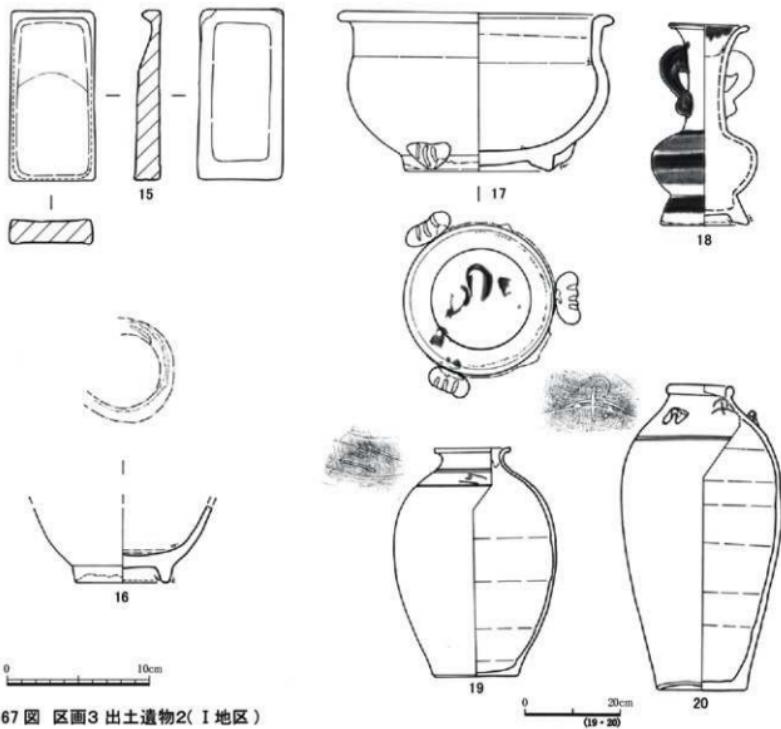
第9表 区画3出土遺物観察一覧(I地区)b

单位:cm

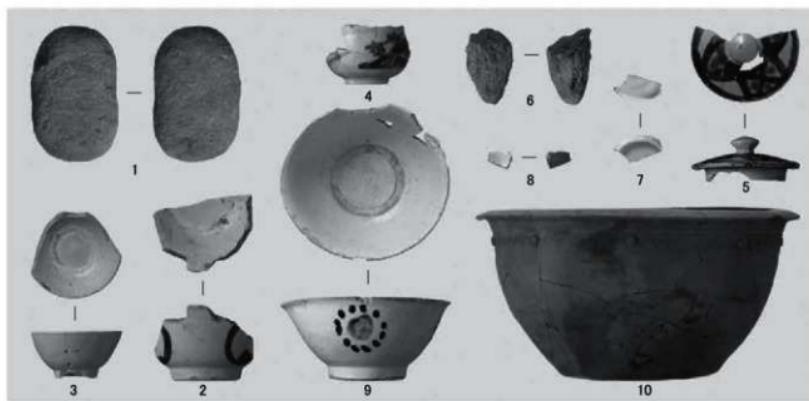
埋蔵番号 図版番号		種類	器種	部位	法量	観察事項	出土地		
第67区 図版28	20	沖縄窯 無釉陶器	壺	口～底部	口径 14.1	器高 64.2	底径 19.3	素地は明赤褐色。外面部上部に沈澱。横耳を3つ貼付。	D-8 SK600 1層+2層
					口径 13.2	器高 4.8	底径 5.9	豊作は露胎。素地は白色で細かい。内底に5つの點土目。点壓痕付。	D-8 SD29 1層
	21	本土産 近現代磁器	碗	口～底部	口径 9.1	器高 4.6	底径 3.3	豊作は露胎。素地は白色で緻密。外面上に文様。外底に「白山」記入。	D-8 SD29 1層
					口径 12.7	器高 2.7	底径 7.5	豊作は露胎。素地は白色で緻密。内面に文様。口唇部に鶴軸。鶴軸刻印。	D-8 SD29 1層
	22	本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 9.8	器高 4.8	底径 4.0	豊作は露胎。素地は白色で緻密。外面上に文様。外底に「白山」記入。	D-8 SD29 1層
					口径 11.6	器高 5.2	底径 6.0	豊作は露胎。素地は白色で緻密。外面上に文様。口唇部に鶴軸。鶴軸刻印。	D-8 SD29 1層
	23	本土産 近現代磁器	皿	口～底部	口径 9.8	器高 4.8	底径 4.0	豊作は露胎。素地は白色で緻密。内面に文様。口唇部に鶴軸。鶴軸刻印。	D-8 SD29 1層
					口径 11.6	器高 5.2	底径 6.0	豊作は露胎。素地は白色で緻密。外面上に文様。口唇部に鶴軸。鶴軸刻印。	D-8 SD29 1層
	24	本土産 近現代磁器	小鉢	口～底部	口径 9.8	器高 4.8	底径 4.0	豊作は露胎。素地は白色で緻密。内面に文様。輪花跡。ゴム印捺付。	D-8 SD29 1層
					口径 11.6	器高 5.2	底径 6.0	豊作は露胎。素地は白色で緻密。外面上に文様。口唇部に鶴軸。鶴軸刻印。	D-8 SD29 1層
	25	本土産 近現代磁器	小鉢	口～底部	—	—	—	全面に透明釉。素地は白色で緻密。	D-8 SD29 1層
					—	—	—	全面に透明釉。素地は白色で緻密。	D-8 SD29 1層
	26	本土産 近現代磁器	鉢金	—	—	—	—	全面に透明釉。素地は白色で緻密。	D-8 SD29 1層
					—	—	—	全面に透明釉。素地は白色で緻密。	D-8 SD29 1層
	27	銭貨	一錢	—	外径 2.3	孔径 0.1	厚さ 0.1	昭和九年発行の一錢青銅貨。表に桐の文様。重量3.1g。	D-8 SD29 1層
					外径 1.9	孔径 0.4	厚さ 0.1	大正十年発行の五銭。表に菊と桐の文様。重量2.4g。	D-8 SD29 1層
	28	銭貨	五銭	—	—	—	—	昭和九年発行の一錢青銅貨。表に桐の文様。重量3.1g。	D-8 SD29 1層
					—	—	—	大正十年発行の五銭。表に菊と桐の文様。重量2.4g。	D-8 SD29 1層
	29	ガラス製品	薬瓶	口～底部	口径 4.2	器高 6.1	底径 4.6	瓶底に「MASTER」のエンボス。色調は白色。	D-8 SD29 1層
					口径 1.7	器高 7.0	底径 2.8	瓶底に「わかば」、「定年」と日盛バーのエンボス。色調は透明。	D-8 SD29 1層
	30	ガラス製品	瓶	口～底部	口径 1.4	器高 5.1	底径 2.1	色調は透明。	D-8 SD29 1層
					口径 —	器高 —	底径 —	色調は透明。	D-8 SD29 1層
	31	ガラス製品	瓶	口～底部	口径 6.1	器高 2.7	底径 2.1	色調は透明。	D-8 SD29 1層
					口径 6.1	器高 2.7	底径 2.1	色調は赤色。	D-8 SD29 1層
	32	瓦	明朝系 瓦	—	口径 —	器高 —	底径 —	南部凸面の玉縁側に横方向のナデによる凹線がみられる。 色調は赤色。	D-8 SD42 1層
					—	—	—	南部凸面の玉縁側に横方向のナデによる凹線がみられる。 色調は赤色。	D-8 SD42 1層
	33	本土産 近現代磁器	小碗	底部	口径 —	器高 —	底径 3.4	素地は白色で緻密。外面上に文様。外底に「輪山」記入。	D-8 SD42 1層
					—	—	—	素地は白色で緻密。外面上に文様。外底に「輪山」記入。	D-8 SD42 1層
	34	本土産 近現代磁器	小杯	口～底部	口径 6.1	器高 2.7	底径 2.1	豊作は白色で緻密。高台形状が方形を呈する。内面に日草族などの文様。	D-8 SD42 2層
					口径 8.0	器高 4.6	底径 3.6	豊作は白色で緻密。高台形状が方形を呈する。内面に日草族などの文様。	D-8 SD42 2層
	35	本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 8.4	器高 4.5	底径 3.5	豊作から外底にかけて露胎。素地は白色で緻密。高台内に段を持つ。口唇部に鶴軸。	D-8 SD42シレチ 2層
					口径 3.7	器高 3.6	底径 4.3	豊作から外底にかけて露胎。素地は白色で緻密。高台内に段を持つ。口唇部に鶴軸。	D-8 SD42 2層
	36	本土産 近代陶器	小碗	口～底部	口径 3.5	器高 3.3	底径 2.9	豊作は白色で緻密。高台内に段を持つ。口唇部に鶴軸。	D-8 SD42 2層
					口径 —	器高 —	底径 —	豊作は白色で緻密。高台内に段を持つ。口唇部に鶴軸。	D-8 SD42 2層
	37	ガラス製品	瓶	口～底部	口径 —	器高 —	底径 —	素地は白色。	D-8 SD42壁 2層
					口径 —	器高 —	底径 —	素地は白色。	D-8 SD42壁 2層
	38	ガラス製品	瓶	口～底部	口径 —	器高 —	底径 —	素地は白色。	D-8 SD42壁 2層
					口径 —	器高 —	底径 —	素地は白色。	D-8 SD42壁 2層
	39	石製品	—	—	口径 —	器高 —	底径 —	一部、円状に削られているのが確認される。石灰質砂岩(ニセイ)。	D-8 SD42 1層
					口径 6.6	器高 7.3	底径 3.9	素地は白色で緻密。外面上に文様。鶴、亀、松などの文様。	D-8 SK600 2層
	40	本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 6.4	器高 7.1	底径 3.9	素地は白色で緻密。外面上に文様。	D-8 SK600 2層
					口径 —	器高 —	底径 —	素地は白色で緻密。外面上に文様。	D-8 SK600 2層
	41	本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 —	器高 —	底径 —	素地は白色で緻密。外面上に文様。	D-8 SK600 2層



第66図 区画3 出土遺物1(I 地区)



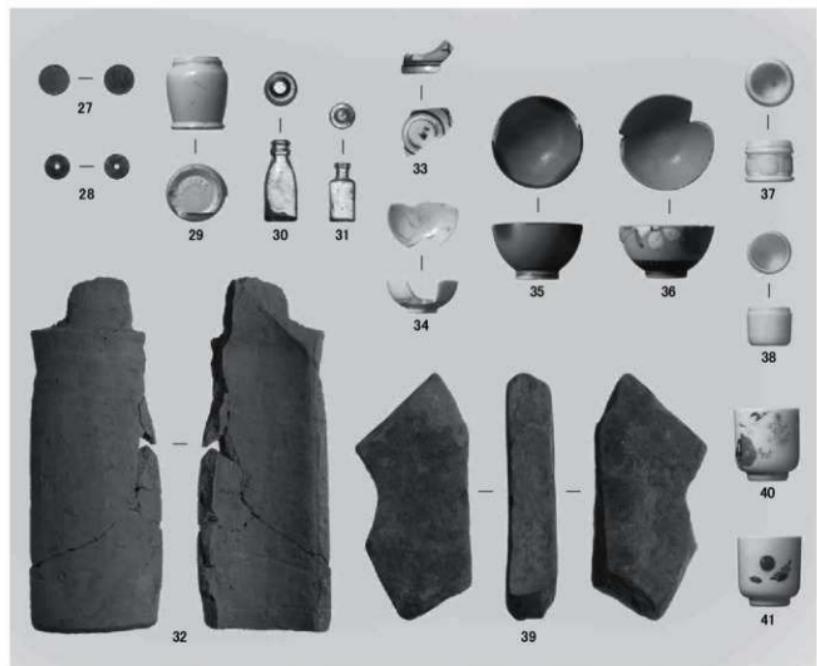
第67図 区画3 出土遺物2(I 地区)



図版 27 区画3 出土遺物1 (I 地区)



图版 28 区画3 出土遗物2 (I 地区)



図版29 区画3 出土遺物3 (I 地区)

図版4

沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器、瓦を主とし、白磁、染付、本土産陶磁器、陶質土器、石製品、金属製品等を合計5,253点検出している。特にSD4からは多量の遺物が出土している。第10表に特徴的な遺物の観察事項、第52表に遺物毎の出土状況を示す。

第10表 区画4出土遺物観察一覧(I地区)a

種別番号 図版番号	種類	器種	部位	法量	観察事項	出土地
第68図 図版30	1	石器	石斧	長軸 —	短軸 7.5 2.9 厚さ —	刃部は破損。中央部及び側面に敲打痕。重量555g。緑色 G-7 SD4 2層
	2	石器	磨石	長軸 —	短軸 — —	上端部及び側面に敲打痕。重量574g。砂岩。 G-7 SD4 1層
	3	石器	敲石	長軸 —	短軸 — —	敲石の破片。重量173g。砂岩。 G-7 SD4 1層
	4	石器	圓石	長軸 9.0	短軸 8.3 厚さ 3.0	中央部に使用痕。重量374g。石灰質砂岩。 G-8 SD4 1層
	5	土器	盃 口縁部	—	器高 — 底径 —	口縁部を平坦に成形。内外器面に指彫痕。胎土は砂質で石英等の砂粒を多量に含み、赤色土粒もみられる。 G-7 SD4 2層

第10表 区画4出土遺物観察一覧(I地区)b

單位: cm

辨認番号 国取番号	種類	器種	部位	法量	被祭事項	出土地	
第60回 国取版30	6	カムイヤキ	蓋	口径 —	器高 底径 —	頭部部。外面に叩き目痕、内面に凹軸ナメ。底付は暗灰色で白色粒を含む。	F-7 SD4E/C 2層
	7	白磁	碗	口縁部 —	器高 底径 —	玉縁口絞。蓋地は白色で緻密。	G-7 SD4 2層
	8	白磁	皿	口縁 —	器高 底径 —	外底及び内底は露胎。蓋地は灰白色で緻密。	p-7 SD4 2層
	9	染付	碗	底部 —	器高 底径 —	外底、高台外面及び内底中央部に施釉。蓋付は露胎。蓋地は淡黄色で緻密、褐斑、灰斑。	F-7 SD4 2層
	10	染付	碗	口縁部 —	器高 底径 15.0	端口縁。蓋地は白色で緻密。外面に草文。化粧茎。	F-7 SD4 1層
	11	染付	皿	口～底部 14.6	器高 底径 2.9	端口縁。蓋付は露胎。蓋地は白色で緻密。内底に「志在書」印。化粧茎。	G-7 SD4 1層
	12	染付	皿	口縁部 —	器高 底径 —	端口縁。蓋地は白色で緻密。内面に草花文。化粧茎。	F-7 SD4E/C 2層
	13	染付	皿	底部 —	器高 底径 —	蓋付は露胎。蓋地は白色で緻密。内底に草花文。化粧茎。	F-6 SD4 2層
	14	染付	皿	底部 —	器高 底径 —	蓋付は露胎。蓋地は白色で緻密。化粧茎。	F-7 SD4 2層
	15	褐釉暗器	小杯	口縁部 —	器高 底径 —	外面施釉。蓋地は白色で緻密。景德鎮窑産。	G-8 SD4 1層
	16	瑠璃釉	小碗	底部 —	器高 底径 —	外底に瑠璃釉で底底は露胎。蓋地は灰白色で緻密。	G-7 SD4 2層
第69回 国取版30	17	紫砂	急須	注口 —	器高 底径 —	急須の注口。器表面はなめらか。蓋地は茶褐色で硬質。宜興窯産。	P-8 SD4 2層
	18	本土産磁器	染付 小碗	底部 —	器高 底径 4.1	蓋付は露胎。蓋地は白色で緻密。外面に草花文。	P-8 SD4 2層
	19	本土産磁器	染付 蓋	—	器高 底径 12.5	此片。底部は露胎。蓋地は白色で緻密。外面に草花文。	P-8 SD4 2層
	20	芦窯座 施釉陶器	碗	口～底部 13.0	器高 底径 6.2 6.6	脚輪と外壁装輪～内底まで施釉し、内底を蛇の目剥ぎ。蓋地は灰黄色で細かい。	F-8 SD4 2層
	21	芦窯座 施釉陶器	碗	口～底部 12.2	器高 底径 6.1 5.9	全面に白化粧と透明釉を施釉後、内底を蛇の目、蓋付を輪剥ぎ。外側に草花文。蓋地は淡黄色で細かい。	F-6 SD4 2層
	22	芦窯座 施釉陶器	小碗	口～底部 7.9	器高 底径 4.2 3.4	全面に白化粧と透明釉を施釉後、内底を蛇の目。蓋付を輪剥ぎ。内底は淡黄色で細かい。外側に草花文。	P-7 SD4 2層
	23	芦窯座 施釉陶器	鉢	口～底部 27.0	器高 底径 12.1 9.2	脚輪と、今面に白化粧後、背面脚輪、内面脚輪を施釉し、内底は蛇の目剥ぎ。蓋地は灰白色で細かい。	P-7 SD4 1層
	24	芦窯座 施釉陶器	蓋	口～底部 11.7	器高 底径 23.6 11.2	酒器。黒釉を施釉後口唇を剥ぎ落す。蓋付は露胎。蓋地は灰白色で細かい。一部破損。	F-7 SD4 1層
	25	芦窯座 施釉陶器	蓋	口～底部 9.8	器高 底径 19.7 11.0	酒器。黒釉を施釉後蓋付を剥ぎ落す。蓋地は灰白色で細かい。完全資料。	G-7 SD4E/A 2層
第69回 国取版31	26	芦窯座 施釉陶器	蓋	底部 —	器高 底径 — 10.0	脚輪を施釉後、内底と蓋付を剥ぎ落す。蓋地は浅黄色で細かい。	F-6 SD4 2層
	27	芦窯座 施釉陶器	酒器	脚部 —	器高 底径 —	外外面化粧後に内底と脚輪により給付け。内底は断頭部以下露胎。蓋地は灰黄色で細かい。	F-6 SD4 2層
	28	芦窯座 施釉陶器	瓶	口縁部 —	器高 底径 2.0	外外面化粧後に脚輪を口面部と肩部へ施釉。内面に縫隙を留め剥ぎ落す。蓋地は灰黄色で細かい。	P-7 SD4 1層
	29	芦窯座 施釉陶器	瓶	底部 —	器高 底径 — 5.6	外外面化粧後に脚輪により給付け。蓋付は剥ぎ落す。内面は露胎。蓋地は灰黄色で細かい。	F-6 SD4 2層
	30	芦窯座 施釉陶器	香炉	口～底部 14.8	器高 底径 9.3 9.2	白化粧後に内外面脚輪・側面下部まで施釉。外面に縫隙を留め剥ぎ落す。蓋地は灰黄色で細かい。	P-7 SD4 2層
	31	芦窯座 施釉陶器	火入	底部 —	器高 底径 — 6.9	白化粧後に、外外面脚輪・側面下部と内底に火入粘土付着。蓋地は灰黄色で細かい。外火入粘土付着。	P-7 SD4 2層
	32	芦窯座 施釉陶器	蓋	—	器高 底径 6.7 5.2	外表面に甲垂頭まで瑠璃釉を施釉。蓋地は灰白色で細密。蓋器開口部: 0.6cmの花。	F-7 SD4B/C 2層
第70回 国取版31	33	芦窯座 施釉陶器	蓋	—	器高 底径 18.2 5.4	灰釉を底部内外面に施釉。蓋地は灰白色で細かい。	G-7 SD4 2層
	34	芦窯座 無釉陶器	鉢	口縁部 —	器高 底径 31.0	内口縁。蓋地は赤褐色で緻密。外面部上部に沈澱・皮状文。	F-6 SD4 2層
	35	芦窯座 無釉陶器	鉢	口縁部 —	器高 底径 —	逆V字口縁。蓋地は褐褐色。蓋地は暗赤褐色で緻密。口唇上部に沈澱。	G-7 SD4 2層

第10表 区画4出土遺物観察一覧(I地区)c

単位:cm

拂団番号 図版番号	種類	器種	部位	法量			観察事項	出土地
第70図 図版31	片瀬底 無輪陶器	擂鉢	底部	口径	器高	底径	縁目は深く間隔は密。素地は暗赤褐色で緻密。	F-6 SD4 2層
	片瀬底 無輪陶器	擂鉢	底部	口径	器高	底径	脚部片。素地は暗褐色で緻密。脚部上部に孔。	F-6 SD4 2層
	片瀬底 無輪陶器	擂鉢	口縁部	口径	器高	底径	縁目はV字状口縁。縁目は開閉式。器色は暗褐色。素地は赤褐色で緻密。口唇上部に沈澱。	G-8 SD4 1層
	片瀬底 無輪陶器	擂鉢	底部	口径	器高	底径	外表面輪郭痕明瞭。縁目は開閉式。素地は赤褐色で緻密。	G-8 SD4 1層
	片瀬底 無輪陶器	壺	口縁部	口径	器高	底径	口縁部は方形状。素地は暗褐色で緻密。	F-8 SD4 2層
	片瀬底 無輪陶器	壺	底部	口径	器高	底径	内面輪郭痕明瞭。器色は暗青灰色。素地は暗赤褐色で緻密。	F-7 SD4 1層
	片瀬底 無輪陶器	壺	口縁部	口径	器高	底径	口肩部は方形状。外表面に泥軸。素地は暗赤褐色で緻密。	G-7 SD4 1層
	片瀬底 無輪陶器	壺	底部	口径	器高	底径	器壁厚手。器色は暗褐色。素地は赤褐色で緻密。且つ肩上部に沈澱。	G-8 SD4 1層
	片瀬底 無輪陶器	瓶	口縁部	口径	器高	底径	器色は前面暗青灰色。素地は暗赤褐色で緻密。肩部及び肩上部に沈澱。	G-8 SD4 1層
	片瀬底 無輪陶器	甕	底部	口径	器高	底径	縁目はV字状口縁。器色は暗褐色。素地は赤褐色で緻密。口肩側部に沈澱。	G-7 SD4 2層
第70図 図版32	片瀬底 無輪陶器	甕	口縁部	口径	器高	底径	内面輪郭痕明瞭。素地は赤褐色で緻密。肩部に沈澱。	G-7 SD4 2層
	片瀬底 無輪陶器	火かし	口～底部	口径	器高	底径	内面輪郭痕明瞭。素地は暗褐色で緻密。肩部に沈澱。	G-7 SD4 2層
	陶質土器	鉢	口縁部	口径	器高	底径	内面輪郭痕明瞭。素地は橙色で硬質。外表面口縁部に沈澱。波状。	F-6 SD4 2層
	瓦質土器	盤	口～底部	口径	器高	底径	口縁部内側へ肥厚。器色は黒褐色。素地は灰白色で細かい、混入物に白色砂粒を含む。	G-6 SD4 2層
	円盤状製品	—	—	長径	厚さ	最大幅	素材は片瀬底無輪陶器小碗底部。重量24.6g。	F-8 SD4 2層
	円盤状製品	—	—	4.8	0.8	4.8	素材は片瀬底無輪陶器小碗底部。重量19.0g。	F-8 SD4 2層
	円盤状製品	—	—	4.5	0.7	4.3	素材は片瀬底無輪陶器製品部。重量19.0g。	F-8 SD4 2層
	円盤状製品	—	—	3.4	1.0	3.8	素材は片瀬底無輪陶器盤底部。重量14.3g。	G-7 SD4 1層
	円盤状製品	—	—	2.4	0.45	2.6	素材は本土産近現代陶磁器製品部。重量3.8g。	F-8 SD4 1層
	円盤状製品	—	—	2.0	0.4	2.0	素材は本土産近現代陶磁器製品部。重量2.3g。	G-8 SD4 2層
第71図 図版32	円盤状製品	—	—	2.5	0.5	2.7	素材は本土産近現代陶磁器小杯底部。重量6.1g。	F-7 SD4 2層
	煙管	—	雁首	火薬室	長さ	雁首接続部径	片瀬底無輪陶器製。外表面は埋め込み。素地は灰白色で細かい。重量4.8g。	F-6 SD4 2層
	煙管	—	雁首	火薬室	長さ	雁首接続部径	青銅製。鍛造で上部に接合部。重量6.4g。	F-7 SD4 1層
	煙管	—	吸口	雁首接続部	長さ	吸口径	青銅製。鍛造で側面に接合部。重量9.4g。	F-7 SD4 2層
	石製品	硯	—	長軸	楕円軸	厚さ	長方硯。左側面に不明瞭な文字。重量274.9g。	F-7 SD4 2層
	錢貨	寛永通宝	—	外径	孔径	厚さ	錢文は不明瞭。重量2.7g。	F-7 SD4 1層
	染付	硯	口縁部	口径	器高	底径	素地は白色で緻密。外面に牡丹唐草文。縁部に透かし。	F-7 SD4b 2層
	染付	硯	口縁部	口径	器高	底径	素地は白色で緻密。外面に牡丹唐草文。	F-7 SD4b 2層
	本土産磁器	染付 小瓶	口縁部	口径	器高	底径	素地は灰白色で細かい。外面に花文。	G-8 SD4b 2層
	本土産磁器	染付 皿	底部	口径	器高	底径	内底を輪削ぎ。素地は灰白色で緻密。	G-8 SD4b 2層
	片瀬底 無輪陶器	硯	口～底部	口径	器高	底径	全面に白化前と透明釉を施釉後、内底を蛇の目、養付を輪削ぎ。素地は淡黄色で細かい。外面上に丸文。	F-7 SD4b 2層
	片瀬底 無輪陶器	瓶	口縁部	口径	器高	底径	口肩部輪削ぎ。外面に緑色釉で文様。	G-8 SD4b 2層
	片瀬底 無輪陶器	皿	口～底部	口径	器高	底径	全面に白化前と透明釉を施釉後、内底を蛇の目、養付を輪削ぎ。素地は淡黄色で細かい。内底に京花文。	G-8 SD4b 2層

第10表 区画4出土遺物観察一覧(I地区)

単位:cm

種目番号 図版番号	種類	器種	部位	法量	観察事項	出土地
第71回 図版32	片調度 施釉陶器	大皿	底部	口径 — —	器高 6.5 底径 8.2	外面鉄輪、内面白化粧後、透明釉を施釉。内底を蛇の目、蓋付を施剥ぎ。素地は淡黄色で細かく。
	片調度 施釉陶器	急須	底部	口径 — —	器高 底径 8.2	全面に白化粧後、外面に端硝接、内面に透明白釉を施釉。素地は淡黄色で細かく、脚部は1点で端硝欠け。
	陶質土器	鍋	口縁部	口径 16.0 厚さ	器高 底径 厚さ	羽釜。跨焰部～胴下部に煤。素地は橙色で硬質。
	青銅製品	鋸	—	5.6 —	— —	鋸。表面に鋸刃で松竹梅文。重量21.1g。
	石器	石斧	—	口径 — —	器高 底径 —	刃部分。研磨調整。重量28.9g。
	カムイヤキ	壺	腹部	口径 — —	器高 底径 —	胴部片。前面に叩き目植。土色は赤褐色で白色斑を含む。
	片調度 無釉陶器	器種不明	底部	口径 — —	器高 底径 8.8	底盤片。器色は黒褐色。素地は橙色で細かく。
	白磁	小杯	口～底部	口径 4.6 —	器高 底径 2.5 —	灰白色釉を施釉。素地は白色で緻密。
	染付	碗	口縁部	口径 16.0 —	器高 底径 —	素地は白色で緻密。外面に丸文、焼化粧窓。
	色絵	皿	口縁部	口径 — —	器高 底径 —	素地は灰白色で織密。内面に文様。
第72回 図版32	本土産磁器 施釉陶器	染付小碗	口～底部	口径 9.2 —	器高 底径 3.6 —	全面施釉後に養付を施剥ぎ。素地は灰白色で緻密。外面上に花唐草文、旋窓。
	片調度 施釉陶器	碗	底部	口径 — —	器高 底径 6.7	灰釉を内外脚下部まで施釉。素地は灰白色で細かく。飛昇に砂目。
	片調度 施釉陶器	碗	口～底部	口径 13.4 —	器高 底径 6.0 —	全面に白化粧と透明白釉を施釉後、内底を蛇の目、養付を施剥ぎ。素地は淡黄色で細かく、外面に丸文。
	片調度 施釉陶器	壺	底部	口径 — —	器高 底径 10.4	曲面。黒釉で施釉後養付を施剥ぎ。内底露胎。素地は灰白色で細かく。
	片調度 施釉陶器	香炉	口縁部	口径 11.9 —	器高 底径 —	白化粧後に灰釉を内面口縁部～外面に施釉。素地は淡黃色で細かく。
	片調度 施釉陶器	火鉢	底部	口径 — —	器高 底径 7.6	白化粧後に外周脚部まで施釉。素地は淡黄色で細かく。
	片調度 施釉陶器	壺	—	口径 8.2 —	器高 底径 3.6 5.8	外面の甲蓋端面まで施釉。素地は淡黄色で細かく。上面に綾目文、蓋み器部に0.6cmの穴。
	片調度 施釉陶器	钵	口～底部	口径 19.7 —	器高 底径 10.2 —	内口縁、素地は赤褐色で緻密。外面上に波状文を有し上下端ナデ消し。外底系切口直頭窓。
	片調度 施釉陶器	钵	口～底部	口径 18.0 —	器高 底径 15.2 13.0	逆字状口縁。横口は開窓部、器色は灰黄褐色。素地は赤褐色で緻密。口沿上部に灰斑。
	片調度 施釉陶器	楕鉢	口～底部	口径 29.6 —	器高 底径 13.3 12.8	逆字状口縁。横口は開窓部、器色は灰黄褐色。素地は赤褐色で緻密。口沿上部に灰斑。
第72回 図版33	片調度 無釉陶器	壺	口～底部	口径 12.2 —	器高 底径 23.9 —	外面に泥垢。器色は灰褐色。素地は赤褐色で緻密。
	円盤状製品	—	—	長径 6.8 —	厚さ 1.3 —	素材は片調度無釉陶器脚部片。重量73.1g。
	青銅製品	簪	—	全長 8.9 —	— —	透状。茎断面6角。重量10.7g。
	片調度 施釉陶器	钵	底部	口径 — —	器高 底径 9.0	器身を外周脚部～内面まで施釉し、内底を蛇の目施剥ぎ。素地は灰黄色で細かく。内底に点在形に列する。
	円盤状製品	—	—	長径 5.7 —	厚さ 1.6 5.1	素材は瓦片。重量41.9g。
	煙管	—	吸口	羅子下吹き部	厚さ 0.7	鏡造で側面に接合部。重量5.5g。
	鉢	—	—	外径 2.4 —	厚さ 0.6 0.1	新寶玉。重量2.6g。
	片調度 施釉陶器	瓶	腹部	口径 — —	器高 底径 —	外周脚部まで施釉。素地は灰白色で緻密。
	染付	碗	底部	口径 — —	器高 底径 —	内外面脚部まで施釉。素地は灰白色で細かく。
	円盤状製品	—	—	長径 4.3 —	厚さ 1.4 4.5	素材は片調度無釉陶器脚部片。重量39.7g。

第10表 区画4出土遺物観察一覧(I地区)e

単位:cm

種類番号 図版番号	種類	器種	部位	法量	観察事項	出土地			
第72回 図版33	97	沖溝底 無輪陶器	縁鉢	口径 26.4	器高 —	透字口縁。縁は開闊部。器底は橙色で織密。 口唇上部に沈線。	F-7 SD31 1層		
	98	沖溝底 施釉陶器	碗	口径 13.0	器高 6.1	灰釉を内外斜下部まで施釉。素地は灰白色で織込み。 灰釉を内外斜下部まで施釉。素地は灰白色で織込み。	F-7 SD34 1層		
	99	陶質土器	かまど	口～底部	器高 —	素地は橙色で織質。内面は刷毛によるナデ、外面に一部 指壓痕。一部煤が残る。	F-7 SK11 2層		
	100	染付	碗	底部	器高 —	施釉後に墨付を施さず。素地は灰白色で織密。外面に文 様。	F-7 SK12 4層		
第72回 図版34	101	白磁	小杯	口～底部	口径 4.7	全輪施釉後に口唇部に墨付を施さず。縁部に舟形状の文 様。内底に墨付に凹目。	F-6 SK14 2層		
	102	沖溝底 無輪陶器	皿	口～底部	口径 11.4	器底・素地ともに赤褐色で織密。口縁部に傷。	F-7 SD31 2層		
第73回 図版34	103	沖溝底 施釉陶器	碗	口～底部	口径 15.6	全面に白化剤と透明釉を施釉後、内底を蛇の目。墨付を 施さず。素地は灰白色で織込み。外面に丸文。	F-6 SK61 1層		
	104	沖溝底 施釉陶器	急須	口縁部	口径 11.8	黒釉を施釉後、口唇部を削ぎ。口縁部内面は施釉。素地 は灰白色で織密。	F-6 SK61 1層		
	105	沖溝底 無輪陶器	钵	口～底部	口径 24.4	内面に絞。素地は赤褐色で織密。外面に舟形状・次輪。	F-6 SK61 1層		
	106	沖溝底 無輪陶器	壺	口～底部	口径 9.9	外底に一部剥離。器色は黄褐色。素地は暗赤褐色で織 密。	F-6 SK61 1層		
	107	沖溝底 無輪陶器	壺	口縁部	口径 18.0	五綫状口縁。器色・素地ともに暗赤褐色で織密。底部耳 に「三」字窓印。	F-6 SK61 1層		
	108	沖溝底 無輪陶器	瓶	底部	口径 —	外底に一部剥離。器色は黄褐色。素地は暗赤褐色で織 密。解部に沈線。	F-6 SK61 1層		
	109	沖溝底 無輪陶器	甕	口縁部	口径 45.2	透字口縁。器色は暗褐色。素地は赤褐色で織密。13 号縁面に沈線。側部・上部に沈窓・波状文を施文後、丸文貼り 付け。その下位に窓・突窓。内面に铁製品付着。	F-6 SK61 1層		
	110	沖溝底 無輪陶器	钵	口～底部	口径 35.6	口縁部 17.1	口縁部 13.0	字状口縁。器色・素地ともに暗赤褐色で織密。内外面 輪明瞭。13号縁上部に沈窓。	G-6 SK88 1層
	111	カムイヤキ	壺	口縁部	口径 —	剥離は赤褐色で白色粒を含む。	F-7 SP112 1層		
	112	カムイヤキ	壺	胴部	口径 —	内外面に叩き目。剥離は暗灰色で白色粒を含む。	F-7 SP119 1層		
	113	染付	碗	口縁部	口径 —	端口縁。素地は暗黄色で織密。外面に文様。福運・廣 運。	F-7 SP129 1層		
	114	沖溝底 施釉陶器	碗	口～底部	口径 14.0	灰釉を内底及び外側下部まで施釉。素地は灰白色で織 込み。	F-7 SP133 1層		
	115	カムイヤキ	壺	胴部	口径 —	内面に叩き目・回転ナゲ痕。剥離は暗赤褐色で白色粒 を含む。	F-7 SP223 2層		
	116	沖溝底 施釉陶器	碗	口～底部	口径 13.2	灰釉を内外斜下部まで施釉。素地は灰白色で織込み。内 底に重ね焼き。	F-7 SP223 2層		
	117	カムイヤキ	壺	胴部	口径 —	内外面に叩き目。剥離は暗灰色で白色粒を含む。	F-7 SP261 1層		
	118	沖溝底 施釉陶器	碗	口～底部	口径 13.8	全輪に白化剤と透明釉を施釉後、内底を蛇の目。墨付を 施さず。剥離は灰白色で織込み。	F-7 SK6 2層		
	119	沖溝底 施釉陶器	小碗	口～底部	口径 8.0	全面に白化剤と透明釉を施釉後、内底を蛇の目。墨付を 施さず。剥離は灰白色で織込み。外面に丸文。	F-7 SK6 2層		
	120	沖溝底 施釉陶器	香炉	口～底部	口径 12.0	白化剤後に内面口縁部・外側腰溝まで施釉。素地は淡黃 色で織込み。	F-7 SK6 2層		
	121	沖溝底 無輪陶器	碗	底部	口径 —	器底・素地ともに暗赤褐色で織密。	F-7 SK6 2層		
	122	円盤状製品	—	—	長径 4.8	素材は沖溝底無輪陶器椎輪柄部分。重量28.2g。	E-7 SK6 2層		
国版34	123	本土產 近現代磁器	碗	口～底部	口径 14.1	口径 5.2	底 5.1	全輪施釉後に墨付を施削ぎ。素地は灰白色で織密。型模 印で鶴丸文。内底に目跡。	F-7 SD4 1層
国版35	124	本土產 近現代磁器	碗	口縁部	口径 13.4	素地は灰白色で織密。型紙模印で文字・花文。	G-8 SD4 1層		
	125	本土產 近現代磁器	碗	口～底部	口径 11.3	全面施釉後に墨付を施削ぎ。素地は灰白色で織密。側板 に花文。	F-6 SD4 2層		
	126	本土產 近現代磁器	染付 小碗	底部	口径 —	素地は白色で織密。外面に草文。	G-6 SD4 2層		
	127	本土產 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 7.5	全面施釉後に墨付を施削ぎ。素地は灰白色で織密。外面 に草文。	F-6 SD4 2層		

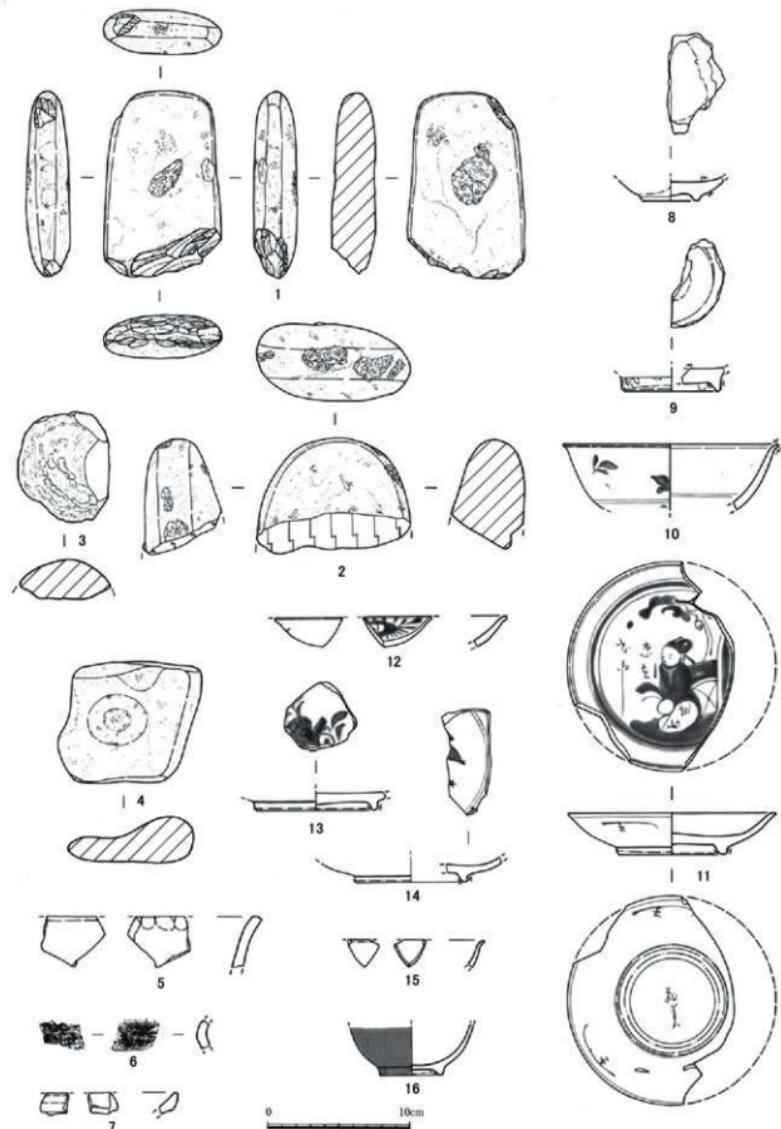
第10表 区画4出土遺物観察一覧(I地区)

種類 器種	種類 器種	部位	法量	観察事項	出土地
128 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 器高 底径 8.1 4.6 3.0	全面施釉後に疊付けを施剥ぎ。素地は白色で緻密。外面に胴転写による文様。	G-6 SD4 1層
129 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 器高 底径 6.8 3.9 3.1	クロム青磁。外面に幾泡。高台内折り。素地は灰白色で緻密。	F-6 SD4 2層
130 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 器高 底径 8.4 4.6 3.0	全面施釉後に疊付けを施剥ぎ。素地は白色で緻密。外面に二重縁線。外底に「岐464」路。	F-7 SD4 1層
131 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 器高 底径 7.2 8.1 4.8	全面施釉後に疊付けを施剥ぎ。素地は白色で緻密。外面に花弁形。外底に文字。	F-7 SD4 1層
132 近現代磁器	小杯	口～底部	口径 器高 底径 5.6 2.9 2.5	高台は花弁形。素地は白色で緻密。	G-8 SD4 1層
133 近現代磁器	小杯	口～底部	口径 器高 底径 4.8 2.8 1.8	素地は白色で緻密。外面に小枝文。	F-8 SD4 1層
134 近現代磁器	小杯	口～底部	口径 器高 底径 4.3 2.5 1.9	疊付けに輪紋痕。成型形。素地は灰白色で緻密。	G-8 SD4 1層
135 近現代磁器	小杯	口～底部	口径 器高 底径 6.6 2.5 2.6	全面施釉後に疊付けを施剥ぎ。素地は灰白色で緻密。	F-6 SD4 2層
136 近現代磁器	小杯	口～底部	口径 器高 底径 8.3 3.4 3.4	疊付けを施剥ぎ。素地は白色で緻密。軍帽で内底に日章旗か。	G-6 SD4 1層
137 近現代磁器	皿	口～底部	口径 器高 底径 13.0 2.7 6.6	疊付けを施剥ぎ。素地は白色で緻密。内底に胴転写による文様。	F-7 SD4 2層
138 近現代磁器	蓋	—	口径 器高 底径 8.7 2.9 —	外面特に八脚は施剥ぎ。素地は白色で緻密。	F-6 SD4 1層
139 近代陶器	蓋	—	口径 器高 底径 7.3 3.2 5.2	外面の瓦端頭部、内面特褐色釉を施釉。器皿部に0.5cmの孔。素地は黄白色で粗か。	G-7 SD4 2層
140 鉄製品	ヘラ?	—	長Sa 長Sh —	刀部焼付。重量130.2g。	F-7 SD4 2層
141 鉄製品	ヘラ	—	長Sb 長Sh —	刀部若干曲がる。重量233g。	G-7 SD4 2層
142 鉄製品	ヘラ	—	長Sa 長Sb —	刀部L字状に曲がる。重量266.5g。	G-8 SD4 2層
143 鉄製品	鍔鉄	—	長S —	上面接跡部に留め部。重量157.8g。	G-8 SD4 2層
144 鉄製品	鍔	—	長Sa 長Sb —	大型の鍔。重量127.4g。	F-7 SD4 2層
145 ガラス製品	瓶	口～底部	口径 器高 底径 2.3 17.1 4.6	胴部に「MUSCULOSINE BYLA CENTILLY-PARIS」、底面に「CDF」文字。色調は茶。栓はキャップか。	G-8 SD4 2層
146 ガラス製品	瓶	口～底部	口径 器高 底径 2.0 6.4 ≈5.1, b=2.7	底部に「AJINOMOTO 2」文字。色調は透明。ネジ栓。	G-7 SD4 2層
147 ガラス製品	瓶	口～底部	口径 器高 底径 1.4 5.5 ≈2.5, b=1.4	胴部に「活脱水」文字。色調は透明。栓はキャップか。	G-8 SD4 2層
148 石製品	臼臼	—	長S 厚S 高S 10.8 10.8 —	下臼。挽き目不明確。芯棒孔3.3cm。重量13.0kg。	G-7 SD4 1層
149 石製品	香炉	口～底部	長S 厚S 高S 32.2 9.6 17.2	上面側み部は研磨による滑面となる。重量15.0kg。石灰岩。	F-7 SD4 1層
150 近現代磁器	小杯	口～底部	口径 器高 底径 5.7 2.7 2.3	素地は白色で緻密。内底に使用による擦痕。高台は花弁形。	F-8 SD4a 2層
151 近現代磁器	小柄	口～底部	口径 器高 底径 8.2 4.7 3.1	素地は白色で緻密。外面に嗣代文状。	G-8 SD4b 2層
152 近現代磁器	柄	底部	— — 4.4	素地は白色で緻密。胴下部に菊花文+松葉文か。	G-6-7 SD4b 3層
153 近現代磁器	小柄	口～底部	口径 器高 底径 8.2 4.7 3.4	素地は白色で緻密。外面に草花文。外底に文字。	F-7 SD4b 2層
154 近現代磁器	小柄	口～底部	口径 器高 底径 8.2 3.4 3.2	疊付け剥ぎ。素地は白色で緻密。内底に色絵で文様。	F-7 SD4b 2層
155 近現代磁器	皿	口～底部	口径 器高 底径 13.3 2.7 7.3	素地は白色で緻密。内底に草花文。	G-7 SD4b 2層
156 近現代磁器	皿	口～底部	口径 器高 底径 11.0 2.4 6.4	波状口縁。素地は白色で緻密。内底に陽刻で草花文。	G-8 SD4b 2層
157 近現代磁器	急須	底部	口径 器高 底径 — — 7.4	外底は磨痕。素地は白色で緻密。外面に花唐草文。	G-8 SD4b 2層
158 近現代磁器	段重	底部	口径 器高 底径 — — 10.5	外面のみ施釉。素地は灰白色で緻密。外面に型紙押りで丸文。外底に「マーカ?」墨書き。	F-7 SD4b 2層

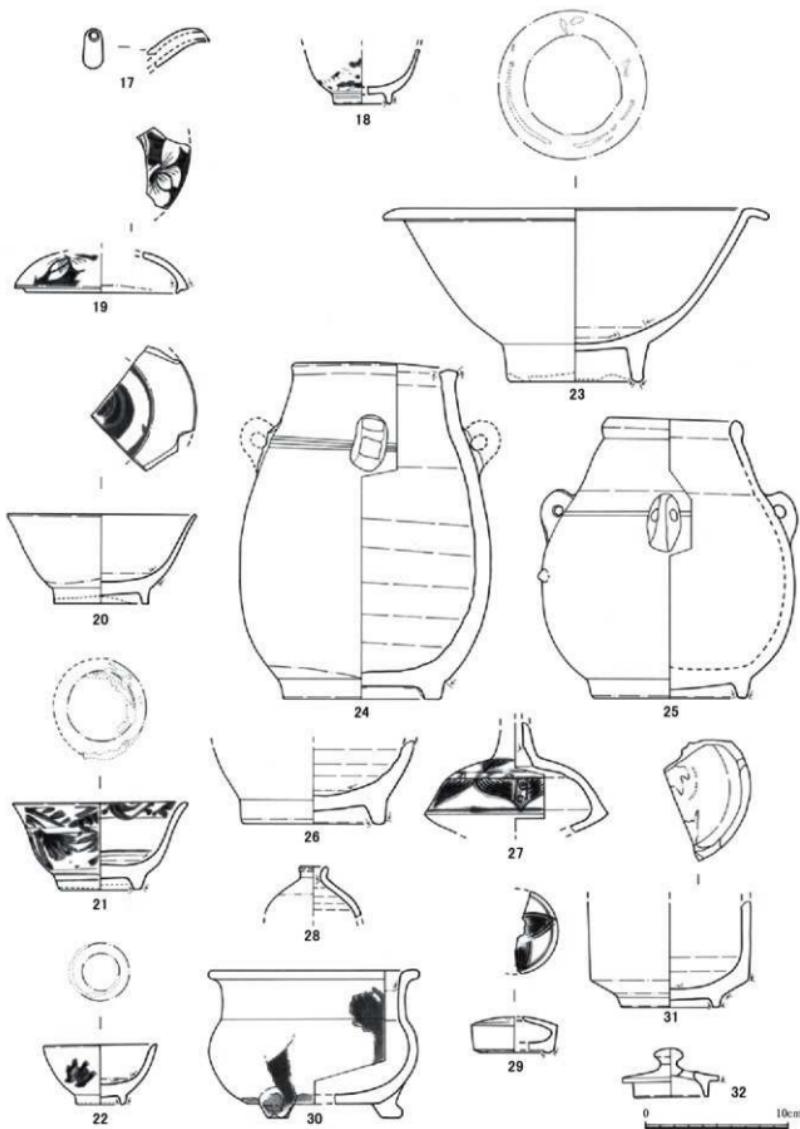
第10表 区画4出土遺物観察一覧(I地区)g

単位:cm

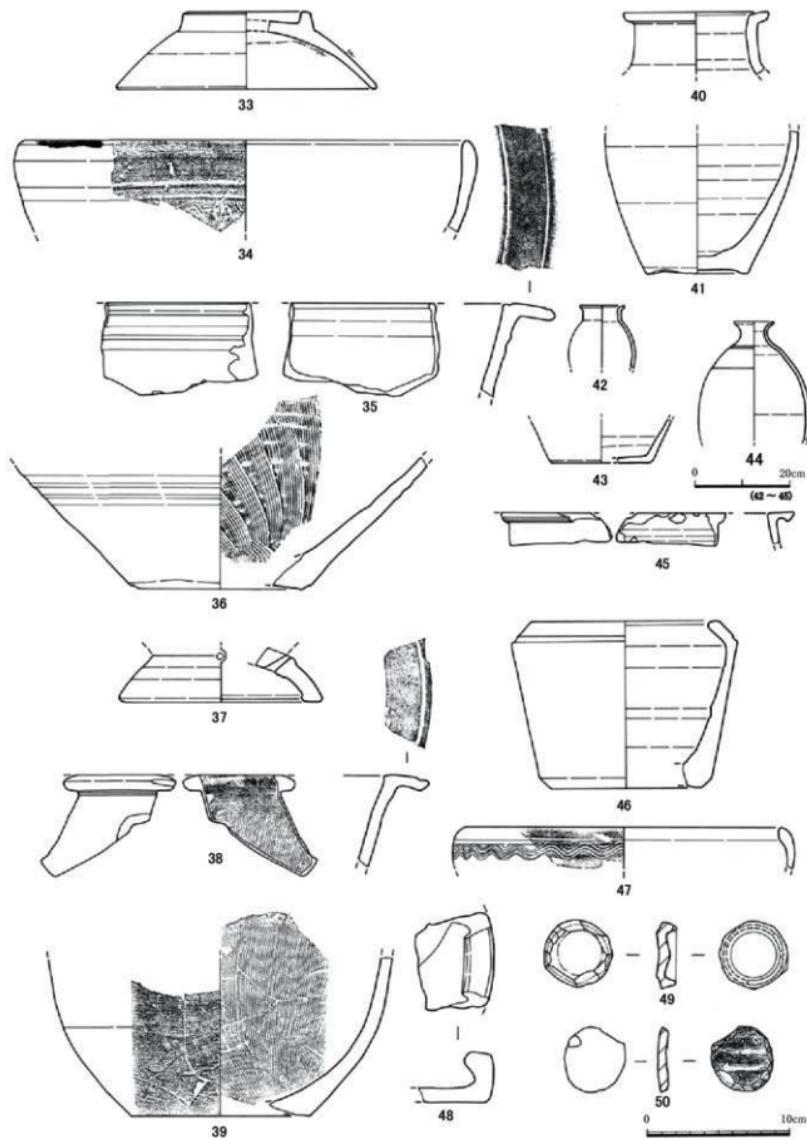
辨別番号 図版番号	種類	器種	部位	法量	観察事項	出土地	
159	本土産 近現代磁器	筆架	口～底部	口径 3.0 底径 1cm	灰白色釉を施釉し底部は露胎。素地は白色で緻密。筆孔径 4mm。	G-8 SD4b 2層	
160	ガラス製品	瓶	口～底部	口径 4.0 底径 4.2	底面10角形。色調は白色。栓はネジ型。	F-7 SD4b 2層	
161	ガラス製品	瓶	口～底部	口径 1.6 底径 2.0	底面に「丘」内「H」文字。色調は透明。栓はキャップなし。	G-7 SD4b 2層	
162	石製品	砥石	—	口径 — 底径 —	板状の砥石。重量1006g。ニーピ。置鍼。	G-7 SD4b 2層	
図版36	163	本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 7.7 底径 3.8	骨付に輪剥ぎ。素地は白色で緻密。外面に丸文・梅花文。 外底に文字。	F-8 SD4c 2層
	164	本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 8.4 底径 4.3	骨付に輪剥ぎ。素地は白色で緻密。外面に色絵で丸文。	F-7 SD4c 2層
	165	本土産 近現代磁器	皿	口～底部	口径 13.2 底径 8.2	外底は中央のみ施釉。素地は白色で緻密。内面に型紙摺り で日本旗、肥前。	G-7 SD4c 2層
	166	ガラス製品	瓶	口～底部	口径 1.6 底径 6.2 a=3.7, b=1.6	外表面「ロート日薬」、裏「本舗 山田安民」文字。色調は パール白色。栓はキャップなし。	G-7 SD4c 2層
	167	石製品	石臼	—	長さ 29.7 厚さ 6.6 高さ 6.5	下臼。芯棒孔内に芯棒。芯棒孔2.8cm。重量29.7kg。	F-7 SD4c 2層
	168	本土産 近現代磁器	碗	口～底部	口径 13.5 底径 5.9 高さ 4.8	骨付露胎。素地は灰白色で緻密。型紙摺り花文。	E-7 SD23 1層
	169	本土産 近現代磁器	碗	口～底部	口径 10.9 底径 5.6 高さ 4.2	骨付露胎。素地は灰白色で緻密。型紙摺。	E-6 SD23 1層
	170	本土産 近現代磁器	碗	口～底部	口径 16.7 底径 6.2 高さ 4.4	骨付露胎。素地は灰白色で緻密。型紙摺。	F-6 SD31 1層
図版37	171	本土産 近現代磁器	碗	口～底部	口径 11.7 底径 6.2 高さ 4.8	骨付露胎。素地は灰白色で緻密。銅版転写。	E-6 SD23 1層
	172	本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 8.9 底径 4.1 高さ 3.1	骨付露胎。素地は灰白色で緻密。銅版転写。	F-6 SD31 1層
	173	本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 7.8 底径 4.8 高さ 3.6	骨付露胎。素地は灰白色で緻密。銅版転写。	F-6 SD23 2層
	174	近現代磁器	小碗	口～底部	口径 6.8 底径 4.3 高さ 3.0	骨付露胎。素地は灰白色で緻密。銅版転写で枝文。	E-6 SD23 2層
	175	本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 7.8 底径 4.2 高さ 4.1	骨付～外底露胎。素地は灰白色で緻密。銅版転写。	E-6 SD23 1層
	176	本土産 近現代磁器	皿	口～底部	口径 13.2 底径 3.5 高さ 8.3	波線皿。骨付～外底露胎。素地は灰白色で緻密。	E-6 SD23 1層
	177	本土産 近現代磁器	蓋	—	口径 6.4 底径 3.1 高さ 5.0	外側の丸蓋端部～内面施釉。素地は灰白色で緻密。蓋内 部高さ0.3cmから。	E-6 SD23 1層
	178	本土産 近現代磁器	小杯	底部	口径 — 底径 — 高さ 3.2	外面部施釉。骨付露胎。素地は灰白色で緻密。	F-6 SD23 2層
179	軍票	—	—	紙 3.15 横 3.8 厚さ 0.05	[PERTER GORSKI 313-49-31 USNR-A T-2-44- C]文字。ジュラルシ製。	E-7 SD23 1層	
180	本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 8.4 底径 3.2	骨付露胎。素地は灰白色で緻密。銅版転写。	E-7 SD25 1層	
181	ガラス製品	蓋	—	口径 3.1 底径 —	墨み欠損。色調は透明。	E-7 SD25 1層	
182	本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 9.0 底径 — 高さ —	内外面施釉。素地は灰白色で緻密。外面に巴文。	F-7 SD31 1層	
183	本土産 近現代磁器	碗	口～底部	口径 13.6 底径 5.8 高さ 4.8	骨付露胎。素地は灰白色で緻密。型紙摺。内底に目録。	F-6 SK61 1層	
184	本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 7.8 底径 3.7 高さ 4.9	骨付露胎。素地は灰白色で緻密。銅版転写。	F-6 SK61 1層	
185	本土産 近現代磁器	皿	口～底部	口径 13.3 底径 8.2 高さ 1.9	骨付露胎。素地は白色で緻密。色絵で内面草花文か。外底 中央に「東洋陶器會社 葦原登録出願中」款。	E-7 SX6 2層	
186	ガラス製品	瓶	口～底部	口径 4.8 底径 4.4 高さ 5.1	底面に「M」文字。色調は淡い緑。栓はネジ型。	E-7 SX6 2層	
187	ガラス製品	瓶	口～底部	口径 2.4 底径 5.2 高さ 4.4	外側に丸文。色調は白色。栓はネジ型。	E-7 SX6 2層	
188	鉄製品	鉄鍋	口縁部	口径 60.0 底径 — 高さ —	大型鍋。口縁部若干の字状に眉曲。底部は底が破けた。 鍋による剝離痕有。	G-8 SD4 2層	



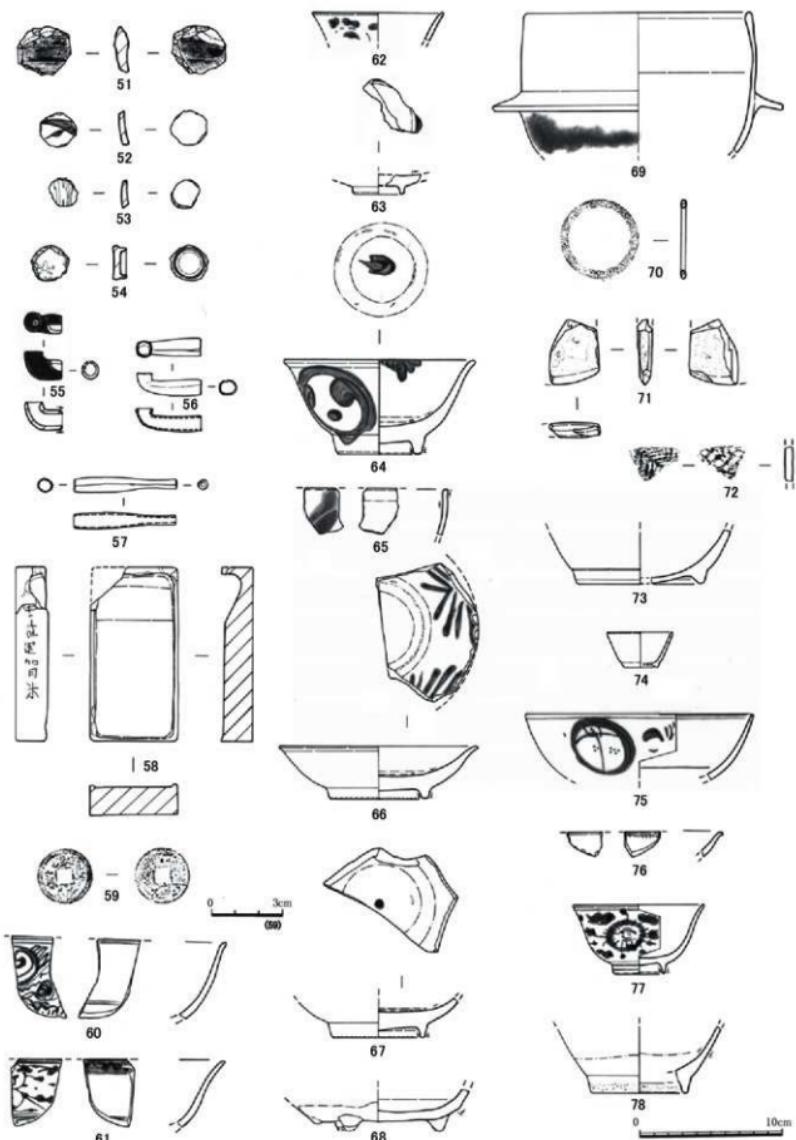
第68図 区画4 出土遺物1(I 地区)



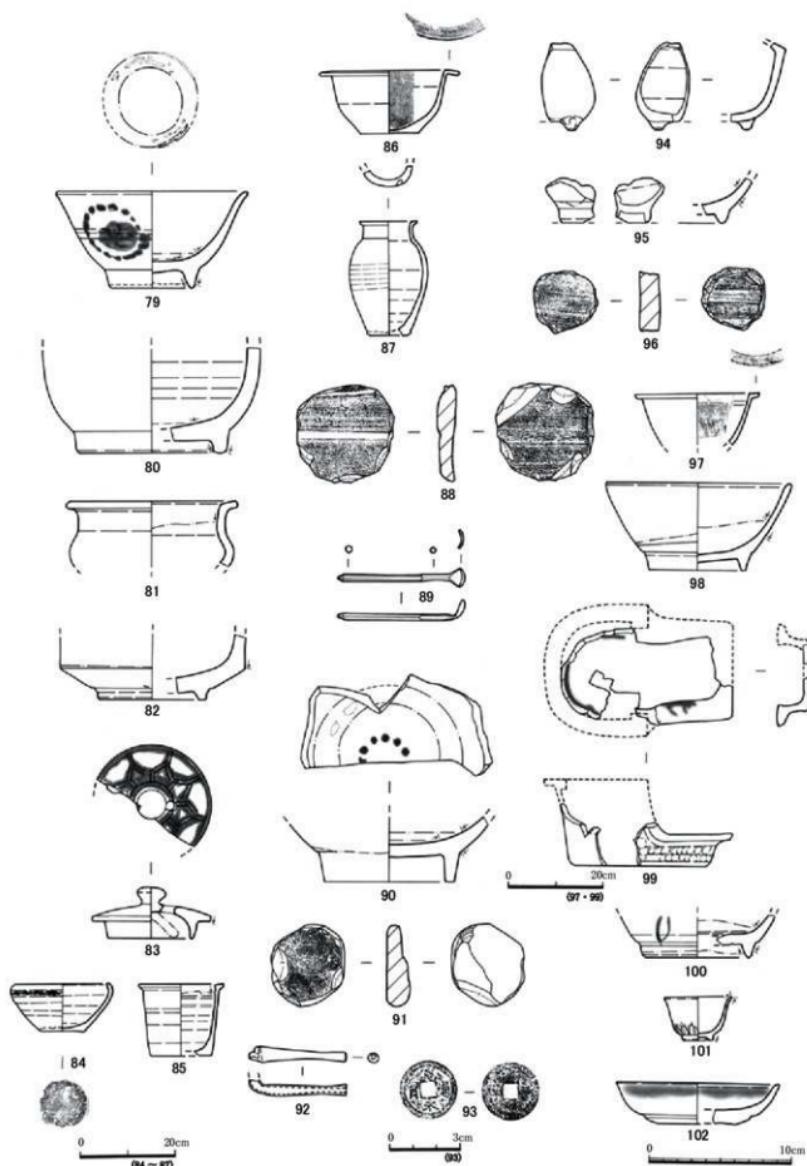
第69図 区画4 出土遺物2(Ⅰ地区)



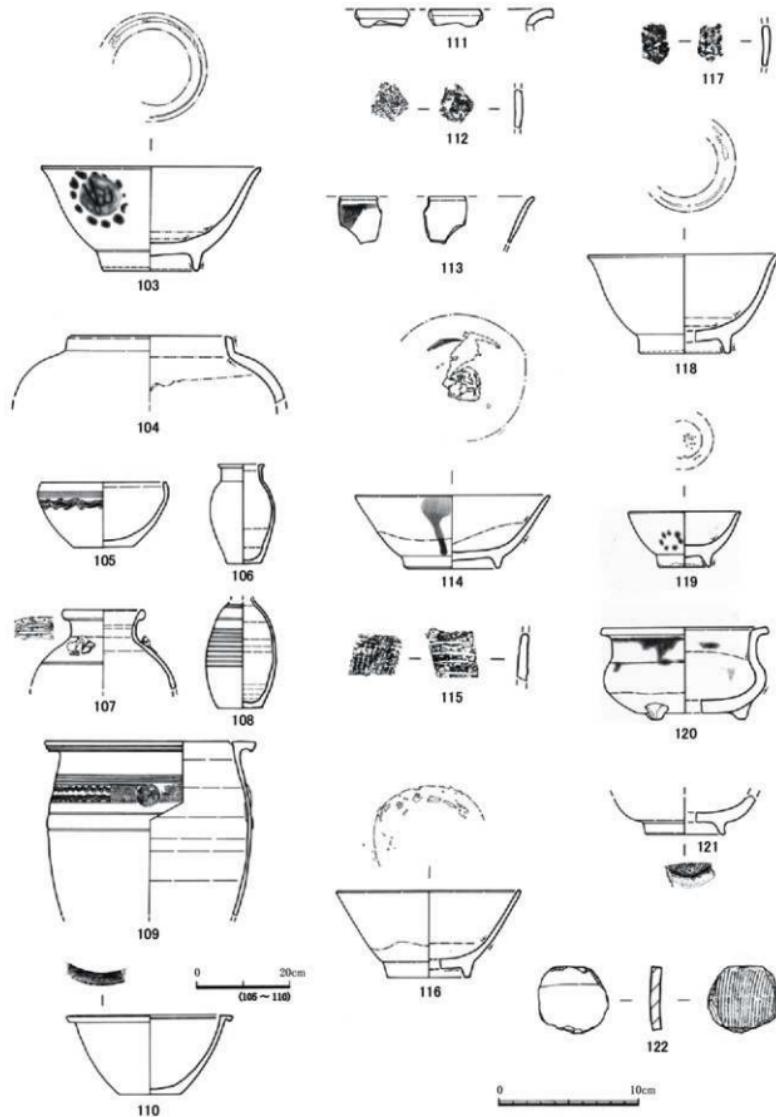
第70図 区画4 出土遺物3(Ⅰ地区)



第71図 区画4 出土遺物4(I 地区)



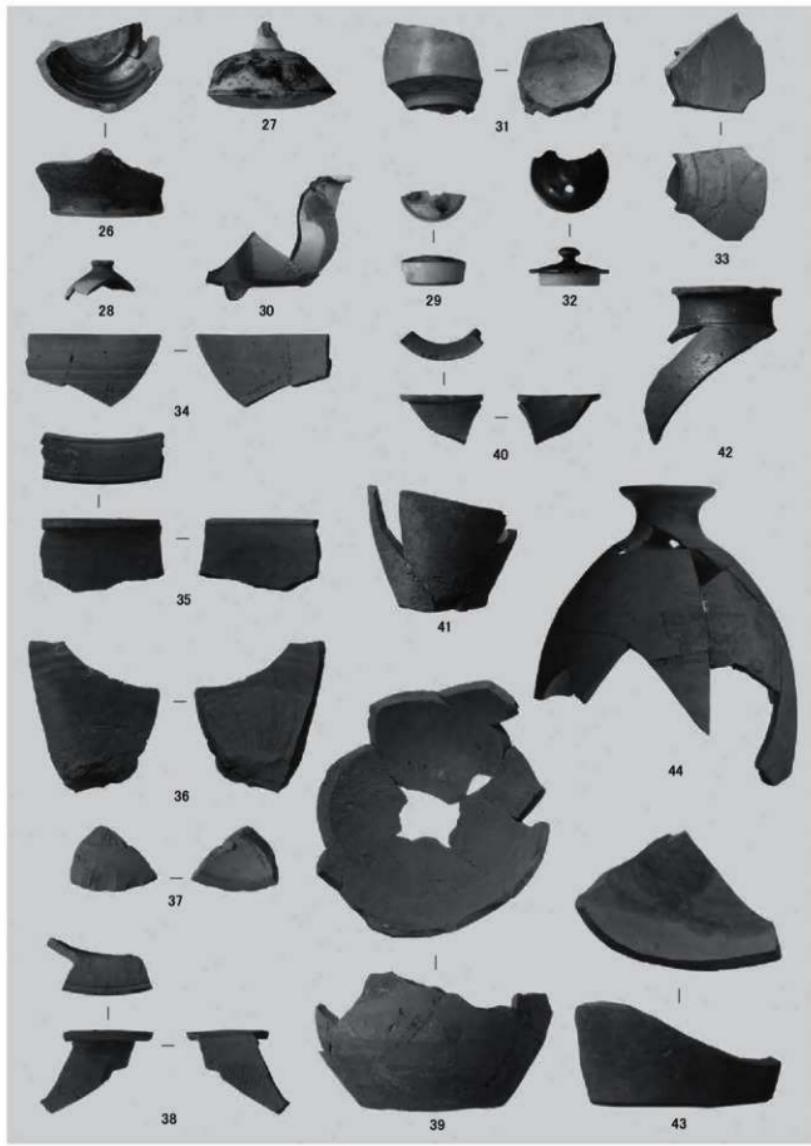
第72図 区画4 出土遺物5(Ⅰ地区)



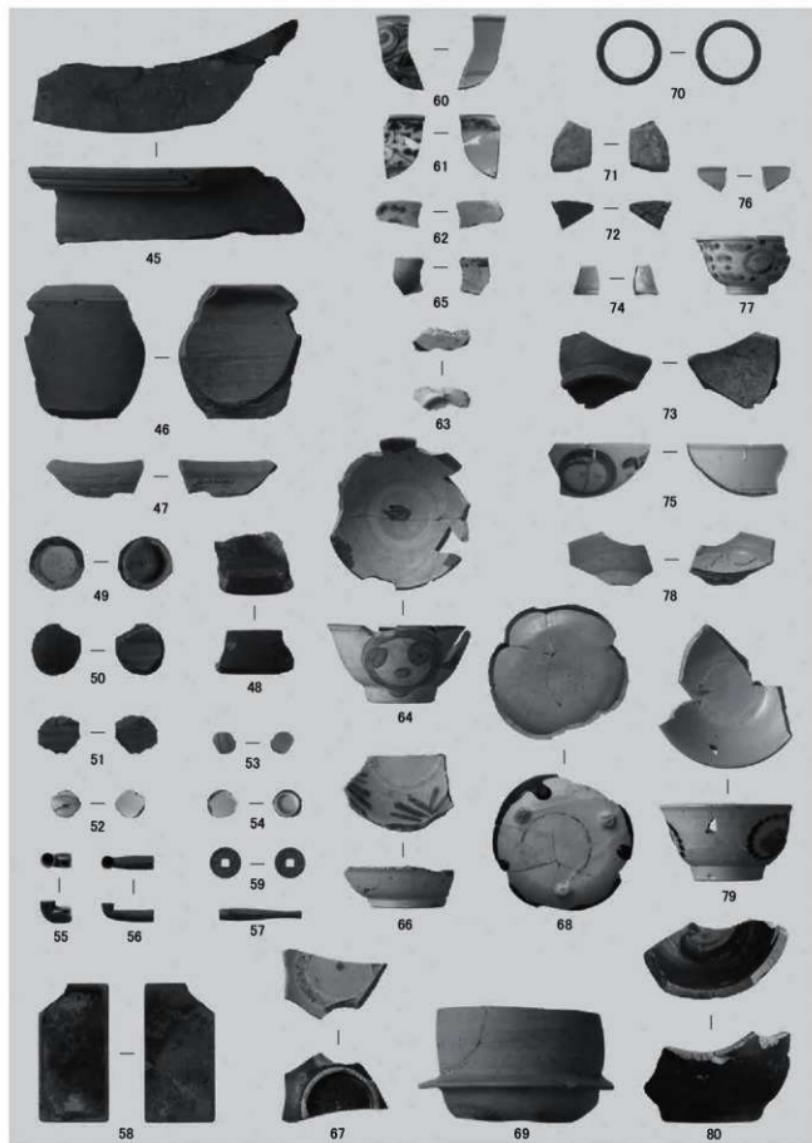
第73図 区画4 出土遺物6(I 地区)



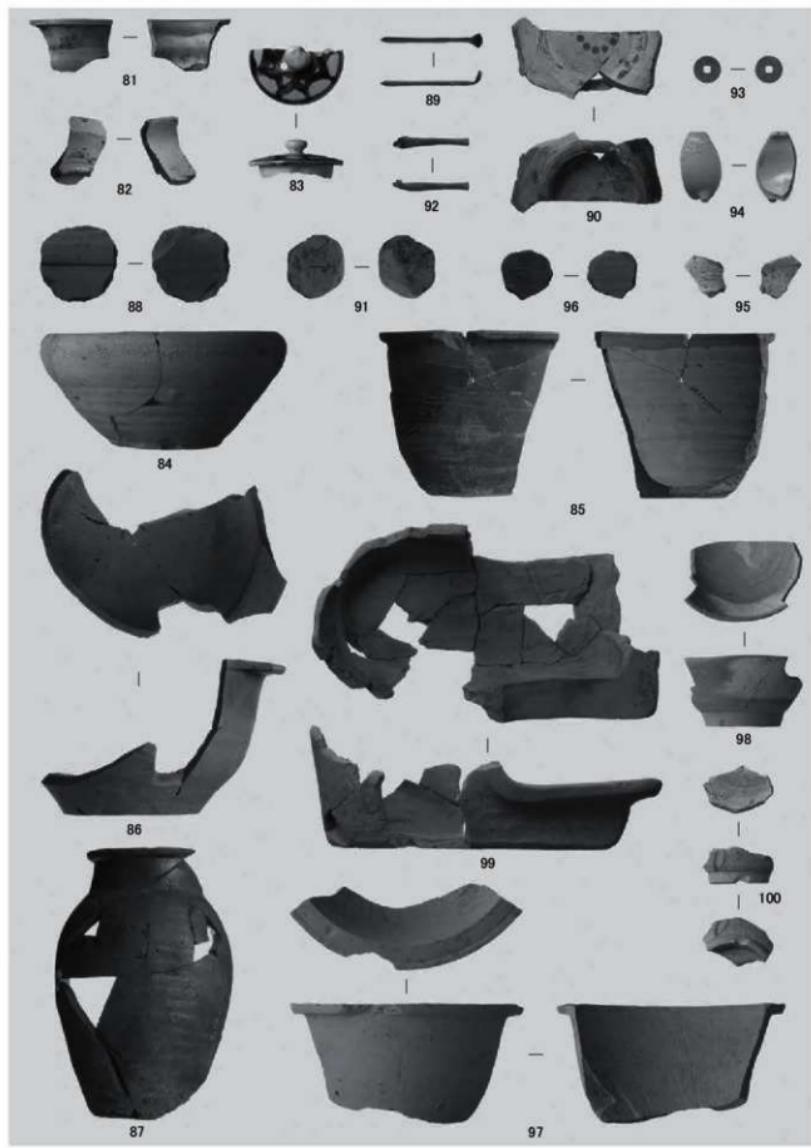
图版 30 区画4 出土遗物1 (I 地区)



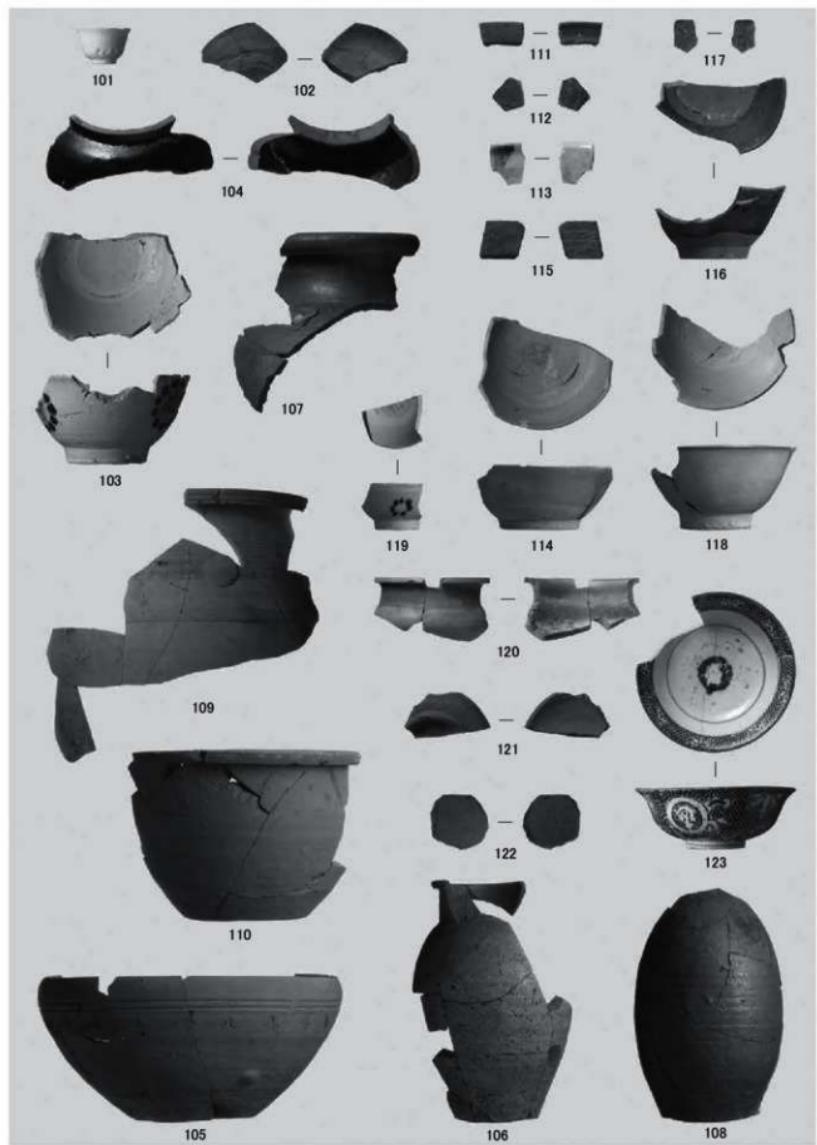
图版 31 区画4 出土遗物2 (I 地区)



图版 32 区画4 出土遗物3 (I 地区)



图版 33 区画4 出土遗物4 (I 地区)



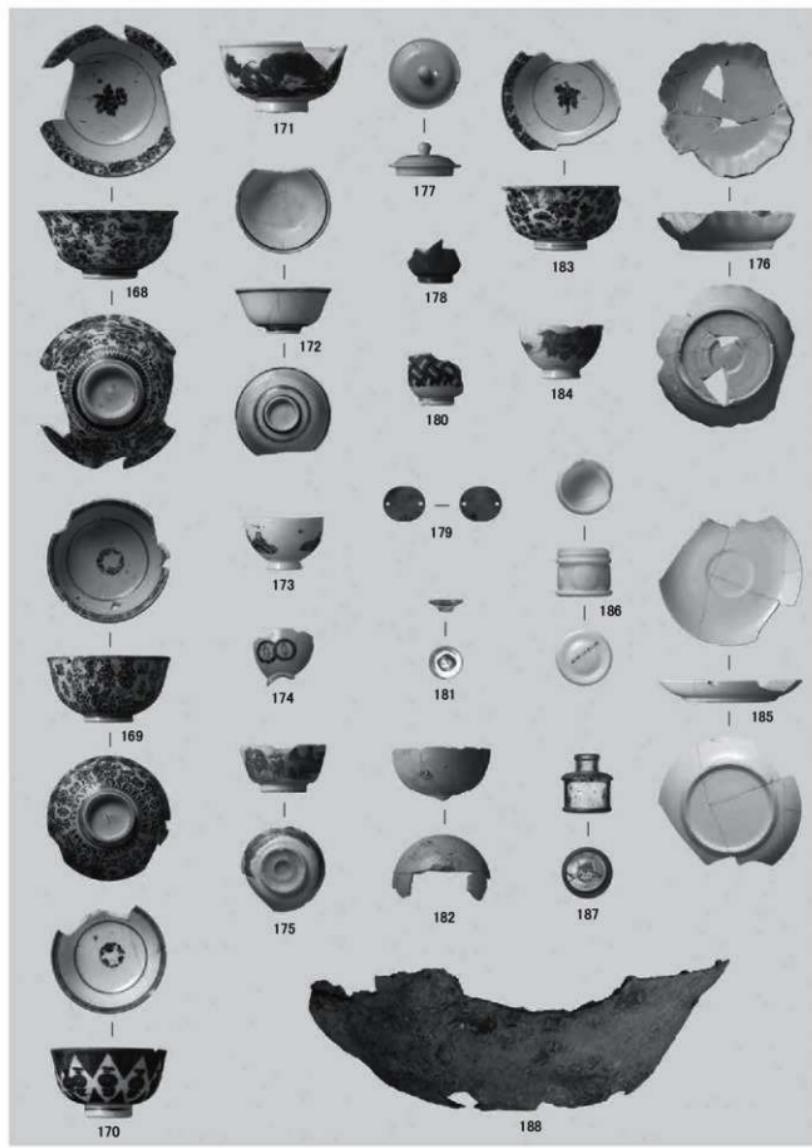
图版 34 区画4 出土遗物5 (I 地区)



图版 35 区画4 出土遗物6 (I 地区)



图版 36 区画4 出土遗物7 (I 地区)



图版 37 区画4 出土遗物8 (I 地区)

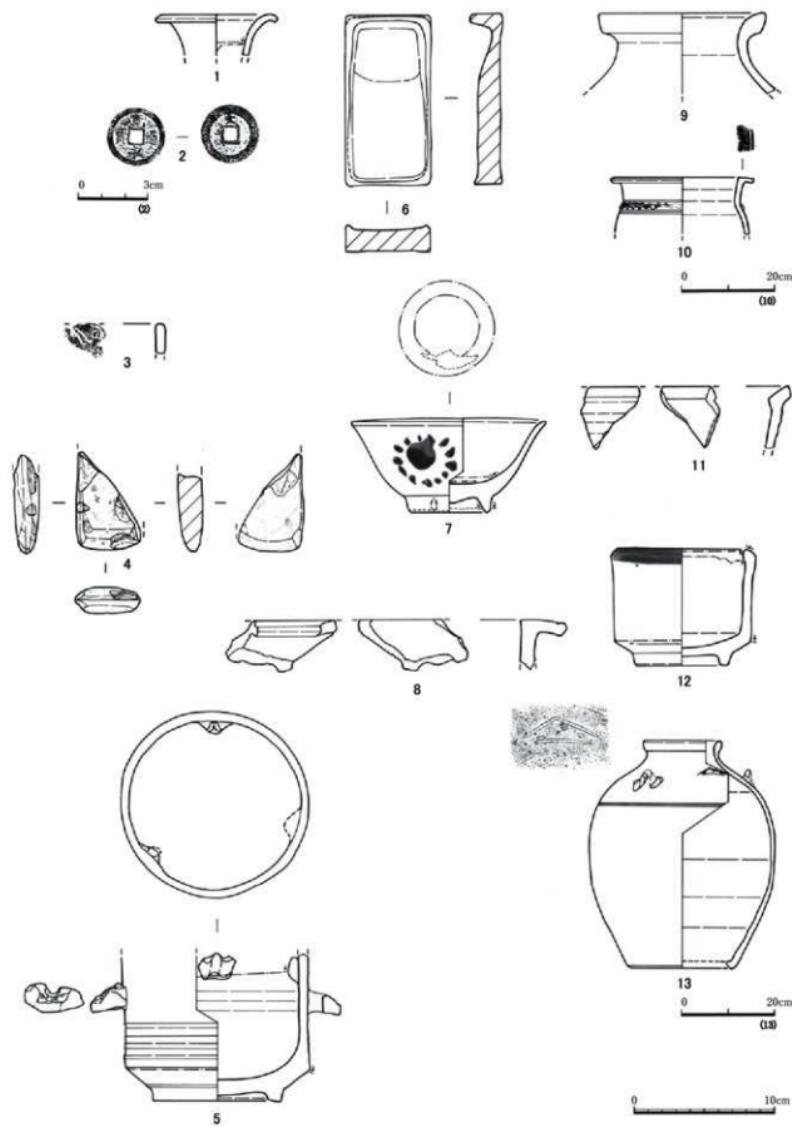
図5

瓦、沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器を主とし、白磁、染付、本土産陶磁器、土器、陶質土器、石製品、円盤状製品、キセル、金属製品等、合計355点が出土した。第11表に特徴的な遺物の観察事項、第53表に遺物毎の出土状況を示す。

第11表 区画5出土遺物観察一覧(I地区)

単位:cm

辨別番号 図版番号	種類	器種	部位	法量	觀察事項	出土地
第74図 図版38	1 沖縄産 施釉陶器	瓶	口縁部	口径 腹高 底径 8.6 — —	内外面に施釉。素地はにぶい桜色で細かい。	F-9 SD10 1層
				外径 孔径 厚さ 2.5 0.6 0.1	背面に「文」の文字。江戸時代。重量3.2g。	G-9 SD10 1層
	3 土器	鉢	口縁部	口径 腹高 底径 — — —	石斧などの細粒が混入。内外面ともにアバタ状を呈する。	F-9 SD12 3層
				口径 腹高 底径 — — —	裏面に磨面。緑色千枚目。重量73.7g。	F-8 SD12 3層
	4 石器	磨製 石斧	—	口径 腹高 底径 — — —	裏面に磨面。緑色千枚目。重量73.7g。	F-8 SD12 3層
				口径 腹高 底径 — — —	裏面に磨面。緑色千枚目。重量73.7g。	F-8 SD12 3層
	5 沖縄産 施釉陶器	火炉	底部	口径 腹高 底径 — — 9.1	裏面に磨面。底部まで施釉。口縁内側に突起を貼付。脚部には横柱に耳貼付。口縁部を意識的に削つたような細かい削りの痕跡が残る。素地は淡黄褐色。	F-8 SD12略B 4層
				口径 腹高 底径 — — —	裏面は鍍から約1cm幅を残して一段下がる。全体的に風化が著しい。砂岩製。	F-8 SD12 3層
	6 石製品	礪	—	口径 腹高 底径 — — —	裏面に磨面。緑色千枚目。重量73.7g。	F-8 SD12 3層
				口径 腹高 底径 13.9 6.5 5.8	内外面に白化粧+透明釉を挿掛け。内面は蛇の目状に輪剥ぎ。蓋付にアラミドを塗布。素地はにぶい桜色。外面に呂宋と焼物で花文3つ。	E-8 SD33 1層
	7 沖縄産 施釉陶器	碗	口～底部	口径 腹高 底径 — — —	裏面に磨面。底部まで施釉。口縁内側に1条の沈線。	E-8 SD33 1層
				口径 腹高 底径 — — —	裏面に磨面。底部に1条の沈線。	E-8 SD33 1層
	9 沖縄産 無釉陶器	瓶	口縁部	口径 腹高 底径 12.0 — —	裏面に磨面。底部に1条の沈線。	E-8 SD33 1層
				口径 腹高 底径 30.8 — —	裏面に磨面。底部に1条の沈線。外面部縁部下端に沈線の波状文と貼付した丸文。	E-8 SD33 1層
	10 沖縄産 無釉陶器	甕	口縁部	口径 腹高 底径 — — —	裏面に磨面。底部に1条の沈線。外面部縁部下端は棱をもつ。内外面ともに細かい凹凸がある。	E-8 SD33 1層
				口径 腹高 底径 — — —	裏面に磨面。底部に1条の沈線。外面部縁部下端は棱をもつ。内外面ともに細かい凹凸がある。	E-8 SD33 1層
	11 沖縄産 無釉陶器	火入	口縁部	口径 腹高 底径 10.4 8.3 6.7	外表面は灰褐色の土の上から透明白釉を腰部まで施釉。口縁部には1条の沈線。内部は灰白色。腰部に日輪が彫刻されている。	E-8 SK100 1層
				口径 腹高 底径 17.0 48.7 23.5	外表面は灰褐色の土の上から透明白釉を腰部まで施釉。口縁部には1条の沈線。内部は灰白色。腰部に日輪が彫刻されている。	E-8 SK100 1層+2層
図版38	14 青銅製品	指輪	—	穗 厚さ a=1.8 0.02 b=1.7 0.3~0.7	細部に模様に成形。板幅は2mmが4mm。中央部にかけて板幅57mmと大きくなる。	F-8 SD12 2層
				口径 腹高 底径 13.7 5.6 4.0	裏付けは露胎。素地は白色で緻密。内底に5つの筋目。型枠給付。	F-8 SD12略A 2層
	16 本土産 近現代鋸器	網	口～底部	口径 腹高 底径 11.4 5.5 4.0	裏付けは露胎。素地は白色で緻密。吹き絵。	F-8 SD12 3層
				口径 腹高 底径 — — —	色調は透明。	F-8 SD12 3層
	18 本土産 近現代鋸器	小網	口～底部	口径 腹高 底径 8.0 4.6 3.7	裏付けは露胎。素地は白色で緻密。内外面に文様。口縁部に焼物。	E-8 SD33 3層
				口径 腹高 底径 8.2 4.5 3.1	裏付けは露胎。素地は白色で緻密。外面に花文。鋼板転写。	E-8 SD33 1層
	20 本土産 近現代鋸器	小網	口～底部	口径 腹高 底径 7.4 4.2 2.8	裏付けは露胎。素地は白色で緻密。内外面に文様。外底に鉛めり。ゴム拘合付。	E-8 SD33 3層
				口径 腹高 底径 — — —	裏付けは露胎。素地は白色で緻密。内外面に文様。外底に鉛めり。ゴム拘合付。	E-8 SD33 1層
	21 ガラス製品	瓶	口～底部	口径 腹高 底径 1.8 9.8 a=4.2 b=3.0	裏付けは露胎。素地は白色で緻密。内外面に文様。外底に鉛めり。ゴム拘合付。	E-8 SD33 1層



第 74 図 区画5 出土遺物 (I 地区)



图版 38 区画5 出土遗物 (I 地区)

区画6

瓦、沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器を主とし、青磁、白磁、染付、色絵、褐釉陶器、本土産陶磁器、土器、陶質土器、石製品、円盤状製品、キセル、金属製品等、合計825点が出土した。第12表に特徴的な遺物の観察事項、第54表に遺物毎の出土状況を示す。

第12表 区画6出土遺物観察一覧(I地区)a

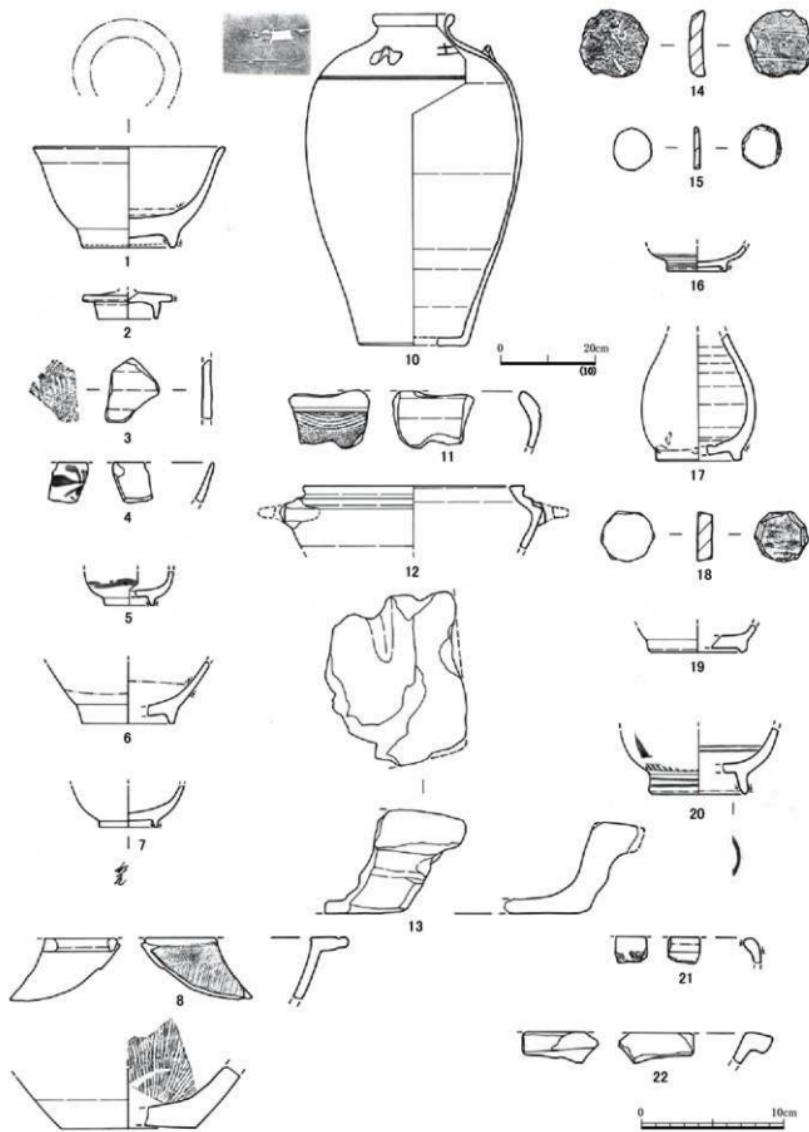
単位:cm

拂因番号 國版番号	種類	器種	部位	法量			観察事項	出土地
1 75回 国版39	沖縄産 施釉陶器	碗	口～底部	口径	器高	底径	内外面に白化粧+透明釉を單掛け。内底は蛇の目状に釉剥ぎ。内底に目皿あり(アルミナ付着)。疊付にアルミナを施す。素地は淡黄褐色。	G-9 SD7 2層
				13.4	7.0	6.6		
2 75回 国版39	沖縄産 施釉陶器	蓋	—	口径	器高	底径	外面に須頭を施す。内面は露胎。素地は灰白色。	G-9 SD7 1層
				6.2	—	4.1		
3 75回 国版39	土器	器種不明	胴部	口径	器高	底径	砂粒を多く含む。表面に文様の上な長方形を呈する連続した間みがみられる。グスク土器。	F-8 SD11 2層
				—	—	—		
4 75回 国版39	染付	碗	口縁部	口径	器高	底径	素地は灰白色で緻密。外面上に花文。焼化落産。	F-7 SD11 2層
				—	—	—		
5 75回 国版39	本土産磁器	染付 小網	底部	口径	器高	底径	疊付は露胎。素地は白色で緻密。外面上に文様あり。	F-8 SD11 2層
				—	—	3.4		
6 75回 国版39	沖縄産 施釉陶器	碗	底部	口径	器高	底径	内外面の上半部に灰釉を單掛け。フィガキー手法。内底に目皿あり。疊付に砂粒が付着する。素地は灰白色。	F-7 SD11 2層
				—	—	6.4		
7 75回 国版39	沖縄産 施釉陶器	小網	底部	口径	器高	底径	内外面に白化粧+透明釉を單掛け。疊付は露胎。素地は白灰色。外底に銘記あり。	F-8 SD11 2層
				—	—	4.0		
8 75回 国版39	沖縄産 無釉陶器	擂鉢	口縁部	口径	器高	底径	素地は明赤褐色。口縁外側に広げ口唇部を平坦にする。口唇部に1条の凹溝。内外面口縁部下に横目を施し、間を開けてさらにその下に横目を施す。	F-8 SD11 2層
				—	—	—		
9 75回 国版39	沖縄産 無釉陶器	擂鉢	底部	口径	器高	底径	素地は明赤褐色。内面に横目を密に施す。	F-7 SD11 2層
				—	—	9.4		
10 75回 国版39	沖縄産 無釉陶器	蓋	口～底部	口径	器高	底径	素地は明赤褐色。外面上に横目を施す。横耳あり、「二」の篆刻あり。	F-8 SD11 2層
				17.2	69.5	23.0		
11 75回 国版39	陶質土器	鉢	口縁部	口径	器高	底径	素地は橙色。外面上に横目を施す。	F-8 SD11 2層
				—	—	—		
12 75回 国版39	陶質土器	火炉	口縁部	口径	器高	底径	素地は橙色。外面上に横目を施す。	F-8 SD11 2層
				15.6	—	—		
13 75回 国版39	沖縄産 無釉陶器	かまど	口～底部	口径	器高	底径	素地は橙色。外面上に横目を施す。	F-8 SD11 2層
				—	—	—		
14 75回 国版39	円盤状製品	—	—	長径	厚さ	最大幅	沖縄産無釉陶器を素材としている。重量28.3g。	F-7 SD11 2層
				4.6	0.9	4.7		
15 75回 国版39	円盤状製品	—	—	長径	厚さ	最大幅	沖縄産無釉陶器を素材としている。重量4.4g。	F-8 SD11時A 2層
				3.0	0.4	2.7		
16 75回 国版39	本土産磁器	染付 碗	底部	口径	器高	底径	疊付は露胎。素地は白色で緻密。外面上に横目を施す。	F-8 SD13 1層
				—	—	4.1		
17 75回 国版39	沖縄産 施釉陶器	瓶	底部	口径	器高	底径	高台から外底及び内面は露胎。素地は灰白色で細かい。内面は輕微な剥離が明瞭。	F-8 SD13 1層
				—	—	6.0		
18 75回 国版39	円盤状製品	—	—	長径	厚さ	最大幅	沖縄産無釉陶器を素材としている。重量21.2g。	F-8 SD13 1層
				3.5	1.0	3.8		
19 75回 国版40	染付	碗	底部	口径	器高	底径	素地は淡黄色で細かい。高台は低め。掘建・広東系。	F-8 SD32 2層
				—	—	7.0		
20 75回 国版40	染付	碗	底部	口径	器高	底径	疊付は露胎。素地は灰白色で緻密。外面上に横目を施す。高台、外底、内底に横目。	F-8 SD32 2層
				—	—	7.0		
21 75回 国版40	沖縄産 施釉陶器	火入	口縁部	口径	器高	底径	口縁部に施釉を施す。外面上に横目を施す。	E-8 SD32 2層
				—	—	—		
22 75回 国版40	沖縄産 無釉陶器	擂鉢	口縁部	口径	器高	底径	素地は明赤褐色。	E-8 SD32 2層
				—	—	—		

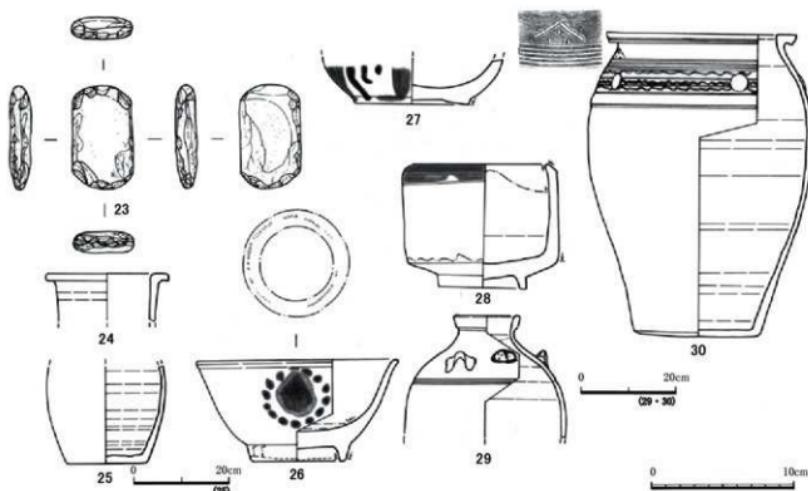
第12表 区画6出土遺物観察一覧(I地区)b

単位:cm

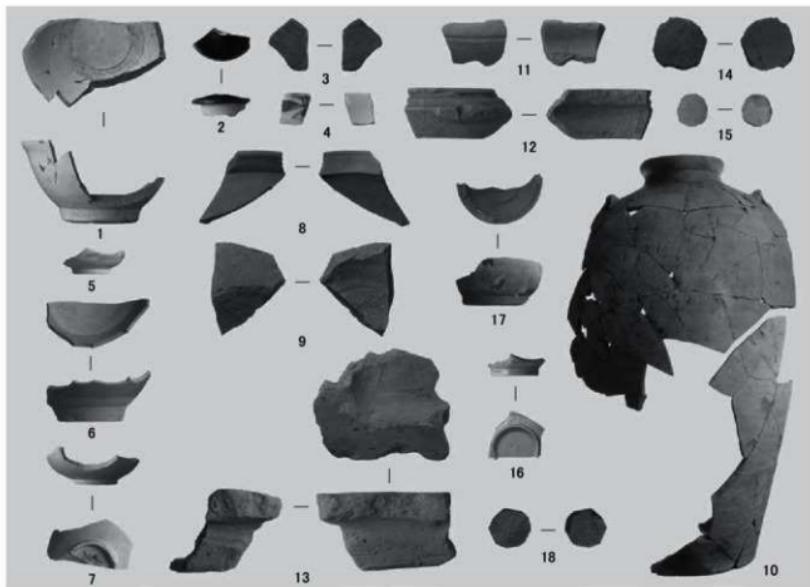
辨別番号 図版番号	種類	器種	部位	法量	観察事項	出土地
第76回 図版40	23	石器	石斧	—	口径 器高 底径 — — — — — — 前面に磨面。刃部に刃こぼれがみられる。緑色千枚岩。重量87.6kg。	G-8 SK47内 2層
	24	沖縄産 無釉陶器	盃	口縁部	口径 器高 底径 8.5 — — 口縁外側に広げ口唇部を平坦にする。素地はに赤い赤褐色。	G-8 SK47内 2層
	25	沖縄産 無釉陶器	盃	底部	口径 器高 底径 — — 16.6 素地はに赤い赤褐色。外面に沈線による波状文。内外面ともに被膜痕が明瞭。	G-8 SK47内 2層
	26	沖縄産 無釉陶器	碗	口～底部	口径 器高 底径 14.1 7.0 6.3 内外面に白化粧+透明釉を單掛け。内底は蛇の目状に釉剥ぎ、裏付にアルマナを施す。内底に目録あり(アルマナ付看板)。素地はに赤い赤褐色。	G-7 SK57 1層
	27	沖縄産 無釉陶器	酒器	底部	口径 器高 底径 — — 8.0 素地は灰白色。裏付は幅が広く、中心に向かって斜めを呈する。高台は低い。	D-8 SK57 1層
	28	沖縄産 無釉陶器	大入	口～底部	口径 器高 底径 10.8 8.8 6.1 内外面に化粧土を施した後、外面に透明釉。口縁部に負須を施す。口縁部下には沈線が1条添る。素地はに赤い赤褐色。	G-7 SK57 1層
	29	沖縄産 無釉陶器	盃	口縁部	口径 器高 底径 14.0 — — 素地は明赤褐色。外面脚上部に沈線。横耳を3つ貼付。墨書き、円の中に垂直方向の本筋を描く。	D-8 SK57 1層
	30	沖縄産 無釉陶器	甕	口～底部	口径 器高 底径 39.9 64.6 26.6 素地は明赤褐色。外面頭部に沈線。その下に波状沈線と貼付した丸文、さらにその下に1条の凸沿を貼付。	G-8 SK47内 2層
	31	本土産 近現代磁器	小杯	口～底部	口径 器高 底径 6.4 2.1 2.8 裏付から外底は露胎。素地は白色で緻密。口縁部下部や腰部に棱をもつ。内面口縁部に文様。	G-9 SD7 2層
	32	本土産 近現代磁器	皿	口～底部	口径 器高 底径 10.8 2.1 6.6 裏付は露胎。素地は白色で緻密。内面に型紙絵付けによる文様。口縁部に鶴鉢。	G-9 SD7 2層
図版40	33	鉄製品	鋸歯	—	長さ 11.3 — — 上面接跡部に留め部。重畠201.0g。	G-9 SD7 2層
	34	本土産 近現代磁器	碗	口～底部	口径 器高 底径 13.6 5.9 4.6 裏付は露胎。素地は白色で細かく。内底に5つの紡土目。	P-8 SD11 2層
	35	本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 器高 底径 6.8 4.2 3.1 裏付は露胎。素地は白色で緻密。外面に花文。斜版転写。	P-8 SD11壁A 2層
	36	本土産 近現代磁器	小杯	口～底部	口径 器高 底径 6.5 2.7 2.6 裏付は露胎。素地は白色で緻密。	P-7 SD11 2層
	37	本土産 近現代磁器	皿	口～底部	口径 器高 底径 12.9 2.6 7.6 裏付は露胎。素地は白色で緻密。内面に文様。口縁部に鶴鉢。斜版転写。	P-8 SD11 2層
	38	ガラス製品	瓶	口～底部	口径 器高 底径 1.4 5.5 2.2 色調は透明。	P-8 SD11 2層
	39	ガラス製品	淀錦?	口～底部	口径 器高 底径 0.7 — — 色調は透明。	P-8 SD11 2層
	40	本土産 近現代磁器	碗	口～底部	口径 器高 底径 13.6 5.3 4.4 裏付は露胎。素地は白色で細かく。内底に2つの紡土目が確認される。型紙絵付け。	G-8 SK47内 2層
	41	本土産 近現代磁器	小杯	口～底部	口径 器高 底径 5.6 2.9 2.4 裏付は露胎。素地は白色で緻密。高台形状が花びら(板)を呈する。口縁部を浅いゼンケに色づける。	G-8 SK47内 2層
	42	本土産 近現代磁器	碗	口～底部	口径 器高 底径 13.7 6.2 4.7 裏付は露胎。素地は白色で緻密。内底に5つの紡土目。型紙絵付け。	G-7 SK57 1層
図版41	43	瓦	明朝系 丸瓦	—	口径 器高 底径 — — — 器表面は風化が著しい。色調は灰色。	D-8 SK57 1層
	44	鉄製品	滑車	—	長さa 長さb 重量 29.5 13.1 2,960g.	G-9 SE4 1層
	45	鉄製品	鉄鍋	口～底部	口径 器高 底径 69.0 25.5 — 大型鍋。口縁部若干の字状に屈曲。縁による剥離跡有。	G-8 SK57 1層



第75図 区画6 出土遺物1(Ⅰ地区)



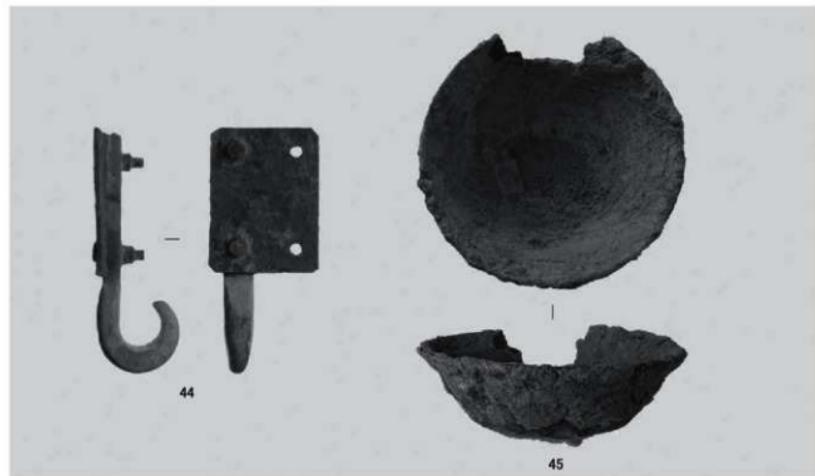
第76図 区画6 出土遺物2(I 地区)



図版39 区画6 出土遺物1 (I 地区)



図版 40 区画6 出土遺物2 (I 地区)



図版 41 区画6 出土遺物3（I 地区）

区画7

青磁、白磁、染付、本土産陶磁器、沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器、瓦、金属製品等、合計808点検出している。G-8グリッドのSK103からは位牌が出土している。位牌検出時は木胎が消失し漆膜表面のみ残存する状態であった。漆膜は非常に薄く脆弱であったため、県文化財サービスに委託し周囲の土ごとブロックとして取り上げ、洗浄から強化処理、接合など保存処理作業を実施した。

第13表に特徴的な遺物の観察事項、第55表に遺物毎の出土状況を示す。

第13表 区画7出土遺物観察一覧(I地区)a

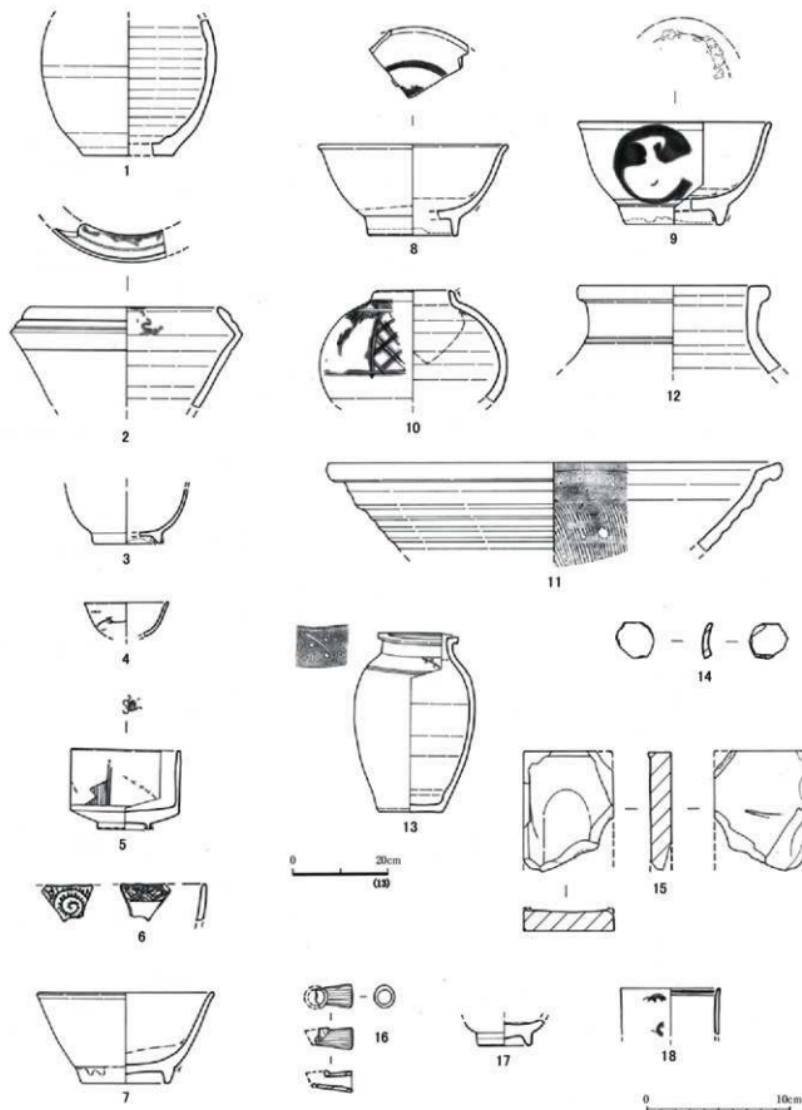
単位:cm

井戸番号 図版番号	種類	器種	部位	法量	観察事項	出土地		
第77号 図版42	1	沖縄産 無釉陶器	瓶	底部	口径 — 口径 13.0	器高 6.4 底径 — — —	内面は青灰色。外面及び素地は赤褐色で緻密。 素地は橙色で軟質。外面に沈線。口唇部に一部煤が残る。	H-7・8 SD6 2層
	2	陶質土器	火炉	口縁部	—	—	—	H-7 SD6 1層
	3	白磁	碗	底部	口径 — 口径 5.9	器高 4.6 底径 — —	対付は露致。素地は白色で緻密。対付に砂目付着。微化 窓。	G-7 SD18 2層
	4	色絵	小碗	口縁部	口径 7.7	器高 5.6 底径 3.7	端反口縁。素地は白色で緻密。外面に文様。 縫折れの小窓。対付剥離。	G-7 SD18 2層
	5	本土産磁器	染付 小碗	口～底部	口径 —	器高 — 底径 —	素地は白色で緻密。外面に鳥文。内底に文様。	G-7 SD18 2層
	6	本土産磁器	染付 小碗	口縁部	口径 —	器高 — 底径 —	素地は灰白色で緻密。外面に精唐草文。内面に四方繪 文。	G-7 SD18 2層
	7	沖縄産 施釉陶器	碗	口～底部	口径 12.4	器高 6.3 底径 6.2	灰釉を内側～外側胴下部まで施釉。素地は灰白色で細かい、内底に重ね焼きのアルミナ底。	G-7 SD18 2層
	8	沖縄産 施釉陶器	碗	口～底部	口径 13.4	器高 6.4 底径 6.4	黒釉を内側～外側胴下部まで施釉後、蛇の目釉剥ぎ。素地は灰白色で細かい、高台にアルミナ底。	G-7 SD18堆 2層
	9	沖縄産 施釉陶器	碗	口～底部	口径 13.6	器高 7.2 底径 6.8	全面に白化粧と透明釉を施釉後、内底を蛇の目、対付を釉剥ぎ。素地は灰黄色で細かい、外面に巴文。内底と対付にアルミナ底。	G-7 SD18 2層

第13表 区画7出土遺物観察一覧(I地区)b

単位:cm

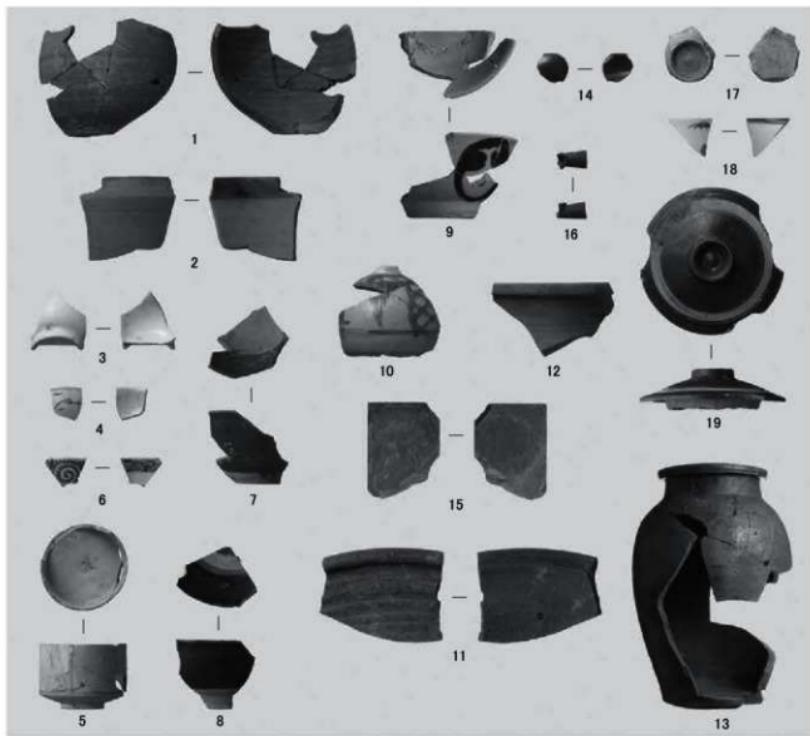
辨認番号 図版番号	種類	器種	部位	法量	観察事項	出土地		
第77図 図版42	沖縄產 無釉陶器	急須	口縁部	口径 5.7	器高 底径 全面に白化粧後、内外面に透明釉を施釉。口唇部～内面口縁部まで露胎。素地は灰白色で細かい。外面上に線形凹による文様。	G-7 SD18 2層		
	沖縄產 無釉陶器	擂鉢	口縁部	口径 32.0	器高 底径 ぐの字状口縁。柄部は閉底密。器色・素地ともに赤褐色で緻密。	G-7 SD18 2層		
	沖縄產 無釉陶器	蓋	口縁部	口径 13.6	器高 底径 口唇部は方形状。器色・素地ともに赤褐色で緻密。	G-7 SD18 2層		
	沖縄產 無釉陶器	蓋	口～底部	口径 17.0	器高 底径 口唇部は方形状。器色・素地ともに赤褐色で緻密。口唇部及び胴部に光沢。胴部上位に窓印模刻。口唇部に凸起。	G-7 SD18 2層		
	円盤状製品	—	—	長径 2.5	厚さ 0.6	最大幅 2.2	素材は本土産近現代陶磁器胴部片。重量4.5g。	G-7 SD18 1層
	石製品	硯	—	口径 —	器高 —	底径 —	方硯。全面に線条彫。重量140.3g。	G-7 SD18 2層
	煙管	—	雁首	火皿径 1.6	長さ 3.3	1.4, 1.6 21.6	離字接続部径 沖縄產無釉陶器製。面取り傾かず縦断面丸形。重量5.3g。	H-8 SK43 3層
	白磁	小瓶	底部	口径 —	器高 —	底径 3.8	外底及(内底)は露胎。素地は淡黄色で緻密。	G+H-8 SK73 2層
第78図 図版42	本土産磁器	染付 小瓶	口縁部	口径 7.0	器高 —	底径 —	素地は灰白色で細かい。外面に文様。	H-7 SP67 1層
	沖縄產 無釉陶器	蓋	—	口径 12.7	器高 3.5	底径 7.6	外面の中蓋端部まで黒釉を施釉後、甲上部を蛇の目状割さ。素地は灰白色で緻密。	G-8 SK103 1層
第78図 図版43	沖縄產 無釉陶器	蓋	口～底部	口径 17.2	器高 61.1	底径 21.6	口唇部は玉様状。器色は外面暗赤褐色、裏地は赤褐色で板状。柄部に沈線。胴部上位に「十八」彫印。	G-8 SK103 1層
	煙管	—	吸口	接続部径 1.0	長さ 7.7	吸口径 0.7	青銅製。側面に接合部。離字残存。重量12.5g。	G-8 SU1 1層
	煙管	—	吸口	接続部径 0.8, 1.1	長さ 8.6	吸口径 0.7	青銅製。側面に接合部。重量10.2g。	H-7 SN2 1層
	青銅製品	簪	竿	竿長 8.4	半幅 0.4	ムズイ幅 0.3	ぐの字に曲がる。茎斷面4角。重量6.8g。	H-7 SY1 ALレンジ 1層
図版43 (図版44)	鉄製品	羽釜	口縁部	口径 19.7	器高 —	底径 —	底部欠損。継により剥離。重量1.7kg。	G-7 SD18 2層
	本土産 近現代磁器	碗	口～底部	口径 12.7	器高 4.6	底径 5.7	全面施釉後に譽村を輪削ぎ。素地は灰白色で緻密。型紙書きで丸文。	G-7 SD18 2層
	本土産 近現代磁器	碗	口～底部	口径 11.4	器高 6.1	底径 3.8	全面施釉後に譽村を輪削ぎ。素地は白色で緻密。外面に千鳥文。外底に「岐411路」。	G-7 SD18 2層
	本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 8.0	器高 3.1	底径 5.1	全面施釉後に譽村を輪削ぎ。素地は白色で緻密。外面に銅版写し草花文。外底に「岐311J路」。	G-7 SD18 2層
	本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 7.0	器高 4.3	底径 3.2	全面施釉後に譽村を輪削ぎ。素地は白色で緻密。外面に銅版写しに上ら文様。	G-7 SD18 2層
	本土産 近現代磁器	小杯	口～底部	口径 5.6	器高 3.0	底径 2.1	全面施釉後に譽村を輪削ぎ。素地は白色で緻密。外面に陰刻字「萬葉」陽刻による草花文。	G-7 SD18 2層
	本土産 近現代磁器	皿	口～底部	口径 13.1	器高 2.7	底径 7.4	全面施釉後に譽村を輪削ぎ。素地は白色で緻密。内面に銅版写しによる上様。	G-7 SD18 1層
	本土産 近現代磁器	皿	口～底部	口径 11.0	器高 3.0	底径 10.8	全面施釉後に譽村を輪削ぎ。素地は白色で緻密。内面に成型形の板状土貼り付けにより枠を区画する。口唇部、外底には露胎。	G-7 SD18 2層
	ガラス製品	瓶	口～底部	口径 5.0	器高 3.7	底径 5.4	底面に文様。色調は赤い緑。栓はキャップなし。	G-7 SD18 1層
	本土産 近現代磁器	小杯	口～底部	口径 6.5	器高 2.5	底径 2.9	譽村～外底露胎。外面に文様。	G-8 SK103 1層
	本土産 近現代磁器	皿	口～底部	口径 13.1	器高 2.7	底径 7.3	全面施釉後に譽村を輪削ぎ。素地は白色で緻密。内面に銅版写しによる文様。	G-8 SK103 1層
	位牌	—	—	口径 —	器高 —	底径 —	位牌の裏の破片で漆塗表面のみ残存。札は中央に太めの札を配して左右に4枚、計9枚の札が上下に並ぶ。漆表面に金色で文字。台座部分には金色で文様。	G-8 SK103 1層
図版43 (図版44)	石製品	香炉	—	長さ —	厚さ 9.0	高さ 12.5	上面に僅み。全面に整形彫。重量3.9kg。	G-8 SK103 1層
	鉄製品	包丁?	—	長さa 23.6	長さb 4.2	—	柄は一部残る。重量72.2g。	G-8 SK103 1層



第77図 区画7 出土遺物1(Ⅰ地区)



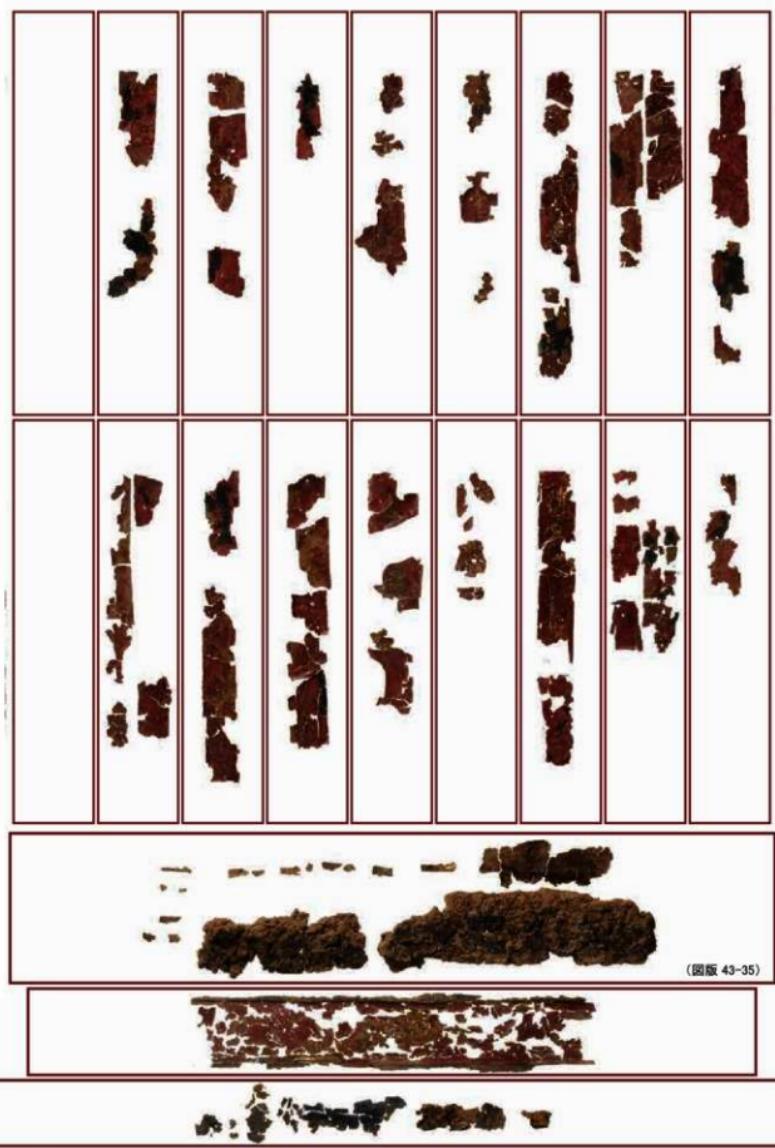
第78図 区画7 出土遺物2(I 地区)



図版 42 区画7 出土遺物1 (I 地区)



图版 43 区画7 出土遗物2 (I 地区)



图版 44 区画7 出土遗物3 位牌 (I 地区)

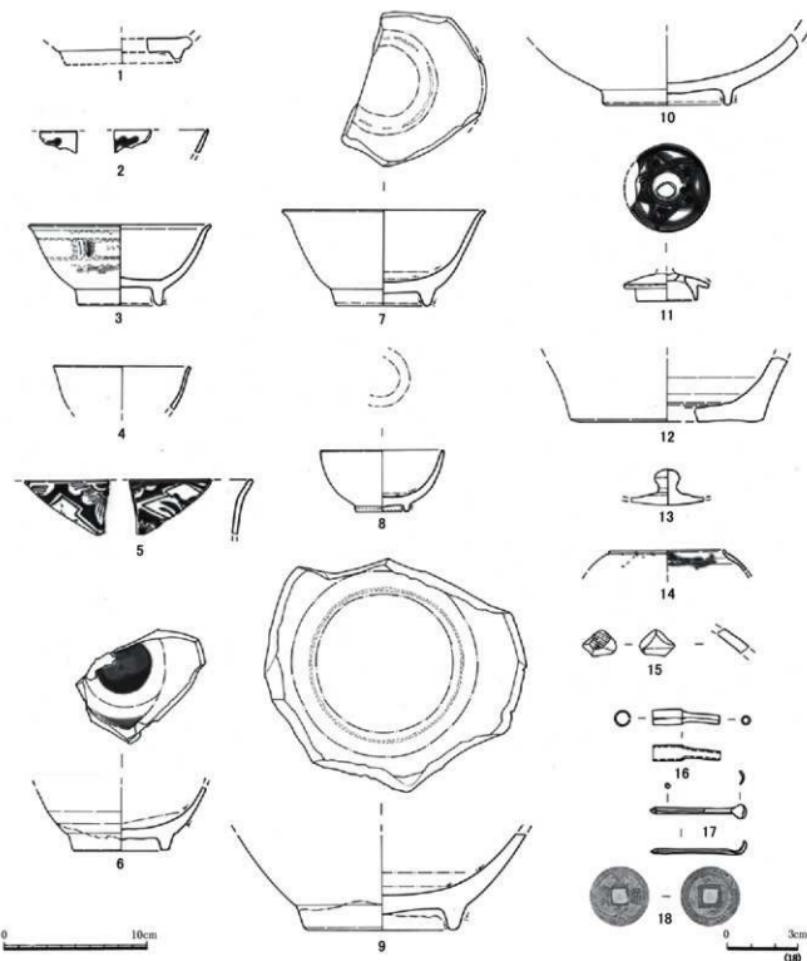
図版8

白磁、染付、本土産陶磁器、沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器、瓦、金属製品等、合計513点検出している。第14表に特徴的な遺物の観察事項、第56表に遺物毎の出土状況を示す。

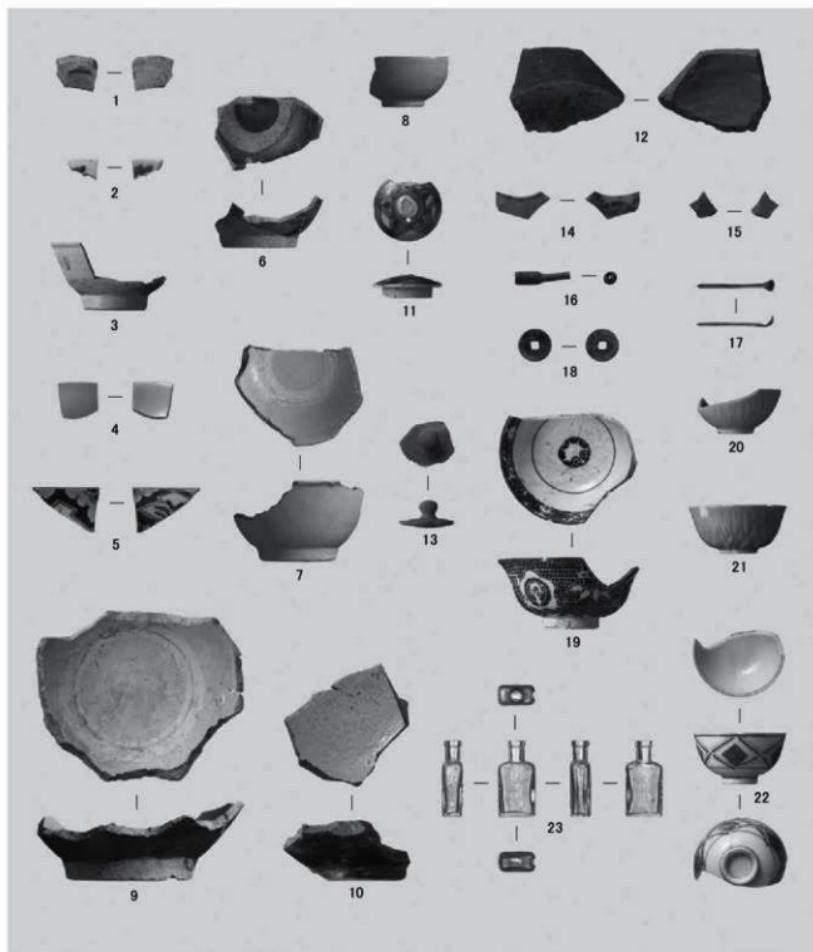
第14表 区画8出土遺物観察一覧(Ⅰ地区)

単位:cm

辨認番号 団版番号	種類	器種	部位	法量	観察事項	出土地
第79回 団版45	1	染付	碗	底部	口径 器高 底径 — — — — — —	叢付～高台内露窓、素地は黄白色で緻密。 H-9 SD2 1層
	2	染付	皿	口縁部	口径 器高 底径 — — — — — —	内外面施釉、素地は灰白色で緻密。内外面に文様。 H-9 SD2 1層
	3	色絵	碗	口～底部	口径 器高 底径 12.8 5.7 5.8	全面施釉後に叢付輪削ぎ。素地は灰白色で緻密。外面に文様。 H-8 SD2 2層
	4	本土産磁器	小碗	口縁部	口径 器高 底径 9.6 — —	外表面灰色釉、内面透明釉で掛け分け。素地は灰白色で緻密。 H-9 SD2 1層
	5	本土産磁器	染付鉢	口縁部	口径 器高 底径 — — —	内外面施釉、素地は灰白色で緻密。内外面に文様で草花。 H-8 SD2 2層
	6	沖縄産 施釉陶器	碗	底部	口径 器高 底径 — — 6.6	褐色釉を内底及び内側下部～高台露まで施釉。素地は灰白色で細かい、内底に重ね焼きのアルミナ板。 H-8 SD2 2層
	7	沖縄産 施釉陶器	碗	口～底部	口径 器高 底径 14.4 6.8 6.6	全面に白化粧と透明釉を施釉後、内底を蛇の目、叢付を輪削ぎ、素地は灰黄色で細かい、内底に重ね焼きのアルミナ板。 H-8 SD2 4層
	8	沖縄産 施釉陶器	小碗	口～底部	口径 器高 底径 8.6 4.3 3.8	全面施釉後、内底を蛇の目、叢付を輪削ぎ。素地は灰白色で細かい。 H-8 SD2 2層
	9	沖縄産 施釉陶器	鉢	底部	口径 器高 底径 — — 11.0	外表面黒釉、内面白化粧後に透明釉で掛け分け、内底を蛇の目剥削、高台露窓。素地は灰黄色で細かい。 H-8 SD2時B 2層
	10	沖縄産 施釉陶器	鉢	底部	口径 器高 底径 — — 9.0	外表面黒釉、内面白化粧後に透明釉で掛け分け。素地は灰黄色で細かい。 H-9 SD2 2層
	11	沖縄産 施釉陶器	蓋	—	口径 器高 底径 — 5.8 —	全面白化粧後、外面半壺部まで施釉。素地は灰黄色で細かい、上面に輪削り星の文様。巻み沿部に0.3cmの孔。 H-9 SD2 2層
	12	沖縄産 施釉陶器	蓋	底部	口径 器高 底径 — — 13.6	内面触感痕明顯。器色は暗青灰色、素地は暗赤褐色で緻密。 H-9 SD2 1層
	13	陶質土器	蓋	—	口径 器高 底径 — 5.1 2.5	素地は橙色で軟質。 H-9 SD2 2層
	14	陶質土器	土瓶	口縁部	口径 器高 底径 — 8.0 —	頸部は短い、薄手。素地は橙色で軟質。一部保有着。 H-9 SD2 2層
	15	カムイヤキ	蓋	胴部	口径 器高 底径 — — —	鏡片。外面に印字目痕、内面に回転ナデ。新土は暗赤褐色。 H-9 SD5時C 2層
	16	煙管	—	喉口	接続部径 長さ 吸口径 1.1 0.6 4.7 0.6	青銅製、側面に接合部。重量7.9g。 H-9 SD5 1層
	17	青銅製品	寶	—	全長 外径 孔径 厚さ 6.8 2.5 0.6 0.1	底状。基底面6角。重量4.4g。 G-9 SP11 1層
	18	錢貨	寛永通宝	—	新寛永か、裁文が彫れる。重量3.1g。 G-9 SP86 1層	
国版45	19	本土産 近現代磁器	碗	口～底部	口径 器高 底径 12.8 5.8 4.8	全面施釉後に叢付を輪削ぎ。素地は灰白色で緻密。型紙切りで鶴丸文、内底に目跡。 H-9 SD2 2層
	20	本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 器高 底径 7.8 3.8 3.0	クロム青磁、外面に飛施。高台内折り。素地は灰白色で緻密。 H-9 SD2時E 4層
	21	本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 器高 底径 8.6 4.1 3.3	クロム青磁、外面に飛施。素地は灰白色で緻密。 H-8 SD2 2層
	22	本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 器高 底径 8.2 4.6 3.0	全面施釉後に叢付を輪削ぎ。素地は白色で緻密。外面に脚取軋写による文様。 H-9 SD2 2層
	23	ガラス製品	瓶	口～底部	口径 器高 底径 1.5 6.6 x-3.1 h-1.2	胴部前面に「快治改」、背面に「生産薬剤」、左側面に「アリゲーター」文字。色調は透明。栓はキャップなし。 H-8 SD2 2層



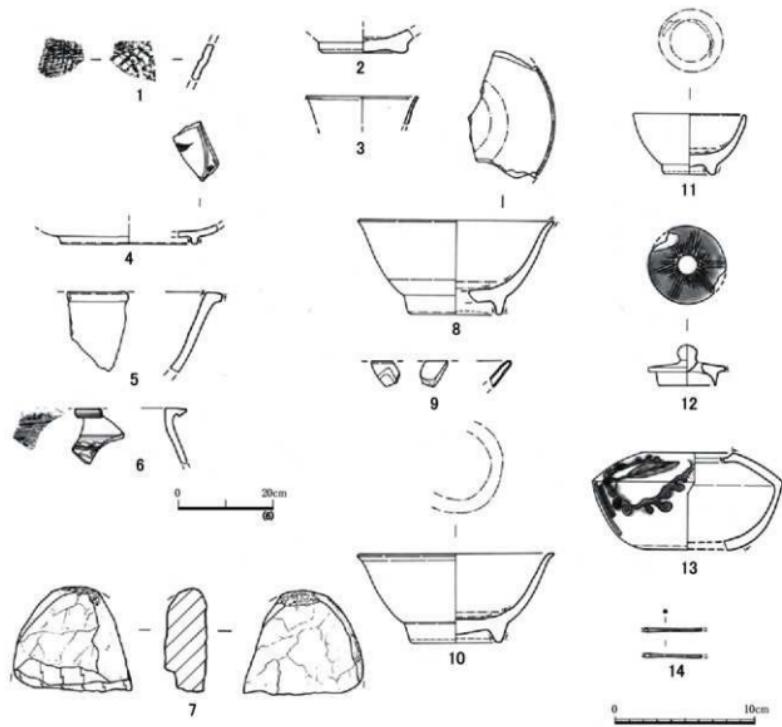
第79図 区画8 出土遺物(I 地区)



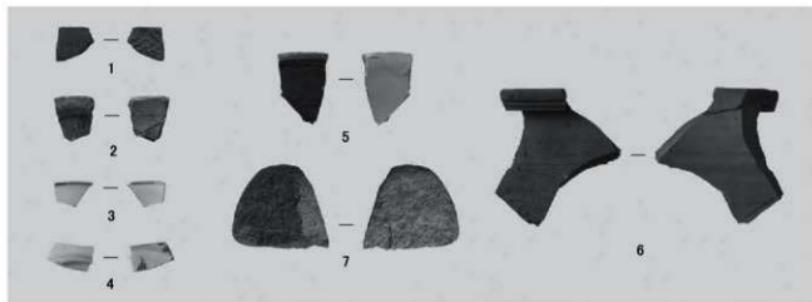
図版 45 区画8 出土遺物（I 地区）

区画 9

白磁、染付、本土産陶磁器、沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器、瓦、金属製品等、合計513点検出している。第15表に特徴的な遺物の観察事項、第57表に遺物毎の出土状況を示す。



第 80 図 区画9 出土遺物(I 地区)

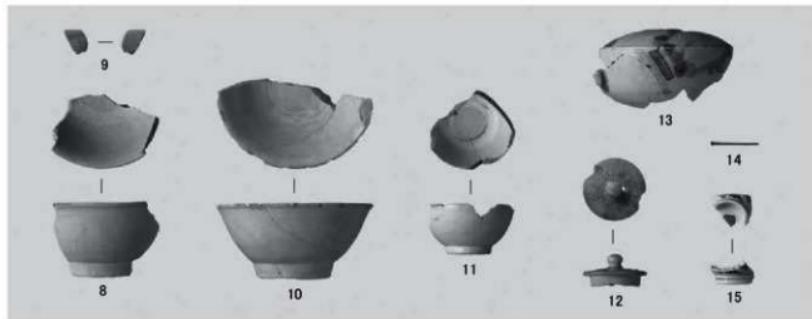


図版 46 区画9 出土遺物1 (I 地区)

第15表 区画9出土遺物観察一覧(I地区)

単位:cm

種類 図版番号	種類	器種	部位	法量			観察事項	出土地	
				口径	器高	底径			
第80回 図版46	1	カムイヤキ	盃	胸部	口径 —	器高 —	底径 —	器面に叩き目痕。胎土は赤褐色で白色粒を含む。	H-8 SD1唯B 1層
	2	白磁	碗	底部	口径 —	器高 —	底径 6.1	高台露胎。素地は黄白色で緻密。	H-9 SD1唯C 1層
	3	染付	小瓶	口縁部	口径 8.0	器高 —	底径 —	口縁で口唇部に施釉。素地は灰白色で緻密。	H-9 SD1 2層
	4	染付	皿	底部	口径 —	器高 —	底径 9.7	骨付は露胎。素地は灰白色で緻密。内底に草文か、徳化窑風。	H-8 SD1唯A・B 2層
	5	沖縄産 施釉陶器	鉢	口縁部	口径 —	器高 —	底径 —	外腹黒釉、内面白化粧後に透明釉で掛け分け。口部部釉剥 離。素地は灰黄色で細かい。	H-9 SD1 2層
	6	沖縄産 無釉陶器	甕	口縁部	口径 —	器高 —	底径 —	逆S字状口縁。器色は褐色。素地は赤褐色で緻密。口唇側 面に沈線、脚部に沈痕・或文。	H-8 SD1 2層
	7	石器	磨石	—	口径 —	器高 —	底径 —	表面に一面滑面があり、側面及び裏面に敲打痕。重量 313.5g。緑色。	I-8 SD3 1層
第80回 図版47	8	沖縄産 施釉陶器	碗	口～底部	口径 14.0	器高 6.7	底径 6.8	全面白化粧と透明釉を施釉後、内底を蛇の目、豊付を釉割 ぎ。素地は灰黄色で細かい。	H-8 SD3 1層
	9	青磁	碗	口縁部	口径 —	器高 —	底径 —	外面に蓮弁文。素地は灰白色で緻密。	H-8 SK43 トレンチ 2層
	10	沖縄産 施釉陶器	碗	口～底部	口径 14.0	器高 6.4	底径 6.3	全面白化粧と透明釉を施釉後、内底を蛇の目。豊付を釉割 ぎ。素地は淡黄色で細かい。豊付にアルミナ系。	H-8 SK41 3層
	11	沖縄産 施釉陶器	小瓶	口～底部	口径 8.0	器高 4.3	底径 3.7	全面白化粧と透明釉を施釉後、内底を蛇の目、豊付を釉割 ぎ。素地は淡黄色で細かい。	H-8 SK41 2層
	12	沖縄産 施釉陶器	蓋	—	口径 5.5	器高 2.8	底径 4.1	全面白化粧後、外面甲蓋端部まで施釉。素地は灰白色で細 かい。上面に瓣葉文様。掘み器部に0.3cmの孔。	H-8 SK41 3層
	13	沖縄産 施釉陶器	急須	口縁部	口径 6.3	器高 13.6	底径 —	全面に白化粧後、透明釉を施釉。口唇部蓋置き部露胎。素 地は灰白色で細かい。外面に繩割りによる文様。	H-8 SK41 3層
	14	青磁製品	甕	—	口径 —	器高 —	底径 —	破片。基断面6角。重量0.9g。	H-8 SK41 2層
図版47	15	本土産 近現代磁器	小瓶	底部	口径 —	器高 —	底径 3.7	全面白化粧後に豊付を釉割ぎ。素地は白色で緻密。外面に胴 板転写による文様。外底に鋸あり。	H-8 SD3唯C 1層



図版47 区画9 出土遺物2(I地区)

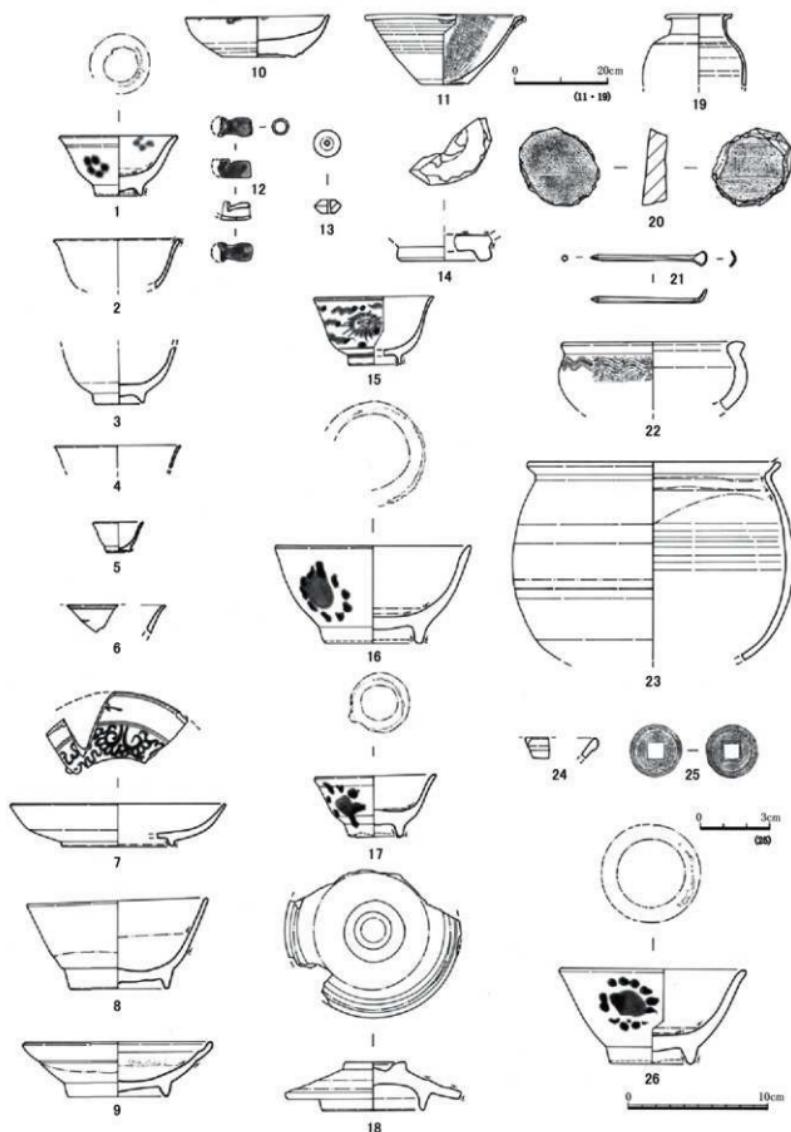
区画10

沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器、瓦を主とし、青磁、白磁、染付、本土産陶磁器、陶質土器、金属製品等を合計743点検出している。第16表に特徴的な遺物の観察事項、第58表に遺物毎の出土状況を示す。

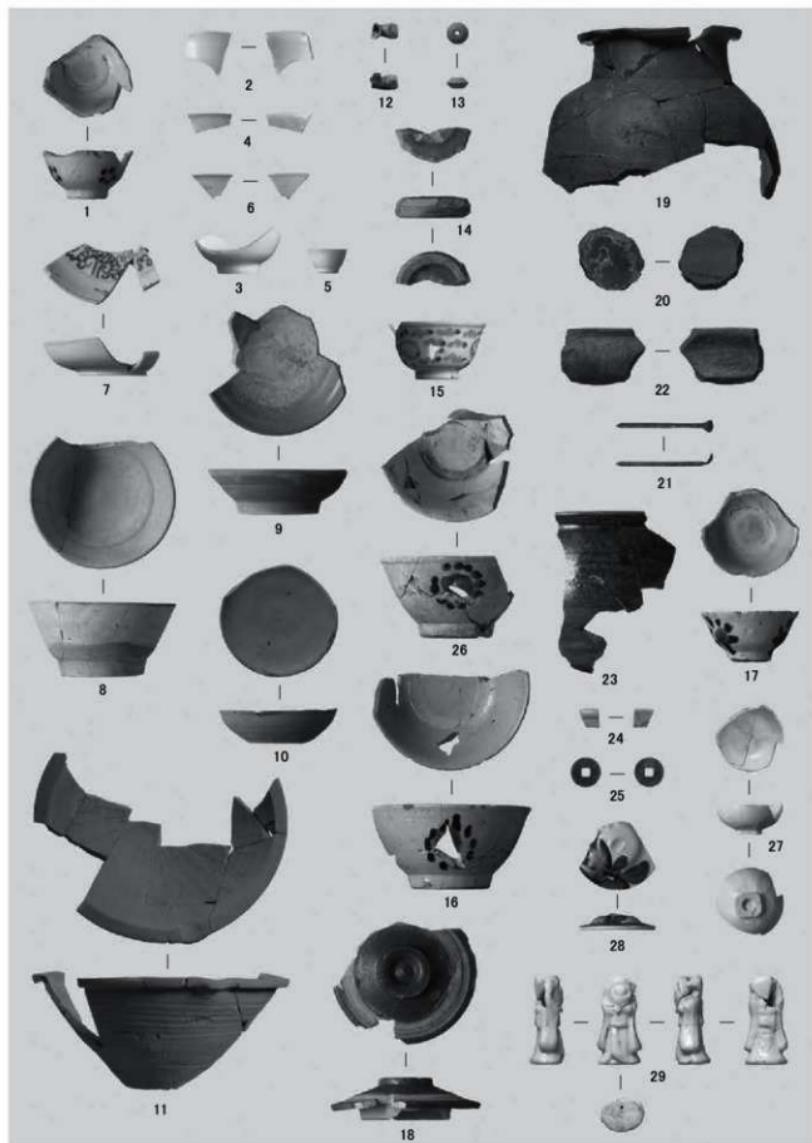
第16表 区画10出土遺物觀察一覽(Ⅱ地区)

单位:cm

辨认番号 国版番号							種類	器種	部位	法量	觀察事項	出土地
第81回 国版48	1	卉溝窯 施釉陶器	小瓶	口～近部	口徑 8.4	器高 4.3	底径 3.4	軸部に圓錐と五点の文様を施す。見辺に石灰が付着する。見辺は蛇の目状、蓋付は露頭となる。	D-10 SD40内			
	2	白磁	小瓶	口縁部	口徑 9.0	器高 —	底径 —	口縁は僅かに外反し、露頭となる。	D-9 SK66 1・2層			
	3	白磁	小瓶	底部	口徑 —	器高 —	底径 3.5	高台内側は外側に広がる。	D-9 SK66 1・2層			
	4	白磁	小瓶	口縁部	口徑 9.0	器高 —	底径 —	口縁部で僅かに外反する。	D-9 SK66 1・2層			
	5	白磁	小杯	口～底部	口徑 3.6	器高 2.2	底径 1.7	口縁と胴部の境で僅かに外側に広がる。蓋付は露頭となる。	D-9 SK66 1・2層			
	6	染付	小瓶	口縁部	口徑 —	器高 —	底径 —	口縁は僅かに外反し、口縁に圓錐、胴部に文様を施す。	D-9 SK66 1・2層			
	7	染付	皿	口～底部	口徑 15.4	器高 3.1	底径 8.0	見辺に露頭を施す。蓋付は露頭となる。	D-9 SK66 3層			
	8	卉溝窯 施釉陶器	碗	口～底部	口徑 12.9	器高 6.5	底径 7.2	外側脚部中央から内面中位まで白化粧を施され、その他の部は露頭となる。	D-9 SK66 3層			
	9	卉溝窯 施釉陶器	皿	口～底部	口徑 13.6	器高 3.9	底径 7.1	口外面は王字状、内面は露頭に作られる。外側脚部中央から内面中位まで露頭、内面の施釉部に露が付着する。	D-9 SK66 1・2層			
	10	卉溝窯 無釉陶器	皿	口～底部	口徑 10.3	器高 3.0	底径 5.2	底盤は基筒状に作られ、外側下位に露頭痕を残す。	D-9 SK66 3層上面			
	11	卉溝窯 無釉陶器	盤鉢	口～底部	口徑 34.0	器高 15.0	底径 10.1	口縁1箇所に注口のように僅かに側所を設けており、内面は、9条を以として、目を設いている。外側は露頭痕を残す。	D-9 SK66 3層			
	12	椎管	—	雅尊	火風 (1.4)	厚さ (2.9)	被破被部 1.1	外面上に青色釉を施す。重量3.6g。	D-9 SK66 3層			
	13	土製品	玉?	—	口徑 —	器高 —	底径 —	草葉の玉で、輪は施されてない。重量2.4g。	D-9 SK66 1・2層			
	14	青磁	碗	底部	口徑 —	器高 —	底径 6.2	青磁の底足と円盤状の器盤として加工したもので、半分は欠けている。	D-9 SK68内			
	15	本土產磁器	小瓶	口～底部	口徑 8.6	器高 4.9	底径 3.7	口外面に圓錐、胴部に露頭、丸文を施す。蓋付は露頭となる。	D-9 SK68内			
	16	卉溝窯 施釉陶器	碗	口～底部	口徑 14.0	器高 7.0	底径 7.1	胴部に圓錐と花文の文様を施す。見込みは蛇の目状、蓋付は露頭となる。	D-9 SK68内			
	17	卉溝窯 施釉陶器	小瓶	口～底部	口徑 8.7	器高 4.5	底径 3.9	胴部に圓錐と花文の文様を施す。見込みは蛇の目状、蓋付は露頭となる。	D-9 SK68内			
	18	卉溝窯 施釉陶器	蓋	—	口徑 12.2	器高 3.5	底径 7.4	外面に蛇の目状に露頭となり、その中に圓錐を巡らす。	D-9 SK68内			
	19	卉溝窯 無釉陶器	蓋	口縁部	口徑 14.4	器高 —	底径 —	外面上に露頭痕を残す。	D-9 SK68内			
	20	円盤状器品	—	—	長徑 5.6	厚さ 1.7	最大幅 5.7	外面上が調整され、円盤状に成形されている。重量69.5g。	D-9 SK68内			
	21	青銅製品	簪	—	全長 8.3	—	—	簪の完形、断面は四角形。重裏8.5g、カブ接1.3cm、竿長7.3cm、竿幅0.4cm。	D-9 SK68内			
	22	卉溝窯 無釉陶器	鉢	口縁部	口徑 13.1	器高 —	底径 —	胴部に3段1周の波状文を施す。	D-9 SK69内			
	23	卉溝窯 施釉陶器	鍋	口縁部	口徑 18.2	器高 —	底径 —	外側脚部中央から内面脚部上位まで施釉する。外面上に露頭痕を残す。	D-9 SK70内			
	24	白磁	碗	口縁部	口徑 —	器高 —	底径 —	口縁を玉縁状に成形する。	D-9 SX16内			
	25	銭貨	匁 通宝	—	外縁 2.3	孔径 0.6	厚さ 0.1	匁:水通室だが、文字は不鮮明。重量2g。	D-9 SX16内			
	26	卉溝窯 施釉陶器	碗	口～底部	口徑 13.4	器高 6.6	底径 6.2	胴部に圓錐と花文の文様を施す。見込みは蛇の目状、蓋付は露頭となる。	C-9 SK19内			
国版48	27	本土產 近現代磁器	小杯	口～底部	口徑 6.0	器高 a:2.2 b:2.1	底径 2.5 2.5	口縁は輪形が切れている部分がある。高台の外縁は方形で、角は丸みを帯びる。	D-10 SK69内			
	28	本土產 近現代磁器	蓋	—	口徑 7.5	器高 —	底径 —	輪形は失われていたため、認証できない。文様が模倣できるが、特徴はできない。	D-10 SK69内			
	29	本土產 近現代磁器	人形	—	口徑 —	器高 —	底径 —	西行。底部は轟部で、僅かに孔を開けている。	D-10 SK46内			
	30	本土產 近現代磁器	小瓶	口～底部	口徑 —	器高 3.9	底径 3.8	外面に松、山、橋等の庭園文様を施す。	D-9 SK68内			
国版49	31	本土產 近現代磁器	小杯	口～底部	口徑 5.5	器高 2.3	底径 2.3	口縁と胴部の境で僅かに外側に広がる。	D-9 SK68内			
	32	本土產 近現代磁器	小杯	口～底部	口徑 7.7	器高 3.3	底径 3.0	高台外間に波文、高台内に点(月)を施す。	D-8 SK68内			
	33	本土產 近現代磁器	皿	口～底部	口徑 11.1	器高 2.0	底径 6.6	見辺に草花文を施す。	D-9 SK68内			
	34	鐵製品	カマ	—	長さ5m	長さ5m	—	金屬部分が剥げており、柄部分は残っていない。先端を失っている。重量80.2g。	D-9 SX16内			
	35	本土產 近現代磁器	小瓶	口～底部	口徑 8.2	器高 4.8	底径 3.0	口縁に圓錐、胴部に草花文を施す。	C-9 SX19内			
	36	鐵製品	タワ	—	長さ5m	長さ5m	—	平鋼。直線的に作られる。重量1800g。	C-9 SX19内			



第 81 図 区画 10 出土遺物 (II 地区)



図版 48 区画 10 出土遺物1 (II 地区)



図版 49 地画 10 王土遺物2(Ⅱ特区)

图例11

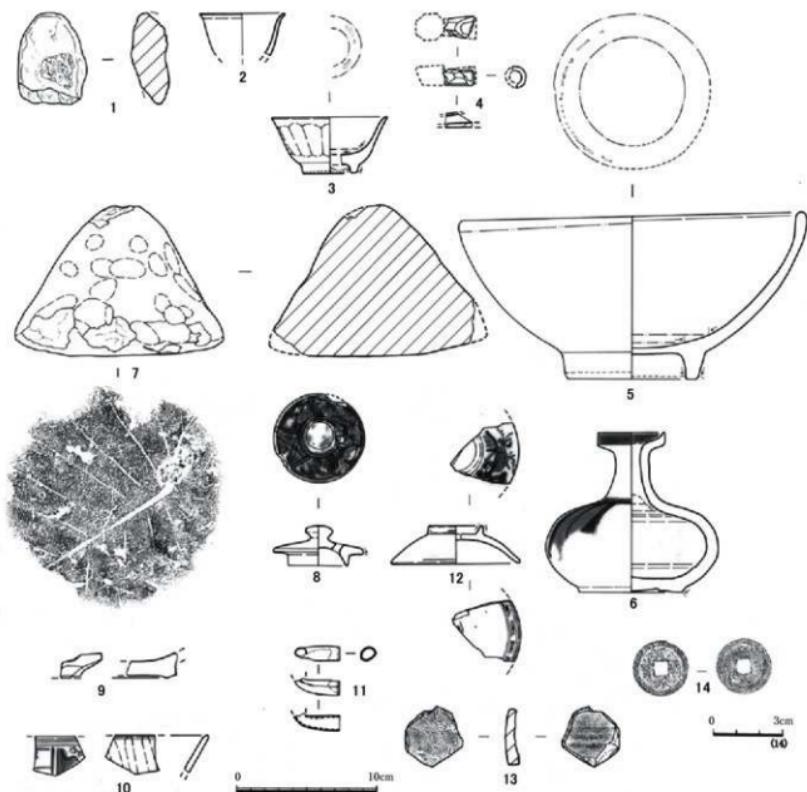
沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器、瓦を主とし、青磁、白磁、染付、本土産陶磁器、陶質土器、石製品、鉄製品等を合計1,396点検出している。SK 3から沖縄産無釉陶器の壺が集中して検出されている。第17表に特徴的な遺物の観察事項、第59表に遺物毎の出土状況を示す。

第17表 区画11出土遺物觀察一覽(II 地區)a

第17表 区画11出土遺物觀察一覧(II地区)b

単位:cm

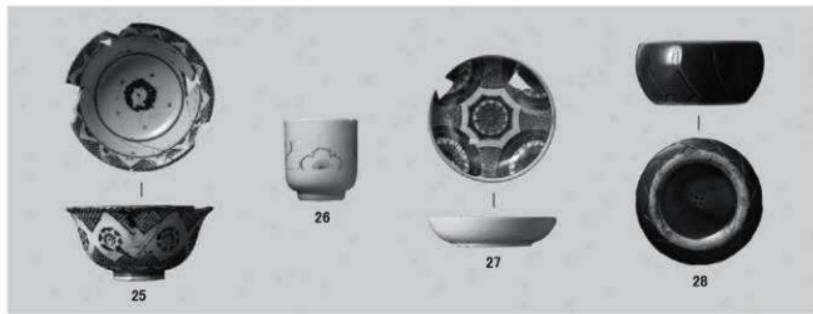
探査番号 図版番号	種類	形種	部位	法量	観察事項	出土地
国版50	本土陶 近現代磁器	瓶	底部	口径 器高 底径	外側に青色釉。高台際に褐色墨縁を認む。	C-9 SK3内 I層
	本土陶 近現代磁器	火入	底部	口径 器高 底径	胴部に波状文、蓮瓣文等を施す。	C-9 SK3内
	本土陶 近現代陶器	蓋	—	口径 器高 底径	全体に貫入がある。	C-9 SK3内
	ガラス製品	瓶	口～底部	口径 器高 底径 $\times=5.0$ $\times=2.8$	底部に「AJINOMOTO」の字が入る。	C-9 SK3
国版51	本土陶 近現代磁器	瓶	口～底部	口径 器高 底径 12.9 6.2	胴部に文様を施す。	C-10 SK1内
	本土陶 近現代磁器	小瓶	口～底部	口径 器高 底径 6.5 7.1 3.8	スンカンシマカイ。内外面に虎文等を施す。	C-10 SK1内
	本土陶 近現代磁器	蓋	口～底部	口径 器高 底径 11.2 2.5 6.7	内面に密に文様を施す。	C-10 SK1内
	本土陶 近現代磁器	蓋物	口～底部	口径 器高 底径 19.3 5.3 8.3	外側は墨縁で連弁状に区切られる。覺行を除き、褐色釉が施される。	C-10 SK1内



第82図 区画11出土遺物(II地区)



图版 50 区画 11 出土遗物1 (II 地区)



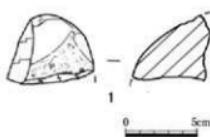
図版 51 区画 11 出土遺物2 (II 地区)

区画12

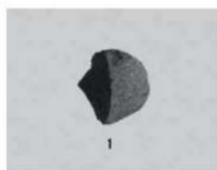
南北側を道路、東側を溝に区切られているが、ピット及び土坑といった遺構は確認できなかつたため、ここでは遺構図は省略した。

出土した遺物は土器 3 点、磨石 1 点の合計 4 点のみである。磨石は丁寧に角をとられ、滑らかである。側面も研磨された様子があることから、欠けた後も別の用途で使用されたと考えられる。

3.5cm×4.5cm。



図版 52 区画 12 出土遺物 (II 地区)



図版 53 区画 12 出土遺物 (II 地区)

区画13

瓦を主とし、白磁、染付、色絵、本土産陶磁器、沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器、陶質土器、石製品、金属製品等を合計3,282点検出している。特に瓦が多く、D-10グリッドの遺構及び包含層から大量に出土している。第18表に特徴的な遺物の観察事項、第61表に遺物毎の出土状況を示す。

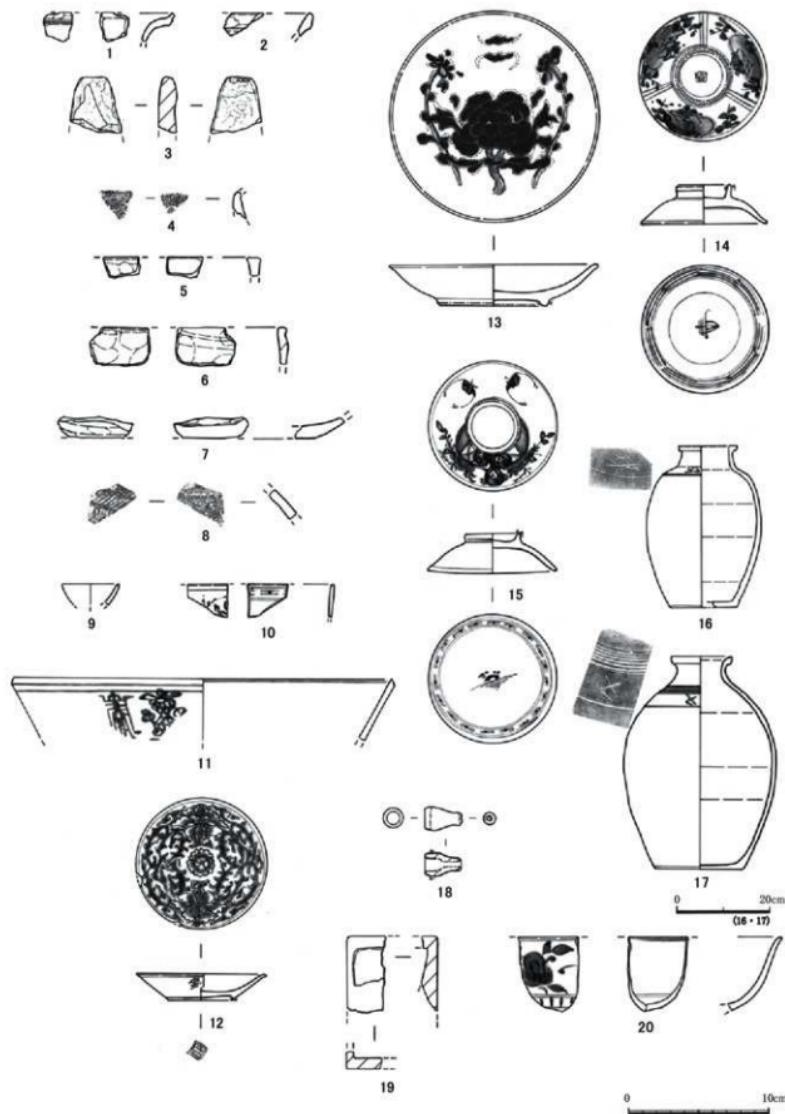
第18表 区画13出土遺物観察一覧 (II 地区)a

種別番号 測定番号	種類	器種	部位	法量			観察事項	出土地	単位:cm
				口径	器高	底径			
第81図 測定53	1	カムイヤク	煮	口縁部	—	—	口縁部が真直ぐ立上る。	D-10 SD37 上層	
	2	白磁	碗	口縁部	口径	器高	口縁が玉縁状に作られる。	E-10 SD51内	
	3	石器	石斧	—	口径	器高	刃部は欠損しており、他の部分は粗く成形されたままである。重量29.8g。	E-9 SD57内	
	4	土器	鉢	口縁部	口径	器高	口唇は欠損しており不明であるが、外反すると想定される。	E-10 SD65内	

第18表 区画13出土遺物観察一覧(Ⅱ地区)b

単位:cm

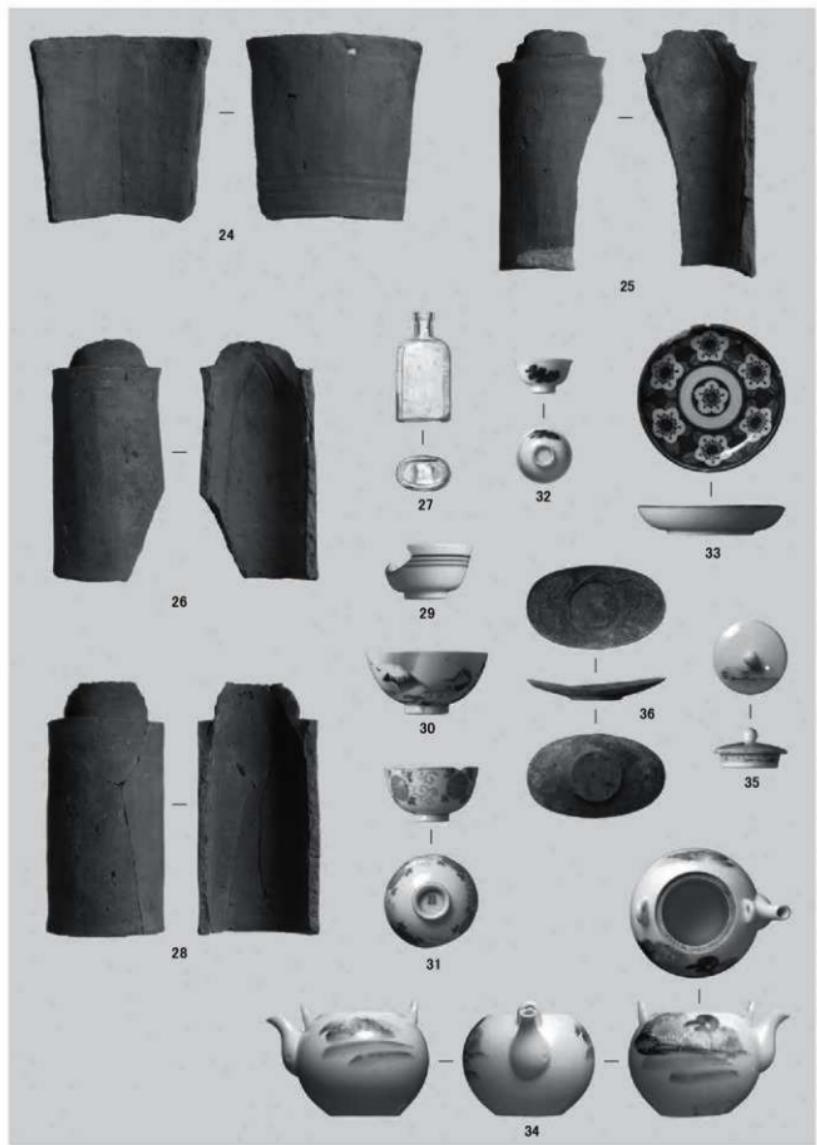
種類番号 団体番号	種類	器種	部位	法量	観察事項	出土地		
第84回 団体53	5	土器	鉢	口縁部	口径 器高 底径	口唇は僅かに内傾する。外面に指痕の調整が見られる。	E-10 SK87内	
	6	土器	鉢	口縁部	口径 高さ 底径	口唇は若干肥厚する。外面に指痕の調整があり、内面はさらにナデ調整も入る。	E-10 SK87内	
	7	土器	鉢	底部	口径 器高 底径	底部で、底面に作られる。紺土に滑石が入る。	E-10 SK87内	
	8	カムヤヤキ	壺	胴部	口径 高さ 底径	外面に羽状の印き目。	D-10 SS1 滅土2	
	9	堆積物	小杯	口縁部	口径 高さ 底径	外面に堆積物が施される。	D-10 SS1 2層	
	10	本土産磁器	勘付 碗	口縁部	口径 器高 底径	内外面に文様を施すが、小破片のため、文様は明確でない。	D-10 SS1 滅土3	
	11	染付	鉢	口縁部	口径 高さ 底径	胴部に寿字文及び花文を施す。	E-11 SS2内	
	12	染付	瓶	口～底部	口径 高さ 底径	内面中央に牡丹文、その周囲に唐草文、外腹側面に花文、高台内に銘文を施す。	E-9 トレンチ1	
	13	色绘	瓶	口～底部	口径 器高 底径	内面に牡丹を描く。瓶付は織物となる。	E-9 トレンチ1	
	14	本土産磁器	勘付 蓋	—	口径 高さ	外腹を3つに区切る草花文を描き、中央に銘を鏤く。内面は中央に海9、口縁に三本一組の團扇を描らす。	E-9 トレンチ1	
	15	本土産磁器	勘付 蓋	—	口径 器高 底径	外腹に草花文、内面は中央に海9。口縁に二本一組の文様を描く。	E-9 トレンチ1	
	16	沖繩產 無袖胸器	壺	口～底部	口径 高さ 底径	外腹に比翼を彌らし、肩と頸の間に比翼で銘を鏤く。	E-9 トレンチ1	
	17	沖繩產 無袖胸器	壺	口～底部	口径 高さ 底径	外腹肩に8条一組の比翼と1条の比翼を彌らす。その間に比翼で銘を鏤く。	E-9 トレンチ1	
	18	椎管	—	吸口	長さ 吸口径	喉が接する箇所は丸味を帯びるように作られ、施釉される。重量6.1g。	E-9 トレンチ1	
	19	石製品	硯	—	口径 高さ 底径	泡の部分が僅かに残る。重量29.7g。	E-9 トレンチ1	
	20	染付	碗	口縁部	口径 器高 底径	口縁部を外反させる。外腹側面に草花文、蓮弁を描く。	E-9 SW II層	
	団体53	21	鉄製品	鍔鉄	—	長さ 厚さ	左右対称のものが多いため、本製品は対称ではない。本製品を止めたと考えられる新(針)も残存している。重量101.0g。	E-10 SK76内
		22	鉄製品	包丁	—	長さa 幅2b	万字は欠損しており、柄の部分も失われている。重量67.5g。	E-10 SK87内
		23	瓦	明礬系 平瓦	—	口径 器高 底径	外腹に保が付着する。色調は赤色。	D-10 SS1 滅土2
		24	瓦	明礬系 平瓦	—	口径 器高 底径	上記のものとは同じ。色調は赤色。	D-10 SS1内
25	瓦	明礬系 丸瓦	—	口径 器高 底径	前面に布目跡、筒部端に漆抜痕を残す。色調は赤色。	D-10 SS1 滅土2		
26	瓦	明礬系 丸瓦	—	口径 器高 底径	前面に布目跡。色調は赤色。	D-10 SS1内		
27	ガラス製品	瓶	口～底部	口径 高さ φ×3.5×2.8	外面に目盛りが残る。外底に「5」。	E-9 SP235内		
28	瓦	明礬系 丸瓦	—	口径 器高 底径	前面に布目跡。色調は赤色。	E-9 SX15内		
29	本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 高さ 底径	口縁と脚部の境にヨコの團扇を彌らす。	E-9 SX15内		
30	本土産 近現代磁器	碗	口～底部	口径 器高 底径	外腹に富士山、鳥、民家、松等の文様を描く。	E-9 トレンチ1		
31	本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 器高 底径	外腹に雪7、唐草を描く。高台内に「越605」銘を残す。	E-9 トレンチ1		
32	本土産 近現代磁器	小杯	口～底部	口径 器高 底径	外腹に一葉、高台内に團扇を彌らす。	E-9 トレンチ1		
33	本土産 近現代磁器	盤	口～底部	口径 器高 底径	内面全体に梅を配置し、口唇は施釉を施す。	E-9 トレンチ1		
34	本土産 近現代磁器	急須	口～底部	口径 器高 底径	外腹に山を中心とした風景を描き、高台内に「瀬751」を印記する。内部は茶漉し仕付け。	E-9 トレンチ1		
35	本土産 近現代磁器	蓋	—	口径 器高 底径	因版5-34の蓋。外腹に風景を描く。	E-9 トレンチ1		
36	青銅製品	茶たく	口～底部	口径 器高 底径 φ12.0 h 7.3	内面に鍋、草木の文様を残す。重量45.3g。	E-9 トレンチ1		



第 84 図 区画 13 出土遺物 (II 地区)



图版 53 区画 13 出土遗物1 (II 地区)



图版 54 区画 13 出土遗物2 (II 地区)

図画14

染付、本土産陶磁器、沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器、瓦等を45点検出したが、いずれも胸部片のため、今回は図化せず、集計のみ行った。第62表に遺物毎の出土状況を示す。

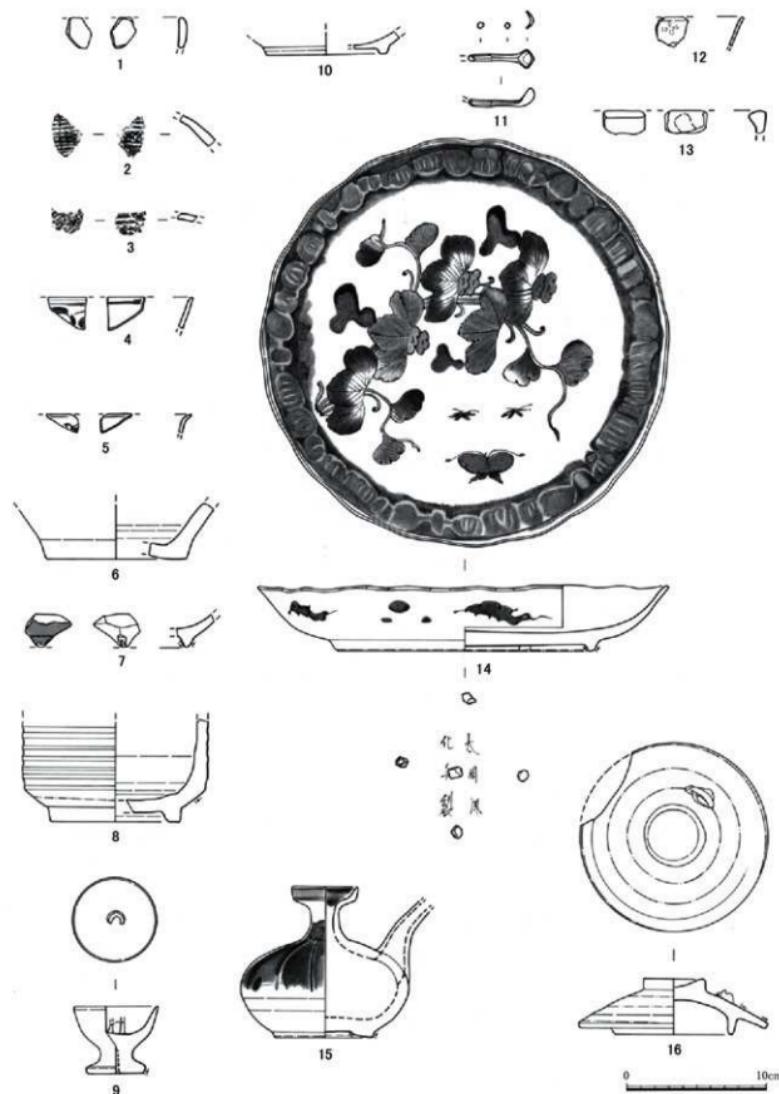
図画15

沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器、瓦を主とし、白磁、染付、色絵、瑠璃釉、本土産陶磁器、陶質土器、金属製品等を合計378点検出している。第19表に特徴的な遺物の観察事項、第63表に遺物毎の出土状況を示す。

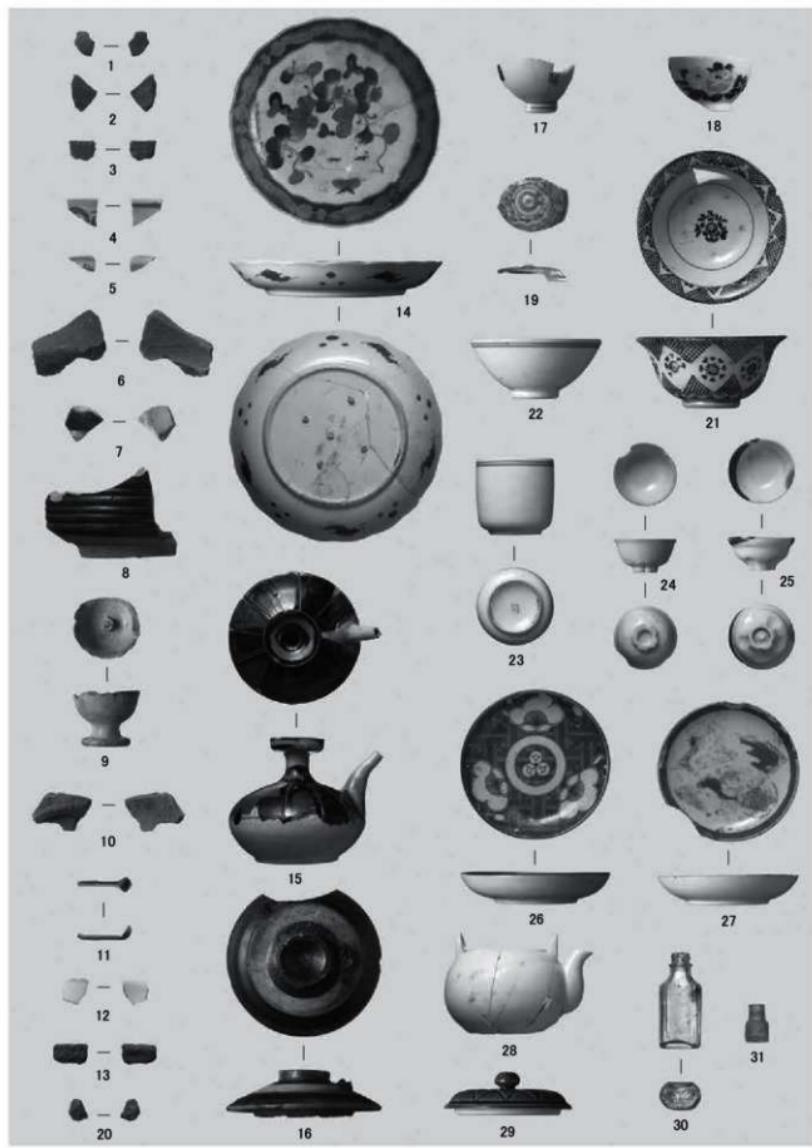
第19表 区画15出土遺物観察一覧(Ⅱ地区)

単位:cm

種類	器種	部位	法量	細部事項	出土地
第85号 国版55	1 土器 身	口縁部	口径 略高 底径	内溝気味に作られる。石英をを入れている。	F-11-G-12 SD14上層
	2 カムイヤキ 蓋	側部	口径 略高 底径	内外面に調整のための叩き目が残る。	F-11-G-12 SD14内
	3 カムイヤキ 身	側部	口径 略高 底径	内外面に調整のための叩き目が残る。	F-11-G-12 SD14 3層
	4 染付 小瓶	口縁部	口径 略高 底径	外面側部に草花文々、内面に團扇を描く。	F-11-G-12 SD14内
	5 染付 小杯	口縁部	口径 略高 底径	口唇は尖る、外面に草花文々、内面に團扇を描く。	F-11-G-12 SD14内
	6 施釉陶器 蓋	底部	口径 略高 底径	底部中央が窪むように作られる。底部は露胎。	F-11-G-12 SD14上層
	7 塗噴釉 瓶	底部	口径 略高 底径	外面に瑠璃釉が施される。蓋付は露胎となり、高台に筋が付着する。	F-11-G-12 SD14内
	8 伸縮座 施釉陶器 火炉	底部	口径 略高 底径	外面側部部分まで黒釉を施し、外面側部以下及び内面は露胎。	F-11-G-12 SD14下層
	9 伸縮座 施釉陶器 灯明具	口～底部	口径 6.0 4.0	口縁部に煤が残る。	F-11-G-12 SD14上層
	10 陶質土器 部種不明	底部	口径 略高 底径	内外面共に煤が付着している跡がある。	F-11-G-12 SD14 3層
	11 青磁製品 豆	—	カブリ長 9.2	竿は六角形に作られる。アルミニウム製。	F-11-G-12 SD14上層
	12 色絵 小瓶	口縁部	口径 6.0 0.4	外に草花文。	E-11 SD21 2層
	13 土器 身	口縁部	口径 略高 底径	口縁部には内側に肥厚する。	E-11 SK29内
	14 本土産陶器 大皿	口～底部	口径 29.3 4.7	口縁は波状にし、内面に牡丹又は蘭を描く。高台内に「大明成化年製」	E-11 SK29内
	15 伸縮座 施釉陶器 酒器	口～底部	口径 4.8 10.8	脚部上部から中位にかけて、次段で区切り、赤色と緑色を交互に施す。	E-11 SK29内
	16 伸縮座 施釉陶器 蓋	—	口径 13.3 4.0	外に蛇の目状に露胎所を作る。内面は露胎で、煤が付着する。	E-11 SK29内
国版55	17 本土産 近現代器皿 小瓶	口～底部	口径 7.8 4.9	外面に「〇草」紋。	F-11-G-12 SD14内
	18 本土産 近現代器皿 小瓶	口～底部	口径 7.8 4.1	外面に牡丹文。	F-11-G-12 SD14 1層
	19 本土産 近現代器皿 蓋	—	口径 略高 底径	縫みは欠けている。外面に草花文。	F-11-G-12 SD14内
	20 石器 不明	—	口径 略高 底径	全体が粗く打ち抜かれている。	E-11 SD21内
	21 本土産 近現代器皿 瓢	口～底部	口径 13.4 6.2 4.7	花文を中心とし、内外面に文様を描く。	E-11 SK29内
	22 本土産 近現代器皿 瓢	口～底部	口径 13.6 5.1 4.1	口縁に2条の團扇を描す。	E-11 SK29内
	23 本土産 近現代器皿 小瓶	口～底部	口径 6.6 6.6 4.5	口縁に2条の團扇を描す。高台内に「岐374」。	E-11 SK29内
	24 本土産 近現代器皿 小瓶	口～底部	口径 5.5 2.9 2.2	外面腰部から高台を楕円形に作る。口縁部に緑色釉。	E-11 SK29内
	25 本土産 近現代器皿 小瓶	口～底部	口径 5.8 2.8 2.3	外面腰部から高台を楕円形に作る。口縁部の約半分に緑色釉、その反対側に丸ぐ緑色釉を施す。草と花の対を描く。	E-11 SK29内
	26 本土産 近現代器皿 盆	口～底部	口径 13.0 2.7 7.1	内面に梅文を配施し、その間を幾重花文で埋める。口唇は輪釉を施す。	E-11 SK29内
	27 本土産 近現代器皿 盆	口～底部	口径 12.2 2.5 7.1	内面に松竹梅、屏風等を描く。	E-11 SK29内
	28 本土産 近現代器皿 急須	口～底部	口径 6.3 7.1 6.5	外に松文を施す。底部は基部底辺に作られ、注ぎ口内側は茶漉しが付く。	E-11 SK29内
	29 本土産 近代陶器 蓋	—	口径 11.0 3.9 2.9	外は墨糞状に作られ、横模も要とする。	E-11 SK29内
	30 ガラス製品 瓶	口～底部	口径 8.0 2.5 2.4	外に葉形記体で「Dunqas」、底面に「OWENS」。	E-11 SK29内
	31 ガラス製品 瓶	口～底部	口径 1.4 3.3 1.9	脚部中央が膨らみに凸、指で捕まやすくなっている。	E-11 SK29内



第85図 区画15 出土遺物(II地区)



图版 55 区画 15 出土遗物 (II 地区)

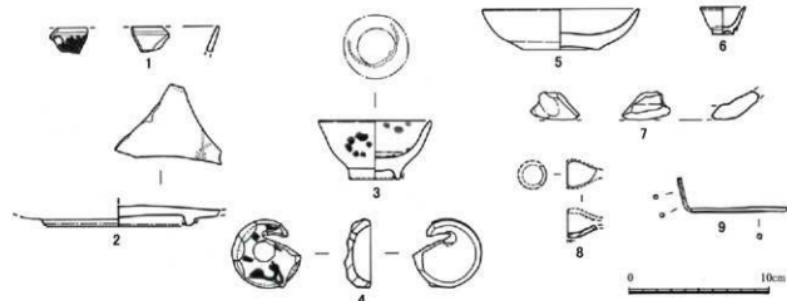
図画16

沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器、瓦を主とし、染付、色絵、瑠璃釉、本土産陶磁器、陶質土器、金属製品等を合計207点検出している。第20表に特徴的な遺物の観察事項、第64表に遺物毎の出土状況を示す。

第20表 区画16出土遺物観察一覧(Ⅱ地区)

単位:cm

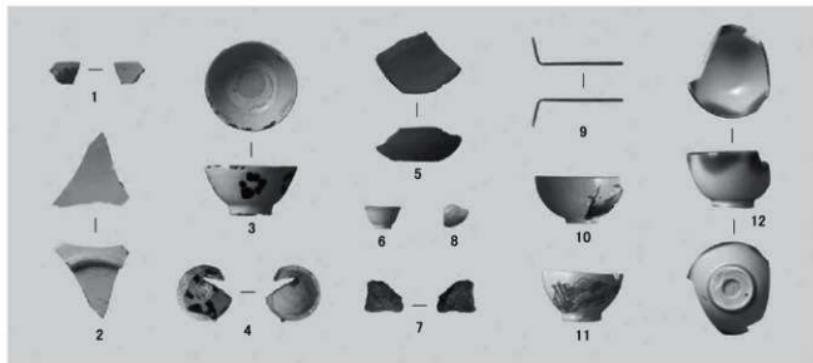
種類	種類	器種	部位	法値	観察事項	出土地		
第86図 図版56	1	染付	碗	口縁部	口径 — 底径 —	外腹に花文と圓線、内面に圓線を巡らす。	F-11 SD46内	
	2	色絵	皿	底部	口径 — 底径 —	見込に草花文?を描く。裏付は露胎。	G-11 SD46内	
	3	沖縄産 施釉陶器	小碗	口～底部	口径 8.1 長径 4.9	器高 4.2 底径 3.7 最大幅 0.7 蓋の構みと底を打ちちいて円状としている。蒸気の出口は大き く欠けている。重量22.4g。	G-11 SD46内	
	4	円盤状製品	—	—	—	—	G-11 SD46内 2層	
	5	沖縄産 無釉陶器	皿	口～底部	口径 11.2 口径 11.2	器高 5.6 底径 5.6 裏がに番筋底状に作られる。	G-11 SD46内	
	6	沖縄産 施釉陶器	小杯	口～底部	口径 3.2	器高 2.0 底径 1.5	口縁は僅かに外反する。	F-11 SK31内
	7	土器	鉢	底部	口径 — 接続部径 1.0	器高 — 底径 — 底部と胴部の境が明確で、角がある。	F-11 SK35内 4層	
	8	甕管	—	吸口	厚さ —	唇が接するところは欠損。	F-11 SN7内	
	9	青銅製品	管	—	全長 —	竿部分は四角形、花が付いている箇所は六角形。	G-10 SK8 2層	
	10	本土産 近代陶器	小碗	口～底部	口径 8.3	器高 4.0 底径 3.1	外腹に梅文を描く。花は白色釉を厚く盛り、凸状に作っている。	G-11 SD46内
	11	本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 7.0	器高 4.3 底径 3.3	外腹に梅文に帆掛け舟を描く。	G-11 SD46内
	12	本土産 近現代磁器	小碗	口～底部	口径 8.1	器高 4.8 底径 3.6	口縁に青色釉を施す。口唇は拵軸。	G-11 SD46内



第86図 区画16 出土遺物(Ⅱ地区)

図画17

沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器、瓦を主とし、白磁、染付、色絵、瑠璃釉、本土産陶磁器、陶質土器、石器、金属製品等を合計422点検出している。第21表に特徴的な遺物の観察事項、第65表に遺物毎の出土状況を示す。

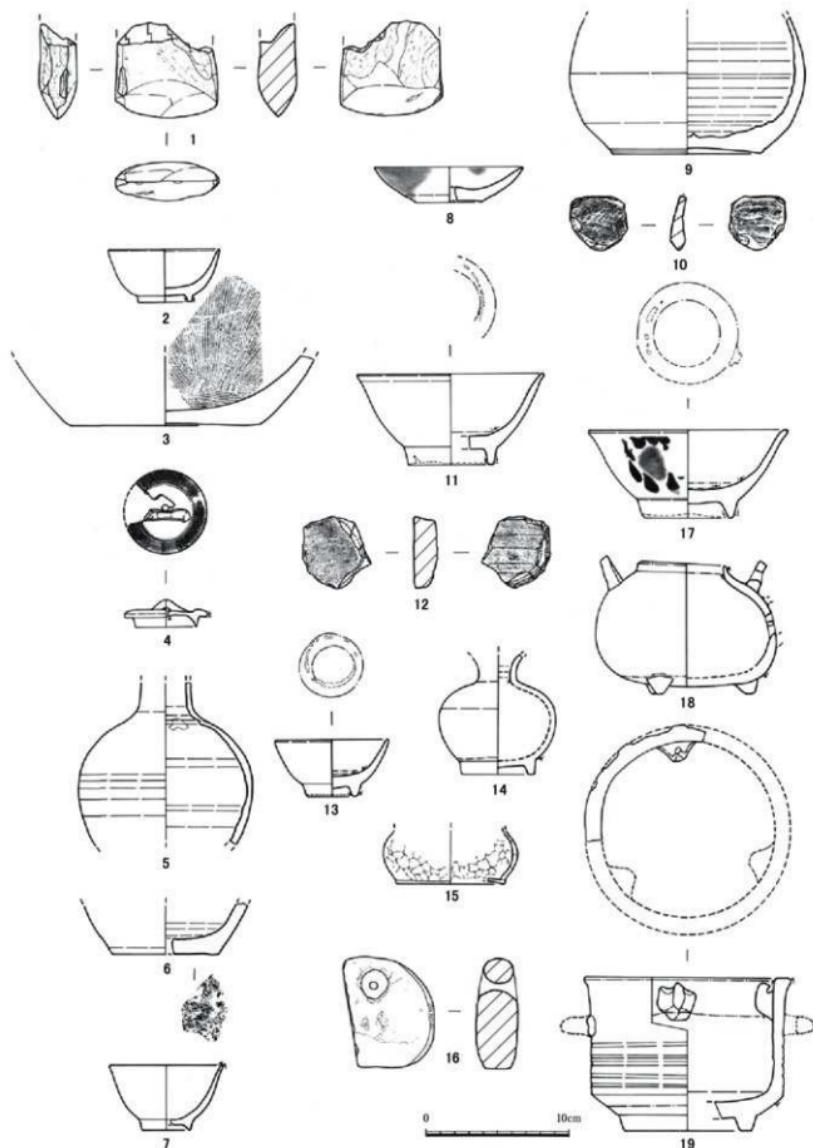


図版 56 区画 16 出土遺物 (II 地区)

第21表 II区 区画17出土遺物観察一覧(II地区)

単位:cm

種類番号 記載番号	種類	器種	部位	法量	観察事項	出土場
第87回 区画17	1	石器	石斧	—	口径 鋸齿 底径 — 重さ 196.4g.	H-11 SD43~44間 2層
	2	片端磨 施釉陶器	小鏡	口～底部	口径 鋸齿 底径 7.8 3.7 重さ 3.7	H-11 SD43~44間 2層
	3	片端磨 無釉陶器	盤部	—	口径 鋸齿 底径 13.0	H-11 SD43~44間 2層
	4	片端磨 施釉陶器	蓋	—	縁に沈澱を残す。粗粒鉢を示している。	H-11 SD44内
	5	片端磨 施釉陶器	瓶	胴部	口径 鋸齿 底径 5.8 1.9 重さ 4.3	H-11 SD44内
	6	片端磨 無釉陶器	蓋	—	口径 鋸齿 底径 7.5	H-11 SD44内
	7	白磁	小鏡	口～底部	口径 鋸齿 底径 8.0 3.4	G-11/H-11 SD47~48間
	8	片端磨 施釉陶器	蓋	口～底部	口径 鋸齿 底径 10.4 2.5 重さ 4.6	G-11/H-11 SD47~48間
	9	片端磨 無釉陶器	瓶	底部	口径 鋸齿 底径 10.4	G-12 SD49 2層
	10	円錐形製品	C	—	長径 短径 3.8 1.1 4.0	G-12 SD49内
	11	片端磨 施釉陶器	瓶	口～底部	口径 鋸齿 底径 13.2 6.4 重さ 6.0	G-11 SN53内
	12	円錐形製品	—	—	長径 短径 5.0 1.6 4.8	G-11 SN53内
	13	片端磨 施釉陶器	小鏡	口～底部	口径 鋸齿 底径 8.0 4.0 重さ 3.6	H-11 SN59内
	14	片端磨 施釉陶器	瓶	底部	口径 鋸齿 底径 — 5.1	H-11 SN59内
	15	底地不明 器物	底部	—	口径 鋸齿 底径 — 7.6	H-11 SN59内
	16	石製品	鐘?	—	口径 鋸齿 底径 — —	H-11 SN59内
	17	片端磨 施釉陶器	瓶	口～底部	口径 鋸齿 底径 14.0 6.3 重さ 6.5	H-11 SN12内
	18	片端磨 施釉陶器	急須	口～底部	口径 鋸齿 底径 6.3 9.3 重さ 7.4	H-11 SN12内
	19	片端磨 施釉陶器	大鉢	口～底部	口径 鋸齿 底径 14.6 10.7 重さ 8.8	H-11 SN12内
第57回	20	本土產 近代器	小鏡	口～底部	口径 鋸齿 底径 7.2 — 重さ 4.7	G-12 SD49 2層
	21	ガラス製品	瓶	口～底部	口径 鋸齿 底径 2.0 14.2 重さ a-6.2 h-4.3	G-12 SD49内
	22	青銅製品	把手	—	長径 — — 重さ 7.7	G-12 SD49 4層



第 87 図 区画 17 出土遺物 (II 地区)



图版 57 区画 17 出土遗物 (II 地区)

道1 (I 地区)

沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器、瓦を主とし、染付、本土産陶磁器、石製品、金属製品等を合計378点検出している。第22表に特徴的な遺物の観察事項、第66表に遺物毎の出土状況を示す。

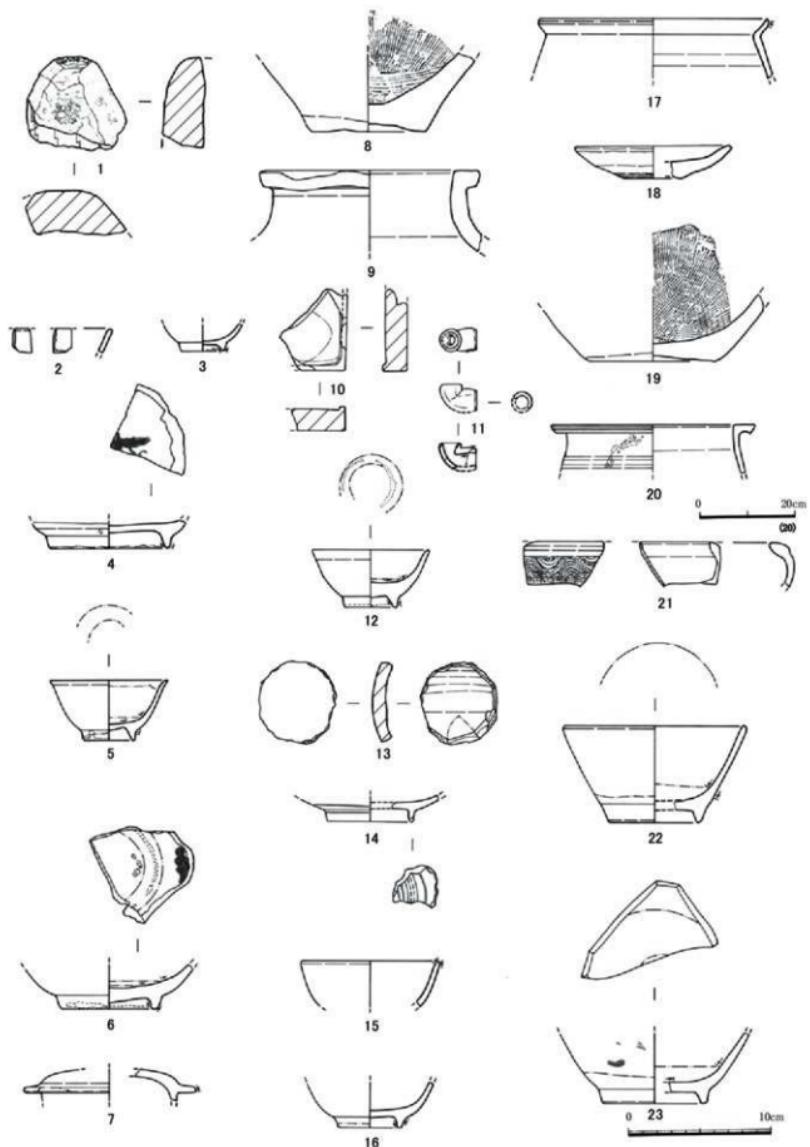
第22表 道1出土遺物観察一覧(I地区)

単位:cm

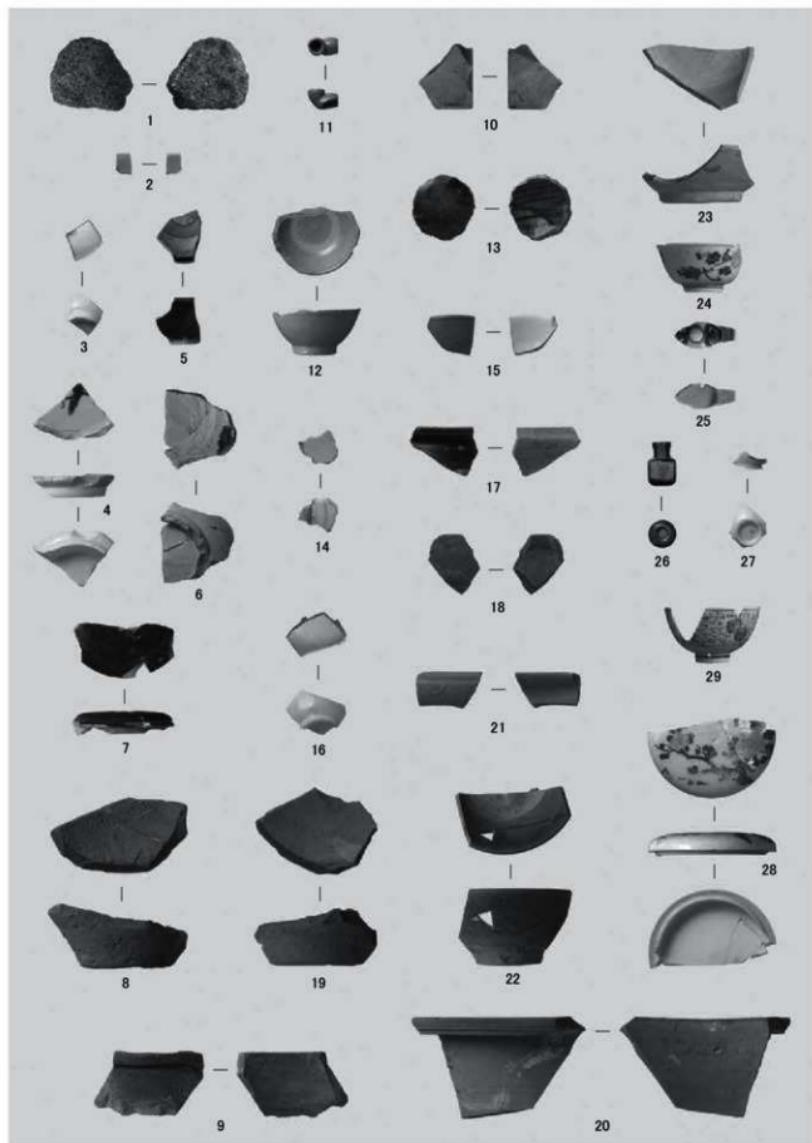
辨認番号 国級番号	種類	器種	部位	法像	観察事項	出土地
1	石器	磨石	—	口径 高さ 底径	表面に滑面と織目刻。重量203.8g。現レイ泥。	H-8 SD9 1層
2	白磁	碗	口縁部	口径 高さ 底径	素地は黄白色で織かん。	H-1-7 SD9 2層
3	白磁	小瓶	底部	口径 高さ 底径	蓋付露窓。素地は灰白色で織密。高台内面に砂目。	H-1-7 SD9 2層
4	染付	碗	底部	口径 高さ 底径	蓋付は露窓。素地は白色で織密。内底に文様。施化葉形。	H-8 SD9 2層
5	沖縄産 施釉陶器	小瓶	口～底部	口径 高さ 底径	外面周輪、内面灰釉を掛け分け。内底蛇の目軸刻ぎ。素地は灰白色で織かん。	I-8 SD9 1層
6	沖縄産 施釉陶器	皿	底部	14径 装飾 高さ	全面に台化軸と透明釉を施輪後、内底を蛇の目、蓋付軸刻ぎ。素地は灰黄色で織かん。外底と高台に重ね焼きのアルマナ板。	H-1-7 SD9 2層
7	沖縄産 施釉陶器	蓋	—	口径 高さ 底径	外面の甲蓋端部まで施釉を施輪。素地は灰白色で織密。	I-8 SD9 1層
8	沖縄産 無釉陶器	擂鉢	底部	14径 装飾 高さ	櫃口は深く間隔は密。素地は暗赤褐色で織密。	H-8 SD9 1層
9	沖縄産 無釉陶器	蓋	口縁部	14径 装飾 高さ	口唇部は方形状。素地は暗赤褐色で織密。	H-8 SD9 2層
10	石製品	鏡	—	口径 高さ 底径	長方鏡。全面に複数組。重量67.6g。	H-8 SD9 1層
11	縦管	—	雁首	火炎径 長さ	接縫部径 沖縄産施釉陶器製。外面は灰釉で素地は灰白色で織かん。重量5.1g。	I-8 SD9 1層
12	沖縄産 施釉陶器	小瓶	口～底部	口径 高さ 底径	白化軸後に灰オーバー色釉を施輪し内底蛇の目状・蓋付を施輪。素地は灰白色で織かん。内底にアルマナ付着。	I-7 SD22 1層
13	円盤状製品	—	—	長径 厚さ 最大幅	蓋付は沖縄産施釉陶器胴部品。重量39.2g。	I-7 SD22 1層
14	染付	碗	底部	口径 高さ 底径	全面施釉後に蓋付を軸刻ぎ。素地は灰白色で織密。外底に文様。	H-8 SF1 1層
15	珊瑚核	小瓶	口縁部	口径 高さ 底径	外表面磨輪、内面青灰白色釉を掛け分け。素地は灰白色で織密。	H-8 SF1 1層
16	本土産磁器	青磁 小瓶	底部	口径 高さ 底径	全面施釉後に蓋付を軸刻ぎ。素地は灰白色で織密。	G-9 SF1 1層
17	沖縄産 施釉陶器	鍋	口縁部	口径 高さ 底径	ぐの字状は縁。外面に施釉を施輪。素地は灰白色で織かん。	H-8 SF1 1層
18	沖縄産 無釉陶器	皿	口～底部	口径 高さ 底径	ベタ底。器色は暗灰色、素地は暗赤褐色で織密。	H-8 SF1 1層
19	沖縄産 無釉陶器	擂鉢	底部	口径 高さ 底径	櫃口間隔3密。素地は暗赤褐色で織密。	H-6 SF1 1層
20	沖縄産 無釉陶器	甕	口縁部	口径 高さ 底径	油L字状は縁。素地は茶褐色で織密。口唇側面に沈痕。外面に津波付着。	H-8 SF1 1層
21	陶質土器	鉢	口縁部	口径 高さ 底径	内底口縁。素地は橙色で織質。外面口縁部に沈痕・波状文。	H-8 SF1 1層
22	沖縄産 施釉陶器	碗	口～底部	口径 高さ 底径	灰釉を内腹下部へ高台際まで施輪。素地は薄橙色で織かん。	H-7 SF2 1層
23	沖縄産 施釉陶器	碗	底部	11径 高さ 底径	灰釉を内腹下部へ高台際、内底に施輪。素地は灰白色で織かん。外面上に文様。	H-7 SF2 1層
24	本土産 近現代磁器	小瓶	口～底部	口径 高さ 底径	全面施釉後に蓋付を軸刻ぎ。素地は白色で織密。外面に刷毛軸等による文様。	H-6 SD9 1層
25	本土産 近現代磁器	蓋	—	口径 高さ 底径	甲蓋端部は露窓。蓋部基部に1.2cmの孔。素地は灰白色で織かん。上面に文様。	I-8 SD9 1層
26	ガラス製品	瓶	口～底部	口径 高さ 底径	底部に△のSV文字。色調は茶。栓はキャップなし。	H-8 SD9 1層
27	本土産 近現代磁器	小杯	底部	口径 高さ 底径	全面施釉後に蓋付を軸刻ぎ。素地は白色で織密。外底に文字?。	I-7 SD22 1層
28	本土産 近現代磁器	蓋	—	口径 高さ 底径	神縛部露窓。素地は白色で織密。上面に鋼版軸写と紙張紙で草花文。	I-7 SD22 1層
29	本土産 近現代磁器	小瓶	口～底部	口径 高さ 底径	全面施釉後に蓋付を軸刻ぎ。素地は灰白色で織密。外面に花唐草文。	H-8 SF1 1層

第88回
図版58

図版58



第88図 道1 出土遺物(Ⅰ地区)



图版 58 道1 出土遗物 (I 地区)

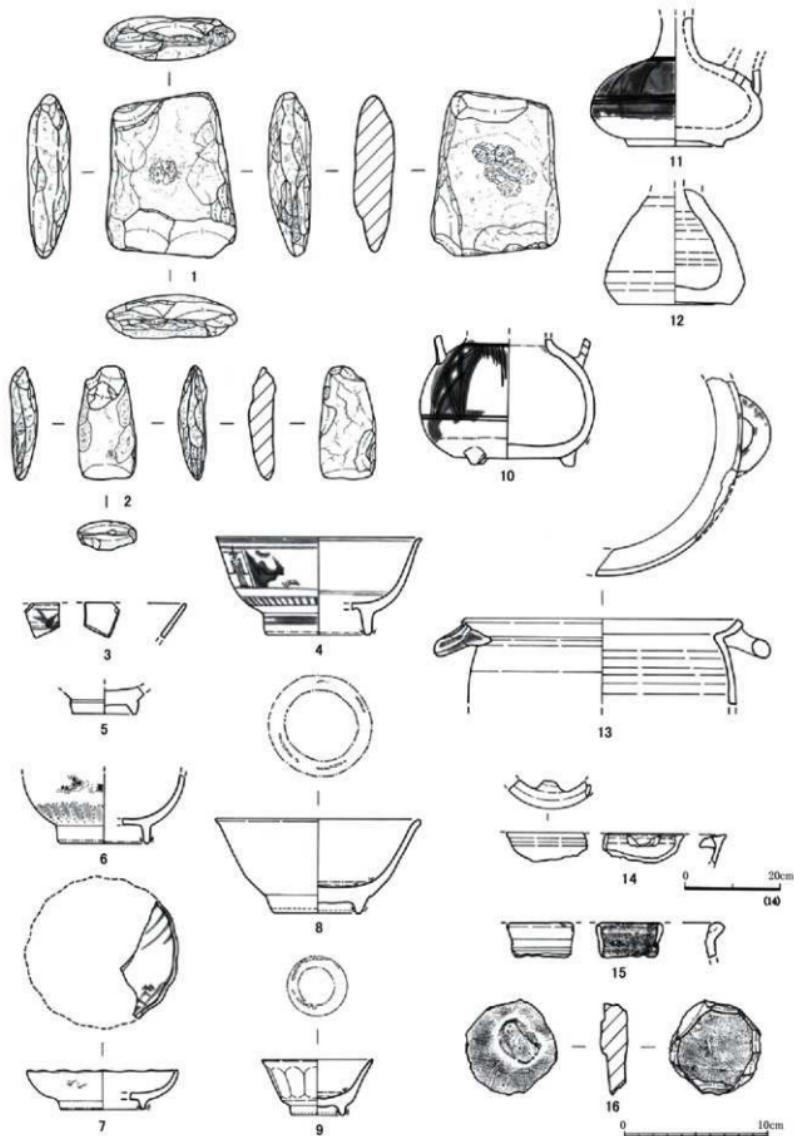
道1(Ⅱ地区)

沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器、瓦を主とし、染付、色絵、本土産陶磁器、石製品、金属製品等を合計993点検出している。SD59から大部分の出土となっている。第23表に特徴的な遺物の観察事項、第67表に遺物毎の出土状況を示す。

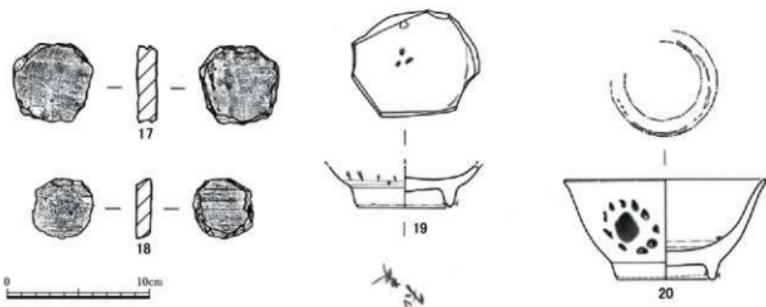
第23表 道1出土遺物観察一覧(Ⅱ地区)

単位:cm

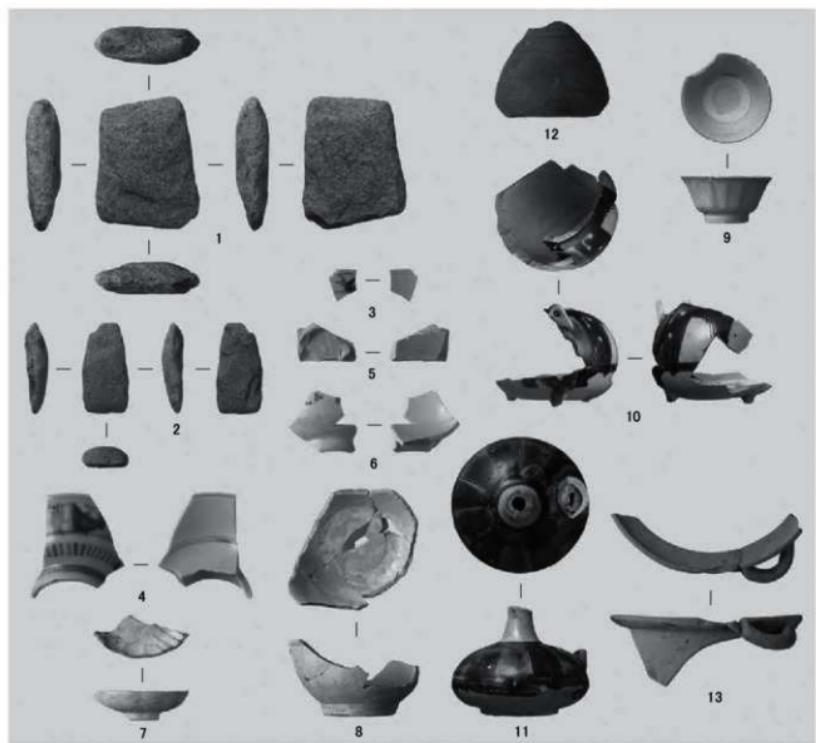
種類	器種	部位	法量	観察事項	出土地
第89回 図版59	1 石器	石斧	口径 距高 底径	全体的に磨かれているが、刃部は使用により欠けている。緑色片岩。重量503.4g。	E-10 SD59内
	2 石器	石斧	口径 器高 底径	表面は全体を磨いているが、裏面は刃部のみ磨いている。長軸の断面は薄い鉢状。重量91.8g。	E-10 SD59内
	3 染付	碗	口縁部 口径 距高 底径	外面部口縁部に草花文、内面部口縁部に團練を巡らす。	E-10 SD59内
	4 染付	碗	口～底部 口径 距高 底径	外面部側面に梅花文、寿字文及び蓮弁文を描き、内面部は團練を巡らす。	E-10 SD59内
	5 本土産陶器	碗	底部 口径 距高	口縁を櫻花状に成形し、與頭を飾る。内面部に松林等を描く。	E-10 SD59内
	6 色絵	碗	底部 口径 器高	外面部に花文、蓮弁文を描く。	E-10 SD59内
	7 本土産磁器	染付皿	口～底部 口径 器高 底径	腹付から高台内には露點。	E-10 SD59内
	8 沖縄産施釉陶器	碗	口～底部 口径 距高 底径	白化粧とし、内外面部に細かい貫入が入っている。見込は蛇の目釉割ぎとする。	E-10 SD59内
	9 沖縄産施釉陶器	小瓶	口～底部 口径 距高 底径	外面部側部は蓮弁状に面取りする。見込は蛇の目釉割ぎ。	E-10 SD59内
	10 沖縄産施釉陶器	急須	底部 口径 距高	外面部は辺縁で格子状に描いたのに釉薬にて色を加えている。	E-10 SD59内
	11 沖縄産施釉陶器	酒器	底部 口径 器高	底盤上位から中位にかけて、辺縁で区切り、青色釉と輪輪を交互に施す。	E-10 SD59内
	12 沖縄産無釉陶器	瓶	底部 口径 距高	厚く、底部から頸部に向けて、窄まるように作られる。	E-10 SD59内
	13 商賣土器	鍋	口縁部 口径 距高	把手は下向きに付けられる。外面部は煤が付着している。	E-10 SD59内
第89回 図版60	14 商賣土器	かまと	口縁部 口径 距高	口縫は中央で僅かに段をつける。内面部は煤が付着する。	E-10 SD59内
	15 商賣土器	大切	口縁部 口径 距高	口縫部は外反するとともに肥厚させている。	E-10 SD59内
	16 円盤状製品	—	長径 幅 厚さ	耳の部分を利用して、製品を作っている。重量84.8g。	E-10 SD59内
	17 円盤状製品	—	長径 幅 厚さ	瓦を円盤状に成形している。重量53.8g。	E-10 SD60内
第90回 図版60	18 円盤状製品	—	長径 幅 厚さ	沖縄産陶器を円盤状に成形している。重量25.9g。	E-11 SK79内
	19 染付	碗	底部 口径 距高 底径	外面部側部に蓮弁文、高台内に「和美」款、見込に3点文を描く。	E-11 SK82内
	20 沖縄産施釉陶器	碗	口～底部 口径 距高 底径	外面部に草花文を描く。	E-11 SK82内
	21 石器	磨石	—	平端に加工されている箇所がある。重量99.4g。	E-10 SD59内
図版60	22 石器	磨石	—	磨かれている箇所があるが、大部分は欠けている。重量16.3g。	E-10 SD59内
	23 瓦	不明瓦 平瓦	口径 距高 底径	内部は布目跡が付く。内外面部は黒色を呈す。	E-10 SD59内
	24 本土産近現代鋸器	小鏡	口縁部 口径 距高 底径	外面部に染色体状の文様を描く。口縁に輪輪を施す。	E-10 SD59内
	25 本土産近現代鋸器	小鏡	口縁部 口径 距高 底径	外面部に草花文を描く。	E-10 SD59内
	26 本土産近現代鋸器	小鏡	口縁部 口径 距高 底径	外面部に草花文?。口縁に與頭を施す。	E-10 SD59内
	27 本土産近現代鋸器	蓋	口縁部 口径 距高 底径	外面部に草花文を描く。織みは次積。	E-10 SD59内
	28 本土産近現代鋸器	蓋	—	輪文、花文を描く。	E-10 SD59内
	29 ガラス製品	瓶	口～底部 口径 距高 底径	横方向に調整窓が付く。	E-10 SD59内
	30 本土産近現代鋸器	小杯	口～底部 口径 距高 底径	外面部に花文、見込は蛇の目釉割ぎ。白化粧。	E-11 SK82内



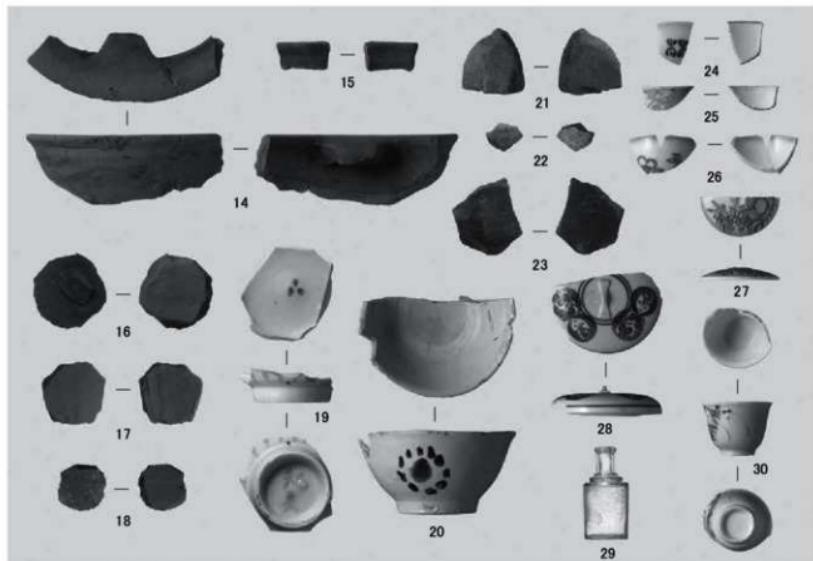
第89図 道1出土遺物1(II地区)



第90図 道1 出土遺物2(II地区)



図版 59 道1 出土遺物1(II地区)



図版 60 道1 出土遺物2 (II地区)

道2 (II地区)

沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器、瓦を主とし、青磁、白磁、染付、本土産陶磁器、石製品、金属製品等を合計682点検出している。第24表に特徴的な遺物の観察事項、第68表に遺物毎の出土状況を示す。

第24表 道2出土遺物観察一覧(II地区)a

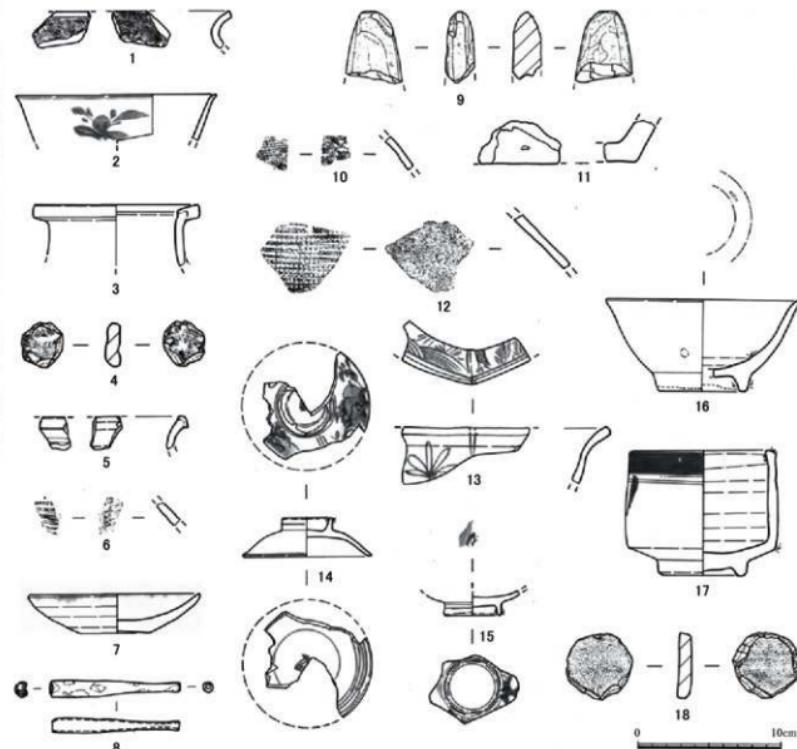
単位:cm

件名 回復番号	種類・分類	部位	法兼	観察事項	出土地
第24表 回復番号	1 カムヤヤキ 瓦	口縁部	口径深 直径 底高 底径	口縁部は外反し、口唇は僅かに厚い。	D-9-10 SD34内
	2 染付 瓦	口縁部	口径深 14.0 —	口唇は外反し、外表面部に草花文を施す。	D-9-10 SD34内
	3 内側面 無釉陶器	窓	口縁部 11.6 —	直行する口縁に粘土を追加して外反させる。	D-9-10 SD34内
	4 円盤状製品	—	長径 3.1 1.0	最大幅 2.8 直径 口唇 —	外表面が切削されている。全体が角が取れ、滑らか。重量8.8g。 D-9-10 SD34内
	5 カムヤヤキ 瓦	口縁部	口径 底高 —	口唇内外面を肥厚させる。外の肥厚は尖るようにならざる。頭部下部に沈澱物を含む。	D-9-10 SD35内
	6 カムヤヤキ 瓦	脚部	口径 底高 底径	外表面平行の叩き目。内面は燕子状の叩き目で調整している。	D-9 SD35内
	7 沖縄産 無釉陶器	口～底部	口径 11.9 2.8 6.7	口唇部に高台内は底付し、外表面に輪轉絞り、口唇部にタール状のものが付着する。	D-9 SD35内
	8 佛晬	般口	種統部 長さ 1.0 8.9 0.7	長さ 瓶口 — — —	蓋ぎ目はなく、口付は墨かに厚く作られる。内面に罐子の一端が残り、重量12.7g。 D-9 SD35内
	9 石器	石斧	—	刃部は欠損している。表面の一部、側面は研磨されている。緑色質、重量60.1g。 D-9 SD35内	
	10 カムヤヤキ 瓦	脚部	口径 底高 底径	外表面は細かい平行の叩き目。内面を棒子状の叩き目で調整。	D-9-10 SD36 1層
	11 陶軸陶器	底	口径 底高 —	外表面は磨削、内面に釉を施す。赤色釉を含む。	D-9-10 SD36 上層
	12 陶軸陶器	脚部	口径 底高 底径	外表面に叩き目調節跡あり。白色釉、赤色釉を多く含み、外表面が元磨削できる。	D-9-10 SD36 1層

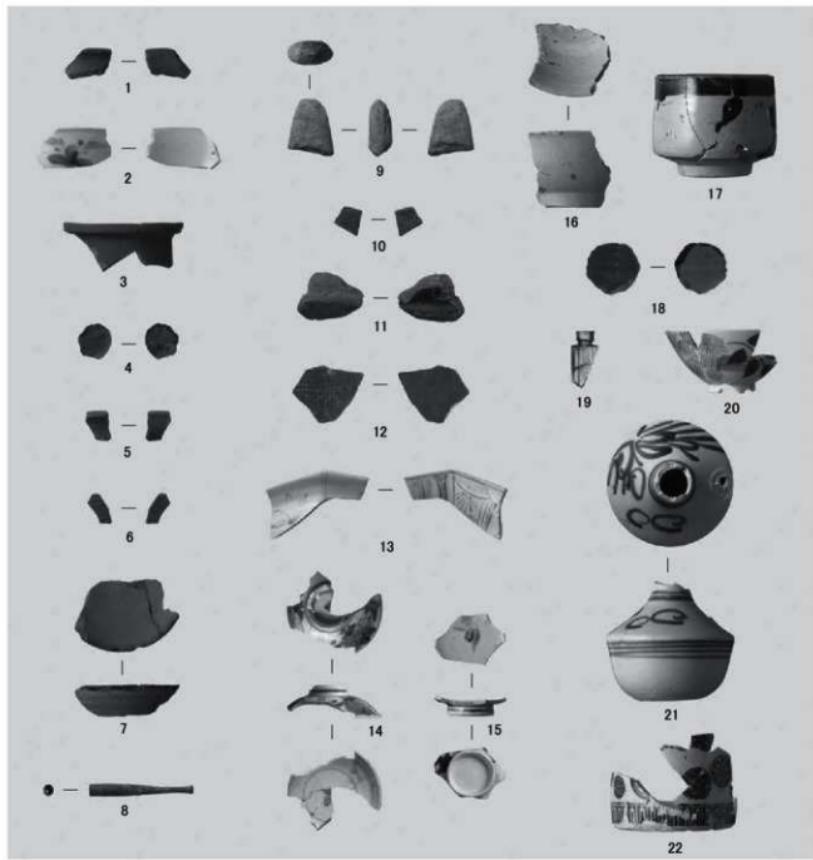
第24表 道2出土遺物観察一覧(II地区)b

単位:cm

河川番号 図版番号	種類・分類	部位	法集	調査事項	出土地	
第91回 図版61	13 本土産磁器	染付 体	口縁部	口径 深さ 底径 — —	口縁部を外模させ、上面部は八角形にする。外面に22条線で区切り、中に花文を描く。 内面は度文、草文等を描く。	D-9+10 SD36内
	14 本土産磁器	染付 蓋	—	口径 深さ 9.0 2.7	—	D-9+10 SD36 1層
	15 本土産磁器	染付 網	底部	口径 深さ — 4.0	外面に網目等、内面に風景を描く。	D-9+10 SD36 下層
	16 内溝底 施釉陶器	碗	口～底部	口径 深さ 13.6 6.4	外底に鉛錫1点で文様を描く。見付窯跡、見込窓の日輪割ぎで、全体に貫入式 入る。	D-9+10 SD36内
	17 内溝底 施釉陶器	火入	口～底部	口径 深さ 10.2 8.8	全体を白化剤とし、口縁部外側から外面口縁部に呉須を施す。外面窓2箇所に 曲矢を施すで表現する。外面窓部以下及び内面は織目ない。	D-9+10 SD36内
	18 円盤状品	—	長径 厚さ 4.6 0.9	—	最大幅 六外周から調整されている。重量30.9g。	D-9+10 SD36内
図版61	19 ガラス製品	瓶	口縁部	口径 1.5	外面上に「YI・ROHTO」銘。	D-9+10 SD36内 + D-9 SD35 粘土層
	20 本土産 近現代磁器	瓶	口～底部	口径 11.5 5.5	—	D-9+10 SD36 1層
	21 本土産 近現代磁器	水注	底部	口径 — —	脚部に草文、團扇を捺す。脚部と注口は欠損。底部は幕筒底状で脚部とな る。	D-9+10 SD36内
	22 本土産 近現代磁器	火入	底部	口径 — 10.1	外底窓部に度文、蓮弁文を施す。高台内は窪む。	D-9+10 SD36内



第91図 道2 出土遺物(II地区)



図版 61 道2 出土遺物（II地区）

第3項 包含層出土遺物

a I 地区（II層）

II層より出土した遺物は総数5,761点である。遺物の種類としては、青磁、白磁、染付、色絵、瑠璃釉、褐釉陶器、本土産染付、本土産陶器、本土産近現代陶器、本土産近現代磁器、沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器、土器、陶質土器、瓦質土器、カムィヤキ、瓦、煉瓦、円盤状製品、石器、石製品、石材、貝製品、煙管、錢貨、青銅製品、鐵製品、ガラス製品、産地不明品などである。II層についても、主体は本土産近現代磁器及び沖縄産施釉陶器の碗や皿、沖縄産無釉陶器の壺、瓦などである。縄文時代相当の資料から近現代の資料までが混在してみられる。図示および写真撮影した遺物の特徴については、観察表（第25表）に記す。

第25表 包含層(II層)出土遺物観察一覧(I地区)a

単位:cm

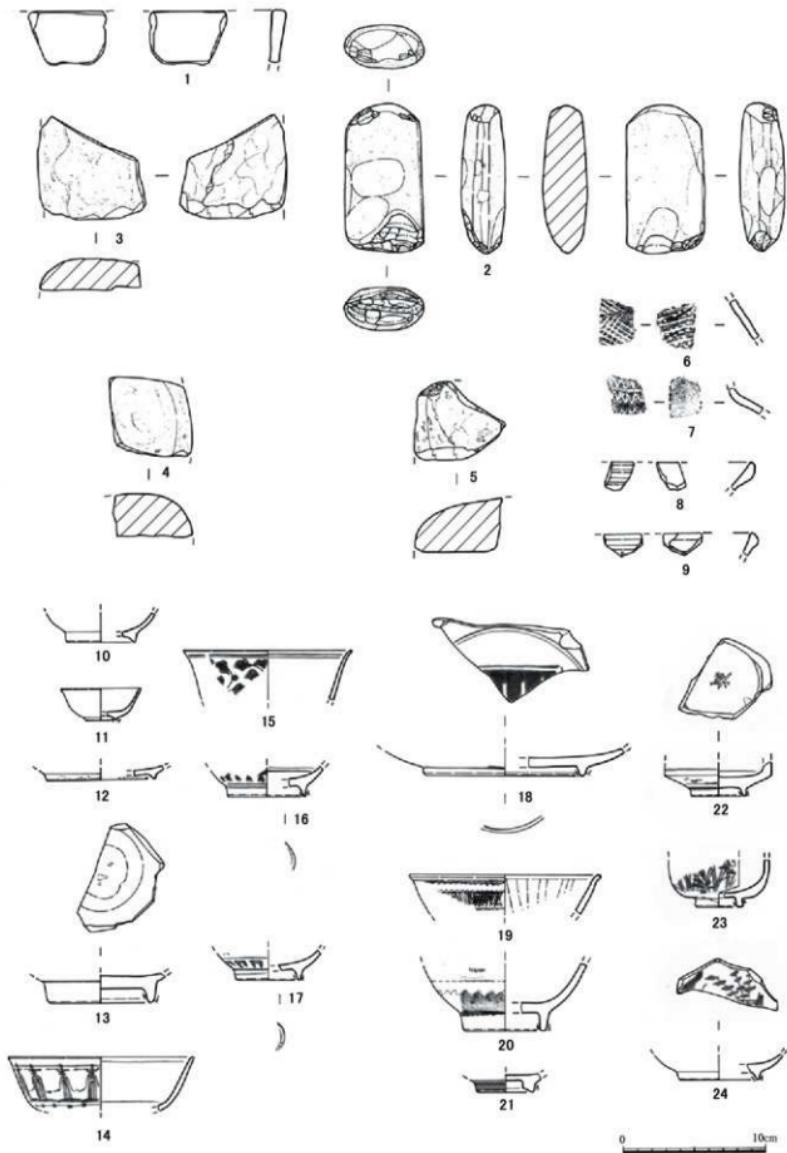
種別番号 図版番号	種類	器種	部位	法量	観察事項	出土地
1	土器	鉢	口縁部	口径 距高 底径	石英などの粗砂粒を多く混入する。口唇部は平坦。縄文時代後期相当の土器と考えられる。	G-8 II層
2	石器	磨製石斧	—	口径 距高 底径	表面及び上端に磨面。刃脚は大きく摩滅している。繩文時代後期の石軒用品と考えられる。緑色岩。重量335.0g。	G-6 II層
3	石器	磨石	—	口径 距高 底径	左側側面に磨面。裏面及び上下端は自然面。砂岩。重量171.6g。	H-7 II層
4	石器	磨石	—	口径 距高 底径	裏面及び左側側面に磨面。他はすべて自然面。緑色岩。重量189.8g。	G-8 II層
5	石器	磨石	—	口径 距高 底径	表面に磨面。他はすべて自然面。砂岩。重量160.8g。	E-8 II層
6	カムイヤキ	蓋	胴部	口径 距高 底径	内部は格子状のため具無し。外面には刃状の叩き目痕がみられ、とんでもナチュラルな形状が施されている。胎土は灰黑色を呈し、白色粒を含む。	E-8 II層
7	カムイヤキ	蓋	胴部	口径 距高 底径	内部に削除跡。外面は成形の沈線53本めぐる。胎土は灰色で、黒色粒、白色粒を含む。	F-8 II層
8	白磁	碗	口縁部	口径 距高 底径	玉縁口縁。玉縁下端の割りが明瞭。素地は白灰色で細かい。黒色粒を含む。	F-9 II層
9	白磁	碗	口縁部	口径 距高 底径	玉縁口縁。素地は白色で緻密。黒色粒を含む。	F-7 II層
10	白磁	小瓶	底部	口径 距高 底径	素地は白色の緻密。黒色粒を含む。福建産か。	H-8 II層
11	白磁	小杯	口～底部	口径 距高 底径 5.6 2.3	蓋付は露胎で、砂目あり。内部には砂が付着している。素地は白色で緻密。德化窑産。	C-8 II層
12	白磁	皿	底部	口径 距高 底径 — 7.6	蓋付に砂目あり。型成形。素地は白色で緻密。德化窑産。	I-8 II層
13	染付	碗	底部	口径 距高 底径 — 7.4	見込みには蛇の目状に釉剥げ。蓋付は露胎。内底に目跡あり。素地は白灰色で細かい。黒色粒を含む。福建・廣東系。	E-6 II層
14	染付	碗	口縁部	口径 距高 底径 13.0 —	素地は白色で緻密。德化窑産。	F-7 II層
15	染付	碗	口縁部	口径 距高 底径 11.8 —	素地は白色で緻密。黒色粒を僅かに含む。景德镇産。	F-7 II層
16	染付	小瓶	底部	口径 距高 底径 — 5.4	蓋付は露胎。素地は白色で緻密。景德镇産。	E-8 II層
17	染付	小瓶	底部	口径 距高 底径 — 4.4	蓋付は露胎。素地は白色で緻密。德化窑産。	H-7 II層
18	染付	皿	底部	口径 距高 底径 — 11.0	蓋付は露胎。素地は白色で緻密。德化窑産。	H-8 II層
19	色絵	碗	口縁部	口径 距高 底径 13.4 —	素地は淡灰白色で緻密。	H-8 II層
20	色絵	碗	底部	口径 距高 底径 — 5.4	蓋付は露胎。素地は淡灰白色で緻密。	H-9 II層
21	青磁碗	碗	底部	口径 距高 底径 — 4.0	蓋付から外底にかけて露胎。素地は淡灰白色で緻密。	F-8 II層
22	本土產銀器	染付小瓶	底部	口径 距高 底径 — 3.9	蓋付は露胎。素地は白色で細かい。肥前産。	F-7 II層
23	本土產銀器	染付小瓶	底部	口径 距高 底径 — 3.2	蓋付は露胎。素地は白色で緻密。肥前産。	C-8 II層
24	本土產銀器	染付皿	底部	口径 距高 底径 — 5.6	蓋付は露胎。素地は白色で緻密。肥前産。	G-8 II層
25	本土產銀器	染付碗	底部	口径 距高 底径 — —	蓋付は露胎。素地は白色で緻密。肥前産。	G-8 II層
26	沖繩產 麻績陶器	碗	口～底部	口径 距高 底径 13.2 5.7 6.4	内外面の上半部に灰釉を施す。下半部は露胎。内底中央に鉄線で丸文。フィガーハンド。内面の一端に窓が付着。素地は黄色味をおびた白色で緻密。	E-6 II層
27	沖繩產 麻績陶器	碗	口～底部	口径 距高 底径 13.2 6.7 6.0	内外面に白化粧+透明釉を單掛け。内底及び蓋付から外底は露胎。口唇部に縞模様を施す。内底に目跡あり(アルミナ付着)。外面には被膜質が明瞭。素地は黄色味をおびた白色で粗い。	E-6 II層
28	沖繩產 麻績陶器	碗	口～底部	口径 距高 底径 13.4 6.8 6.2	内外面に白化粧+透明釉を單掛け。内底は蛇の目状に釉剥ぎ。蓋付は露胎。具頭で花状文を描く。素地は橙白色で細かい。	E-7 II層
29	沖繩產 麻績陶器	小瓶	口～底部	口径 距高 底径 10.0 5.3 3.0	内面及び外面上半部まで灰釉を单掛け。外面上半部から外底まで露胎。素地は橙白色で粗い。	D-6 II層
30	沖繩產 麻績陶器	小瓶	口～底部	口径 距高 底径 9.6 4.5 4.4	内面に灰釉、外面上に鉄釉を掛け分け。内底は蛇の目状に釉剥ぎ。蓋付は露胎。内面に舟頭と鉄釉で文様を描く。蓋付にアルミナを塗布。内底に目跡あり(アルミナ付着)。素地は橙白色で粗い。	H-8 II層
31	沖繩產 麻績陶器	皿	口～底部	口径 距高 底径 21.1 6.1 9.2	内外面に白化粧+透明釉を单掛け。内底に舟頭と鉄釉で文様を描く。蓋付は露胎。内面に舟頭と鉄釉で文様を描く。蓋付にアルミナを塗布。内底に目跡あり(アルミナ付着)。素地は橙白色で粗い。	D-8 II層

第92回
図版62第93回
図版62

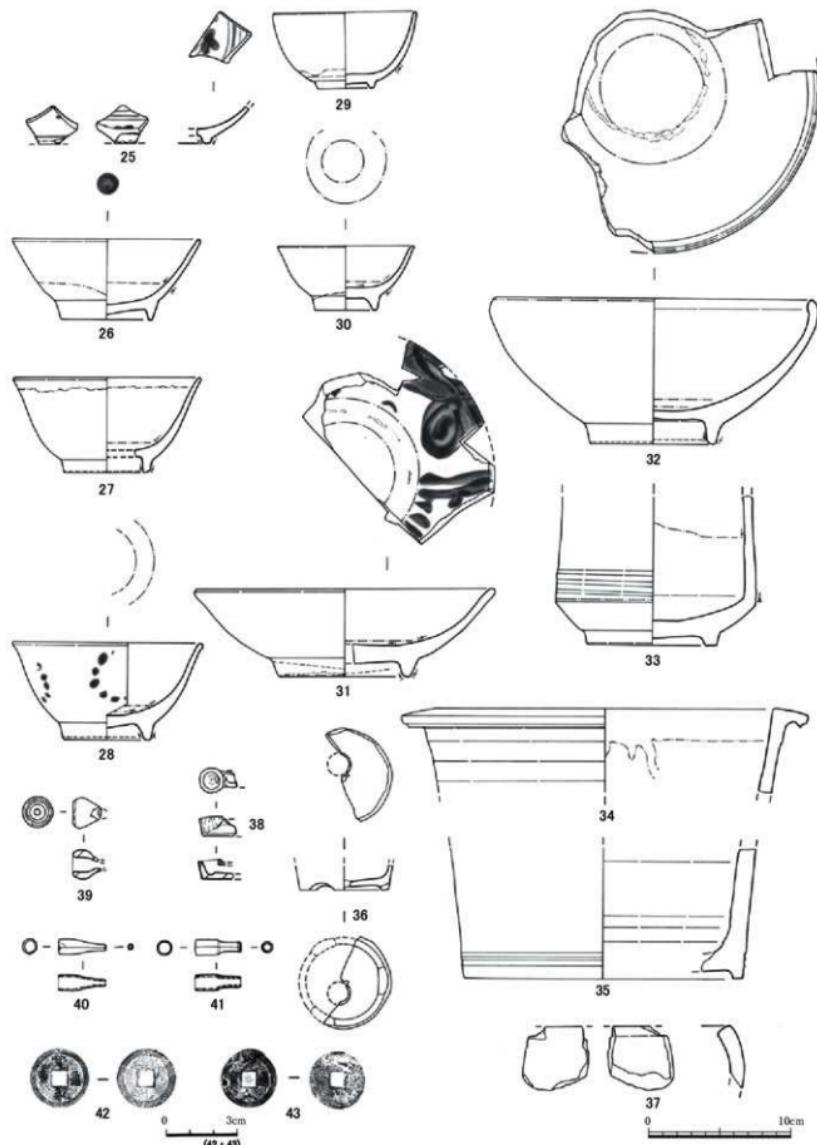
第25表 包含層(II層)出土遺物観察一覧(I地区)b

単位:cm

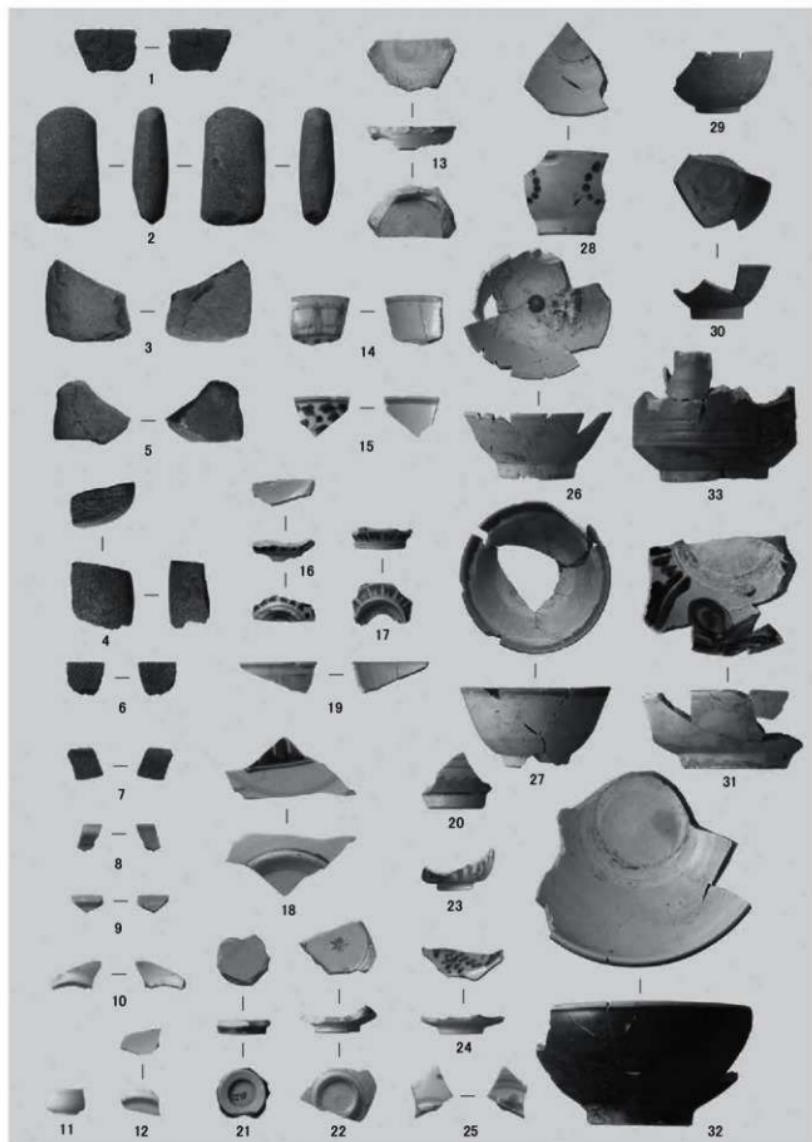
種類番号 図版番号	種類	器種	部位	法値	発見事項	出土地
第93回 図版62	沖綱產 黒釉陶器	鉢	口～底部	口径 脊高 底径	内面に白化粧十透明釉。外面に新釉を掛け分け、内底を蛇の目状に施す。裏付は織物地で、アルミナを焼か、内底に日跡あり(アルミナ付着)。	E-7 II層
				23.0 10.2 9.0	裏地は黄土色を含むた白色でやや粗い。	
33	沖綱產 黒釉陶器	大鉢	底部	口径 脊高 底径	内外面に灰釉を單軸。内面下部手前は織物地で、外縁部分は底まで織物地で、裏地は赤褐色に近いの灰釉。内底に日跡あり(アルミナ付着)。裏地は粗白色で、やや粗い。	G-8 II層
				— — 9.2		
34	沖綱產 黒釉陶器	鉢	口縁部	口径 脊高 底径	外外面に口縁下部に日本式旋紋。裏地は赤褐色でやや粗い。黒色粒、赤色粒、白色粒を含む。	D-8 II層
				28.6 — —		
35	沖綱產 黒釉陶器	鉢	底部	口径 脊高 底径	底部近辺に日本式旋紋。外底と右に織物痕が明瞭。裏地は赤褐色でやや粗い。黒色粒、赤色粒、白色粒を含む。	D-8 II層
				— — 19.6		
36	沖綱產 黒釉陶器	鉢	底部	口径 脊高 底径	取り入れた高台、外底部分から内底表面に向かって開けられた孔があることより、木植木と考えられる。裏地は赤褐色で、白色粒を含む。	E-7 II層
				— — 6.2		
37	瓦質土器	火炉	口縁部	口径 脊高 底径	内外面及び口縁上面にさざなぎ。内底は丁寧なコナダを施す。土筋は暗い灰褐色で粗い。白色粒、白色粒を含む。	C-8 II層
				— — —		
38	煙管	煙首	—	口径 脊高 底径	沖綱產陶器形。無蓋。火皿の立ち上がり(瓶底)は低い。火皿及び、首部の面取りが明瞭。先に火皿部分から孔を開けた後に火口側から孔を開けている。裏地は暗褐色でやや粗い。白色粒、黑色粒を含む。火皿 1.6cm、重量 4.6g。	H-9 II層
				— — —		
39	煙管	吸口	—	口径 脊高 底径	沖綱產陶器形。透明釉を施す。小口は織物地平頂に仕上げ。裏地は黄土色の細い白色でやや粗い。黒色粒を含む。口付部分は大根。小口 1.0cm、吸口 0.4cm、重量 4.9g。	G-9 II層
				— — —		
40	煙管	吸口	—	口径 脊高 底径	青銅製。板枚を焼物に曲げて作られたものと考えられる。口付部分は欠損。小口 1.0cm、吸口 0.4cm、重量 4.9g。	F-7 II層
				— — —		
41	煙管	吸口	—	口径 脊高 底径	青銅製。小口及口付は平頂に仕上げ。小口 1.0cm、吸口 0.6cm、重 6.5g。	F-6 II層
				— — —		
42	錢貨	寛永通寶	—	外径 孔径 厚さ	江戸時代。重量 3.0g。	C-8 II層
				2.4 0.7 0.1		
43	錢貨	寛永通寶	—	外径 孔径 厚さ	上部及び下部は変形。江戸時代。重量 2.6g。	H-8 II層
				2.3 0.6 0.1		
44	本土產磁器	小鉢	底部	口径 脊高 底径	透明釉を施す。裏地は白色で細密。統制磁器。外底に「口1056」という記載あり。近現代。	D-8 II層
				— — 4.0		
45	本土產磁器	小鉢	底部	口径 脊高 底径	透明釉を施す。裏地は白色で細密。統制磁器。外底に「口376」という記載あり。近現代。	H-8 II層
				— — 3.3		
46	本土產磁器	蓋	—	口径 脊高 底径	ほぼ完全。直径 1.2cm。外側に網版貼付による文様。裏地は白色で細密。透明釉を施す。近現代。	D-8 II層
				— — 1.2		
47	本土產陶器	蓋	—	口径 脊高 底径	直径 1.1cm。外側に日本式旋紋による文様。透明釉を施す。裏地は白灰色で細かい。近代。	H-7 II層
				— — 2.2		
48	本土產陶器	香炉	口～底部	口径 脊高 底径	青銅製。外縁に香炉の文様。裏地は白灰色で細かい。黒色粒を大量に含む。近現代。	C-8 II層
				— — 4.2		
49	本土產陶器	散葉草	皿底	口径 脊高 底径	横地面以外に淡黄色及び緑色の釉を施す。裏地は黄色地を帯びた白色で細かい。黒色粒を含む。近代。	I-7 II層
				— — —		
50	錢貨	一錢	—	外径 孔径 厚さ	大正十二年発行の一錢青銅貨。表に桐の文様。重量 3.7g。	C-8 II層
				2.3 0.1 0.1		
51	錢貨	一錢	—	外径 孔径 厚さ	昭和九年発行の一錢青銅貨。表に桐の文様。重量 3.7g。	H-8 II層
				2.3 0.1 0.1		
52	鉄製品	不明	—	口径 脊高 底径	「J」字形を有する。幅は半円になっている。全体的に歪んでいる。長さ 10.3cm、長 5.1cm、重 24.3g。	H-7 II層
				— — —		
53	鉄製品	釘	—	口径 脊高 底径	前面両角部に鋸歯。釘の頭はつぶされている。長さ 5.2cm、長 3.6cm、重 22.5g。	G-8 II層
				— — —		
54	鉄製品	ヘラ	—	口径 脊高 底径	刀剣。長さ 13.3cm、長 2.6cm、重 16.1g。	H-8 II層
				— — —		
55	鉄製品	包丁	—	口径 脊高 底径	刀剣。長さ 17.3cm、長 2.6cm、重 50.2g。	F-8 II層
				— — —		
56	鉄製品	手斧?	—	口径 脊高 底径	刀剣。長さ 12.5cm、長 5.5cm、重 242.2g。	C-8 II層
				— — —		
57	ガラス製品	瓶	口～底部	口径 脊高 底径	ガラス自体に気泡が多くみられる。	F-8 II層
				1.2 4.1 1.4		
58	ガラス製品	瓶	口～底部	口径 脊高 底径	ガラス自体に気泡が多くみられる。外面に日盛と考えられる縞が5本入っている。	F-9 II層
				1.6 6.0 —		
59	ガラス製品	瓶	口～底部	口径 脊高 底径	外面二箇所に「鉤虫」というエンボス。鉤虫ボーマードの模様と考えられる。	F-8 II層
				3.2 3.9 4.4		
60	石製品	石臼	—	口径 脊高 底径	厚さ 3.3cm、乳 2.4cm、重 8.2kg。砂岩。	F-8 II層
				— 10.6 —		
61	石製品	石臼	—	口径 脊高 底径	厚さ 10.6cm、孔 1.7cm、重 21.0kg。砂岩。	H-9 II層
				— 11.0 —		
62	石製品	石臼	—	口径 脊高 底径	厚さ 38.9cm、孔 4.0cm、重 9.5kg。砂岩。	C-8 II層



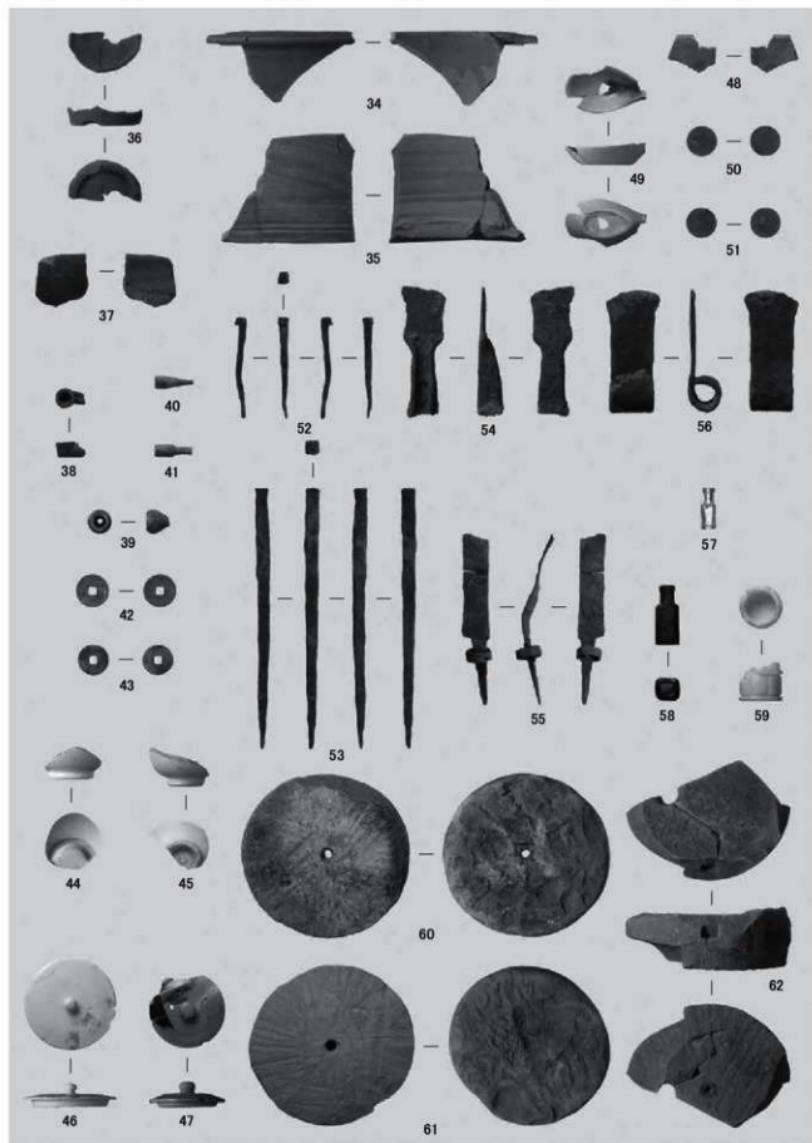
第92図 包含層(Ⅱ層)出土遺物1(I地区)



第93図 包含層（II層）出土遺物2（I地区）



图版 62 包含层（II 层）出土遗物 1（I 地区）



图版 63 包含层（II层）出土遗物2（I地区）

b II 地区（II層）

II層より出土した遺物は総数3,284点である。遺物の種類としては、青磁、白磁、染付、色絵、瑠璃釉、褐釉陶器、本土産染付、本土産陶器、本土産近代陶器、本土産近現代磁器、沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器、土器、陶質土器、瓦質土器、カムイヤキ、瓦、煉瓦、円盤状製品、石器、石製品、石材、貝製品、煙管、錢貨、青銅製品、鉄製品、ガラス製品、産地不明品などである。I地区同様に、主体は本土産近現代磁器及び沖縄産施釉陶器の碗や皿、沖縄産無釉陶器の壺、瓦などで、縄文時代相当の資料から近現代の資料までが混在する。図示および写真撮影した遺物の特徴については、観察表（第26表）に記す。

第26表 包含層（II層）出土遺物観察一覧（II地区）a

単位:cm

辨認番号 回収番号	種類	器種	部位	法量	級別事項	出土地
第94回 回収番号4	1 土器	罐	口縁部	口径 膨底 — —	直径 — —	E-9 II層
	2 土器	罐	口縁部	口径 膨底 — —	直径 — —	D-11 II層
	3 石器	磨製石斧	—	口径 膨底 — —	表面に削面、緑色岩。重量172.2g。	E-9 II層
	4 石器	磨製石斧	—	口径 膨底 — —	表面に削面、刃部は破損、緑色岩。重量121.0g。	D-10 II層
	5 石器	磨石	—	口径 膨底 — —	破損が著しく、不規則だが、一部裏面が確認できる。緑色岩。重量43.7g。	C-D-10 II層
	6 石器	石鎚	—	口径 膨底 — —	周囲に剥離の痕跡が一部みられるが、全体的には確認できないことより、未製作と考される。緑色岩。重量3.5g。	E-9 II層
	7 カムイヤキ	壺	胴部	口径 膨底 — —	内面は当て具痕のみ。外には叩き目痕がみられない。ともにナデ調整が施される。柄上は暗褐色を呈し、白色粒、黒色粒を含む。	C-10 II層
	8 カムイヤキ	壺	胴部	口径 膨底 — —	内面は当て具痕のみ。外には叩き目痕がみられない。ともにナデ調整が施される。柄上は暗褐色を呈し、白色粒を多く含む。	D-10 II層
	9 カムイヤキ	壺	胴部	口径 膨底 — —	内面は当て具痕のみ。外には叩き目痕がみられない。ともにナデ調整が施される。柄上は暗褐色を呈し、白色粒を多く含む。	E-10 II層
	10 カムイヤキ	壺	胴部	口径 膨底 — —	内面は当て具痕のみ。外には叩き目痕がみられない。ともにナデ調整が施される。柄上は暗褐色を呈し、白色粒を多く含む。	G-12 II層
	11 カムイヤキ	壺	胴部	口径 膨底 — —	内面は当て具痕のみ。外には叩き目痕がみられない。ともにナデ調整が施される。柄上は暗褐色を呈し、白色粒を多く含む。	D-11 II層
	12 カムイヤキ	器種不明	口縁部	口径 膨底 — —	小破片のため不明確。柄上は灰褐色を呈し、白色粒を含む。輪形？	G-12 II層
	13 白磁	瓶	口縁部	口径 膨底 — —	玉縁口縁。茎地は白灰色で微細。黒色粒を含む。	E-10 II層
	14 白磁	瓶	口縁部	口径 膨底 — —	下縁口縁。玉縁下端の側が厚壁、茎地は白灰色で微細。黒色粒を含む。	D-10 II層
	15 白磁	瓶	口縁部	口径 膨底 — —	玉縁口縁。玉縁下端の側が厚壁、茎地は白灰色で微細。黒色粒を含む。	G-12 II層
	16 白磁	小瓶	口縁部	口径 8.8 — —	型成形。口部唇を傾斜させる。茎地は白色で微細。微化常座。	C-10 II層
	17 白磁	瓶	口縁部	口径 膨底 — —	茎地は白色で微細。黒色粒を含む。	D-10 II層
第94回 回収番号65	18 白磁	小瓶	口縁部	口径 8.4 — —	茎地は白色で微細。	D-10 II層
	19 青磁	瓶	底部	口径 膨底 — —	内外面施釉。叠加付の外邊にかけて露胎。内底に印花文。素地は淡褐色で横幅5.0cm。	D-11 II層
	20 青磁	器種不明	底部	口径 膨底 — —	内面は露胎となっており、繊維痕が明瞭。茎地は緑色で横幅4.4cm。黒色粒を含む。	G-11・12 II層
	21 染付	瓶	口縁部	口径 膨底 14.4 —	素地は白色で微細。微化常座。	E-9 II層
	22 染付	瓶	口縁部	口径 膨底 14.5 —	素地は白色で微細。黒色粒を含む。微化常座。	E-10 II層
	23 染付	瓶	口縁部	口径 膨底 — —	素地は白色で微細。黒色粒を含む。微化常座。	F-10 II層
	24 染付	瓶	底部	口径 膨底 — 6.0	染付は露胎。茎地は白色で微細。微化常座。	E-9 II層
	25 染付	小瓶	底部	口径 3.1 — —	染付は露胎。茎地は白色で微細。微化常座。	D-10 II層
	26 染付	小瓶	底部	口径 1.6 — —	染付は露胎。茎地は白色で微細。微化常座。	G-11・12 II層
第95回 回収番号65	27 染付	瓶	口～底部	口径 15.4 — 3.1	染付は露胎。茎地は白色で微細。	C-10 II層
	28 染付	瓶	口縁部	口径 15.0 — —	茎地は白色で微細。黒色粒を含む。微化常座。	D-10 II層
	29 染付	瓶	口縁部	口径 14.0 — —	茎地は白色で微細。黒色粒を含む。微化常座。	E-9 II層

第26表 包含層(Ⅱ層)出土遺物観察一覧(Ⅱ地区)b

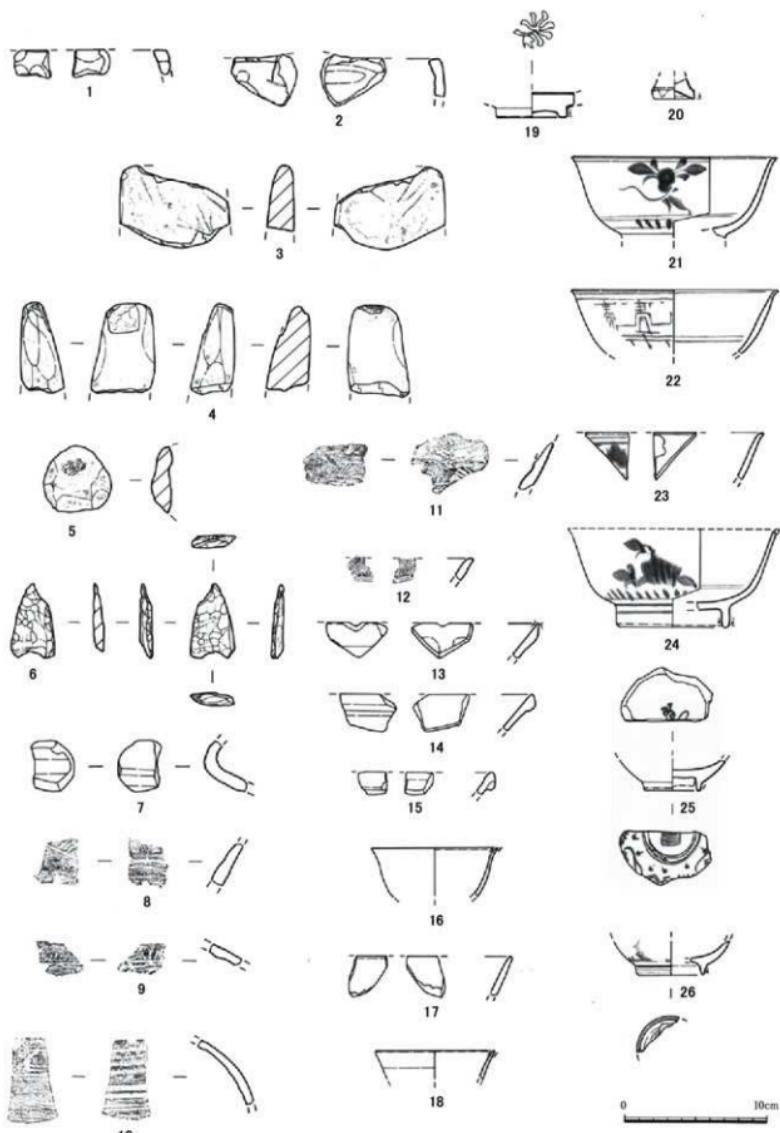
単位:cm

辨証番号 回収番号	種類	器種	部位	法量	観察事項	出土地	
第55回 回収65	30	染付	皿	口径 17.6 底径 5.7	番付は露胎。裏地は白灰色で微斑。	E-10 Ⅱ層	
	31	色絵	皿	口～底部 11.5 底径	番付は露胎。裏地は白灰色で微斑。黑色粒を含む。	E-9 Ⅱ層	
	32	染付	碗	口縁部 16.6	裏地は白色で微斑。福鉢・広口系。	E-10 Ⅱ層	
	33	染付	蓋	—	裏地は白色で微斑。重み3.9cm。	E-11 Ⅱ層	
	34	本土産磁器 皿	底盤	口径 11.5 底径 3.8	番付は露胎。裏地は白色で微斑。	E-10 Ⅱ層	
	35	本土産磁器 皿	—	口径 9.3 底径 2.8	裏地は白色で微斑。36と同一個体、重み4.0cm。	D-10 Ⅱ層	
	36	本土産磁器 皿	—	口径 9.0 底径 2.6	裏地は白色で微斑。35と同一個体。	E-10 Ⅱ層	
	37	本土産磁器 皿	—	口径 6.2 底径 5.2	裏地は白色で微斑。	E-10 Ⅱ層	
	38	本土産磁器 鉢	口～底部	口径 17.2 底径 7.8	番付は露胎。裏地は白灰色で微斑。黑色粒を含む。桜花鉢。	C-10 Ⅱ層	
第55回 回収66	39	本土産磁器 色絵	小鉢	口縁部 8.8	裏地は白色で微斑。外側の斜面にはほんのり剥げている。	F-10 Ⅱ層	
	40	芦洲窯 施釉陶器	碗	口径 13.2 底径 5.5	外側面の上半部に灰釉を挿け。下半部は露胎。フタガキ一手法。外側口縁部下の削りが明顯。番付にアルミナを施す。裏地は灰黄色で細かい。	E-9 Ⅱ層	
	41	芦洲窯 施釉陶器	碗	口径 13.4 底径 5.9	外側面の上半部に灰釉を挿け。下半部は露胎。フタガキ一手法。番付にアルミナを施す。裏地は露黄色で細かい。黑色粒を含む。	F-10 Ⅱ層	
	42	芦洲窯 施釉陶器	碗	口径 12.8 底径 6.2	内面及び外側上半部に灰釉を挿け。外側下半部から外底まで露胎。内底は丸目状である。	E-10 Ⅱ～Ⅲ層	
	43	芦洲窯 施釉陶器	碗	口径 13.0 底径 6.3	内側面に白化粧。透明白。外側に黒釉を挿け分け。内底は蛇の目状に釉剥げ。番付は露胎。番付及び内底に目録あり(アルミナ付着)。裏地は淡褐色でやや粗い。黑色粒、白色粒を含む。	G-12 Ⅱ層	
	44	芦洲窯 施釉陶器	碗	口径 6.8	内側面に白化粧。透明白。外側に黒釉を挿け分け。見込みは蛇の目状に釉剥げ。番付は露胎。番付及び見込みに目録あり(アルミナ付着)。裏地は淡褐色でやや粗い。黑色粒を含む。	D-11 Ⅱ層	
	45	芦洲窯 施釉陶器	碗	口径 14.1 底径 6.9	内側面に白化粧。透明白。内底は蛇の目状に釉剥げ。番付は露胎。番付にアルミナを施す。内底に目録あり(アルミナ付着)。裏地は淡褐色でやや粗い。黑色粒を含む。	E-9 Ⅱ層	
	46	芦洲窯 施釉陶器	碗	口径 14.2 底径 6.5	内側面に白化粧。透明白。内底は蛇の目状に釉剥げ。番付は露胎。番付にアルミナを施す。内底に目録あり(アルミナ付着)。裏地は淡褐色でやや粗い。黑色粒を含む。	F-10 Ⅱ層	
	47	芦洲窯 施釉陶器	碗	口径 13.5 底径 6.7	内側面に白化粧。透明白。内底は蛇の目状に釉剥げ。番付は露胎。番付にアルミナを施す。内底に目録あり(アルミナ付着)。裏地は淡褐色でやや粗い。黑色粒を含む。	D-10 Ⅱ層	
第56回 回収66	48	芦洲窯 施釉陶器	碗	口径 13.0 底径 6.5	内側面に白化粧。透明白。内底は蛇の目状に釉剥げ。番付は露胎。番付にアルミナを施す。内底に目録あり(アルミナ付着)。裏地は淡褐色で粗い。黑色粒を含む。	C-10 Ⅱ層	
	49	芦洲窯 施釉陶器	碗	口径 13.4 底径 7.3	内側面に白化粧。透明白。内底は蛇の目状に釉剥げ。番付は露胎。番付にアルミナを施す。内底に目録あり(アルミナ付着)。裏地は淡褐色で粗い。黑色粒を含む。	G-11 Ⅱ層	
	50	芦洲窯 施釉陶器	口縁部	口径 10.4	内外面に黒釉を挿け。内側口縁部下が凹む。裏地は淡灰色で粗い。	D-11 Ⅱ層	
	51	芦洲窯 施釉陶器	皿	口径 13.2 底径 5.6	内外面に白化粧 + 透明釉を挿げ。内底は蛇の目状に釉剥げ。番付は露胎。番付にアルミナを施す。裏地は淡褐色で粗い。黑色粒を含む。	E-9 Ⅱ層	
	52	芦洲窯 施釉陶器	杯	口径 20.8 底径 9.4	内外面に白化粧 + 透明釉を挿げ。内底は蛇の目状に釉剥げ。番付は露胎。番付にアルミナを施す。裏地は淡褐色で粗い。	E-9 Ⅱ層	
	53	芦洲窯 施釉陶器	碗	口径 14.9 底径 10.9	内外面に黒釉下の一部と、外側脚部周辺で露胎を挿げ。丸みをもつた底部で脚が貼付けられ。底盤は僅く付着する。内底などに植被痕が明瞭。裏地は淡褐色で細かい。	C-10 Ⅱ層	
	54	芦洲窯 施釉陶器	蓋	— 6.2 3.8	外側面に黒釉を挿げ。施釉、重みは欠損。裏地は淡い褐色でやや粗い。黑色粒を含む。	G-12 Ⅱ層	
	55	芦洲窯 施釉陶器	火入	口径 10.5 底径 8.3	内面及び番付は露胎。外側は口筋部に黒釉、脚部に灰釉を施す。高台唇にアルミナ付着。内底は暗褐色で明瞭。番地は灰褐色で細かい。黑色粒を含む。	C-10 Ⅱ層	
	56	芦洲窯 施釉陶器	火鉢	口径 10.0	外側に黒釉を挿げ分け。内面と外側底部以下は露胎。外側脚部近辺に3本の沈降線。内底は難観察が明瞭。裏地は淡褐色でやや粗い。黑色粒を含む。	G-12 Ⅱ層	
第56回 回収67	57	芦洲窯 施釉陶器	瓶	底盤	口径 6.8 底径 —	表面はぼこぼこしている。内外面と口に難観察が明瞭。裏地は淡褐色で細かい。白釉を多く含む。	E-11 Ⅱ層
	58	芦洲窯 施釉陶器	甕	口縁部 30.0	外側口縁部下に沈降の状跡による文様があり。内面は難観察が明瞭。裏地は淡褐色で粗い。石灰岩質などの白色粒、黑色粒を含む。	E-9 Ⅱ層	
	59	芦洲窯 施釉陶器	蓋	— 10.6	裏地は褐色で細かい。白色粒を含む。	D-10 Ⅱ層	
	60	陶質土器	浅鉢	口縁部	口径 10.0 底径 5.7	外側に本物と似た形状の凹線をめぐらす。筋土は褐色で細かい。白色粒や黑色粒などを含む。	E-9 Ⅱ層
	61	陶質土器	筋縫 不規	底盤	口径 10.0 底径 5.7	底平を有する。筋土は褐色で細かい。白色粒や黑色粒などを含む。重み1.7cm。	D-11 Ⅱ層
	62	陶質土器	蓋	— —	筋土は褐色で細かい。白色粒や黑色粒などを含む。重み2.4cm。	D-11 Ⅱ層	
	63	陶質土器	蓋	— —	筋土は褐色で細かい。白色粒や黑色粒などを含む。重み2.4cm。	D-11 Ⅱ層	
	64	陶質土器	蓋	— —	筋土は褐色で細かい。白色粒や黑色粒などを含む。重み2.4cm。	D-11 Ⅱ層	
	65	陶質土器	蓋	— —	筋土は褐色で細かい。白色粒や黑色粒などを含む。重み2.4cm。	D-11 Ⅱ層	

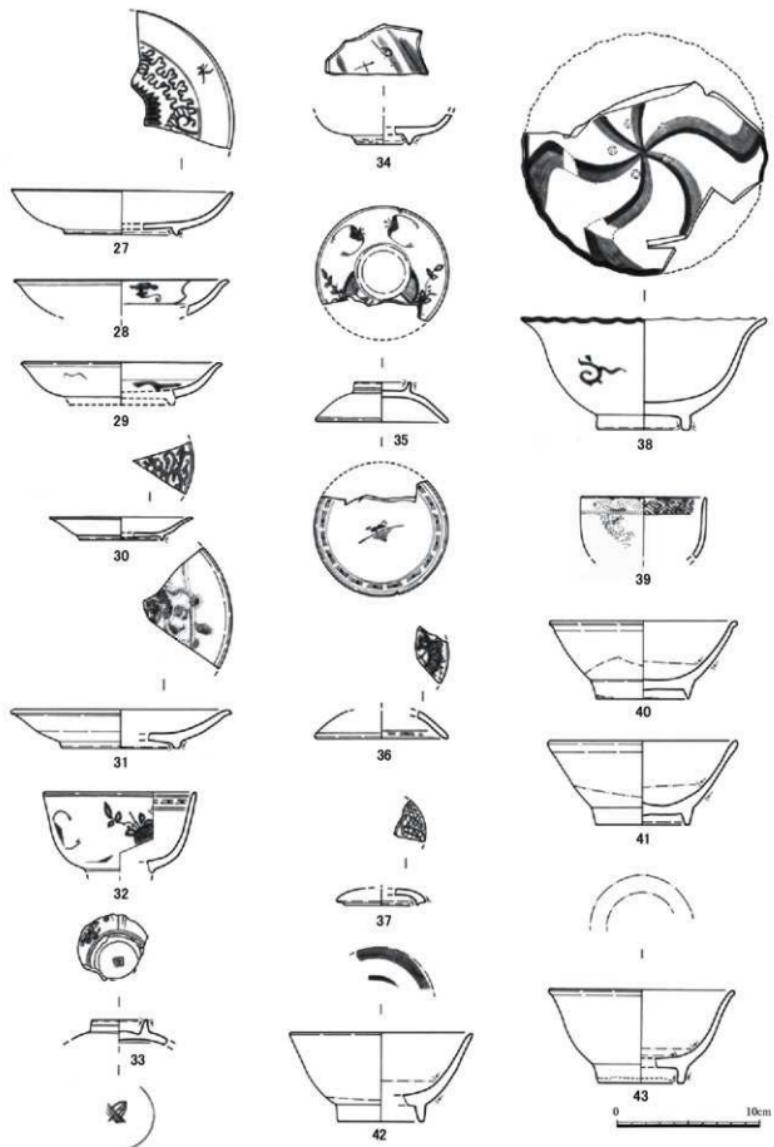
第26表 包含層(II層)出土遺物観察一覧(II地区)c

単位:cm

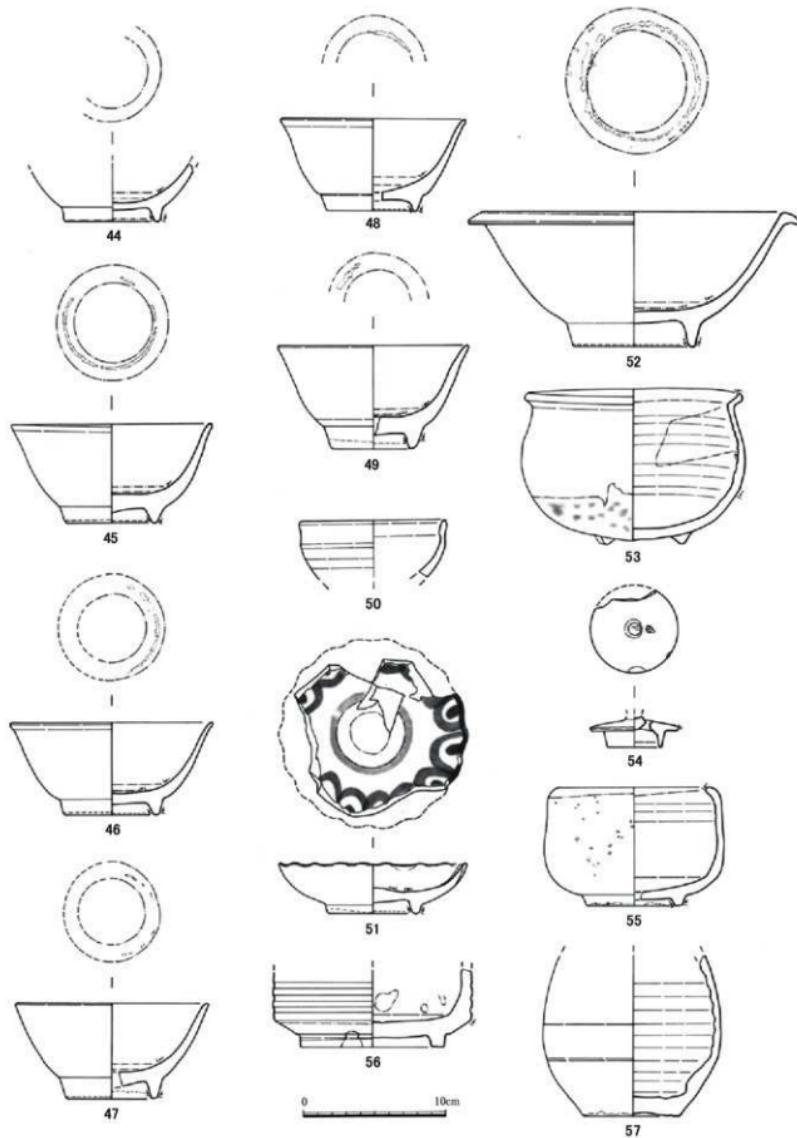
神奈川号 図版番号	種類	器種	部位	法量	観察事項	出土地
第97回 図版68	円盤状製品	—	—	口径 器高 底径	カムィヤキを素材としている。重量28.4g。	C-10 II層
	円盤状製品	—	—	口径 器高 底径	明朝系赤瓦を素材としている。重量30.9g。	F-11 II層
	円盤状製品	—	—	口径 器高 底径	沖繩系無軸陶器を素材としている。重量14.2g。	D-11 II層
	円盤状製品	—	—	口径 器高 底径	明朝系赤瓦を素材としている。重量21.0g。	E-9 II層
	円盤状製品	—	—	口径 器高 底径	本卫座墳部を素材としている。重量6.8g。	E-9 II層
	埴輪	—	雁首	口径 器高 底径	沖繩系陶器製。無軸。火薙部は欠損。素地は暗褐色でやや粗い。黒色粒を含む。重畠3.1g。	D-10 II層
	埴輪	—	雁首	口径 器高 底径	沖繩系陶器製。綠釉を施す。火薙部の立ち上がり(翫反し)は低い。素地は淡い黄色をもつた白色で細かい。重畠2.7g。	G-12 II層
	埴輪	—	雁首	口径 器高 底径	青釉製。火薙部は欠損。重量8.2g。	G-12 II層
	鉢	一	外縁	口径 厚さ 0.1	大正7年発行「一鉢青銅鏡」表に桜の模様。重量3.6g。	G-12 II層
	青銅製品	臂	—	口径 器高 底径	押花。カブは耳縫き型。	E-9 II層
図版68	瓦	—	—	口径 器高 底径	表面は欠損。跡部中央部には僅かに凹みがあり、側面には脱片痕がみられる。裏面に何らかの文字が墨書きされているが不明瞭。緑色半透明。	F-10 II層
	瓦	明朝系 瓦	玉縁部	口径 器高 底径	色調は赤茶。律珠が付着。	E-9 II層
	土上産磁器	碗	ロ～底部	口径 器高 底径	盤口は圓錐形で砂紋が付着する。素地は白色で細かい。黒色粒を含む。内底に5つの脚部が目盛認できる。型輪給付。近現代。	E-10 II層
	土上産磁器	碗	ロ～底部	口径 器高 底径	盤口は圓錐形で砂紋が付着する。素地は白色で細かい。黒色粒を含む。内底に3つの脚部が目盛認できる。型輪給付。近現代。	G-11・12 II層
	土上産磁器	碗	ロ～底部	口径 器高 底径	盤口は圓錐形で砂紋が付着する。素地は白色で細かい。黒色粒を含む。内底に3つの脚部が目盛認できる。型輪給付。近現代。	E-10 II層
	土上産磁器	碗	ロ～底部	口径 器高 底径	盤口は圓錐形で砂紋が付着する。素地は白色で細かい。黒色粒を含む。内底に3つの脚部が目盛認できる。型輪給付。近現代。	G-11・12 II層
	土上産磁器	小瓶	ロ～底部	口径 器高 底径	瓶付から外縁にかけて露胎。素地は白色で細密。クロム青磁。	E-11 II層
	土上産磁器	小瓶	ロ～底部	口径 器高 底径	瓶付から外縁にかけて露胎。素地は白色で細密。型輪給付。近現代。	F-11 II層
	土上産磁器	小瓶	ロ～底部	口径 器高 底径	瓶付から外縁にかけて露胎。素地は白色で細密。型輪給付。近現代。	E-9 II層
	土上産磁器	小瓶	ロ～底部	口径 器高 底径	瓶付から外縁にかけて露胎。素地は白色で細密。型輪給付。近現代。	H-12 II層
図版69	土上産磁器	小瓶	ロ～底部	口径 器高 底径	瓶付から外縁にかけて露胎。素地は白色で細密。型輪給付。近現代。	E-10 II層
	土上産磁器	小瓶	ロ～底部	口径 器高 底径	瓶付から外縁にかけて露胎。素地は白色で細密。型輪給付。近現代。	D-10 II層
	土上産磁器	小瓶	ロ～底部	口径 器高 底径	瓶付から外縁にかけて露胎。素地は白色で細密。型輪給付。近現代。	C-10 II層
	土上産磁器	小瓶	ロ～底部	口径 器高 底径	瓶付から外縁にかけて露胎。素地は白色で細密。型輪給付。近現代。	E-11 II層
	土上産磁器	小瓶	ロ～底部	口径 器高 底径	瓶付から外縁にかけて露胎。素地は白色で細密。型輪給付。近現代。	E-9 II層
	土上産磁器	小瓶	ロ～底部	口径 器高 底径	瓶付から外縁にかけて露胎。素地は白色で細密。型輪給付。近現代。	D-10 II層
	土上産磁器	小瓶	ロ～底部	口径 器高 底径	瓶付から外縁にかけて露胎。素地は白色で細密。型輪給付。近現代。	F-11 II層
	土上産磁器	小瓶	ロ～底部	口径 器高 底径	瓶付から外縁にかけて露胎。素地は白色で細密。型輪給付。近現代。	E-9 II層
	土上産磁器	小瓶	ロ～底部	口径 器高 底径	瓶付から外縁にかけて露胎。素地は白色で細密。型輪給付。近現代。	H-10 II層
	土上産磁器	小瓶	ロ～底部	口径 器高 底径	瓶付から外縁にかけて露胎。素地は白色で細密。型輪給付。近現代。	G-12 II層
図版69	土上産磁器	皿	ロ～底部	口径 器高 底径	盤口は露胎。高台が二重にある。素地は白色で細密。近現代。	D-10 II層
	土上産磁器	皿	ロ～底部	口径 器高 底径	盤口は露胎。高台が二重にある。素地は白色で細密。近現代。	E-9 II層
	土上産磁器	皿	ロ～底部	口径 器高 底径	盤口は露胎。高台が二重にある。素地は白色で細密。近現代。	E-9 II層
	土上産磁器	皿	ロ～底部	口径 器高 底径	盤口は露胎。高台が二重にある。素地は白色で細密。近現代。	F-11 II層
	土上産磁器	皿	ロ～底部	口径 器高 底径	盤口は露胎。高台が二重にある。素地は白色で細密。近現代。	E-9 II層
	土上産磁器	皿	ロ～底部	口径 器高 底径	盤口は露胎。高台が二重にある。素地は白色で細密。近現代。	E-10 II層
	土上産磁器	皿	ロ～底部	口径 器高 底径	盤口は露胎。高台が二重にある。素地は白色で細密。近現代。	G-11・12 II層
	土上産磁器	皿	ロ～底部	口径 器高 底径	盤口は露胎。高台が二重にある。素地は白色で細密。近現代。	E-10 II層
	土上産磁器	皿	ロ～底部	口径 器高 底径	盤口は露胎。高台が二重にある。素地は白色で細密。近現代。	D-10 II層
	土上産磁器	皿	ロ～底部	口径 器高 底径	盤口は露胎。高台が二重にある。素地は白色で細密。近現代。	F-11 II層
図版69	ガラス製品	瓶	ロ～底部	口径 器高 底径	ガラス自体に気泡が多くみられる。	D-E-9 II層
	ガラス製品	瓶	ロ～底部	口径 器高 底径	ガラス自体に気泡が多くみられる。	F-10 II層



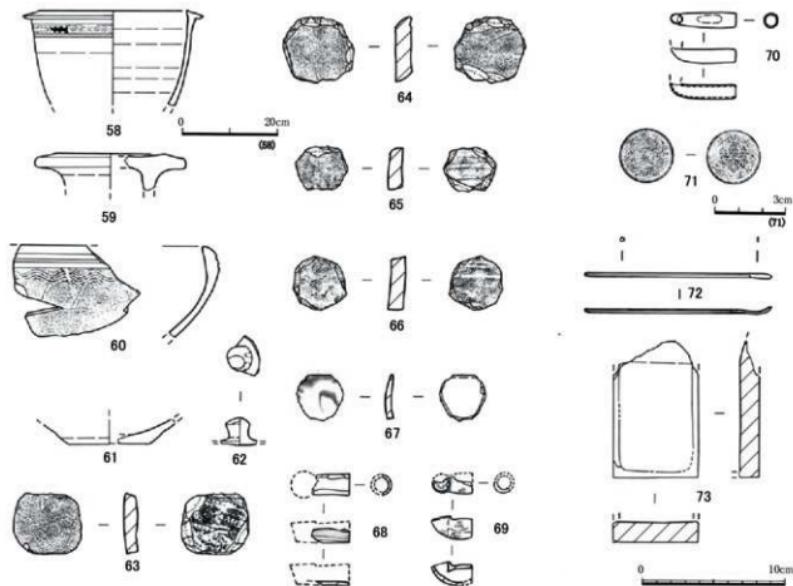
第94図 包含層(II層)出土遺物1(II地区)



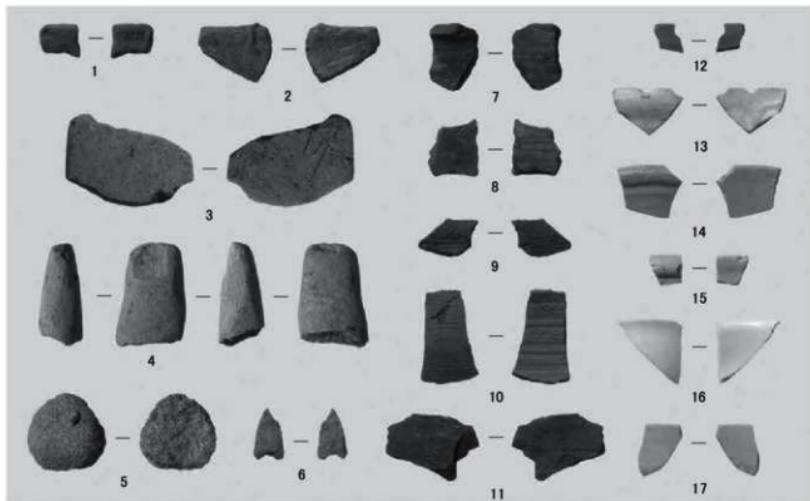
第95図 包含層(II層)出土遺物2(II地区)



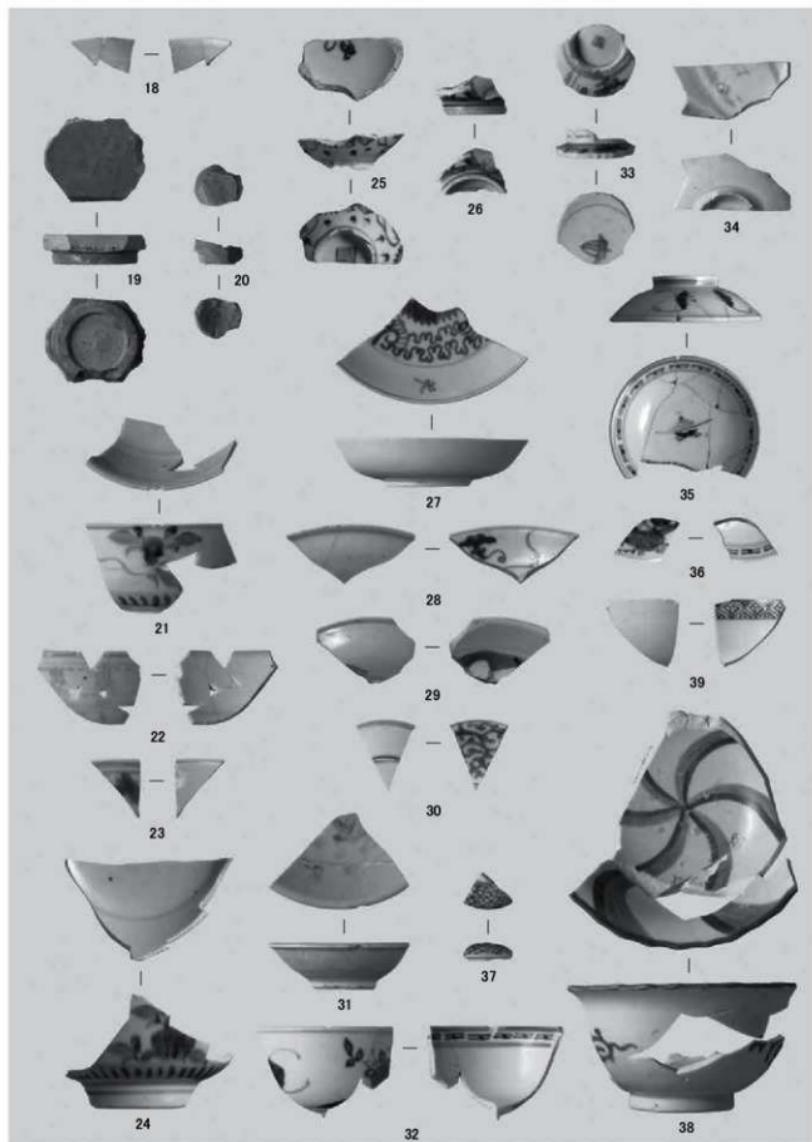
第96図 包含層(Ⅱ層)出土遺物3(Ⅱ地区)



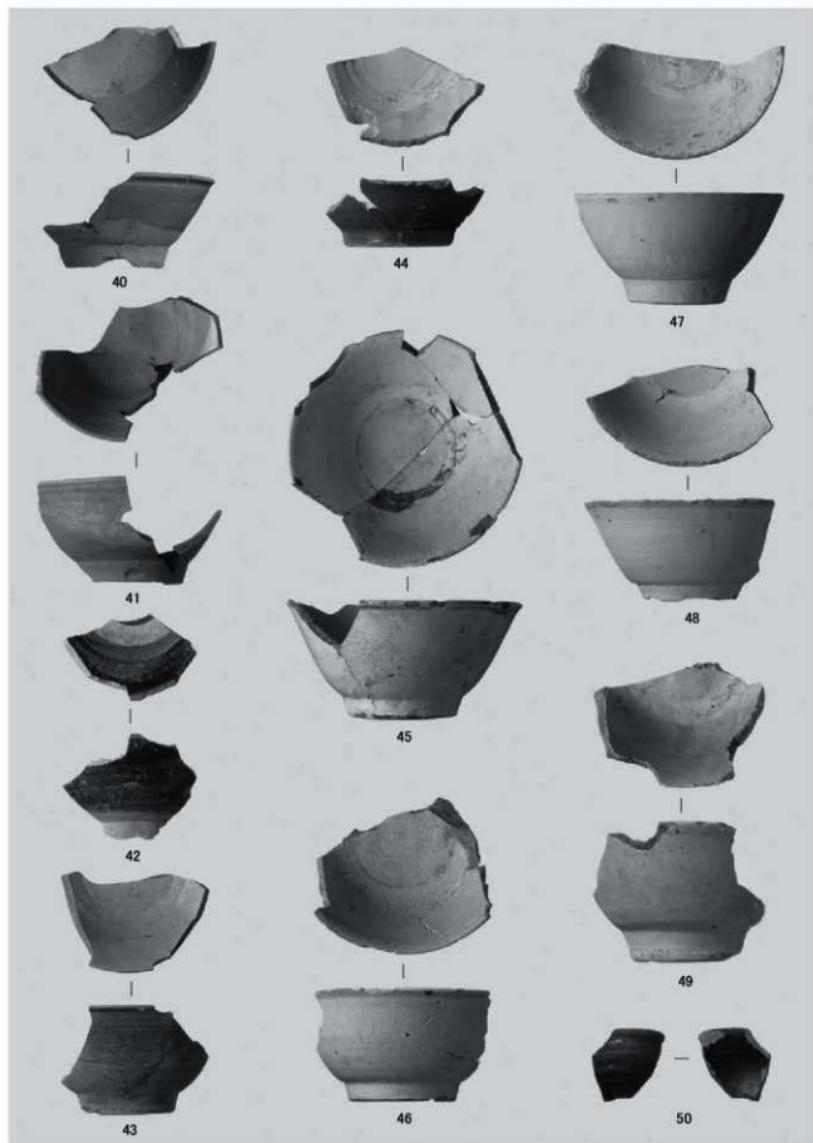
第97図 包含層(Ⅱ層)出土遺物4(Ⅱ地区)



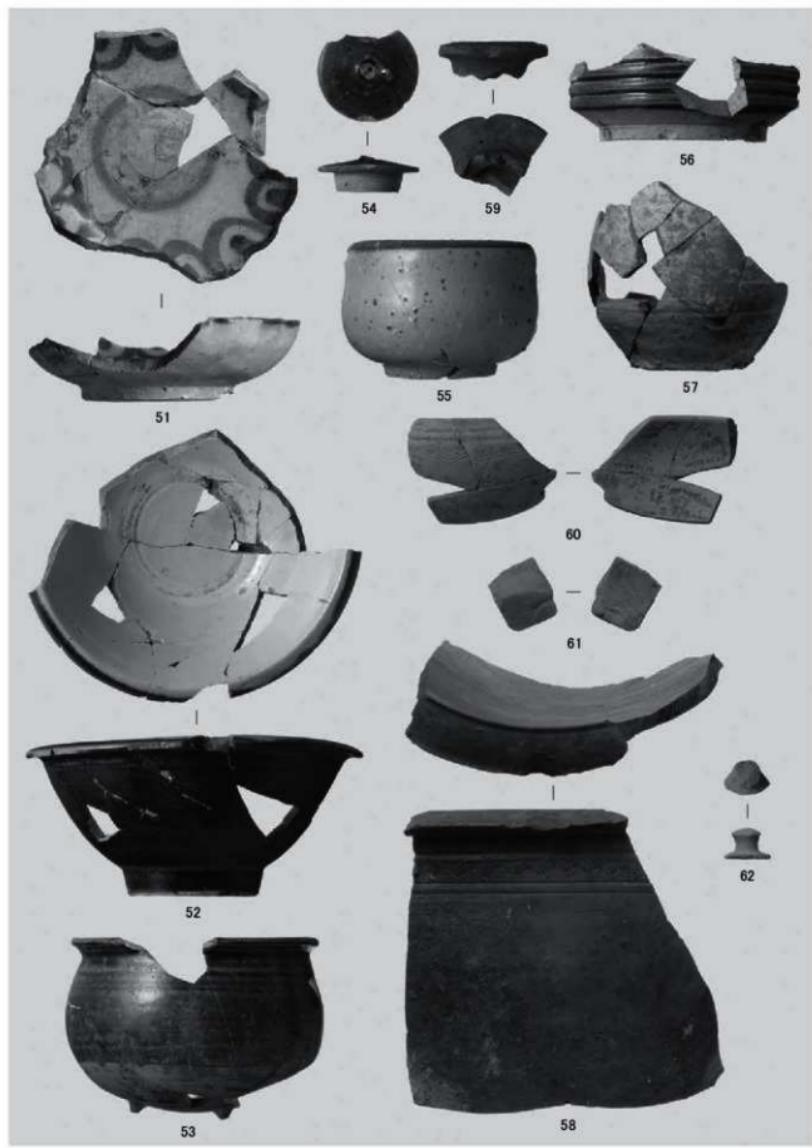
図版 64 包含層(Ⅱ層)出土遺物1(Ⅱ地区)



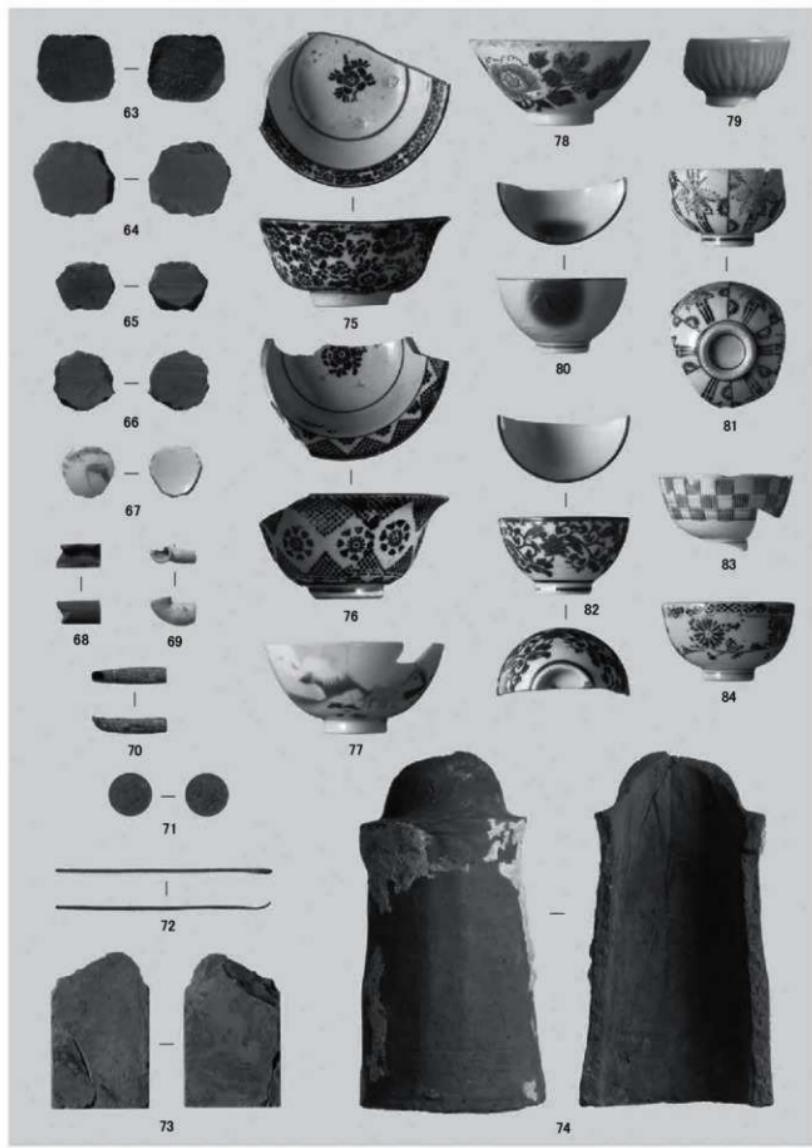
图版 65 包含层（II层）出土遗物2（II地区）



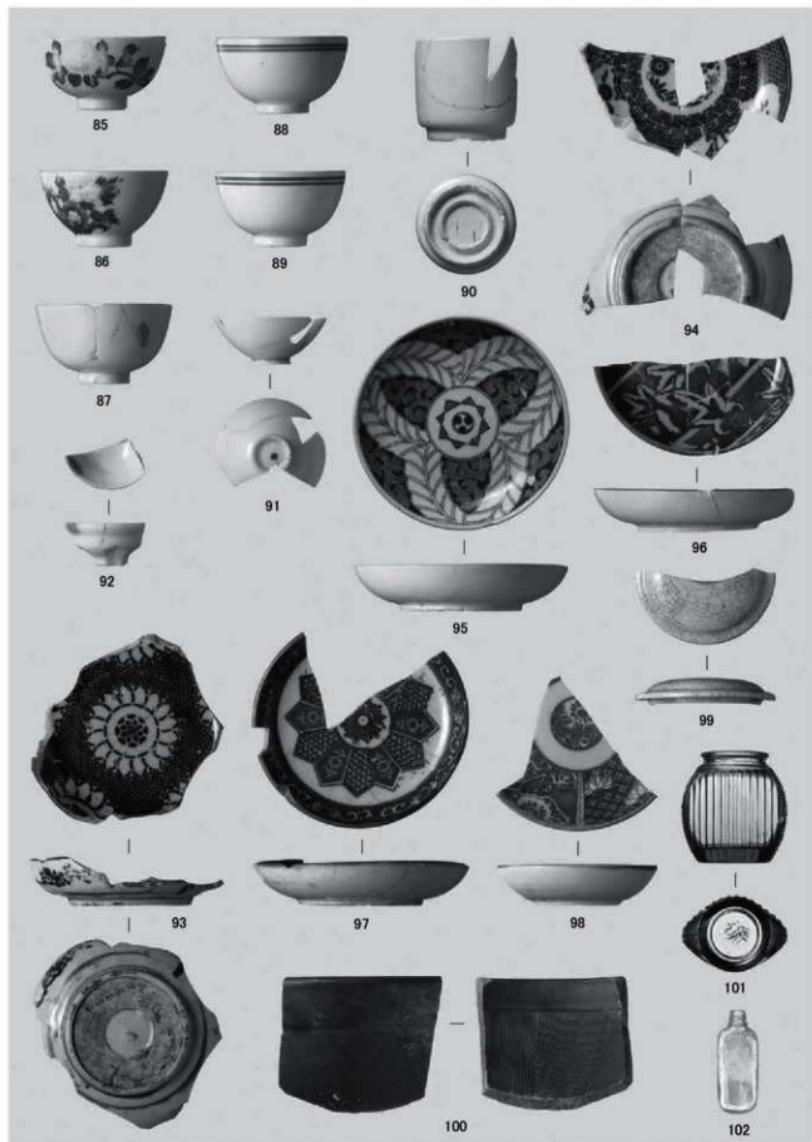
图版 66 包含层（II层）出土遗物3（II地区）



图版 67 包含层（II层）出土遗物4（II地区）



图版 68 包含层（II层）出土遗物5（II地区）



图版 69 包含层（II 层）出土遗物 6（II 地区）

第4節 表土・搅乱層出土遺物

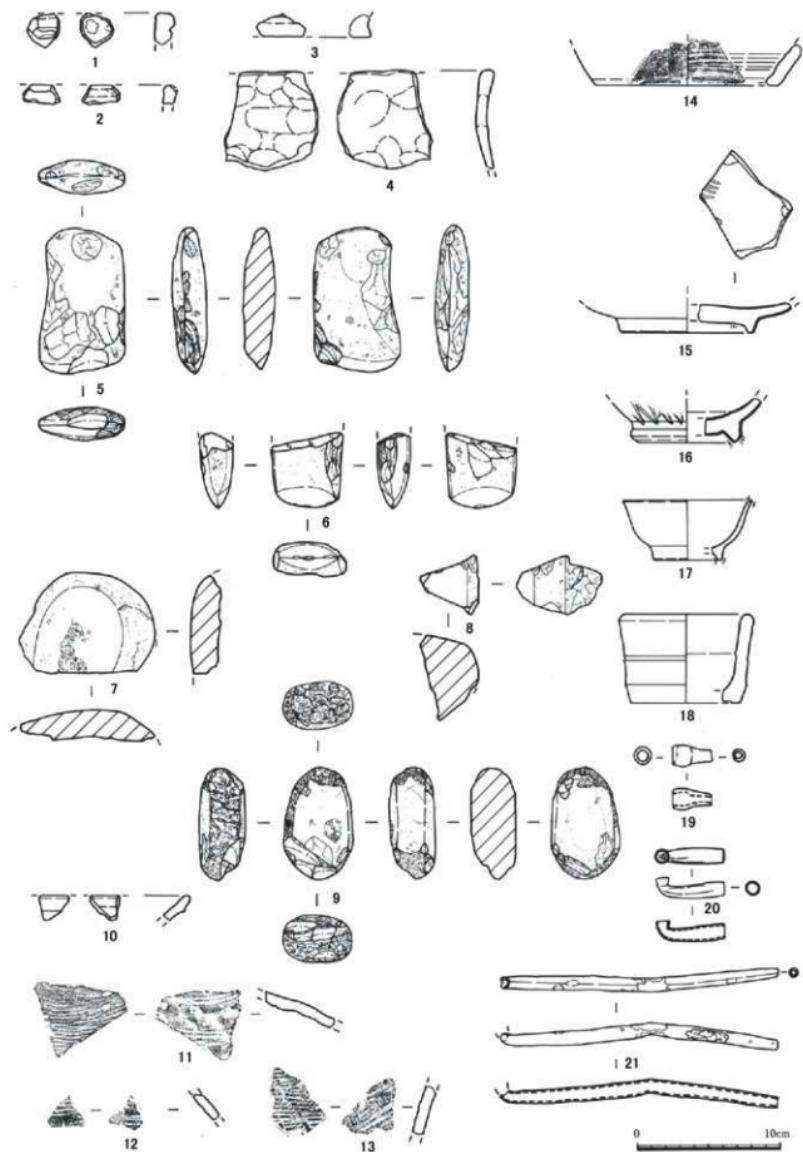
a I 地区

表土・搅乱層での遺物出土は総数18,063点である。遺物の種類としては、青磁、白磁、染付、色絵、青磁染付、褐釉磁器、褐釉陶器、本土産青磁、本土産染付、本土産陶器、本土産近代陶器、本土産近現代磁器、沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器、土器、陶質土器、カムイヤキ、瓦、煉瓦、円盤状製品、石器、石製品、石材、煙管、錢貨、青銅製品、鉄製品、ガラス製品、プラスチック製品、産地不明品などである。主体は、本土産近現代磁器及び沖縄産施釉陶器の碗や皿、沖縄産無釉陶器の壺、瓦などである。古くは縄文時代晚期相当の資料から、近現代の資料まであらゆる時代の遺物が混在してみられるのが特徴である。図示および写真撮影した遺物の特徴については、観察表（第27表）に記す。

第27表 表土・搅乱層出土遺物観察一覧(I地区)a

単位:cm

種類 国版番号	種類 国版番号	部位	法量	観察事項	出土地
1 土器	林	口縁部	D径29mm 高さ1mm	白色絵・黑色絵を僅かに混入する。	表探
2 土器	林	口縁部	D径29mm 高さ3mm	白色絵・赤色絵・白色絵・石英粒?を僅かに混入する。	表探
3 土器	林	—	D径35mm 高さ1mm	粗彫砂を多く混入する。チャートや石英などの粗彫砂が混入される。4と始士が類似。縄文時代晚期相当の土器と考えられる。	表探
4 土器	林	口縁部	D径29mm 高さ3mm	砂粒・チート・石英を混入する。特に砂粒が多い。口部は平底。3と始士が類似。縄文時代晚期相当の土器と考えられる。	I層搅乱
5 石器	磨製石斧	—	D径29mm 高さ3mm	刃部に研磨痕、刃端は摩耗している。大き目刀。表面には柄を取り付けて使用した跡にできた剥落がある。型調査あり。緑色鏡。重量231.6g。	I層搅乱
6 石器	磨製石斧	—	D径29mm 高さ3mm	刃部、側面及び刃部を研磨。刃端に刃刃がみられる。緑色鏡。重量96.5g。	不明
7 石器	磨石	—	D径29mm 高さ3mm	刃部に磨削。砂谷。重量192.6g。	表探
8 石器	磨石	—	D径29mm 高さ3mm	表面及び側面に磨削。角閃石斑晶(?)・米ぬかのグリーンタフの仲間か)。重量25.2g。	表探
9 石器	磨石類	—	D径29mm 高さ3mm	表面及び側面に磨削。上下端及び側面に縦打痕。緑色鏡。重量211.5g。	I層搅乱
10 カムイヤキ	壺	口縁部	D径29mm 高さ3mm	内面は当其粗、外外面は踏む。内外面ともに回転擦痕あり。始士は灰黒色を呈し、白色、黒色絵を含む。	I層搅乱
11 カムイヤキ	壺	胴部	D径29mm 高さ3mm	内面は当其粗、外外面には叩き目痕がみられ。内外面ともに回転擦痕とナデ調査が施される。始士は灰黒色を呈する。	I層搅乱
12 カムイヤキ	—	胴部	D径29mm 高さ3mm	内面に回転擦痕。外面には叩き目痕がみられ。ナデ調査が施される。始士は灰黒色を呈し、白色絵を含む。	表探
13 カムイヤキ	壺	胴部	D径29mm 高さ3mm	内面は当其粗がみられ。回転擦痕とナデ調査が施される。外面は羽状の叩き目痕がみられ、ナデ調査が施される。始士は灰黒色を呈し、白色、黒色絵を含む。	I層搅乱
14 カムイヤキ	壺	底部	D径12.8mm 高さ3mm	内面は回転擦痕とナデ調査、外面にはナデ調査が施される。始士は灰黒色を呈し、白色絵を含む。	I層搅乱
15 青磁	瓶	底部	D径29mm 高さ3mm	内面全面擦痕、甕付で施釉。甕付を越えて外底まで擦痕が広がっている。素地は灰白色で細かい。	表探
16 青磁	瓶	底部	D径29mm 高さ3mm	内面全面擦痕。甕付は施釉。外面に片切り彫りによる蓮瓣文。内面は難観鏡が印加。素地は灰白色で細かい。	I層搅乱
17 白磁	小壺	口～底部	D径9.0mm 高さ4.7mm	口部には輪剥離がある。甕付には絞込みがあり。素地は白色で質感。結晶化窓産。	表探
18 沖縄産 無輪陶器	香炉	口～底部	D径9.4mm 高さ7.6mm	無輪、内外面には大小の気泡孔が多数にみられる。素地は暗褐色で細かい、黒色絵を含む。	表探
19 磁器	壺口	—	—	内調査陶器製。白釉を施す。小口は羅旋で平底に仕上げる。素地は黄色味を帯びた灰白色で細かい。	I層搅乱
20 磁質	瓶	—	D径29mm 高さ3mm	青磁質、六面に輪切彫りを呈する。首部の上面及び側面に凹みがあり。火照0.5cm、瓶高4.8cm、小口0.9cm、重量8kg。	表探
21 磁質	—	—	D径29mm 高さ3mm	青磁質、六面に輪切彫り部分は欠損。中央部分でややくじの字形に回む。瓶D0.6cm、重量41.8g。	I層搅乱
22 本土産磁器	瓶	口縁部	D径29mm 高さ3mm	外面に蓮瓣文。素地は白色で擦痕。ヨロミ青磁。	表探
23 本土産磁器	小杯	口～底部	D径6.1mm 高さ2.3mm	高台に「志」という文字がなす。内面は透明釉、外面は鉄釉を施す。高台は難覗。素地は白色で擦痕、近現代。	I層搅乱
24 本土産磁器	小壺	底部	D径29mm 高さ3mm	内面に透明釉を施す。内外面に透明釉を施す。口部と底面は難覗。外面に粘付の文様。素地は白色で擦痕。	表探
25 本土産磁器	段重	口～底部	D径5.2mm 高さ3mm	方形状を呈する。内外面に透明釉を施す。口部と底面は難覗。外面に粘付の文様。素地は白色で擦痕。近現代。	不明
26 本土産陶器	瓶	口～底部	D径2.1mm 高さ3mm	内面裏面、内外面に黄色釉を施すが、高台は難覗。内面及び内底に堅厚壁による文様がみられる。素地は黄褐色をおびた白色で細かい。近現代。	不明
27 本土産陶器	瓶	—	D径9.8mm 高さ2.0mm	内外面に黄色の釉を施す。外面に靠つた部分は欠損。中央部分でややくじの字形に回む。甕D0.6cm、重量41.8g。	不明
28 本土産陶器	壺の	口縁部	D径29mm 高さ3mm	質感が堅固することよりセッキの可能性がある。近古代。	不明

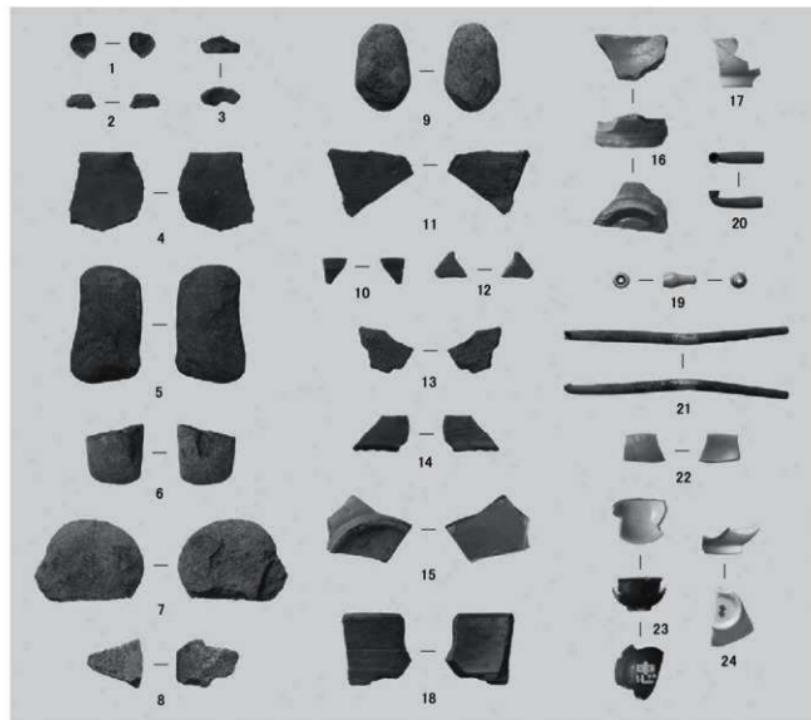


第98図 表土・攪乱出土遺物(I地区)

第27表 表土・搅乱出土遺物観察一覧(I地区)b

単位:cm

種別 図版番号	種類	器種	部位	法量	観察事項	出土地
29	瓶	無文鏡	—	外径 1.8 孔径 0.6 厚さ 0.1	重量0.3kg。	I層搅乱
30	瓶	手鏡	—	外径 2.2 孔径 — 厚さ 0.1	明治十一年発行の半鏡鏡背、重量3.2kg。	I層搅乱
31	ガラス製品	瓶	口～底部	外径 2.4 厚さ 22.4 底径 6.4	表面に「大日本製鏡株式会社製造」とらエンボス。	I層搅乱
32	ガラス製品	瓶	口～底部	外径 1.5 厚さ 8.1 底径 2.8	外底に「30」とび「6」とらエンボス。	I層搅乱
33	ガラス製品	瓶	口～底部	外径 1.8 厚さ 6.9 底径 2.8	外底に「横の素」とらエンボス。	I層搅乱
34	ガラス製品	瓶	口～底部	外径 1.5 厚さ 7.2 底径 0.7	表面に「THE WATER BOHETO」とらエンボス、開口部瓶式の日薬。	I層搅乱
35	ガラス製品	瓶	口～底部	外径 1.4 厚さ 7.9 底径 0.5	表面に「SANTENDO」とらエンボス、開口部瓶式の日薬。	I層搅乱
36	ガラス製品	瓶	口～底部	外径 2.4 厚さ 6.1 底径 5.1	ガラス自体に気泡がみられる、瓶底に「登録M」と思われるエンボス。	I層搅乱
37	ガラス製品	瓶	口～底部	外径 4.5 厚さ 3.4 底径 5.1	口縁部～底部、瓶底に「メナミ ポマード」とらエンボス、蟹殻形。	I層搅乱
38	石製品	石臼	—	外径 10.6 厚さ 10.6	厚さ9.2cm、孔4.7cm、重量51.1kg。難解岩？	I層搅乱
39	石製品	不明	—	外径 35.0 厚さ —	石灰岩の内側をくり抜き、容器状に加工したものか？厚さ38.4cm、重量20.3kg。石灰岩と思われる。	I層搅乱
40	石製品	鍤	—	外径 — 厚さ —	表面及び側面に磨削、波紋等。	I層搅乱
41	石器	不明	—	外径 — 厚さ —	斜片。チャット。	表様



図版 70 表土・搅乱 出土遺物1 (I地区)



図版 71 表土・搅乱 出土遺物2（I 地区）

b II 地区

表土・搅乱層で出土した遺物は総数18,063点である。遺物の種類としては、青磁、白磁、染付、色絵、タイ産褐釉陶器、褐釉陶器、本土産白磁、本土産染付、本土産陶器、本土産近代陶器、本土産近現代磁器、沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器、土器、陶質土器、瓦質土器、カムィヤキ、瓦、煉瓦、円盤状製品、石器、石製品、石材、土製品、骨製品、木製品、煙管、青銅製品、鉄製品、ガラス製品、プラスチック製品、ボタン、産地不明品などである。I地区と同様に、主体は本土産近現代磁器や沖縄産施釉陶器の碗や皿、沖縄産無釉陶器の壺、瓦などである。古くは縄文時代晩期相当の資料から、近現代の資料まであらゆる時代の遺物が混在してみられるのが特徴である。図示および写真撮影した遺物の特徴については、観察表（第28表）に記す。

第28表 表土・搅乱出土遺物観察一覧(II地区)a

探査番号 回収番号	種類	器種	部位	法量	観察事項		単位:cm	
第99回 回収72	1	土器	鉢	口縁部	長軸	厚さ	直角	D-11 1層
	2	石器	磨石	—	口径	底面	直角	表面に磨痕。側縁には打削のような痕跡もあることより、石斧の先製品の可能性もある。砂岩。 直径47mm。
	3	カムヤヤギ	蓋	側部	口徑	底面	直角	内部に凹凸感。外表面には叩き目痕がひらく。底上は暗褐色を呈し、白色粒を多く含む。
	4	カムヤヤギ	蓋	側部	口徑	底面	直角	側面の内面に凹凸感があり、マグネット調査が施される。外表面は波状の波蘚が広がる。底上は灰黒色を呈し、白色粒を多く含む。
	5	白磁	碗	口縁部	口徑	底面	直角	玉縁口様。素地は灰色で微細。黒色粒を含む。
	6	白磁	碗	口縁部	口徑	底面	直角	玉縁口様。玉縁下端の削りが明瞭だが、玉縁の作りは薄い。素地は白灰色で微細から、黒色粒を含む。
	7	白磁	小碗	底部	口徑	底面	直角	骨付に移りあり。素地は白色で微細。外底に壓印による文様のようなものがある。微化窯。
	8	白磁	小杯	底部	口徑	底面	直角	型成窯。素地は白色で微細。微化窯。
	9	白磁	皿	口～底部	口徑	底面	直角	内外面に施釉し、裏付から外底にかけては露胎。口唇部を焼付する。素地は白色で微細。微化窯。
	10	白磁	皿	口縁部	口徑	底面	直角	内外面に施釉。口唇部を焼付する。外表面に砂粒が付着する。素地は白色で微細。黒色粒を含む。
	11	青磁	碗	側部	口徑	器皿	直角	D-10 1層
	12	青磁	碗	口縁部	口徑	器皿	直角	素地は灰白色で微細。黒色粒を含む。
	13	青磁	皿	口縁部	口徑	器皿	直角	口唇部下部に削りを入れて、玉枕状を呈する。素地は灰白色で微細。黒色粒を含む。
	14	染付	瓶	底部	口徑	器皿	直角	骨付に施釉。素地は灰白色で微細。
	15	染付	小瓶	底部	口徑	器皿	直角	高台脚の骨付は露胎。素地は白灰色で微細。
	16	染付	小瓶	底部	口徑	器皿	直角	骨付に施釉。素地は白灰色で微細。微化窯と考案される。
	17	染付	皿	口～底部	口徑	器皿	直角	高台脚から骨付は露胎。外表面は輪廻線が明瞭。素地は白色で微細。
	18	染付	皿	口縁部	口徑	器皿	直角	素地は白色で微細。
	19	染付	皿	底部	口徑	器皿	直角	高台脚から骨付は露胎。素地は白色で微細。
	20	染付	皿	口～底部	口徑	器皿	直角	骨付は露胎。素地は白色で微細。21と同一個体と思われる。
	21	染付	皿	口～底部	口徑	器皿	直角	骨付は露胎。素地は白色で微細。20と同一個体と思われる。
	22	染付	鉢	底部	口徑	器皿	直角	内底は蛇の目状に削れ。骨付は露胎で砂目あり。素地は白灰色で微細。黒色粒を含む。
	23	染付	敷葉器	底部	口徑	器皿	直角	接地面には露胎。素地は白色で微細。黒色粒を含む。
	24	色绘	碗	底部	口徑	器皿	直角	E-9 1層
	25	色绘	小瓶	口縁部	口徑	器皿	直角	口唇部を焼付する。素地は白色で微細。
第100回 回収72	26	色绘	皿	口～底部	口徑	器皿	直角	E-9 1層
	27	色绘	皿	口～底部	口徑	器皿	直角	骨付は露胎。外表面は輪廻線が明瞭。素地は白灰色で微細。黒色粒を含む。
	28	色绘	皿	口～底部	口徑	器皿	直角	骨付は露胎。外表面は輪廻線が明瞭。素地は白灰色で微細。
	29	褐釉陶器	壺	口縁部	口徑	器皿	直角	口唇部は露胎。素地は白灰色で微細。白色粒、褐色粒を含む。20と同一個体と思われる。
	30	褐釉陶器	壺	口縁部	口徑	器皿	直角	口唇部は露胎。素地は白灰色で微細。白色粒、褐色粒を含む。29と同一個体と思われる。
	31	本土産陶器	飛行 磨	口～底部	口徑	器皿	直角	E-10 1層
	32	本土産陶器	飛行 小瓶	口縁部	口徑	器皿	直角	D-10 1層
	33	本土産陶器	飛行 瓶	底部	口徑	器皿	直角	E-11 1層
	34	本土産陶器	飛行 瓶	底部	口徑	器皿	直角	E-10 1層
	35	本土産陶器	飛行 瓶	口縁部	口徑	器皿	直角	E-10 1層
	36	本土産陶器	飛行 小瓶	底部	口徑	器皿	直角	E-10 1層
	37	本土産陶器	飛行 瓶	口～底部	口徑	器皿	直角	E-10 1層
	38	本土産陶器	飛行 瓶	口縁部	口徑	器皿	直角	E-9 1層
	39	本土産陶器	飛行 瓶	底部	口徑	器皿	直角	E-10 1層
	40	本土産陶器	染付 瓶	底部	口徑	器皿	直角	F-9-10 1層

第28表 表土・搅乱出土遺物観察一覧(Ⅱ地区)b

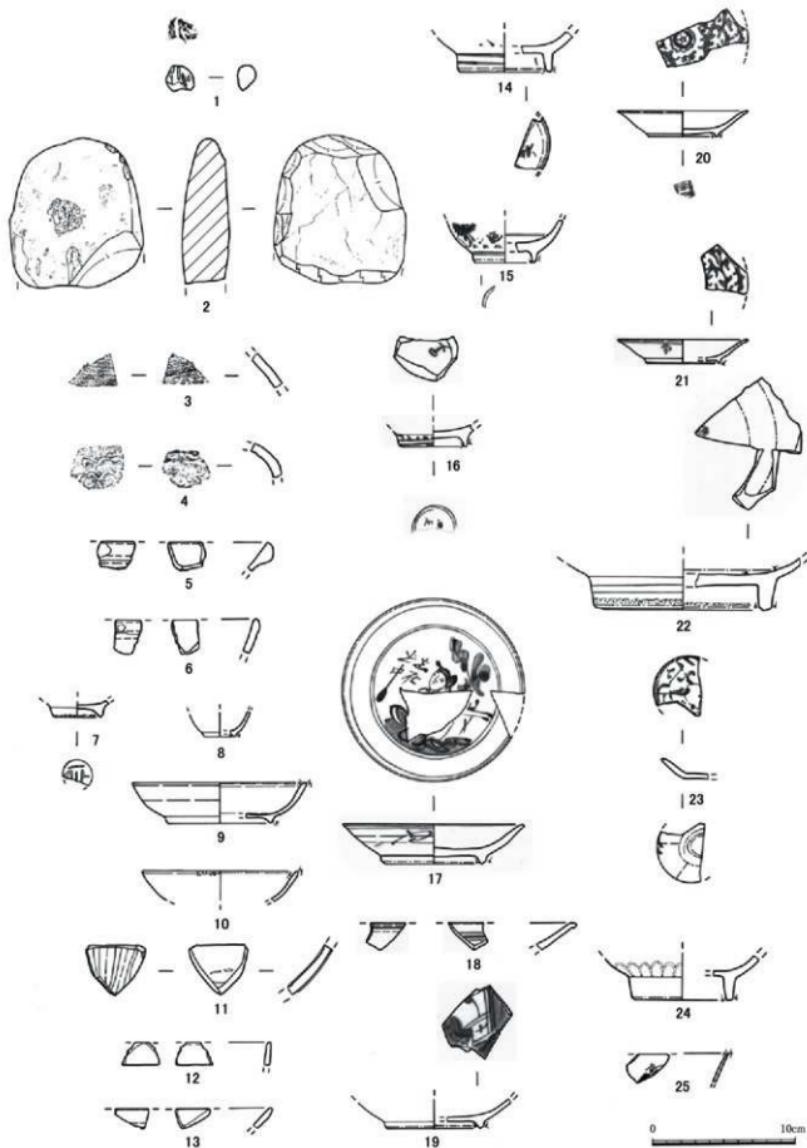
單位: cm

園芸参考 園版番号							園芸事項		
		種類	品種	部位	状態	出土地			
第100回 図版72	41	本土産梅	愛付	日~低温	日陰・高湿 底温	葉付は黒紅。素地は白色で濃密。桜花鉢。	E-10	I級	
	42	本土産梅	愛付	日陰部	日陰部 高温 底温	葉付は白色で濃密。桜花鉢。	視察		
	43	本土産梅	愛付	日陰部	日陰 高温 底温	脚部は角をもつ。素地は白色で濃密。	E-10	I級	
第101回 図版72	44	本土産梅	愛付	日~低温	日陰 高温 底温	素地は白色で濃密。	D-10	I級	
	45	本土産梅	愛付	日~低温	日陰 高温 底温	素地は白色で濃密。背面に露葉。	E-9	I級	
	46	本土産梅	瓶	低温	日陰	葉付は黒紅。素地は白色で濃密。黒色を含む。	E-9	I級	
	47	中産梅	瓶	日~低温	日陰 高温 底温	内外面に白化粧+透明釉を單掛。内底は蛇の目状に輪刺ぎ。葉付は黒紅。葉面にアルマを施す。内底に日絞模様(アブレーナ付着)。背面に良質地で丈夫で強健。素地は黄褐色をおびた白色で細い。	E-10	I級	
第101回 図版73	48	中産梅	瓶	日~低温	日陰 高温 底温	内外面に白化粧+透明釉を單掛。内底は蛇の目状に輪刺ぎ。葉付は黒紅。葉面にアルマを施す。内底に日絞模様(アブレーナ付着)。背面に黄褐色をおびた白色で細い。黒色を含む。	E-11	I級	
	49	中産梅	瓶	日~低温	日陰 高温 底温	内外面に白化粧+透明釉を單掛。内底は蛇の目状に輪刺ぎ。葉付は黒紅。葉面にアルマを施す。内底に日絞模様(アブレーナ付着)。背面に黄褐色をおびた白色で細い。	不明		
	50	中産梅	瓶	日~低温	日陰 高温 底温	内外面に白化粧+透明釉を單掛。内底は蛇の目状に輪刺ぎ。葉付は黒紅。葉面にアルマを施す。内底に日絞模様(アブレーナ付着)。背面に黄褐色をおびた白色で細い。	E-10	I級	
第102回 図版73	51	中産梅	瓶	日~低温	日陰 高温 底温	内外面に白化粧+透明釉を單掛。内底は蛇の目状に輪刺ぎ。葉付は黒紅。葉面にアルマを施す。内底に日絞模様(アブレーナ付着)。背面は黒色を含む。外面に3本の疣状。	D-10	I級	
	52	中産梅	小瓶	日~低温	日陰 高温 底温	内外面に透明釉を施す。葉付は黒紅。素地は白色で細かい。黒色を含む。	D-10	I級	
	53	中産梅	小瓶	日~低温	日陰 高温 底温	内外面に白化粧+透明釉を單掛。内底は蛇の目状に輪刺ぎ。葉付は黒紅。葉面にアルマを施す。内底に日絞模様(アブレーナ付着)。背面は黒色を含む。外面に多角形の面が見える。	G-10	I級	
第102回 図版74	54	中産梅	小瓶	低温	日陰 高温 底温	内外面に白化粧+透明釉を單掛。内底は蛇の目状に輪刺ぎ。葉付は黒紅。アルマを施す。内底に日絞模様(アブレーナ付着)。背面は黒色を含む。外面に多角形の面が見える。	E-10~11	I級	
	55	中産梅	小瓶	日~低温	日陰 高温 底温	内外面に白化粧+透明釉を單掛。内底は蛇の目状に輪刺ぎ。葉付は黒紅。アルマを施す。内底に日絞模様(アブレーナ付着)。背面は黒色を含む。外面に多角形の面が見える。	D-10~11	I級	
	56	中産梅	瓶	日~低温	日陰 高温 底温	内外面に白化粧+透明釉を單掛。外面に輪刺ぎを併せ付く。内底は蛇の目状に輪刺ぎ。葉付は黒紅で、アルマを施す。内底に日絞模様(アブレーナ付着)。背面は黒色で細い。内外面ともに輪刺ぎが現れる。	E-10	I級	
第102回 図版75	57	中産梅	小瓶	日~低温	日陰 高温 底温	内外面に白化粧+透明釉を單掛。内底は蛇の目状に輪刺ぎ。葉付は黒紅。内底に2枚目(アブレーナ付着)。背面は黒色で細い。	D-10	I級	
	58	中産梅	瓶	火入	日~低温	日陰 高温 底温	内外面に白化粧+透明釉を單掛。外面に輪刺ぎを併せ付く。内底は蛇の目状に輪刺ぎ。葉付は黒紅で、アルマを施す。内底に日絞模様(アブレーナ付着)。背面は黒色で細い。	E-10	I級
	59	中産梅	瓶	火入	日~低温	日陰 高温 底温	内外面に白化粧+透明釉を單掛。外面に輪刺ぎを併せ付く。内底は蛇の目状に輪刺ぎ。葉付は黒紅で、アルマを施す。内底に日絞模様(アブレーナ付着)。背面は黒色で細い。	E-10	I級
第102回 図版76	60	中産梅	火入	日陰部	日陰 高温 底温	内外面に白化粧+透明釉を單掛。内底は蛇の目状に輪刺ぎ。葉付は黒紅。内底に2枚目(アブレーナ付着)。背面は黒色で細い。	D-10~11	I級	
	61	中産梅	瓶	解説	日陰 高温 底温	内外面に白化粧+透明釉を單掛。外面に輪刺ぎを併せ付く。内底は蛇の目状に輪刺ぎ。葉付は黒紅で、アルマを施す。	E-10	I級	
	62	中産梅	球体	日陰部	日陰 高温 底温	内外面に白化粧+透明釉を單掛。内底は蛇の目状に輪刺ぎ。葉付は黒紅で細い。	E-10~11	I級	
第102回 図版77	63	中産梅	壺	口縁部	日陰 高温 底温	素地は暗緑色で粗い。	E-10~11	I級	
	64	中産梅	壺	底部	日陰 高温 底温	素地は暗緑色で粗い。内底は輪刺ぎが明顯。	E-10~11	I級	
	65	中産梅	壺	口~低温	日陰 高温 底温	内底は暗緑色で粗い。	不明		
第102回 図版78	66	中産梅	壺	口縁部	日陰 高温 底温	素地は赤褐色で粗い。白色を多く含む。内底は輪刺ぎが明確。	E-10~11	I級	
	67	中産梅	壺	底部	日陰 高温 底温	素地は赤褐色で粗い。白色を多く含む。外側は輪刺ぎが明確。	E-10~11	I級	
	68	中産梅	壺	—	日陰 高温 底温	素地は赤褐色で粗い。白色を多く含む。内底は輪刺ぎが明確。	E-10~10	I級	
第102回 図版79	69	貿賣土	鉢	低温	日陰 高温 底温	軽土は緑色で、黑色粒、白色粒を含む。外底には輪刺ぎが明確。	E-10~11	I級	
	70	貿賣土	植株	日陰 高温 底温	内面に輪柱目を呈す。軽土は暗灰色で白色粒、黑色を含む。	E-9	I級		
	71	貿賣土	七輪	日~低温	日陰 高温 底温	軽土は暗灰色。内面は輪刺ぎが明確。	不明		
第102回 図版80	72	貿賣土	花形容形	低温	日陰 高温 底温	外底は暗緑色のかたいように光沢を失つ。軽土は暗赤褐色で、石英粒、白色粒、赤色粒、雲母を含む。T2は同一個と考るされる。	E-10	I級	
	73	貿賣土	花形容形	底部	日陰 高温 底温	外底は暗緑色のかたいように光沢を失つ。軽土は暗赤褐色で、石英粒、白色粒、赤色粒、雲母を含む。T2は同一個と考るされる。	E-10	I級	
	74	円錐型製品	—	日陰 高温 底温	中間部無輪刺陶器を素材としている。重量17kg。	G-1	I級		
第102回 図版81	75	鉢	瓦本通實	外縁	瓦 保冷 厚底	JCT20度、重量2.8kg。	C-10		
	76	鉢	一鉢	外縁	瓦 保冷 厚底	大正十年築成の一鉢保冷鉢。灰に觸る觸感。重量3kg。	C-10	I級	
	77	縦管	—	板口	日陰 高温 底温	青銅板。板材を横に曲げて作られたものと考えられる。壁厚0.6cm、小11.0cm、重量7.9kg。	E-9	I級	

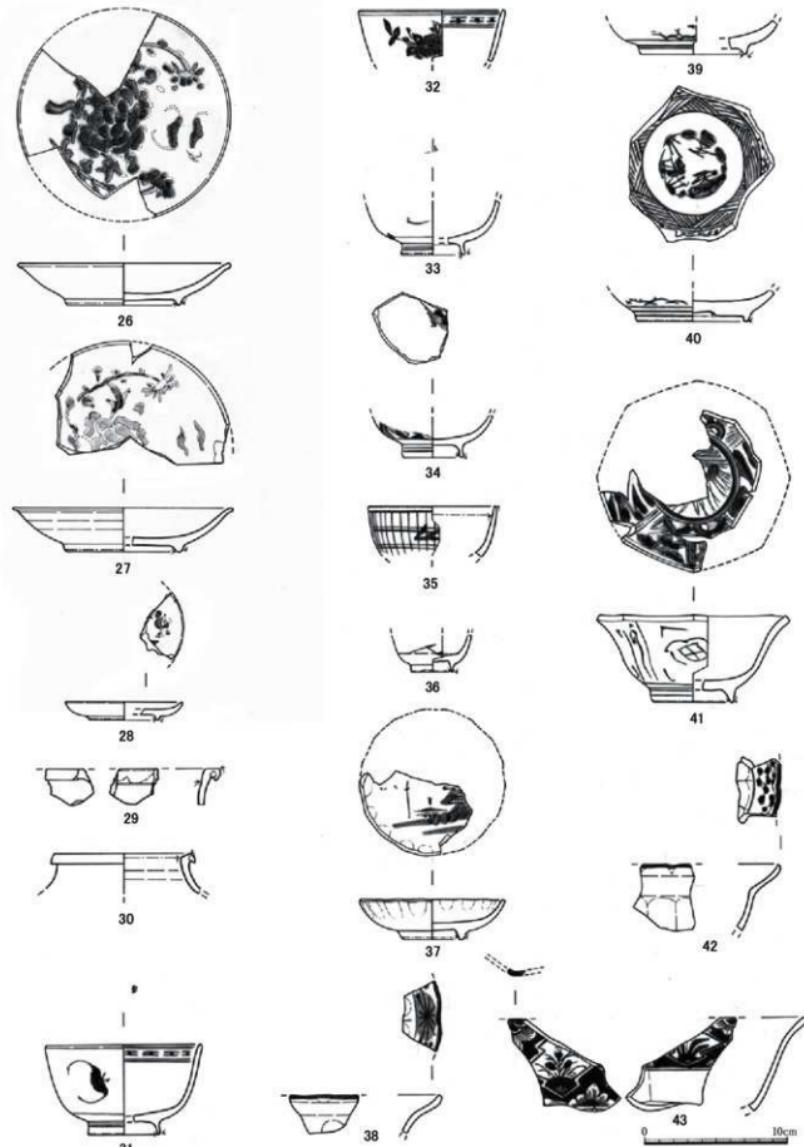
第28表 表土・搅乱出土遺物観察一覧(II地区)c

单位: cm

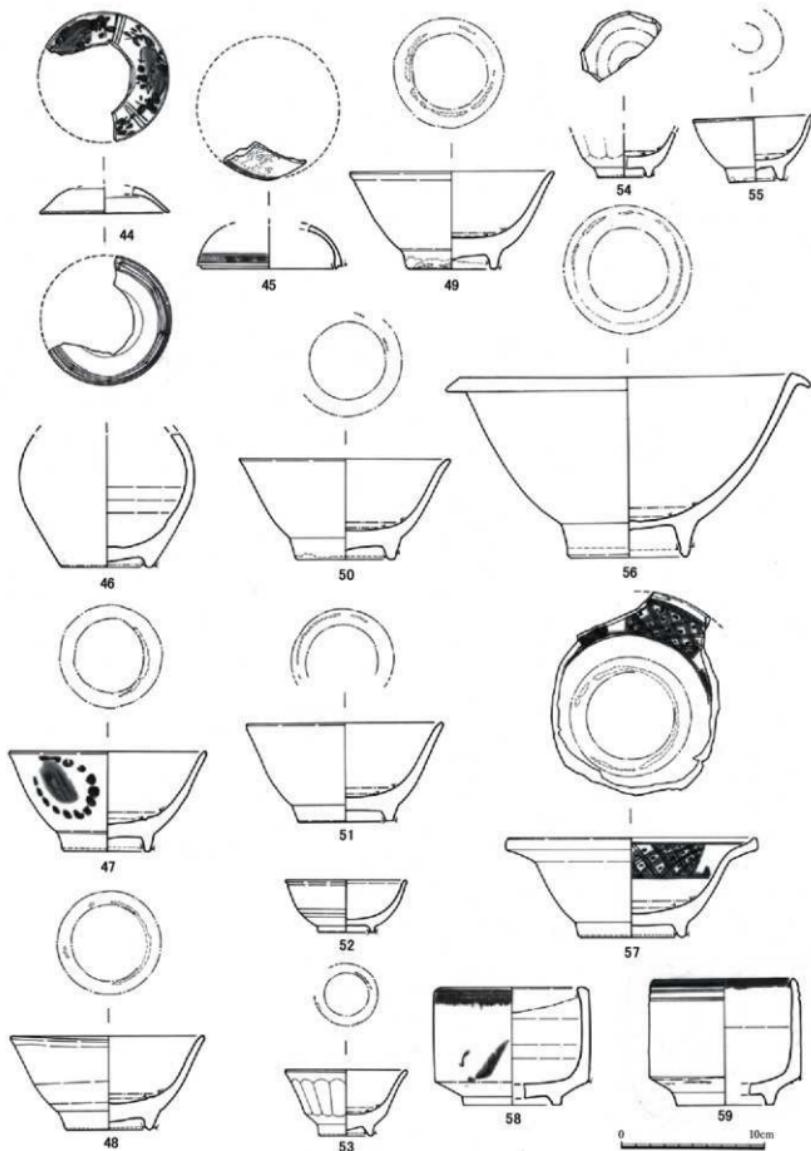
辨認番号 國版番号							単位: cm	
種類		器種	部位	法集	觀察事項			
第102回 国版74	76	骨管	一	口徑	圓周 直徑 —	青銅製。火薬部分は火薬。重量33.2g。	D-9 1切	
	79	石製品	硯	口徑	圓周 直徑 —	表面は火薬。底部中央に開みあく。表面には縦条痕がひらく。裏面に「大聖降臨下」という文 字が彫られている。緑色手すり。	E-9 1切	
	80	石製品	硯	口徑	圓周 直徑 —	火薬は火薬。砂留。	E-9 1切	
	81	木製品	蓋	口徑	圓周 直徑 —	表面に断面がみられることより木の蓋と考被される。	不明	
	82	石製品	硯底?	口徑	圓周 直徑 —	表面は丸らかで丁寧に仕上げている。	G-11-90 1切	
	83	瓦	伊勢美 平瓦	口徑	圓周 直徑 —	色調は赤色。表面に津波地が付着。	E-10 1切	
国版76	84	瓦	伊勢美 平瓦	口徑	圓周 直徑 —	色調は赤色。	E-11 1切	
	85	瓦	明明天 瓦	五瓣部	口徑	圓周 直徑 —	色調は赤色。津波地が付着。	不明
	86	瓦	明明天 瓦	五瓣部	口徑	圓周 直徑 —	色調は赤色。津波地が付着。	E-10 1切
	87	瓦	明明天 瓦	卡栏部	口徑	圓周 直徑 —	色調は赤色。津波地が付着。	E-11 1切
国版75	88	本土產磁器	瓶	口～近底	口徑 13.6 6.0	瓶身は断面が白色で細かい。内底に4つの船形土目が確認できることにより、本來は5つの船 形土目があったことを考被する。型瓶輪付。近現代。	G-10 1切	
	89	本土產磁器	瓶	口～近底	口徑 14.0 6.0	瓶身は断面が白色で細かい。内底に4つの船形土目が確認できることにより、本來は5つの船 形土目があったことを考被する。型瓶輪付。近現代。	E-10 1切	
	90	本土產磁器	瓶	口～近底	口徑 13.3 5.8	瓶身は断面が白色で細かい。内底に4つの船形土目が確認できることにより、本來は5つの船 形土目があったことを考被する。型瓶輪付。近現代。	D-10 1切	
	91	本土產磁器	瓶	口～近底	口徑 13.6 5.8	瓶身は断面が白色で細かい。内底に4つの船形土目が確認できることにより、本來は5つの船 形土目があったことを考被する。型瓶輪付。近現代。	複数	
	92	本土產磁器	小瓶	口～近底	口徑 4.8 2.7	瓶身は断面が白色で細かい。瓶輪付。近現代。	不明	
	93	本土產磁器	瓶	口～近底	口徑 11.1 5.3	瓶身は断面が白色で細かい。瓶輪付。外面白模様。外面白模様に緑色の繊維が4本。外底に「(一)三六〇」という記入。 近現代。	不明	
	94	本土產磁器	瓶	口～近底	口徑 11.6 5.6	瓶身は断面が白色で細かい。内底に4つの船形土目が確認できることにより、本來は5つの船 形土目があったことを考被する。型瓶輪付。近現代。	不明	
	95	本土產磁器	小瓶	口～近底	口徑 8.0 3.7	瓶身は断面が白色で細かい。内底に4つの船形土目が確認できることにより、本來は5つの船 形土目があったことを考被する。内底に「(一)三六〇」という記入。近現代。	D-10 1切	
	96	本土產磁器	小瓶	瓶頭	口徑 — —	瓶身は断面が白色で細かい。内底に4つの船形土目が確認できることにより、本來は5つの船 形土目があったことを考被する。内底に「(一)三六〇」という記入。近現代。	F-9-10 1切	
	97	本土產磁器	小瓶	口～近底	口徑 11.2 4.5	瓶身は断面が白色で細かい。内底に4つの船形土目が確認できることにより、本來は5つの船 形土目があったことを考被する。内底に「(一)三六〇」という記入。近現代。	E-11 1切	
	98	本土產磁器	小瓶	瓶頭	口徑 — —	瓶身は断面が白色で細かい。内底に4つの船形土目が確認できることにより、本來は5つの船 形土目があったことを考被する。内底に「(一)三六〇」という記入。近現代。	D-9 1切	
	99	本土產磁器	小瓶	口～近底	口徑 2.6 1.5	瓶身が丸高台内側に突出。表面は白色で細かい。外表面部を4箇所削取する。表面は方形をな す。近現代。	不明	
	100	本土產磁器	小瓶	口～近底	口徑 — —	瓶身は断面が白色で細かい。内底に4つの船形土目が確認できることにより、本來は5つの船 形土目があったことを考被する。内底に「(一)三六〇」という記入。近現代。	不明	
	101	本土產磁器	瓶	口～近底	口徑 12.8 2.6	瓶身は断面が白色で細かい。内底に4つの船形土目が確認できることにより、本來は5つの船 形土目があったことを考被する。内底に「(一)三六〇」という記入。近現代。	G-11-10 1切	
	102	本土產磁器	瓶	口～近底	口徑 12.7 2.4	瓶身は断面が白色で細かい。内底に4つの船形土目が確認できることにより、本來は5つの船 形土目があったことを考被する。内底に「(一)三六〇」という記入。近現代。	E-10 1切	
	103	本土產磁器	瓶	口～近底	口徑 12.5 2.6	瓶身は断面が白色で細かい。内底に4つの船形土目が確認できることにより、本來は5つの船 形土目があったことを考被する。内底に「(一)三六〇」という記入。近現代。	E-11 1切	
	104	本土產磁器	瓶	口～近底	口徑 12.6 2.6	瓶身は断面が白色で細かい。内底に4つの船形土目が確認できることにより、本來は5つの船 形土目があったことを考被する。内底に「(一)三六〇」という記入。近現代。	不明	
	105	本土產磁器	瓶	口～近底	口徑 — —	内底は断面が白色で細かい。内底に4つの船形土目が確認できることにより、本來は5つの船 形土目があったことを考被する。内底に「(一)三六〇」という記入。近現代。	E-10 1切	
	106	本土產磁器	瓶	口～近底	口徑 — —	瓶身は断面が白色で細かい。内底に4つの船形土目が確認できることにより、本來は5つの船 形土目があったことを考被する。内底に「(一)三六〇」という記入。近現代。	D-10 1切	
	107	本土產磁器	瓶	口～近底	口徑 — —	瓶身は断面が白色で細かい。内底に4つの船形土目が確認できることにより、本來は5つの船 形土目があったことを考被する。内底に「(一)三六〇」という記入。近現代。	G-10 1切	
	108	本土產陶器	瓶	口～近底	口徑 — —	内底に青色の釉を施す。高台は白陶器。表面は白色で細かい。模花底。近現代。	G-10 1切	
	109	青銅製品	把手	—	口徑	圓周 直徑 —	精度品具。長さ7.6cm。不規則な形状。	不明
	110	鉄製品	把手	—	口徑	圓周 直徑 —	長さ11.2cm、長さ12.0cm、重量5.0kg。	E-9 1切
	111	鉄製品	鉄刀	—	口徑	圓周 直徑 —	下半部が錆びていて、長さ6.1cm、長さ6.1cm、重量6.9kg。	E-9 1切
国版76	112	鉄製品	カマ	—	口徑	圓周 直徑 —	刃二刃が鋭い。長さ17.7cm、長さ5.2cm、重量55.3g。	E-9 1切
	113	ガラス製品	瓶	口～近底	口徑 2.2 7.3	ガラス自体に気泡が多くある。瓶底には「白牌」、側面には「小倉舟」、瓶底には白牌と思われる標 記の墨書き。	不明	
	114	ガラス製品	瓶	口～近底	口徑 — 8.3	ガラス自体に小さな気泡が多くある。瓶底には「白牌」、側面には「小倉舟」、瓶底には白牌と思われる標 記の墨書き。	不明	
	115	ガラス製品	瓶	口～近底	口徑 — 7.7	ガラス自体に気泡が多くある。瓶底には、星がついたエンボスがある。	E-10 1切	
	116	石器	磨石	—	口徑	圓周 直徑 —	裏面に研磨面。他はすべて自然面。研磨。	不明
	117	石製品	石臼	—	長さ 14.1 14.1	重量30.0kg。	不明	
	118	石製品	石臼	—	長さ 11.6 6.5	重量26.0kg。	不明	
	119	石製品	石臼	—	長さ 11.6 6.5	重量11.5kg。	不明	



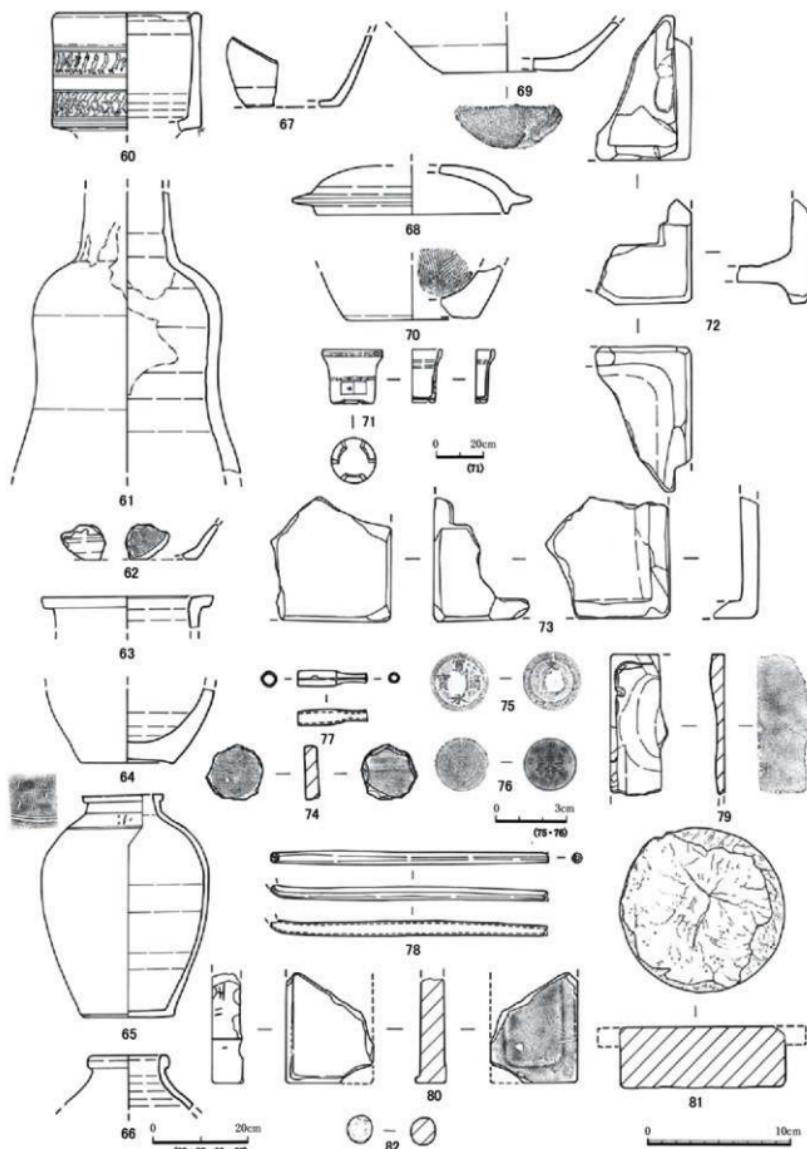
第99図 表土・搅乱出土遺物1(II地区)



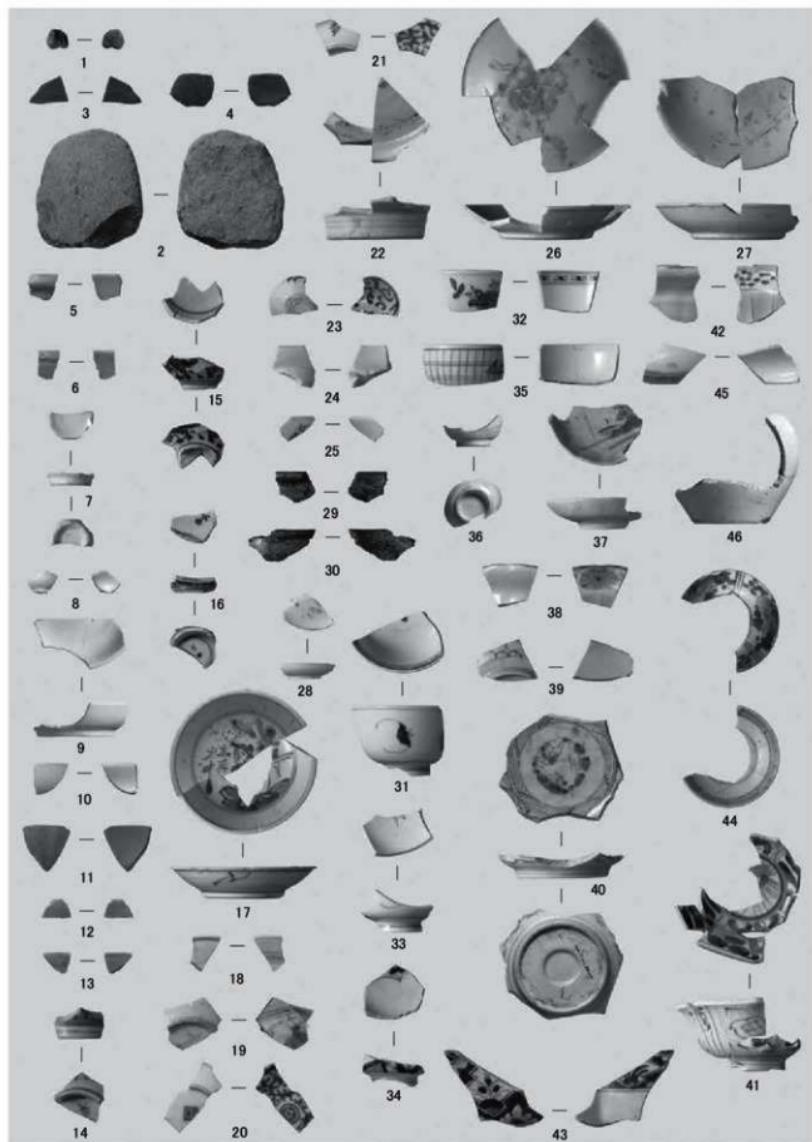
第100図 表土・搅乱出土遺物2(II地区)



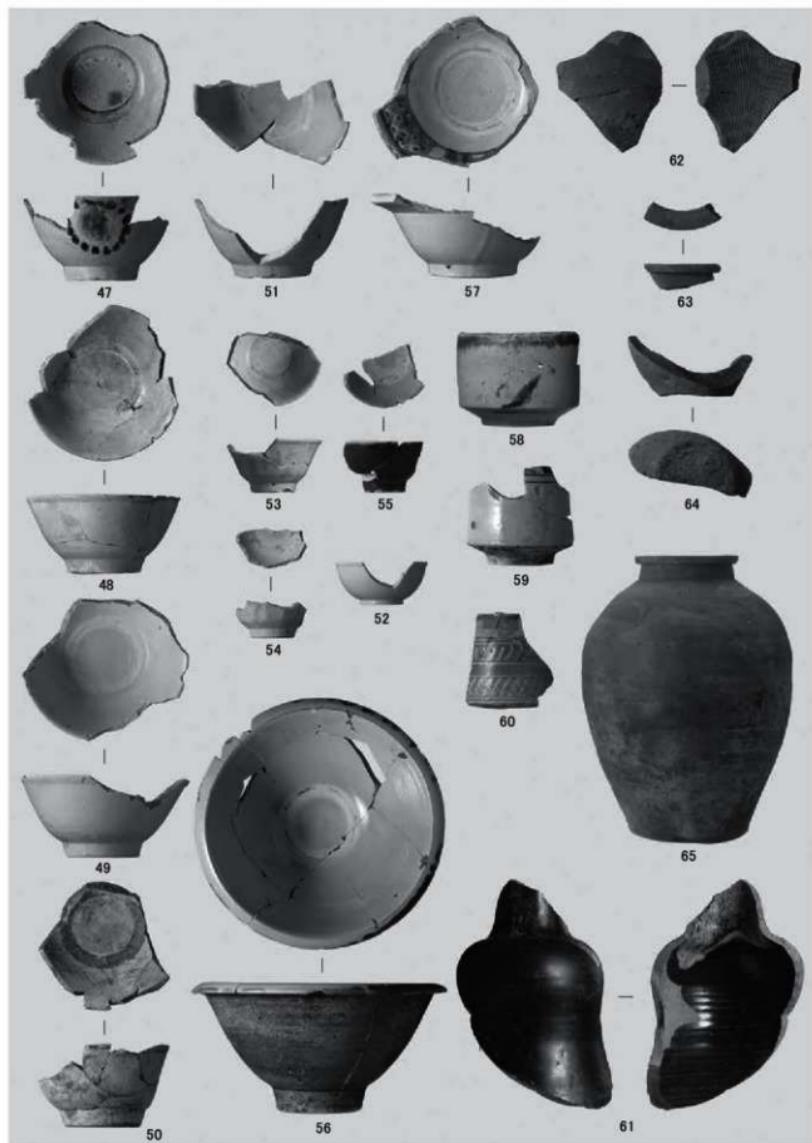
第101図 表土・搅乱出土遺物3(II地区)



第102図 表土・搅乱出土遺物4(II地区)



图版 72 表土·搅乱 出土遗物1 (II地区)



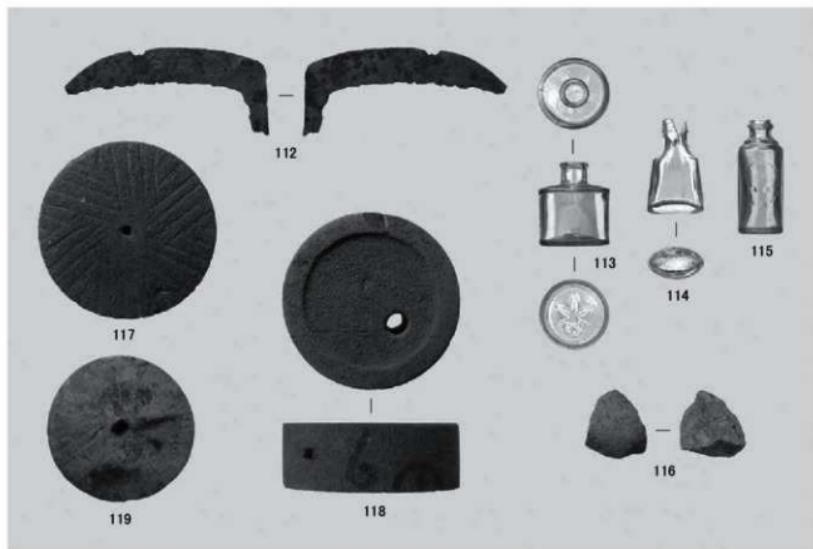
图版 73 表土·搅乱 出土遗物2 (II地区)



图版 74 表土·搅乱 出土遗物3 (II地区)



图版 75 表土·搅乱 出土遗物4 (II地区)



図版 76 表土・搅乱 出土遺物5 (II 地区)

<貝の生息域分類>

外洋～内湾	水 深	底 質
I 外洋・サンゴ礁域	0 潮間帯上部 (Iではノッチ、IIIではマングローブ)	a 岩盤
II 内湾・転石地域	1 潮間帯中・下部	b 転石
III 河口干潟・マングローブ域	2 亜潮間帶上縁部(Iではイノー) 3 干潮(Iにのみ適用) 4 磯斜面およびその下部	c 岩礫底、砂泥底、砂底 d マングローブ植物上 e 淡水の流入する磯底
IV 淡水域	5 止水 6 流水	
V 陸域	7 林内 8 林内・林縁部 9 林縁部 10 海浜部	
VI その他	11 打ち上げ物 12 化石	

第5節 自然遺物

1. 貝類遺体

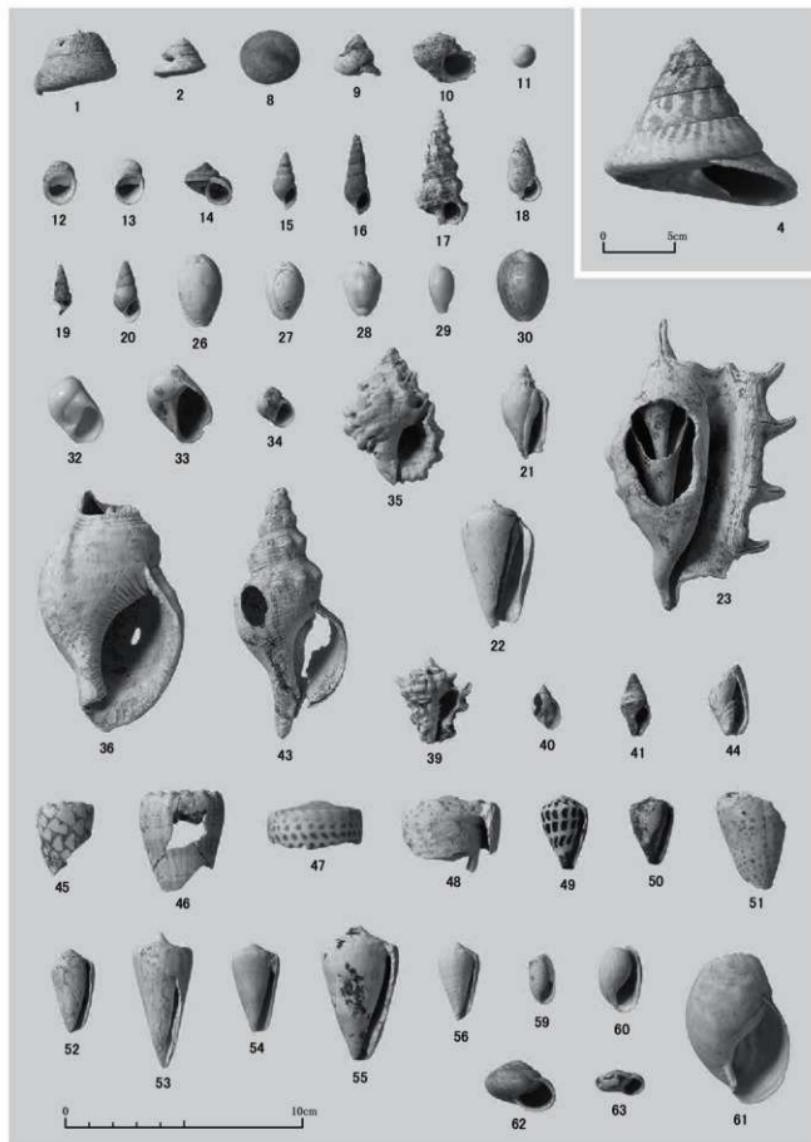
平成20年度のI・II地区からは貝類遺体が出土している。詳細については、第99・100表に示す。

2. 脊椎動物遺体

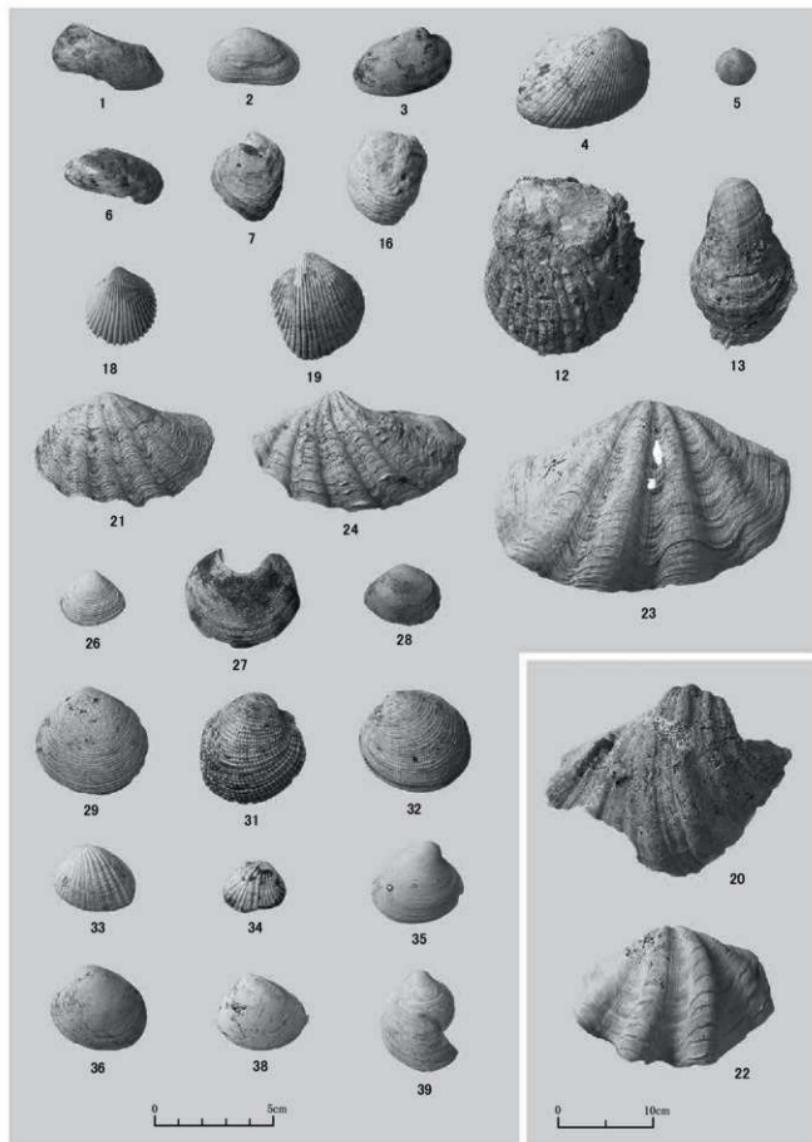
平成20年度のI・II地区からは脊椎動物遺体が出土しており、魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類(人骨含む)が確認されている。詳細については、第101~122表に示す。

<動物遺存体種名一覧>

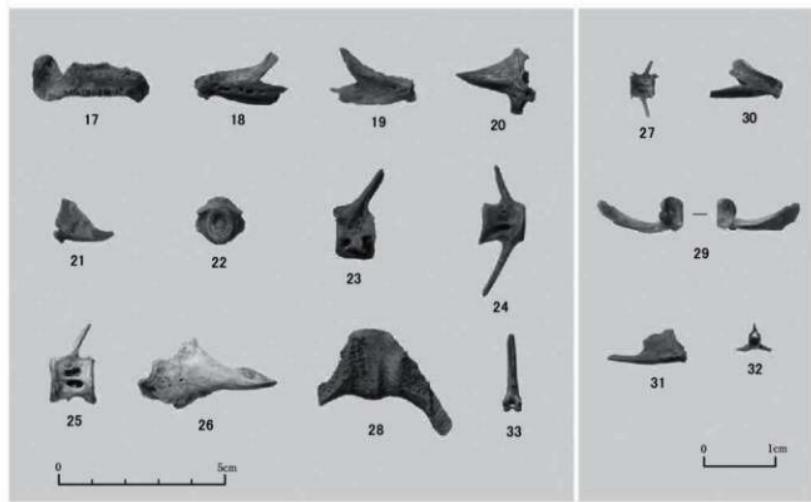
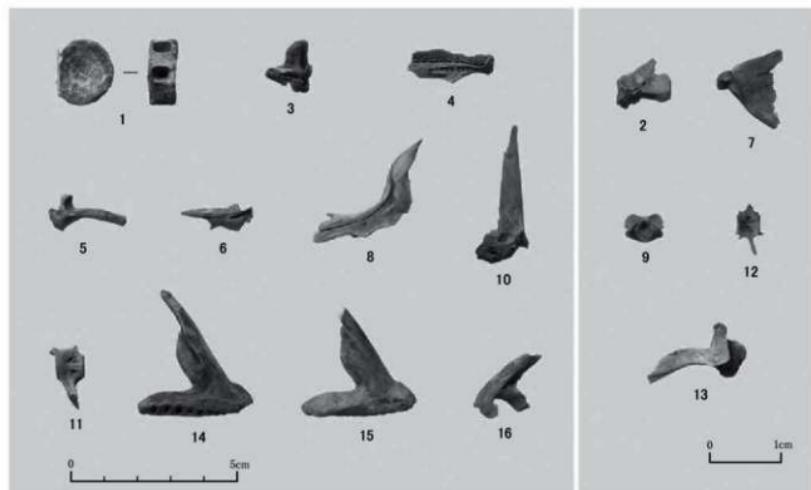
節足動物門 Phylum ARTHROPODA	爬虫綱 Class Reptilia
軟甲亜綱 Subclass Malacostraca	有鱗目 Order Squamata
十脚目 Order Decapoda	トカゲ亜目 Suborder Sauria
科・属不明 Fam.et gen.indet	科・属不明 Fam.et gen.indet
脊椎動物門 Phylum VERTEBRATA	ヘビ亜目 Suborder Ophidia
軟骨魚綱 Class Chondrichthyes	科・属不明 Fam.et gen.indet
メジロザメ目 Order Carcharhiniformes	鳥綱 Class Aves
メジロザメ科 Family Carcharhinidae	キジ目 Order Galliformes
属・種不明 Gen.et sp.indet.	キジ科 Family Phasianidae
硬骨魚綱 Class Osteichthyes	ニワトリ <i>Gallus gallus</i> var. <i>domesticus</i>
スズキ目 Order Perciformes	科・属不明 Fam.et gen.indet
カマス科 Family Sphyraenidae	哺乳綱 Class Mammalia
カマス属 <i>Sphyraena</i> sp.	靈長目 Order Primates
ハタ科 Family Serranidae	ヒト科 Family Hominidae
マハタ型 <i>Serranidae</i> cf. <i>Epinephelus</i>	ヒト <i>Home sapiens</i>
属・種不明 Gen.et sp.indet	トガリネズミ形目 Order Soricomorpha
アジ科 Family Carangidae	トガリネズミ科 Family Soricidae
属・種不明 Gen.et sp.indet	ジャコウネズミ <i>Suncus murinus</i>
エフダイ科 Family Lutjanidae	ウサギ目(重複目) Order Lagomorpha
属・種不明 Gen.et sp.indet.	ウサギ科 Family Leporidae
タイ科 Family Sparidae	属・種不明 Gen.et sp.indet
属・種不明 Gen.et sp.indet.	齧歯目 Order Rodentia
エフキダイ科 Family Lethrinidae	ネズミ科 Family Muridae
ハマエフキ型 <i>Lethrinus</i> cf. <i>L. nebulosus</i>	属・種不明 Gen.et sp.indet
エフキダイ属 <i>Lethrinus</i> sp.	食肉目 Order Carnivora
属・種不明 Gen.et sp.indet.	イヌ科 Family Canidae
ベラ科 Family Labridae	イヌ <i>Canis familiaris</i>
シロクラベラ型	ネコ科 Family Felidae
<i>Labridae</i> cf. <i>Cherodon shoenleinii</i>	ネコ <i>Felis catus</i>
属・種不明 Gen.et sp.indet.	奇蹄目 Order Perissodactyla
アイゴ科 Family Siganidae	ウマ科 Family Equidae
アイゴ属 <i>Siganus</i> sp.	ウマ <i>Equus caballus</i>
フグ目 Order Tetraodontiformes	偶蹄目 Order Artiodactyla
ハリセンボン科 Family Diodontidae	イノシシ科 Family Suidae
属・種不明 Gen.et sp.indet.	ブタ <i>Sus scrofa</i> var. <i>domesticus</i>
両生綱 Class Amphibia	ウシ科 Family Bovidae
無尾目 Order Anura	ウシ <i>Bos taurus</i>
科・属不明 Fam.et gen.indet	ヤギ <i>Capra hircus</i>



図版 77 貝類遺体1（巻貝）



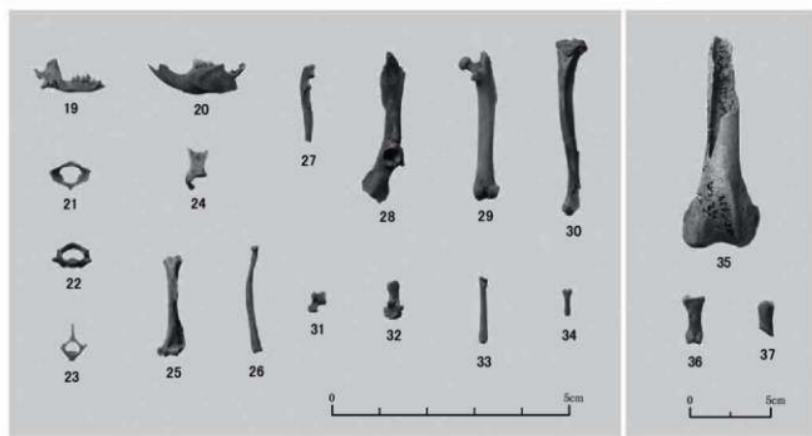
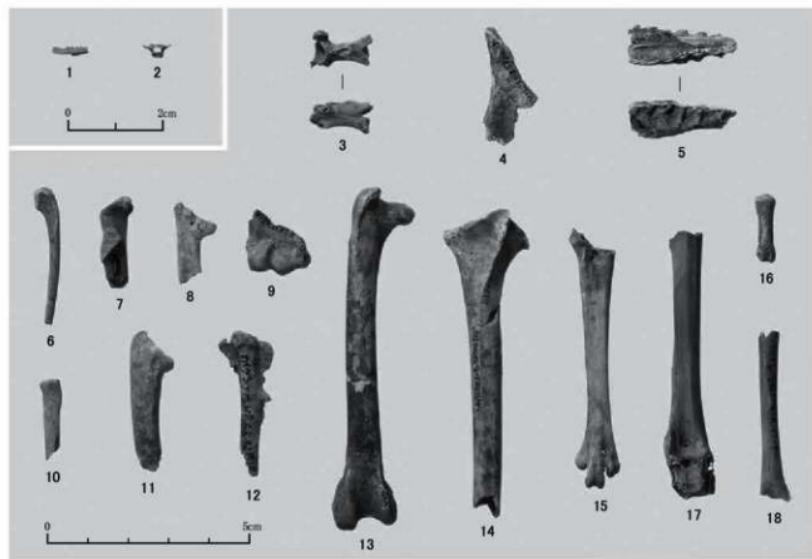
図版 78 貝類遺体2（二枚貝）



図版 79 脊椎動物遺体1

サカナ 上 サメ類メジロザメタイプ 1. 椎骨 カマス属 2. 腹椎 ハタ科マハタ型 3. 左 前上顎骨 4. 左 齒骨 ハタ科 5. 左 主上顎骨 6. 左 角骨 7. 左 方骨 8. 左 摶顎骨 9. 第一椎骨 10. 腹椎 キズあり ハタ型 11. 尾椎 アジ科 12. 尾椎 フエダイ科 13. 右 主上顎骨 フエキダイ属ハマエフキ型 14. 左 前上顎骨 15. 右 前上顎骨 フエキダイ属 16. 左 口蓋骨

下 フエキダイ科 17. 左 主上顎骨 18. 左 齒骨 19. 左 齒骨 キズあり 20. 左 角骨 21. 左 方骨 22. 第一椎骨 23. 腹椎 キズあり タイ型 24. 尾椎 キズあり ベラ科シロクラベラ型 25. 尾椎 ベラ科 26. 右 角骨 アイゴ属 27. 尾椎 ハリセンボン? 28. 前上顎骨+歯骨 キズあり 要検討 29. 左 主上顎骨 要確認 30. 左 齒骨 31. 右 方骨 保留 32. 腹椎 種不明 33. 背鰭棘



図版 80 脊椎動物遺体2

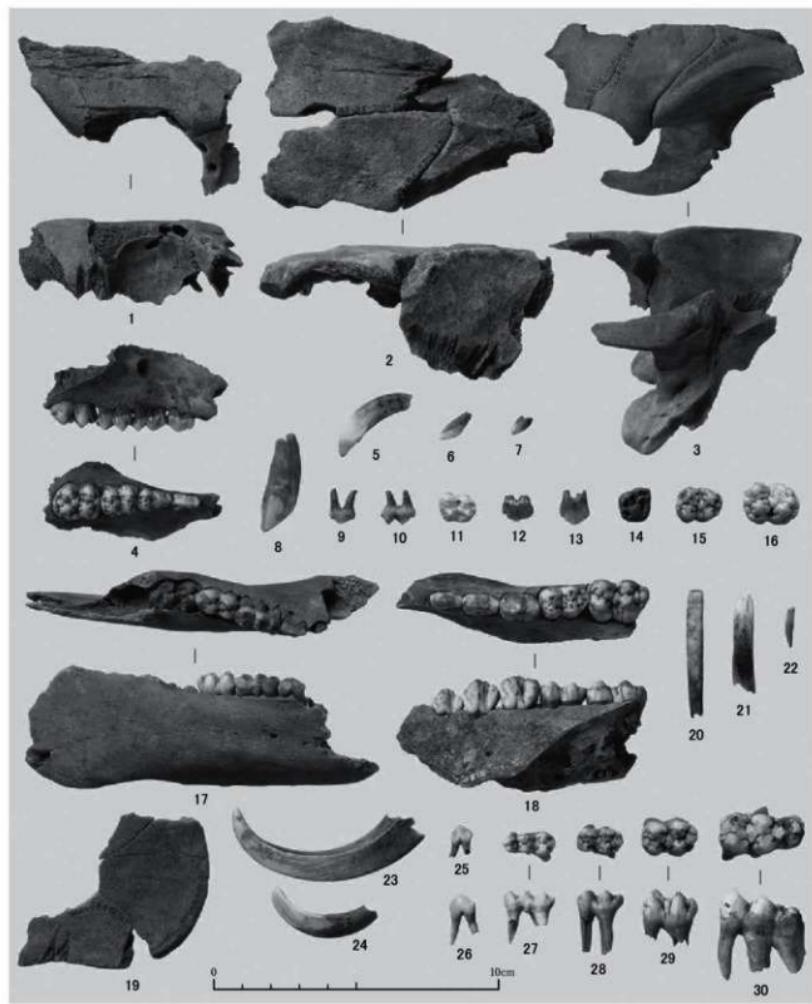
上 トカゲ 1. 左右不明 下頸骨 カエル 2. 椎骨 ニワトリ 3. 頸椎 4. 胸骨 5. 胸椎 6. 頸骨 キズあり? 7. 左 烏口骨 キズあり 8. 左 肩甲骨 キズあり 9. 右 上腕骨 10. 左 槍骨 キズあり 11. 右 尺骨 12. 左 中手骨 13. 右 大腿骨 キズあり 14. 左 腹骨 キズあり? 15. 左 中足骨 ? キズあり 16. 左右不明 趾骨 キズあり トリ 17. 右 脊骨 18. 右 上腕骨

下 ジャコウネズミ 19. 右 下頸骨 ネズミ 20. 左 下頸骨 21. 環椎 22. 頸椎 23. 胸椎 24. 左 肩甲骨 25. 左 上腕骨 26. 左 右不明 槍骨 27. 右 尺骨 28. 右 寛骨 29. 右 大腿骨 30. 左 脊骨 31. 左 距骨 32. 右 跖骨 33. 左右不明 中手・中足骨 34. 左右不明 基節骨 ネコ 35. 左 大腿骨 36. 左右不明 基節骨 37. 左右不明 中節骨 キズあり



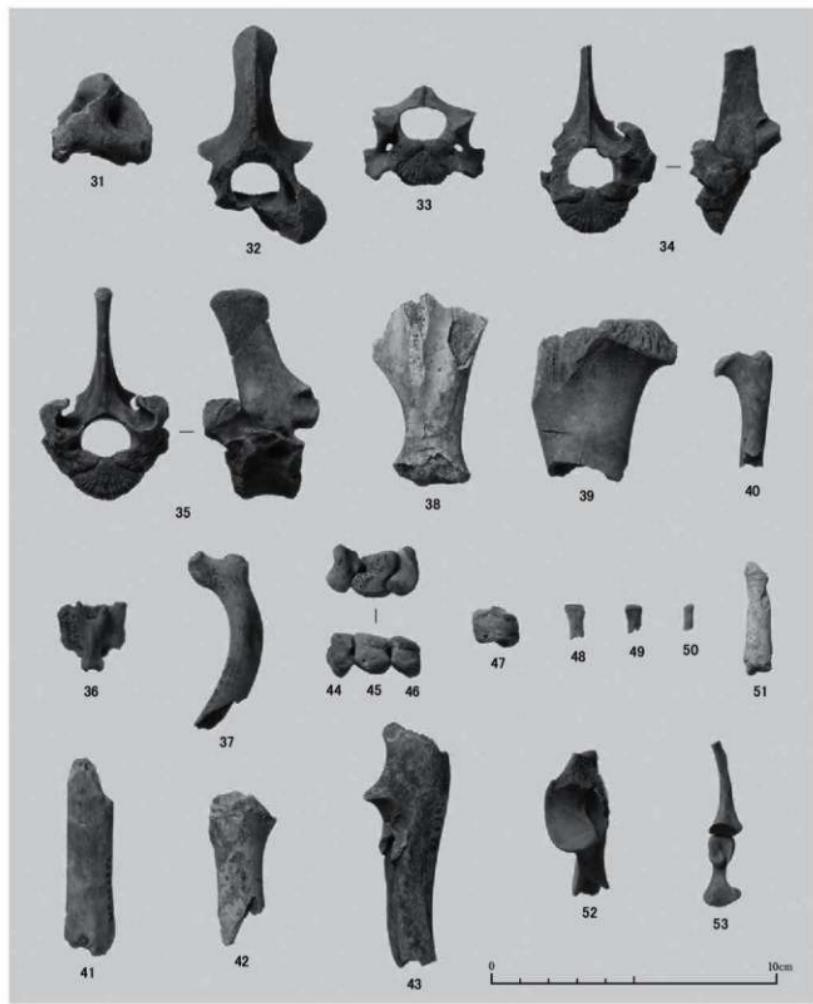
図版 81 脊椎動物遺体3

ウマ 1. 左 上顎骨 P^1 2. 左 上顎骨 P^1 3. 左 上顎骨 M^1 か M^2 4. 左 下顎骨 P_1 5. 軸椎 6. 左 上腕骨 キズあり 7. 左 桡骨 キズあり 8. 左右不明 中手骨 キズあり



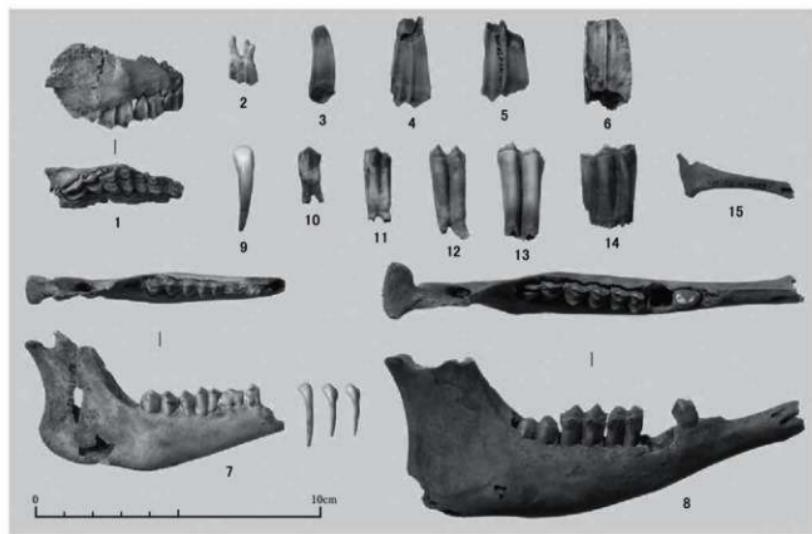
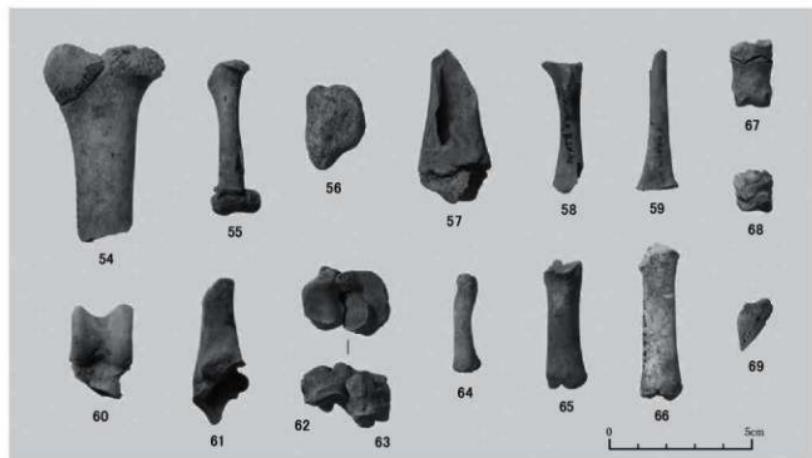
図版 82 脊椎動物遺体4

タ 1. 右頭頂骨+前頭骨キズあり 2. 左右頭頂骨→前頭骨キズあり 3. 左頭頂・前頭骨→側頭骨 4. 右上顎骨 dm^{2.3}M¹
 5. 左上顎骨 P¹ 6. 左上顎骨 P² 7. 左右不明上顎骨 P⁸ 8. 右上顎骨 C ♀ 9. 左上顎骨 dm³ 10. 左上顎骨 dm³ 11. 左
 上顎骨 dm¹ 12. 左上顎骨 P³ 13. 左上顎骨 P⁴ 14. 右上顎骨 P⁴ 15. 右上顎骨 M¹ 16. 左上顎骨 M¹ 17. 右下顎骨
 dm₃M_{1.2} 18. 左下顎骨 P_{3.4}M_{1.2} 19. 左下顎骨キズあり 20. 左下顎骨 I₁ 21. 右下顎骨 I₁ 22. 右下顎骨 I₂ 23. 左下顎骨
 C ♂ 24. 右下顎骨 C ♀ 25. 左下顎骨 dm₃ 26. 左下顎骨 dm₃ 27. 左下顎骨 dm₃ 28. 左下顎骨 M₁ 29. 左下顎骨 M₂
 30. 右下顎骨 M₂



図版 83 脊椎動物遺体5

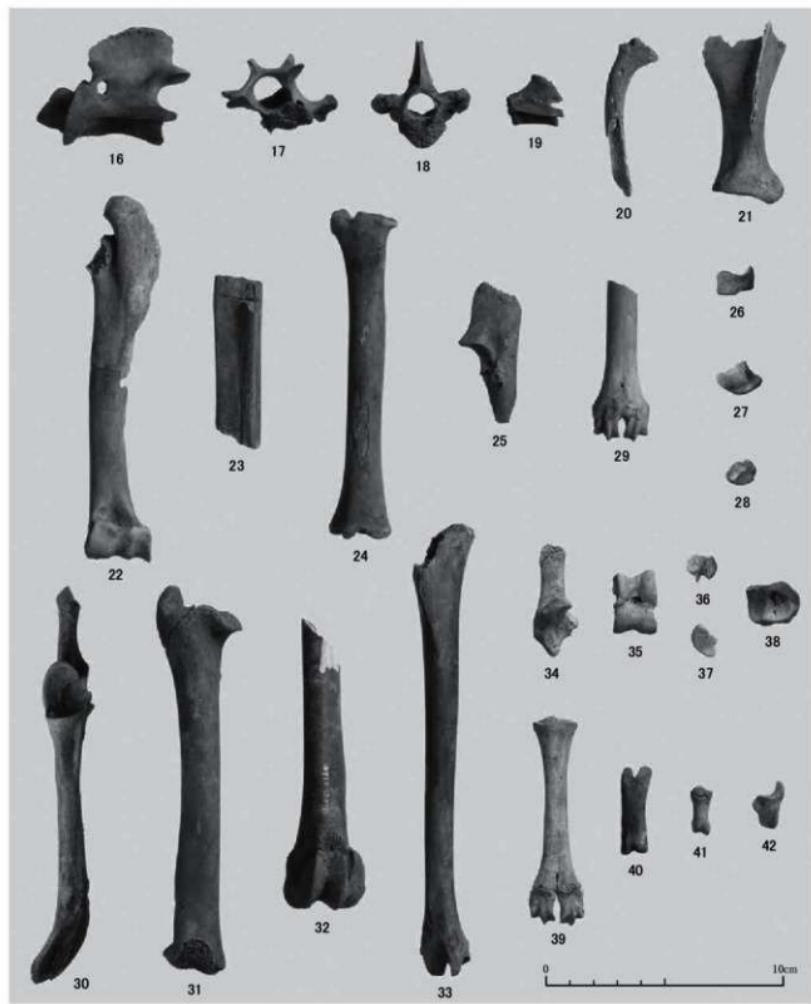
ブタ 31. 環椎 キズあり 32. 軸椎 キズあり 33. 頸椎 キズあり 34. 胸椎 キズあり 35. 腰椎 キズあり 鉄錆付着 36. 尾椎 37 左 肋骨 キズあり 38. 左 肩甲骨 キズあり 39. 左 上腕骨 キズあり 40. 右 上腕骨 幼 41. 右 槍尺骨 キズあり 42 左 槍骨 キズあり 43. 左 尺骨 44. 右 尺側手根骨 45 右 中間手根骨 46. 右 槍側手根骨 47. 左 第4手根骨 48. 右 第3中手骨 幼 49. 右 第4中手骨 幼 50. 右 第5中手骨 幼 51. 右 第5中手骨 キズあり 52. 右 寛骨 白部 キズあり 53. 右 寬骨 股骨部～坐骨 幼



図版 84 脊椎動物遺体6

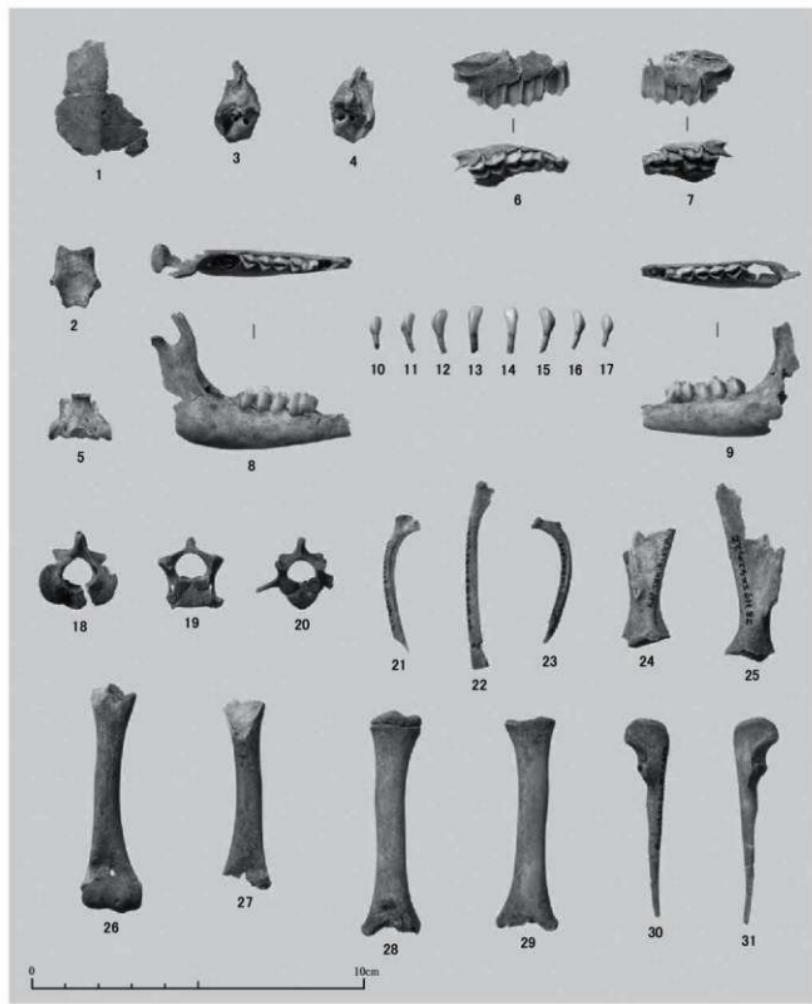
上 ブタ 54. 右 大腿骨 若キズあり 55. 右 大腿骨 56. 右 膝蓋 キズあり 57. 右 膝骨 キズあり 58. 右 膝骨 幼 59. 右 膝骨 キズあり 60. 左 距骨 キズあり 61. 左 雜骨 62. 左 中心足根骨 キズあり 63. 左 第4足根骨 64. 左 第2中足骨 65. 右 第3中足骨 66. 左 第4中足骨 キズあり 67. 左 基節骨 68. 左 中節骨 69. 左 末節骨

下 ヤギ 1.右 上顎骨 $P^M^{1,2}$ 2.左 上顎骨 dm^3 3.右 上顎骨 P^1 4.左 上顎骨 M^1 5.左 上顎骨 MF 6.右 上顎骨 M^2 7.右 下顎骨 $I^{1,2}dm^{3,4}M^1$ 8.右 下顎骨 $PmM^{1,2}$ 9.右 下顎骨 I 10.左 下顎骨 P_3 11.左 下顎骨 P_4 12.左 下顎骨 M_1 13.左 下顎骨 M_2 14.右 下顎骨 M_3 15.舌骨



図版 85 脊椎動物遺体7

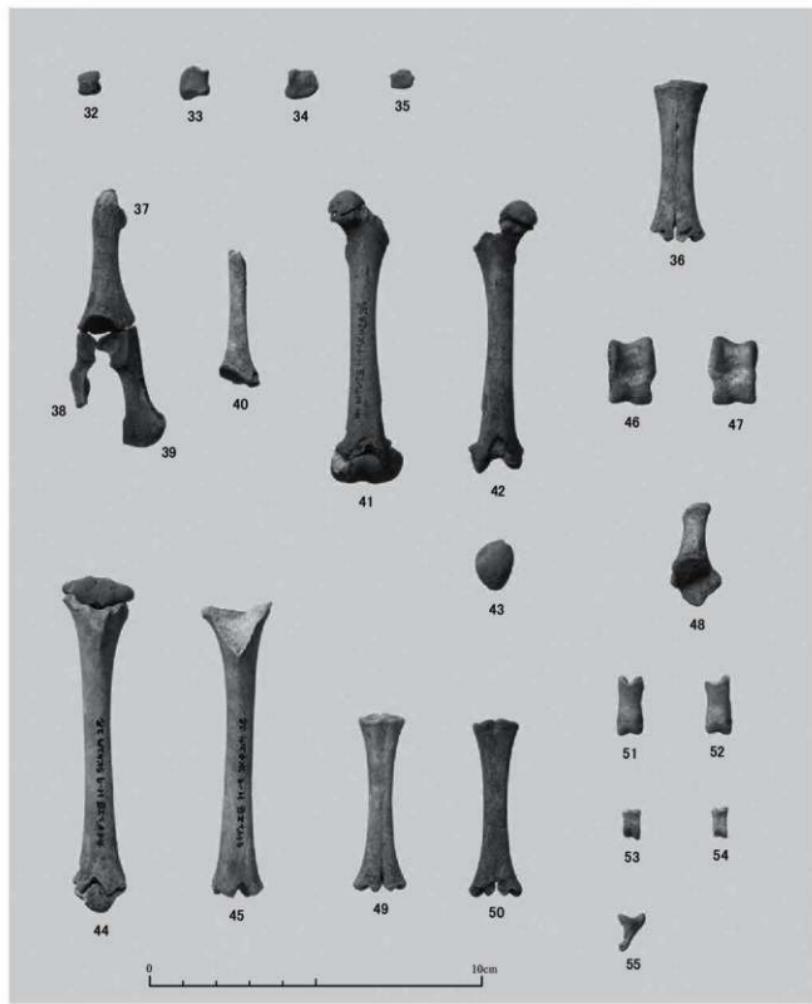
ヤギ
 16.軸椎 17.頸椎3 18.胸椎 19.仙骨 20.右肋骨 キズあり 21.右肩甲骨 22.左上腕骨 キズあり 23.右桡尺骨 キズあり 24.右橈骨 25.左尺骨 26.左橈側手根骨 27.左第2+第3手根骨 28.左第4手根骨 29.右中手骨 30.左寛骨
 股骨部～恥骨 31.右大腿骨 32.左大腿骨 33.右脛骨 34.左踵骨筋 35.左距骨 36.左果骨 37.左第2第3足根骨
 38.左第4中心足根骨 39.左中足骨 40.左基節骨 41.右中節骨 42.右末節骨



図版 86 脊椎動物遺体8

ヤギ (幼一個体)

1.頭蓋骨 2.後頭骨 底部 3.左頭蓋骨 鈎突部 4.右頭蓋骨 鈎突部 5.頭蓋骨蝶形骨体 6.右上頸骨dm^{2,3,4} 7.左上頸骨dm^{3,4} 8.右下頸骨dm_{3,4}M_{1,2} 9.左下頸骨dm_{4,5} 10~13.左下頸骨l_{1,2,3,4} 14~17.右下頸骨l_{1,2,3,4} 18.軸椎 19.頸椎 20.腰椎 21.右肋骨 22.右肋骨 23.左肋骨 24.左肩甲骨 25.右肩甲骨 26.左上腕骨 27.右上腕骨 28.左桡骨 29.右桡骨 30.左尺骨 31.右尺骨



図版 87 脊椎動物遺体9

ヤギ (幼一個体)

32. 左 中間手根骨 33. 左 第2+3手根骨 34. 右 第2+3手根骨 35. 右 第4手根骨 36. 左 中手骨
 37. 左 寬骨 髋骨部 38. 左 寬骨 坐骨 39. 左 寬骨 骨盆部 40. 右 寬骨 髋骨部 41. 左 大腿骨 42. 右 大腿骨 43. 左右不明 髌蓋骨 44. 左 腰骨
 45. 右 腰骨 46. 左 距骨 47. 右 距骨 48. 左 瞿骨 49. 左 中足骨 50. 右 中足骨 51. 左 基節骨 52. 右 基節骨 53. 左
 中節骨 54. 右 中節骨 55. 左 末節骨



図版 88 脊椎動物遺体 10

ウシ 1. 左 上顎骨 M² 2. 環椎 3. 椎骨 キズあり 4. 左 第一肋骨 キズあり 5. 右 肩甲骨 キズあり 6. 右 尺骨 7. 右 副手根骨
8. 左 脊骨 キズあり 9. 右 第4中心足根骨 キズあり 10. 右 中足骨 キズあり 11. 左 中節骨 焼け 12. 右 末節骨

第5章 自然科学分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

宜野湾市に所在する米海軍病院建設予定地内の発掘調査では、水場遺構とされる凹地が検出され、また、作成されたマージの土層断面の上部からは、複数層位に及ぶ可能性があるとされる耕作土層が検出されている。さらに調査区内では、用途・性格不明のピットや窯跡、炉跡、石組遺構など様々な遺構が検出されている。

本報告では、これらの遺構を対象として自然科学分析を行うことにより、遺構の機能・用途に係わる情報を得るとともに当時の周辺環境についても検討する。また、今回の発掘調査により出土した貝塚時代およびグスク時代とされる各時期の土器片について、その材質の特性(胎土)を明らかにするこにより、各時期における土器の生産と使用に係わる資料を作成する。

I. 遺構および堆積物の分析

1. 試料

(1) 水場遺構(II地区SX3)

水場遺構とされる凹地を埋積する4層からなる堆積層が確認された。試料は、上位より各層につき1点ずつのNo. 1～No. 4までの4点を採取した。No. 1採取層は、青灰～緑灰色を呈する極細粒砂を含む砂質シルトであり、不明瞭なラミナが確認された。中疊～大疊径の石灰岩礫を包含する。No. 2およびNo. 3採取層は、いずれもシルトであり、植物遺体を多量に含む。No. 3採取層の方が植物遺体の含有量が多い。No. 4採取層は、極細粒砂を含む砂質シルトであり、シルトの薄層が複数挟在する。

なお、No. 3およびNo. 4より抽出した広葉樹(ヤブニッケイ)の葉の破片を放射性炭素年代測定の試料とする。

(2) 埋没谷内黒色層(D-10区南壁)

壁面に認められた土層は、大きく6層位に分けられた。最も上位の層位は、空隙が多く團粒状を呈する腐植質土壤であり、その下位は粘土質の腐植質土壤である。その下位は、極細砂混じりの粘土質シルトであり、上部は炭化物などの混入物が比較的多く含まれ、下部は上部より粘土質である。その下位の層位は、上位と同様の極細砂混じりの粘土質シルトであるが、炭化物などの混入物が少量しか含まれない。さらに下位の層位は、古い耕作層あるいは腐植質土壤からマージへの漸移層と考えられる層位であり、下部はマージとなる。試料は、上位より、粘土質の腐植質土壤、極細砂混じり粘土質シルトの下部、混入物の少ない極細砂混じり粘土質シルト、漸移層、マージ上部、マージ下部の各層位につき1点ずつ、No. 1～No. 6までの合計6点を採取した。

(3) 各種遺構

対象とした遺構は、西側地区で検出されたピット、東側地区で検出された窯跡、I地区E-8で検出された炉跡および石組遺構の4基である。ピットからは「スミ・Pit」、窯跡からは「SY1ベルト部分」および「壁面」、炉跡からは「SL2・No. 1・No. 2」、石組遺構からは「SK50・No. 220・11層下部? (以下SK50・No. 220と略す)」の各試料を採取した。いずれも腐植質の土壤である。

なお、ピットのスミ・Pit、窯跡のSY1ベルト部分、石組遺構のSK50・No. 220の各試料からは、炭化材を抽出し、これらを放射性炭素年代測定の試料とした。さらに、調査区内の「コンクリート箇所」とされた地点から採取された「西側スミ1」という名称の土壤試料より抽出した炭化材についても、放射性炭素年代測定を行った。

また、窯跡では被熱によると考えられる赤化した土壤いわゆる焼土が確認されている。この焼土範囲からは、ブロック状の試料1点と、約7cmのポリカーボネイト製の立方体容器を用いた定方位の計20個の土壤試料を採取した。土壤試料は鮮明に赤化しており、考古地磁気年代決定に供する被熱土壤として申し分のない状況であると判断された。

(4) 分析試料の選択

次項各分析に選択した試料は、一覧にして第29表に示す。各分析項目における分析点数などは第29表を参照されたい。

第29表 遺構および堆積物試料一覧と分析項目

遺構名・地名	試料名	放射性炭素年代測定(AMS)	珪藻分離	花粉分析・寄生虫卵分析	植物珪酸体分析	微細物分析		土壤理化分析(螢光X線分光・密度分析含む)	土壤薄片観察	脂肪酸分析	焼土薄片観察	熱残留磁気分析
						洗い出し・分離	同定・統計・解釈					
水場遺構 (II地区SNS3)	No.1	1	1	1				1	1			
	No.2	1	1	1				1	1	1		
	No.3	1	1	1				1	1	1		
	No.4	1	1	1				1	1	1		
埋没谷内黑色層 (D-1050南側)	No.1	1	1	1				1	1			
	No.2	1	1	1				1	1			
	No.3	1	1	1				1	1			
	No.4							1	1			
	No.5	1	1	1				1	1			
	No.6	1	1	1				1	1			
ビット(西側地区)	スム4#H	1	1	1	1			1	1	1		
窓跡(東側地区)	SV1-ベルト部分	1	1	1	1	1	1	1	1			
炉跡(Ⅰ期)CE-8)	SL2-Na.1										1	20
石組遺構	SK50・No220-11層下部	1	1	1	1	1	1	1	1			
コンクリート遺構	西側#E1	1										
分析点数合計		5	12	12	12	2	2	13	13	5	2	20

2. 分析方法

(1) 分析方法の選択

本報告では、各遺構の年代資料獲得を目的として放射性炭素年代測定を行い、水域環境については珪藻化石の産状を分析する。また、周辺植生の情報として花粉分析および植物珪酸体分析を行い、植生とともに植物利用の検討も目的とした微細物分析を行う。なお、花粉分析では、同時に寄生虫卵の確認も行い、トイレ遺構の検討も行う。

遺構覆土については、有機炭素量や窒素、リン酸含量などの土壤理化学性を捉え、これに加えて粒度分析、元素分析および包含される砂粒の鉱物組成・岩石組成や粒径組成も分析することにより、その特性を明らかにする。これらの特性から、遺構埋積時の状態や埋没した耕作土などの検討を行う。さらに、水場遺構の覆土とビットの覆土を対象として、脂肪酸分析を行い、動植物の埋積状況を確認する。

遺構の中でも窯跡では、焼土とされる赤色化した土壤の範囲が確認されたことから、熱残留磁気分析を実施することにより、古地磁気年代と被熱の検証を行い、また、薄片観察による鉱物の高温変化の観察からも被熱温度の推定を行う。

以下に各分析项目的説明を述べる。

(2) 放射性炭素年代測定

土壤や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClにより炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う(酸・アルカリ・酸処理;AAA処理)。なお、AAA処理において、アルカリ濃度が1N未満の場合は、結果表にAaAと記載している。

試料をバイコール管に入れ、1 gの酸化銅(II)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空中にして封じきり、500°C(30分)850°C(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650°Cで10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1 mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-II)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に¹³C/¹²Cの測定も行うため、この値を用いてδ¹³Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma; 68%)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.00(Copyright 1986–2010 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い(¹⁴Cの半減期5730±40年)を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。

暦年較正は、測定誤差σ、2 σ双方の値を計算する。σは統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、2 σは真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、σ、2 σの範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

(3) 珪藻分析

試料を湿重で7 g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法(4時間放置)の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する(化石の少ない試料はこの限りではない)。種の同定は、原口ほか(1998)、Krammer(1992)、Krammer & Lange-Bertalot(1986, 1988, 1991a, 1991b)、渡辺ほか(2005)、小林ほか(2006)などを参照し、分類基準は、Round, Crawford & Mann(1990)に従う。なお、壊れた珪藻殻の計数基準は、柳沢(2000)に従う。

同定結果は、中心類(Centric diatoms; 広義のコアミケイソウ綱Coscinodiscophyceae)と羽状類(Pennate diatoms)に分け、羽状類は無縦溝羽状珪藻類(Araphid pennate diatoms; 広義のオビケイソウ綱Fragilariophyceae)と有縦溝羽状珪藻類(Raphid pennate diatoms; 広義のクサリケイソウ綱Bacillariophyceae)に分ける。また、有縦溝類は、単縦溝類、双縦溝類、管縦溝類、翼管縦溝類、短縦溝類に細分する。

各種類の生態性については、Vos & de Wolf(1993)を参考とするほか、塩分濃度に対する区分はLowe(1974)に従い、真塩性種(海水生種)、中塩性種(汽水生種)、貧塩性種(淡水生種)に類別する。また、貧塩性種についてはさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度(pH)・流水に対する適応能についても示す。そして、産出個体数100個体以上の試料については、産出率2.0%以上の種類について主要珪藻化石群集の層位分布図を作成するほか、淡水生種の生態性についても100個体以上の試料について図示する。また、産出化石が現地性か異地性かを判断する目安として、完形殻の出現率を求める。堆積環境の解析にあたり、淡水生種(貧塩性種)については安藤(1990)、陸生珪藻については伊

藤・堀内(1991)、汚濁耐性については渡辺ほか(2005)の環境指標種を参考とする。

(4)花粉・寄生虫卵分析

試料10ccを正確に秤り取る。これについて水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛、比重2.3)による有機物の分離の順に物理・化学的処理を施し、寄生虫卵および花粉・胞子を分離・濃集する。処理後の残渣を定容してから一部をとり、グリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査して出現する全ての花粉・胞子と寄生虫卵について同定・計数する。

結果は、花粉・胞子については同定および計数結果の一覧表として、寄生虫卵については1ccあたりに含まれる寄生虫卵の個数として併せて表示する。寄生虫卵の個数については有効数字を考慮し、10の位を四捨五入して100単位に丸め、100個体未満については「<100」で表示する。また、花粉化石群集の密度の層位分布図としても表示する。なお、図中の花粉・胞子化石は木本花粉が木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子が総数より不明花粉を除いた数をそれぞれ基数とした百分率で算出した相対頻度で、寄生虫卵は1cc当たりに含まれる個数で示す。なお、図表中で複数の種類をハイフンで結んだものは種類間の区別が困難なものを示す。

(5)植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)を、近藤(2004)の分類に基づいて同定・計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作製に用いた分析残渣量、検鏡に用いたプレパラートの数や検鏡した面積を正確に計量し、堆積物1gあたりの植物珪酸体含量(同定した数を堆積物1gあたりの個数に換算)を求める。

結果は、検出された分類群とその個数の一覧表で示す。その際、100個/g未満は「<100」で表示する。各分類群の含量は10の位で丸め(100単位にする)、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている。また、各分類群の植物珪酸体含量を図示する。

(6)微細物洗い出し分析

試料を水に浸し、粒径0.5mmの篩を通して水洗する。篩内の試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて同定可能な種実や炭化材(主に径4mm以上)、動物遺存体、土器などの遺物を抽出する。

抽出された種実遺体を双眼実体顕微鏡下で観察する。現生標本および石川(1994)、中山ほか(2000)等の図鑑との対照から、種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。その他の抽出物と分析残渣は、70°C48時間乾燥後の重量を表示し、炭化材と土器は最大径(mm)を併せて表示する。分析後は、種実遺体を容器に入れ、70%程度のエタノール溶液で液浸保管する。

(7)土壤理化学分析(蛍光X線分析による全分析および粒度分析含む)

有機炭素はチューリン法、全窒素は硫酸分解一水蒸気蒸留法、全リン酸は硝酸・過塩素酸分解一バナドモリブデン酸比色法、可給態リン酸はトルオーグ法、可給態窒素はリン酸緩衝液抽出一水蒸気蒸留法、粒径組成はビベット法でそれぞれ行った(土壤標準分析・測定法委員会, 1986、土壤環境分析法編集委員会, 1997)。また、全分析および全鉄量は蛍光X線分析法、酸性シウ酸塩可溶鉄およびジオナイトクエン酸可溶鉄はAcid-oxalate法、Holmgren法(L. P. van Reeuwijk, 1986)に従い定量し、永塚(1973)の方法により鉄の活性度・結晶化指数を算出した。以下に各項目の操作工程を示す。

1) 分析試料の調製

試料を風乾後、土塊を軽く崩して2mmの篩で筛い分ける。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を振動ミル(平工製作所製T1100; 10ml容タングステンカーバイト容器)で微粉碎し、微粉碎試料を作成する。風乾細土試料については、105°Cで4時間乾燥し、分析試料水分を求める。

2) 有機炭素

微粉碎試料0.100~0.500gを100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200°Cの砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第一鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量(Org-C乾土%)を求める。これに1.724を乗じて腐植含量(%)を算出する。

3) 全窒素

微粉碎試料1.00gをケルダール分解フラスコに秤り、分解剤約3.0gと硫酸10mlを加え加熱分解した。分解後、蒸留水約30mlを加え放冷した後、分解液全量を供試し水蒸気蒸留法によって窒素を定量する。この定量値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの全窒素量(T-N%)を求める。また、有機炭素量を全窒素量で除し、C/N(炭素率)を算出する。

4) 全リン酸

微粉碎試料1.00gをケルダールフラスコに秤りとり、はじめに硝酸(HNO₃)10mlを加えて加熱分解した。放冷後、過塩素酸(HClO₄)20mlを加えて再び加熱分解を行った。分解終了後、蒸留水で100mlに定容し、ろ過した。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液(バナドモリブデン酸・硝酸液)を加えて分光光度計によりリン酸(P₂O₅)濃度を測定する。この測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量(P₂O₅mg/g)を求める。

5) 可給態リン酸

風乾細土試料1.00gを300ml三角フラスコに秤りとり、0.002N硫酸溶液(pH3)200mlを加え、室温で1時間振とうし、ろ過する。ろ液一定量を試験管に採り、混合発色試薬を加えて分光光度計によりリン酸濃度を定量する。この定量値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの可給態リン酸量(P₂O₅mg/乾土100g)を求める。

6) 可給態窒素

風乾細土試料10.00gを100ml三角フラスコにはかり、pH7.0リン酸緩衝液50mlを加え、室温で1時間振とうし、ろ過する。ろ液をケルダール分解し、水蒸気蒸留法によって窒素を測定する。この測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの可給態窒素量(Nmg/乾土100g)を求める。

7) 全分析・全鉄量(蛍光X線分析法)

蛍光X線分析装置を利用し、ガラスピード法により、主成分10元素(SiO₂, TiO₂, Al₂O₃, Fe₂O₃, MnO, MgO, CaO, Na₂O, K₂O, P₂O₅)による化学組成を求める。以下に利用した装置、試料処理法、測定条件を記す。

a) 装置

理学電機工業社製RIX1000(FP法のグループ定量プログラム)

b) 試料調製

105°Cで24時間乾燥させた微粉碎試料を磁製坩堝に精秤し、電気炉を用いて1000°Cで2時間灼熱し、灼熱減量(Ig, loss)を算出する。

上記、灼熱後の試料を利用し、以下の条件でガラスピードを作成する。

溶融装置: 自動剥離機構付理学電機工業社製高周波ピートサンプラー(3491A1)

溶剤及び希釈率: 溶剤(四ホウ酸リチウム)5.000g; 試料0.500g

剥離剤: LiI(溶融中2回投入)

溶融温度: 1200°C, 約7分

c) 測定条件

X線管:Cr(50kV-50mA)

スペクトル;全元素K α

分光結晶;LiF, PET, TAP, Ge

検出器;F-PC, SC

計数時間;Peak40sec, Back20sec

8) 酸性シウ酸塩可溶鉄(Acid-oxalate法)

微粉碎試料300mgに0.2M酸性シウ酸塩溶液(pH3)を30ml加え、暗所で4時間振とうする。振とう後、0.4%高分子凝集剤を2滴加えて軽く振とうした後、3000rpmで15分間遠心分離する。上澄み液の一定量を蒸留水で希釈し、干渉抑制剤を加えた後、原子吸光光度計により鉄(Fe)の濃度を測定する。測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの鉄の含有量(%)を求める。

9) ジチオナイトクエン酸可溶鉄(Holmgren法)

微粉碎試料500mgにDCB抽出液30mlを添加して16時間振とうする。振とう後、0.4%高分子凝集剤を2滴加えて軽く振とうした後、遠心分離する。上澄み液の一定量を蒸留水で希釈し、干渉抑制剤を加えた後、原子吸光光度計により鉄(Fe)の濃度を測定する。測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの鉄の含有量(%)を求める。

10) 粒度分析(ビベット法)

風乾細土試料10.00gに30%過酸化水素水を加え、熱板上で有機物を分解する。分解終了後、遠心洗浄を行い、脱塩した後、蒸留水約400mlと分散剤(4%ヘキサメタリン酸ナトリウム)10mlを加え、攪拌しながら20分間音波処理を行う。この懸濁液を500ml沈底瓶に移し、蒸留水で500mlに定容する。

沈底瓶を1分間激しく振り、直ちに静置して所定の時間に5cmの深さから懸濁液10mlを採取する。採取懸濁液は蒸発乾固させ、秤量する(シルト・粘土の合量)。さらに、所定の時間が経過した後、沈底瓶から懸濁液を5cmの深さから10ml採取し、蒸発乾固させ、秤量する(粘土含量)。沈底瓶に残ったシルト・粘土はサイフォンを使ってすべて洗い流し、その残査を乾燥・秤量する(砂含量)。これを0.2mm ϕ の篩で篩い分け、篩上の残留物を秤量する(粗砂含量)。これら測定値をもとに粗砂(2.0-0.2mm)・細砂(0.2-0.02mm)・シルト(0.02-0.002mm)・粘土(0.002mm以下)4成分の合計を100とする各成分の重量%を求め、国際法によって土性区分を行う。

(8) 土壌薄片観察

土壤試料を樹脂により固化した後に、ダイヤモンドカッターにより試料を22×30×15mm大の直方体に切断して薄片用のチップとした。そのチップをスライドガラスに貼り付け、#180~#800の研磨剤を用いて研磨機上で厚さ0.1mm以下まで研磨した。さらに、メノウ板上で#2500の研磨剤を用いて正確に0.03mmの厚さに調整した。スライドガラス上で薄くなつた薄片の上にカバーガラスを貼り付け完成とした。

データの呈示は、松田ほか(1999)が示した仕様に従う。砂粒の計数は、メカニカルステージを用いて0.5mm間隔で移動させ、細礫へ中粒シルトまでの粒子をポイント法により200個あるいはプレパラート全面で行った。また、同時に孔隙と基質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物・岩石別出現頻度の3次元棒グラフ、砂粒の粒径組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを呈示する。

(9) 脂肪酸分析

分析は、坂井ほか(1996)に基づき、脂肪酸およびステロール成分の含量測定を行う。試料が浸るに十分なクロロホルム:メタノール(2:1)を入れ、超音波をかけながら脂質を抽出する。ロータリーエバボレーターにより、溶媒を除去し、抽出物を塩酸-メタノールでメチル化を行う。ヘキサンにより脂質を再抽出し、セップバックシリカを使用して脂肪酸メチルエステル、ステロールを分離する。脂肪酸のメチル

エスチルの分離は、キャビラリーカラム(ULBON, HR-SS-10, 内径0.25mm, 長さ30m)を装着したガスクロマトグラフィー(GC-14A, SHIMADZU)を使用した。注入温度は250°C、検出器は水素炎イオン検出器を使用する。ステロールの分析は、キャビラリーカラム (J&W SCIENTIFIC, DB-1, 内径0.36mm, 長さ30m)を装着する。注入温度は320°C、カラム温度は270°C恒温で分析を行う。キャリアガスは窒素を、検出器は水素炎イオン化検出器を使用する。

(10) 燃土薄片観察

前述した土壤薄片作製と同様の過程で燃土の薄片を作製し、偏光顕微鏡下において焼成の状況について観察記載を行った。鏡下における量比は、薄片上の観察面全体に対して、多量(>50%)、中量(20~50%)、少量(5~20%)、微量(<5%)およびきわめて微量(<1%)という基準で目視により判定した。代表的な個所については下方ポーラーおよび直交ポーラー下において写真撮影を行い、写真図版として添付した。

(11) 热残留磁気分析

土壤中に含まれる磁性鉱物(酸化鉄や水酸化鉄)は堆積時の地球磁場情報(強度と方向)を記録する。この磁化(磁場の化石)を堆積残留磁化と呼ぶが、磁気的には不安定な場合が多く、磁場記録としての信頼性は低い。堆積後に、土壤が何らかの過程(例えば、古代人の焚き火など)で熱を受けると、土壤中の磁性鉱物は化学的に変化したり(主に水酸化物から酸化物に)、加えて熱的な残留磁化を獲得する。そういうた過程を経て、土壤は堆積時よりもかなり大きい強度でより安定な残留磁化(热残留磁化)を示すようになる。その残留磁化的方向は、堆積時よりもさらに正確に、受熱時の地球磁場方向と平行になることが知られている。

土壤が被熱を経て地球磁場の正確な記録を持つようになることをを利用して、過去の地球磁場方向や強度の変化を復元する研究(考古地磁気学)が行われてきた。その成果として、過去2,000年間の地球磁場方向変化のはば連続した考古地磁気標準曲線が作成されている(Hirooka, 1971; 1983; Shibuya, 1980; Maenaka, 1990)。これらの曲線と年代のわからない燃土の残留磁化方向を比較することによって、燃土の年代を決定できる。この方法を考古地磁気年代決定法と呼ぶ。この方法を利用するときの注意点は、標準曲線の年代軸が考古学側から与えられたもの(土器編年など)であるということである。よって、土器編年などの修正が行われることがあれば、考古地磁気年代も修正されなければならない。

また、上記の考古地磁気標準曲線は近畿地方の考古遺物の残留磁化測定に基づいて作成されている。つまり、近畿地方の古地磁気永年変化を復元したものである。現在、近畿地方と沖縄県の間に、偏角について2.4°の違い(近畿では-7.0°、沖縄県では-4.6°)があり、伏角については9.4°の違い(近畿では48.5°、沖縄県では39.1°)がある。過去においてこれと同等の地磁気方向の地域差があったと仮定するのは理にかなっているので、この差の補正を行って年代決定をする必要がある。この報告では、現在の地磁気方向の地域差が過去にも同じとして、年代を決定する。

また、土壤内の磁性鉱物組成から土壤が被熱した温度の推定が可能である。ここでは、土壤内の磁性鉱物を決定し、被熱温度の考察も行う。

残留磁化測定にはスピナーマグネット計を、磁化の安定性の検討と二次的な磁化の除去には交流磁場消磁法を用いた。まず、4個のバイロット試料(1、6、11、16)を用いて最大30mTまでの段階交流磁場消磁を実施し、残留磁化の安定性を検討し、また二次磁化(粘性残留磁化)が除去される交流磁場レベルを調べた。また、MS2帶磁率計を用いて採取試料の帶磁率を測定した。さらに、土壤内の磁性鉱物種の決定のために、2個のバイロット試料(1、11)に、最大約2800mTの直流磁場で等温残留磁化(Isothermal Remanent Magnetization: IRM)を着磁し、その強度を測定した。

3.結果

(1) 放射性炭素年代測定

放射性炭素年代測定結果を第30表、曆年較正結果を第31表に示す。同位体効果の補正を行った測定結果は、水場遺構の葉が 150 ± 20 BP、ピットの炭化材が $1,070 \pm 20$ BP、窓跡の炭化材が 170 ± 20 BP、石組遺構の炭化材が 140 ± 20 BP、コンクリート箇所の炭化材が $1,260 \pm 20$ BPである。

また、測定誤差を σ として計算させた曆年較正年代は、水場遺構の葉がcalAD1,675-1,952、ピットの炭化材がcalAD902-1,013、窓跡の炭化材がcalAD1,669-1,944、石組遺構の炭化材がcalAD1,681-1,952、コンクリート箇所の炭化材がcalAD692-772である。

第30表 放射性炭素年代測定結果

遺構	試料名	種別	樹種	測定年代 BP*	$\delta^{13}C$ (‰)	測定年代 BP	Code No.
水場遺構 (Ⅱ地区SX3)	No.3,4	葉	ヤブニッケイ	150 ± 20	-32.92 ± 0.43	280 ± 20	IAAA-93170
ピット(西側地区)	スミ・Pit	炭化材	広葉樹	$1,070 \pm 20$	-30.56 ± 0.43	$1,160 \pm 20$	IAAA-93171
窓跡(東側地区)	SY1ベルト部分	炭化材	マツ属複葉管束亜属	170 ± 20	-26.46 ± 0.43	190 ± 20	IAAA-93172
石組遺構 (Ⅰ地区-E-6)	SK50-No220	炭化材	マキ属	140 ± 20	-29.45 ± 0.39	210 ± 20	IAAA-93173
コンクリート箇所	西側S1	炭化材	広葉樹	$1,260 \pm 20$	-30.61 ± 0.45	$1,360 \pm 20$	IAAA-93174

1)年代値の算出には、Libbyの半減期5730年を使用した。

2)BP年代値は、1950年を基準として何年前であるかを示す。

3)材料記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の6%が入る範囲)を年代値に換算した値。

第31表 曆年較正結果

遺構	試料名	曆年較正用 BP	曆年較正年代(cal)				相対比	Code No.
			cal AD	cal BP	cal AD	cal BP		
水場遺構 (Ⅱ地区SX3)	No.3,4	152 ± 22	cal AD 1,675	cal BP 275	—	258	0.159	IAAA-93170
			cal AD 1,728	cal BP 222	—	173	0.495	
			cal AD 1,799	cal BP 181	cal AD 1,491	cal BP 151	0.118	
			cal AD 1,920	cal BP 30	—	459	0.226	
			cal AD 1,951	cal BP 1	—	—	2.007	
		$1,073 \pm 24$	cal AD 1,667	cal BP 283	—	251	0.165	IAAA-93171
			cal AD 1,721	cal BP 229	—	168	0.389	
			cal AD 1,797	cal BP 153	—	132	0.111	
			cal AD 1,833	cal BP 117	—	70	0.133	
			cal AD 1,915	cal BP 35	—	3	0.201	
ピット(西側地区)	スミ・Pit	$1,073 \pm 24$	cal AD 1,699	cal BP 1,038	cal AD 1,635	cal BP 1,024	IAAA-93171	
			cal AD 968	cal BP 900	cal AD 903	cal BP 795		
			cal AD 896	cal BP 923	cal AD 1,054	cal BP 1,027		
			cal AD 940	cal BP 1,018	cal AD 1,010	cal BP 935		
			cal AD 1,669	cal BP 281	—	267	0.164	
		168 ± 23	cal AD 1,735	cal BP 215	—	170	0.582	IAAA-93172
			cal AD 1,799	cal BP 152	—	145	0.087	
			cal AD 1,930	cal BP 20	—	6	0.167	
			cal AD 1,664	cal BP 299	—	255	0.182	
			cal AD 1,726	cal BP 224	—	137	0.582	
窓跡(東側地区)	SY1ベルト部分	168 ± 23	cal AD 1,838	cal BP 112	—	108	0.007	IAAA-93172
			cal AD 1,852	cal BP 98	—	83	0.019	
			cal AD 1,874	cal BP 76	—	75	0.002	
			cal AD 1,918	cal BP 32	—	2	0.209	
			cal AD 1,681	cal BP 269	—	253	0.153	
		137 ± 22	cal AD 1,725	cal BP 225	—	211	0.126	IAAA-93173
			cal AD 1,752	cal BP 198	—	188	0.070	
			cal AD 1,804	cal BP 148	—	135	0.110	
			cal AD 1,835	cal BP 115	—	72	0.037	
			cal AD 1,916	cal BP 29	—	13	0.197	
石組遺構 (Ⅰ地区-E-6)	SK50-No220	137 ± 22	cal AD 1,951	cal BP 1	—	—	2.007	IAAA-93173
			cal AD 1,674	cal BP 276	—	241	0.164	
			cal AD 1,717	cal BP 233	—	172	0.255	
			cal AD 1,799	cal BP 151	—	60	0.411	
			cal AD 1,909	cal BP 41	—	8	0.169	
		$1,262 \pm 24$	cal AD 1,950	cal BP 0	—	3	0.005	IAAA-93174
			cal AD 692	cal BP 749	cal AD 1,258	cal BP 1,201	0.865	
			cal AD 763	cal BP 772	cal AD 1,187	cal BP 1,178	0.135	
			cal AD 670	cal BP 782	cal AD 1,280	cal BP 1,168	0.961	
			cal AD 789	cal BP 810	cal AD 1,161	cal BP 1,140	0.037	
コンクリート箇所	西側S1	$1,262 \pm 24$	cal AD 849	cal BP 851	cal AD 1,101	cal BP 1,099	0.002	IAAA-93174

①曆年の計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer)を使用した。

②曆年の計算には、前年較正年代として示した。一切目を丸める前の前年を使用している。

③年代値は、1桁目を丸めるのが慣例だが、曆年較正後や曆年較正前が示された場合の再計算や比較が行いやすいように、曆年較正年代値は1桁目を丸めて示す。

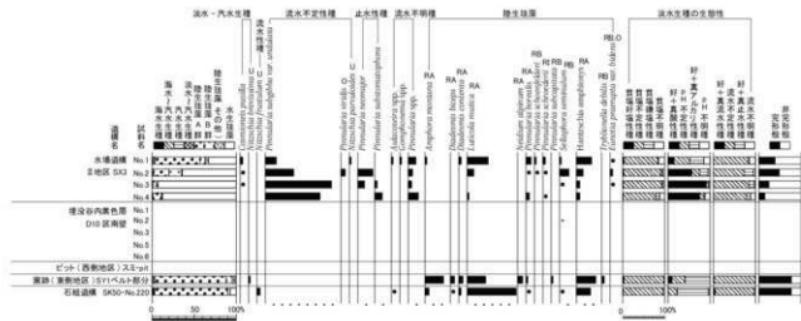
④統計的に真的値が入る確率は σ (26%, 2σ (50%)である。

⑤相対比は、 σ 、 2σ のそれぞれをとした場合、確率的に真的値が存在する比率を相対的に示したものである。

測定に用いた葉と炭化材については、年代値を評価する資料とするため、葉同定、樹種同定を実施した。同定結果は、第30表に併せて示した。水場遺構の葉は常緑広葉樹のヤブニッケイ、ピットとコンクリート箇所の炭化材は、いずれも広葉樹の炭化材であるが、種類は不明である。窓跡の炭化材は針葉樹のマツ属複葉管束亜属、石組遺構の炭化材は針葉樹のマキ属である。

(2) 珪藻分析

結果を第32表、第103図に示す。珪藻化石の産出頻度は、水場遺構の4試料と、窓跡のベルト部分、石組遺構の試料と合わせて6試料からは産出するが、埋没谷内黒色層(D-10区南壁)の5試料およびピットのスミ・Pitの計6試料は殆ど産出しなかった。化石が産出した試料の完形殻の出現率は、窓跡のベルト部分と石組遺構の試料は約70%と化石の保存状態が良いが、水場遺構の4試料は約40%以下と悪かった。産出分類群数は、合計で22属42分類群である。地点別に珪藻化石群集の特徴を下位より述べる。



第103図 主要珪藻化石群集の層位分布

海水-汽水-淡水生種比率(=各種比率×生物量比率)海水生種比率(=海水生種の合計を基準として百分率で算出した)。

●(+) 100個試料上検出された試料について示す。なお、●は1%未満、+は10%未満の試料について検出した種類を示す。

(1) 流水帯
(2) 淡水帯
(3) 水場遺構
(4) 窓跡
(5) 埋没谷内黒色層
(6) 石組遺構
(7) ピット(西側地区) D-10区
(8) 西側地区 D-10区
(9) 石組遺構 SKD-No.225

1) 水場遺構(II地区SX3)

本地区は、No. 4、3、No. 2、No. 1で群集組成に違いが見られる。

No. 4、3は、淡水域に生育する水生珪藻(以下、水生珪藻と言う)が全体の約90%を占め優占する。淡水性種の生態性(塩分濃度、水素イオン濃度、流水に対する適応性)の特徴は、貧塩不定性種、好+真酸性種、流水不定性種が優占する。特徴は、流水不定性で好酸性・付着性の*Pinnularia subgibba* var. *undulata*が70%前後と優占し、好止水性で好酸性・付着性の*Pinnularia substomatóphora*, *Pinnularia neomajor*等を伴う。

No. 2になると、前試料で優占した*Pinnularia subgibba* var. *undulata*は約30%に減少し、好止水性で好酸性・付着性の*Pinnularia neomajor*が増加し、約20%産出する。また、陸上のコケや土壌表面など多少の湿り気を保持した好気的環境に耐性のある陸生珪藻も増加する。その主なものは、陸生珪藻の中でも耐乾性の高い陸生珪藻A群の*Luticola mutica*, *Hantzschia amphioxys*、水域にも陸域にも生育する陸生珪藻B群の*Sellaphora seminulum*等である。

No. 1は、陸生珪藻が全体の約70%を占め優占する。主要種は、陸生珪藻A群の*Luticola mutica*が約25%, *Hantzschia amphioxys*が約20%と多産し、同じく陸生珪藻A群の*Pinnularia borealis*, *Diadesmis contenta*, *Amphora montana*等を伴う。水生珪藻としては、*Pinnularia subgibba* var. *undulata*が約10%産出する他、淡水-汽水生種の*Cosmioneis pusilla*等が産出する。

2) 窓跡

産出種の大部分が、陸生珪藻(陸生珪藻A群が優占)で占められる。特徴は、陸生珪藻A群の*Amphora montana*, *Luticola mutica*, *Hantzschia amphioxys*がそれぞれ約20%と多産し、同じく陸生珪藻A群の*Diadesmis biceps*, *Diadesmis contenta*, *Pinnularia borealis*, *Neidium alpinum*等を伴う。

第32表 珪藻分析結果

種類 試料番号	生態性		環境指標	水場過橋 II地区SX3			埋没谷内黒色層 D10区南壁			ビット スミ Pt	底跡 SY1 ペルト部分	石綿過橋 SK50 No.220	
	塗分	pH 淡水		1	2	3	4	1	2	3	4		
Bacillario phyta (珪藻植物門)													
Centric Diatoms (中心型珪藻類)													
<i>Pseudogymnema appendiculatum</i> Griffen	Euh		I-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Aulacoseira islandica</i> (O. Mull.) Simonsen	Ogh-ind	ind	U	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Aulacoseira spp.</i>	Ogh-unk	unk	unk	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Leptocerasma roseana</i> (Rabb) O'Meara	Ogh-ind	ind	RA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Aspid-Pinnata Diatoms(双錐溝羽状珪藻類)													
<i>Fragilaria</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Thalassiosira nitzschoides</i> (Grun) Grunow	Euh		A.B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Raphid Pennate Diatoms(双錐溝羽状珪藻類)													
<i>Anthonia montana</i> Krasske	Ogh-ind	ai-il	ind	RA.U	2	-	-	-	-	-	-	22	5
<i>Gomphonema gracile</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ai-il	I-ph	DU	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema parvulum</i> (Kuetz.) Kuetzing	Ogh-ind	ind	U	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eolima tantula</i> (Hust.)	Ogh-ind	ind	I-ph	RE.U	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Geissleria ignota</i> (Kossel) Lange-B. et Metzeltin	Ogh-ind	ind	RB.T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>Navicula soehrensis</i> var. <i>musicola</i> (Petersen) Krasske	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Navicula</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>Stauroenis acuta</i> W. Smith	Ogh-ind	ai-il	I-ph	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroenis angusta</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	T	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Stauroenis barbata</i> (Pet.) Lund	Ogh-ind	ind	RE	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Stauroenis obtusa</i> Lagerstedt	Ogh-ind	ind	RB	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Stauroenis tenera</i> Hustadt	Ogh-ind	ind	RB	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cosmopis pusilla</i> (W. Smith) Mann & Stickle	Ogh-Meh-ind	ind	3	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diatoms</i> spp. Abbott ex Grunow in Van Heurck	Ogh-ind	ai-il	ind	RA.T	-	-	-	-	-	-	-	5	-
<i>Diatoms</i> conferta (Grun.) Grunow	Ogh-ind	ai-il	ind	RA.T	3	-	-	-	-	-	-	5	3
<i>Actidium glaucum</i> (H. C. Mull.) D. M. Mann	Ogh-ind	ai-il	ind	RA.S	25	8	-	2	-	-	-	22	63
<i>Luticola venustus</i> (Kuetz.) D. M. Mann	Ogh-ind	ind	RA.U	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Nitzschia alpinum</i> Hustadt	Ogh-ind	ind	RA.U	6	2	-	4	-	-	-	-	6	-
<i>Pinnularia boralis</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	ind	-	1	-	-	-	-	-	-	2	2
<i>Pinnularia gibba</i> var. <i>lineata</i> Hustadt	Ogh-hob	ac-il	ind	S	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia microstoma</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	-	18	8	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia neomajor</i> Kramer	Ogh-ind	ind	I-bi	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia schoenfelderi</i> Kramer	Ogh-ind	ind	RB	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia schroederi</i> (Hust.) Kramer	Ogh-ind	ind	RI	3	1	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia stomatophora</i> (Grun.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia subcapitata</i> Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB.S	-	-	-	-	-	-	-	2	-
<i>Pinnularia subgibba</i> var. <i>undulata</i> Kramer	Ogh-ind	ac-il	ind	13	34	81	65	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia substomatophora</i> Hustadt	Ogh-hob	ac-il	I-ph	-	-	3	9	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia viridis</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	DU	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	9	5	4	12	-	-	-	-	-	-
<i>Sellaphora seminulum</i> (Grun.) G.Mann	Ogh-ind	ai-il	ind	RB.S	2	11	1	-	-	1	-	-	1
曾根藻類													
<i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	ind	RA.U	18	8	4	4	-	-	-	-	23	18
<i>Nitzschia breviseta</i> Grunow	Ogh-Meh	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
<i>Nitzschia inconspicua</i> Grunow	Ogh-Meh	ai-il	U	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
<i>Nitzschia frustulum</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	ai-il	I-ph	U	-	-	-	-	-	-	-	-	4
<i>Nitzschia palustris</i> Hustadt	Ogh-ind	ind	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Nitzschia paleolimoides</i> Chodatky	Ogh-ind	ind	U	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Nitzschia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Typhlocybe debilis</i> Abbott	Ogh-ind	ai-il	ind	RB.U	-	-	-	-	-	-	-	3	-
<i>Rhabdotella pectinata</i> (Ehr.) Muller	Ogh-Meh	ai-il	U	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
短枝藻類													
<i>Fenella praeputia</i> var. <i>bidentata</i> (Ehren.) Grunow	Ogh-hob	ac-il	I-ph	RB.O.T	1	3	1	-	-	-	-	-	-
流水生種													
流水生種				0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
淡水生種				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
汽水生種				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
淡水・汽水生種				3	2	1	1	0	0	0	0	3	1
淡水・汽水生種				97	99	102	99	0	1	0	0	97	105
珪藻・石炭酸				100	101	103	100	0	1	0	0	100	108

凡例

H.R. 塗分濃度に対する適応性 pH. 本系イオン濃度に対する適応性 C.R. 流水に対する適応性
 Euh. 流水生種 al-bi 真アルカリ性種 I-bi 真淡水性種
 Ogh-Meh. 淡水・汽水生種 al-il 好アルカリ性種 I-ph 好淡水性種
 Ogh-ind. 良好な性種 ac-il 不良な性種 r-ph 好流性性種
 Ogh-ind. 貧弱不定性種 ac-2 好酸性種 r-ph 好淡水性種
 Ogh-ind. 貧弱強性種 ac-bi 真酸性種 r-bi 真淡水性種
 Ogh-unk. 貧弱不明確 unk pH不明確 unk 流水不明確

環境指標群

A外洋指標群 B内洋指標群 (小杉, 1988)

O沿岸湿地付着種 (安藤, 1990)

S淡水淹潤種 U広域適応性種 T好流水性種 (以上はAsai and Watanabe, 1995)

R陸生珪藻 (RA.A群, RB群, RC未区分, 伊藤・室内, 1991)

3) 石組構造

本試料も产出種の大部分が、陸生珪藻 (陸生珪藻 A群が優占) で占められる。特徴は、陸生珪藻 A群の *Luticola mutica* が約60%と優占し、同じく陸生珪藻 A群の *Hantzschia amphioxys* が約20%と多産す

る。これに付随して、陸生珪藻A群の*Amphora montana*, *Diadesmis contenta*等を伴う。

4) 埋没谷内黒色層(D-10区南壁)およびピット

埋没谷内黒色層のD-10区南壁のNo. 1, 2, 3, 5, 6では、No. 2から陸生珪藻B群の*Sellaphora seminulum*が1個体産出するがその他は無化石である。また、ピットのスミ・Pitも無化石である。

(3) 花粉・寄生虫卵分析

結果を第33表、第104図に示す。なお、木本花粉総数が100個体未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、出現した種類を+で表示するにとどめておく。

水場遺構(II地区SX3)のNo. 1~4では、いずれの試料からも花粉化石が豊富に産出した。群集組成は類似しており、木本花粉が優占し、マツ属が多産する。次いでミカン科が多く産出し、ソテツ属、センダン属、ウコギ科、クチナシ属等を伴う。ミカン科は、形態的な特徴からはミカン属である可能性も指摘されるが、今回はミカン科に留めておく。草本花粉ではイネ科が最も多く産出し、カヤツリグサ科、アカザ科、キンポウゲ属、ヨモギ属、タンボポ科等を伴う。

なお、寄生虫卵は、No. 1から鞭虫卵、No. 3から鞭虫卵およびマンソン裂頭条虫卵、No. 4から回虫卵がそれぞれ検出されたが、いずれも含有量は1ccあたり100個体未満であった。

埋没谷内黒色層(D-10区南壁)では、花粉化石の産出状況が悪く、No. 1か

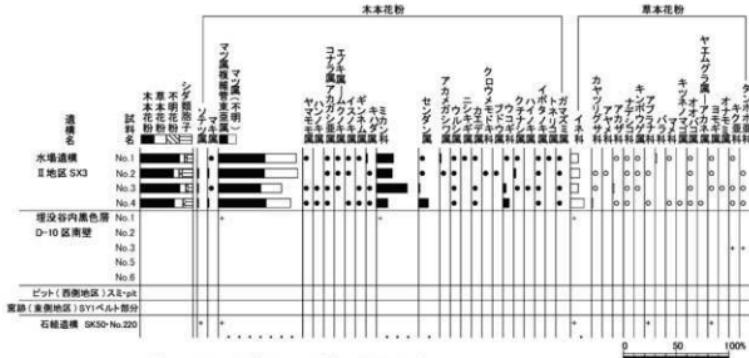
らマツ属、ミカン科が、No. 3からキク亜科、タンボポ亜科が、わずかに検出されるのみである。また、No. 2, 5, 6からは花粉化石は1個体も検出されなかつた。また、寄生虫卵は、いずれの試料からも検出されない。

ピットおよび窓跡試料では、花粉化石・シダ類胞子・寄生虫卵は1個体も検出されなかつた。なお、分析残渣中には、炭化あるいは分解の影響を受けた微細な植物片が多量に含まれる。

石組遺構では、花粉化石が検出されるものの、定量分析が行えるだけの個体数を得ることは出来なかつた。検出された種類は、木本花粉ではソテツ属、マツ属が、草本花粉ではイネ科、アブラナ科、ヨモギ属がわずかに認められるに過ぎない。また、寄生虫卵は1個体も検出されず、分析残渣中には西側地区や東側地区同様、炭化あるいは分解の影響を受けた微細な植物片が多量に含まれていた。

第33表 花粉・寄生虫卵分析結果

種類	水場遺構 II地区SX3				埋没谷内黒色層 D-10区南壁					ピット スミ Pit	東部 SYI SK50	石組遺構 SK50 Pitベルト部分	
	1	2	3	4	1	2	3	4	5				
木本花粉	-	4	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ソテツ属	-	2	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マツ属(絶滅)	134	106	109	125	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マツ属(不明)	91	77	54	65	1	-	-	-	-	-	-	-	9
ヤマモモ属	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
バンキモ属	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コブシ属アカシキ属	2	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エゴノキ属ムクノキ属	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イヌキ属	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ギンネン属	1	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キハダ属	4	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミカン科	49	36	79	29	1	-	-	-	-	-	-	-	-
センダン属	1	1	3	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アラタシロ属	4	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ウルシ属	2	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニシキギ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カエデ属	2	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クロノメドキ科	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ブドウ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クスノキ属	1	-	7	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クサシキ属	2	5	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハイキモ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イボタキモ属	2	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トネコ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ガマズミ属	2	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ科	29	32	25	52	1	-	-	-	-	-	-	-	2
カヤツリグサ科	-	2	3	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アヤメ科	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカザ科	1	-	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ナデシコ科	2	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キク科	1	2	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アブラナ科	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
バラ科	5	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マツ科	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キツツキモ属	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オオバコ属	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イヌクモ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヨモギ属	1	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オナモ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キクモ属	1	-	1	3	-	-	10	-	-	-	-	-	-
タケノコ属	-	1	1	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-
木本花粉	17	21	15	16	-	-	1	-	-	-	-	-	3
シダ類孢子	47	80	34	84	6	1	10	-	1	-	-	-	8
合計	304	243	272	277	2	0	0	0	0	0	0	0	11
木本花粉	42	43	41	71	1	0	11	0	0	0	0	0	4
草本花粉	17	21	15	16	0	0	1	0	0	0	0	0	3
シダ類孢子	47	80	34	64	6	1	10	0	1	0	0	0	8
植物不明	393	366	347	412	9	1	21	0	1	0	0	0	0
IXX100:100種子未満	0	0	<100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
群生虫卵	<100	0	<100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
群生虫卵	0	0	<100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
マツモ属観察未満	0	0	<100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



第104図 花粉化石群集の層位分布

出率率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉・シダ胞子は総数より不明、●○は1%未満、+は木本花粉100個未満の試料について検出した種類を示す。

(4) 植物珪酸体分析

結果を第34表と第105図に示す。各試料から検出された植物珪酸体は、概して保存状態が悪く、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められる。以下に、各地点での産状を述べる。

1) 水場遺構 (II地区SX3)

試料の多くから栽培植物であるイネ属が検出され、短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体が見られる。その含量は、概して少ない。短細胞珪酸体では、多くてもNo. 1の約700個/gであり、他は300~400個/gである。機動細胞珪酸体はさらに少なく、100個/g未満~300個/gであり、No. 3では認められない。

この他にタケアサ科、ススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亞科等が認められ、各試料での産状も同様である。

第34表 植物珪酸体含量

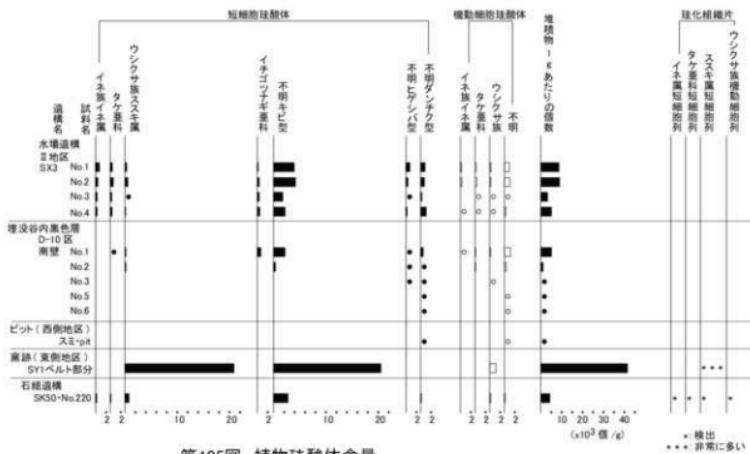
種類	水場遺構 II地区 SX3				埋没谷内黒色層 D10区南壁				ビット Sミ Pig	窓跡 SY1 ベルト部分	石組遺構 SK50 No.220	
	1	2	3	4	1	2	3	5				
イネ科葉部短細胞珪酸体												
イネ族イネ属	700	400	300	300	~	~	~	~	~	~	~	200
タケアサ科	400	600	300	300	<100	~	~	~	~	~	~	100
ウシクサ族ススキ属	300	600	<100	100	200	200	~	~	~	~	~	20,000< 800
イチゴツナギ亞科	200	400	400	500	700	~	~	~	~	~	~	~
不明セイビ型	3,900	4,200	1,700	2,200	2,100	300	~	~	~	~	~	20,000< 2,700
不明セイビバ型	700	400	<100	200	<100	<100	<100	~	~	~	~	~
不明セイビバ型	800	700	200	1,100	500	<100	<100	<100	<100	<100	~	100
イネ科葉身短細胞珪酸体												
イネ族イネ属	200	300	~	<100	<100	~	~	~	~	~	~	~
タケアサ科	200	400	<100	100	100	100	~	~	~	~	~	~
ウシクサ族	300	200	<100	<100	200	~	<100	~	~	~	1,200	200
不明	1,000	1,100	<100	300	1,200	300	~	<100	<100	<100	~	100
合計	7,100	7,100	3,000	4,600	3,800	600	100	<100	<100	<100	40,000< 4,000	
イネ科葉身機動細胞珪酸体	1,600	1,900	200	500	1,500	400	<100	<100	<100	<100	1,200	300
總計	8,700	9,000	3,300	5,100	5,100	1,100	200	100	100	100	41,200< 4,300	
珪化組織片												
イネ属短細胞列	-	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	*
タケアサ属短細胞列	-	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	*
ススキ属機動細胞列	-	--	--	--	--	--	--	--	--	* ***	* ***	*
ウシクサ族機動細胞列	-	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	*

含量は個/g、10の位で丸めている(100単位にする)

合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている

<100:100個/g未満

-:未検出、*:検出、**:多い、***:非常に多い



第105図 植物珪酸体含量

堆積物 1 gあたりに換算した個数を示す。堆積物 1 gあたりの個数の●○は200 個 / g未満、他の●○は100 個 / g未満を示す。また、珪化組織片の形状を＊で示す。

2) 埋没谷内黒色層(D-10区南壁)

No. 6～3では主に不明が見られ、その含量は少ない。No. 2では、不明に加えてタケ亜科やスキ属が見られる。No. 1では、タケ亜科、スキ属を含むウシクサ族、イチゴンナギ亜科とともに、イネ属の機動細胞珪酸体がわずかに見られる。

3) ビット

不明が見られ、その含量は少ない。

4) 窑跡

スキ属の短細胞列が数多く見られ、ウシクサ族の機動細胞珪酸体なども認められる。

5) 石組遺構

珪化組織片としてイネ属短細胞列、タケ亜科短細胞列、スキ属短細胞列、ウシクサ族機動細胞列がわずかに見られる。また単体の植物珪酸体としてイネ属、タケ亜科、スキ属を含むウシクサ族なども認められる。

(5) 微細物洗い出し分析

結果を第35表に示す。東側地区のベルト部分からは炭化材0.34g(最大径10.78mm)と土器0.12g(最大径8.06mm)が検出された。No. 220集石012の11層下部?からは、明るく開けた場所に生育する草本のイヌタデ近似種の果実1個と、炭化材2.35g(最大径13.97mm)、動物遺存体(椎骨1個0.36g、ウニ類のトゲ0.06g)が検出された。両試料の分析残渣は砂礫主体で、微細な炭化材を含む。以下に、種実の形態的特徴等を記す。

第35表 微細物洗い出し分析結果

種類・部位	試料情報	SV1	
		ベルト部分	No.220
イヌタデ近似種 果実	個数	—	1個 破片
炭化材	重量	0.34g	2.35g
	最大径	10.78mm	13.97mm
不明炭化物	重量	—	0.03g
動物遺存体	重量	—	0.36g 1個
ウニ類のトゲ	重量	—	0.06g
土器	重量	0.12g	—
	最大径	8.06mm	—
分析残渣			
炭化材主体	重量	0.30g	0.49g
植物片	重量	0.01g	—
砂礫	重量	39.31g	7.51g
分析量	容積	200cc	100cc
	重量	315.91g	176.64g

・イヌタデ近似種(*Polygonum cf. longisetum* De Bruyn) タデ科タデ属

果実の破片が検出された。黒色、完形ならば長さ2.5mm、径1.5mm程度の丸みのある三稜状卵体。破片は3裂した1片で長さ2mm、幅1.3mm程度。頂部は尖り、基部は切形。果皮表面は平滑で光沢がある。

(6) 土壌理化学分析

結果を第36表、第37表に示す。以下に各地点、各遺構について述べる。

1) 水場遺構(II地区SX3)

4点の試料とともに、有機炭素量は2%前後、腐植含量は3~4%であり、全窒素量は0.2%前後であった。その中で、No. 2が僅かに他の試料に比べて有機炭素量・腐植含量が高く、C/N比も他の試料の11よりも若干高い12を示した。全リン酸量は約6~8mg/gであるが、その中でNo. 2が最も高い8.22mg/gを示し、No. 4が最も低い5.54mg/gを示す。可給態リン酸では、No. 1~3が11~13mg/100gであるが、No. 4はそれより低い8.5mg/100gであり、可給態窒素もNo. 1~3が7~8mg/100gであるのに對してNo. 4は6.1mg/100gである。全鉄は4点の試料とともに5%前後であり、活性度は0.5~0.6、結晶化指数は0.3~0.4であった。

粒径組成は、No. 1~3は粘土含量が約50%の重埴土であるが、No. 4はそれより粘土含量がやや少ない(約40%)軽埴土に分類された。元素組成では、4点の試料ともに特異な組成は認められないが、その中でNo. 4は、他の3点に比べてAl₂O₃の含有量がやや少ないことが指摘できる。

2) 埋没谷内黒色層(D-10区南壁)

有機炭素量および腐植含量は、上位の試料ほど多い傾向が認められ、No. 4~6では有機炭素量が0.2%前後、腐植含量が0.3~0.4%であるが、No. 3~No. 1ではそれぞれ0.4~0.8%、0.7~1.3%の値を示す。全窒素量はNo. 5が0.4%であるほかは、0.07~0.09%を示す。したがって、C/N比は、No. 3~No. 6は3~4であるが、No. 2~1では7~9を示す。全リン酸量は、下位の試料に多い傾向が認められ、No. 3~No. 6では約7~8mg/gであるが、No. 2、1では約5mg/gである。可給態リン酸も下位の試料に多い傾向があり、No. 5、6では10~11mg/100g、No. 2~4では約9mg/100g、No. 1では約6mg/100gとなる。可給態窒素は、No. 5が1.4mg/100gであるほかはいずれも約2mg/100g程度である。全鉄は6点の試料とともに4~5%であり、活性度は0.2前後、結晶化指数は約0.6であった。

粒径組成は、No. 1~4は粘土含量が約40%の軽埴土であるが、No. 5、6はそれより粘土含量がやや多い(約50%)重埴土に分類された。元素組成では、No. 1、2の2点とNo. 3~6の4点との間に、SiO₂、Al₂O₃、K₂O、P₂O₅の各元素における値の違いが認められる。SiO₂ではNo. 1、2の方が他の4点よりも多く、Al₂O₃、K₂O、P₂O₅ではNo. 1、2の方が他の4点よりも少ない傾向を示す。

3) ピット

第36表における有機炭素量から結晶化指数までの各値のうち、全リン酸と可給態リン酸を除く各値は、上述した埋没谷内黒色層の上部(No. 1、2)の試料の値に概ね近似し、全リン酸と可給態リン酸は同下部(No. 3~6)の試料の値に近似する。また、粒径組成は埋没谷内黒色層下部と同様の粘土含量約50%の重埴土に分類され、元素組成も埋没谷内黒色層下部の各値に近似する。

4) 窓跡

有機炭素量および腐植含量が前述した水場遺構や埋没谷内黒色層の試料に比べて高く、それぞれ約4%、約7%という値を示す。全窒素量は前述した各試料とほぼ同様なため、C/N比は31と極めて高い。さらに、全リン酸量および可給態リン酸量も、それぞれ約14mg/g、約230mg/100gという前述した各試料に比べてはるかに高い値を示す。可給態窒素量は埋没谷内黒色層上部程度であり、全鉄、活性度、結晶化指数などは埋没谷内黒色層下部に近似する。また、粒径組成は、埋没谷内黒色層上部に近い軽埴土に分類される。

元素組成は、前述した他の試料に比べて、Al₂O₃、値が約11%とやや低く、CaOとP₂O₅の値が、それぞ

れ約2.4%、約1.5%と非常に高い値を示す。

5) 石組造構

有機炭素量および腐植含量が前述した水場造構や埋没谷内黒色層の試料に比べて高く、それぞれ約3%、約4%という値を示す。全窒素量は前述した各試料とほぼ同様なため、C/N比は25と極めて高い。さらに、全リン酸量および可給態リン酸量も、それぞれ約9mg/g、約130mg/100gという前述した各試料に比べてはるかに高い値を示す。可給態窒素量は埋没谷内黒色層上部程度であり、全鉄、活性度、結晶化指数などは埋没谷内黒色層下部に近似する。また、粒径組成は、埋没谷内黒色層上部に近い輕埴土に分類される。

元素組成は、前述した他の試料に比べて、SiO₂の値が約52%とやや低く、CaOとP₂O₅の値が、それぞれ約4.3%、約1.0%と非常に高い値を示す。

第36表 土壤理化学分析結果

造構名・ 地点名	試料名	土色	有機炭素 (%)	腐植 (%)	企画素 (%)	C/N	全リン (mg/100g)	可給態 リン酸 (mg/100g)	可給態 窒素 (mg/100g)	全鉄 Fe _T (%)	Fe _{可給} (%)	Fe _{活性} (%)	DCB可溶鐵 Fe _{DCB} (%)	粒度 シルト質 (%)	活性度 Fe _{活性} /Fe _T (%)	結晶化指数 Fe _{可給} /Fe _T (%)	粒径組成			
																	砂質土 (%)	粘土 (%)	粉土 (%)	砂質土 (%)
水場造構 (Ⅰ地区 D-10区 内)	SYH1/2 黒	2.19	3.78	0.20	11	6.94	12.6	7.9	5.27	3.64	1.06	0.31	0.34	2.1	24.5	34.6	40.8	HU		
	SYH2/2 黒	2.37	4.09	0.20	12	6.22	11.8	7.7	5.11	3.38	1.58	0.45	0.37	1.7	24.1	25.3	40.9	HU		
	SYH3/2 黒	1.97	3.40	0.18	11	7.10	11.6	7.3	5.26	3.55	2.07	0.36	0.28	2.3	21.8	35.8	36.1	HU		
	SYH4/2 黒	1.61	2.76	0.15	11	5.91	8.5	6.1	4.20	3.26	1.91	0.60	0.27	6.6	22.6	19.8	40.8	LC		
埋没谷内 (D-10区 内)	SYH1/2 剛鶴	0.78	1.21	0.09	9	3.88	6.6	2.4	3.22	3.87	0.64	0.23	0.38	5.7	23.5	40.0	30.7	LC		
	SYH2/2 剛鶴	0.58	1.00	0.08	7	3.85	8.2	2.5	3.80	2.78	0.96	0.26	0.37	7.6	29.9	26.5	30.7	LC		
	SYH3/2 剛鶴	0.38	0.66	0.09	4	6.76	8.3	2.4	4.61	3.24	0.63	0.19	0.39	2.4	23.3	28.9	42.4	LC		
	SYH4/2 剛鶴	0.23	0.40	0.08	3	7.02	9.4	1.8	4.78	3.40	0.64	0.19	0.38	4.8	23.1	27.4	44.7	LC		
石組造構 (No.28 No.29 No.30 No.31 No.32 No.33 No.34 No.35 No.36 No.37 No.38 No.39 No.40 No.41 No.42 No.43 No.44 No.45 No.46 No.47 No.48 No.49 No.50 No.51 No.52 No.53 No.54 No.55 No.56 No.57 No.58 No.59 No.60 No.61 No.62 No.63 No.64 No.65 No.66 No.67 No.68 No.69 No.70 No.71 No.72 No.73 No.74 No.75 No.76 No.77 No.78 No.79 No.80 No.81 No.82 No.83 No.84 No.85 No.86 No.87 No.88 No.89 No.90 No.91 No.92 No.93 No.94 No.95 No.96 No.97 No.98 No.99 No.100 No.101 No.102 No.103 No.104 No.105 No.106 No.107 No.108 No.109 No.110 No.111 No.112 No.113 No.114 No.115 No.116 No.117 No.118 No.119 No.120 No.121 No.122 No.123 No.124 No.125 No.126 No.127 No.128 No.129 No.130 No.131 No.132 No.133 No.134 No.135 No.136 No.137 No.138 No.139 No.140 No.141 No.142 No.143 No.144 No.145 No.146 No.147 No.148 No.149 No.150 No.151 No.152 No.153 No.154 No.155 No.156 No.157 No.158 No.159 No.160 No.161 No.162 No.163 No.164 No.165 No.166 No.167 No.168 No.169 No.170 No.171 No.172 No.173 No.174 No.175 No.176 No.177 No.178 No.179 No.180 No.181 No.182 No.183 No.184 No.185 No.186 No.187 No.188 No.189 No.190 No.191 No.192 No.193 No.194 No.195 No.196 No.197 No.198 No.199 No.200 No.201 No.202 No.203 No.204 No.205 No.206 No.207 No.208 No.209 No.210 No.211 No.212 No.213 No.214 No.215 No.216 No.217 No.218 No.219 No.220 No.221 No.222 No.223 No.224 No.225 No.226 No.227 No.228 No.229 No.230 No.231 No.232 No.233 No.234 No.235 No.236 No.237 No.238 No.239 No.240 No.241 No.242 No.243 No.244 No.245 No.246 No.247 No.248 No.249 No.250 No.251 No.252 No.253 No.254 No.255 No.256 No.257 No.258 No.259 No.260 No.261 No.262 No.263 No.264 No.265 No.266 No.267 No.268 No.269 No.270 No.271 No.272 No.273 No.274 No.275 No.276 No.277 No.278 No.279 No.280 No.281 No.282 No.283 No.284 No.285 No.286 No.287 No.288 No.289 No.290 No.291 No.292 No.293 No.294 No.295 No.296 No.297 No.298 No.299 No.300 No.301 No.302 No.303 No.304 No.305 No.306 No.307 No.308 No.309 No.310 No.311 No.312 No.313 No.314 No.315 No.316 No.317 No.318 No.319 No.320 No.321 No.322 No.323 No.324 No.325 No.326 No.327 No.328 No.329 No.330 No.331 No.332 No.333 No.334 No.335 No.336 No.337 No.338 No.339 No.340 No.341 No.342 No.343 No.344 No.345 No.346 No.347 No.348 No.349 No.350 No.351 No.352 No.353 No.354 No.355 No.356 No.357 No.358 No.359 No.360 No.361 No.362 No.363 No.364 No.365 No.366 No.367 No.368 No.369 No.370 No.371 No.372 No.373 No.374 No.375 No.376 No.377 No.378 No.379 No.380 No.381 No.382 No.383 No.384 No.385 No.386 No.387 No.388 No.389 No.390 No.391 No.392 No.393 No.394 No.395 No.396 No.397 No.398 No.399 No.400 No.401 No.402 No.403 No.404 No.405 No.406 No.407 No.408 No.409 No.410 No.411 No.412 No.413 No.414 No.415 No.416 No.417 No.418 No.419 No.420 No.421 No.422 No.423 No.424 No.425 No.426 No.427 No.428 No.429 No.430 No.431 No.432 No.433 No.434 No.435 No.436 No.437 No.438 No.439 No.440 No.441 No.442 No.443 No.444 No.445 No.446 No.447 No.448 No.449 No.450 No.451 No.452 No.453 No.454 No.455 No.456 No.457 No.458 No.459 No.460 No.461 No.462 No.463 No.464 No.465 No.466 No.467 No.468 No.469 No.470 No.471 No.472 No.473 No.474 No.475 No.476 No.477 No.478 No.479 No.480 No.481 No.482 No.483 No.484 No.485 No.486 No.487 No.488 No.489 No.490 No.491 No.492 No.493 No.494 No.495 No.496 No.497 No.498 No.499 No.500 No.501 No.502 No.503 No.504 No.505 No.506 No.507 No.508 No.509 No.510 No.511 No.512 No.513 No.514 No.515 No.516 No.517 No.518 No.519 No.520 No.521 No.522 No.523 No.524 No.525 No.526 No.527 No.528 No.529 No.530 No.531 No.532 No.533 No.534 No.535 No.536 No.537 No.538 No.539 No.540 No.541 No.542 No.543 No.544 No.545 No.546 No.547 No.548 No.549 No.550 No.551 No.552 No.553 No.554 No.555 No.556 No.557 No.558 No.559 No.560 No.561 No.562 No.563 No.564 No.565 No.566 No.567 No.568 No.569 No.570 No.571 No.572 No.573 No.574 No.575 No.576 No.577 No.578 No.579 No.580 No.581 No.582 No.583 No.584 No.585 No.586 No.587 No.588 No.589 No.590 No.591 No.592 No.593 No.594 No.595 No.596 No.597 No.598 No.599 No.600 No.601 No.602 No.603 No.604 No.605 No.606 No.607 No.608 No.609 No.610 No.611 No.612 No.613 No.614 No.615 No.616 No.617 No.618 No.619 No.620 No.621 No.622 No.623 No.624 No.625 No.626 No.627 No.628 No.629 No.630 No.631 No.632 No.633 No.634 No.635 No.636 No.637 No.638 No.639 No.640 No.641 No.642 No.643 No.644 No.645 No.646 No.647 No.648 No.649 No.650 No.651 No.652 No.653 No.654 No.655 No.656 No.657 No.658 No.659 No.660 No.661 No.662 No.663 No.664 No.665 No.666 No.667 No.668 No.669 No.670 No.671 No.672 No.673 No.674 No.675 No.676 No.677 No.678 No.679 No.680 No.681 No.682 No.683 No.684 No.685 No.686 No.687 No.688 No.689 No.690 No.691 No.692 No.693 No.694 No.695 No.696 No.697 No.698 No.699 No.700 No.701 No.702 No.703 No.704 No.705 No.706 No.707 No.708 No.709 No.710 No.711 No.712 No.713 No.714 No.715 No.716 No.717 No.718 No.719 No.720 No.721 No.722 No.723 No.724 No.725 No.726 No.727 No.728 No.729 No.730 No.731 No.732 No.733 No.734 No.735 No.736 No.737 No.738 No.739 No.740 No.741 No.742 No.743 No.744 No.745 No.746 No.747 No.748 No.749 No.750 No.751 No.752 No.753 No.754 No.755 No.756 No.757 No.758 No.759 No.760 No.761 No.762 No.763 No.764 No.765 No.766 No.767 No.768 No.769 No.770 No.771 No.772 No.773 No.774 No.775 No.776 No.777 No.778 No.779 No.780 No.781 No.782 No.783 No.784 No.785 No.786 No.787 No.788 No.789 No.790 No.791 No.792 No.793 No.794 No.795 No.796 No.797 No.798 No.799 No.800 No.801 No.802 No.803 No.804 No.805 No.806 No.807 No.808 No.809 No.810 No.811 No.812 No.813 No.814 No.815 No.816 No.817 No.818 No.819 No.820 No.821 No.822 No.823 No.824 No.825 No.826 No.827 No.828 No.829 No.830 No.831 No.832 No.833 No.834 No.835 No.836 No.837 No.838 No.839 No.840 No.841 No.842 No.843 No.844 No.845 No.846 No.847 No.848 No.849 No.850 No.851 No.852 No.853 No.854 No.855 No.856 No.857 No.858 No.859 No.860 No.861 No.862 No.863 No.864 No.865 No.866 No.867 No.868 No.869 No.870 No.871 No.872 No.873 No.874 No.875 No.876 No.877 No.878 No.879 No.880 No.881 No.882 No.883 No.884 No.885 No.886 No.887 No.888 No.889 No.890 No.891 No.892 No.893 No.894 No.895 No.896 No.897 No.898 No.899 No.900 No.901 No.902 No.903 No.904 No.905 No.906 No.907 No.908 No.909 No.910 No.911 No.912 No.913 No.914 No.915 No.916 No.917 No.918 No.919 No.920 No.921 No.922 No.923 No.924 No.925 No.926 No.927 No.928 No.929 No.930 No.931 No.932 No.933 No.934 No.935 No.936 No.937 No.938 No.939 No.940 No.941 No.942 No.943 No.944 No.945 No.946 No.947 No.948 No.949 No.950 No.951 No.952 No.953 No.954 No.955 No.956 No.957 No.958 No.959 No.960 No.961 No.962 No.963 No.964 No.965 No.966 No.967 No.968 No.969 No.970 No.971 No.972 No.973 No.974 No.975 No.976 No.977 No.978 No.979 No.980 No.981 No.982 No.983 No.984 No.985 No.986 No.987 No.988 No.989 No.990 No.991 No.992 No.993 No.994 No.995 No.996 No.997 No.998 No.999 No.1000 No.1001 No.1002 No.1003 No.1004 No.1005 No.1006 No.1007 No.1008 No.1009 No.1010 No.1011 No.1012 No.1013 No.1014 No.1015 No.1016 No.1017 No.1018 No.1019 No.1020 No.1021 No.1022 No.1023 No.1024 No.1025 No.1026 No.1027 No.1028 No.1029 No.1030 No.1031 No.1032 No.1033 No.1034 No.1035 No.1036 No.1037 No.1038 No.1039 No.1040 No.1041 No.1042 No.1043 No.1044 No.1045 No.1046 No.1047 No.1048 No.1049 No.1050 No.1051 No.1052 No.1053 No.1054 No.1055 No.1056 No.1057 No.1058 No.1059 No.1060 No.1061 No.1062 No.1063 No.1064 No.1065 No.1066 No.1067 No.1068 No.1069 No.1070 No.1071 No.1072 No.1073 No.1074 No.1075 No.1076 No.1077 No.1078 No.1079 No.1080 No.1081 No.1082 No.1083 No.1084 No.1085 No.1086 No.1087 No.1088 No.1089 No.1090 No.1091 No.1092 No.1093 No.1094 No.1095 No.1096 No.1097 No.1098 No.1099 No.1100 No.1101 No.1102 No.1103 No.1104 No.1105 No.1106 No.1107 No.1108 No.1109 No.1110 No.1111 No.1112 No.1113 No.1114 No.1115 No.1116 No.1117 No.1118 No.1119 No.1120 No.1121 No.1122 No.1123 No.1124 No.1125 No.1126 No.1127 No.1128 No.1129 No.1130 No.1131 No.1132 No.1133 No.1134 No.1135 No.1136 No.1137 No.1138 No.1139 No.1140 No.1141 No.1142 No.1143 No.1144 No.1145 No.1146 No.1147 No.1148 No.1149 No.1150 No.1151 No.1152 No.1153 No.1154 No.1155 No.1156 No.1157 No.1158 No.1159 No.1160 No.1161 No.1162 No.1163 No.1164 No.1165 No.1166 No.1167 No.1168 No.1169 No.1170 No.1171 No.1172 No.1173 No.1174 No.1175 No.1176 No.1177 No.1178 No.1179 No.1180 No.1181 No.1182 No.1183 No.1184 No.1185 No.1186 No.1187 No.1188 No.1189 No.1190 No.1191 No.1192 No.1193 No.1194 No.1195 No.1196 No.1197 No.1198 No.1199 No.1200 No.1201 No.1202 No.1203 No.1204 No.1205 No.1206 No.1207 No.1208 No.1209 No.1210 No.1211 No.1212 No.1213 No.1214 No.1215 No.1216 No.1217 No.1218 No.1219 No.1220 No.1221 No.1222 No.1223 No.1224 No.1225 No.1226 No.1227 No.1228 No.1229 No.1230 No.1231 No.1232 No.1233 No.1234 No.1235 No.1236 No.1237 No.1238 No.1239 No.1240 No.1241 No.1242 No.1243 No.1244 No.1245 No.1246 No.1247 No.1248 No.1249 No.1250 No.1251 No.1252 No.1253 No.1254 No.1255 No.1256 No.1257 No.1258 No.1259 No.1260 No.1261 No.1262 No.1263 No.1264 No.1265 No.1266 No.1267 No.1268 No.1269 No.1270 No.1271 No.1272 No.1273 No.1274 No.1275 No.1276 No.1277 No.1278 No.1279 No.1280 No.1281 No.1282 No.1283 No.1284 No.1285 No.1286 No.1287 No.1288 No.1289 No.1290 No.1291 No.1292 No.1293 No.1294 No.1295 No.1296 No.1297 No.1298 No.1299<br																				

(7) 土壌薄片観察

観察結果を第39表、第106図～第109図に示す。水場遺構、埋没谷内黒色層およびピット、窯跡、石組遺構のいずれの遺構覆土もほぼ同様の砂粒組成である。すなわち、砂粒のほとんどは石英の鉱物片であり、他に微量のカリ長石や斜長石の鉱物片と多結晶石英を含み、さらに試料によっては極めて微量のチャートあるいは石灰岩の岩石片を含む。また、水場遺構およびピットの覆土には少量、窯跡試料および石組遺構の試料には中量の植物片が含まれている。

碎屑物の割合は、水場遺構のNo. 1と石組遺構の試料で20%をやや超える比較的多い値を示すが、他の試料は、10～20%の範囲内である。ただし、ピットの試料は10%未満でやや低い値を示す。

砂粒の粒径組成は、窯跡試料が極細粒砂をモードとするほかは、いずれの試料も細粒砂をモードとするほぼ同様の組成を示す。

(8) 脂肪酸分析

結果を第38表に示す。脂肪酸は水場遺構(II地区SX3)のNo. 2で、ステアリン酸が検出されたのみである。ステロールは、ピット試料以外から検出される。水場遺構(II地区SX3)のNo. 2、石組遺構試料は、コプロスタノールとコレステロールのみからなり、特にコプロスタノールの割合が高い。水場遺構(II地区SX3)のNo. 3、4では、コプロスタノール、コレステロールのほか、エルゴステロール、カンペステロール等も検出されるが、2試料共にエルゴステロールの割合が高い。

(9) 烧土薄片観察

1) 窯跡(東側地区)壁面

本試料は、粗粒シルト～粗粒砂サイズの碎屑片を中量程度含む砂混じり粘土である。碎屑片の大部分は石英からなり、カリ長石、斜長石、白雲母、黒雲母、角閃石、ジルコン、不透明鉱物、多結晶石英なども伴う。基質は褐色～赤褐色を呈し、褐色を呈する粘土鉱物、セリサイト、水酸化鉄などから構成される。

基質に散在する水酸化鉄の一部には、赤味の強いものが散見される。この赤味を増した水酸化鉄は炉跡試料のように焼成により赤鉄鉱化したものとみるととも可能である。この場合、同様に270～325℃程度以上の焼成温度が想定される。

2) 炉跡(1地区E-8) 炉002 No. 1

本試料は、粗粒シルト～粗粒砂サイズの碎屑片を中量程度含む砂混じり粘土である。碎屑片の大部分は石英であり、その他、カリ長石、斜長石、白雲母、黒雲母、ジルコン、不透明鉱物、多結晶石英などを伴う。基質は褐色または赤褐色を呈し、褐色を呈する粘土鉱物、セリサイト、水酸化鉄などから構成され、一部において、酸化鉄結核が認められる。

肉眼的に褐色に見える部分と、赤褐色に見える部分の碎屑片および基質粘土における構成物の違いはなく、同質な物質で構成されている。鏡下における褐色部から赤褐色部への色調の変化は、基質粘土

第38表 脂肪酸分析結果

種類	水場遺構 II地区SX3			ピット スキ Pt	石組遺構 SK50 No.220
	2	3	4		
脂肪酸組成					
ジスチレン酸(C14)	-	-	-	-	-
バルミトイン酸(C16)	-	-	-	-	-
バルミレイン酸(C16:1)	-	-	-	-	-
ステアリン酸(C18)	100.0	-	-	-	-
エラバリン酸(C18:1trans)	-	-	-	-	-
オレイン酸(C18:1cis)	-	-	-	-	-
リノール酸(C18:2)	-	-	-	-	-
αリノレン酸(C18:3)	-	-	-	-	-
アラキドシン酸(C20)	-	-	-	-	-
イコセナ酸(C20:1)	-	-	-	-	-
アラキドン酸(C20:4)	-	-	-	-	-
ベヘン酸(C22)	-	-	-	-	-
ドコセナ酸(C22:1trans)	-	-	-	-	-
エルカ酸(C22:1cis)	-	-	-	-	-
イコサハニタニン酸(C20:5)	-	-	-	-	-
リグニゼリン酸(C24)	-	-	-	-	-
テトラコセナ酸(C24:1)	-	-	-	-	-
ドコサヘキサエン酸(C22:6)	-	-	-	-	-
ステロール組成					
コプロスタノール	67.9	9.5	9.7	-	79.9
コレステロール	32.1	11.7	9.5	-	20.1
エルゴステロール	-	68.6	73.6	-	-
カンペステロール	-	6.5	7.2	-	-
スティグマステロール	-	3.7	-	-	-
シントステロール	-	-	-	-	-
分析試料の重量(g)	106.9	105.2	107.2	106.1	101.9

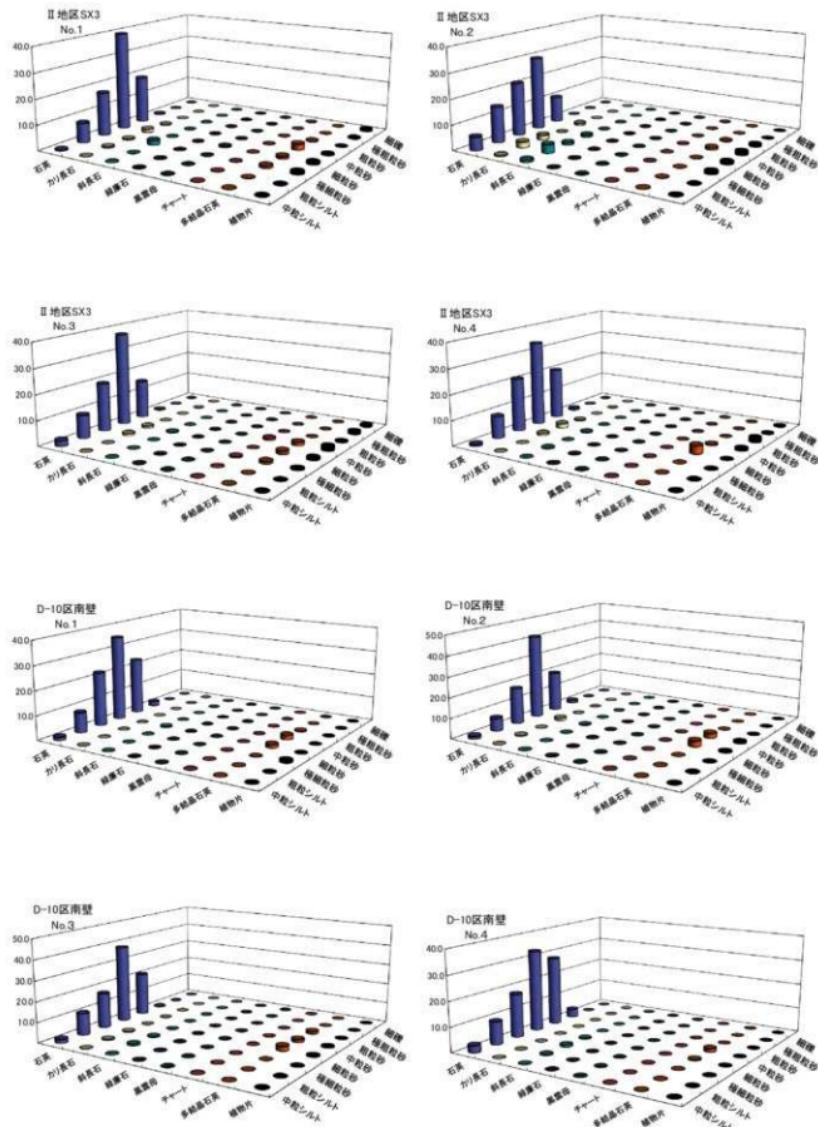
第39表 土壤薄片觀察結果(1)

出 場 機	試 料 名	砂 粉 区 分	砂 粒 の 種 類 構 成				その他の 植物 組織 体	合 計
			胚 物 質	片 石	石 片	その他の 植物 組織 体		
1 沙 砾	石英							
	カリ 長石	細 粒						
	粗 長石	粗 粒						
	重 石	粗 粒						
	黑 雲 母	粗 粒						
	黑 云 母	細 粒						
	透 明 矽 酸 鹽	粗 粒						
	透 明 矽 酸 鹽	細 粒						
	不 透 明 矽 酸 鹽	粗 粒						
	不 透 明 矽 酸 鹽	細 粒						
2 沙 砾	細 縫							2
	粗 粒 砂							1
	粗 粒 砂	1						1
	中 粒 砂	38	1					2
	細 粒 砂	79	3	1				1
	粗 粒 シルト	35	1	4				2
	粗 粒 シルト	16	1					44
	中 粒 シルト	1						1
	基 質							18
	孔 隙							1
3 水 通 過 性	細 縫							669
	粗 粒 砂							62
	粗 粒 砂							0
	粗 粒 砂							0
	中 粒 砂	21	2					3
	粗 粒 砂	59	2					28
	粗 粒 砂	42	4	2				63
	粗 粒 シルト	29	3	7				51
	中 粒 シルト	11	1	2				14
	基 質							120
4 砂 砾	孔 隙							48
	細 縫							2
	粗 粒 砂							3
	粗 粒 砂	1						1
	中 粒 砂	31						41
	細 粒 砂	75	2	1				2
	粗 粒 砂	39			1			45
	粗 粒 シルト	19						19
	中 粒 シルト	5						5
	基 質							862
5 砂 砾	孔 隙							59
	細 縫							1
	粗 粒 砂							1
	粗 粒 砂	2						1
	粗 粒 砂	41	1	1				46
	粗 粒 砂	66	4	1				45
	粗 粒 砂	43	2					61
	粗 粒 シルト	18		1				45
	中 粒 シルト	2						19
	基 質							2
6 砂 砾	孔 隙							956
	細 縫							58
	粗 粒 砂							58
	粗 粒 砂							0
	粗 粒 砂							0
	中 粒 砂	41	1	1				45
	粗 粒 砂	66	4	1				61
	粗 粒 砂	43	2					45
	粗 粒 シルト	18		1				19
	中 粒 シルト	2						2

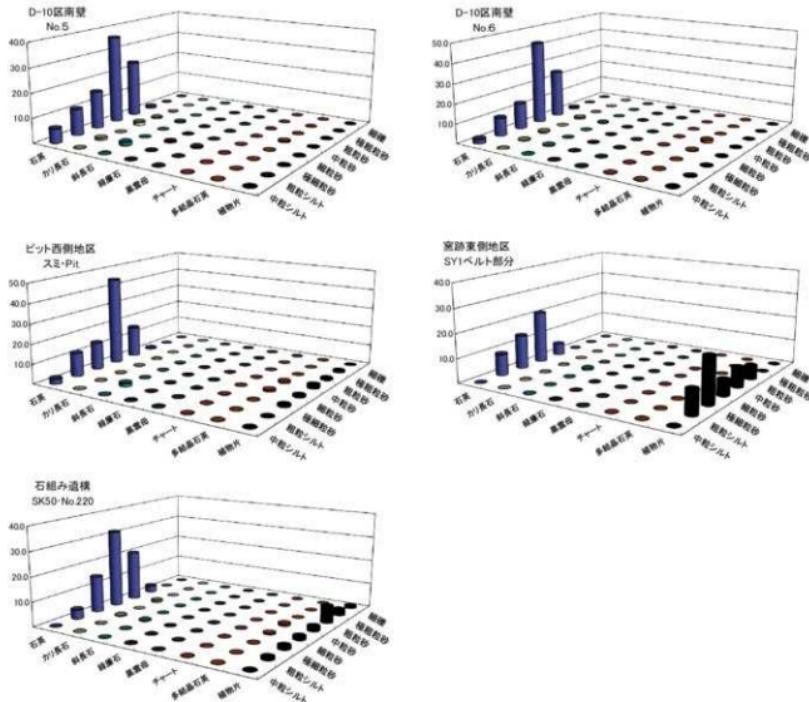
第39表 土壤薄片觀察結果(3)

西側地区	S M I T E R	細胞		0
		種細胞		1
		細胞	1	1
		中粒砂	17	2
		細胞	48	20
		種細胞	15	1
		細胞シルト	13	16
		中粒シルト	3	19
		基質		3
		孔隙		962
東部 東側地区	S Y B A L T O	細胞		0
		種細胞		0
		細胞	7	7
		中粒砂	6	10
		細胞	26	17
		種細胞	17	35
		細胞シルト	11	40
		中粒シルト		23
		基質		0
		孔隙		585
石炭層	K S 5 2 0	細胞		0
		種細胞		2
		細胞	3	5
		中粒砂	6	9
		細胞	41	21
		細胞	64	50
		種細胞	30	1
		細胞シルト	8	35
		中粒シルト		12
		基質		0
孔隙	K S 5 2 0	孔隙		670
		基質		75

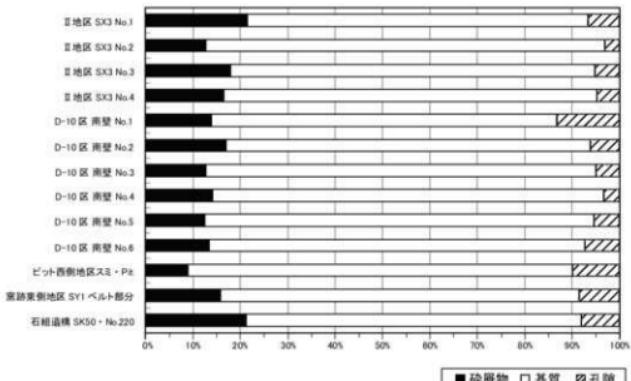
第39表 土壤薄片觀察結果(2)



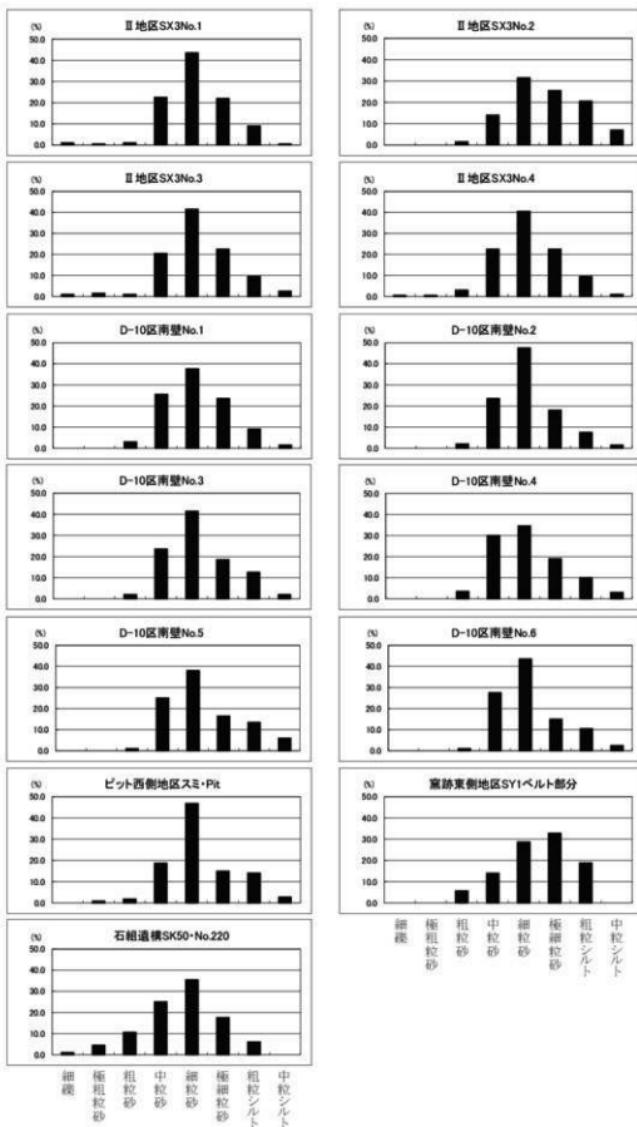
第 106 図 土壤試料の各粒度階における鉱物・岩石出現頻度 (1)



第 107 図 土壤試料の各粒度階における鉱物・岩石出現頻度 (2)



第 108 図 土壤試料の碎屑物・基質・孔隙の割合



第109図 土壌試料中の砂の粒径組成

における色調の変化であり、漸移的な変化となっている。褐色部と赤褐色部における相違点としては、赤褐色部の水酸化鉄の一部において赤味が強くなっている。直交ポーラー下において偏光を示す程度に結晶性が増しているという点が認められる。水酸化鉄は、普通270~325°C程度の焼成を受けると脱水し、赤鉄鉱へ変化することが知られている(吉木, 1959)。赤褐色部において水酸化鉄の赤味が強くなった現象は、この赤鉄鉱化による可能性も考えられる。その場合、土壤は270~325°C程度以上の焼成を受けたと推定することができる。

(10) 热残留磁気分析

1) バイロット試料の段階交流消磁結果

バイロット試料を用いた段階交流消磁の結果を第110図に示す。4個のバイロット試料は9mTまでの交流磁場で消磁できる、かなり大きな粘性磁化成分(磁気ノイズと考えられる)を持っていた。この結果に基づいて、残りすべての試料を9~25mTのいずれかの大きさの交流磁場で消磁し、残留磁化を測定した。帯磁率および交流消磁前後の残留磁化的強度および方向、さらにそれらの平均値を第40表にまとめた。

第40表 焼土試料の交流磁場消磁前後の残留磁化と帯磁率の測定結果

試料	帯磁率 (10 ⁻⁸ SI)	自然残留磁化			交流消磁(9mT)後残留磁化			
		強度(m Amm)	偏角(°)	伏角(°)	強度(m Amm)	偏角(°)	伏角(°)	
1	77	0.002342	38.5	12.6	0.000232	17.7	31.7	9
2	63	0.002610	-4.4	78.6	0.000712	17.2	73.2	9
3	61	0.000518	14.9	2.3	0.000226	6.8	32.3	9
4	62	0.000772	2.9	38.5	0.000308	8.2	35.9	9
5	65	0.001889	-65.8	34.6	0.000142	-16	47.5	15
6	72	0.000954	37.1	23.0	0.000367	9.2	34.0	9
7	65	0.001045	13.6	-35.2	0.000306	7.6	30.6	9
8	59	0.000763	-12.4	42.0	0.000308	3.4	35.6	9
9	51	0.000558	-1.4	51.9	0.000258	2.4	36.2	9
10	59	0.000611	46	-16.7	0.000259	10.5	25.4	9
11	46	0.000600	-7.6	37.0	0.000266	5.1	32.7	9
12	53	0.001878	-20.9	26.6	0.000596	-29.1	29.8	9
13	52	0.000283	17.5	24.9	0.000106	11.5	33.3	9
14	52	0.001264	107	51.1	0.000295	108.4	54.2	9
15	55	0.000412	50.1	24.3	0.000101	9.5	35.4	9
16	55	0.001196	-91.8	64.1	0.000046	8.7	31.5	25
17	53	0.000616	-76.8	36.4	0.000093	3.5	33.7	12
18	58	0.000368	0.2	42.8	0.000162	6.3	32.5	9
19	48	0.000382	-25.5	62.6	0.000133	6.7	33.0	9
20	57	0.000351	-12	53.2	0.000141	5.3	36.3	9
平均	58.2	0.000966			0.000253	7.4	33.2	
					k = 472.7	a = 95 ± 1.7		

現在

近畿地方の偏角(-7°), 伏角(48.5°)と沖縄の偏角(-4.6°), 伏角(39.1°)の差は

沖縄が偏角は22.4° 大きく、伏角は129.4° 小さい。

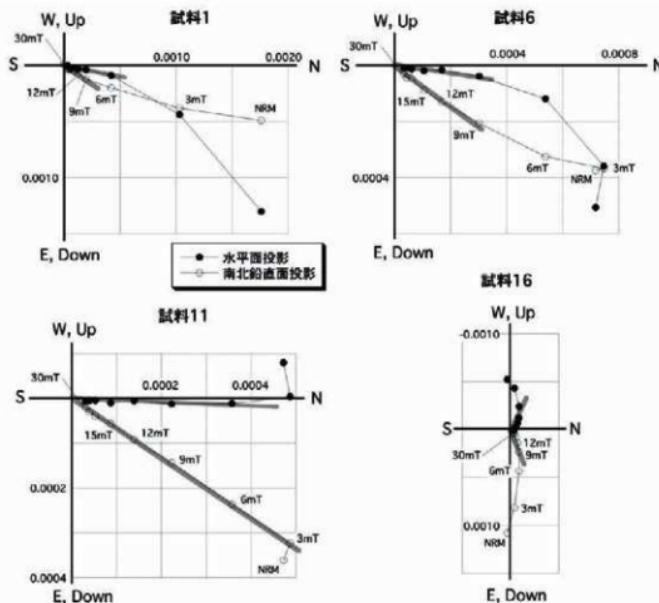
これを用いて、上記平均方向を近畿地方に換算すると、偏角=25.0°, 伏角=42.6°となる。

下線部データと近畿地方の標準曲線とを比較し、考古地磁気年代を決定する。

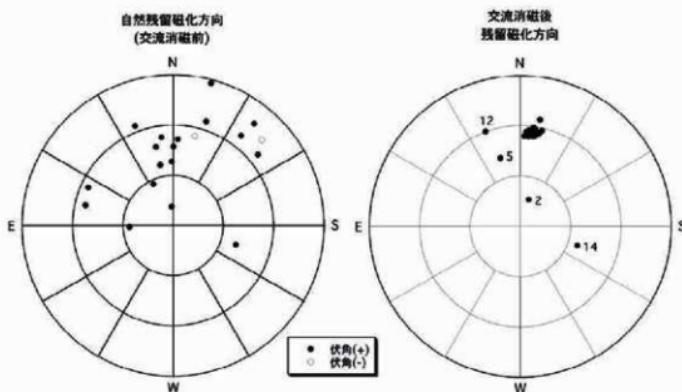
2) 考古地磁気年代決定

第111図で分かるように、土壤試料の残留磁化方向は交流消磁後に飛躍的に集中度を増す。このことは、交流消磁によって二次的な磁気ノイズである粘性残留磁化が効率よく取り除かれたことを示している。交流消磁後にも全体的な傾向からはずれる試料(2, 5, 12, 14)があるので、これらを除いた平均の残留磁化方向を用いて考古地磁気年代を決定した。

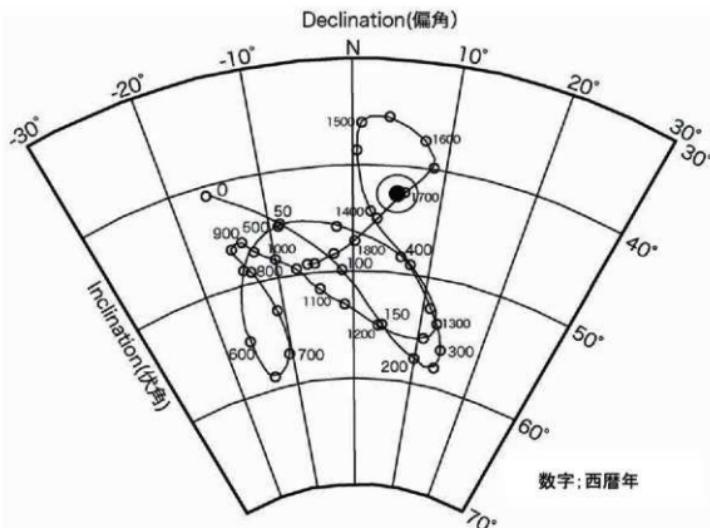
計16試料の消磁後の平均残留磁化方向は、偏角=7.4°、伏角=33.2°(信頼度パラメーター=472.7:大きいほどデータの精度が高い、フィッシャーの $\alpha_{95}=1.7^{\circ}$:小さいほど精度が高い)であった。この沖縄県での平均方向を近畿地方の値に換算した(偏角では-2.4°、伏角では+9.4°)。その結果、平均方向は偏角=5.0°、伏角=42.6°となる(第40表)。これらと近畿地方における考古地磁気標準曲線(Hirooka, 1971; 1983)との比較を行った。その結果を第112図に示す。



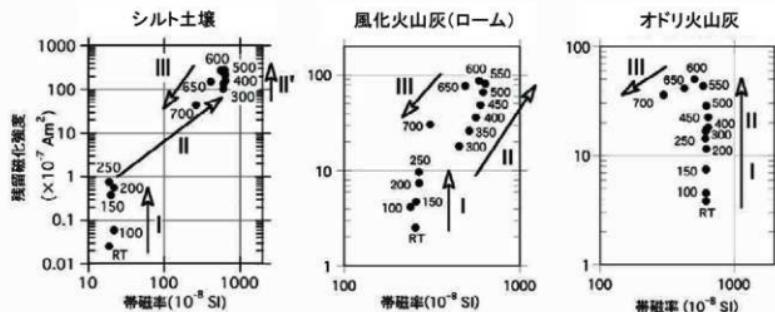
第110図 バイロット試料(1、6、11、16)の段階交流磁場消磁の結果(直交プロット)



第111図 焼土試料の交流磁場消磁前後の残留磁化方向



第112図 計16焼土試料の交流磁場消磁後の平均残留磁化方向(補正後.●)と近畿地方における標準古地磁気曲線(Hirooka,1971;1983)との比較



第113図 加熱実験による各種土壤の帯磁率および残磁化強度の変化(森永,1999)

標準曲線と焼土の平均方向の誤差円(α_{95} によって決まる)との重なりから年代を決定すると、焼土の最終の被熱年代として西暦1,700年頃が得られる。

3) 被熱温度の推定

第113図に、各種土壤を実験室内で加熱・冷却した後に測定した帯磁率と残留磁化強度を示す。加熱時間は試料内部に十分熱が届くように30分間で、低温側から50°Cおきに最大700°Cまで徐々に加熱温度を上げながら測定した結果である(森永, 1999)。250°C~300°Cでシルト質土壤や風化火山灰で帯磁率および残留磁化強度が増加する(図中のIIの初期過程)が、これは水酸化鉄ゲーサイト(αFeOOH)が酸化鉄ヘマタイト($\alpha\text{Fe}_2\text{O}_3$)を経てマグネタイト(Fe_3O_4)に変化した結果と考えられている。その後、どの試料も、図中のIの過程と同様に600°Cまでの間に熱残留磁化を獲得し、徐々に残留磁化強度を増加していく。さらに、600°Cを超えた辺りから、逆に帯磁率や残留磁化強度が減少している(図中のIIIの過程)。これは低温側で生成したマグネタイトがより酸化的なヘマタイトに変化していくことで説明できる。つまり、土壤試料中にヘマタイトが増える過程は600°C以上の加熱によって起こると考えられる。

第114図に、検討焼土試料中の磁性鉱物を調べるために行った、パイロット試料1と11の等温残磁化(IRM)獲得実験の結果を示す。横軸はIRMを着磁した直流磁場強度(mT)で、縦軸はIRM強度(m Am^2)である。図中のIRM獲得曲線は緩やかに上昇し、最高の直流磁場でもIRM強度が飽和していないことが分かる。このことは土壤試料中の大部分の磁性鉱物がヘマタイトであることに対応している。

第113図で分かるように、被熱によるヘマタイトの生成は600°C以上の温度で起こるので、検討焼土は少なくとも600°Cかそれ以上の温度で被熱したと推定できる。

4. 考察

(1) 水場遺構の年代と内外の環境

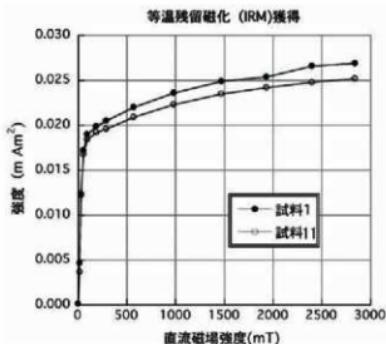
1) 年代について

放射性炭素年代測定の試料として抽出したヤブニッケイの葉は、水場遺構覆土層の中でも下部に相当する層位中に狭在していたものである。また、ヤブニッケイは、暖温帶常緑広葉樹林を構成する常緑高木であり、当該期の遺跡周辺にも生育していたことが推定される。したがって、試料とした葉の破片は、遺構埋積の比較的初期の段階に周囲から遺構内に混入した可能性があり、その放射性炭素年代は、遺構の埋積初期段階の時期を示唆していると考えられる。測定された年代は、較正された暦年では17世紀後半から現代まで至る年代であった。この結果から、水場遺構の年代としては、古くとも17世紀以降の近世の年代観が推定される。

2) 遺構内外の環境

土壤薄片観察により、いずれの層位の覆土も包含される砂粒の組成に大きな変化は認められず、また同じ調査区内の埋没谷内黒色層などと同様の組成であったことから、例えば土壌のような人為的な埋め戻しの層位ではなく、基本的にはいずれの層位も同様の由来おそらく周囲の土壤からの流れ込みによるものであると考えられる。したがって、その中で微化石の産状や土壤理化学性などの変化が認められたことは、遺構内の環境変化を示唆すると考えて良い。

珪藻化石の産状からは、水場遺構内の環境の推移が窺える。No.4、3からは、流水不定性で好酸性・付着性



第114図 パイロット試料(1, 11)の等温残磁化(IRM)獲得曲線

の *Pinnularia subgibba* var. *undulata* が優占したことで特徴付けられた。本種は、電解質成分の少ない貧栄養の水域に成育する種である (Krammer, 1992) ことから、これらの試料が堆積する頃は、遺構内には水が存在していたと考えられる。したがって、No. 4 採取層位の砂質シルト層および No. 3 採取層位のシルト層は、水場遺構として機能していた時の堆積層であると考えられる。その上位の No. 2 採取層位のシルト層が堆積する頃になると、陸生珪藻が増加することから、遺構内の乾燥化が示唆される。ただし、上位の No. 1 採取層位のように陸生珪藻が優占するほどではないことから、No. 2 採取層位のシルト層は、乾燥化の途上にある堆積層であった可能性がある。No. 1 採取層位の砂質シルト層では、陸生珪藻の割合が約 70% と優占した。現生の陸生珪藻の分布調査によれば、陸生珪藻の割合が全体の 70% 以上であれば、その試料の堆積した場所は常に空気に曝された好気的環境であることが推定できるとされている (伊藤・堀内, 1991)。このことから、No. 1 採取層位の砂質シルト層は、遺構内が完全に乾燥した状態での堆積層であったと考えられる。すなわち、No. 1 採取層位の砂質シルト層堆積時には、水場としての機能はなかったことが推定される。

なお、No. 2 採取層位では有機炭素量、腐植含量、全リン酸量が他の層位に比べてやや高い値が得られたが、これは上述した遺構内の環境変遷に従えば、滞水した状態から乾燥化する過程で遺構内の植生が繁茂したことなどが推定される。また、No. 4 採取層位では上位の試料に比べて粘土含量が少なく、また Al_{2}O_3 も少なかったことは、水場という環境の中で粘土やシルトなどの細粒碎屑物は遺構内に溜まりにくかったことを示しているのかも知れない。

脂肪酸分析では、No. 2 にコプロスタノールが多産した。コプロスタノールは、動物が食物を消化する際に大腸菌などの作用で生成されるもので、糞便等に特徴的に含まれる。また、コレステロールは、動物に特徴的な脂質の一種である。これらの動物性ステロールは、糞便に由来する可能性がある一方で、土壤微生物の影響により、土壤中に含まれる場合もある (筒木・近藤, 1997, 1998)。堆積物中の脂質の含量が検出器の感度を下回るほど少ない場合、検出される種類が極端に少なくなるため、割合で表すと特定の種類が誇張されることがある。No. 2 のステアリン酸が 100% なのはこの理由による。さらに、寄生虫卵分析では、回虫卵、鞭虫卵、マンソン裂頭条虫卵が検出されたが、いずれも含有量は 1 ccあたり 100 個体未満であった。寄生虫卵は、糞便などの堆積物で多産する調査事例が報告されているが、ある程度の人口密度を持つ集落では通常の土壤からもわずかに検出されることが知られている (例えば金原ほか, 1995a, b など)。また、寄生虫卵の分解に対する抵抗性は花粉化石と同程度とされており (黒崎ほか, 1993)、花粉化石の産状を考慮すると、元々取り込まれる寄生虫卵が少なかったことが窺える。これらのことから、遺構内で検出された動物性ステロールや寄生虫卵は汚染の範囲内と想定され、糞便が流入するような環境ではなかったと考えられる。

なお、No. 3、4 では、菌類由来のエルゴステロールや植物由来のカンペステロール、スティグマステロールが検出される。堆積物中には葉などの植物遺体がみられることから、これらは土壤中に含まれる植物遺体や植物を腐朽させる菌類に由来すると思われる。

水場遺構の周辺環境については、花粉化石および植物珪酸体の産状から推定することができる。花粉化石の保存状態・産出状況は良好であり、周辺の植生を反映する種類をみると、マツ属が多産し、ミカン科も多く認められる。多産するマツ属のうち、亜属まで同定できたものは全て複維管束亜属であった。日本に生育する複維管束亜属には、アカマツ・クロマツ・リュウキュウマツの 3 種類がある。このうち、アカマツとクロマツは、沖縄には自生せず、リュウキュウマツは沖縄特産で、広く生育している。これらのことから、今回の試料もリュウキュウマツの可能性が高い。リュウキュウマツは海岸から山地にかけて分布し、二次林の代表的要素である。ミカン科も沖縄には多く生育しており、周囲の森林の構成要素であったと推測される。その他にも常緑広葉樹林の構成要素であるヤマモモ属、コナラ属アカガシ亜属、イスノキ属、アカメガシワ属等や、海岸植生を反映するソテツ属等が検出されることから、豊富な樹種構成から成る森林や二次林が周囲や集水域に認められたと推測される。

草本植生では、イネ科を中心にカヤツリグサ科、アカザ科、キンポウゲ属、ヨモギ属、タンポポ亜科等が認められる。いずれも開けた明るい場所を好む種を含む分類群であることから、遺構周辺の草地に生育していたものに由来すると思われる。また、植物珪酸体では、わずかながらもイネ属が検出された。この点を考慮すれば、水場遺構周辺あるいは遺構内に何らかの形で稲作に関連したイネ属の植物体が存在した可能性がある。さらに、タケ亜科やススキ属、イチゴツナギ亜科などのイネ科植物が周辺で生育していた可能性がある。

(2)埋没谷内黒色層形成時の環境

埋没谷内黒色層のNo. 1、2、3、5、6は、無化石であったことから珪藻の生態的特徴に基づいて谷内の堆積環境を検討することは困難である。石灰岩台地上の腐植質土壌の珪藻分析は、普天間飛行場基地内の北東側に位置した野嵩タマタ原遺跡や上原同原遺跡でも実施されているが、今回と同様にほとんど産出しなかった(パリノ・サーヴェイ株式会社, 2006)。また、マージについてもキャンプ瑞慶覧遺跡で実施されているが、無化石であった。化石が産出しなかった理由は、谷が長期間水没する環境ではなく、珪藻の生育には不適当であったことと、珪藻が生育したとしても湿润亜熱帯雨林気候の下では過酷な脱珪酸作用のために微細な珪酸質からなる珪藻化石は容易に溶解してしまったと考えられる。

同様に花粉化石もほとんどあるいは全く検出されない。花粉化石・シダ類胞子の産出状況が悪い場合、元々取り込まれる花粉量が少なかった、あるいは取り込まれた花粉が消失した、という2つの可能性があげられる。一般的に花粉やシダ類胞子の堆積した場所が、常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壤微生物によって分解・消失するとされている(中村, 1967; 徳永・山内, 1971; 三宅・中越, 1998など)。おそらく、好氣的環境下にあり、堆積後の経年変化により花粉やシダ類胞子が分解・消失したことが想定される。

植物珪酸体の産状からは、No. 6～3の層位では生育していたイネ科植物の特定に至らないが、No. 2の層位ではタケ亜科やススキ属、No. 1の層位ではタケ亜科、ススキ属、イチゴツナギ亜科の生育がうかがえる。

なお、現地調査所見から、本地点では耕作の可能性が指摘されている。No. 2から下位での植物珪酸体の産状からは、耕作のあった可能性を積極的に支持することは難しい。ただし、No. 1ではイネ属の機動細胞珪酸体がわずかに見られ、この層位が稲作に関連する層であった可能性はある。また、No. 3～No. 1では有機炭素量および腐植含量が下位に比べて多い傾向が得られており、このことも耕作に関連する可能性はある。しかし、全リン酸量や可給態リン酸量は下位の試料に多い傾向があり、耕作のあった層位は現時点では判然としない。

(3)各種遺構の年代・用途・機能について

1) ピット

覆土中から抽出された炭化材の放射性炭素年代からは、較正された暦年で10世紀初頭から11世紀前半頃までの年代が得られている。現時点では、炭化材とピットとの関係に不明な点が多いことから、この年代をそのままピットの年代とはできないが、今後の周辺遺構における参考資料になると言える。

珪藻、花粉、植物珪酸体の各微化石の産状は不良であり、微化石の産状からは、ピットの性格・用途推定に関する情報は得られなかった。ピットの珪藻分析はキャンプ瑞慶覧遺跡で実施されているほか、野嵩タマタ原遺跡でも実施されているが、今回と同様に無化石であった(パリノ・サーヴェイ株式会社, 2006)。無化石の理由は、これまでの報告で述べられているように、脱珪酸作用のために溶解してしまったと考えられる。

なお、土壤の理化学性や元素組成および薄片観察で認められた砂粒組成やその粒径組成などは、埋没谷内黒色層に近似することから、ピットの覆土は、周囲の土壤に由来し、特定の成分の付加した痕跡は認められない。

2) 窯跡

a) 年代について

覆土中から抽出された炭化材の放射性炭素年代からは、較正された暦年で17世紀後半から現代までに至る年代が示された。また、炭化材の樹種である複維管束亜属は、沖縄本島ではリュウキュウマツのみが分布していることから、今回の試料もリュウキュウマツの可能性が高い。リュウキュウマツは、河畔・海岸などの林縁部や伐採跡の二次林に生育し、木材は比較的強度・保存性が高いが、シロアリには弱い。また、松脂を多く含み、高い火力を得られることから、窯業等の燃料材として利用されることがある。今回の結果から、本遺跡でも窯の燃料材として利用されたことが推定される。したがって、上述した炭化材の年代は、窯の操業年代を示唆している可能性があると考えられる。

一方、窯跡壁面の焼土から得られた考古地磁気年代は、焼土の最終被熱年代として西暦1700年頃の年代が推定された。この結果と上述した燃料材の可能性が高いとされた炭化材からの年代も考慮すれば、窯跡の操業年代としては18世紀頃の年代を推定することができる。

b) 周辺環境について

珪藻化石の産状では、*Amphora montana*, *Luticola mutica*, *Hantzschia amphioxys*等の耐乾性の高い陸生珪藻A群が優占したことで特徴付けられた。これらの内、後者の2種は、土壤表面に生育する土壤珪藻としても一般的なもの(Patrick, 1977、伊藤・堀内, 1991)である。また、前者の*Amphora montana*は、コケに付着して生育することが一般的な種である(伊藤・堀内, 1991)。よって、窯跡に使用された土壤は、コケが生育するような湿り気のある環境で堆積したものが使用されたと考えられる。

一方、植物硅酸体の産状からは、ススキ属の植物体が燃やされた後の灰の存在が示唆される。この灰が燃料材に由来するものであれば、調査区周辺に生育するススキ属が燃料材のひとつとして利用されたことが考えられる。また、土壤理化学性における有機炭素量・腐植含量およびリン酸含量・可給態リン酸量の多いことと元素組成におけるCaOとP2O5の割合が高いことなどは、燃料材として使用された植物体に由来する可能性がある。なお、花粉分析残渣中には、炭化あるいは分解の影響を受けた微細な植物片が多量に含まれていた。

c) 焼土の被熱について

窯跡壁面の焼土は、薄片観察により270~325°C程度以上の温度が推定され、熱残留磁気からは600°C以上の温度が推定された。两者の結果に矛盾はなく、すなわち最低でも600°C以上の高温を受けたことが示唆される。

3) 炉跡(I地区E-8)

焼土とされた試料は、薄片観察により270~325°C程度以上の温度による被熱が推定された。上述した窯跡焼土の例なども考慮すれば、この温度以上の高温を受けた可能性もあると考えられる。

4) 石組遺構

石組遺構から出土した炭化材は、放射性炭素年代測定により、較正された暦年で17世紀後半から現代までに至る年代が示された。この年代は、前述した水場遺構出土の葉の年代や燃料材の可能性のある窯跡出土の炭化材の年代とほぼ同様である。これらのことから、石組遺構もこれらの遺構とほぼ同時期に機能していた可能性があると考えられる。なお、年代測定試料とした炭化材は、針葉樹のマキ属であった。マキ属は、針葉樹としては重硬・緻密で強度・耐水性が高い材質を有し、シロアリにも強いことから、沖縄県内では建築部材として利用される。今回の試料は、炭化していることから、何らかの理由で火を受けていることが推定される。今後、樹種同定結果や出土状況も含めてマキ属の利用状況を検討する必要がある。

珪藻化石の産状では、*Luticola mutica*が優占し、*Hantzschia amphioxys*等を伴う陸生珪藻A群が優占したことで特徴付けられた。これらの2種は、前述したように土壤珪藻として一般的なものであ

る。よって、石組遺構の覆土は土壤珪藻の生育に適するような好気的環境で徐々に堆積したと考えられる。なお、低率ではあるが、好流水性で付着性の *Nitzschia frustulum* が検出されたことからすると、一時的ながらも水の流れがあった可能性も示唆される。

植物珪酸体では、珪化組織片が検出されている。これが燃料材に由来するものであれば、イネ属、タケア科、スキ属が燃料材として利用されたことが考えられる。燃料材の存在については、上述した窯跡同様に、土壤理化学性における有機炭素量・腐植含量およびリン酸含量・可溶態リン酸量の多いことと元素組成における CaO と P2O5 の割合が高いことからも支持される。

なお、本遺構では、水場遺構の No. 2 と同様、コブロスタノールが多産する。この場合も、寄生虫卵が 1 個体も検出されなかったことから、コブロスタノールは糞便に由来するものではなく、脂質の保存が悪いため、土壤中に微量含まれていたものが誇張されているものと考えられる。

II. 土器の胎土分析

1. 試料

試料は、SI-1 から出土した貝塚時代中期とされる土器片 11 点と、I 区 SK19 から出土した貝塚時代中期とされる土器片 3 点、同遺構出土のグスク時代とされる土器片 3 点、および同遺構出土のグスク時代とされる土器片 4 点の合計 21 点である。試料には、上述した順に試料番号 1 ~ 21 までが付されている。各試料の観察所見および分析項目を一覧にして第 41 表に示す。

後述する分析方法のうち、薄片作製観察には全 21 点を対象としたが、蛍光 X 線分析および電子顕微鏡観察には、特に選択した 10 点を対象とした。

第 41 表 胎土分析試料一覧

試料番号	出土地区	時代編	外面	内面	混入物	色調	薄片作製鑑定	蛍光 X 線分析	電子顕微鏡観察	薄片分析による分類																		
										動物・岩石組成	鉱物的	和洋混成	A	B	C	D	E	I	H	III	II	III	IV	V	VI			
1 SI-1	貝塚時代中期	焼け	調整良好	-	褐色	○					■	■																
2 SI-1	貝塚時代中期	調整良好	土壤付着	-	褐色	○	○	○																				
3 SI-1	貝塚時代中期	調整良好	土壤付着	-	褐色	○																						
4 SI-1	貝塚時代中期	調整良好	調整良好	内面に露出。 内:子役岩	褐色	○	○	○																				
5 SI-1	貝塚時代中期	調整良好	土壤付着	露出し。 内外:子役岩	外:赤褐色 内:褐色	○																						
6 SI-1	貝塚時代中期	風化・多孔質	風化	-	褐色	○	○	○																				
7 SI-1	貝塚時代中期	風化・多孔質	風化	-	褐色	○																						
8 SI-1	貝塚時代中期	風化・多孔質	風化	-	赤褐色	○	○	○																				
9 SI-1	貝塚時代中期	風化・多孔質	土壤付着	-	赤褐色	○																						
10 SI-1	貝塚時代中期	風化・多孔質	焼け	-	赤褐色	○																						
11 SI-1	貝塚時代中期	風化・多孔質	調整良好	-	外:赤褐色 内:褐色	○	○	○																				
12 I 区 SK19	貝塚時代中期?	調整良好	調整良好	露出し	赤褐色～褐色	○																						
13 I 区 SK19	貝塚時代中期?	調整良好	-	露出し。 内:子役岩	赤褐色～褐色	○	○	○																				
14 I 区 SK19	貝塚時代中期?	調整良好	-	露出し。 内:子役岩	赤褐色～褐色	○																						
15 I 区 SK19	グスク時代?	調整やや良好	調整やや良好	-	褐色	○																						
16 I 区 SK19	グスク時代?	調整良好	調整やや良好	やや露出し	外:褐色 内:褐色	○																						
17 I 区 SK19	グスク時代?	調整良好	調整良好	やや露出し。 内:千枚岩	外:褐灰色 内:褐色	○	○	○																				
18 I 区 SK19	グスク時代	調整良好	凹内有り	-	褐灰色	○																						
19 I 区 SK19	グスク時代	調整良好	凹内有り	内面に一部露出し	褐灰色	○	○	○																				
20 I 区 SK19	グスク時代	調整良好? 多孔質	多孔質	-	褐色	○	○	○																				
21 I 区 SK19	グスク時代	風化・ 多孔質	風化・ 多孔質	-	赤褐色	○	○	○																				

2. 分析方法

胎土分析には、現在様々な分析方法が用いられているが、大きく分けて鉱物組成や岩片組成を求める方法と化学組成を求める方法がある。前者は粉碎による重鉱物分析や薄片作製などが主に用いられており、後者では蛍光X線分析が最もよく用いられている方法である。今回の試料のように比較的粗粒の砂粒を含み、低温焼成と考えられる土器の分析では、前者の方が、胎土の特徴が捉えやすいこと、地質との関連性を考えやすいことなどの利点がある。前者の方法の中でも薄片観察は、胎土中ににおける砂粒の量はもちろんのこと、その粒径組成や砂を構成する鉱物、岩石片および微化石の種類なども捉えることが可能であり、得られる情報が多い。一方、蛍光X線分析は、胎土中の砂粒だけではなく、素地を作っている粘土も含めた特性を表しており、また、機器分析による数値データで表されることから、客觀性、再現性がよいということがある。したがって、ここでは薄片観察法および蛍光X線分析を併用して胎土分析を行う。さらに本報告では、胎土の微小な形状について電子顕微鏡を用いた観察を行い、その特徴の有無を確認する。以下に各分析の手順を述べる。

(1) 薄片作製観察

薄片は、試料の一部をダイアモンドカッターで切断、正確に0.03mmの厚さに研磨して作製した。薄片は偏光顕微鏡による岩石学的な手法を用いて観察し、胎土中に含まれる鉱物片、岩石片および微化石の種類構成を明らかにした。

データの表示は、松田ほか(1999)が示した仕様に従う。砂粒の計数は、メカニカルステージを用いて0.5mm間隔で移動させ、細縫～中粒シルトまでの粒子をポイント法により200個あるいはプレパラート全面で行った。また、同時に孔隙と基質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物・岩石別出現頻度の3次元棒グラフ、砂粒の粒径組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを表示する。

(2) 蛍光X線分析

波長分散型蛍光X線装置を用いたガラスピード法による定量分析を行う。

a) 測定元素

測定元素はSiO₂、TiO₂、Al₂O₃、Fe₂O₃、MnO、MgO、CaO、Na₂O、K₂O、P₂O₅の10元素およびLOIである。

b) 装置

理学電機工業社製RIX1000(FP法のグループ定量プログラム)

c) 試料調製

試料を振動ミル(平工製作所製TI100; 10ml容タンクステンカーバイト容器)で微粉碎し、105°Cで4時間乾燥させた。この微粉碎試料についてガラスピードを以下の条件で作成した。

溶融装置；自動剥離機構付理学電機工業社製高周波ピートサンプラー(3491A1)

溶剤及び希釈率；融剤(ホウ酸リチウム)5.000g; 試料0.500g

剥離剤；LiI(溶融中1回投入)

溶融温度；1200°C 約7分

d) 測定条件

X線管；Cr(50kV-50mA)

スペクトル；全元素K_α

分光結晶；LiF, PET, TAP, Ge

検出器；F-PC, SC

計数時間；Peak40sec, Back20sec

(3) 電子顕微鏡観察

電子顕微鏡は、日本電子株式会社製のJCM-5700を使用した。電子顕微鏡観察にあたっては、試料よ

り小片を採取し、破断面を作成した。破断面は、できるだけ広い面積を観察できるように作成した。破断面の蒸着は行っていない。写真撮影では、なるべく特徴ある場所を選んで撮影した。

3. 結果

(1) 薄片作製鑑定

結果を第42表、第115図～第122図に示す。砂粒の種類構成をみると、互いに共通した種類とその量比を有する試料が認められ、複数のグループに分けることができる。ここでは以下に示すA～E類までの5種類の分類を見だした。

A類：鉱物片は、石英が多く、少量の斜長石を伴い、少量または微量の緑廉石と微量の白雲母や黒雲母を含む。岩石片では多結晶石英が多く、黒雲母千枚岩やホルンフェルスおよび粘板岩の変成岩類も比較的多く含まれ、少量の脈石英を伴う。粘板岩は白雲母含有の珪質粘板岩であり、脈石英は千枚岩や粘板岩起源と考えられる。試料によってはチャートや頁岩、砂岩の堆積岩類も微量または少量含まれ、緑色岩も微量含まれる。これに分類される試料は、今回の試料の中で最も多く、試料番号2～5、12～17の10点である。

B類：鉱物片は石英と斜長石が同量程度に多く、他に微量の斜方輝石、單斜輝石、角閃石、不透明鉱物が含まれる。斜長石は、清澄な結晶であり、火山岩あるいは火碎岩由来と考えられる。岩石片は多結晶石英のほかに流紋岩・ディサイト、安山岩および脈石英が少量含まれ、微量のチャートや砂岩、ホルンフェルスなども含まれる。これに分類される試料は、試料番号1の1点のみである。

C類：鉱物片は石英が非常に多く、他には微量の斜長石、緑廉石、不透明鉱物を含むのみである。岩石片は多結晶石英が多く、他には少量の脈石英を伴うのみである。これに分類される試料は、試料番号11の1点のみである。

D類：鉱物片は全体的に少量であるが、その中では石英が比較的多く、他には微量の斜長石、緑廉石、黒雲母などが含まれる。岩石片は多結晶石英や脈石英などが微量含まれるのみであるが、碎屑片として少量の火山ガラスと多量の火山ガラス質粘土塊を含む。火山ガラスは平板状を呈するいわゆるバブル型であり、火山ガラス質粘土塊は多量のバブル型火山ガラスを包含している。多量のバブル型火山ガラスの中には褐色を呈するものも少量含まれている。これに分類される試料は、試料番号18、19の2点である。

E類：砂粒自身が非常に少ないことが特徴である。鉱物片は石英や斜長石が認められ、岩石片はチャートなどの堆積岩類が含まれる。これに分類される試料は、今回の試料ではA類に次いで多く、試料番号6～10、20、21の7点である。

碎屑物・基質・孔隙の割合で、碎屑物の量比に着目すると、15～20%前後の値を示す試料と10%前後の試料、および5%未満という試料とに3分できる。ここでは順にI、II、III類とする。この分類は、上述した 砂粒の種類構成による分類とほぼ整合しており、I類の試料はA類とB類およびC類の試料に相当し、II類はD類、III類はE類に相当する。

砂粒全体の粒径組成では、試料によってモードとなる粒径が異なっている。ここでは、粒径組成の粗い順に以下の1～6類までを設定することができた。

1類：粗粒砂をモードとし、それに次いで中粒砂、細粒砂も同程度に高い割合を示す。試料番号12がこれに分類される。

2類：粗粒砂をモードとするが、極細粒砂または粗粒シルトに第二のピークが認められる。試料番号5、14、18、19の4点がこれに分類される。

3類：中粒砂をモードとし、それに次いで粗粒砂も同程度に多く、さらに粗粒シルトに第二のピークが認められる。試料番号13がこれに分類される。

4類：中粒砂をモードとする山形のヒストグラムを示す。試料番号1～4、11、15の6点がこれに分

第42表 胎土薄片観察結果(1)

試料番号	砂粒区分	砂粒の種類 横成																			合計
		結晶片									岩石片									その他	
		石英 カリ 斜長石 斜長輝石	榍石 斜方輝石 斜方輝輝石	单斜石 角閃石	绿萤石 白萤母	黑萤母	不明結晶物	チート 真岩	砂岩 凝灰岩 法轮岩・ダイサイト	安山岩 多晶石英岩 花岗岩 注目岩類	黑长石 千枚岩	ホルム 粘板岩 カルシフエルズ	绿长石 绿长岩	黄长石 黄长岩	变质岩 斑状岩	珪化岩 火成ガラス	粘土塊 火成ガラス 火成ガラス質粘土塊	海綿骨針 堆積送體			
1 砂	細粒																			0	
	種粗粒砂	1	1																	4	
	粗粒砂	6	12	1																22	
	中粒砂	19	16	4	1	1				2	1	5								53	
	細粒砂	17	9	3			1		1		2	1								34	
	種細粒砂	3	3	1				1												8	
	粗粒シルト	2	1																	3	
	中粒シルト																			0	
	基質																			514	
	孔隙																			45	
2 砂	細粒																			3	
	種粗粒砂	1									1									1	
	粗粒砂	5							1		1		4		3	1	3	3		21	
	中粒砂	3	2			2	1						10		3	1	6	6	1	35	
	細粒砂	12				1		1			2		1							19	
	種細粒砂	6	3																	9	
	粗粒シルト	5							1											6	
	中粒シルト	3																		3	
	基質																			544	
	孔隙																			19	
3 砂	細粒																			0	
	種粗粒砂	1																		3	
	粗粒砂	5	1				2		1				3		5	1	1	4	2	1	
	中粒砂	5	2			1							10		5	1	3	5	1	33	
	細粒砂	10	8			1							6		1	1	3			30	
	種細粒砂	14				1							1							16	
	粗粒シルト	7				1														8	
	中粒シルト	1																		1	
	基質																			565	
	孔隙																			16	
4 砂	細粒																			0	
	種粗粒砂	1						1					3		1		2			8	
	粗粒砂	5					2		1				5		5	1	1	4	2	1	
	中粒砂	5	2			1							10		5	1	3	5	1	33	
	細粒砂	10	8			1							6		1	1	3			30	
	種細粒砂	14				1							1							16	
	粗粒シルト	7				1														8	
	中粒シルト	1																		1	
	基質																			565	
	孔隙																			16	
5 砂	細粒																			0	
	種粗粒砂	1						1					3		1		2			8	
	粗粒砂	9						3					5		1	2	1			22	
	中粒砂	11	1			1	3						17		4	12	1			50	
	細粒砂	13	1	2			1	1					15							34	
	種細粒砂	11	4						1											16	
	粗粒シルト	18	5			6														29	
	中粒シルト	6																		6	
	基質																			729	
	孔隙																			11	
5 砂	細粒																			0	
	種粗粒砂																			8	
	粗粒砂	5											2	2	7	20	8	3		47	
	中粒砂	5	4										4		1	9	7	2		32	
	細粒砂	4	1										3			2				10	
	種細粒砂	8	1			3														12	
	粗粒シルト	21	2			13														36	
5 砂	中粒シルト	5																		5	
	基質																			640	
	孔隙																			21	

第42表 胎土薄片観察結果(2)

試料番号	砂粒区分	砂粒の種類 横成																			合計
		結物片									岩石片									その他	
		石英 カリ 斜长石 鈍方解石 辉石	单斜石 角闪石 绿萤石	白长母 黑长母	不透明結物	チート 真岩 凝灰岩 法轮岩・ダイサイト	砂岩 安山岩 花岗岩類 重晶石岩 千枚岩	ホルム 粘板岩 绿页岩 变质岩 珪化岩 泥质岩 火成ガラス 粘土塊 海藻骨针 堆積送植体	合計												
6	細粒																				0
	粗粒砂																				0
	粗粒砂																				0
	中粒砂																				0
	細粒砂																				0
	粗粒シルト	1	1																		4
	粗粒シルト	4	2																		4
	中粒シルト																				10
	基質																				0
	孔隙																				98
7	細粒																				0
	粗粒砂																				0
	粗粒砂																				0
	中粒砂																				0
	細粒砂	3																			4
	粗粒シルト	10	1																		12
	粗粒シルト	5	2																		7
	中粒シルト	1																			1
	基質																				563
	孔隙																				56
8	細粒																				0
	粗粒砂																				0
	粗粒砂																				0
	中粒砂																				0
	細粒砂	3																			4
	粗粒シルト	10	1																		12
	粗粒シルト	5	2																		7
	中粒シルト	1																			1
	基質																				520
	孔隙																				116
9	細粒																				0
	粗粒砂																				0
	粗粒砂																				0
	中粒砂																				0
	細粒砂	3																			0
	粗粒シルト	11	1																		5
	粗粒シルト	7																			6
	中粒シルト	1																			0
	基質																				520
	孔隙																				116
10	細粒																				0
	粗粒砂																				0
	粗粒砂																				0
	中粒砂																				1
	細粒砂	4	2																		1
	粗粒シルト	2	1																		1
	中粒シルト																				0
	基質																				532
	孔隙																				59

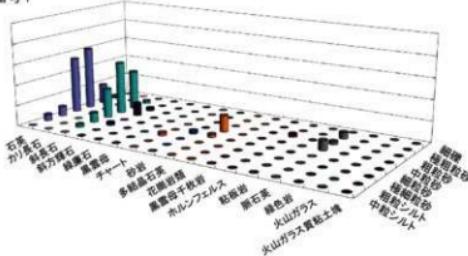
第42表 胎土薄片観察結果(3)

試料番号	砂粒区分	砂粒の種類 横成																		合計	
		結晶片						岩石片						その他							
		石英 カリ 斜長石 斜長輝石	榍石 角閃石 单斜辉石	绿萤石 白萤石 黑萤石	不透明結晶物	チート 真岩 凝灰岩 法轮岩・ダイサ イト	砂岩 安山岩 花岗岩類 注目岩	多晶石英 安山岩 花岗岩類 注目岩	ホルムフェルズ 粘板岩 绿页岩 变质岩 珪化岩 火成ガラス 粘土塊 海綿骨針 堆積送錫体	0											
11	砂	細粒																		0	
		粗粒砂	2																	7	
		粗砂	13																	32	
		中粒砂	65	1																87	
		細粒砂	46	2																59	
		粗粒シルト	5																	8	
		粗粒シルト	4	1																6	
12	砂	中粒シルト	1																	1	
		基質																		669	
		孔隙																		41	
		細粒																		0	
		粗粒砂	1																	6	
		粗砂	8	1																48	
		中粒砂	7	2	1			3												46	
13	砂	細粒砂	16	4			3	1												40	
		極細粒砂	8	4																13	
		粗粒シルト	8	1			2													11	
		中粒シルト	3																	3	
		基質																		690	
		孔隙																		28	
		細粒																		0	
14	砂	粗粒砂																		6	
		粗砂	5																	28	
		中粒砂	4	1	2				1											31	
		細粒砂	1	1	2					1										11	
		極細粒砂	7	5			2	2												16	
		粗粒シルト	12	4			8													24	
		中粒シルト	1	1																2	
15	砂	基質																		574	
		孔隙																		11	
		細粒																		0	
		粗粒砂																		6	
		粗砂	3	1						2	1		3		4	2	18	2	1	37	
		中粒砂	4	3					1		1		4	1	1	1	13			29	
		細粒砂	5	2								4		2	4					17	
15	砂	極細粒砂	3	3	1	1							1							9	
		粗粒シルト	12	6		3														21	
		中粒シルト	6																	6	
		基質																		555	
		孔隙																		10	
		細粒																		0	
		粗粒砂																		1	
15	砂	粗砂	2																	17	
		中粒砂	6	1	3			1	1				21		2	4	18	1		58	
		細粒砂	10	4				1					7		2	1	14			39	
		極細粒砂	6	2									3		2					13	
		粗粒シルト	2	1					1											4	
		中粒シルト																		0	
		基質																		647	
		孔隙																		18	

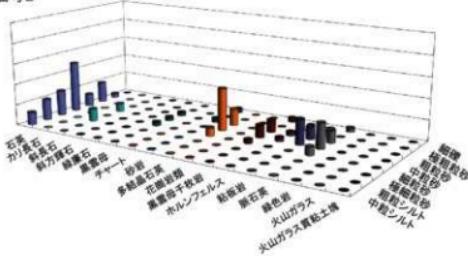
第42表 胎土薄片観察結果(4)

試料番号	砂粒区分	砂 粒 の 種 類 構 成																合計										
		礆 物 片				岩 石 片				その他の																		
		石英	カリ長石	斜長石	斜方輝石	角閃石	緑泥石	白雲母	黑雲母	不透明鉱物	チヤード	頁岩	砂岩	基底岩	花崗岩類	多結晶岩類	安山岩	高級岩質	ホルンブリルス	粘板岩	板岩	緑色岩	変質岩	珪化岩	火山ガラス	蛇紋岩	海綿骨格	植物遺体
16	砂	細理																	0									
		極粗粒砂																	0									
		粗粒砂	5				1	1		1		4		2	1	11	2	1	4									
		中粒砂	3					1	1			8		1	5	16	2		29									
		細粒砂	7	1	3			2	3	1	1		7		2	9	3		37									
		極細粒砂	10	2				1				5					1		39									
		粗粒シルト	5	1															19									
		中粒シルト	1																6									
		基質																	1									
		孔隙																	729									
17	砂	細理																	0									
		極粗粒砂																	0									
		粗粒砂	3								1	4				2			7									
		中粒砂	13	7					1		2	9		5	5	7	6		38									
		細粒砂	24	7			2	2	1		4	17		1	2	4	4	1	54									
		極細粒砂	16	3			3	1			1	15			6		1		59									
		粗粒シルト	11	1			3					3							26									
		中粒シルト	1																1									
		基質																	780									
		孔隙																	17									
18	砂	細理																	4									
		極粗粒砂																	4									
		粗粒砂	2				3				2	2							13									
		中粒砂	3									2							13									
		細粒砂	1							1									34									
		極細粒砂	9				2					1							27									
		粗粒シルト	7	1		4													17									
		中粒シルト																	0									
		基質																	642									
		孔隙																	18									
19	砂	細理																	1									
		極粗粒砂																	1									
		粗粒砂																	8									
		中粒砂	3	1			2				2	1							20									
		細粒砂	2									2							12									
		極細粒砂	3						2										6									
		粗粒シルト	9	1		1						1							7									
		中粒シルト	4																11									
		基質																	4									
		孔隙																	58									
20	砂	細理																	0									
		極粗粒砂																	0									
		粗粒砂																	0									
		中粒砂																	0									
		細粒砂								1									1									
		極細粒砂	6					1	1										8									
		粗粒シルト	10															1	12									
		中粒シルト	6																6									
		基質																	574									
		孔隙																	95									
21	砂	細理																	0									
		極粗粒砂																	1									
		粗粒砂																	0									
		中粒砂																	0									
		細粒砂																	1									
		極細粒砂	1							2									3									
		粗粒シルト	2																2									
		中粒シルト																	0									
		基質																	426									
		孔隙																	129									

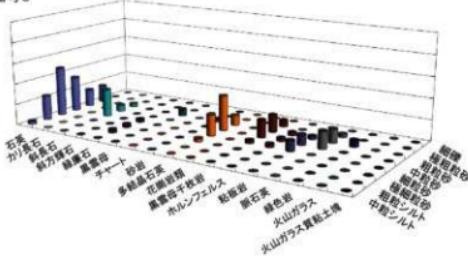
試料番号1



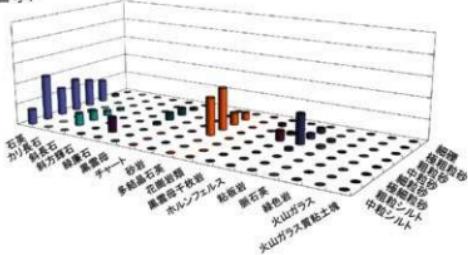
試料番号2



試料番号3

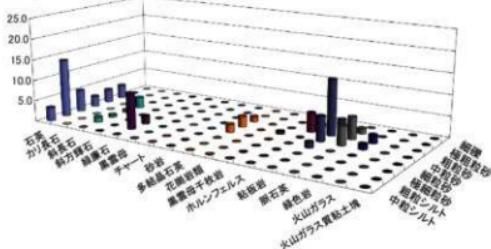


試料番号4

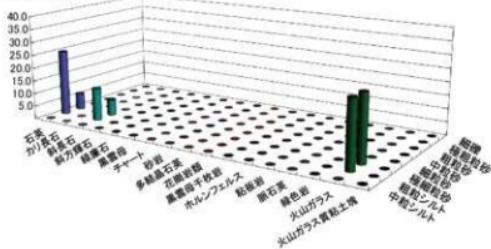


第 115 図 胎土の各粒度階における鉱物・岩石出現頻度 (%) (1)

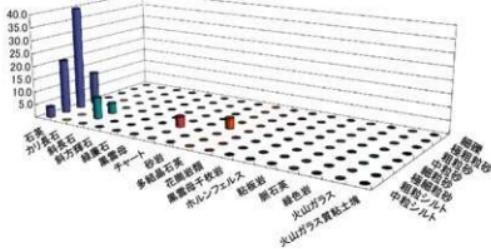
試料番号5



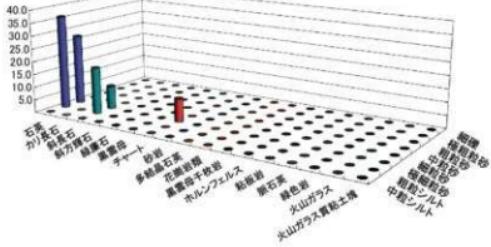
試料番号6



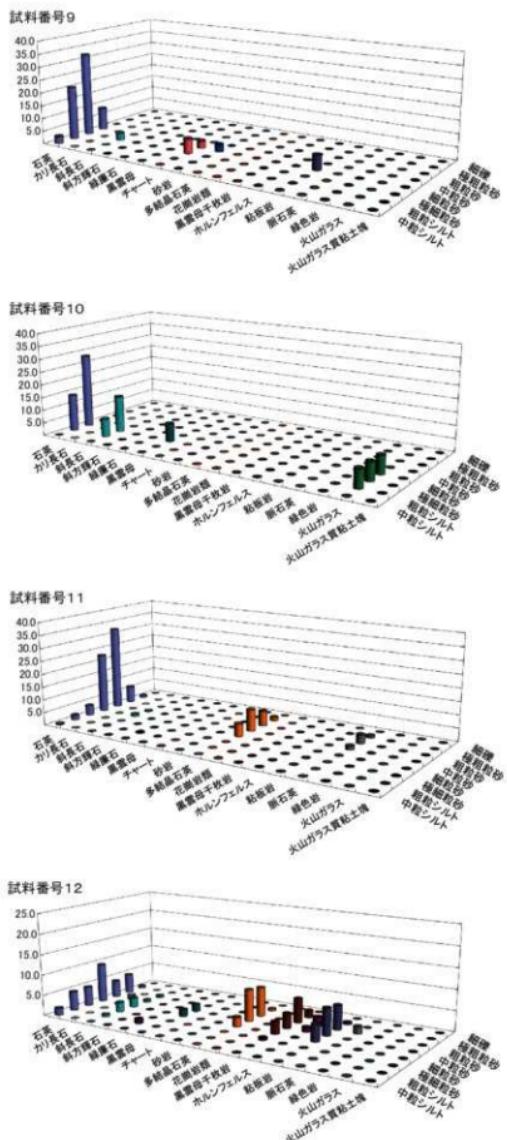
試料番号7



試料番号8

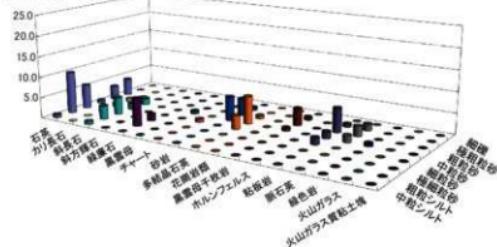


第116図 胎土の各粒度階における鉱物・岩石出現頻度 (%) (2)

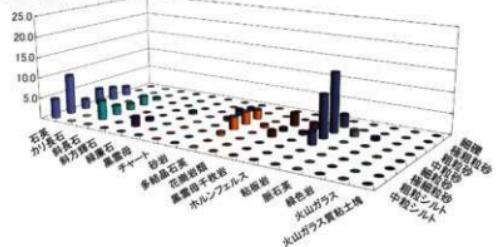


第117図 胎土の各粒度階における鉱物・岩石出現頻度(%) (3)

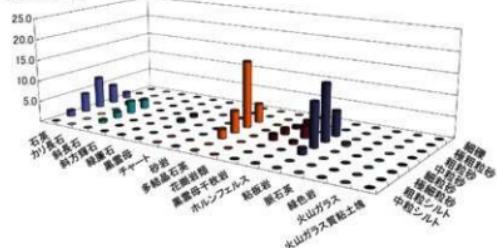
試料番号13



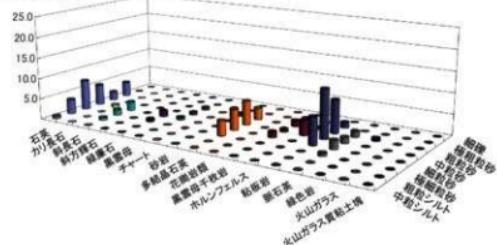
試料番号14



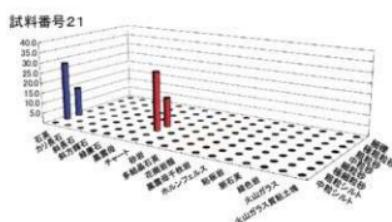
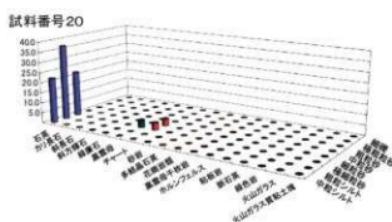
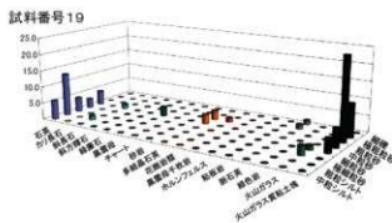
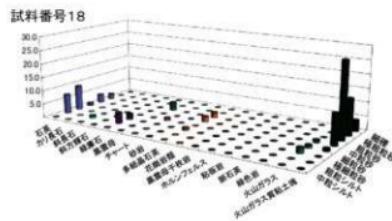
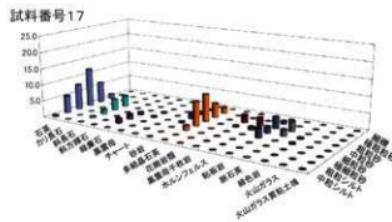
試料番号15



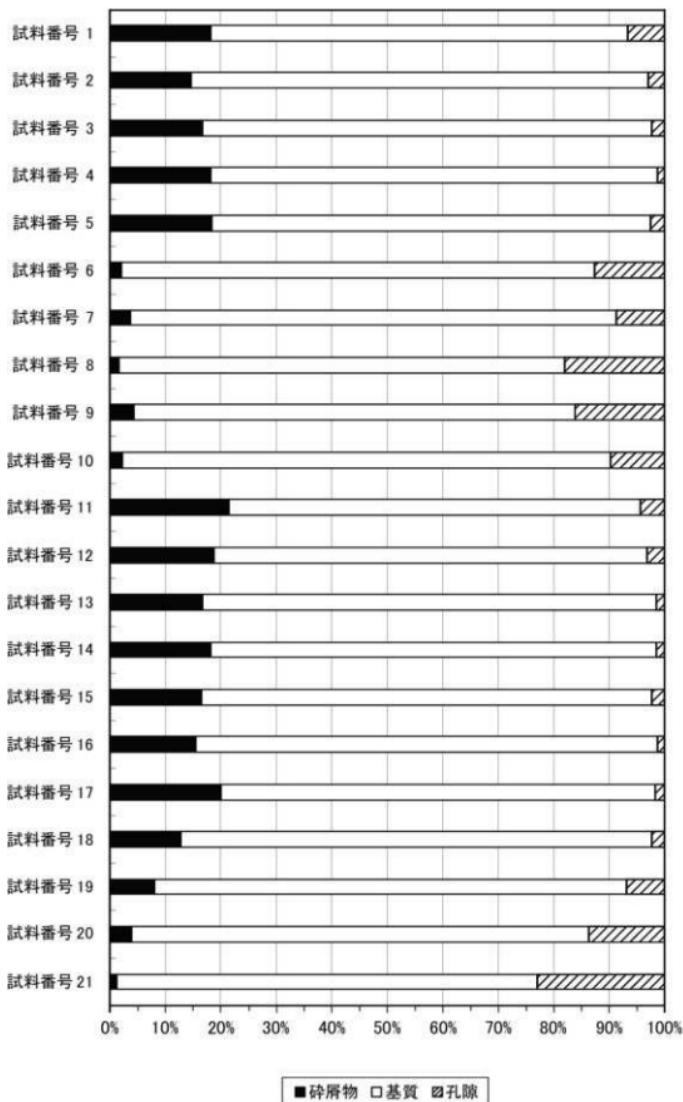
試料番号16



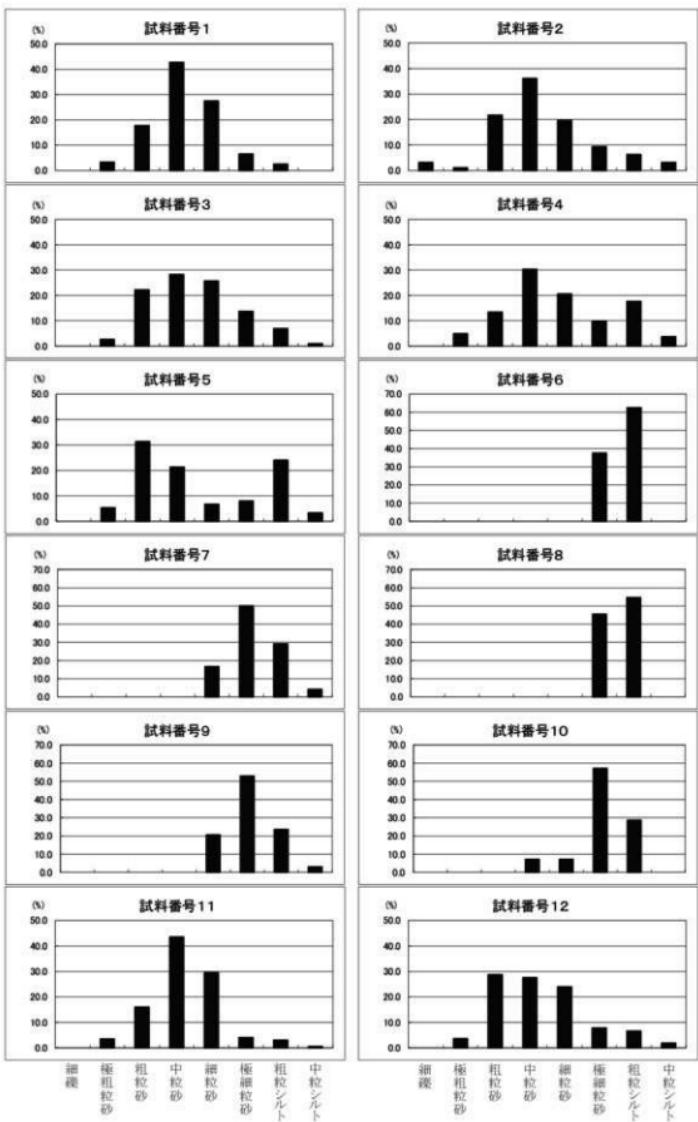
第 118 図 胎土の各粒度階における鉱物・岩石出現頻度 (%) (4)



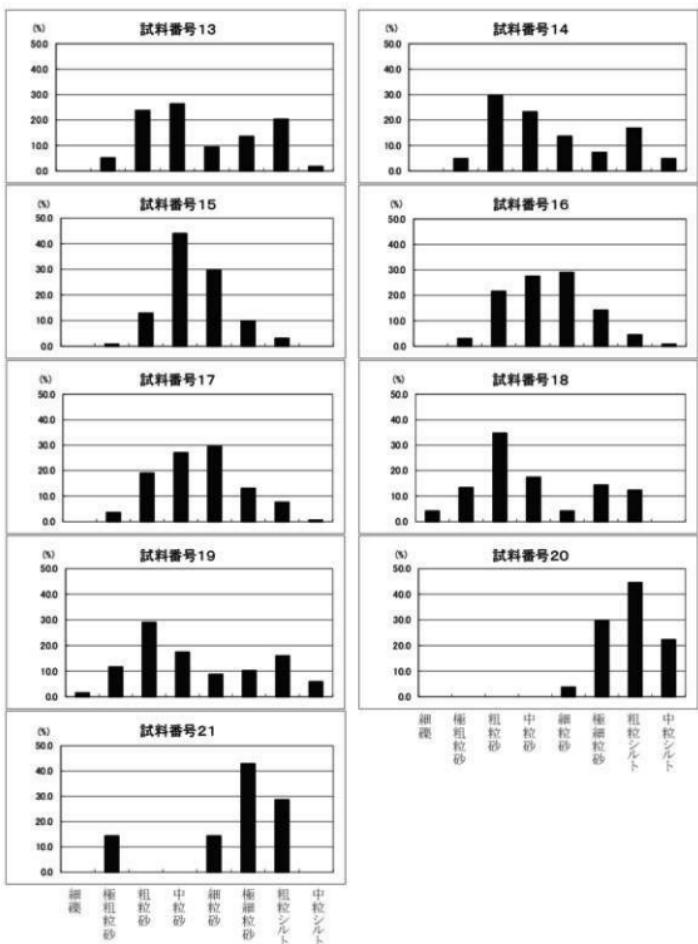
第 119 図 胎土の各粒度階における鉱物・岩石出現頻度(%) (5)



第 120 図 胎土の碎屑物・基質・孔隙の割合



第 121 図 胎土中の砂の粒径組成(1)



第 122 図 胎土中の砂の粒径組成 (2)

類される。

5類:細粒砂をモードとする山形のヒストグラムを示す。試料番号15、16の2点がこれに分類される。

6類:極細粒砂または粗粒シルトをモードとする。上述したE類およびIII類の試料と一致する。

以上述べた、薄片観察による胎土分類結果を一覧として、第41表に併記する。

(2) 蛍光X線分析

結果を第43表に示す。ここでは試料間の組成を比較する方法として、以下に示す元素を選択し、それらの値を縦軸・横軸とした散布図を作成した(第123図)。

第43表 胎土蛍光X線分析結果(1)

試料番号	主要元素											合計(%)
	SiO ₂ (%)	TiO ₂ (%)	Al ₂ O ₃ (%)	Fe ₂ O ₃ (%)	MnO(%)	MgO(%)	CaO(%)	Na ₂ O(%)	K ₂ O(%)	P ₂ O ₅ (%)	Igloss(%)	
2	51.54	1.28	20.53	10.30	0.07	0.83	1.59	0.82	1.44	2.39	9.21	100.00
4	58.11	1.05	18.69	7.83	0.15	0.63	1.86	0.71	1.59	2.04	7.34	100.00
6	30.61	0.70	33.29	6.32	0.10	0.18	1.65	0.36	0.81	8.73	17.25	100.00
8	34.97	0.81	32.42	7.97	0.03	0.40	1.19	0.18	1.28	3.91	16.84	100.00
11	69.68	0.87	11.90	5.99	0.09	1.06	1.58	0.61	0.85	0.78	6.59	100.00
13	57.60	1.05	17.66	7.96	0.04	0.78	2.60	1.51	1.14	3.33	6.33	100.00
17	59.46	0.88	14.86	6.40	0.08	1.07	3.08	1.01	1.42	4.52	7.22	100.00
19	52.01	1.22	20.18	7.45	0.05	1.36	2.26	0.76	1.66	2.76	10.29	100.00
20	41.01	0.79	27.04	7.37	0.02	0.48	1.27	0.25	1.01	5.08	15.68	100.00
21	34.13	0.80	31.46	8.43	0.01	0.47	1.44	0.17	0.83	5.16	17.10	100.00

a) 化学組成中で最も主要な元素(SiO₂, Al₂O₃)

b) 粘土の母材を考える上で長石類(主にカリ長石、斜長石)の種類構成は重要である。このことから、指標として長石類の主要元素であるCaO、Na₂O、K₂Oの3者を選択し、長石全体におけるアルカリ長石およびカリ長石の割合を定性的に見る。実際には、長石類全体におけるアルカリ長石の割合(Na₂O+K₂O)/(CaO+Na₂O+K₂O)を横軸とし、アルカリ長石におけるカリ長石の割合K₂O/(Na₂O+K₂O)を縦軸とする。

c) 輝石類や黒雲母、角閃石など有色鉱物における主要な元素。この場合、指標としてこれらの有色鉱物の主要な元素のうち、TiO₂、Fe₂O₃、MgOを選択し、Fe₂O₃を分母としたTiO₂、MgOの割合を見る。

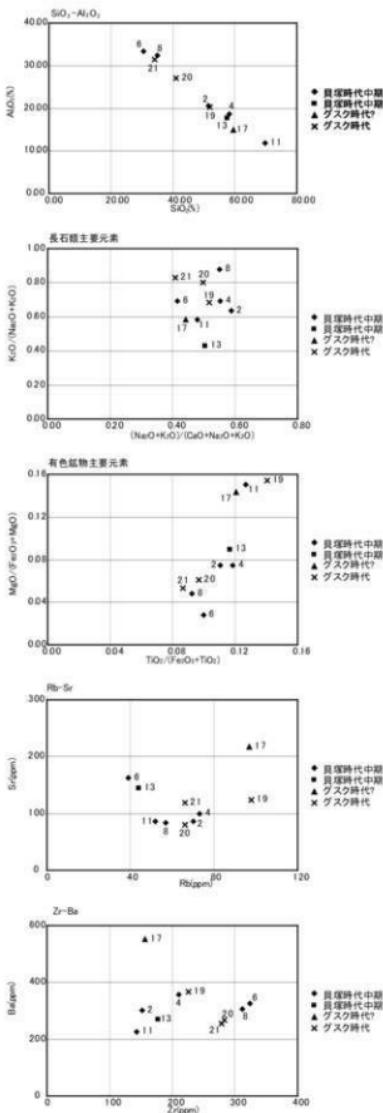
d) 各微量元素を選択する。組み合わせは、Rb-SrとZr-Baとする。

また、これらの散布図では、時代観ごとにそれぞれ異なる記号で示した。

作成した5つの散布図のうち、SiO₂-Al₂O₃散布図では、薄片観察による砂粒の種類構成の分類がよく反映されており、E類の試料番号6、8、20、21のグループがAl₂O₃の値が最も高く、SiO₂の値が最も低い。次いでA類の試料番号2、4、13、17とD類の試料番号19のグループがAl₂O₃の値が高く、SiO₂の値が低い。そしてC類の試料番号11がAl₂O₃の値が最も低く、SiO₂の値が最も高い。これらのグループは、他の散布図も合わせてみるとさらに細分される可能性がある。上述したE類のグループ4点では、有色鉱物主要元素散布図とRb-Sr散布図により、試料番号6が他の3点とはやや距離のあることが認められる。また、A類とD類のグループでは、有色鉱物主要元素散布図とRb-Sr散布図により、D類の試料番号19がA類の試料とは明瞭に区別され、さらにA類の試料の中でも、試料番号17は長石主要元素散布図以下の4図において他のA類の試料とは明瞭に区別され、試料番号13も長石類主

第43表 胎土蛍光X線分析結果(2)

試料番号	微量元素				
	Rb(ppm)	Sr(ppm)	Y(ppm)	Zr(ppm)	Ba(ppm)
2	70	86	34	152	361
4	73	99	30	211	357
6	39	163	24	324	325
8	57	84	19	312	307
11	52	86	25	143	227
13	44	144	30	177	270
17	97	218	24	156	551
19	98	124	29	226	368
20	66	80	25	283	268
21	66	119	64	279	255



第123図 胎土化学組成散布図

要元素散布図とRb-Sr散布図により、試料番号2および4とは距離のあることが認められる。

(3)電子顕微鏡観察

各試料の電子顕微鏡像を図版97~106に示す。各試料ともに倍率は30倍から3000倍まで8段階の像を呈示する。いずれの試料も、土器破断面中の孔隙や細かな凹凸が表現されているが、特に明瞭な構造的特徴は捉えられない。ただし、貝塚時代中期の土器に比べてグスク時代の土器の方が、孔隙や凹凸の密度が細かく、より明瞭な傾向が窺える。

なお、薄片観察で認められた分類に対応するような特徴は特に認められないが、試料番号17には雲母片と考えられる板状の結晶が1000倍以上の像で観察され、試料番号19には火山ガラスと考えられる板状の碎屑物が200倍や500倍の像で観察される。

4. 考察

(1)胎土の地域性

胎土中の砂粒における鉱物片および岩石片の種類構成は、胎土の材料となった砂や粘土などの堆積物が採取された場所の地質学的背景を示唆していると考えられる。今回の分析では、21点の試料の胎土から5種類の鉱物・岩石組成が得られたことから、それぞれ異なる地質学的背景を有する5つの地域で作られた土器が混在していると考えられる。以下に、鉱物・岩石組成の各分類の地質学的背景と沖縄島の地質との関係について述べる。なお、沖縄島の地質については、主に木崎編(1985)および日本の地質「九州地方」編集委員会(1992)などの記載を参照した。

A類は、変成岩類を比較的多く含むことが特徴である。沖縄本島では、中生代白亜紀から新生代古第三紀にかけて形成された名護層と呼ばれる、主に頁岩と千枚岩および緑色岩からなる地質が北部から中部の北西岸沿いに広く分布している。その南限は嘉手納付近であり、今回の調査区である瑞慶覧付近までは分布は認められていない。単純に考えれば、A類の胎土を有する土器は、名護層分布域すなわち嘉手納以北の地域からの搬入ということになる。しかし、瑞慶覧付近の地質記載では、隣接する桑江とその周辺域に国頭層と呼ばれる第四紀更新世の疊層が広く分布し、その疊層は下位の地層の地質すなわち名護層を反映して千枚岩や珪質岩などからなるとされている(氏家・兼子, 2006)。今回の分析結果を見る限りにおいては、貝塚時代中期もグスク時代も土器胎土の主体はA類であることを考慮すると、A類の変成岩類の由来は直接名護層に由来するのではなく、国頭層の疊層に由来する可能性があると考えられる。その場合、A類の胎土を有する土器は、瑞慶覧付近の堆積物を材料として製作されたと考えることができる。

B類から推定される地質学的背景は、両輝石や角閃石を斑晶として包有する流紋岩やデイサイトおよび安山岩などの火山岩が主に分布する地域である。また、千枚岩も粘板岩も緑色岩も認められなかったことから、上述した名護層の分布域や国頭層の分布域に由来する可能性は低い。したがって、少なくとも瑞慶覧付近で製作された可能性は低く、搬入品である可能性が高い。さらに、沖縄本島においても火山岩が広く分布する地域はなく、本部半島や北部西岸に極めて限的に分布する岩脈がある程度である。沖縄本島の周辺で見れば、粟国島、久米島、渡名喜島などに火山岩類が分布するが、いずれにしても現時点では、B類の地域性を特定することはできない。

C類については、認められた岩石片が多結晶石英や脈石英のみであることから、その背景となる地質は不明である。

D類の特徴は火山ガラス質粘土塊を多量に含むことである。火山ガラス質粘土塊は、バブル型火山ガラスの塊であることから、おそらく、九州に分布する巨大カルデラから噴出した広域テフラの降下堆積層に由来すると考えられる。このような堆積物は、琉球列島では例えば徳之島において姶良Tn火山灰(AT:町田・新井, 1976)の厚い堆積層が認められている(成尾・桑水流, 2002)が、これまでのところ

沖縄本島では認められた例はない。したがって、D類の胎土の地域性も現時点では不明ではあるが、沖縄本島以外の可能性もあると考えられる。

E類は、砂粒自体が非常に少ないために、種類構成が不明瞭であり、したがって、その地域性も現時点では推定できない。ただし、E類とされた試料の中に、試料番号9では微量ながらも堆積岩類と粘板岩が認められていることから、A類と同様なわち瑞慶覧周辺の地域性を有する可能性があると考えられる。

(2)胎土と土器の時期との関連性について

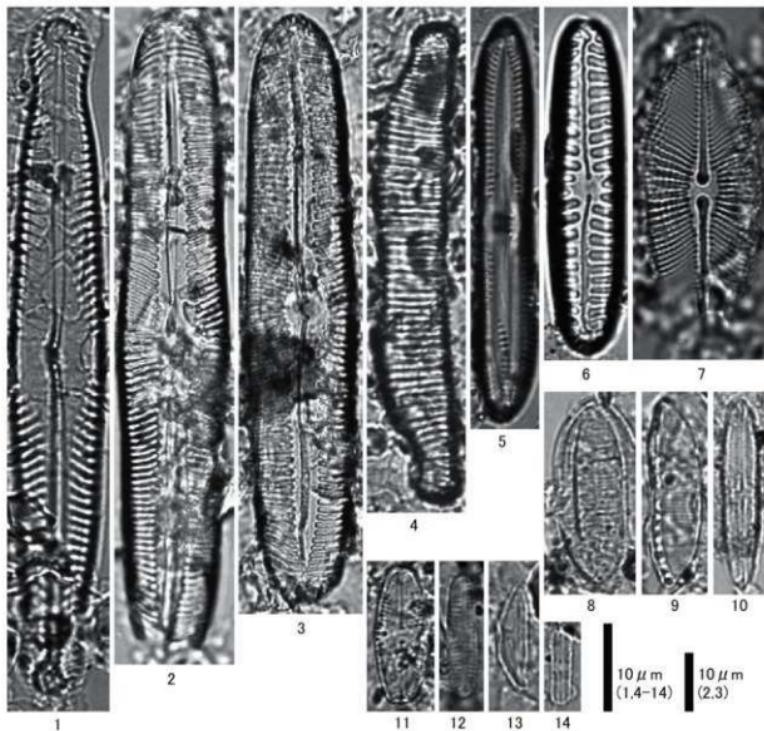
胎土の特性のうち、鉱物・岩石組成は、主体となるA類とE類が貝塚時代中期の土器とグスク時代の土器の両者に共通して多く認められることから、時期との対応関係は不明瞭である。B～D類は、いずれか一方の時期にしか認められていないが、試料数が少ないとから、その時期特有の胎土か否かは判断することはできない。碎屑物の量比についても、鉱物・岩石組成とほぼ同様の分類結果であるから、事情は同じである。

一方、粒径組成では、E類と6類は一致するものの、A類については、貝塚時代中期の土器の多くが4類であるのに対して、貝塚時代中期?とされた土器は1～3類にはばらつき、グスク時代?とされた土器3点のうち、4類は1点のみで2点は5類であった。これらの結果から、土器の時期による胎土の違いは、砂粒の粒径組成に現れている可能性がある。今後の分析事例を蓄積することにより、検証することが可能であると考えられる。

<引用文献>

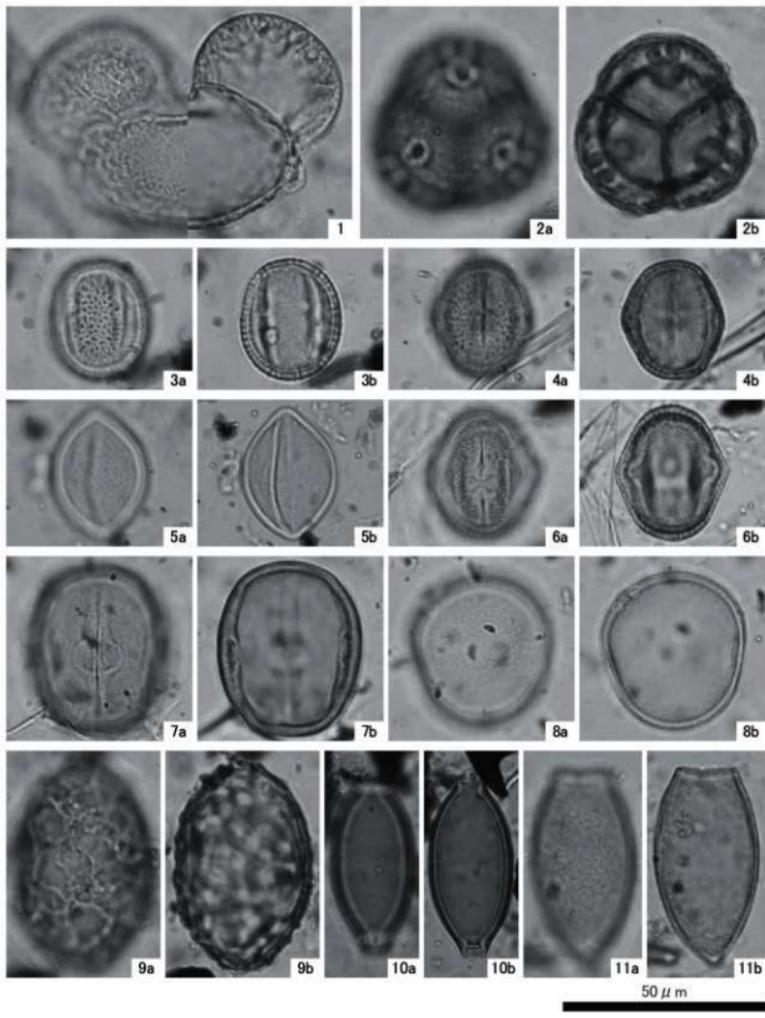
- 安藤 一男, 1990, 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42, 73-88.
- Asai, K. & Watamabe, T., 1995, Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution(2)Saprophilous and saproxenous taxa. *Diatom.* 10, 35-47.
- 原口 和夫・三友 清史・小林 弘, 1998, 埼玉の藻類 珪藻類. 埼玉県植物誌, 埼玉県教育委員会, 527-600.
- Hirooka, K., 1971, Archaeomagnetic study for the past 2,000 years in south-west Japan. *Mem. Fac. Sci. Kyoto Univ., Ser. Geol. Mineral.*, 38, 167-207.
- Hirooka, K., 1983, Results from Japan, in *Geomagnetism of Baked Clays and Recent Sediments*, eds. Creer, K. M. et al., 150-157, Elsevier, Amsterdam.
- Hustedt, F., 1937-1939, *Systematische und ökologische Untersuchungen über die Diatomeen-Flora von Java, Bali und Sumatra*. Archiv für Hydrobiologie, Supplement, 15:131-177, 15:187-295, 15:393-506, 15:638-790, 16:1-155, 16:274-394.
- 伊藤 良永・堀内 誠示, 1991, 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解説への応用. 珪藻学会誌, 6, 23-45.
- 金原 正明・金原 正子・中村 亮仁, 1995a, 大宮跡(廻跡)における自然科学的分析. 史跡石動山環境整備事業報告II, 石川県鹿島町教育委員会, 51-70.
- 金原 正明・金原 正子・中村 亮仁, 1995b, 川合遺跡八反田地区SE402・SE405における寄生虫卵・植物遺体分析, 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第63集 川合遺跡 八反田地区 II 本文編, 静岡県埋蔵文化財調査研究所, 341-354.
- 木崎 甲子郎編著, 1985, 琉球弧の地質誌. 沖縄タイムス社, 278p.
- 小林 弘・井出 雅彦・真島 茂樹・南雲 保・長田 啓五, 2006, 小林弘珪藻図鑑. 第1巻, 粕内田老鶴園, 531p.
- 近藤 錬三, 2004, 植物ケイ酸体研究. ベドロジスト, 48, 46-64.
- 小杉 正人, 1988, 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 第四紀研究, 27, 1-20.
- Krammer, K., 1992, *PENNULARIA*. eine Monographie der europäischen Taxa. *BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND 26*. J. CRAMER, 353p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1986, *Bacillariophyceae. 1. Teil: Naviculaceae*. In: *Süßwasserflora von Mitteleuropa*. Band2/1. Gustav Fischer Verlag, 876p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1988, *Bacillariophyceae. 2. Teil: Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae*. In: *Süßwasserflora von Mitteleuropa*. Band2/2. Gustav Fischer Verlag, 536p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1991a, *Bacillariophyceae. 3. Teil: Centrales, Fragilariaeae, Eunotiaceae*. In: *Süßwasserflora von Mitteleuropa*. Band2/3. Gustav Fischer Verlag, 230p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1991b, *Bacillariophyceae. 4. Teil: Achanthaceae, Kritsche Ergänzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema*. In: *Süßwasserflora von Mitteleuropa*. Band2/4. Gustav Fischer Verlag, 248p.

- 黒崎 直・松井 章・金原 正明・金原 正子, 1993, 黽便堆植物の分析－特に寄生虫卵分析について－. 日本国文化財科学会第10回大会研究発表要旨集, 114-115.
- Lowe, R. L., 1974, *Environmental Requirements and pollution Tolerance of Fresh-water Diatoms*. 334p.
- In Environmental Monitoring Ser. EPA Report 670/4-74-005. Nat. Environmental Res. Center Office of Res. Develop., U.S. Environ. Protect. Agency, Cincinnati.
- 町田 洋・新井 房夫, 1976, 広域に分布する火山灰－始良Tn火山灰の発見とその意義－. 科学, 46, 339-347.
- Maenaka, K., 1990, Archeomagnetic secular variation in Southwest Japan, *Rock Mag. Paleogeophys.*, 17, 21-25.
- 松田 顺一郎・三輪 若葉・別所 秀高, 1999, 瓢生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察－岩石学的・堆积学的による－. 日本国文化財科学会第16回大会発表要旨集, 120-121.
- 三宅 尚・中越 信和, 1998, 森林土壤に堆積した花粉・胞子の保存状態. 植生史研究, 6, 15-30.
- 森永 連男, 1999, 第1部文化財探査の技術 第4章磁性解析. 足立と成和編 文化財探査の手法とその実際. 真陽社, 83-98.
- Morinaga, H., Inokuchi, H., Yamashita, H., Ono, A., and Inada, T., 1999, Magnetic detection of heated soils at paleolithic sites in Japan, *Geoarchaeology*, 14, 377-399.
- 中村 純, 1967, 花粉分析. 古今書院, 232p.
- 成尾 英仁・桑水流 淳二, 2002, 伊仙町小島(徳之島)のAT火山灰層保存要望書について. 鹿児島県地学会誌, No. 85, 19-26.
- 日本の地質「九州地方」編集委員会, 1992, 日本の地質9 九州地方, 共立出版, 371p.
- パリノ・サーヴェイ株式会社, 2006, [5] 自然科学分析調査の成果. 基地内埋蔵文化財調査報告書II, 宜野湾市文化財調査報告書38, 沖縄県宜野湾市教育委員会, 44-90.
- Patrick, R., 1977, Ecology of freshwater diatoms and diatom communities. The biology of diatoms., Botanical Monographs, 13, 284-332. Blackwell Scientific Publication, London.
- Round, F. E., Crawford, R. M. & Mann, D. G., 1990, *The diatoms. Biology & morphology of the genera*. 747p. Cambridge University Press, Cambridge.
- 坂井 良輔・小林 正史・藤田 邦雄, 1996, 灯明皿の脂質分析. 富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第7集 梅原胡麻堂遺跡発掘調査報告(遺物編) 第二分冊, 財団法人 富山県文化振興財団, 24-37.
- Shibuya, H., 1980, Geomagnetic secular variation in Southwest Japan for the past 2,000 years by means of archaeomagnetism. 大阪大学基礎工学部修士論文, 54p.
- 徳永 重元・山内 輝子, 1971, 花粉・胞子. 化石の研究法, 共立出版株式会社, 50-73.
- 筒木 潔・近藤錬三, 1997, 泥炭地植物のフェノール性化合物, 脂肪酸, ステロール組成. 日本国土壤肥料科学雑誌, 68, 37-44.
- 筒木 潔・近藤錬三, 1998, 泥炭地の乾燥化と植生変化に伴う泥炭の脂質組成の変化. 日本国土壤肥料科学雑誌, 69, 12-20.
- 氏家 宏・兼子 尚知, 2006, 那覇及び沖縄市南部地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1図幅), 産経研地質調査総合センター, 48p.
- Vos, P.C. & H. de Wolf, 1993, Diatoms as a tool for reconstructing sedimentary environments in coastal wetlands: methodological aspects. *Hydrobiologia*, 269/270, 285-296.
- 渡辺 仁治・浅井 一視・大塚 泰介・辻 彰洋・伯善 晴子, 2005, 淡水珪藻生態図鑑. 内田老鶴園, 666p.
- 柳沢 幸夫, 2000, II-1-3-2-(5)計数・同定. 化石の研究法-採集から最新の解析法まで-. 化石研究会, 共立出版株式会社, 49-50.
- 吉木 文平, 1959, 硬物工学. 技報堂, 710p.



1. *Pinnularia subgibba* var. *undulata* Krammer (水場遺構 II 地区SX3;3)
2. *Pinnularia neomajus* Krammer (水場遺構 II 地区SX3;2)
3. *Pinnularia viridis* (Nitz.) Ehrenberg (水場遺構 II 地区SX3;2)
4. *Eunotia praerupta* var. *bidens* (Ehren.) Grunow (水場遺構 II 地区SX3;2)
5. *Pinnularia Schroederii* (Hust.) Krammer (水場遺構 II 地区SX3;1)
6. *Pinnularia borealis* Ehrenberg (窓跡東側地区:SY1ベルト部分)
7. *Cosmoneis pusilla* (W.Smith) Mann&Stickle (水場遺構 II 地区SX3;1)
8. *Tryblionella debilis* Arnott (窓跡東側地区:SY1ベルト部分)
9. *Hantzschia amphioxys* (Ehr.) Grunow (水場遺構 II 地区SX3;1)
10. *Neidium alpinum* Hustedt (窓跡東側地区:SY1ベルト部分)
11. *Luticola mutica* (Kuetz.) D.G.Mann (水場遺構 II 地区SX3;2)
12. *Sellaphora seminulum* (Grun.) D.G.Mann (水場遺構 II 地区SX3;2)
13. *Amphora montana* Krasske (水場遺構 II 地区SX3;1)
14. *Diadesmis contenta* (Grun.ex Van Heurck) D.G.Mann (水場遺構 II 地区SX3;1)

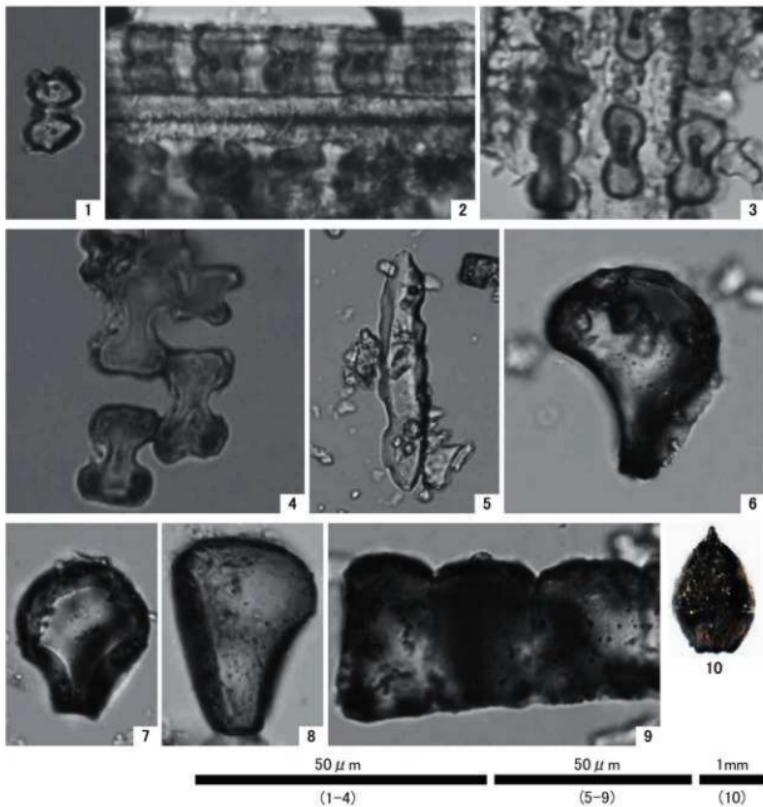
図版89 硅藻化石



1. マツ属(水場遺構 II 地区 SX3;1)
3. ミカン科(水場遺構 II 地区 SX3;1)
5. ソテツ属(水場遺構 II 地区 SX3;2)
7. センダン属(水場遺構 II 地区 SX3;1)
9. 回虫卵(水場遺構 II 地区 SX3;4)
11. マンソン裂頭条虫卵(水場遺構 II 地区 SX3;3)

2. クチナシ属(水場遺構 II 地区 SX3;2)
4. ミカン科(水場遺構 II 地区 SX3;1)
6. ウコギ科(水場遺構 II 地区 SX3;2)
8. イネ科(水場遺構 II 地区 SX3;1)
10. 猫虫卵(水場遺構 II 地区 SX3;3)

図版90 花粉化石・寄生虫卵

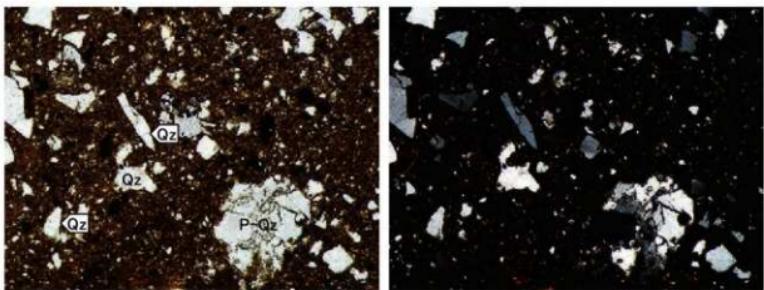


1. イネ属短細胞珪酸体(水場遺構 II 地区 SX3:4)
2. イネ属短細胞列(窯跡東側地区:SY1ベルト部分)
3. ススキ属短細胞列(窯跡東側地区:SY1ベルト部分)
4. ススキ属短細胞列(石組遺構:SK50-No220)
5. イチゴツナギ亞科短細胞珪酸体(埋没谷内黒色層D-10区南壁:1)
6. イネ属機動細胞珪酸体(水場遺構 II 地区 SX3:1)
7. イネ属機動細胞珪酸体(埋没谷内黒色層D-10区南壁:1)
8. ウシクサ属機動細胞珪酸体(窯跡東側地区:SY1ベルト部分)
9. ウシクサ属機動細胞列(石組遺構:SK50-No220)
10. イヌタデ近似種 果実(石組遺構:SK50-No220)

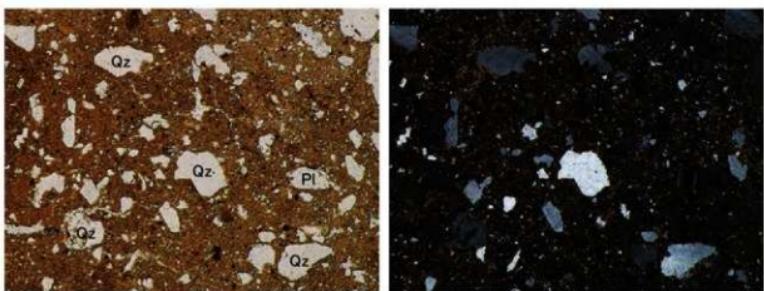
図版91 植物珪酸体・種実遺体



1.水堀遺構Ⅱ地区SX3:4



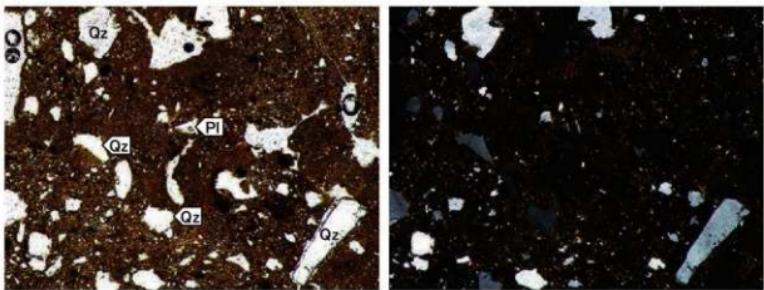
2.埋没谷内黒色層D-10区南壁:1



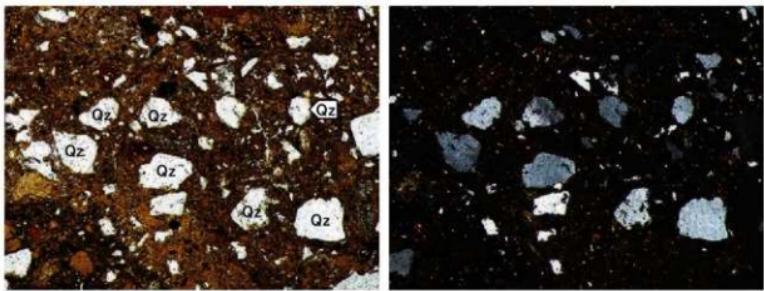
3.埋没谷内黒色層D-10区南壁:4

Qz:石英, Pl:斜長石, P-Qz:多結晶石英, Pl:植物片.
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

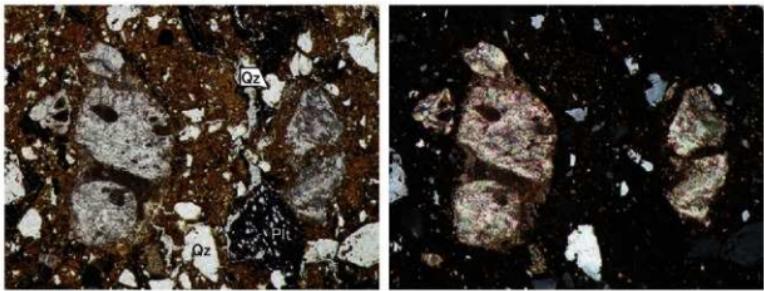
0.5 mm



4.ピット(西側地区),スミ・Pit



5.窪跡東側地区,SY1ベルト部分

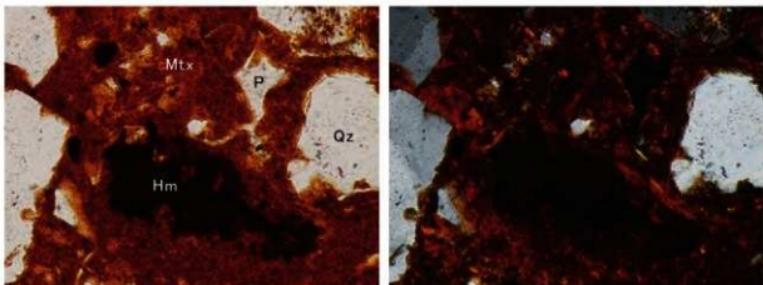


6.石組造構,SK50・No220

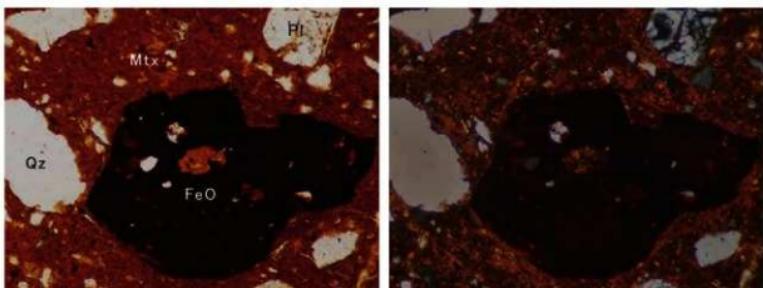
Qz:石英, Pl:斜長石, Ls:石灰岩, Plt:植物片
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5 mm

図版93 土壤薄片(2)



1. 窯跡東側地区: SY1壁面



2. 炉跡 I 地区E-8 SL2 No.1

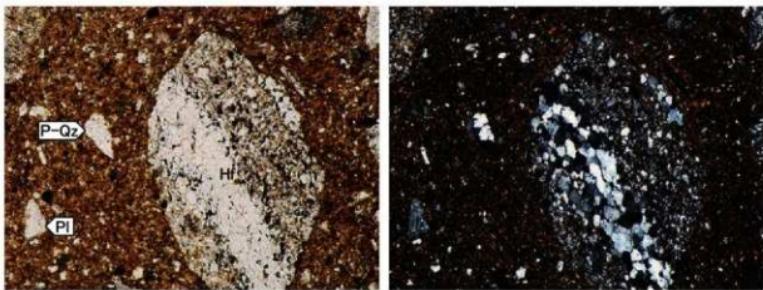
Qz:石英, Pl:斜長石, Hm:赤鐵鉱, P:孔隙,

FeO:酸化鉄結核, Mtx:基質。

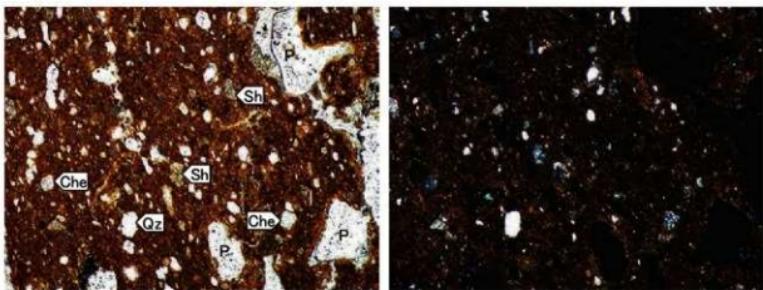
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.1 mm 0.2 mm
1 2

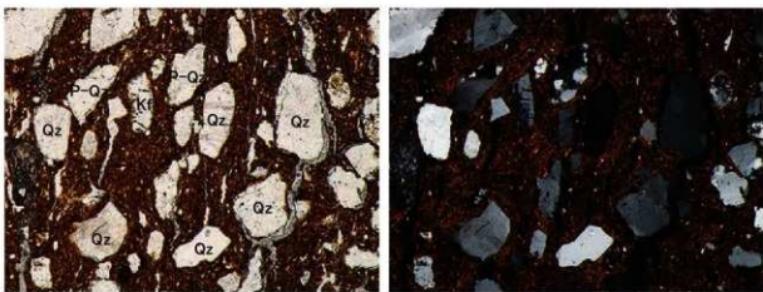
図版94 烧土薄片



1.試料番号5(SI-1 貝塚時代中期)



2.試料番号9(SI-1 貝塚時代中期)



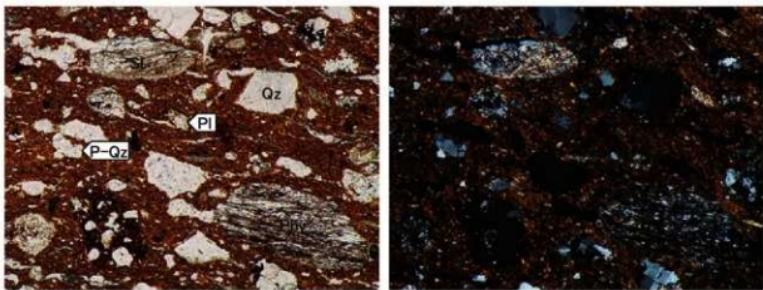
3.試料番号11(SI-1 貝塚時代中期)

0.5 mm

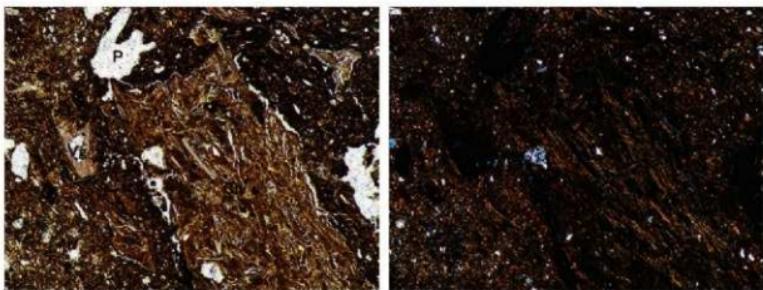
Qz:石英、Kf:カリ長石、Pl:斜長石、Che:チャート、Sh:頁岩、P-Qz:多結晶石英、

Hf:ホルンフェルス、Alt:変質岩、P:孔隙。

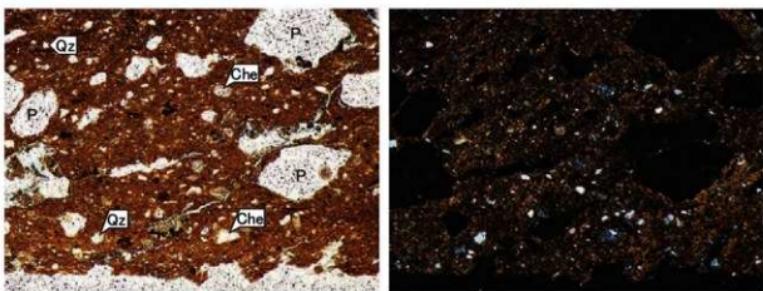
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。



4.試料番号12(I 区SK19 貝塚時代中期?)



5.試料番号18(I 区SK19 グスク時代)



6.試料番号20(I 区SK19 グスク時代)

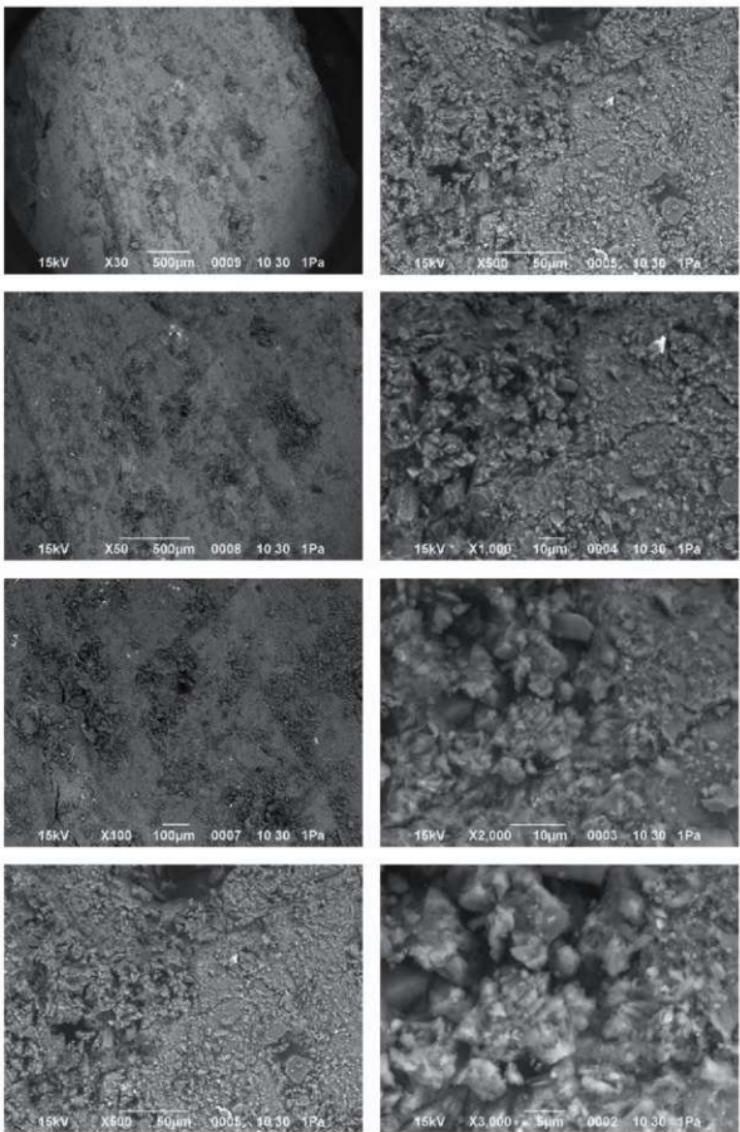
0.5 mm

Qz:石英. Pl:斜長石. Che:チャート. P-Qz:多結晶石英. Phy:黒雲母千枚岩. Si:粘板岩.

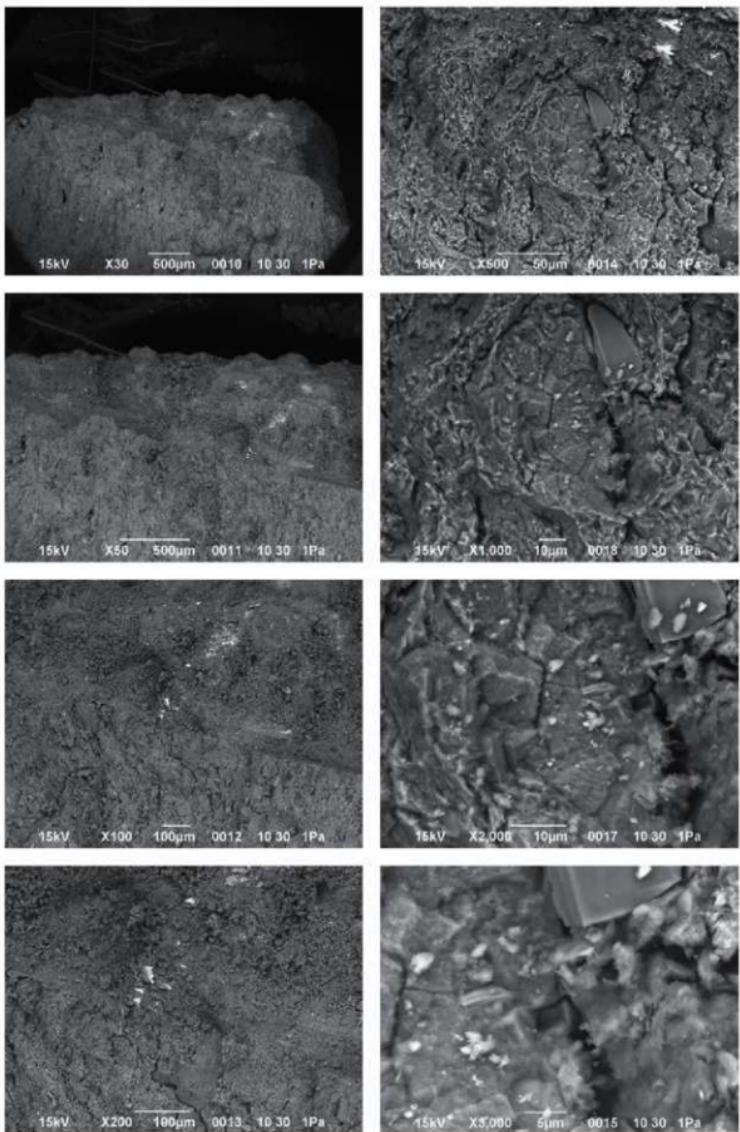
Vg:火山ガラス. Cly:火山ガラス質粘土塊. P:孔隙.

写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

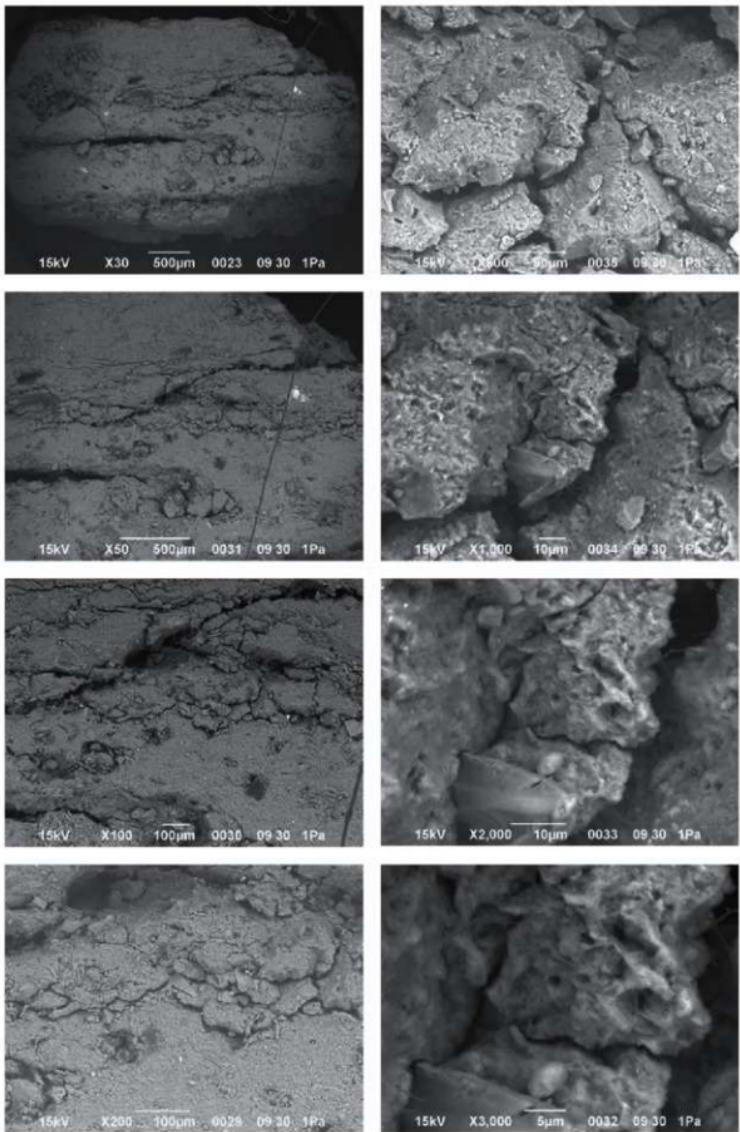
図版96 胎土薄片(2)



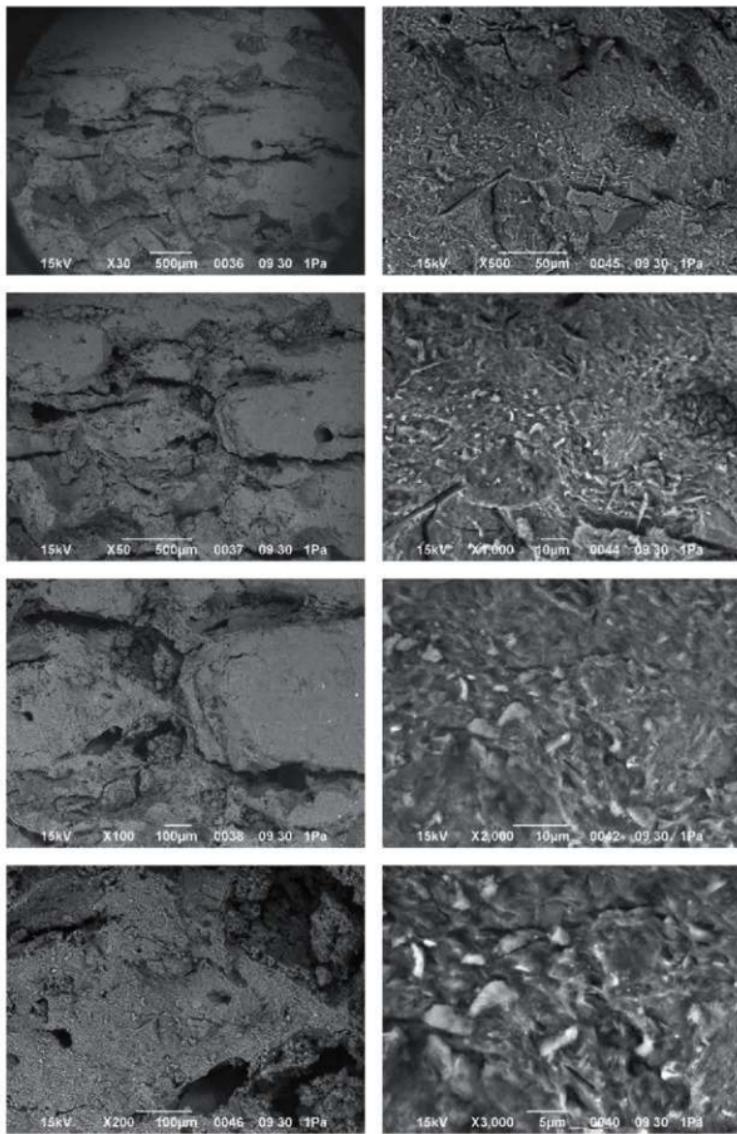
図版 97 胎土電子顕微鏡写真(1) 試料番号 2 SI-1 区 貝塚時代中期



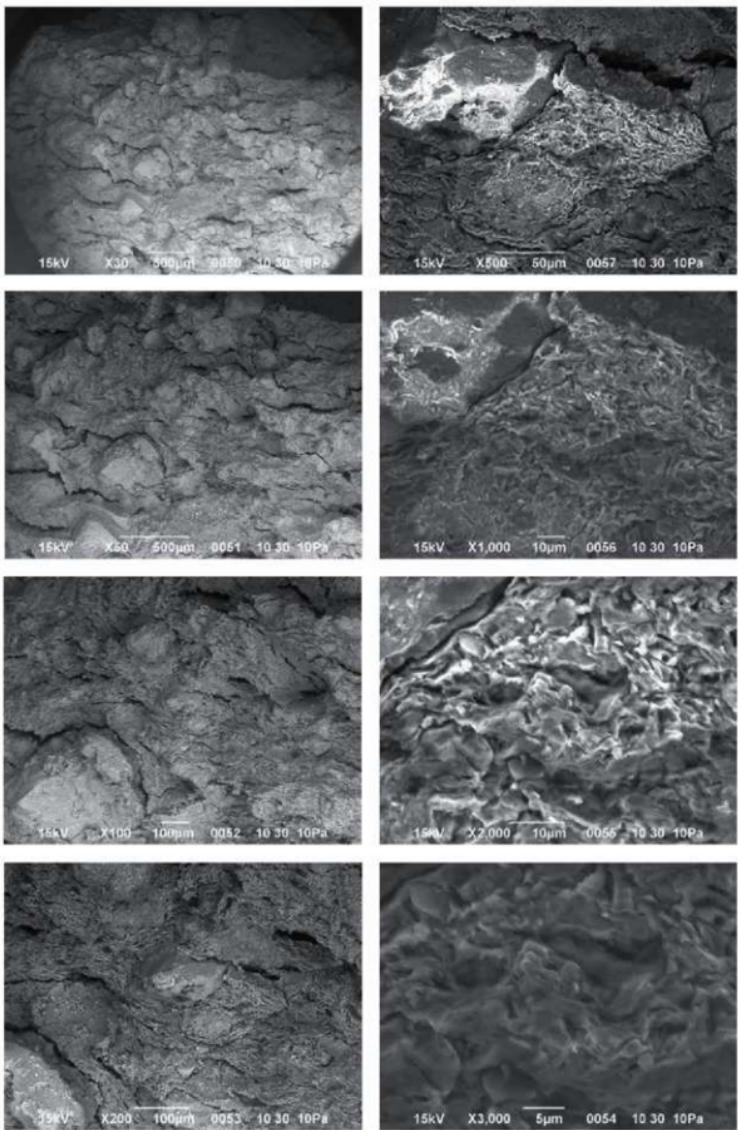
図版 98 胎土電子顕微鏡写真(2) 試料番号 4 SI-1 区 貝塚時代中期



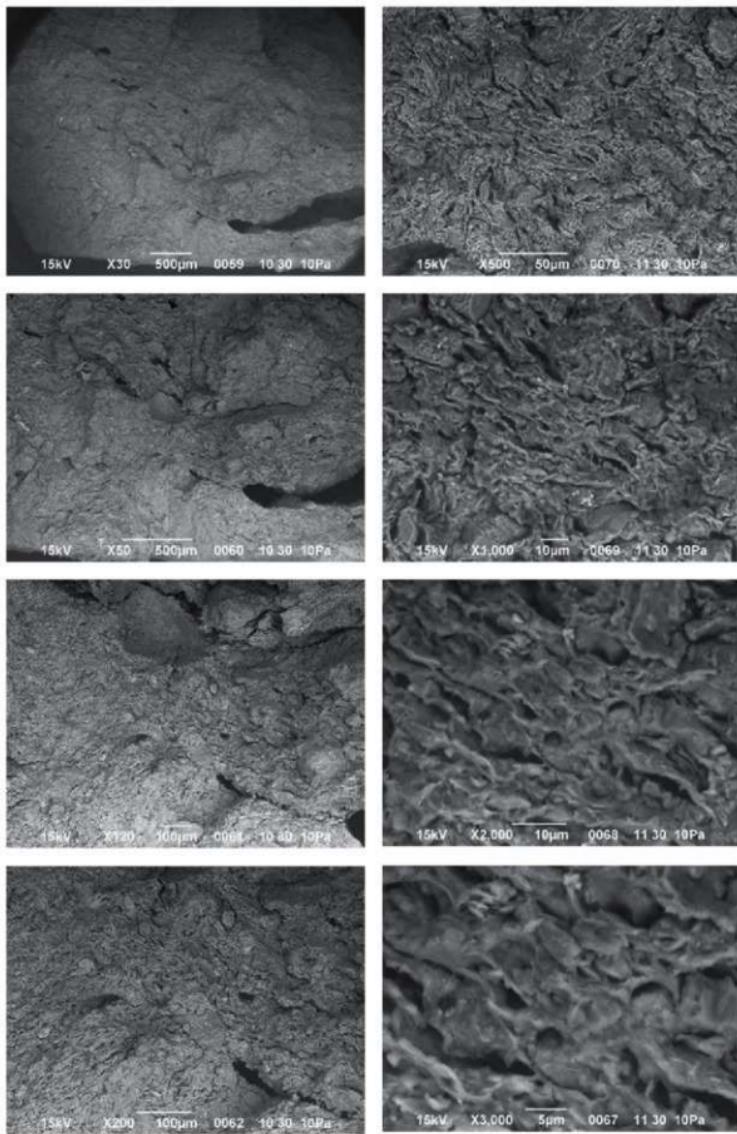
図版 99 胎土電子顕微鏡写真(3) 試料番号 6 SI-1 区 貝塚時代中期



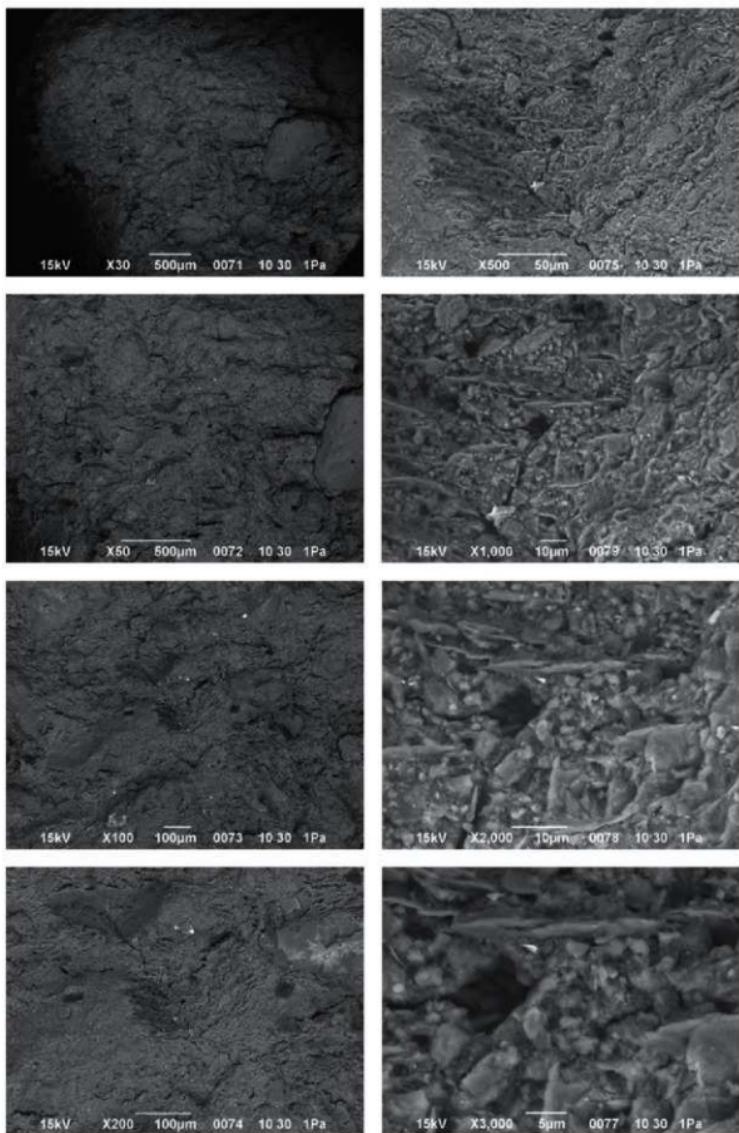
図版 100 胎土電子顕微鏡写真(4) 試料番号 8 SI-1 区 貝塚時代中期



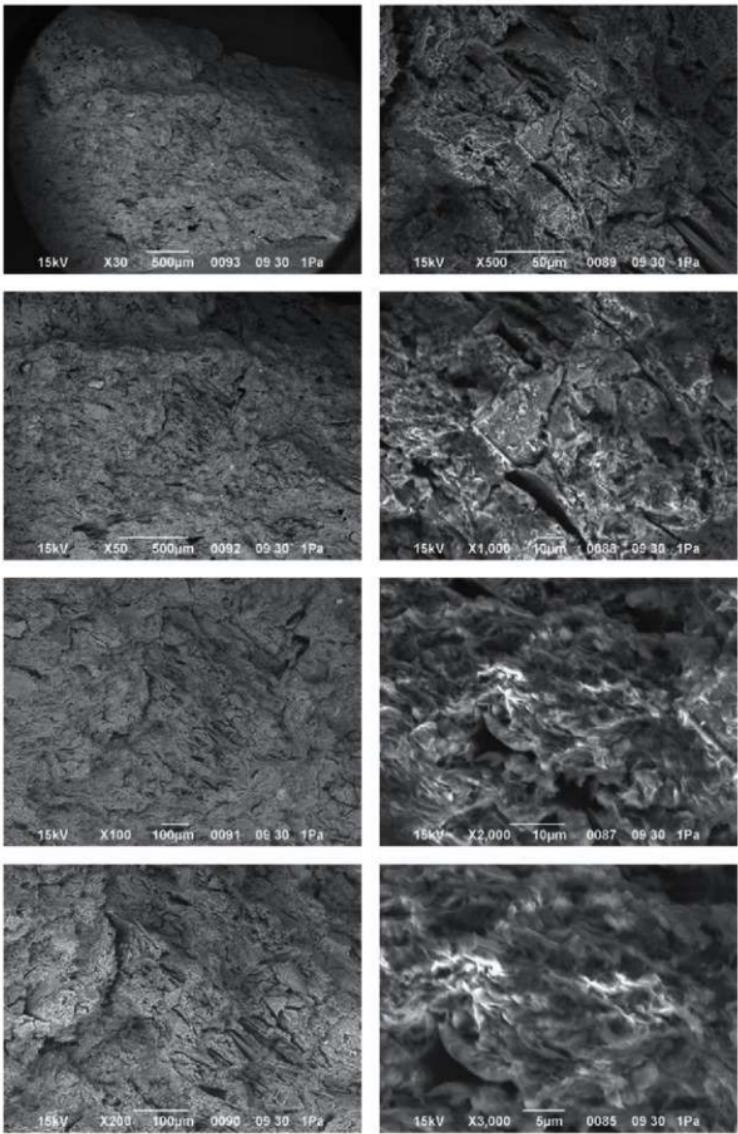
図版 101 胎土電子顕微鏡写真(5) 試料番号 11 SI-1 区 貝塚時代中期



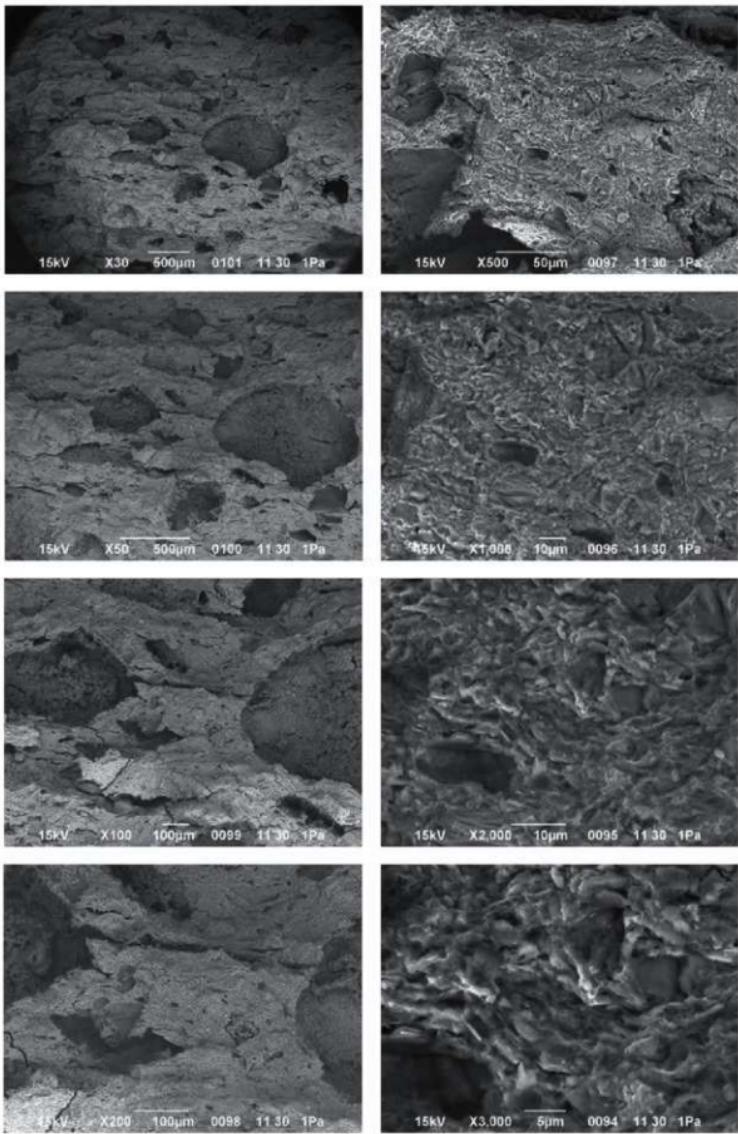
図版 102 胎土電子顕微鏡写真(6) 試料番号 13 I 区 SK19 貝塚時代中期?



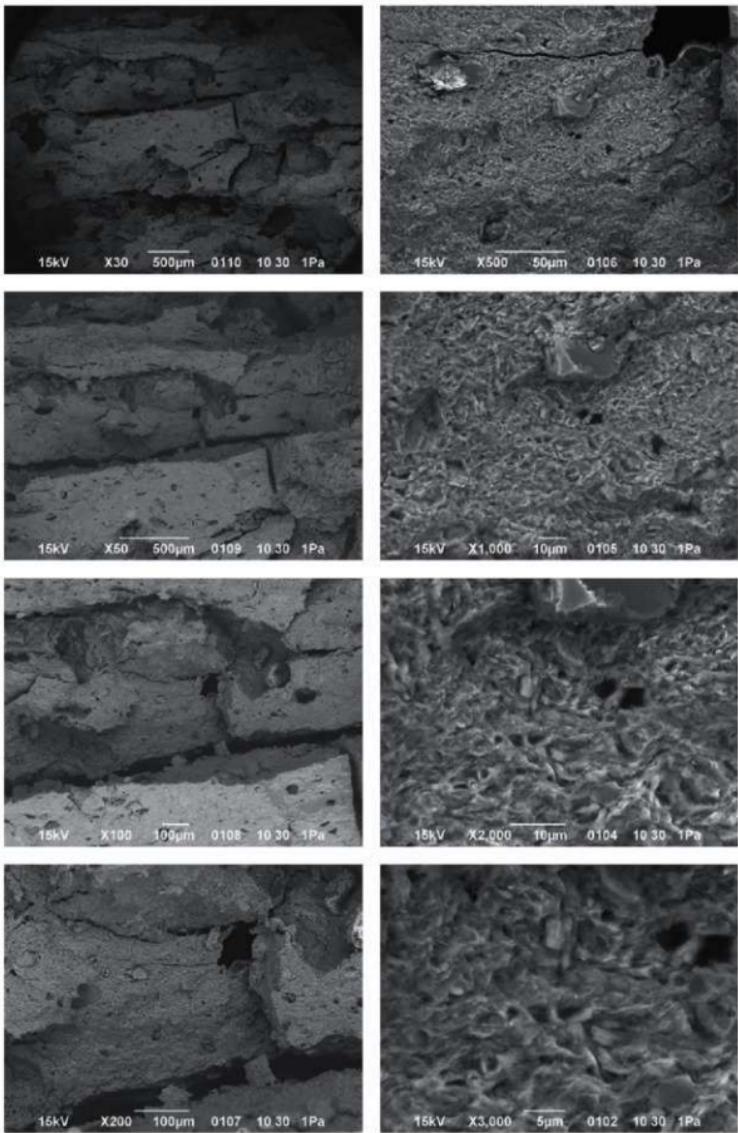
図版 103 胎土電子顕微鏡写真(7) 試料番号 17 I 区 SK19 グスク時代?



図版 104 胎土電子顕微鏡写真(8) 試料番号 19 I 区 SK19 グスク時代



図版 105 胎土電子顕微鏡写真(9) 試料番号 20 I 区 SK19 グスク時代



図版 106 胎土電子顕微鏡写真(10) 試料番号 21 I 区 SK19 グスク時代

第6章 総括

平成20年度に実施した普天間古集落遺跡の発掘調査は米海軍病院建設に伴うものである。その成果については前章までにまとめたが、本章では当該遺跡の立地や各時代の遺構・遺物について再整理を行い、総括とする。

遺跡の立地

普天間古集落遺跡は標高50～90mの段丘上に位置し、基盤層の大半は琉球石灰岩層から成る。この琉球石灰岩の段丘縁には洞穴と湧泉が点在している。本遺跡は標高約55mの段丘上に展開している。

時代を遡ると、まず縄文時代の後期から晩期にかけて生活空間が形成され、その後11～12世紀頃のグスク時代に生活空間が形成されるようになる。当該遺跡では埋没谷内黒色層が確認されており、かつて遺跡一部には谷状の地形があったことが想定されている。この埋没谷内黒色層が堆積した時期については不明であるが、当該層における植物珪酸体分析ではイネ属の機動細胞珪酸体がわずかに見られ、この層位が稲作に関連する層であった可能性が報告されていることから、グスク時代以後の農耕に関連する堆積層の可能性もある。12世紀以後は人々の生活の痕跡は一旦途絶えるが、近世～近代には普天間古集落の形成とともに、集落の一部は耕作地として利用され、沖縄戦以後は米軍基地へ接収されていった。

縄文時代

縄文時代の遺構は、堅穴状の遺構や、土坑、ピットがI・II地区において検出されている。

堅穴状の遺構は橢円形状に掘り込まれた遺構で、I地区・II地区から1基ずつ確認されている。I地区的SK19は平面形4.7m×4.5mの不整な橢円形状のプランを呈しており、縄文時代晩期の宇佐浜式～仲原式土器が出土する。II地区的SI1平面形が4.2m×2.5mの橢円形を呈し、内部及び外部にピットを配している。中心部からは仲原式土器が多く出土している。

土坑は深さ1m以上と、深く掘り込まれ落ち込む形の土坑であり、中には深さが2m以上掘り込まれるものも確認されている。I地区からは3基、II地区からは1基確認されている。これらの土坑からは縄文時代後期～晩期の土器片や石器が出土している。この土坑の性格について、堅穴状の遺構が検出された場所からは離れた位置に点在して検出される状況からも、落し穴としての性格も考えられるが詳細は不明である。

遺物は土器・石器が出土している。土器は縄文時代後期～晩期の点刻線文系土器、肥厚口縁系土器、有段・外耳付土器が出土している。縄文時代晩期の宇佐浜式、仲原式土器が主体となる。石器の種類は石鏃、石斧、叩き石、磨石、石皿などである。また、近世～近代の遺構や包含層であるII層、表土層からも土器や磨製石斧などが出土しており、II地区的II層からは緑色岩製の石鏃が出土している。

今回、堅穴状の遺構(I地区SK19及びII地区SI1)出土土器の胎土分析を実施している。分析の結果、土器胎土に含まれる鉱物・岩石組成からA～E類に分類でき、分析試料の主体はA類(鉱物片は、石英が多く、少量の斜長石を伴い、少量または微量の綠簾石と微量の白雲母や黒雲母を含む。)が占めしており、このA類は鉱物組成からは普天間付近の堆積物を材料として製作されたものと報告されている。この分析結果からは、当該遺跡における縄文時代晩期の土器は、遺跡周辺の砂・粘土を材料として採取し、製作されたものと想定される。なお、I地区SK19の分析試料15～21にグスク時代とされた土器があるが、これらは縄文時代晩期のものとして考えられることを明記しておく。

グスク時代

グスク時代の遺構は、I地区D-7～E-8グリッド及びII地区C-11、D-11、F-9グリッドから検出したピット群があり、I地区では掘立柱建物が3棟確認されている。時期は後述する出土遺物から11～12世紀ごろと考えられる。掘立柱建物1・2は4本柱の建物で、規模は長軸1.9m～短軸1.0mである。掘立柱建物3は6本柱の建物で、長軸3.8m、短軸2.4mの規模で長軸は北東～南西方向である。

検出されたグスク時代のピットは暗褐色砂質シルトが特徴的な埋土で平面形が円形・楕円形や不定形のものが確認されており、柱痕があり掘方が方形となるものから、柱痕がないもの、掘方が楕円形となるものなど様々なバリエーションが認められる。

遺物はグスク土器、滑石混入土器、中国産白磁、カムィヤキなどが出土している。遺構内からの出土は少なくグスク土器の胴部片が数点出土するのみで、出土遺物の多くがグスク時代の包含層であるIII層からの出土で、近世～近代の遺構や包含層のII層からも出土している。

グスク土器は、滑石製石鍋模倣土器を主体とし、滑石混入土器もみられる。中国産白磁は、年代の指標となる玉縁口縁白磁碗（11～12世紀代）が主体となっている。カムィヤキは壺が出土している。

また、ピットの埋土中から抽出された炭化材の放射性炭素年代からは、較正された暦年で10世紀初頭から11世紀前半頃までの年代が得られている。出土遺物の内容からは若干年代が古く出ているが、当該遺構の年代観を考える上では、今後参考になるものといえる。

近世～近代

近世～近代の遺構は、ピット、土坑、方形石組遺構、井戸、石敷遺構、溝跡、道路、炉跡、窯跡等様々な遺構が検出されている。当該時期の遺構が最も多く、本遺跡における主体をなしている。

ピットは平面形が円形・楕円形や不定形のものが確認されており、柱痕が確認されるもの、柱痕がないもの、掘方が楕円形となるものなど様々なバリエーションが認められる。中には屋敷跡に関係するピットもあると考えられるが、明確な建物プランを確認できたものは少ない。

建物跡についてはII地区にて2棟確認された。建物4は4本柱の建物と考えられ、中心に約30cm×35cmの石灰岩柱を添えるものである。規模は1間×1間（3.4m×3.4m）で方形を呈する。建物5は石灰岩の石柱からなる4本柱の建物と考えられる。規模は1間×1間（4.3m×4.3m）で、方形を呈し、前者より規模が大きい。どのような施設かについては今後の課題である。

土坑は掘方が方形状を呈するもの、半円状を呈するもの、段を持つもの等が確認された。これらは様々な用途が推測できるが、柱の抜け跡と考えられるもの、何らかの作業に使用するための水を溜める溜池跡、廐棄土坑等々が考えられる。このうち、溜池跡と考えられる遺構は、I地区的SK20（D8・区画2）、II地区的SK71（D9・区画10）及び方形遺構1（E10・区画13）と、II地区的SK3（C10・区画11）がある。SK20、71、方形遺構1はサンクトウ技法と呼ばれる溜池で、地山を方形状に掘り込み、海浜のサンゴ砂利と樹液を混ぜ固めて造った樹状の遺構である。セメントが普及する以前の技法とされる。

方形石組遺構は複数確認された。共通の構築方法がみられ、まず地山を方形に掘り込んだ後、約30～80cm大の石灰岩の切石を四方に配置して壁とする。床面は、約10cm～15cmの礫を敷き、その上にモルタル（又はセメント）を施して平坦に仕上げている。壁面の切石の表面にもモルタル（又はセメント）を塗布している。SK50内の埋土中の珪藻分析により、一時に水の流れがあった可能性が指摘されていることより、方形石組遺構は当初、溜池として使用した後にごみを捨てる廐棄穴として使用されたものと考えられる。

井戸は6基確認された。約20～30cm大の石灰岩を岩盤直上より積み上げている。岩盤からさらに不透水層であるクチャ層まで掘り込んでいる。積み方は相方積みで、10～20cm大の石灰岩を裏込め石として密に使用している。方形石組遺構と近接する位置で見つかっていることから、セット関係があるものと考えられる。

石敷遺構はⅡ地区で確認され、Ⅱ層の上にマージとⅡ層の土を混ぜた土で整地し、その上に平らな石灰岩を敷詰めている。石敷に接して約1m×2mの方形石組遺構も見つかった。石敷遺構は何らかの作業場であった可能性が考えられる。

溝跡は、屋敷の区画と考えられるものと、排水として使用されたと考えられるものが確認された。排水等の使用が考えられる溝は、溝内に土坑が掘り込まれているものや、拳大～頭大の石灰岩の礫を詰めているものも確認された。

道跡は、I・II地区にまたがって2本検出された（I・II地区道1、II地区道2）。道1は幅が約3.3mあり、北西～南東方向に延びる。また、轍と考えられる溝状跡も検出されている。南北縁には排水溝と考えられる溝は設けている。北西側は遺構の深度が浅くなっている、雨水等は北西から南東へと流れていたと考えられる。道2は幅が約5.5～8.8m、北西～南東方向に延び、道1に並行している。轍と考えられる細い溝状跡があり、北縁に排水溝がある。2本の道跡は、昭和20年に撮影された航空写真（図版107）にみえる道と方向等が一致する。

炉跡は2つ確認された。平面形は円形を呈し、半裁すると壁面は火熱を受けて赤みを帯び、硬化している。床面には炭が堆積している。何に使用した炉跡かは判然としない。

窯跡は1基確認された。SY1（H7・区画7）の燃焼部は円形、灰原部分は方形形状を呈する。SY1の自然科学分析からは興味深い結果が出ている。埋土中から抽出された炭化材の樹種はリュウキュウマツの可能性が指摘されている。リュウキュウマツは、当時の普天間周辺にも生息していたことが考えられ、松脂を多く含み、高い火力を得られるとされることより、本遺跡でも窯の燃料材として利用されていたことが推測される。また、埋土中から抽出された炭化材の放射性炭素年代及び壁面の焼土から得られた考古地磁気年代から、窯跡の操業年代として18世紀頃の年代が示されている。機能としては、製糖に関係する遺構の可能性を考えている。

確認された各遺構の分布状況をみると、区画によって遺構が多く集中する箇所と遺構が少ない箇所があった。また、井戸や方形石組遺構は、ある程度の空間がみられる所で検出されており、屋敷跡に關係すると考えられるピットが多く検出された所では少ないという傾向が伺えた。このように区画ごとで遺構の分布状況に違いがみられたことより、区画によって土地の利用形態が異なっていた可能性が考えられる。すなわち、屋敷跡に關係すると考えられるピットが確認された区画2、8、11は人々の生活空間、その他の区画は、耕作地を含む作業場であったことが考えられる。戦前の写真（図版107）を検証すると、遺構が多く確認された範囲は集落地、遺構が少なかった範囲は耕作地となっており、遺構の出方とほぼ一致する。

各遺構の年代については、水場遺構SX3（II地区・区画11）、方形石組遺構SK50（I地区・区画1）は放射性炭素年代の結果、それぞれ較正された暦年で17世紀後半から現代までに至る年代が示されている。先述した窯跡SY1（I地区・区画7）についても同様の年代が得られていることより、これらの遺構はほぼ同時期に機能していたことが指摘されている。すなわち、当該時期における遺構の年代観として捉えることができる。

遺物については、沖縄産陶器を中心に、本土産陶磁器、中国産陶磁器、金属製品、瓦等が出土しており、近代の遺物が主体である。陶磁器の中で最も多くみられた沖縄産は碗、皿、鉢、擂鉢、瓶、急須、鍋、壺、甕、火炉等の多種多様な製品があり、本土産陶磁器は瀬戸・美濃産、肥前産、薩摩産などの製品が得られている。それぞれ揃いの製品が多く、バリエーションが少ないという特徴が伺える。その他、特徴的な事項としては、沖縄産では那霸市湧田古窯跡を中心に焼成されたことが考えられる資料で、首里城跡御内原北地区で17世紀前半に位置づけられるゴミ穴（シリ遺構）からまとまって出土した初期沖縄産無釉陶器として分類される製品がほとんどみられないことが挙げられる。本遺跡で出土した沖縄産無釉陶器の多くは17世紀以降に焼成されたと考えられる製品である。また、

本土産陶磁器では、18世紀第2四半期頃から出現し、18世紀後半以降流行するとされる肥前産の蛇の目型高台皿がみられる他、19世紀代と考えられる薩摩産の小碗等がみられる。中国産陶磁器では、18世紀後半～19世紀と考えられる徳化窯製品が主体を占める。

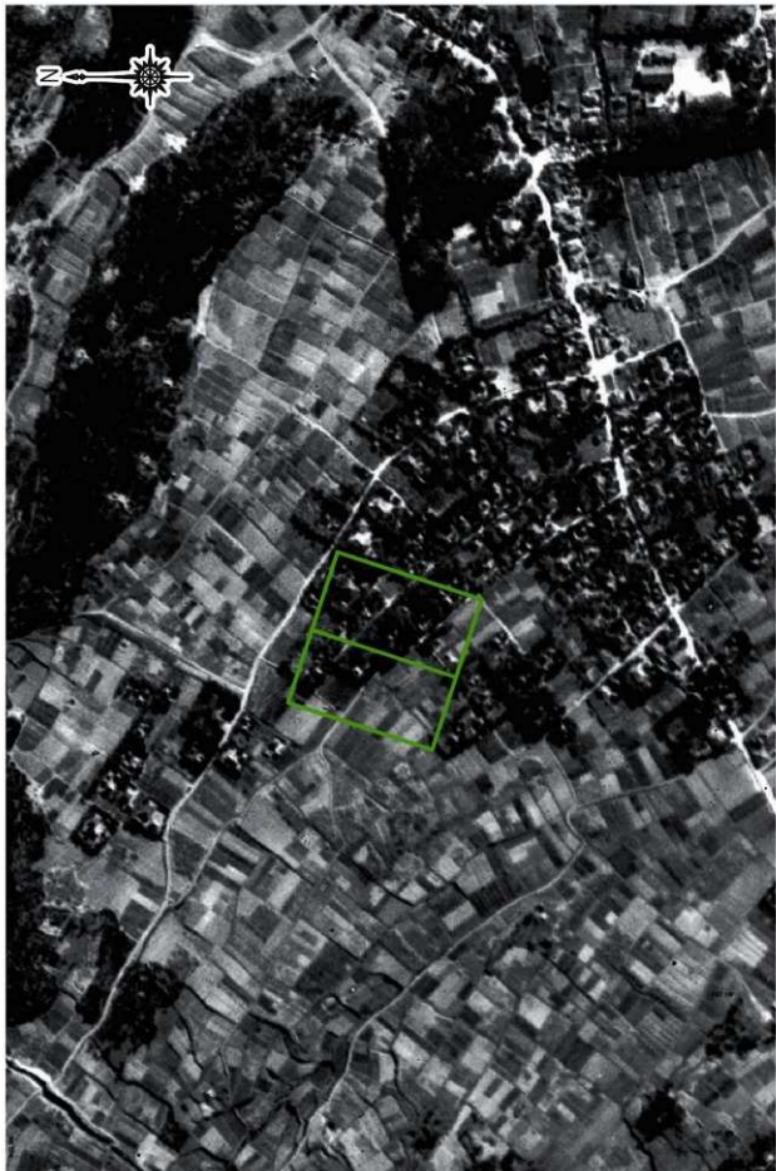
以上の事項より、遺物は古いもので17世紀後半頃のものからみられ、主体は18世紀以降と考えられる。このことは、遺構埋土の放射性炭素年代測定結果と矛盾しない。

まとめ

以上、平成20年度調査における成果を時代別に整理した。今回の調査によって、繩文時代、グスク時代、近世～近代の遺構及び遺物が確認された。前者2時期の存続時期は短く、各時期とも断絶していると考えられる。時代は下って近世～近代になると、近世後期頃に地割状の区画が設定され、当初は農地として利用されていたが、近代にかけて普天間地域の発展に伴い、普天満宮側から居住域が拡大してきた様相がうかがえた。

<引用・参考文献>

- うるま市教育委員会2014『平仮屋トウバル跡跡－ホワイトビーチ地区燃料施設建設工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－』うるま市文化財調査報告書第22集 うるま市教育委員会
沖縄県立埋蔵文化財センター2012『中城御殿跡－原宮首里城公園 中城御殿跡発掘調査報告書（3）－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第63集 沖縄県立埋蔵文化財センター
沖縄県立埋蔵文化財センター2011『中城御殿跡－原宮首里城公園 中城御殿跡発掘調査報告書（2）－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第58集 沖縄県立埋蔵文化財センター
沖縄県立埋蔵文化財センター2011『鏡水質構原A道路－那覇西道路建設に伴う発掘調査報告書－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第57集 沖縄県立埋蔵文化財センター
沖縄県立埋蔵文化財センター2010『首里城跡－御内原北地区発掘調査報告書（1）－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第54集 沖縄県立埋蔵文化財センター
沖縄県立埋蔵文化財センター2007『渡地村跡－鹿港道路那覇1号線整備に伴う緊急発掘調査報告－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第46集 沖縄県立埋蔵文化財センター
沖縄県立埋蔵文化財センター2006『西長浜原遺跡－範囲確認調査報告書－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第39集 沖縄県立埋蔵文化財センター
沖縄県立埋蔵文化財センター2006『新城下原第二遺跡－キャンプ瑞慶覧内整備工場建設に係る緊急発掘調査報告－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第35集 沖縄県立埋蔵文化財センター
沖縄県教育委員会1999『喜友名貝塚・喜友名グスク－宜野湾北中城線（伊佐～普天間）道路改築事業に伴う緊急発掘調査報告書（1）－』沖縄県文化財調査報告書第134集 沖縄県教育委員会
沖縄市教育委員会1997『室川貝塚－沖縄市総合庁舎建設に伴う崖下地区記録保存発掘調査の報告書－』沖縄市文化財調査報告書第20集 沖縄市教育委員会
宜野湾市教育委員会2011『普天間フィール－丘陵古墓群－平成22年度 キャンプ瑞慶覧内米海軍病院移設予定地区発掘調査報告書－』宜野湾市文化財調査報告書第48集 宜野湾市教育委員会
宜野湾市教育委員会2006『基地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 基地内遺跡ほか発掘調査事業－普天間飛行場基地内－野嵩タマタ原遺跡範囲確認調査・上原同原遺跡範囲確認調査・道路発掘事前総合調査』宜野湾市文化財調査報告書第38集 宜野湾市教育委員会
宜野湾市教育委員会2012『ぎのわんの地名－内陸部編－』市民民俗芸能調査報告書 宜野湾市教育委員会
読谷村教育委員会2003『ウガンヒラー北方遺跡』読谷村教育委員会
うるま市教育委員会2012『楚南村跡ほか－嘉手納地区（18～23）運動施設移設工事に係る文化財発掘調査－』うるま市教育委員会
北谷町教育委員会2012『小堀原遺跡－桑江伊平土地区壁画整理事業に伴う発掘調査事業（平成17～20年度）－』北谷町文化財調査報告書第34集 北谷町教育委員会
上江洲均1973『沖縄の民具』考古民俗叢書12 慶友社
沖縄タイムス社1983『沖縄大百科事典 上巻』
九州近世陶磁学会2000『九州陶磁の編年－九州近世陶磁学会10周年記念－』九州近世陶磁学会
早坂優子2000『日本・中国の文様事典』視覚デザイン研究所編



図版107 昭和20年撮影航空写真調査箇所重ね図

第44表 遺物出土状況a

種類	出土地	調査遺跡 名	グスク	包含層 番号	I 地区									道 1	合計	
					区画 1	区画 2	区画 3	区画 4	区画 5	区画 6	区画 7	区画 8	区画 9			
中國產	青磁			1	1	1				1	1		1	4	10	
	白磁				2	7	7	6	19	1	2	4	1	21	2	
	染付			2	5	15	4	60	5	14	10	7	6	74	3	
	青磁染付							2							2	
	色絵			1				1		1	1	1		4	9	
	彫溝袖					2	1	2						1	7	
	鶴輪磁器							1						5	6	
	鶴輪染付													0	0	
タイ産鶴輪陶器	紫砂							1							1	
	鶴輪陶器							1	3	1					5	
	白磁				1										1	
	染付														2	
	色絵			1											0	
	陶器														40	
	近代陶器			1	10	3	16	2		1	1	1	6		41	
	磁器			3	21	2	17			2	1	26	4		76	
本上座	近現代磁器			64	320	123	964	109	80	99	39	45	788	78	2709	
	沖縄産施釉陶器			253	317	77	1354	67	242	263	151	182	1472	116	4494	
	沖縄産無釉陶器			141	306	94	2004	78	277	232	108	67	1567	119	4993	
	ガムイヤキ			6	2	3	9				1	1	14		36	
	陶質土器			37	64	3	159	3	46	49	54	25	185	7	632	
	瓦質土器							3						1	4	
	土器	194	4	114		17		5	2	1	1	2		18	358	
	荒地不明			6	7	10	2	38	4	11	4	4	3	19	5	
石製品	石器	2		4		2	2	5	1	1	1	1	1		20	
	石製品	2		11	3	5	3	24	1	3	7		2	15	2	
	石製品?	4						1	1						7	
	土製品							1							1	
	骨製品							1							1	
	木製品							1	1						2	
	貝製品														1	
	円盤状製品			9	5	5	28	2	5	4	2	3	13	1	77	
縦管	縦管				1			6	1	1	3	1		5	1	
	鏡貨				7	4	3	1		1	1				41	
	青銅製品			1	1		7	2	4	2	1	2	3	1	24	
	鉄製品			3	99	5	35		7	16	4		8	3	180	
	明朝系瓦	335	1449	130	397	62	113	89	118	171	1436	30			4330	
	不明瓦														0	
	煉瓦			4	5	1	3			2			3		18	
	位牌									1					1	
ガラス製品	ガラス製品	5	45	15	55	10	5	10	11		13	3			172	
	プラスチック製品			1		4	1	1					1		8	
	パイプ							1							1	
	軍旗						1								1	
	川原石?						1								1	
	石材			3	1	8	1	15		5	2	1	1	19	1	
	巻貝			3	17	17	1	35	4	233	10	4	5	237	3	
	二枚貝	11	17	24	5	50	3	8	2	4	2	31	3		160	
脊椎動物遺体	脊椎動物遺体			4	27	1130	5	40	3	21	10	184	2	113	4	
	人骨						17						1		18	
合計		202	4	167	948	3914	494	5378	365	1087	830	705	522	6143	388	21147

第44表 遺物出土状況b

出土地	II 地区													I・II地区 合計 (出土・寄託 数)				
	漢文 遺物	ダ ス ク	包 含 層 Ⅰ 層	区 画 10	区 画 11	区 画 12	区 画 13	区 画 14	区 画 15	区 画 16	区 画 17	包 含 層 Ⅱ 層	道 1	道 2				
種類																		
中国產	青磁		1	1	1							5	1	9	12	19		
	白磁		4	11	3		3	1		2	22	1	6	53	24	125		
	染付		2	12	16		12	1	9	5	5	76	12	16	166	181	371	
	青磁染付													0	1	2		
	赤絵				1		3	1	1	2	11	2		21	22	30		
	瑠璃胎		1	1		1		1						4	0	11		
	褐釉器			1										1	1	7		
	褐釉染付							1						1	0	1		
	紫砂											1		1	0	2		
	褐釉陶器		1	1				1	1		3		4	11	28	16		
タイ産陶輪胎陶器														0	2	1		
本土產	青磁				1									1	3	3		
	白磁													0	1	0		
	染付		2	2		7		2		1	23	2	3	42	61	82		
	色絵											1		1	1	2		
	陶器			1				1				11	1	14	36	55		
	近代陶器		3	10		3	1	2	1	2	12	2	1	37	107	113		
	磁器											1		1	0	1		
	近現代磁器		101	150	59	5	44	5	28	520	35	65	1012	2993	3721			
	沖縄產施釉陶器		208	176	158	21	132	113	298	903	294	152	2365	3280	6859			
	沖縄產施釉陶器		217	596	106	10	83	58	107	591	377	154	2299	5045	7292			
	カムイヤキ		2		2		2	1	1		16		10	34	19	70		
	陶質土器			22	16		6	24	9	6	38	146	8	275	392	907		
	瓦質土器									1		2		3	4	7		
	土器	440	1	224	1	1	3	33	10	1	1	10	1	6	732	57	1090	
	甕地不明			1	9	12		2	2	5	1	4	39	10	21	106	66	219
	石器		1	2		1		1			2	6	2	2	18	7	38	
	石製品		1		4	1	1				4	5	4	1	21	33	99	
	石製品?													0		7		
	土製品			1	1									2	2	3		
	骨製品													0	1	1		
	木製品			2	4				7		8			21	3	23		
	貝製品													0	1	1		
	円盤状製品		1	6		1		8	3	3	18	13	5	58	95	135		
	煙管		1	2		1			1		5		1	11	14	30		
	鏡貨		1	2		2				1	3			9	31	50		
	青銅製品		1		5		5	1	1	1		3	17	13	41			
	鉄製品		6	9		6		8		1	5	2	2	39	71	219		
	明領系瓦		131	373	2867	4	29	3	42	929	82	210	4670	4164	9000			
	不明瓦										1		1		1			
	煉瓦			8							3		11	29	29			
	位牌												0		1			
	ガラス製品		2	3		1		2		1	12	4	7	32	94	204		
	プラスチック製品											1	1	6	9			
	パイプ												0		1			
	軍旗												0		1			
	川原石?												0		1			
	石材		14	1	2		2		1	2	1	6	3	32	65	89		
	巻貝			9	4	20		3	1	5	22	58	9	131	399	700		
	二枚貝			5	2		5		3	4	26	10	10	65	158	225		
	脊椎動物遺体			2	10	153		43	92		26	69	8	2	405	541	1948	
	人骨										1	1		2		20		
	合計	442	1	254	767	1556	4	3350	45	476	208	457	3402	1070	703	12735	18063	33882

報告書抄録

ふりがな	きやんぶづけらんないびょういんちくにかかるぶんかざいはつくつちょうさほうこくしょ						
書名	キャンプ瑞慶観内病院地区に係る文化財発掘調査報告書 1						
副書名	普天間古集落遺跡						
卷次	一						
シリーズ名	沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号	第74集						
編著者名	知念隆博、金城貴子、具志堅清大						
編集機関	沖縄県立埋蔵文化財センター						
所在地	〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原193-7 TEL 098-835-8752						
発行年月日	平成27(2015)年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経 = / ° = / °	調査期間	調査面積	調査原因
普天間古集落遺跡	沖縄県宜野湾市字普天間	472051	—	26°17'37" 127°46'26"	2008.07.22～ 2009.03.31	12,500m ²	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
普天間古集落遺跡	集落	縄文時代	土坑		土器、石器		
		グスク時代	掘立柱建物、 土坑		土器、カムイヤキ、白磁		
		近世～近代	溝、石組遺構、 道、井戸		中国産陶磁器、沖縄産無 釉陶器、沖縄産施釉陶 器、本土産陶磁器、石製品		
要約	米軍の病院建設に伴う記録保存調査である。調査の結果、縄文時代、グスク時代及び近世～近代の3時期の遺構、遺物を確認した。縄文時代の遺構は堅穴状の遺構や深く掘り込まれた土坑がある。グスク時代は掘立柱建物を確認した。近世～近代の遺構は最も多く、溝で区画された中に井戸、石組遺構などが配置され、星敷跡として確認できた。						

沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書 第74集

キャンプ瑞慶覧内病院地区に係る文化財発掘調査報告書 1

—普天間古集落遺跡—

発行日 平成27(2015)年3月31日

発 行 沖縄県立埋蔵文化財センター

編 集 沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7

TEL 098 (835) 8751・8752

印 刷 株式会社近代美術

〒901-1111 沖縄県南風原町字兼城 206

TEL 098 (889) 4113

